

岩手県埋文センター文化財調査報告書第87集

# 曲田 I 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

(第2分冊)

(助)岩手県埋蔵文化財センター

日本道路公団

# 曲田 I 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

(第 2 分冊)



# 本文目次

(第2分冊)

## 第3章 調査の成果

第2節 発見された遺構と遺物	1
(1) 遺構外の遺物	1
i 土器	1
ii 石器	7
iii 土製品	13
iv 須恵器と陶器	14
v その他	15

## 第4章 まとめ

第1節 遺構について	123
(1) 縄文時代の住居跡	123
(2) ピット	127
(3) 焼土遺構	129
(4) 集石遺構	129
(5) 捨て場跡	129
(6) 竪穴住居跡状遺構と掘立柱建物跡	130
(7) 道路跡	130
第2節 遺物について	131
(1) 土器	131
(2) 石器・石製品	145
i 形態・用途について	145
ii 石材の材質と産地について	149
iii 組成と交易	153
(3) 土製品	154
(4) 須恵器・陶器	156
(5) 鉄製品	156
(6) 漆	156
第3節 遺構と遺物	157
(1) 縄文時代の遺構と遺物	157

i	前期前葉	157
ii	後期前葉	157
iii	中期後葉・後期後葉・晚期中葉	158
iv	晚期前葉	158
v	晚期住居跡出土の土器	158
(2)	弥生時代の遺構と遺物	159
(3)	中・近世の建物遺構	160

## 出土遺物観察表

### 付編

1.	放射性炭素の年代測定	205
2.	リン分析	206
3.	炭化材の樹種鑑定	207
4.	樹脂の定性分析	208

### 写真図版

#### 付図

## 挿 図 目 次

第1～3図	E III区粗掘出土遺物	16～18	第49～60図	H IV区粗掘出土遺物	62～74
第4図	F II区粗掘出土遺物	18	第61・62図	H V区粗掘出土遺物	75・76
第5図	F III区試掘出土遺物	19	第63図	H VI区粗掘出土遺物	77
第6～18図	F III区粗掘出土遺物	20～33	第64図	H VII区粗掘出土遺物	77
第19図	G II区粗掘出土遺物	33	第65・67図	I III区粗掘出土遺物	78～80
第20・21図	G III区試掘出土遺物	34・35	第68図	I IV区粗掘出土遺物	81
第22～34図	G III区粗掘出土遺物	36～48	第69～75図	I IV区出土遺物	82～88
第35～37図	G IV区粗掘出土遺物	48～50	第76図	I V区粗掘出土遺物	89・90
第38～48図	H III区粗掘出土遺物	51～61	第77・78図	I V区出土遺物	91・92



第79図	I VI区粗掘出土遺物……………93	第121図	石器・石片の材質別組成… 151
第80図	J IV区粗掘出土遺物……………93	第122図	時代別遺構分布図…………… 161
第81～87図	J V区粗掘出土遺物…94～101	第123図	遺跡別消長概念図…………… 163
第88～94図	J VI区粗掘出土遺物…102～108		
第95図	K V区出土遺物…………… 109	<b>【付図】</b>	
第96図	K VI区粗掘出土遺物…………… 110	付図1	曲田I遺跡第1・2次調査区
第97～100図	K VI区出土遺物……………111～114		遺構配置図
第101図	L V区粗掘出土遺物…………… 114	2	I III・J V・J VI・K VI区
第102図	L VI区粗掘出土遺物…………… 115		土層断面図
第103図	M IV区粗掘出土遺物…………… 116	3	G III-016住居跡平・断面図
第104図	M V区粗掘出土遺物…………… 116	4	G III-016住居跡埋土中の
第105図	M VI区粗掘出土遺物…………… 116		礫散布状況平面図
第106図	G III区表採遺物…………… 117	5	J IV-012・013掘立柱
第107図	J IV～J V区表採遺物…………… 117		建物跡平・断面図
第108～112図	表採遺物……………118～122	6	J IV-014・015・016掘立柱
第113～120図	出土土器時期別集成図…137～144		建物跡平・断面図
		7	E III-071道路跡平・断面図

## 表 目 次

縄文時代の住居跡・建物跡一覧表…………… 125	第3表	石器…………… 187
遺構別出土遺物一覧表…………… 164	第4表	須恵器・陶器…………… 201
出土遺物観察表	第5表	金属製品…………… 201
第1表 土器…………… 169	第6表	窯道具…………… 201
第2表 土製品…………… 185	第7表	自然遺物…………… 201

## 写真図版目次

1	遺跡付近景観…………… 215	6	F IV区土層断面…………… 220
2～4	調査風景…………… 216	7・8	J V区土層断面…………… 221
5	遺構群全景…………… 219	9・10	J VI区土層断面…………… 223

11	H・I・M区土層断面……………	225	45	GⅣ-011・014・016住居跡……………	259
12	EⅢ・FⅢ・GⅢ・GⅣ区 完掘状況……………	226	46	GⅣ-016・HⅣ-013住居跡…	260
13	GⅢ・Ⅳ区完掘状況……………	227	47	HⅢ-011住居跡……………	261
14	EⅡ-011・014住居跡……………	228	48	HⅣ-011住居跡遺物出土状況…	262
15	EⅡ-012・015住居跡……………	229	49	HⅢ-011・HⅣ-011住居跡…	263
16	EⅢ-011住居跡遺物 出土状況……………	230	50	HⅣ-012住居跡……………	264
17	EⅢ-011住居跡完掘状況……………	231	51	JⅤ-011住居跡……………	265
18・19	EⅢ-011住居跡遺物 出土状況……………	232	52	JⅤ-012住居跡……………	266
20	FⅢ-011・012住居跡……………	234	53	JⅥ-011住居跡……………	267
21	FⅢ-015・016・0112住居跡…	235	54	JⅥ-011住居跡遺物 出土状況……………	268
22	FⅢ-014住居跡……………	236	55	JⅥ-012・KⅥ-012住居跡…	269
23・24	FⅢ-018住居跡……………	237	56	KⅥ-012住居跡……………	270
25~27	FⅢ-019住居跡……………	239	57~59	フラスコビット……………	271
28	FⅢ-0113住居跡……………	242	60	フラスコ・摺鉢状ビット……………	274
29	FⅢ-014・0113~0117 住居跡……………	243	61・62	大型円形ビット……………	275
30	FⅢ-0114住居跡……………	244	63	小型円形ビット……………	277
31	FⅣ-011住居跡……………	245	64	小型円形・楕円形ビット……………	278
32	FⅣ-011B住居跡……………	246	65~70	楕円形ビット……………	279
33・34	FⅣ-012住居跡……………	247	71・72	不定形ビット……………	285
35	FⅢ-016・GⅡ-011住居跡…	249	73	柱穴状ビット……………	287
36	GⅡ-011・012住居跡……………	250	74	焼土遺構……………	288
37	GⅢ-012住居跡……………	251	75	集石遺構……………	289
38	GⅢ-014住居跡……………	252	76	捨て場跡遺物包含層……………	290
39	GⅢ-015住居跡……………	253	77・78	雨裂跡……………	291
40	GⅢ-016住居跡……………	254	79・80	FⅣ-081炭焼場跡……………	293
41	GⅣ-011住居跡……………	255	81	EⅡ-011~014住居跡 出土遺物……………	295
42	GⅣ-013住居跡……………	256	82	EⅡ-014住居跡出土遺物…	296
43・44	GⅣ-014住居跡……………	257	83	EⅡ-014・015住居跡 出土遺物……………	297
			84~107	EⅢ-011住居跡出土遺物…	298



108	E III-012・F III-012・013 住居跡出土遺物…	322	146~148	J VI-011住居跡出土遺物 ……	360
109	F III-013住居跡出土遺物 ……	323	149	K VI-011住居跡出土遺物 ……	363
110	F III-013・014住居跡 出土遺物……………	324	150	K VI-012住居跡・L V-011 掘立柱建物跡出土遺物…	364
111	F III-014・015住居跡 出土遺物……………	325	151	E III-028・G III-021・H III-021 ピット出土遺物…	365
112	F III-016・017住居跡 出土遺物……………	326	152	H III-09・022~H IV-022 ピット出土遺物…	366
113・114	F III-017住居跡出土遺物 ……	327	153	H IV-022~I V-021 ピット出土遺物…	367
115	F III-018・019住居跡 出土遺物……………	329	154	J V-022~J VI-024 ピット出土遺物…	368
116~118	F III-019住居跡出土遺物 ……	330	155	J IV-028~M IV-025 ピット出土遺物…	369
119	F III-0112住居跡出土遺物…	333	156	F III-041集石・G II-061捨て場跡 出土遺物……………	370
120・121	F III-0113住居跡出土遺物…	334	157~168	G II-061捨て場跡 出土遺物……………	371
122	F III-0114住居跡出土遺物…	336	169	G II-061・I III-061捨て場跡 出土遺物……………	383
123	F III-0115住居跡出土遺物…	337	170	M IV-061捨て場跡 出土遺物……………	384
124~128	F III-0116住居跡出土遺物…	338	171・172	F IV-081炭焼場跡出土遺物…	385
129	F IV-011・012住居跡 出土遺物……………	343	173	F IV-081炭焼場跡・ E III-071道路跡出土遺物…	387
130	G II-012住居跡出土遺物 ……	344	174	G IV-051雨裂跡出土遺物 ……	388
131	G III-012~016住居跡 出土遺物……………	345	175・176	E III区粗掘出土遺物……………	389
132・133	G III-016住居跡出土遺物 ……	346	177	E III・F II・III区粗掘出土遺物…	391
134	G IV-011・012・014住居跡 出土遺物……………	348	178~188	F III区粗掘出土遺物……………	392
135	G IV-014住居跡出土遺物 ……	349	189	F III・G II区粗掘出土遺物…	403
136	G IV-014~016・H III-011・015 H IV-011住居跡出土遺物…	350	190	G III区試掘出土遺物……………	404
137~144	H IV-012住居跡出土遺物 ……	351	191~200	G III区粗掘出土遺物……………	405
145	J V-011・012住居跡 出土遺物……………	359			

201	G III · IV区粗掘出土遺物·····	415	231	I V区出土遺物·····	445
202	G IV区粗掘出土遺物·····	416	232	I V · VI · J IV区出土遺物·····	446
203	G IV · H III区粗掘出土遺物·····	417	233~237	J V区粗掘出土遺物·····	447
204~210	H III区粗掘出土遺物·····	418	238~243	J VI区粗掘出土遺物·····	452
211~220	H IV区粗掘出土遺物·····	425	244	K V区出土遺物·····	458
221	H V区粗掘出土遺物·····	435	245~247	K VI区出土遺物·····	459
222	H V · VI区粗掘出土遺物·····	436	248	K VI · L VI区粗掘出土遺物·····	462
223	I III区粗掘出土遺物·····	437	249	L IV · V · M IV ~ VI · N VI区粗掘出土遺物·····	463
224	I III · IV区粗掘出土遺物·····	438	250	G III区表採遺物 · 出土地区不明遺物·····	464
225 · 226	I IV区粗掘出土遺物·····	439	251~253	出土地区不明遺物·····	465
227~229	I IV区出土遺物·····	441			
230	I V区粗掘出土遺物·····	444			



## 第3章 調査の成果

### 第2節 発見された遺構と遺物

#### (1) 遺構外の遺物 (第1～112図 表1～3 写真図版177～253)

表土除去や遺構検出の作業に伴い、遺構外の土層中から多数の遺物が出土している。時期的には縄文時代晩期前葉の遺物が主である。その中の代表的な遺物を図示した。

遺構外の遺物は遺構との関連を示す詳細な情報に欠けているため、多くの場合各遺構の年代や性格を決める直接的な手掛りとならないが、これらの中には遺構の存在の確認されていない時期の遺物も含まれていることがあり、補助資料としての十分な価値がある。特に曲田 I 遺跡の場合、調査区の主要部が著しく破壊されており、遺跡全体としてみた場合の資料的損失は極めて大きい。遺構外の遺物として示した資料は、それを補うものとして大きな意味を持っているものといえる。

整理の都合により遺物は地区毎に分け、さらに種類別に並べた。時期的に区別し得るものについては、できる限り新旧の順に並べるようにした。個々の遺物についての説明は、別に表示した。各遺物の出土状況は、以下に示すとおりであり、文中の地区名に続くカッコ内には図版番号及び遺物番号を記した。また、一を挟んで左側が図版番号、右側が遺物番号である。文中では特記すべきものや代表的なもの以外の説明を省略している。

#### i 土器 (第1～109図 第1表 写真図版175～252)

##### ●縄文時代前期初頭～前葉の土器

E III区 (1—1342～1353、1355～1358) F III区 (8—1442～1445) H V区 (61—2116、2117、2119) I IV区 (68—2171・69—2176～2185) I V区 (76—2252、2253、2255、2257～2272) I VI区 (79—2291～2298) J V区 (83—2313、2331、2332) J VI区 (89—2387～2389) K V区 (95—2492、2494～2496) K VI区 (96—2502) 出土地不明 (108—2623)

この時期の土器はほとんど細片であるが、大きく分けて調査区西辺区域、I III—051溝の北西に近接する緩斜面、K VI—012住居跡周辺の3か所で多く出土している。

胎土にはほとんど植物繊維を含むが、文様的には以下のように分けられる ①細い薄板状工具を押し引きした一種の条線文が器壁外面の全体に施されるもの ②単節ないし無節の斜縄文のみが外面に施されるもの ③前者とほぼ同様の文様を有するが、口縁部に小さなループ状、または不整な撚糸圧痕の施されるもの ④0段多条の原体が回転施文された斜縄文に横行する

綾絡文の伴うもの ⑤網目状撚糸文を有するものなどである。

以上のうち、①は北海道函館市春日町遺跡の第二群A類の土器と同じであり、②の一部と③の小さなループ文様を伴うものと④は同じく第二群C類の土器に似ている。春日町遺跡の第二群A、C類の土器は、北海道南部を中心として同じ第二群B類などとともにしばしば東北地方北部でも発見されている。岩手県内でも二戸市上里遺跡からB類の土器が出土しており、底部はほとんど尖底である。所属時期は現在のところ、縄文時代前期前葉の早い段階に置くのが一般的である。その詳細な位置については、東北地方南部の大木1式の古い段階に対応するのではないかという説もある。②の一部と③の不整撚糸文を持つ土器及び⑤の土器は、文様上の特徴から大木1式の新しい段階ないし2式に比定されよう。

#### ●縄文時代中期前葉～中葉の土器

この時期の土器はほとんどみられないが、結節を伴う羽状の斜縄文を有する1点(269-2609)がこの時期にあたるものかもしれない。

#### ●縄文時代中期後葉の土器

E III区(1-1354、1359、1361~1366、2-1367) F III区(8-1446、1447) H III区(38-1833、1834) H IV区(49-1971~1975、1978、55-2063、2064) K V区(90-2480、2493) K VI区(96-2503) 出土地不明(108-2624、2625、2627~2629)

以上のうち、1446は大木9式に比定される。1362、1364、1365のように撚糸文風の文様の上に沈線でT字状、C字状、大波状文などの描かれる土器は、青森県地方に多くみられ、大木10式とほぼ同時期に入れられよう。その他はいわゆる大木10式のうち、新期の段階に含められる土器である。ほとんど破片であるが、調査区西辺部とK VI-012住居跡の周辺部から多く出土している。

#### ●縄文時代後期初頭～前葉の土器

E III区(1-1360、1366、2-1368~1370、1378) F III区(8-1448、1450、1451) G III区(24-1651、1652) G IV区(36-1809、1810、1820) H III区(38-1835~1838) H IV区(49-1976、1979、1980) I III区(66-2150、2152) I IV区(68-2170) I V区(76-2254、2256、2273、2274) J V区(82-2303~2307、2309~2312、2314~2326) J VI区(88-2378、2379、2384~2386 89-2390~2403 90-2404~2410、2413、2414) K VI区(97-2511~2516) 出土地不明(108-2617、2619)

1360は斜縄文の地文に縄文の施された鎖状隆線の付けられた破片であるが、中期末ないし後期初頭に位置付けられよう。1365、1370、1378、1651などは後期初頭の土器であろう。1448、1451のような網目状撚糸文の施される土器は中期後葉である可能性もあるが、この時期に入れた。1976、1979、2325などの類例は、北上市八天、大槌町崎山弁天、盛岡市川目など県内の遺



跡でみられ、先の1365等よりや、遅れる時期の土器らしい。2303、2305、2307、2314～2324、2326、2378、2379、2390～2406、2410などには一部に弥生時代のものを含む可能性があるものの、従来十腰内I式と考えられてきた土器と近い内容を持っている。文様的にはさらに細分が可能である。2254は文様的に類例が乏しく、あるいは次の時期のものかもしれない。

そのほか、この時期の土器の底部と思われる資料の中に、1820、1835など5～6点の敷物圧痕を有するものが出土している。圧痕の種類としては、網代、木の葉、笹の葉などがみられる。底部に敷物圧痕を有する土器は縄文時代各期にみられるが、特に著しいのは中期末～後期中葉の時期である。これ以外にも弥生時代の中期に一時盛行することがあるらしく、曲田I遺跡にも例がみられる。

全体にこの時期の土器は、J V、J VI区の後期前葉の集落跡周辺部を中心に各地区に散布している。このうち後期初頭に入れられる土器は概して調査区の西辺部に多く、K VI区にもみられる。後期の集落跡付近では、いわゆる十腰内I式に近い時期の土器が多い。

#### ●縄文時代後期中葉の土器

I IV区 (68—2173) I V区 (77—2274) J VI区 (90—2411、2412) 出土地不明 (108—2607、2611)

この時期の土器は非常に少なく、遺構も発見されていない。文様からみるとかなりの幅が考えられる。1449、1454、2607は関東地方の加曾利B<sub>1</sub>式土器と同様の文様を持つ例があり、大体は同時期としてよいであろう。1837、2274は波状口縁の突端部を中心に沈線で重圏文が描かれ、これにや、似た例は秋田県大湯遺跡などの出土品にあり、あるいは前の時期に入れるべきかもしれない。2411、2412は沈線によって菱形状の文様が施文される土器である。これに似た多重の菱形状文は、県内の花泉町貝鳥貝塚にや、似た例がみられる。1449などと同様に後期中葉の土器のひとつと思われるが、弥生時代に似た文様をもつ例があるとする説もあり、なお検討を要する。出土傾向は点数が少ないので明らかでない。

#### ●縄文時代後期後葉の土器

E III区 (2—1371～1375) F III区 (5—1407 169—1452、1453、1455) G III区 (24—1653～1655) G IV区 (36—1808) H III区 (38—1839) I III区 (66—2160) K IV区 (97—2518) 出土地不明 (108—2621)

1371～1375、1452、1453、1455などで代表される土器は平頂ないしは筒形波頂の波状口縁を持ち、口辺～胴上部には刻目の文様帯が施される。宮城県鳴瀬町里浜貝塚、盛岡市川目など、東北各地の遺跡に類例が知られる。時期的には関東地方の安行2式などと併行しよう。1653、1808、2518のようにレンズ状の縄文帯に瘤を伴う土器は、先の里浜貝塚の調査例でみると刻目文付きの土器より古くなっている。1809もほぼ同じくらいの位置付けになろう。2160は異方向

斜縄文の施された粗製土器であり、1653、1407などと伴うものかもしれない。この種の土器は後期末～晩期初頭に多いとされており、あるいは晩期に入る可能性もあろう。1839も異方向の斜縄文が施されているが、おそらく後期中葉以後に入るであろう。

この時期の遺構としては住居跡2棟、掘立柱建物跡1棟が発見されているが、以上の土器の多くはその周辺から出土している。

#### ●縄文時代晩期初頭～前葉前半の土器

F III区 (7 — 1415、1419 6 — 1437、1440 8 — 1456～1463 9 — 1464～1470)  
G III区 (20 — 1602～1606、1608、1614 22 — 1634、1636、1639 23 — 1640、1642、1643、  
24 — 1656～1670 25 — 1671～1684 26 — 1685～1688) G IV区 (40 — 1811) H III区  
(38 — 1832、1841 39 — 1842～1845) I IV区 (69 — 2186～2188) 出土地不明 (108  
—2615、2616)

先に述べた刻線文様帯を有する土器を主体とする土器と三叉文を主体とする土器の中間に位置し、従来大洞B式直前型式や大洞Bi式と称されているものと同じである。特徴的な文様は、階段状に入り組んだ帯縄文などでしばしば横行する断裂沈線や円ないし点を抱えたような三叉文が加わる。深鉢などの器形では、口縁が緩やかな三角波形や頂上が平らな山形をなす。山形口縁では頂部に2～3の刻裂を伴うことが多い。

出土点数は非常に多く、次に述べる土器とともに調査で得られた土器の主体をなしている。晩期前葉住居跡の密集する調査区西部にはほぼ限られて出土し、住居跡の床面や埋土、捨て場跡からも出土している。

#### ●縄文時代晩期前葉中～後半の土器

E III区 (2—1376～1382) F II区 (5—1395～1400、1402、1403 7—1414、1416、～1418、  
1420～1425 6—1426、1441 9—1479～1482 10—1483～1502 11—1503～1515、1517、1520)  
G II区 (19—1600、1601) G III区 (20—1610～1613、1615～1617 22—1629、1632、1633、  
1635、1644 23—1644、1649、1650 26—1689～1705 27—1706～1722 28—1725、1730～1734、  
1736～1738) G IV区 (36—1805～1813 37—1814) H III区 (38—1829、1831 39—1846～  
1865 40—1868) H IV区 (50—1948～1964 49—1965～1969 51—1994～2002 52—2003～  
2021 53—2022～2036 54—2040～2043、2045～2047) I III区 (65—2141～2145、2147、2149  
66—2151、2153～2159、2161、2162) I IV区 (68—2172、2174 69—2189～2194、2197)  
I V区 (77—2276) J VI区 (87—2383) 出土地不明 (108—2618、2620、2622、2626、2630  
109—2631)

この中には主として深鉢型土器などの口辺部に三叉状沈線文の多く施される土器と羊歯状文や歯列状文、X字状文の施される土器が含まれている。従来前者は大洞B式(あるいはB2式)、



後者は大洞B—C式と呼び慣らされ、多くの研究者によって前者が古く、後者が新しいと考えられている。しかし、その編年観については異説がないわけではないが、ここでは層位的に分離する事実が確認されていないことを考慮して両者を一括した。

土器の文様としては、先にあげたもの以外に横C字状文やK字状文などが存在する。さらに壺型土器や小型の浅鉢、深鉢型土器の中には、胴部に沈線と磨き潰しによって三叉状文や楕円文、菱形状文、半円文などの組み合わせ文様の施される例も少数みられる。その他小型浅鉢などでは、垂線で区画された胴部に四ツ葉型の縄文帯の施される例もみられる。

これらの土器は、先に述べた縄文時代晩期前葉の集落跡のある調査区西辺部から集中的に出土している。

### ●縄文時代晩期中葉の土器

F III区 (11 — 1521、1522) G III区 (20 — 1607、1618、1619 23 — 1645~1648 28—1723、1724、1726~1729、1735) H III区 (40 — 1866、1867) H IV区 (53—2022、2024~2026、2029、2033 54 — 2037~2039、2044、2048~2050 55 — 2057) H V区 (61—2115) I IV区 (69 — 2195、2196、2198~2201) I V区 (77 — 2275、2280) J V区 (82—2308) J IV区 (88 — 2385、2386) J VI区 (90 — 2417、2418) K VI区 (97—2517、2518) L IV区 (102—2579~2588) M IV区 (103—2595、2597~2600) H VII区 (64 — 2140)

この中には従来大洞C<sub>1</sub>式、C<sub>2</sub>式とされるものに相当する土器が含まれる。大洞C<sub>1</sub>式は前述した縄文時代晩期中葉の大洞B—C式の系譜をひくが、文様はより直線的で細くなる。口縁の波打つものは、小刻みの鋸歯状となるようである。資料が少なく詳細は不明であるが、B—C式との過渡的な段階にあってはB—C式と判別し難い土器も混在しており、両者の変化が漸移的に行なわれた様子が伺える。

大洞C<sub>2</sub>式相当のうち、大型深鉢では胴上端部がくびれ、鋸歯状口縁を伴う口辺部をもつものがみられる。口辺部は無文、または1条から数条の沈線を伴う。台付土器や鉢型土器では口辺部が鋸歯状であり、その周囲に横線が何条か走り、さらにその間に刻目列を有するものが含まれる。体部文様をもつ資料は多くないが、雲形文を伴うものがある。

大洞C<sub>1</sub>式に相当する土器は、縄文時代晩期の住居跡が集中する調査区西部に多く出土している。大洞C<sub>2</sub>式にあたる土器は、M V—061 捨て場跡に近いL IV区、M IV区から集中的に発見されている。

### ●弥生時代中期～後期の土器

I V区 (77—2283~2284) J IV区 (80—2299) J V区 (83—2333~2356) J IV区 (90—2416~2424 91—2425~2449 92—2452) K V区 (95—2485~2487 97—2520、2523~2535)



これらの土器は、いずれも縄文時代後期の遺物を含む層のや、上から出土している。文様の特徵から6グループ以上に細分される。

①は2425、2426、2520などで代表されるグループである。比較的太い線で区画された縄文帯と無文帯が三角形や凹形などに入り組み、口縁に2～3条の横走沈線の回る例が多くみられる。縄文帯の辺には2487、2528などのように、横長ないし縦長の刺突点列の巡ることもある。2283にみられる細い原体を編んだ網代の圧痕も、その多くはこの土器に伴うらしい。県内の類例には北上市堀ノ内遺跡などがあるが、弥生時代中期前葉の谷起島式～榊形罎式の時期に併行するらしい。しかし、曲田I遺跡では工字状文風の文様をもつ土器は伴っていない。

②のグループは、2333、2335、2338、2345などに代表される。壺・鉢型土器の口辺部、または胴上部には、横方向に下向きないし上向きの半円形や弓形の縄文帯をもつ。現在のところ、県内で対比できる資料の出土例が報告されていない。秋田・青森県の土器と関連しそうであるが、能代市貝沢遺跡出土の例が知られるのみで、詳しいことはよく解らない。

③のグループは、2341～2347、2547、2554、2299などで代表される。これらの土器は、従来田舎館式と呼ばれて来た土器のうちの新しい段階に相当しよう。

④は2420～2424のように無文の地に横行沈線に挟まれた沈線による三角形のジグザグ模様が描かれるグループである。このグループは、地が無地であることを除くと③のグループに近い要素をもっており、時期的には近いかもしれない。秋田県琴浜村志藤遺跡の鉢型土器にやや近い例がある。

⑤のグループは、2382のように横行し多重する扁平な菱形文が沈線によって胴上部に施されるものである。この種の文様をもつ土器は、県内の一戸町上野B遺跡で確認されているほか、秋田県宇津ノ台や新潟県山草荷遺跡などでも出土している。

⑥のグループは、2074、2075のように縦方向の細い撚糸文がまばらに施される。2075はさらに沈線で四角形状の文様が描かれている。これにや、似た撚糸文を多用する土器は赤穴式と呼ばれ、県内の岩泉町赤穴、盛岡市オミ坂、岩手町新道平等各地でみられる。

以上のほか、深鉢型土器では胴部に横～斜方向の密な撚糸文の施される例や縦方向の条痕の施される例があり、壺型土器には口辺部に2～3条の平行沈線の巡る例があってさらに追加されそうである。

これらの土器の大部分は、弥生時代の墓壇と思われるピット群の周辺部から発見されている。層位的には①～⑥グループの間に明瞭な隔りは認められなかった。平面的な位置の相違は明瞭でなく、むしろ混在に近い状態で発見されている。しかし、これまでの研究成果によれば①のグループは谷起島式などに近い弥生時代中期前葉、②～⑤のグループは田舎館式と同時期か、

やや遅れる中期後葉～後期初頭、⑥のグループを後期後葉の時期にそれぞれ想定できよう。

### ●主として縄文時代中期～弥生時代に属する土器

E III区 (2 — 1383～1387) F III区 (5 — 1401、1404～1407 7 — 1411～1413 172—1523 12 — 1524～1541 13 — 1542～1550 20 — 1620～1622 21 — 1623～1627 22—1631、1637) G III区 (28 — 1739～1742 29 — 1743～1762) G IV区 (36 — 1803、1804 37 — 1815～1819、1821) H III区 (38 — 1830 40 — 1868、1871～1879) H IV区 (54—2049、2051～2055 55 — 2058～2070 56 — 2071～2073) H V区 (61 — 2113、2114) I III区 (65 — 2146、2148 66 — 2163、2164) I IV区 (68 — 2175 70 — 2202～2206) I V区 (76 — 2253) J V区 (81 — 2327～2329) J VI区 (88 — 2380、2381 89—2387～2389) J VII区 (92 — 2450～2453) K V区 (95 — 2488～2491) K VI区 (96 — 2505、2507) M VI区 (105—2602) H VII区 (64 — 2137～2132) 出土地不明 (108—2608 109—2634～2638)

これらの土器は、先にあげた各時期の土器に伴出すると思われる時期不詳の土器であり、大部分が粗製土器である。文様形態上の変化に乏しい上、同定資料が少なく時期の特定が難しいものを一括した。

文様は胴部に単節の斜縄文の施される例が多く、細い条痕文をもつものや無文のものが少し含まれる。縄文の種類には、右上がりの単節斜縄文のものが多く、左上がりの例が若干である。そのほか、無節縄文の例がある。縄文原体の回転方向は、口辺部周辺では横～や、斜方向が多いようである。

口辺部破片の場合、口辺の形態は平縁のものが多い上、鋸歯状口縁のものや横行沈線で区画された無文の緩い波状口縁をもつものも含まれる。後者はほぼ縄文時代晩期の大洞B式～B—C式の時期に出現するらしいが、時期を特定するにはなお検討を要する。

条痕文や無文の土器は、各時期にみられ必ずしも時期特定の根拠にならないが、過去の調査例によって横方向の条痕文は縄文時代後期後半に多く、無文土器は後期末～晩期前葉に比較的多くみられるようである。

その他2131、2132は、類例が発見されていないが、中期末～後期最初頭と推定される。しかし、所属時期の特定のためには検討が必要である。

### ii 石器 (第2～112図 第3表 写真図版177～253)

#### ●石鏃

G III区 (30—1766、1768) G IV区 (37—1822、1823) H III区 (41—1883、1884、1886) H IV区 (57—2079、2082) J V区 (84—2357、2358、2360) J VI区 (92—2456) K IV区



(99—2570) 表面採集及び出土地不明 ( 107—2604 109—2645)

細葉形をなす1768、1823、2570のうち、1823、2570は薄手であり、1768は厚手の作りである。2558、2456、2604は丸尻無茎鏃である。2358、2360は作りが粗末で未製品かもしれない。他は細身の有茎鏃である。1766、2082の基部にはアスファルト状の黒色樹脂が付着している。また、2570は錐として転用されたらしく、先端部が磨滅している。材質はすべて硬質の泥岩系石材で占められている。

#### ●切削器

F III区 ( 5—1409 13—1558～1560 14—1561、1563、1565～1568、1570 15—1571～1573、1575～1578、1580、1581) G II区 (19—1599) G III区 (30—1767、1769 192—1778～1783) G IV区 (37—1824、1825) H III区(41—1887～1890、1892～1896 42—1897～1898、1900～1902、1904、1905) H IV区 (57—2083～2086、2089～2091、2093) H V区 (62—2129、2130) I III区 (67 — 2168) I IV区 (70 — 2213～2216 232—2220～2224) I V区 (77—2285、2286) J V区 (84—2359、2361、2364、2365) J VI区 (92 — 2457～2460、2462、2463、2465) K V区 (95 — 2498) K VI区 (99 — 2572、2573、2575) L V区 ( 101—2594) M V区 ( 104—2601) 表面採集及び出土地不明 ( 107—2605 109—2646、2647、2648 110—2649～2650)

この分類に入れた石器は、いわゆるナイフ、スクレーパーの仲間である。形態や大きさは多様であるが、いずれも剥片を利用してその縁辺に刃をつけたものであり、最大長5 cm程度のものが多い。

形態的には大別して①つまみのあるもの ②つまみのないものの二者に分類される。①はいわゆる石匙の仲間です。つまみに対する刃部の位置関係により、さらに(i)1559のような縦型のもの(i i)1558のような横型のものに細分される。後者は刃部形態の特徴から、a)1409などのように主要な刃部が長辺に形成される。いわゆるサイドスクレーパー型のもの b)2460のように主要な刃部が短辺に形成される、いわゆるエンドスクレーパー型のもの c)2573のように主要な刃部がまるく調整された辺に形成される、いわゆるエンドスクレーパー型のもの d)1563のように辺の一部が抉り込まれ、その部分に刃部の形成されるもの e)としてa)～d)の混合型 ①のその他に分けられる。これらはさらに刃の数や両刃か片刃かの相違、大きさ等によって細分できる。

付着物はあまりみられないが、1778には両面に媒が付着している。付着状況からみて後世に野焼き等の火をうけて付着したらしい。1892、2772には石鏃と同様、一部にアスファルト様の黒色樹脂が付着している。

石質は石鏃と同様に硬質の泥岩系石材が主体をなしている。出土点数は剥片石器の中で最も



多く、縄文時代後期前葉、晩期前葉の各集落跡を中心に各所で出土している。

#### ●ヘラ状石器

F III区 (14—1562) I IV区 (70—2214) I V区 (77—2287) L IV区 (102—2589)

いわゆる石篋の仲間である。この種の石器は、東北地方の縄文時代早期～前期前葉の遺跡にごく普通にみられる。県内でも雫石町桜松、紫波町西田、矢巾町大渡野、盛岡市大新町など多くの遺跡に出土している。この形の石器はなお後続することが確実であり、数は少ないが縄文時代晩期中葉の北上市九年橋遺跡でも発見されている。曲田 I 遺跡の場合、土器との共伴関係が不明であり、時期の特定は難しい。

#### ●石錐

E III区 (2—1390) H III区 (41—1885) H IV区 (57—2080) H V区 (62—2128) I IV区 (70—2210) I V区 (80—2300) J V区 (84—2362)

穿孔用具として用いられた打製石器である。形態上から①1885のように太身で丸尻ないし、や、尖り尻のつまみのない型②2300のように尻に大きなつまみをもつ型の二者に分けられる。材質は、石鏃や切削器と同じく硬質の泥岩系石材である。

#### ●石槍

G III区 (21—1628) K IV区 (99—2571)

石槍といえるような石器は極めて少なく、2点しか出土していない。1628は着柄部の破片と思われる。2571は厚手で粗製の小型品であり、ほぼ完形である。石質は共に硬質の泥岩系石材である。

#### ●細部細整痕や使用痕のある剥片及び未製品

E III区 (2—1389) F III区 (14—1564, 1569 15—1574, 1579, 1582) G III区 (30—1776) H III区 (41—1891 42—1899, 1903) H IV区 (57—2081, 2087, 2088, 2092) I IV区 (71—2219, 2225, 2226) J V区 (84—2363) J VI区 (92—2461, 2464) K VI区 (99—2574, 2575) L IV区 (102—2590) 出土地不明 (110—2651, 2654)

形状が一定せず特定の器種に含めることが困難な石器である。石材は他の器種と同様、硬質の泥岩原石材を主な素材としている。縄文時代後期前葉や晩期前葉の集落跡近辺から集中して出土しているが、時期は特定できない。

以上のうち、1891、2219、2226、2461、2464、2574、2576、2590は見方によっては彫器とされている資料である。

#### ●原石核ないし粗刃礫石器

I IV区 (75—2249) I V区 (87—2377)

硬質の泥岩系石材か安山岩の扁平な礫を素材とし、その縁辺の一部を打ち欠いて粗い刃を形

成したものである。石器であるか加工途中の半製品であるかの断定はできないが、調査例には刃部に刃潰れの痕跡がある例もみられ、ものを叩き切る道具かもしれない。10cm×10cm程度の大きさである。

各地で出土しているようであるが、県内では縄文時代中期後葉の北上市鬼柳西裏、盛岡市広瀬Ⅱ、晩期の衣川村東裏遺跡などで報告されている。

#### ●横刃型扁平打製石器

HⅢ区 (45—1925、1926)

安山岩ないし凝灰質砂岩の扁平礫を横長の半円～隅丸逆台形状に調整し、粗い刃の付けられた石器であり、横刃型打製石器とも呼ばれている。しかし、打製石斧とすべきか機能的には問題がある。東北地方では縄文時代前期後半～中期前半の遺跡に類例が多くみられる。

#### ●打製掘具

GⅢ区 (32—1794) IⅣ区 (71—2227 72—2230、2233) IⅤ区 (78—2289)

長さ10～20cm、巾10cm内外の薄い板状粘板岩の中央からや、上部に軽い抉りのあるものや上半部が柄状にや、細くなるように調整された打製石器である。粗掘出土品の中には完形品がないが、KⅥ—011 住居跡から完形品が出土している。

この種の石器は縄文時代晩期前～中葉にかけてかなり一般的にみられ、県内の衣川村東裏、北上市九年橋遺跡などに報告例がある。時期的に幅がありそうであるが、資料が乏しく明確ではない。曲田Ⅰ遺跡の場合、弥生時代や縄文時代後期の可能性もあり、検討を要する。

#### ●円盤状石製品

EⅢ区 (4—1393) FⅢ区 (5—1408 17—1591～1594) GⅢ区 (34—1798～1802)  
GⅣ区 (37—1826) HⅢ区 (46—1927～1935 208—1936～1940) HⅣ区 (58—2094～2101  
59—2102～2106) HⅤ区 (62—2124～2126 64—2133～2135) IⅢ区 (67—2167) IⅣ  
区 (74—2241～2248) IⅤ区 (80—2302) JⅤ区 (84—2369 85—2372、2373) JⅥ区  
(93—2469、2470) KⅥ区 (100—2578) 表面採集及び出土地不明 (107—2606 111—  
2662～2666)

大部分が扁平な小型の礫の辺を円形に打ち欠いたものであるが、1826は磨製である。1798、1893、1934、2097、2167などは、形が整わず未製品かもしれない。2133、2134も同様と思われる。材質は安山岩、石英安山岩、凝灰岩、硅質泥岩などである。

出土数量は縄文時代晩期の集落跡近辺に最も多く、同時期のものが多いと思われる。県内では縄文時代中期中葉以降晩期中葉までの各遺跡で発見されており、他の時期のものが含まれている可能性も考えられる。



### ●擦り石

G III区 (32-1791 194-1795) H III区 (44-1918 206-1923、1924) H IV区 (60-2111) H V区 (62-2127) I IV区 (72-2232 73-2234、2237、2238、74-2240) I V区 (78-2290) J VI区 (93-2471~2475) L IV区 (102-2591、2592) 出土地不明 (111-2667、2668)

主としてや、扁平な円球や楕円球状の礫を利用した礫である。そのほか2238のように三角柱状の製品もある。大きさは直径12~13cmのものから5cm程度のものまで各種である。多くは擦痕を伴うが、擦痕がほとんどみられず擦り石とすべきか疑問のものも含まれる。

材質は大部分が安山岩類であるが、泥岩、玢岩も若干含まれている。

### ●凹み石

G III区 (32-1789) H III区 (43-1916、1917 44-1919、1921) H IV区 (59-2107、2108) I IV区 (75-2251) J V区 (85-2370、2371 86-2374) J V区 (87-2376) J VI区 (94-2477、2478)

自然礫に凹みの付けられた礫器であるが、形状は円球状、楕円球状、角柱状、扁平な隅丸長方形などである。擦り石、叩き石に準じた用法が推定される。2370は叩き痕をもち、明らかに叩き石としての用途が認められる。材質は安山岩、石英安山岩が多い。

### ●叩き石

F III区 (17-1596) H III区 (44-1920、1922) H III区 (47-1939) H IV区 (63-2136) I IV区 (73-2239) J V区 (84-2368) K VI区 (100-2577)

ハンマーとしての用途が推定される礫器である。叩き痕を伴うことが多いが、1922、2577などは叩き痕が明瞭でない。2239では叩き痕のほかに擦痕がみられる。1920は先端部が打撃によって剝離している。

### ●石皿及び台石

F III区 (17-1595、1597 179-1598) H III区 (48-1945、1946) H IV区 (59-2109) I III区 (67-2165-2) J VI区 (94-2479) 表面採集及び出土地不明 (106-2603 112-2669)

1597が台石であるほかはすべて石皿である。石皿の形状には2、3種類があるが、2603はやや特異である。2603は板状石片の両面中央部を擦り凹めたものであり、特に片面は薬研状に深く凹んでいる。

1946の内面には酸化第二鉄と思われる赤色顔料の粉末が付着しているほか、2429の内面には煤の付着が認められる。材質は大部分が多孔質安山岩質の溶岩礫で占められるが、2603のように流紋岩と思われるものが認められる。



### ●砥石及び調整具と思われる平石

E III区 (3—1391) G III区 (32—1793 33—1796) H III区 (47—1941、1942 48—1943、1944) I III区 (67—2166) I IV区 (73—2235、2236) J V区 (86—2375) J VI区 (93—2476)

砥石と考えられる石器の大部分は縄文時代のものと思われるが、2235は形状によって歴史時代の比較的新しい時期のものかもしれない。材質は多孔質の安山岩溶岩や砂質凝灰岩などであり、2235は淡緑色の細粒凝灰岩である。大きさや形は様々であるが、多くは扁平に近い礫を素材としている。2476は石皿を転用した例である。

平石類は板状の薄い自然礫である。擦痕その他の調整痕はみられないが、調査区内にはこの礫を含む層がないので、他から持ち込まれたものと考えられる。道具とするには問題があるが台湾などには土器成型の際の当て工具として自然礫を用いた例がある。材質は石英安山岩質の細粒凝灰岩などである。

### ●磨製石斧

F III区 (5—1410 16—1583、1586) G III区 (31—1785～1787 32—1788、1790) H III区 (42—1906～1910) H V区 (78—2288) J V区 (84—2366) J VI区 (93—2466、2468) L IV区 (102—2593) 出土地不明 (110—2655、2656 111—2659～2661)

2110、2231、2593のように完形の磨製石斧もあるが、大部分は破損品である。大きさは長さ18cmの2110を最大とし、1785、2112、2366などのように長さ5cmに満たない小型品もみられる。そのほか、1790、1910、2288のように破損したものを叩き石として転用した例が認められる。

縄文時代後期前葉及び晩期前葉の集落跡近辺からの出土が多く、材質は輝緑凝灰岩や蛇紋岩、玢岩などである。

### ●石ノミ及び半製品

F III区 (16—1584、1587) I IV区 (72—2229、2233)

石ノミと思われる磨製石器は極めて少なく、いずれも破片である。1584、2229、2233では十分な研磨調整は行なわれておらず、未製品かもしれない。材質はいずれも輝緑凝灰岩である。

### ●石棒

E III区 (3—1392) F II区 (4—1394) F III区 (16—1585、1587～1590) G III区 (33—1797) G IV区 (35—1828) H III区 (43—1911～1915) H IV区 (56—2077) H V区 (62—2122、2123)

石棒とした石器は形態、材質上の特徴から大きく2種に分けられる。①は大型で石英安山岩を柱状塊を加工したもので1589の破損品1点である。②は概して小型で身が細く、黒灰色の粘板岩が主体を占める。完型品はないが、個体数が比較的多い。

①は概して縄文時代中～後期に多く、②は晩期に一般的である。

#### ●軽石製品

J V区 (84—2367)

つまみが付き半円形をなした板状の軽石1点であるが、用途は不明である。軽石の利用例は縄文時代各期にみられ、県内では大船渡市下船渡貝塚、江釣子村鳩岡崎、九戸村嶽Iなどの遺跡で出土している。

#### ●有孔石製品

F III区 (15—1557) G III区 (32—1792) G IV区 (35—1827)

装飾品及びその未製品と思われる有孔石製品である。1557は淡黄褐色の細粒凝灰岩を丸いボタン状に加工し、中央に2孔を穿った製品である。1827はピーナツ状の石質凝灰岩に縦に2孔を穿っているが、1孔は貫通していない。1792は扇形に研磨調整した淡緑色細粒凝灰岩の中央部に穿孔したものである。

#### ●有孔自然礫

I IV区 (75—2250)

この種の礫は縄文時代の遺跡からしばしば出土している。用途は不明である。

#### ●剝片及び石核

石器製作に伴う多数の石片が調査区内の各所から発見されている。土器と同様に縄文時代の遺構集中区域に多く出土しているが、特定の個所に密集する状況はみられない。

### iii 土製品 (第2～99図 第2表 写真図版178～248)

#### ●円盤状土製品

F III区 (13—1551～1554) G III区 (30—1764) I IV区 (70—2208)

いずれも土器片を円形に打ち欠いたものである。1554は網目状撚糸文が施されており、縄文時代中期末～後期前葉のものと思われる。2208は三叉文があり、晩期前葉のものとみられる。他もほぼこの両者の時期内に入るであろう。

#### ●土偶

E III区 (15—1555) H III区 (40—1881) H IV区 (56—2076) I III区 (67—2165—1)

形態・文様上の特徴からいずれも縄文時代晩期前葉に入るであろう。1555は小型土偶の脚部、2165—1は小型中空土偶の頭頂部、2076は大型の中空土偶の脚部である。1881は断面が隅丸長方形をなし、外面に線文が施されているが、土偶でないかもしれない。



●土笛及び亀形土製品

G III区 (30—1763) H III区 (40—1875)

2点とも破片である。1763は沈線でS字状渦巻文が施されており、縄文時代晩期前葉のものとみられる。1875には雲形に磨り消された縄文帯があり、縄文時代晩期中葉頃のものと思われる。

●皿型土製品

G III区 (30—1765)

内外底面に同心円状の沈線文、外側面に縦の刻目が廻っている。超小型の皿形土器かもしれない。縄文時代晩期前葉頃のものと思われる。

●釣鐘状土製品

J VI区 (92—2455) K VI区 (99—2568)

いずれも中空の土製品である。2455はつまみがなく、2568には穿孔されたつまみをもつ。2455の体部には帯状の刻線文によってスペード状の文様が構成されている。2568は無文である。両者に類似する土製品は、東北地方北部の縄文時代後期前葉の遺跡に普遍的にみられ、県内の玉山村日戸、大迫町立石、軽米町駒板、盛岡市川目などの遺跡にも報告例がある。

●耳栓

F III区 (13—1556)

魚の椎骨状の形をなす直径2cm未満の小型品である。多少欠損しており、無文である。

●円筒形土製品

H III区 (40—1882)

丸味のある飴玉形をなす。単独で出土した1点であり、用途は不明である。

●その他の土製品

E III区 (2—1388) H III区 (40—1880) H V区 (61—2120) K VI区 (99—2569)

1388、1880は平らな帯状をなしているが、全体の形状は不明である。2120は全体が臓器などの形に似ている。器面全体に指紋があり、煤が広く付着している。用途は不明である。2569は不定形の指先大の粘土塊の焼けたものであり、偶然の所産かもしれない。

iv 須恵器と陶器 (第41～95図 第4・5表 写真図版218～244)

●須恵器

H IV区 (41—2078)

壺または甕の胴部破片と思われる。ロクロ成形時の手擦痕が内面にみられる。



● 陶器

I IV区 (70—2209) K V区 (95—2497)

2点とも摺鉢の胴部破片と思われる。赤焼きで外面に透明な釉がかけられている。内面の条痕は細かく、近世後期以降のものであろう。

● 面子型土製品

J VI区 (92—2454)

恵比寿の顔を型取りしたや、硬質の赤焼きである。この種の土製品は各地に類例があり、全身像を表した例がある。多くは神像であり、宗教的儀礼に用いられたものと推定される。

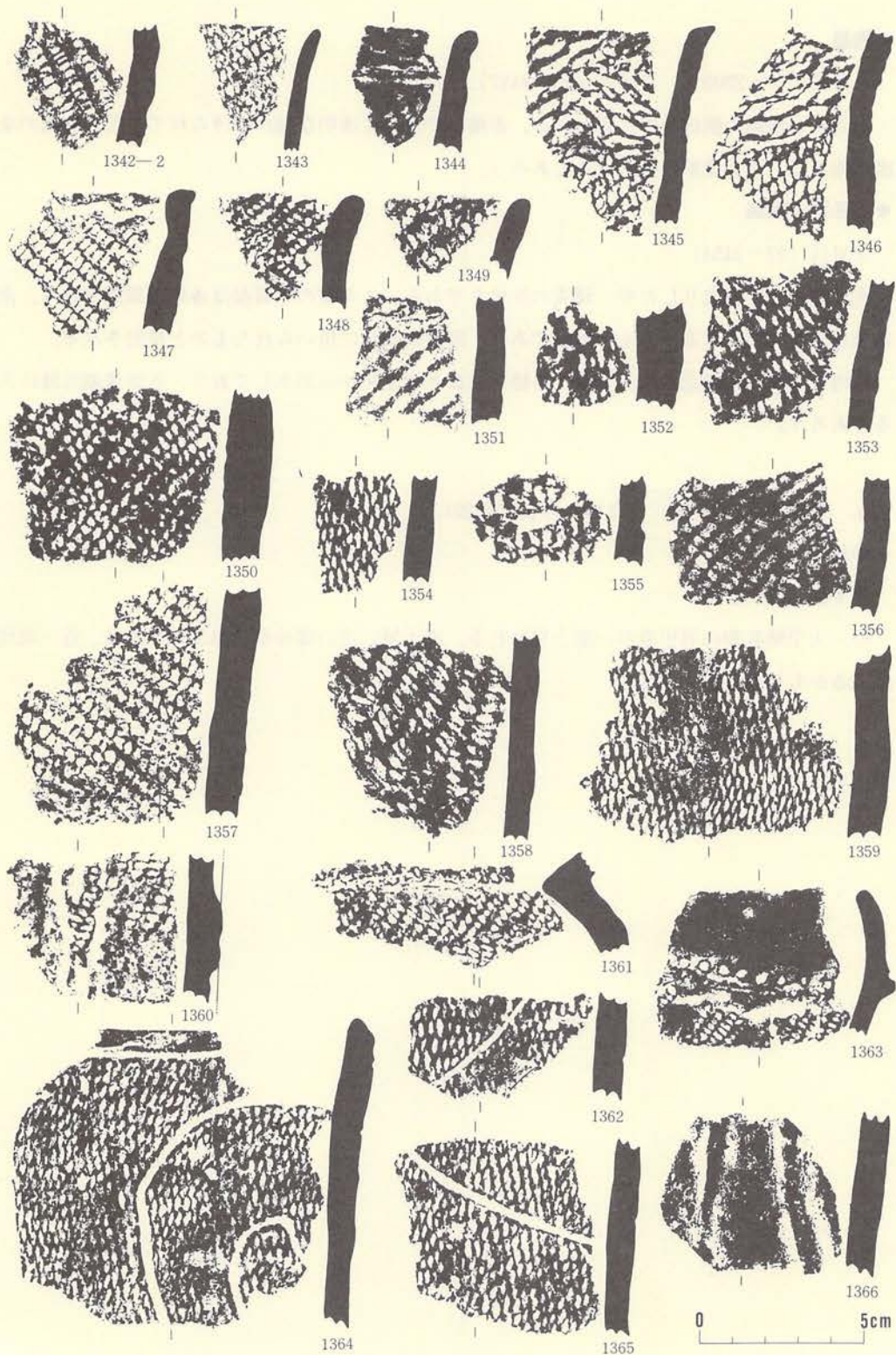
県内では江刺市鴻之巣館、平泉町白幡神社などの遺跡から出土しており、近世後期以降に入るであろう。

v その他 (第61図 第7表 写真図版221)

● 骨片

H V区 (61—2121)

や、大型哺乳類の肩甲骨の一部と思われる。表土層に近い部分から出土しており、近～現代に入るかもしれない。

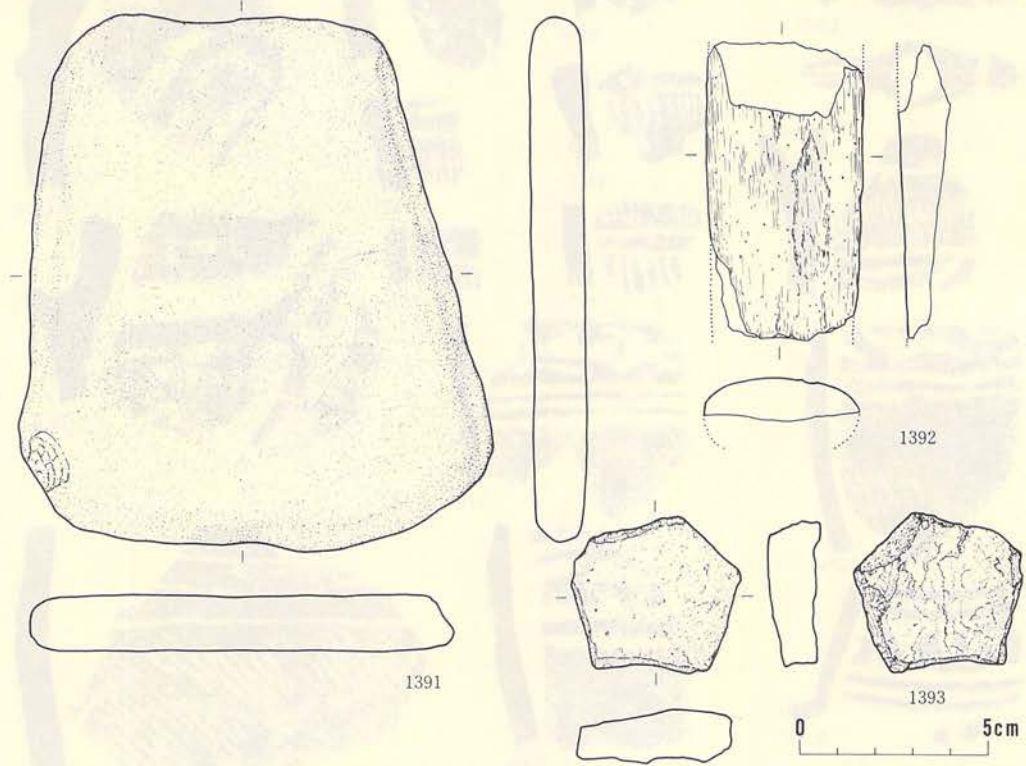


第 I 图 E III 区粗掘出土遗物 ( I )

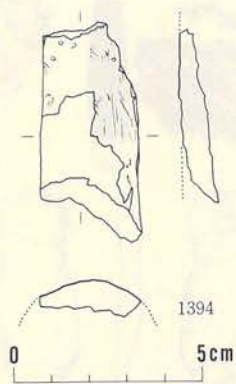




第2图 E III区粗掘出土遗物(2)

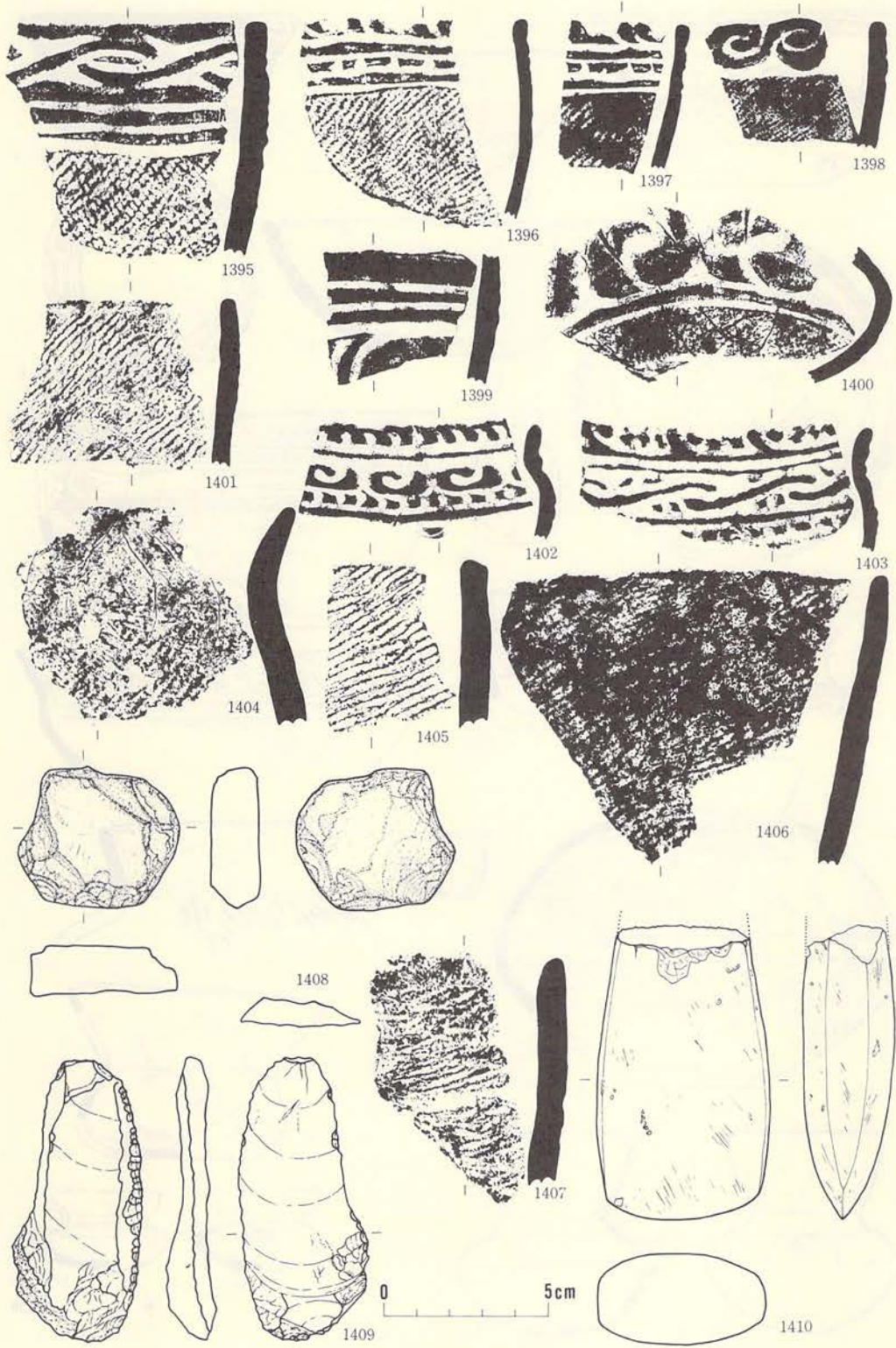


第3图 E III区粗掘出土遗物(3)



第4图 F II区粗掘出土遗物





第5图 F III区試掘出土遺物

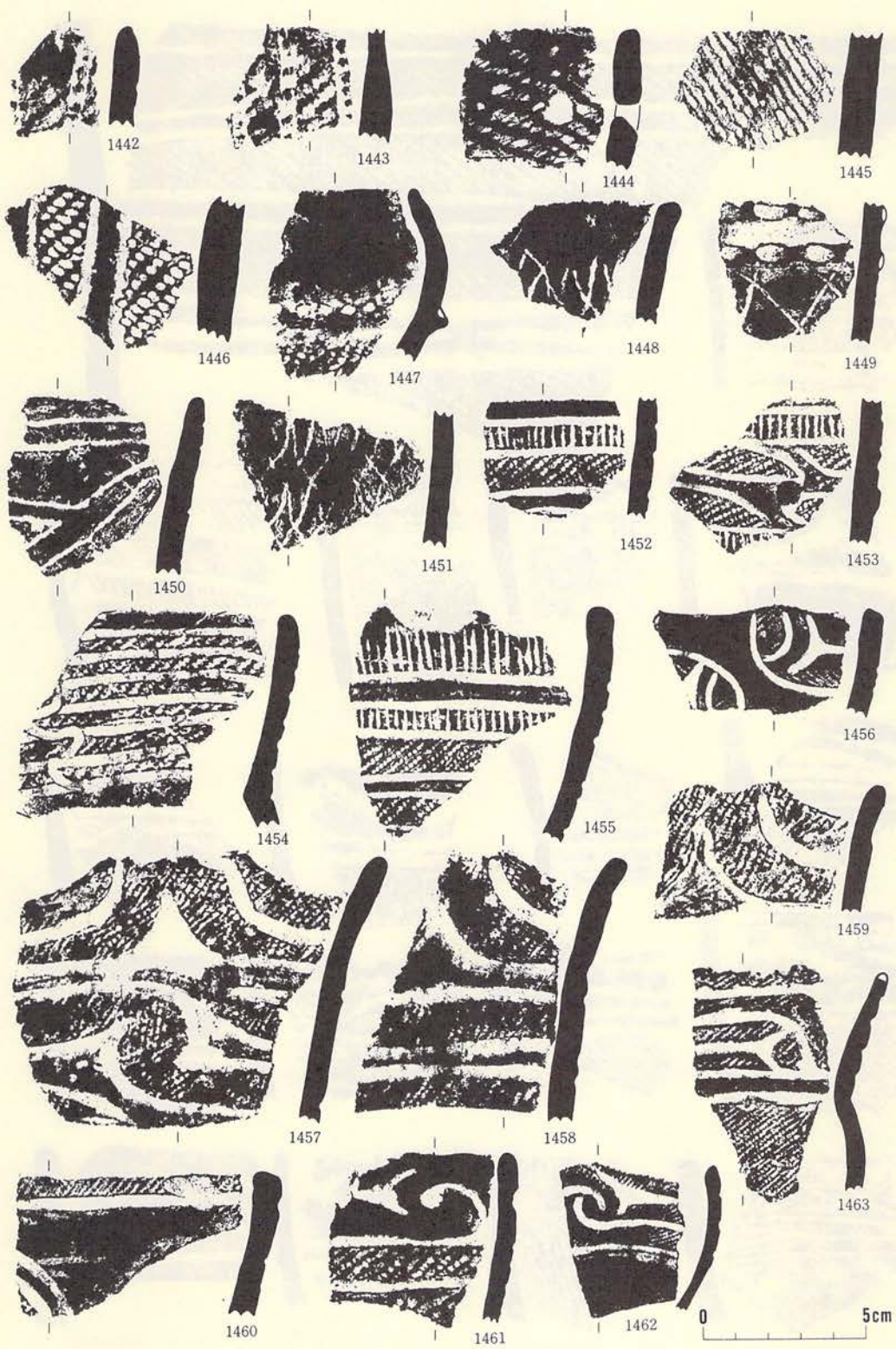


第6图 F III区粗掘出土遗物(1)



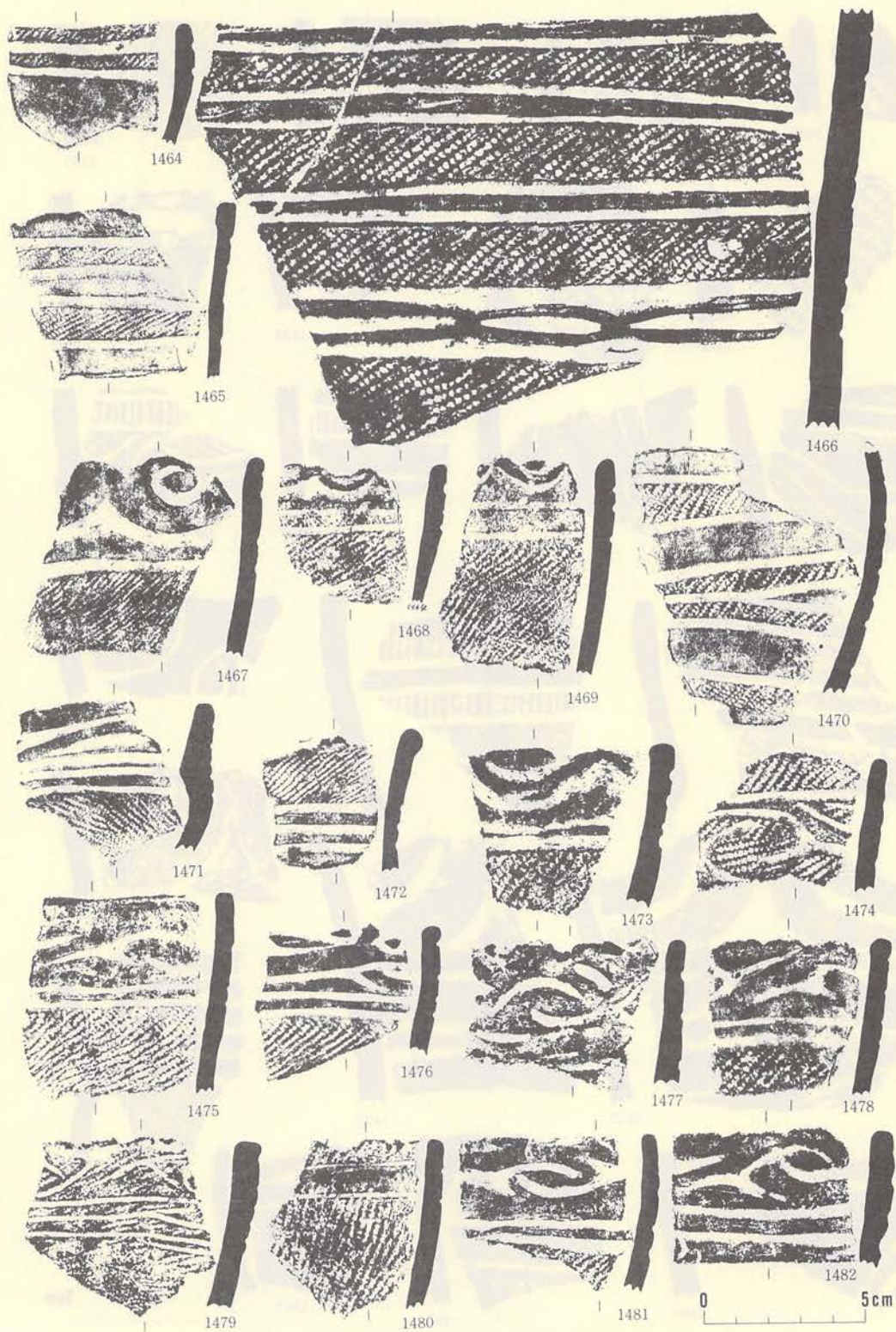


第7图 F III区粗掘出土遗物(2)



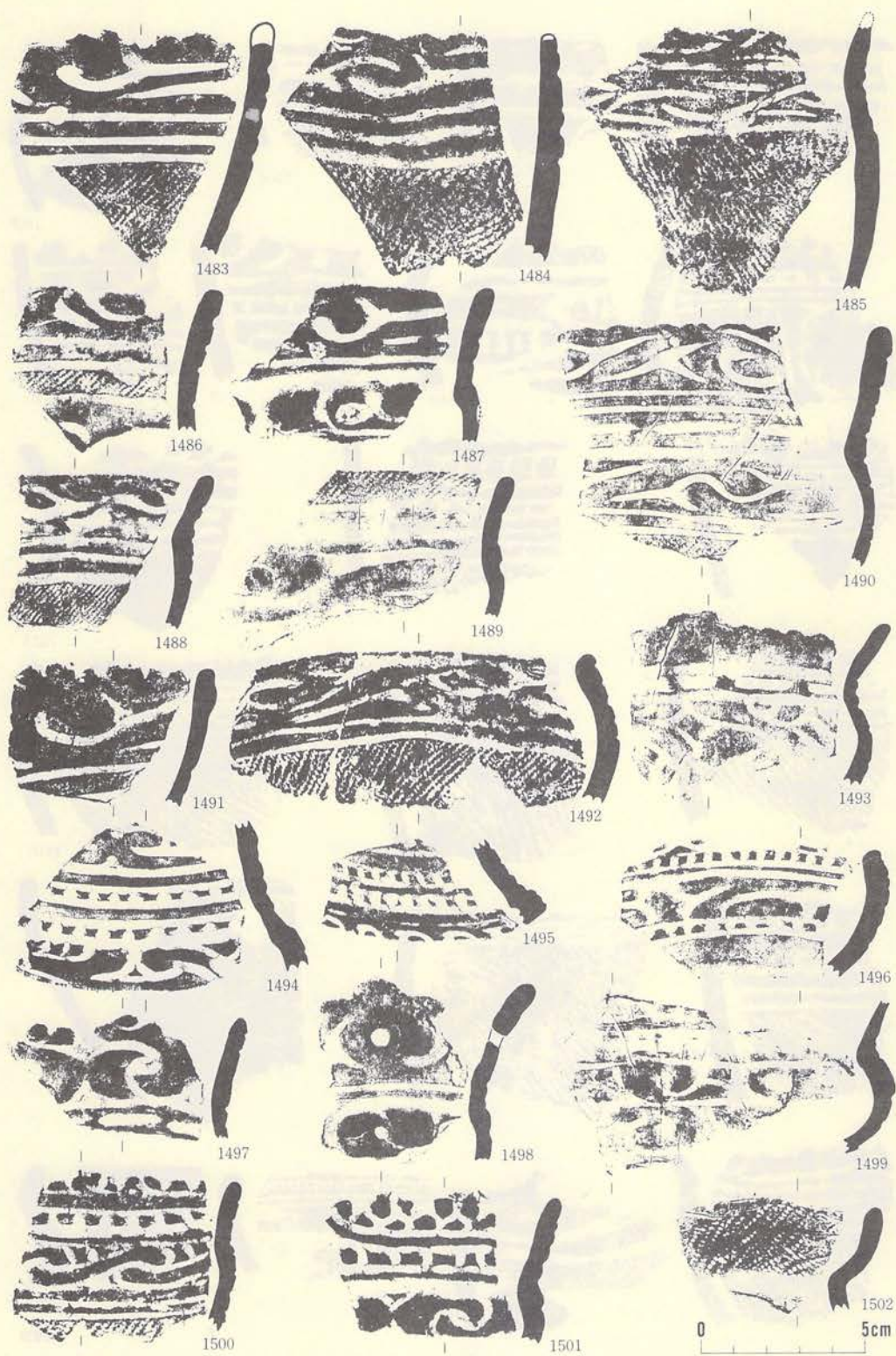
第 8 图 F III 区粗掘出土遗物 (3)





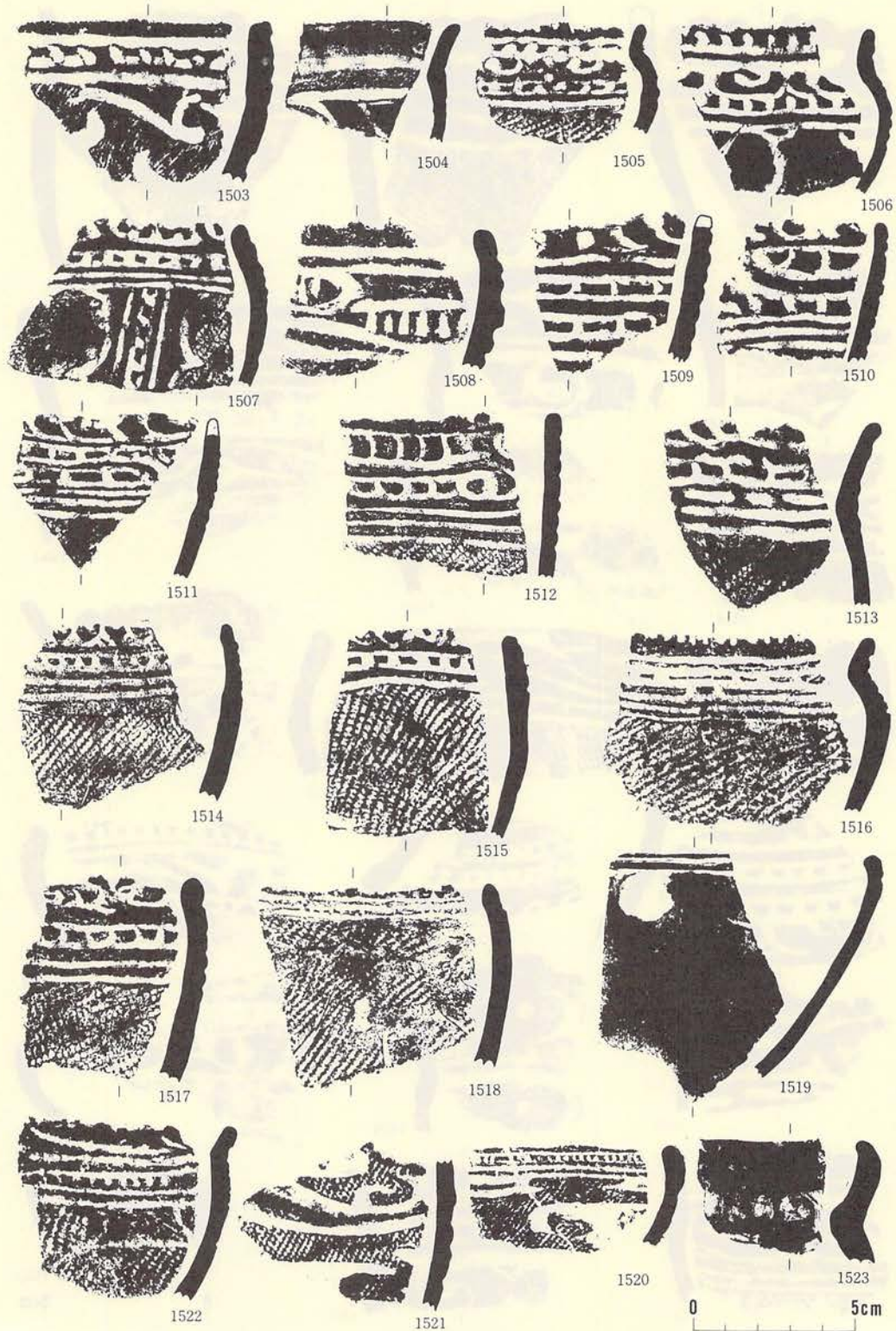
第9图 F III区粗掘出土遗物(4)





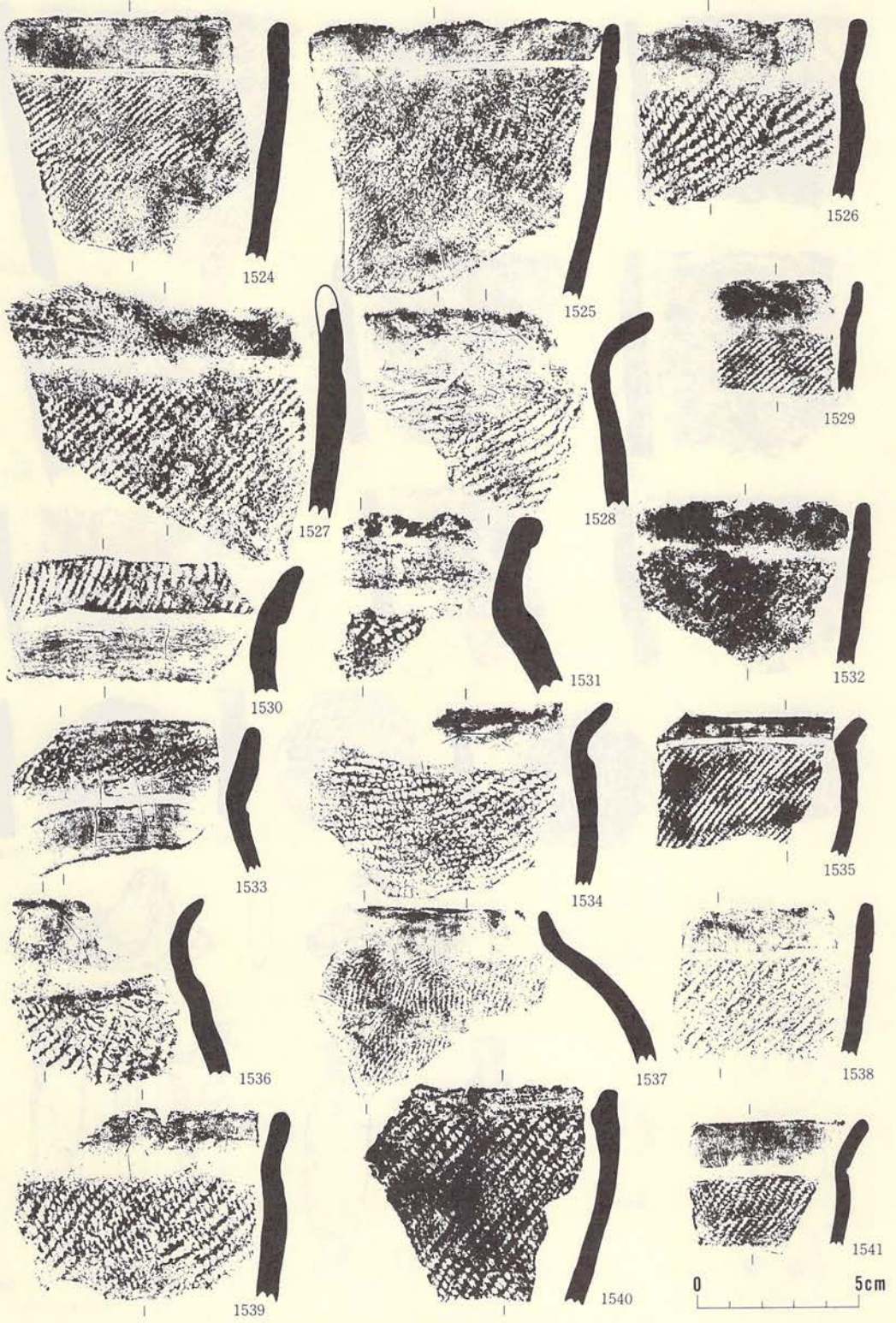
第10图 F III区粗掘出土遗物(5)





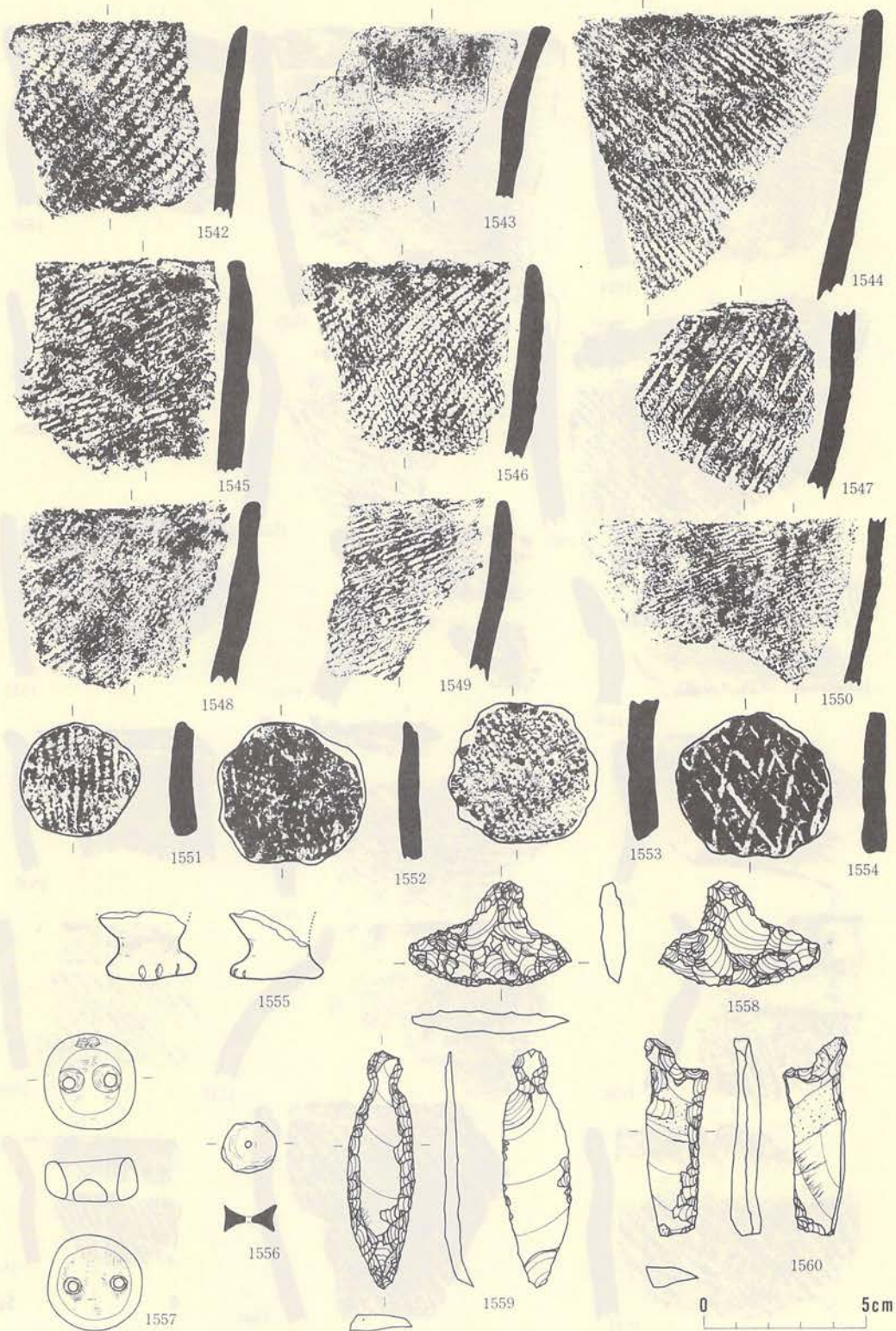
第II图 F III区粗掘出土遗物(6)



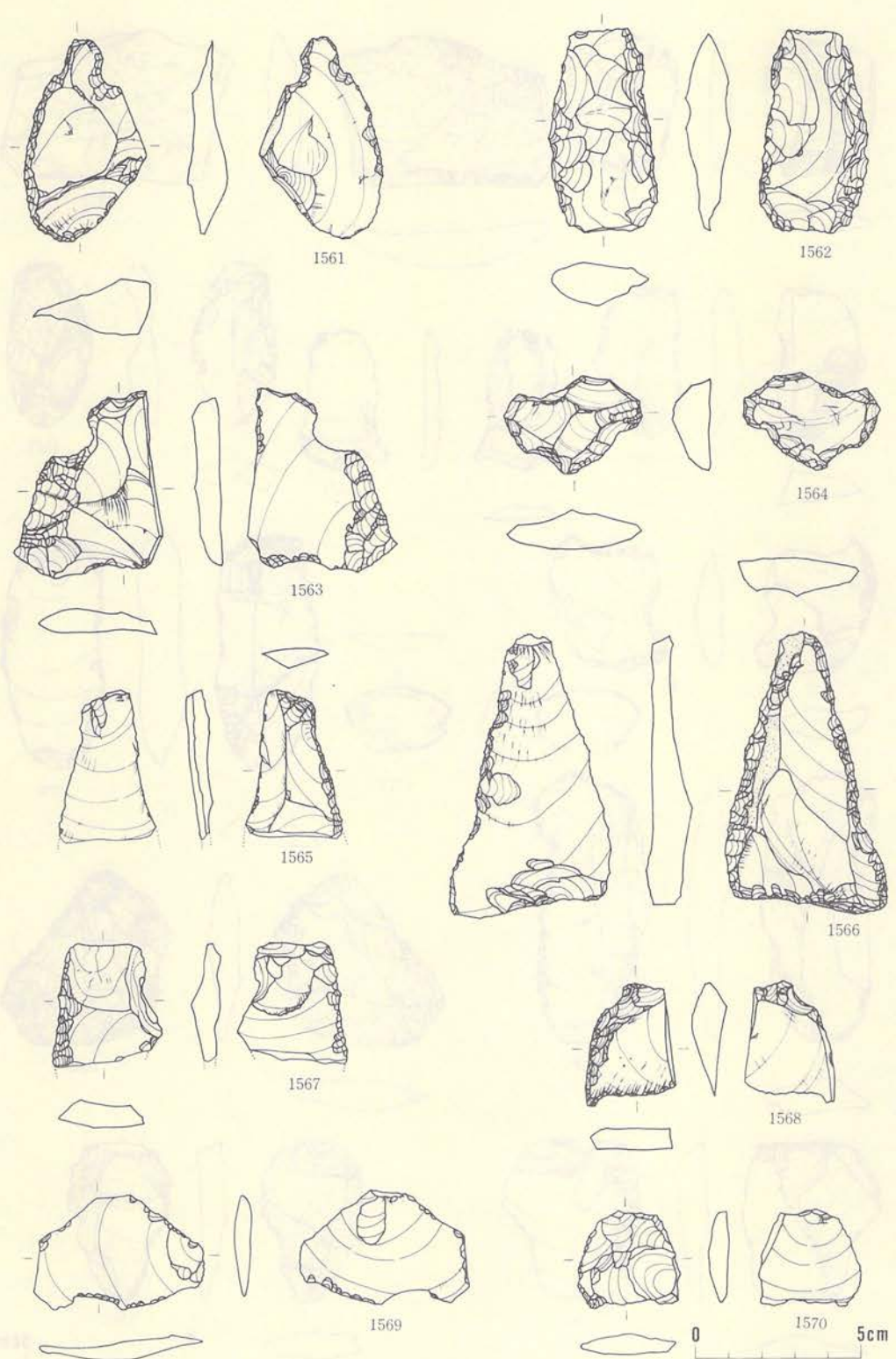


第12图 F III区粗掘出土遗物 (7)



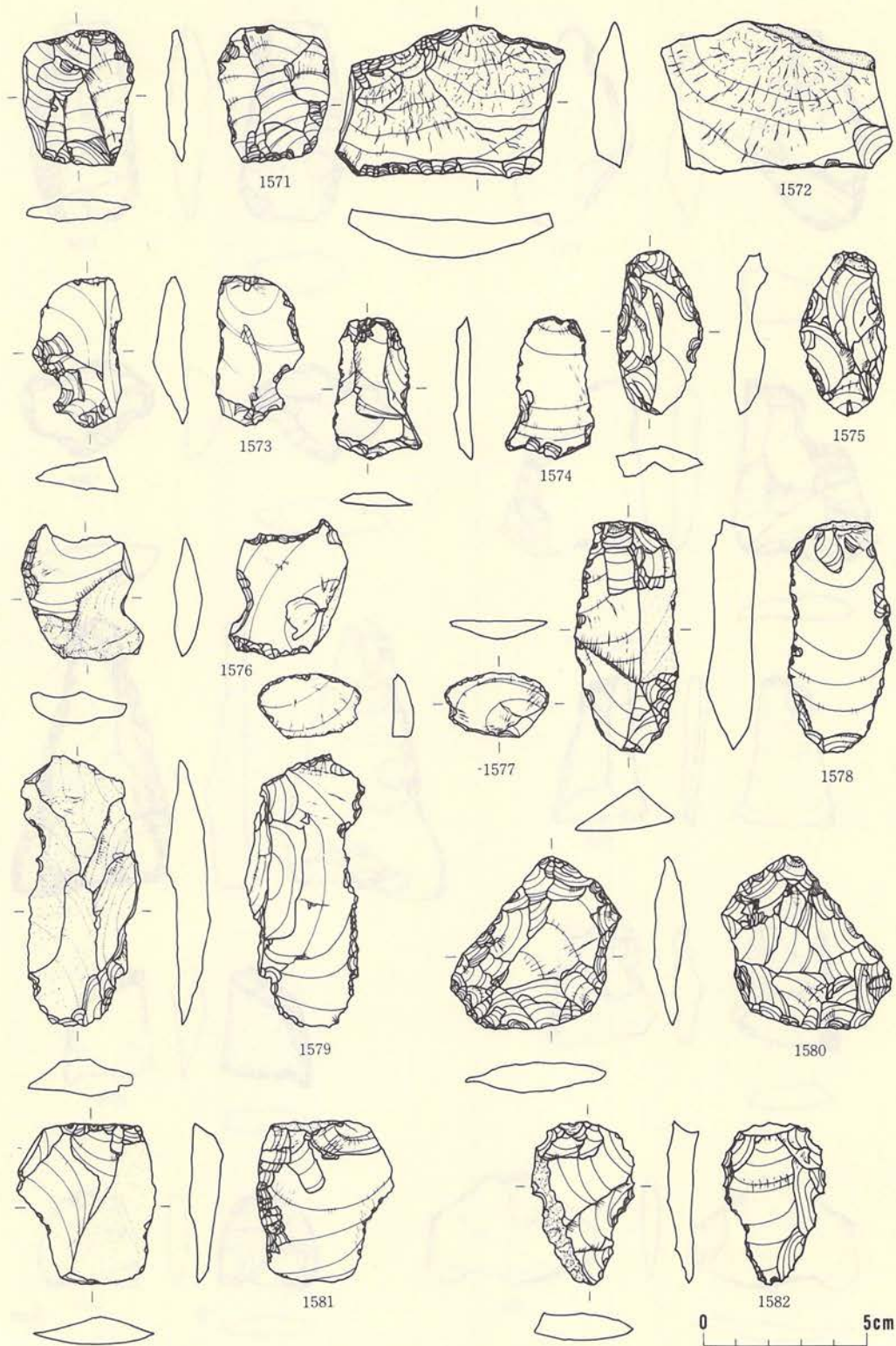


第13图 F III区粗掘出土遗物(8)

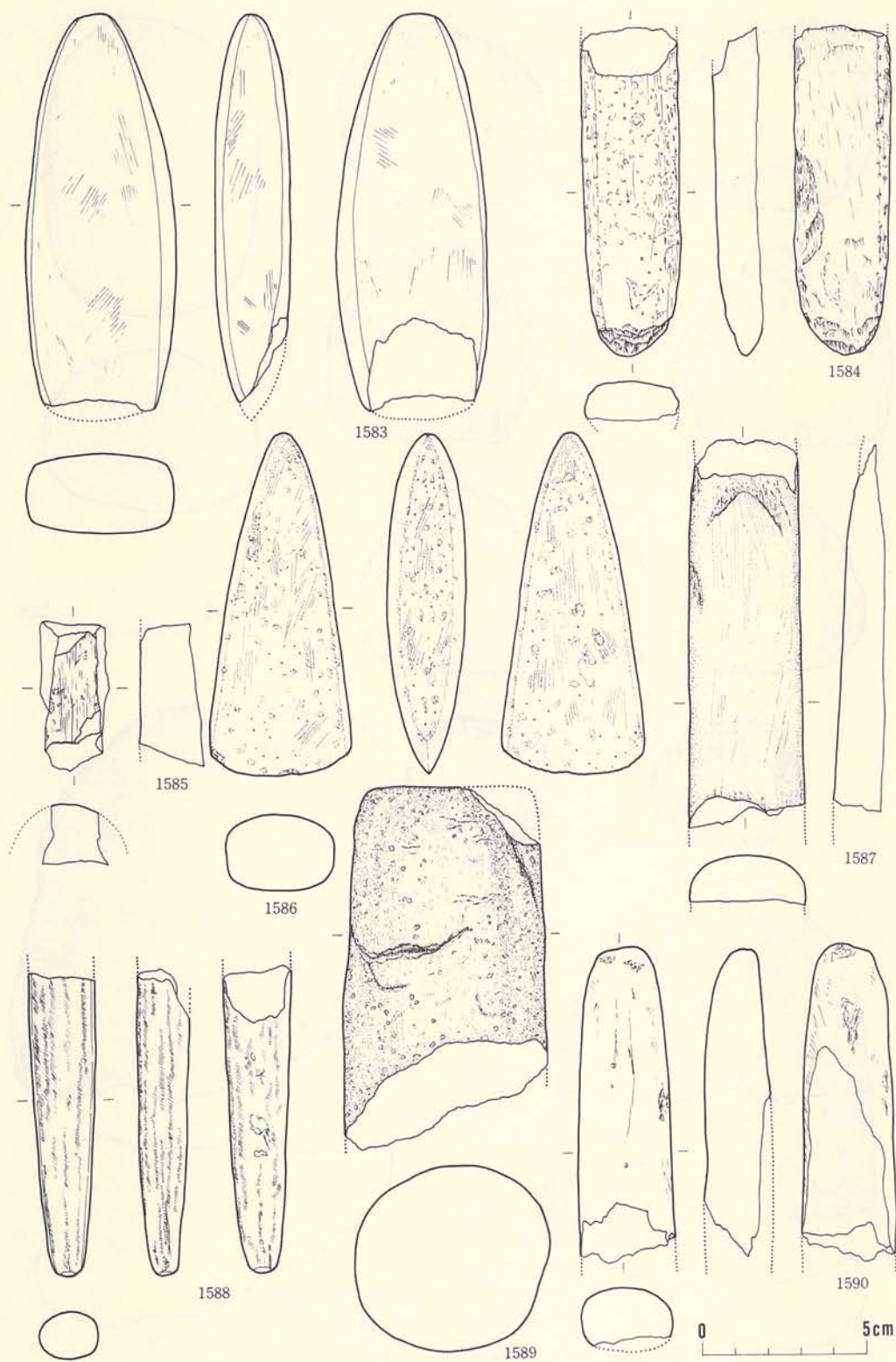


第14图 F III区粗掘出土遗物(9)



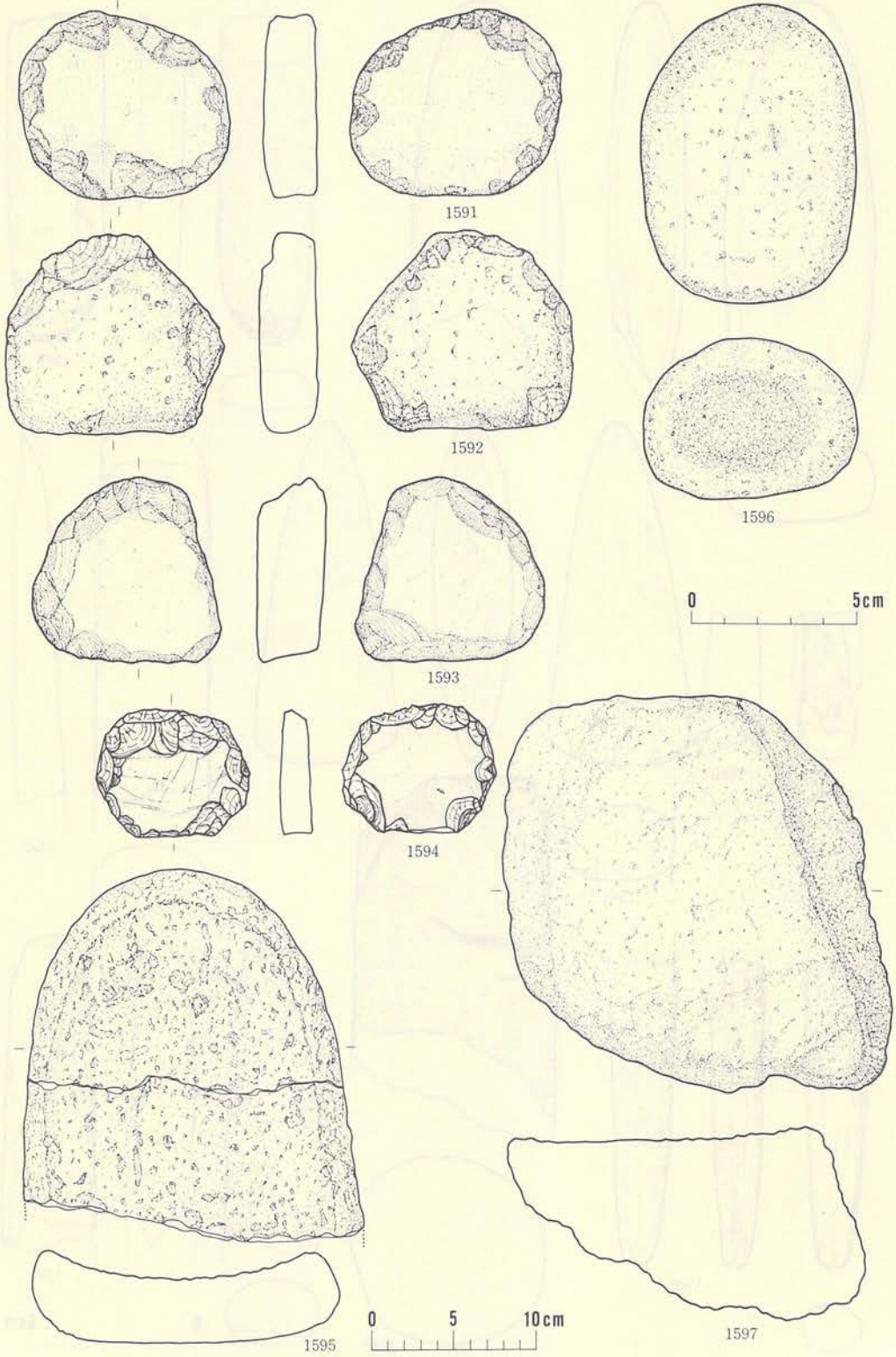


第15图 F III区粗掘出土遗物(10)

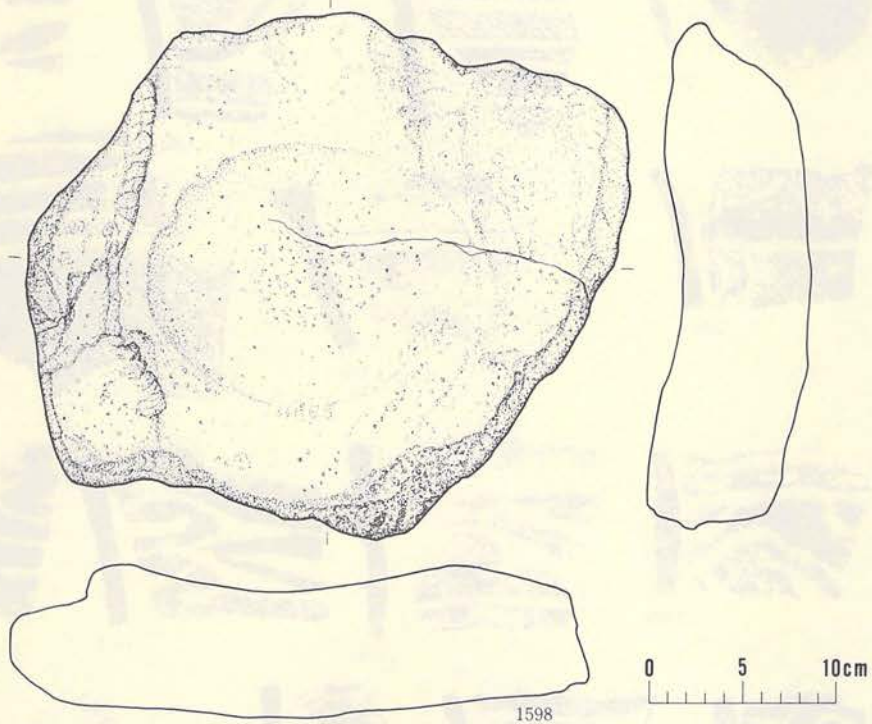


第16图 F III区粗掘出土遗物 (II)

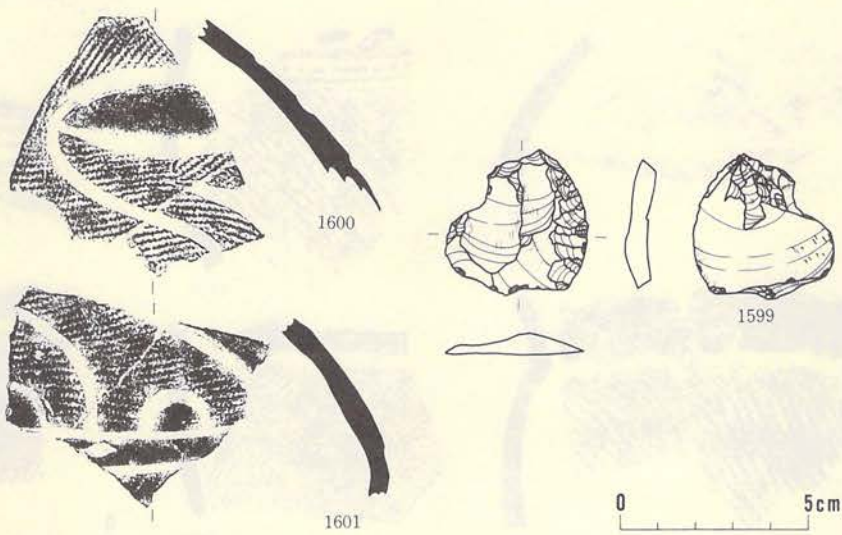




第17图 F III区粗掘出土遗物(12)

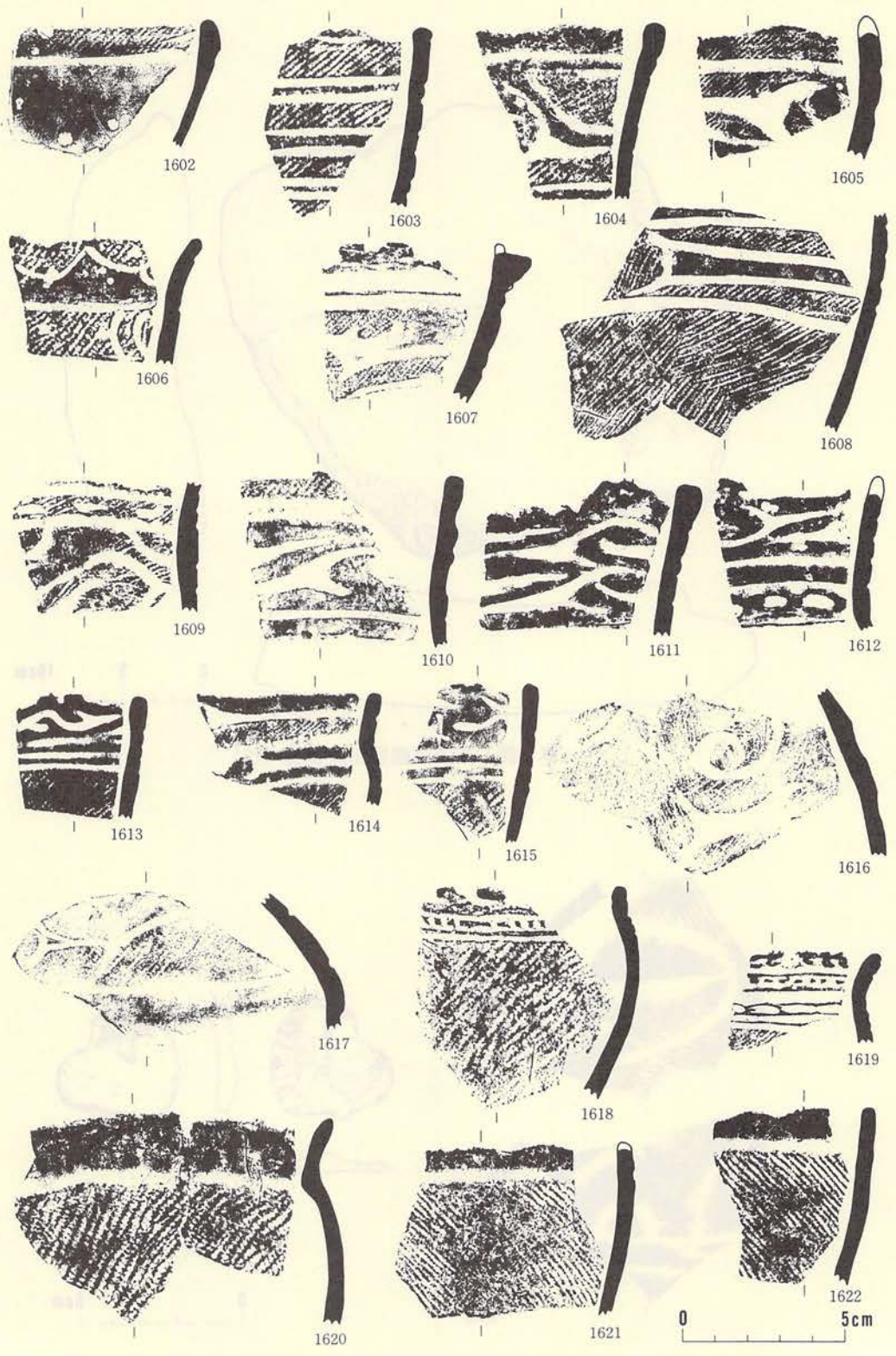


第18图 F III区粗掘出土遺物 (13)

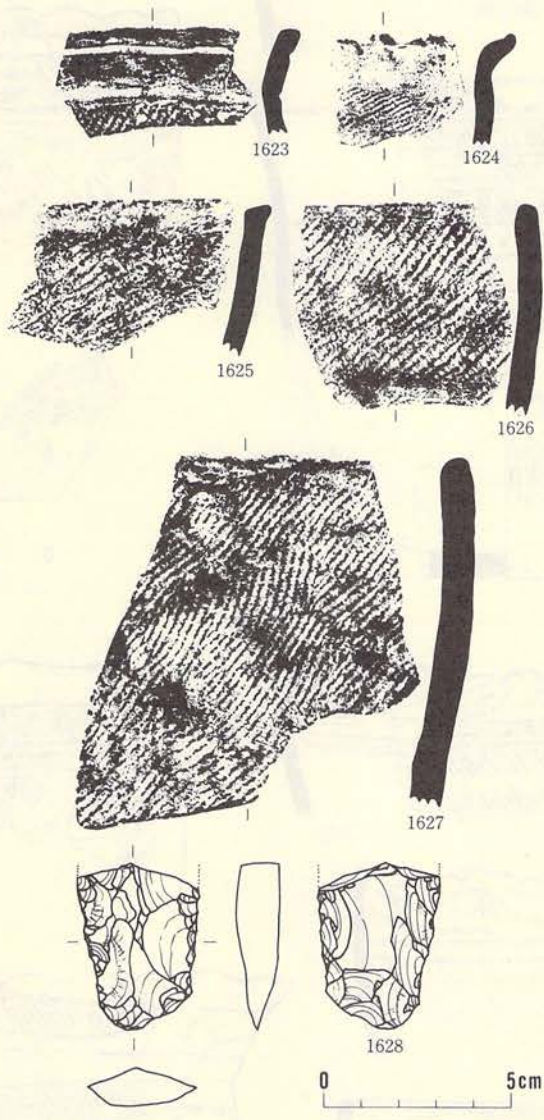


第19图 G II区粗掘出土遺物



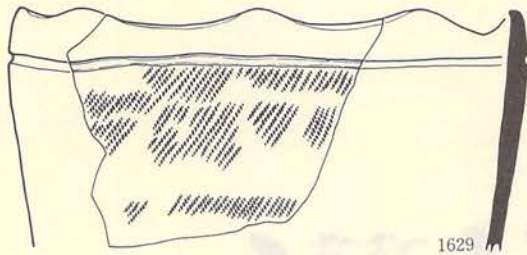


第20图 G III区試掘出土遺物 (I)

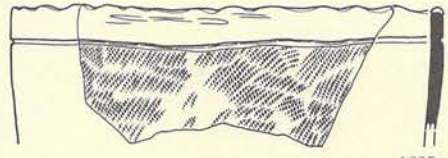


第21図 G III区試掘出土遺物(2)

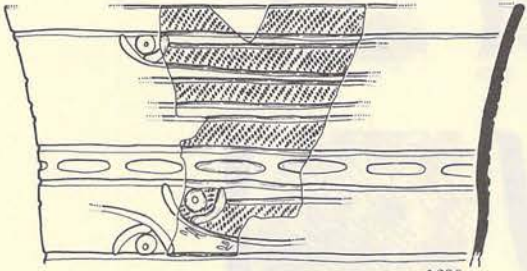




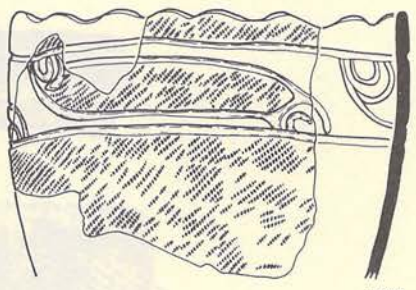
1629



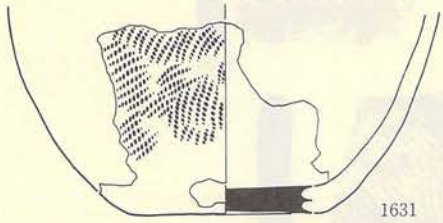
1635



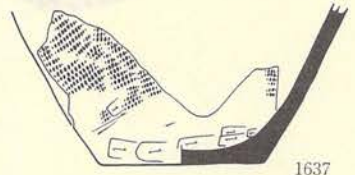
1630



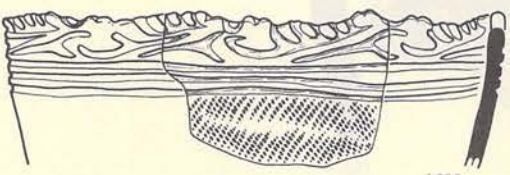
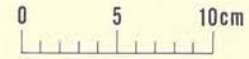
1636



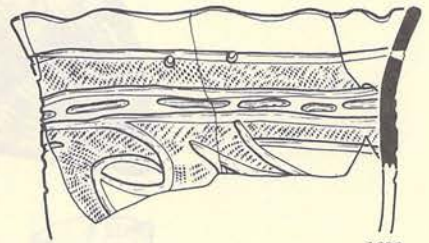
1631



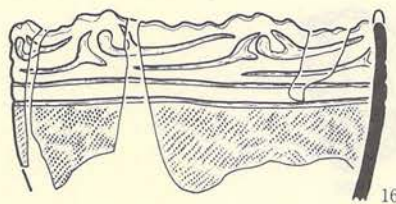
1637



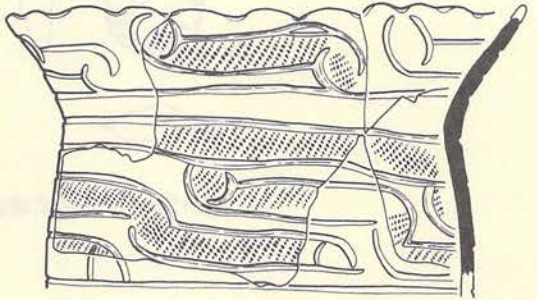
1632



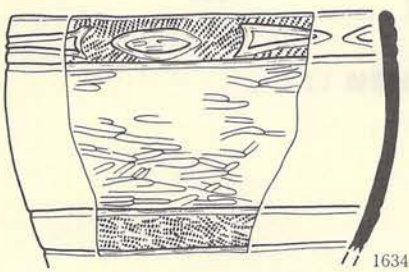
1638



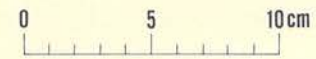
1633



1639



1634

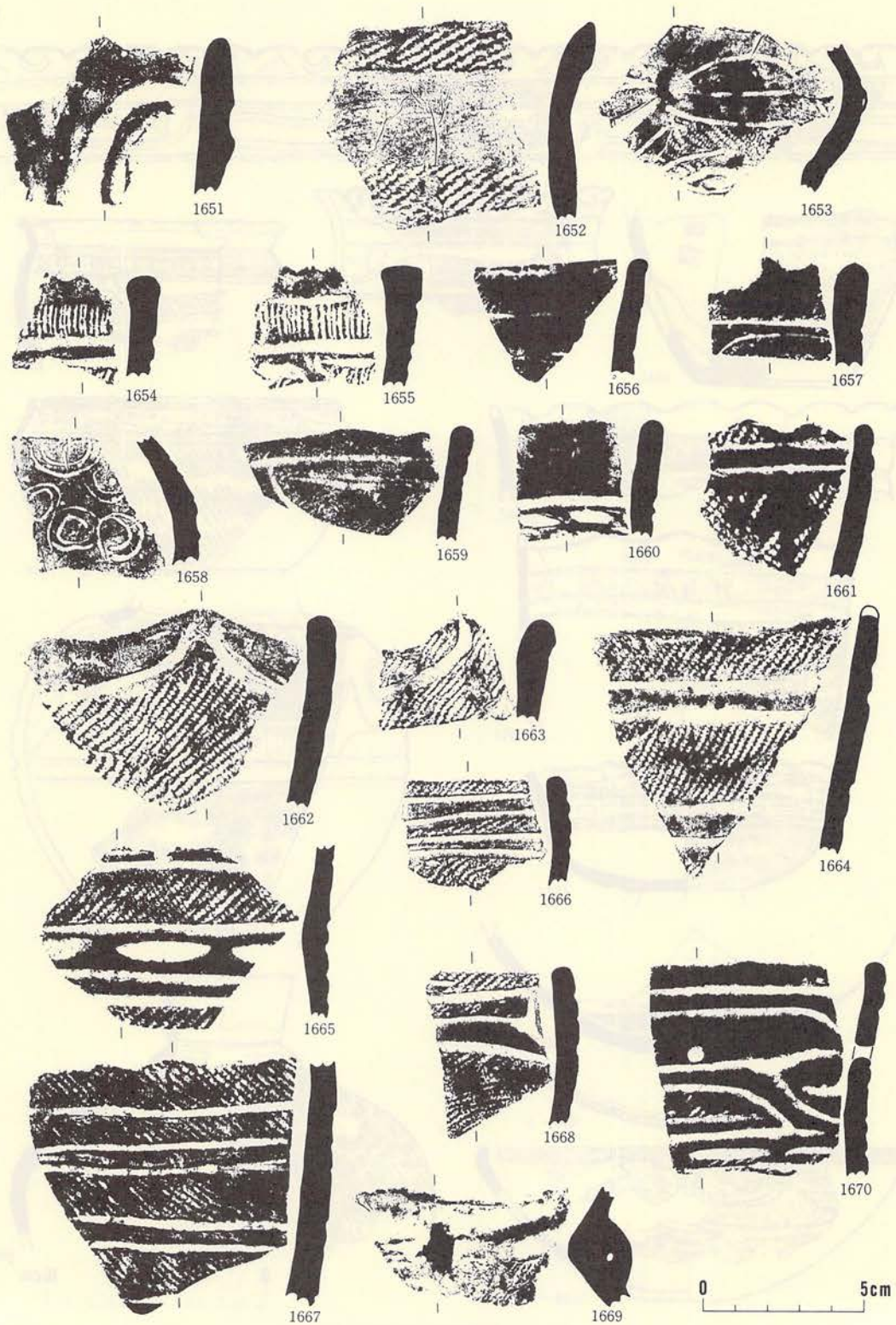


第22图 G III区粗掘出土遗物 (I)



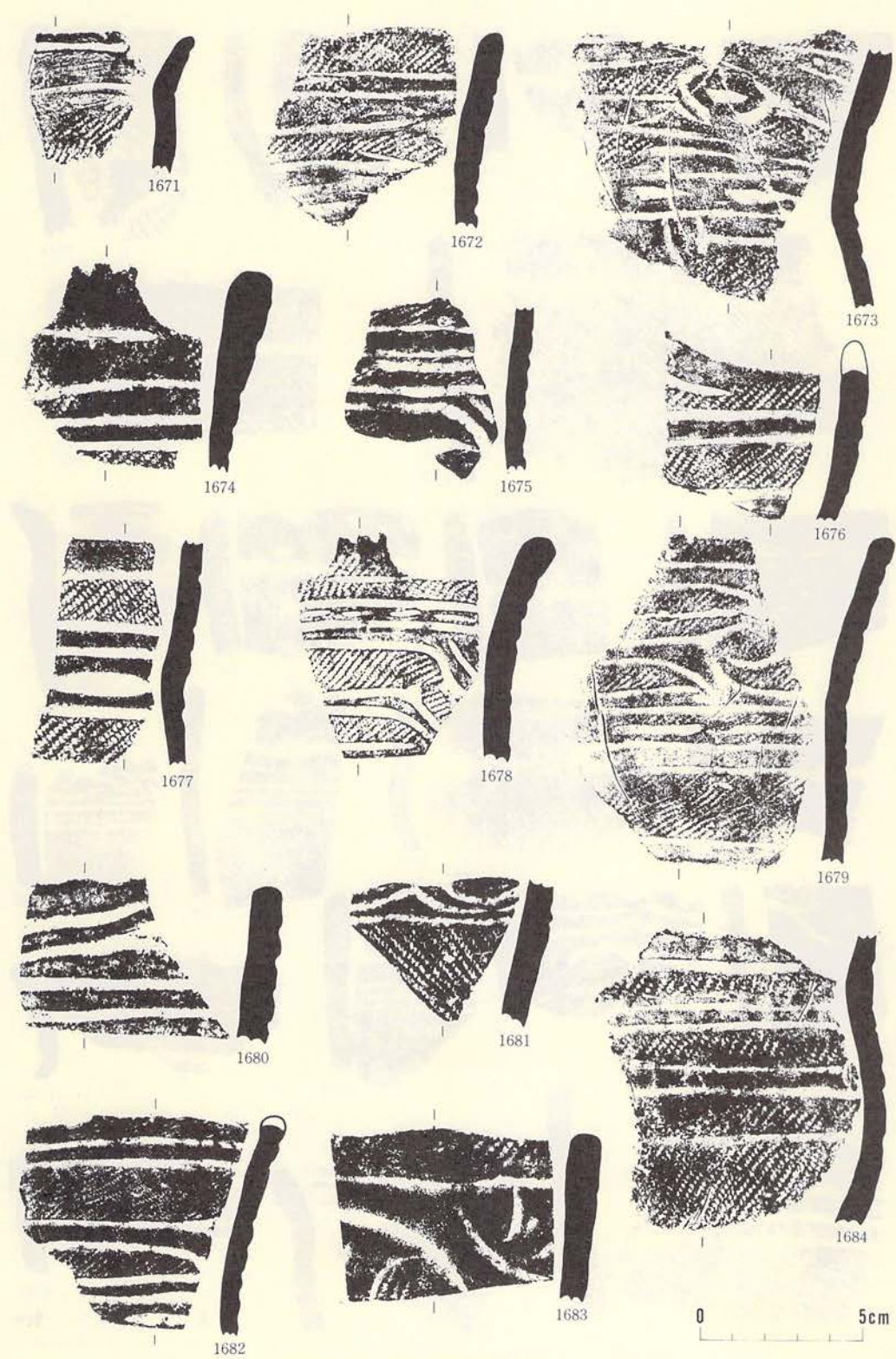
第23图 G III区粗掘出土遗物(2)





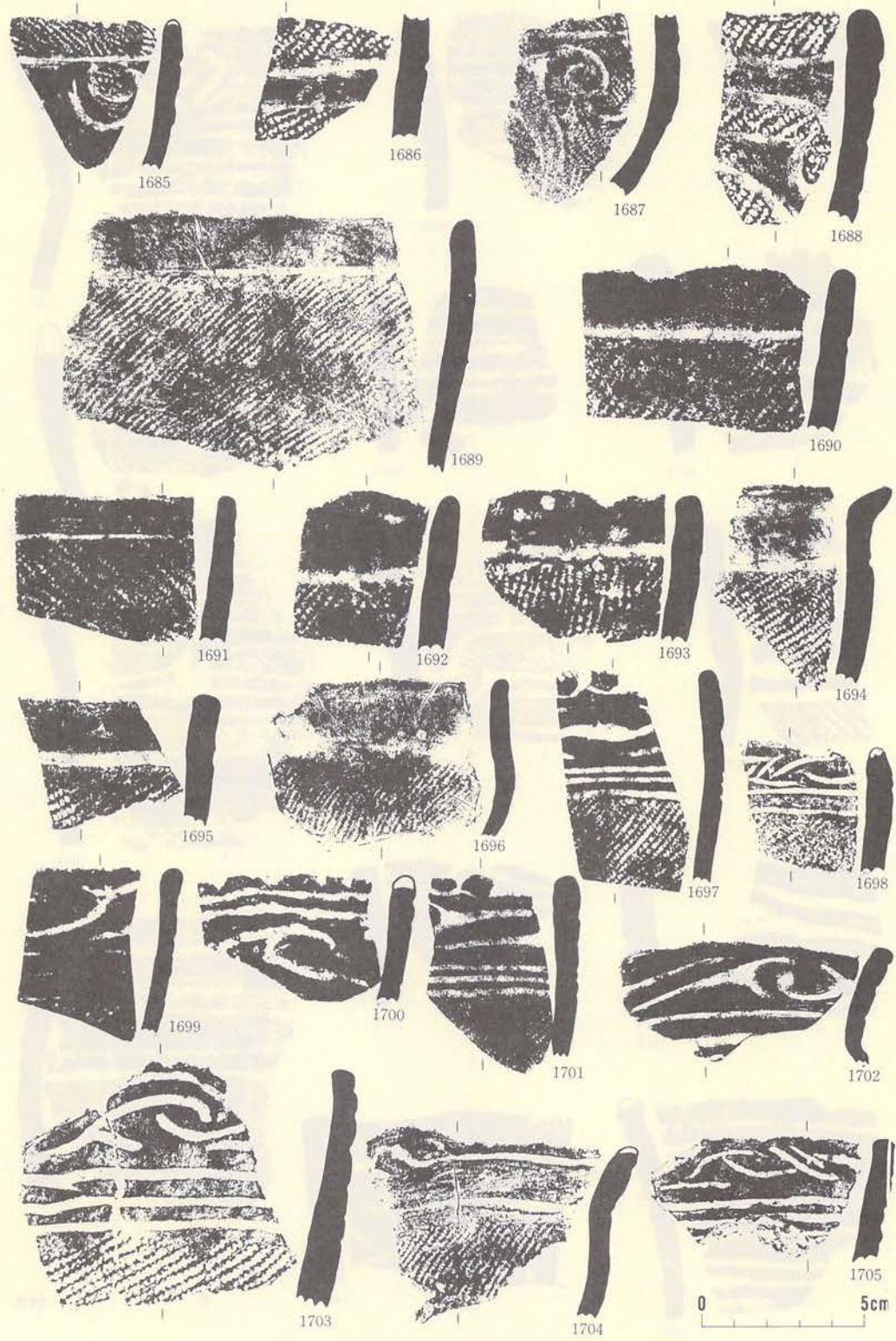
第24图 G III区粗掘出土遗物(3)





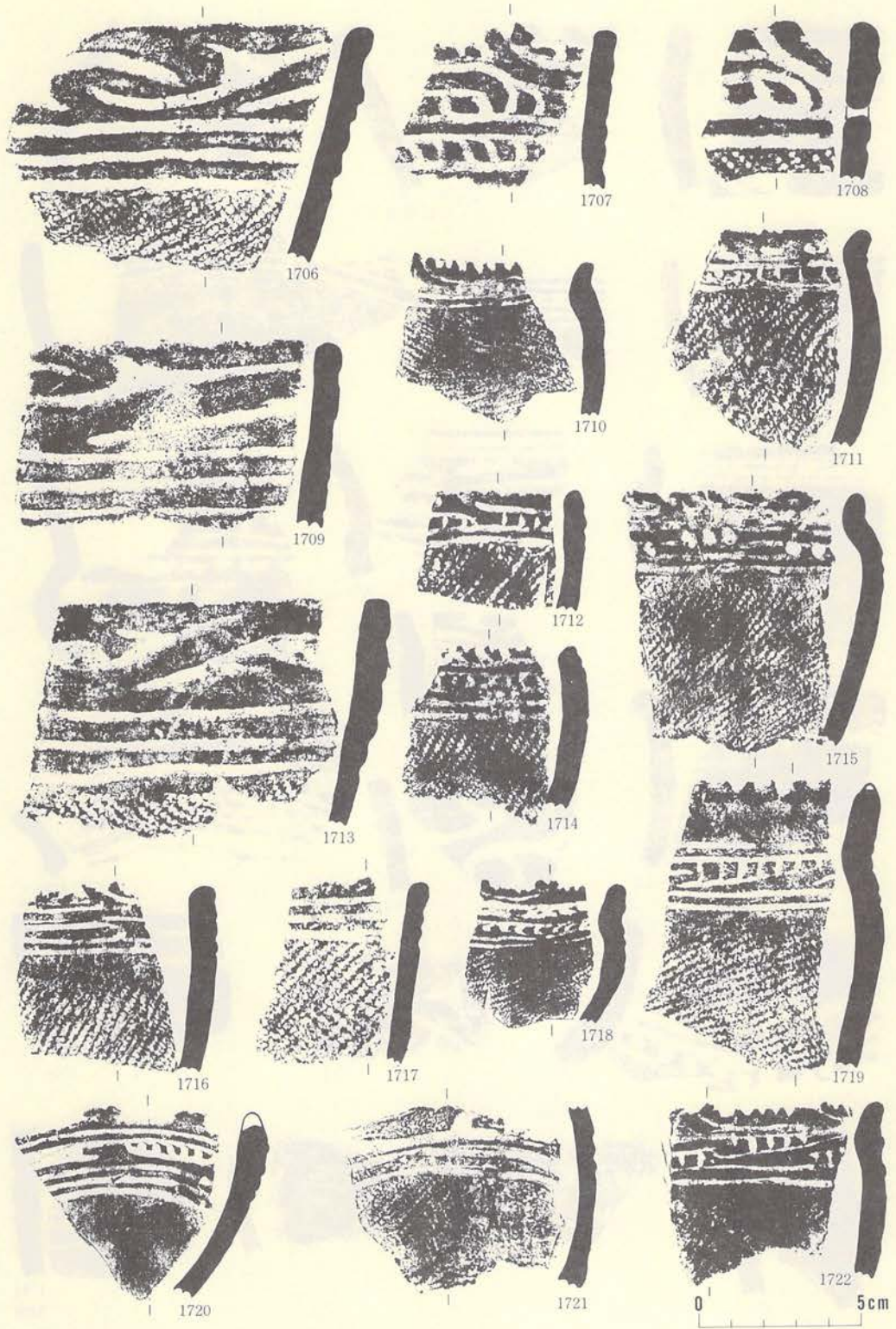
第25图 G III区粗掘出土遗物 (4)





第26图 G III区粗掘出土遗物(5)





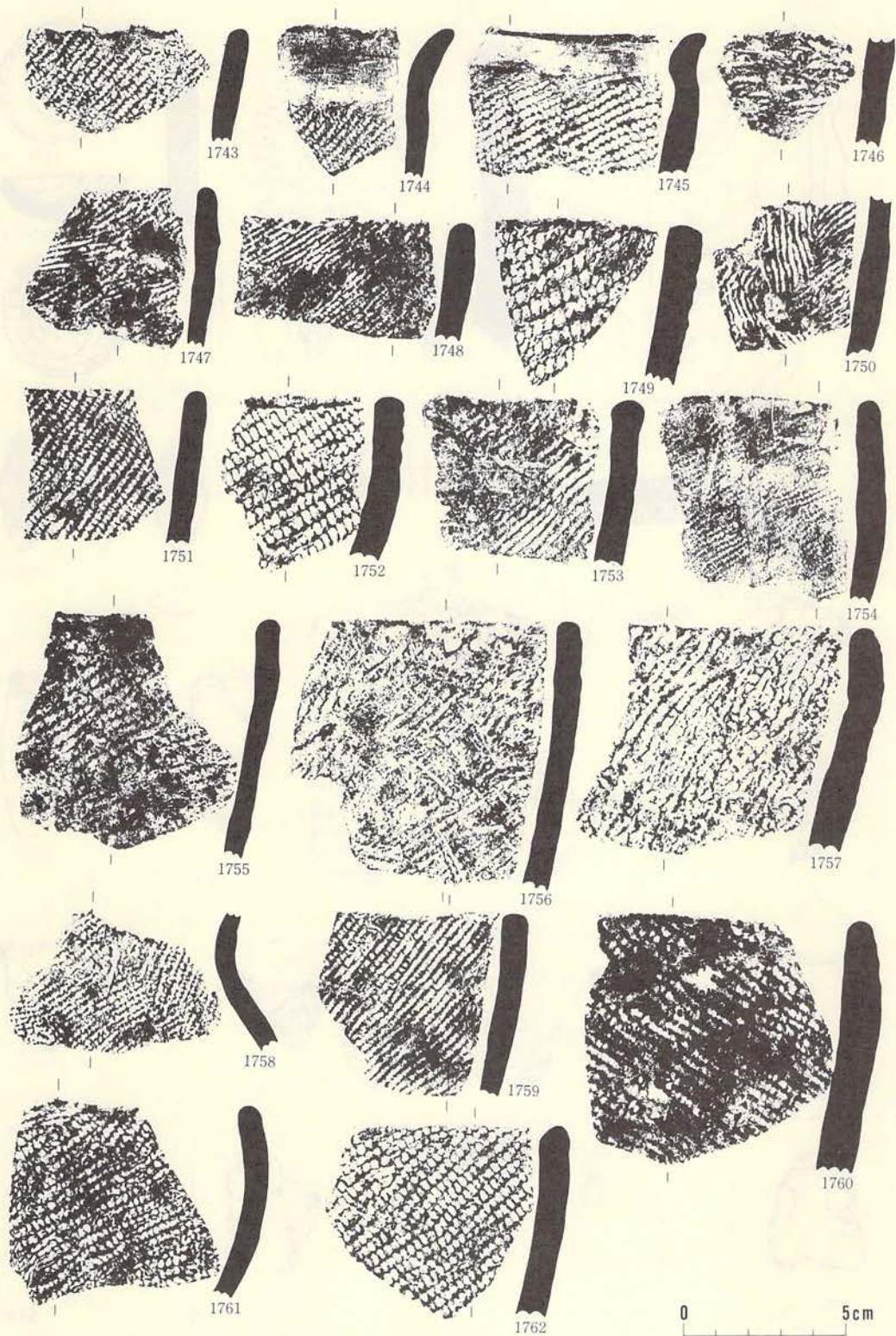
第27图 G III区粗掘出土遗物(6)





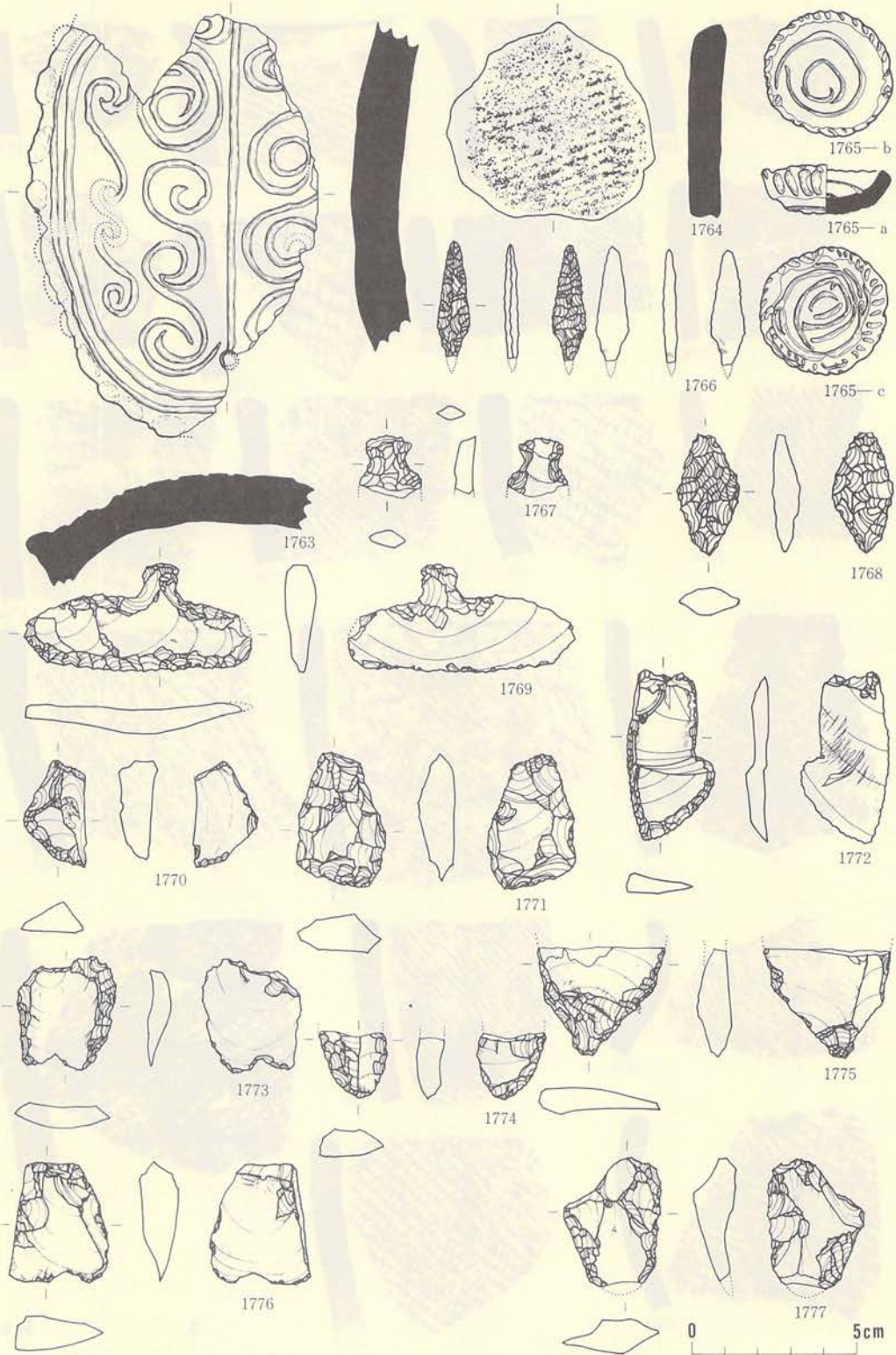
第28图 G III区粗掘出土遗物(7)



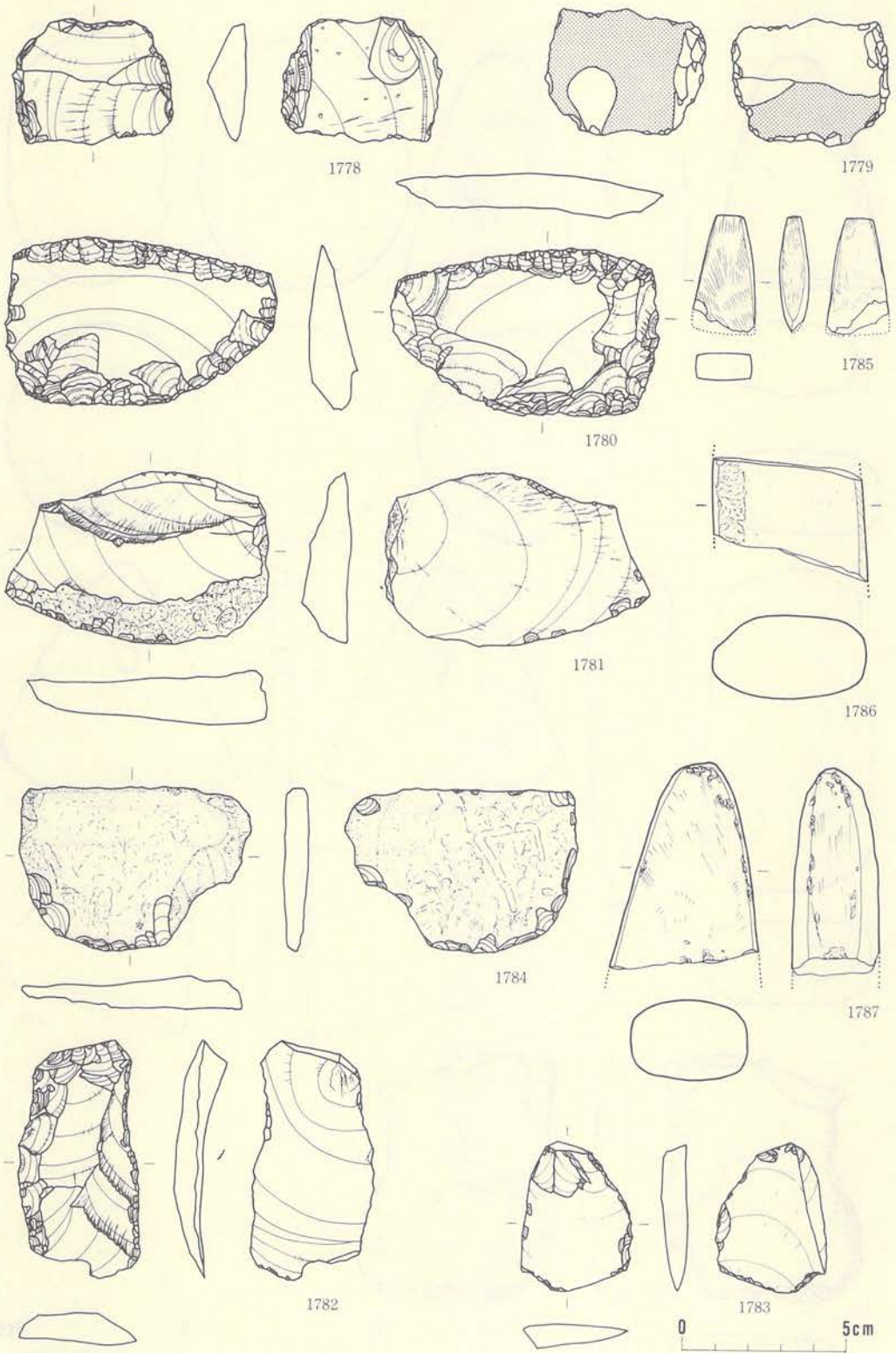


第29图 G III区粗掘出土遗物(8)



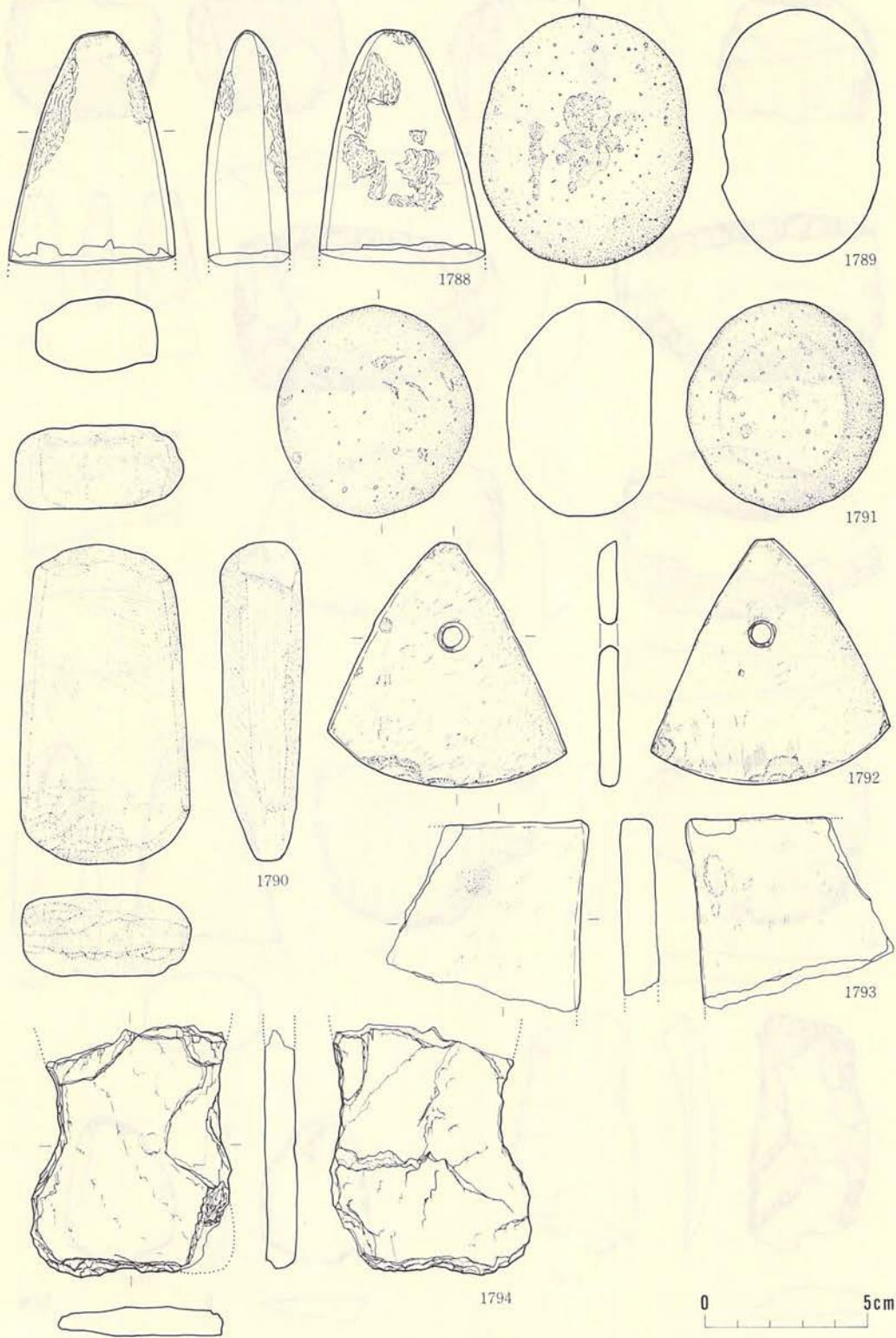


第30图 G III区粗掘出土遗物(9)

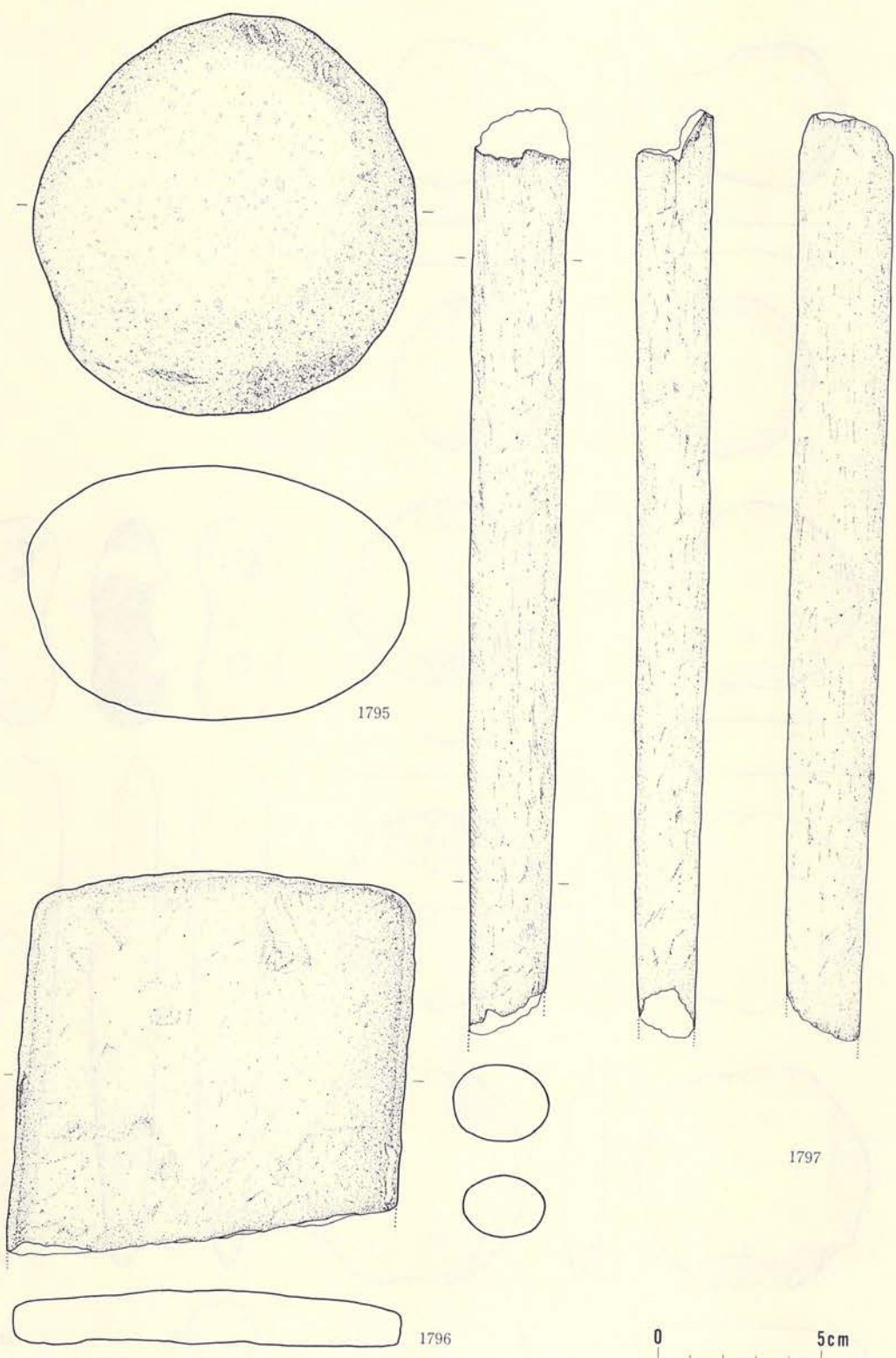


第31图 G III区粗掘出土遗物(10)



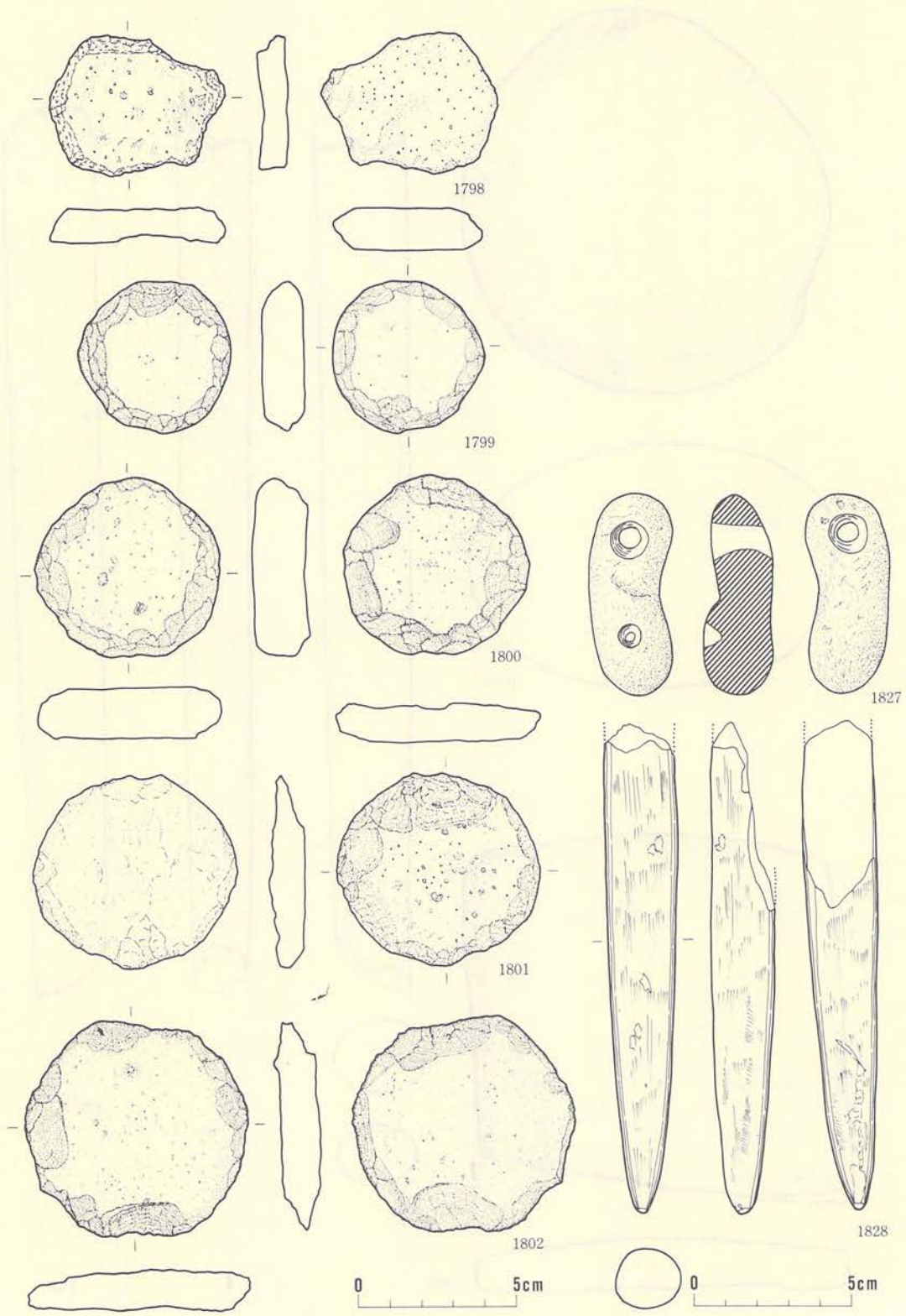


第32图 G III区粗掘出土遺物 (II)



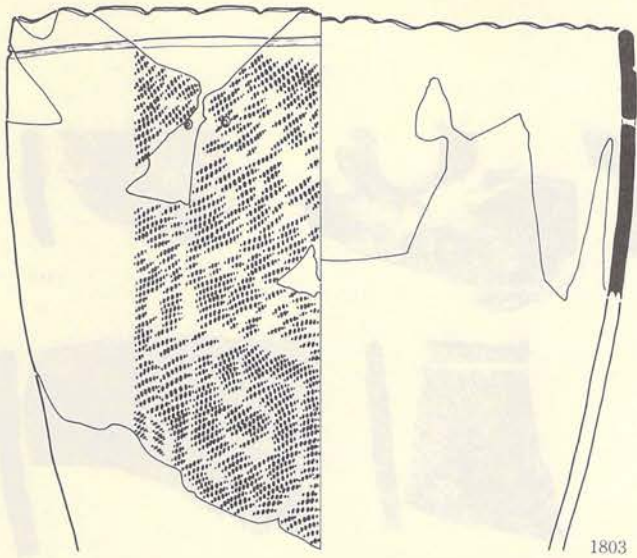
第33图 G III区粗掘出土遗物(12)





第34图 G III区粗掘出土遗物 (13)

第35图 G IV区粗掘出土遗物 (1)



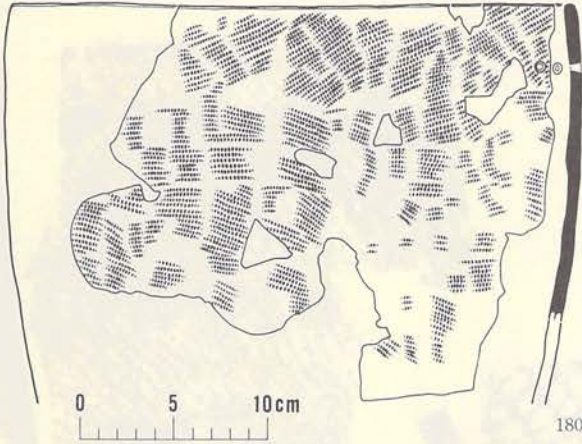
1803



1808



1809



1804



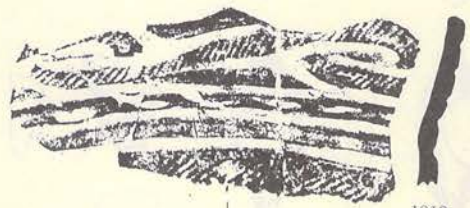
1810



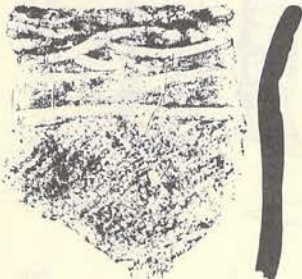
1811



1805



1812



1806



1807

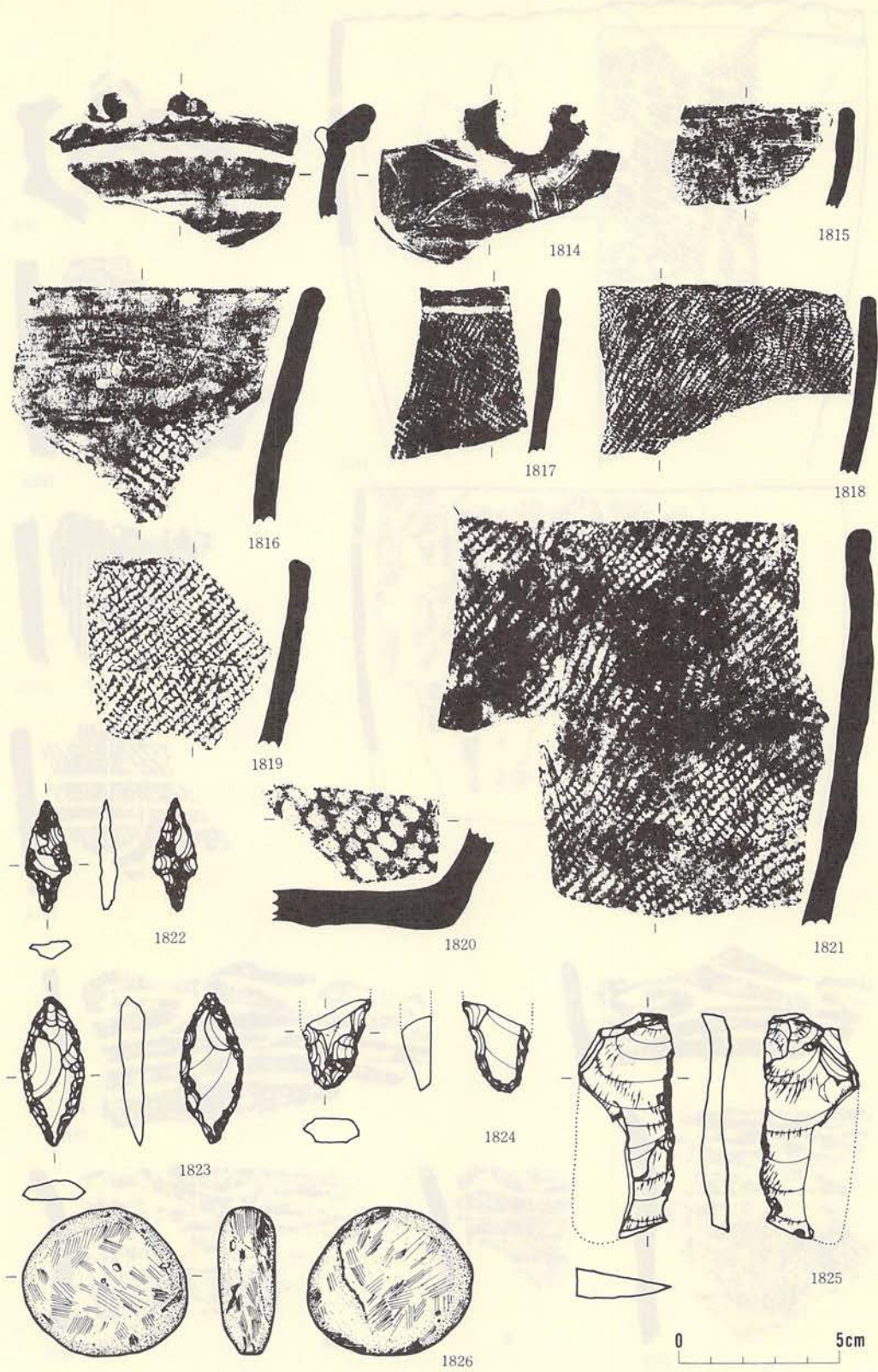


1813

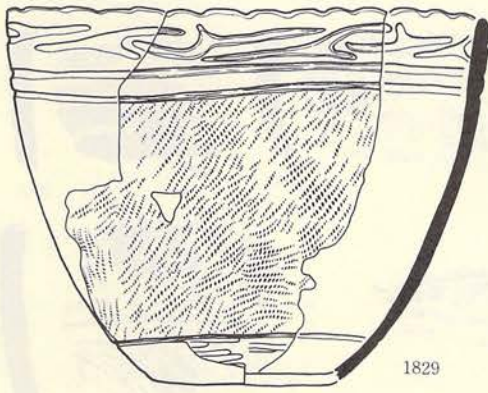
0 5cm

第36图 G IV区粗掘出土遗物(2)

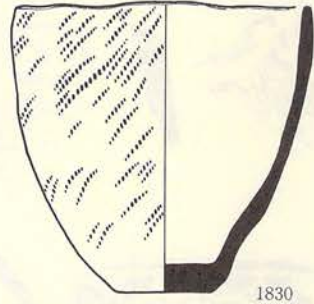




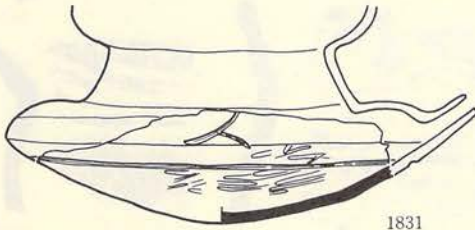
第37图 G IV区粗掘出土遗物(3)



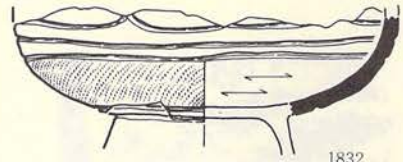
1829



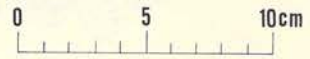
1830



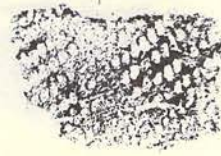
1831



1832



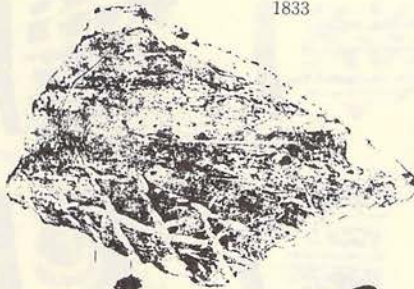
1833



1834



1835



1836



1837



1838



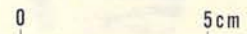
1839



1840



1841



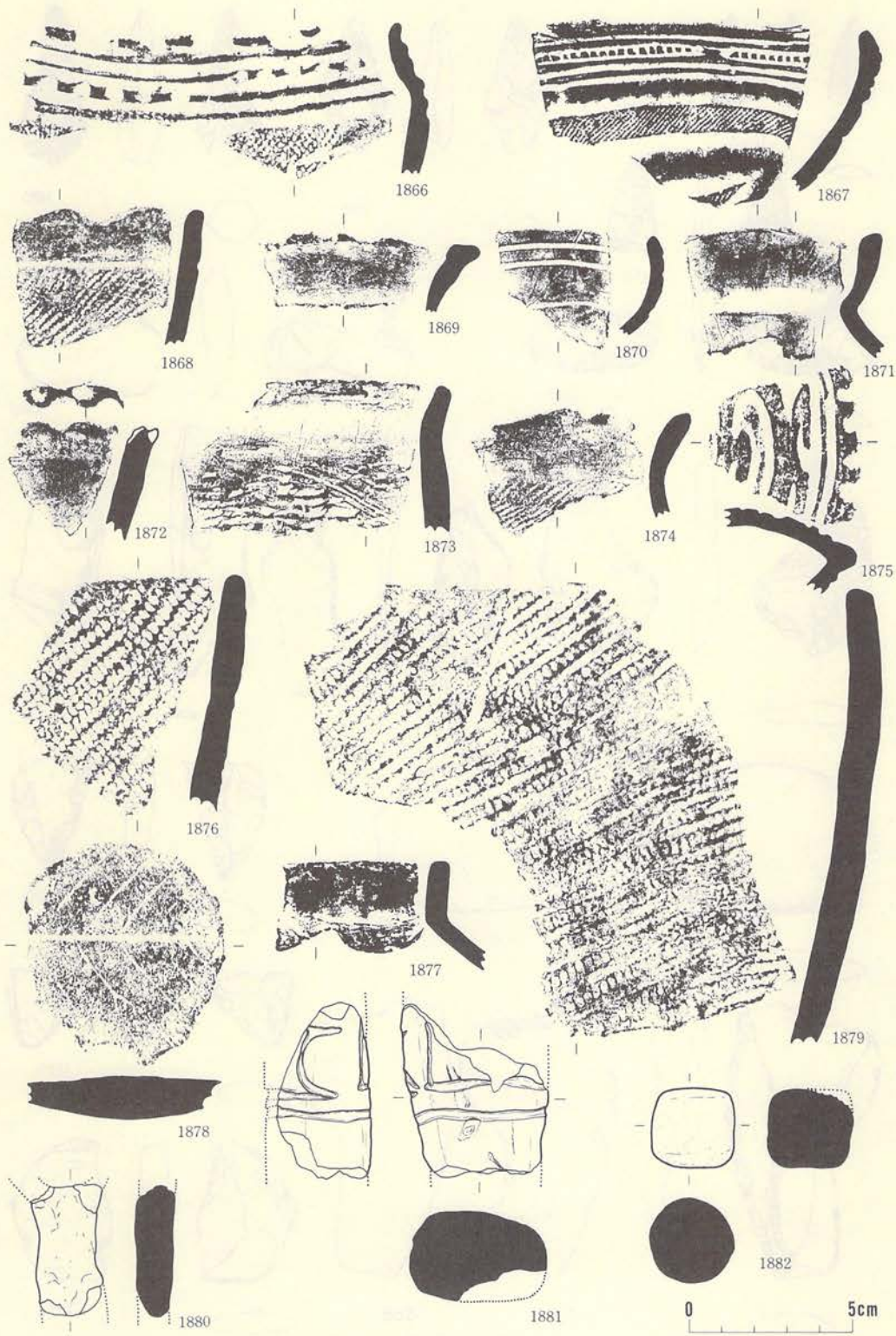
第38图 H III区粗掘出土遗物 (I)





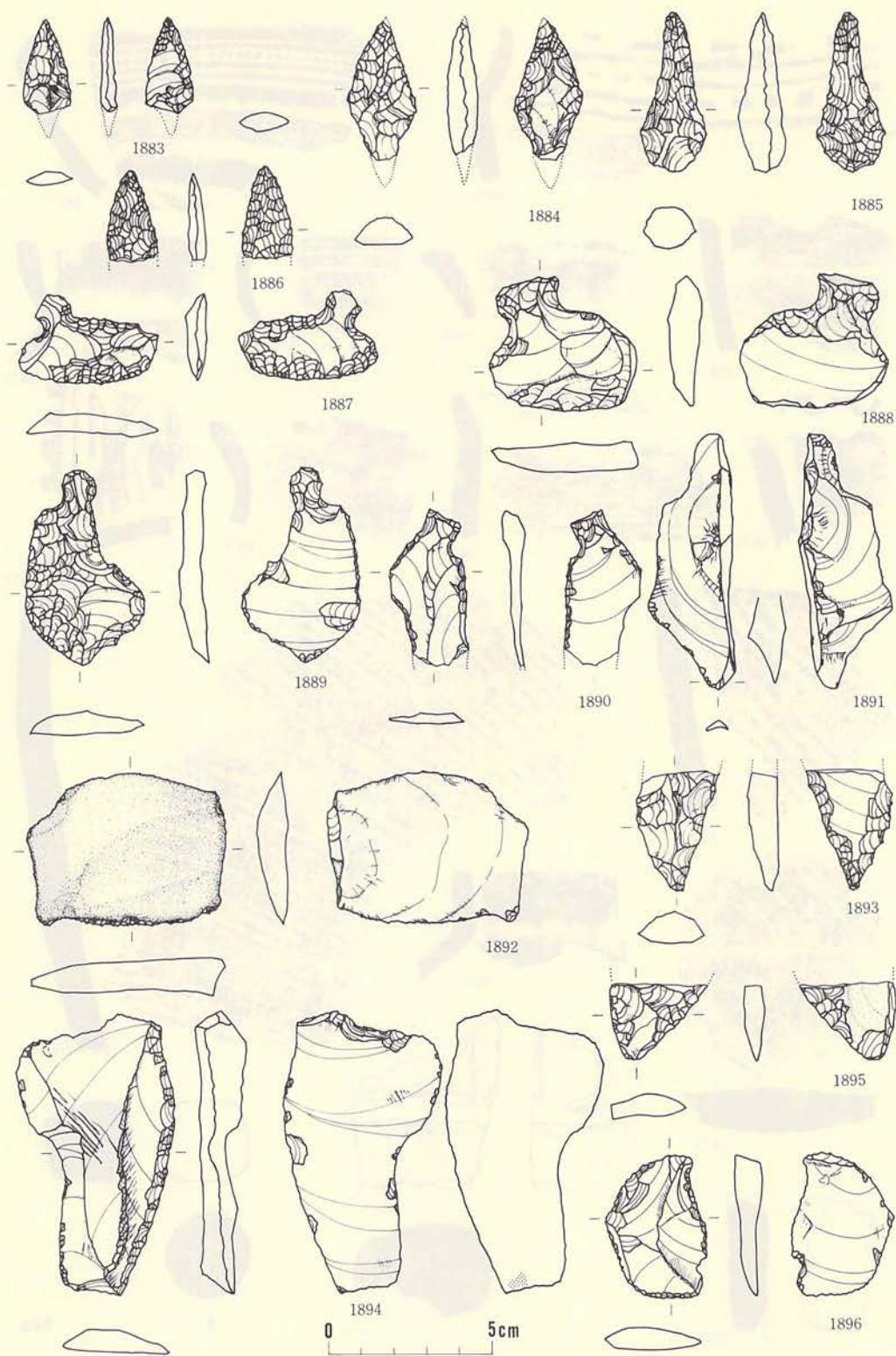
第39图 H III区粗掘出土遗物(2)



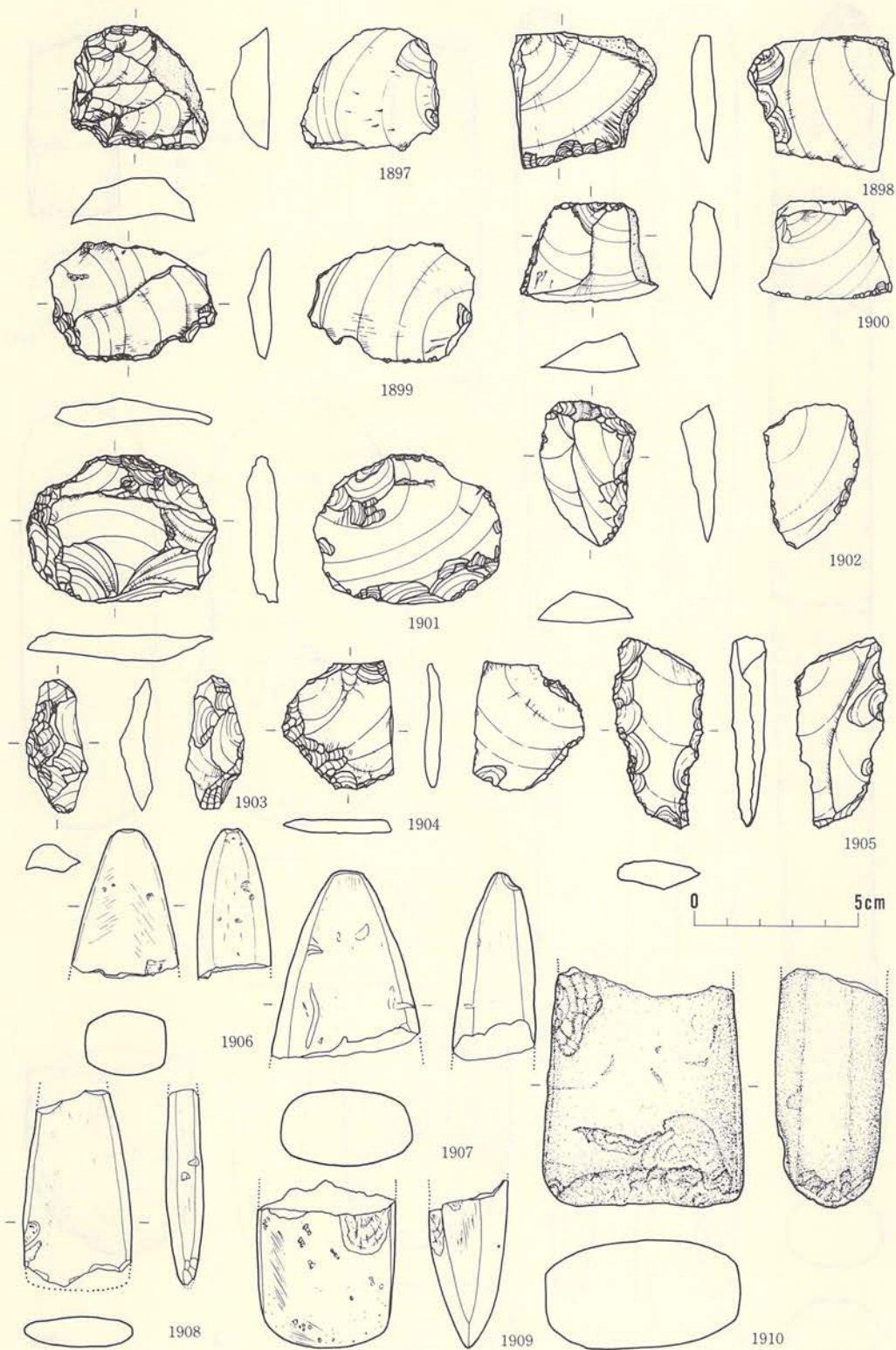


第40图 H III区粗掘出土遗物(3)



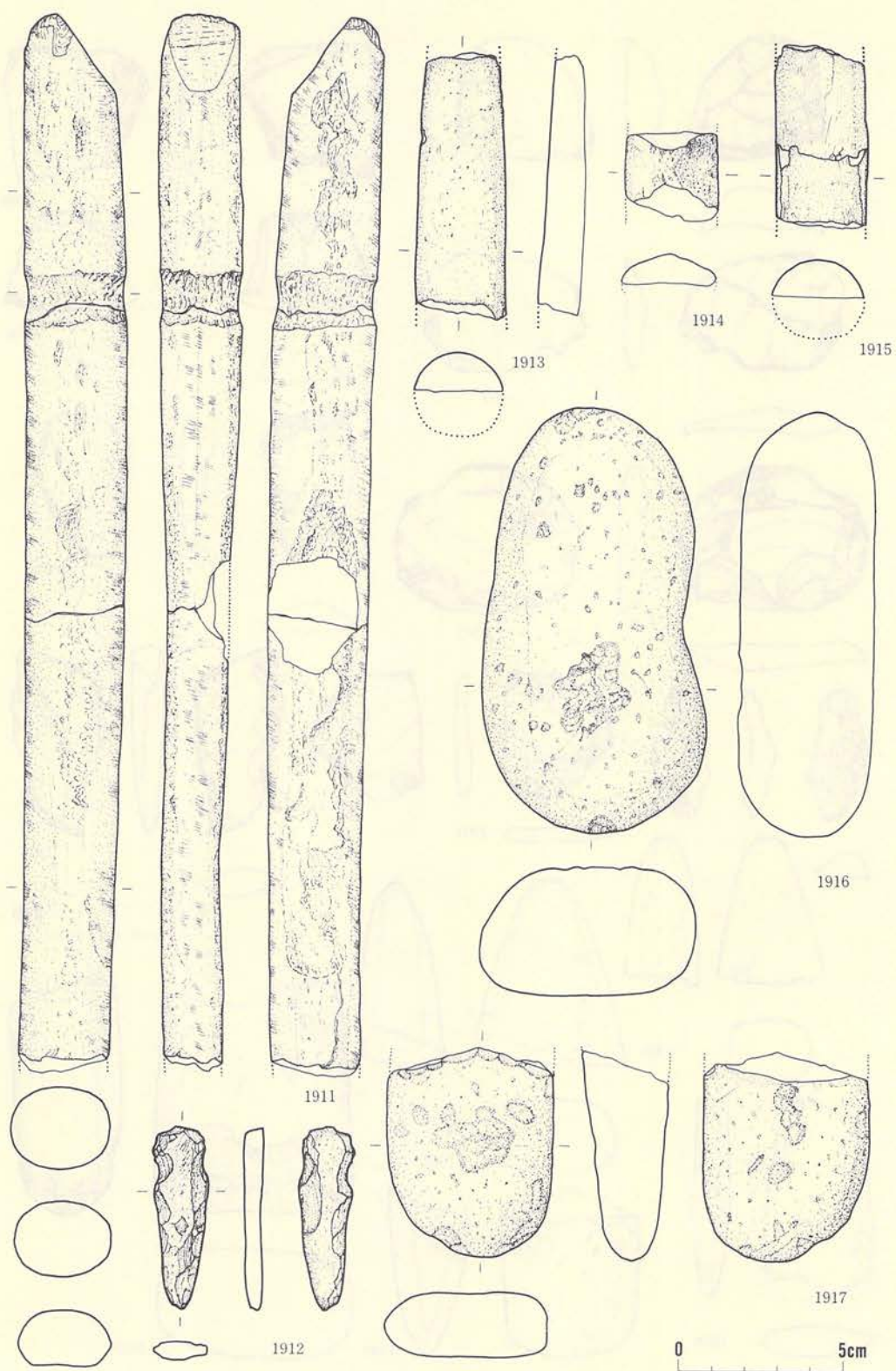


第41图 H III区粗掘出土遗物(4)

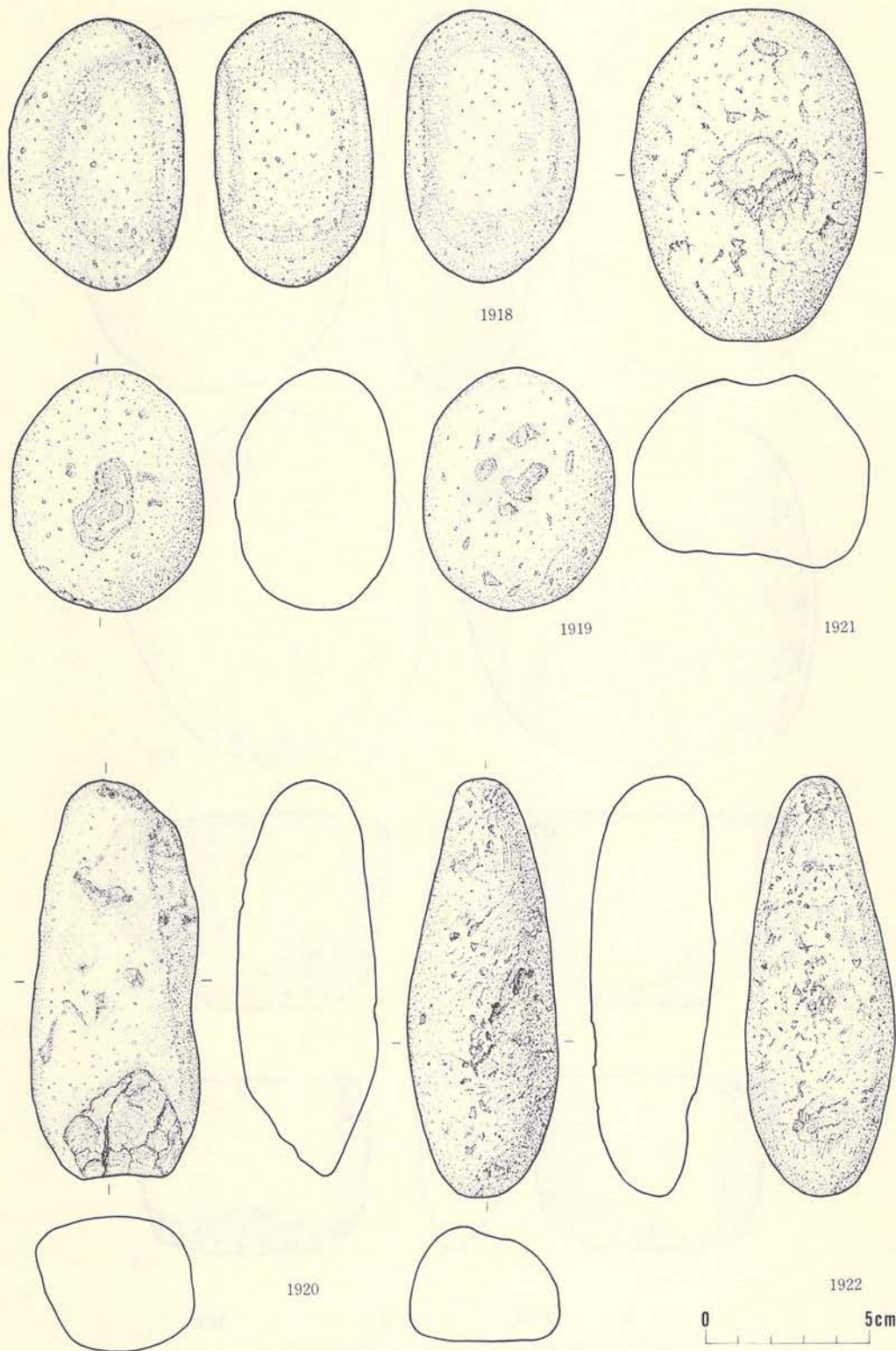


第42图 H III区粗掘出土遗物(5)



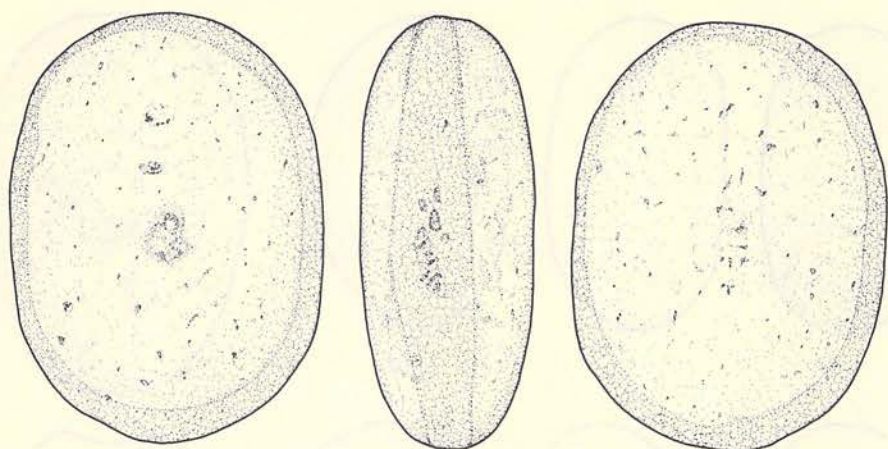


第43图 H III区粗掘出土遗物(6)



第44图 H III区粗掘出土遗物 (7)

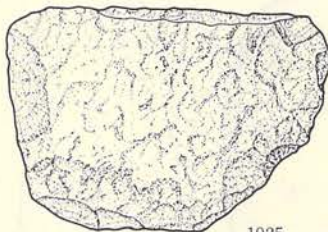
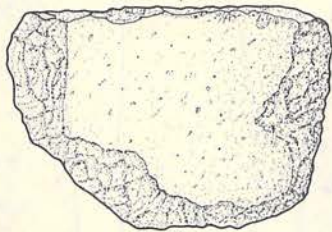




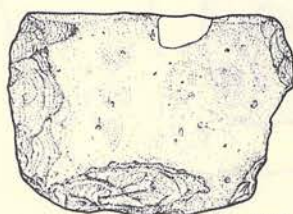
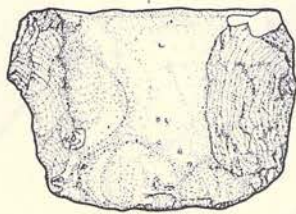
1923



1924



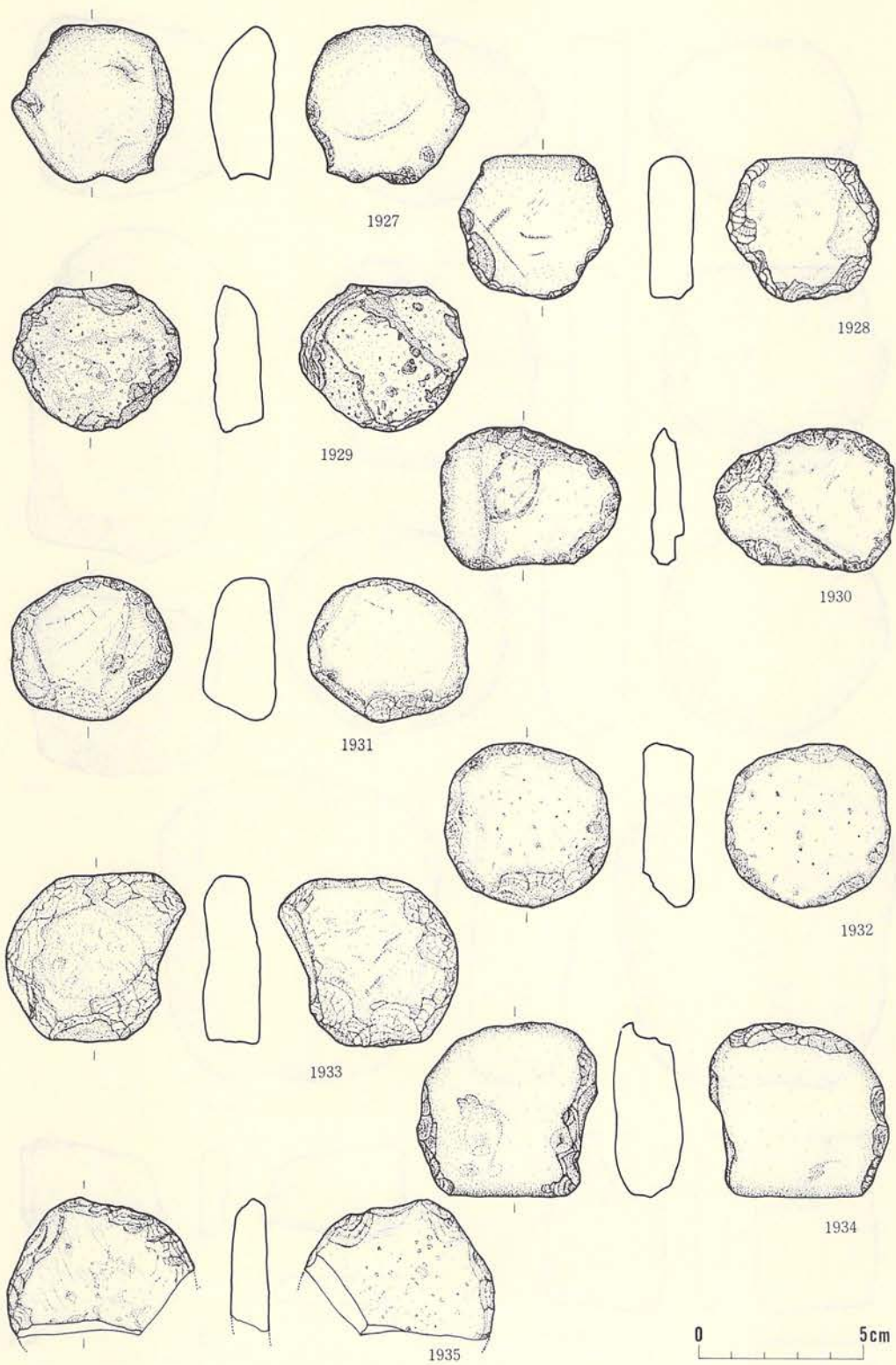
1925



1926

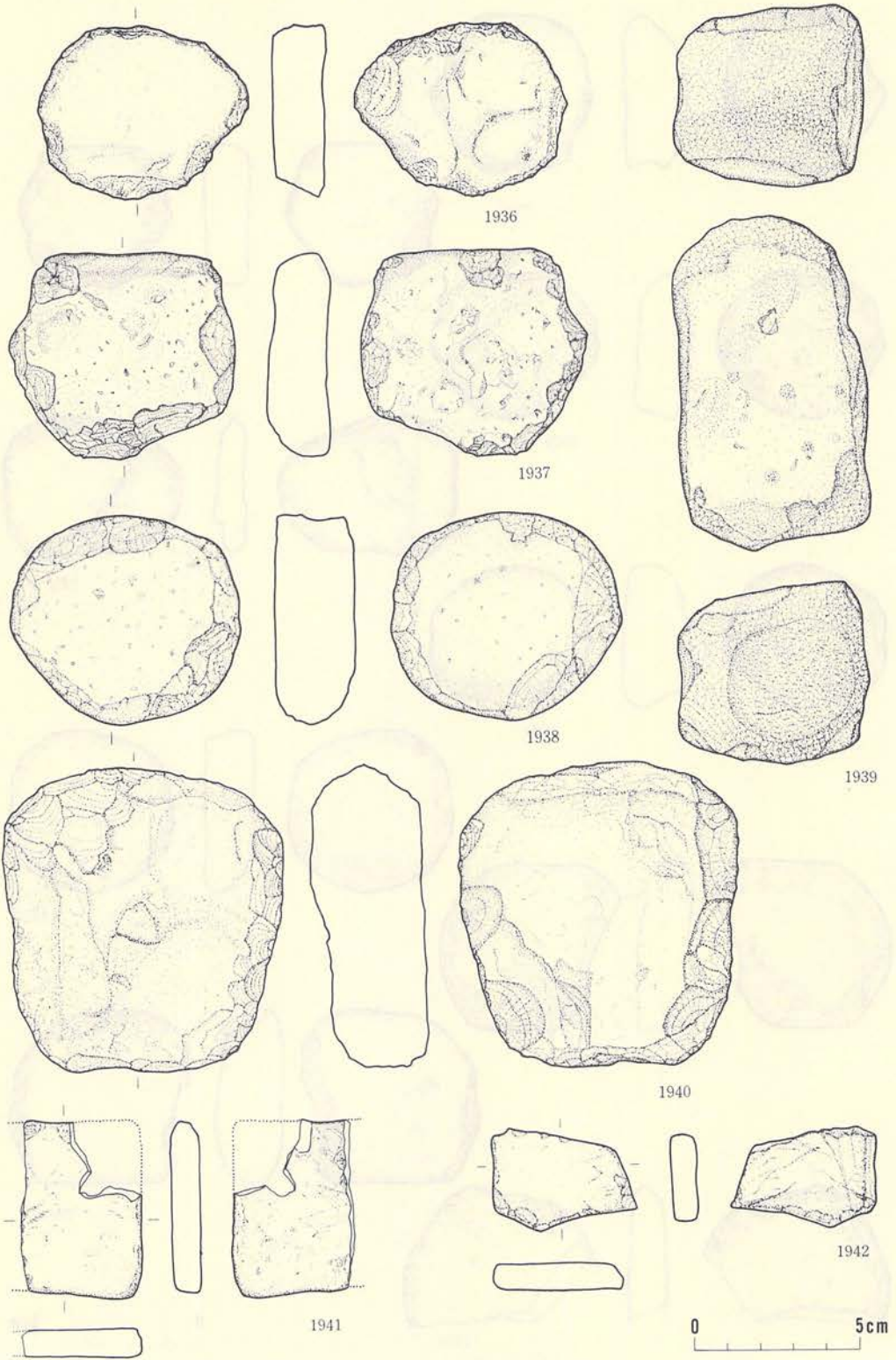


第45图 H III区粗掘出土遗物(8)

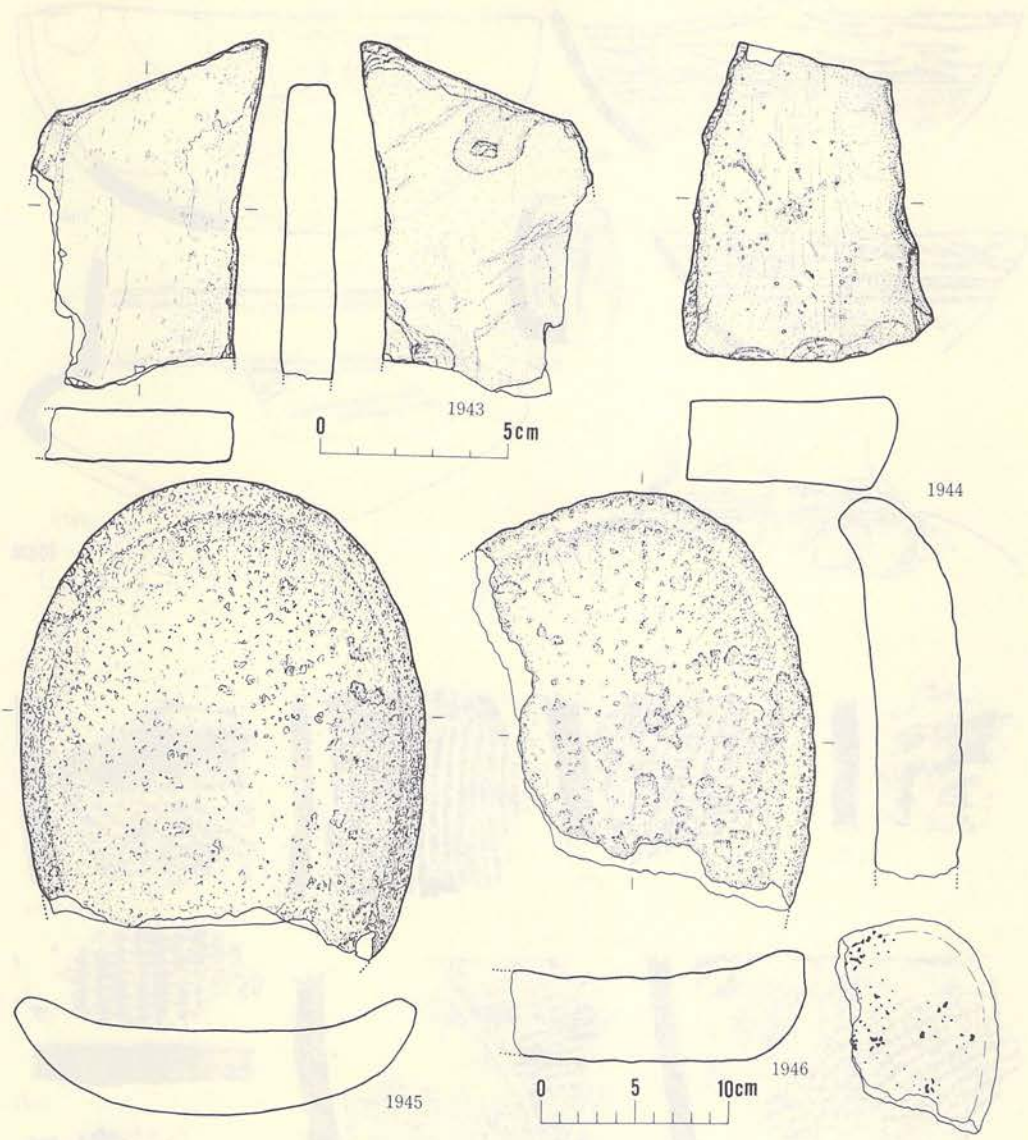


第46图 H III区粗掘出土遗物 (9)



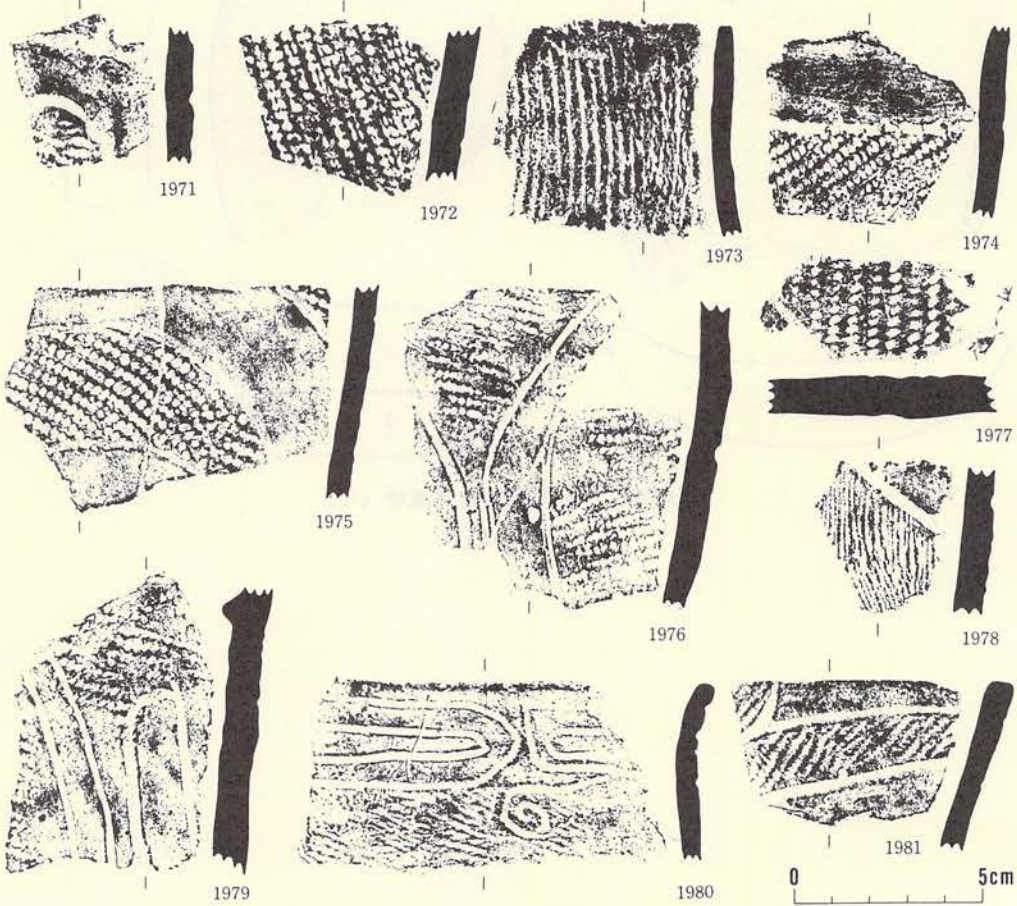
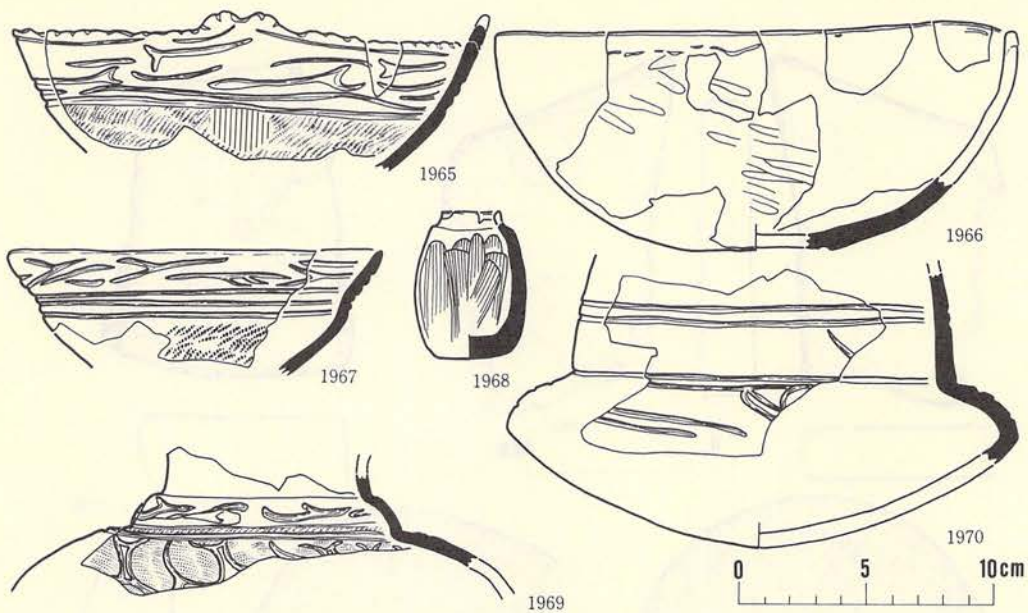


第47图 H III区粗掘出土遗物 (10)

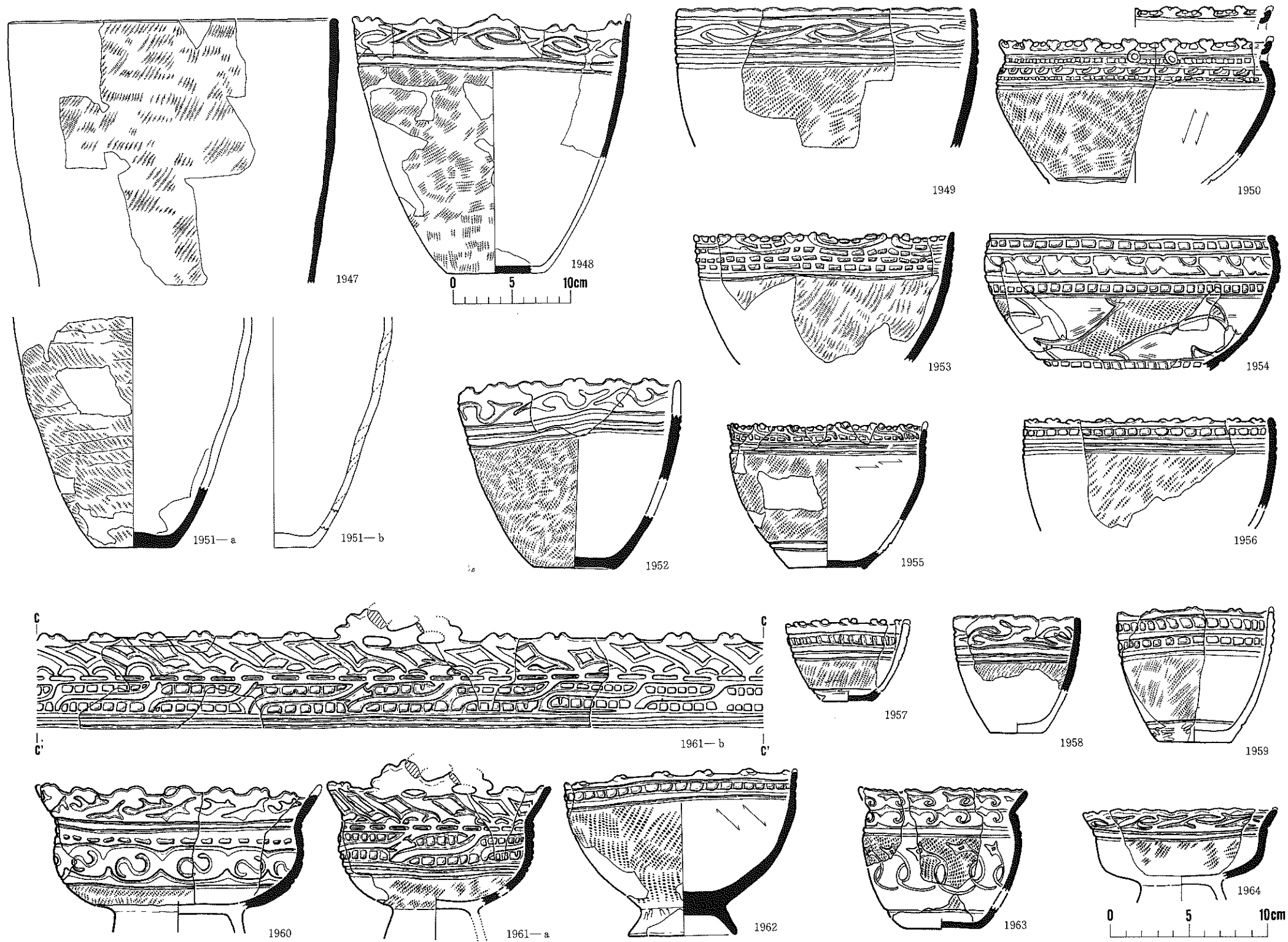


第48图 H III区粗掘出土遗物 (II)



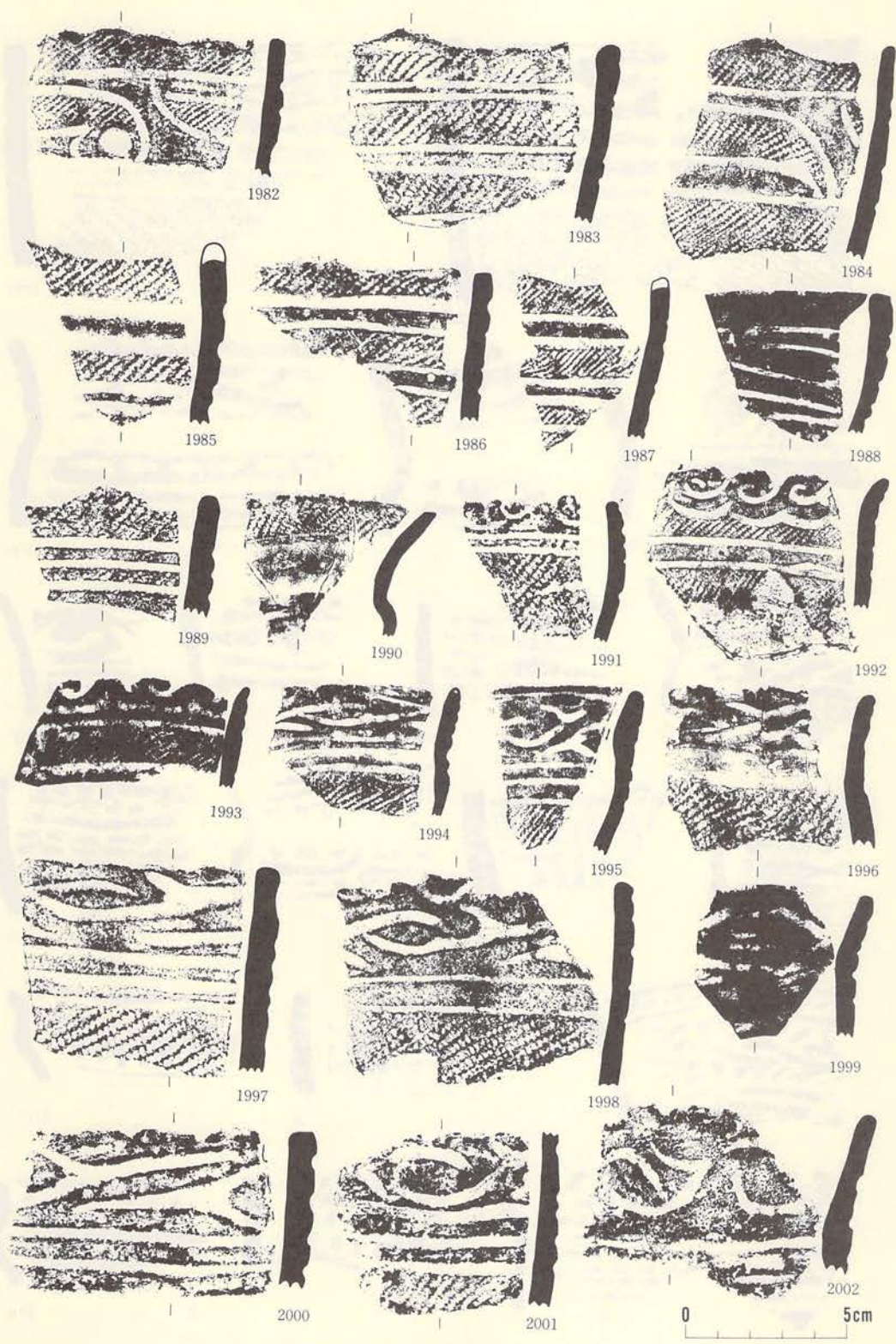


第49图 H IV区粗掘出土遗物 (I)



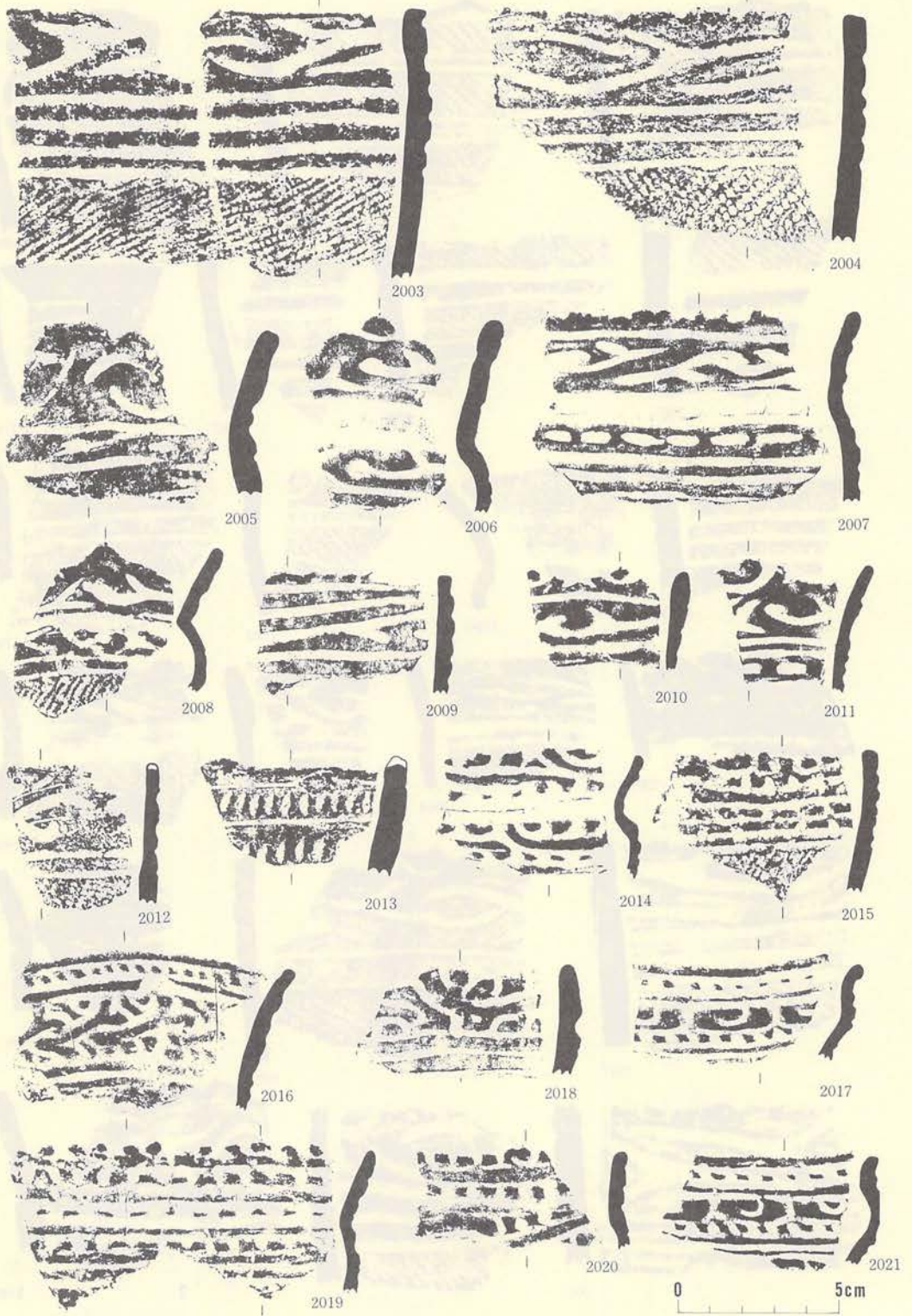
第50图 H IV区粗掘出土遗物(2)





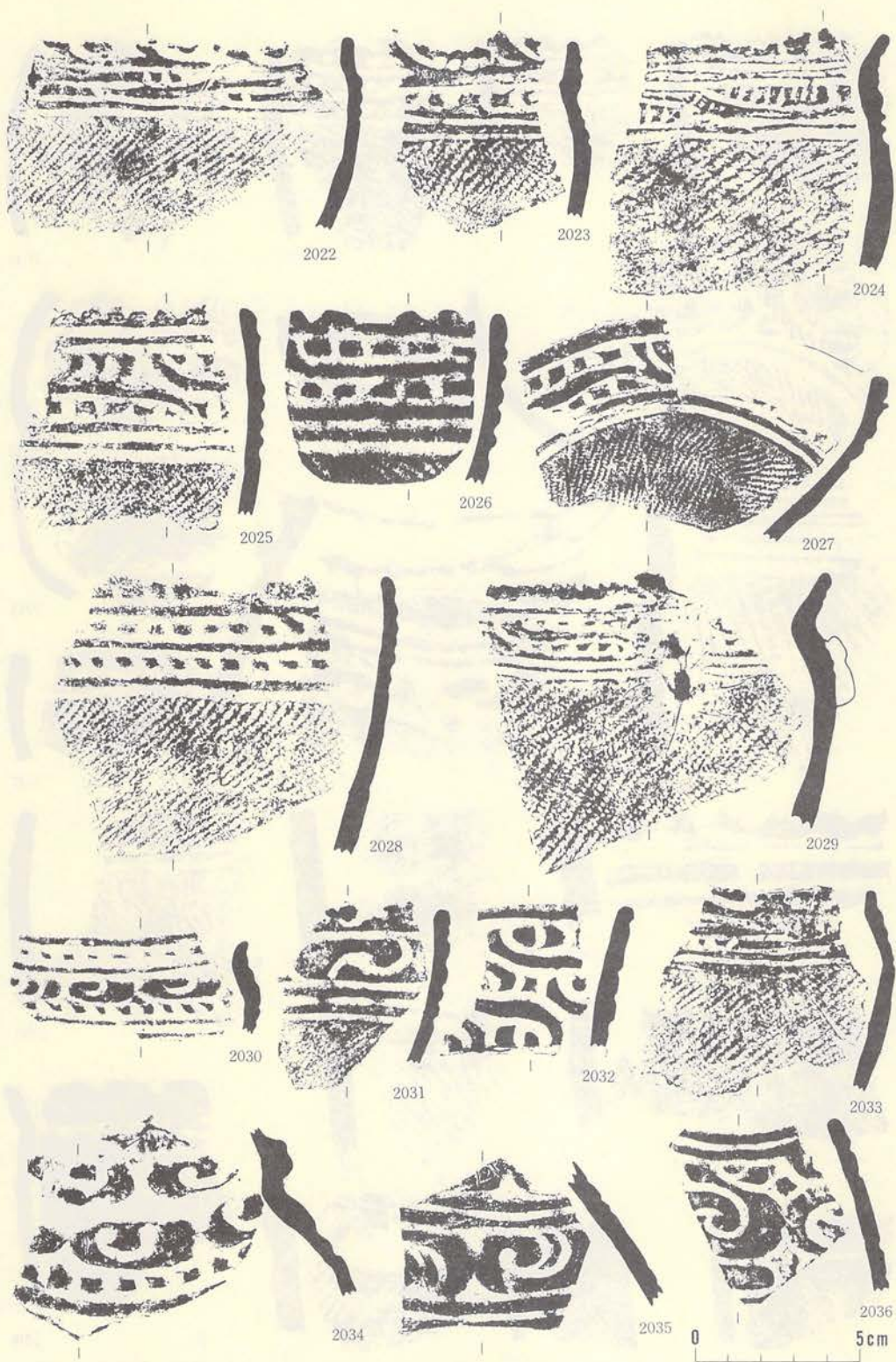
第51图 H IV区粗掘出土遗物(3)





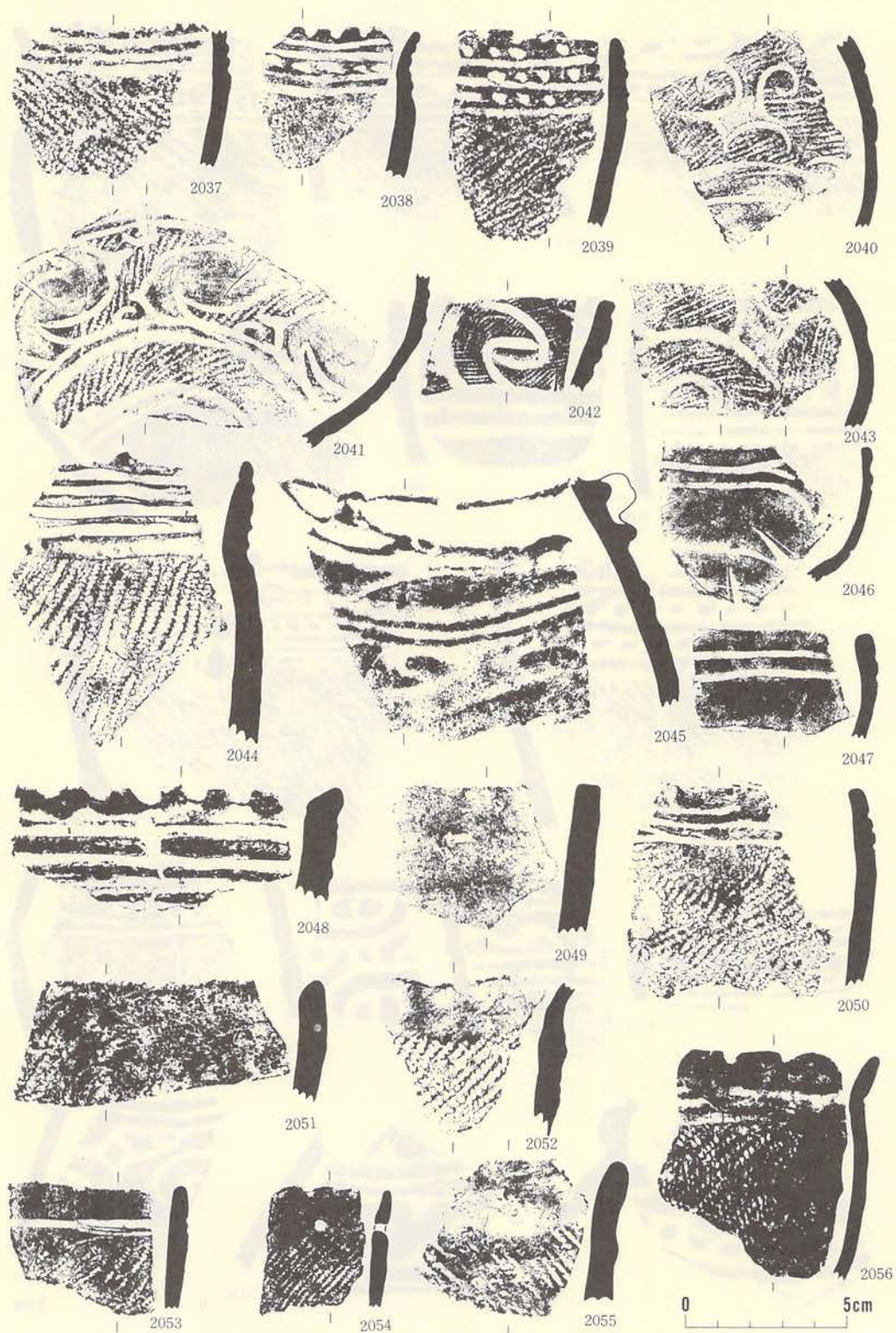
第52图 H IV区粗掘出土遗物(4)





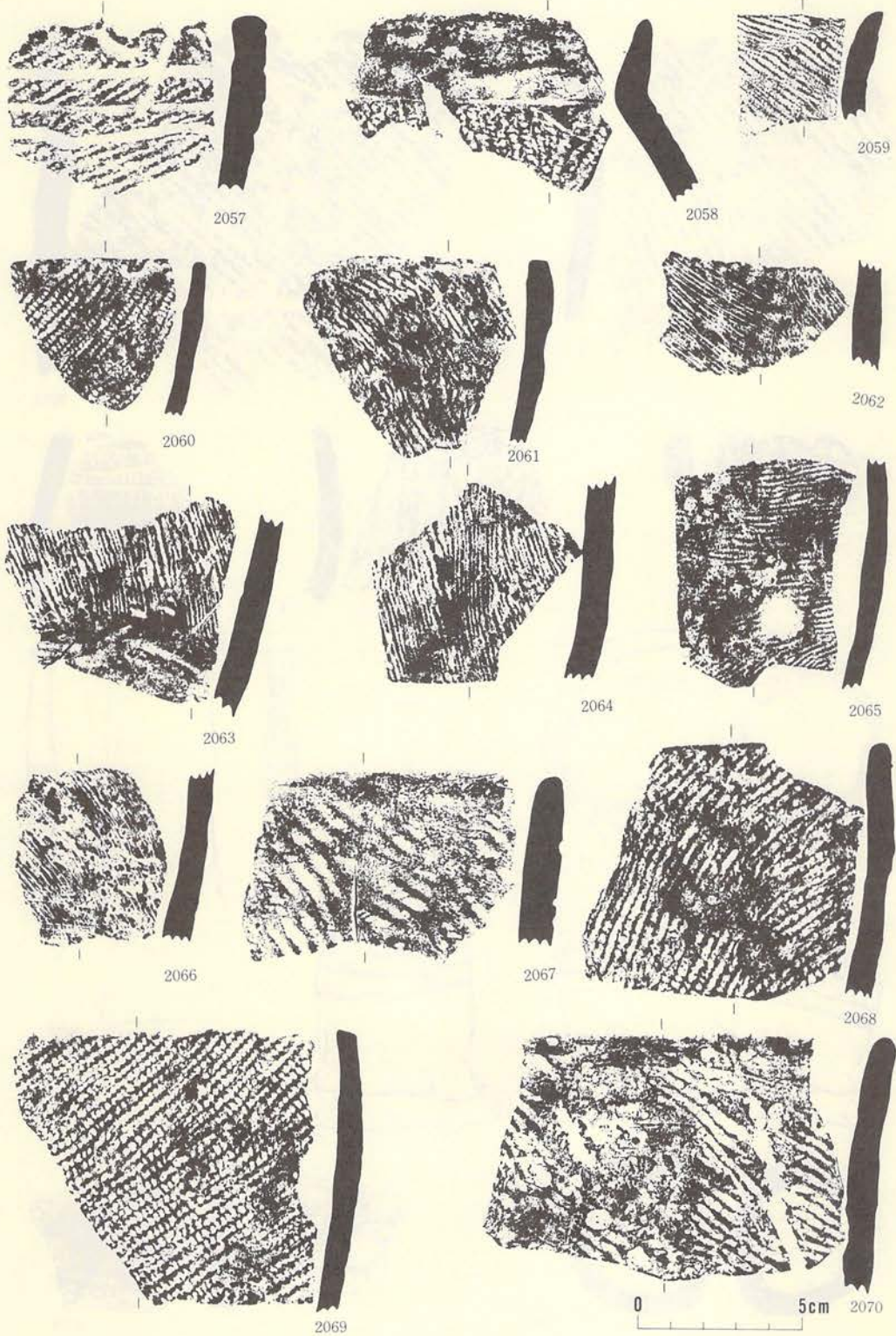
第53图 H IV区粗掘出土遗物(5)



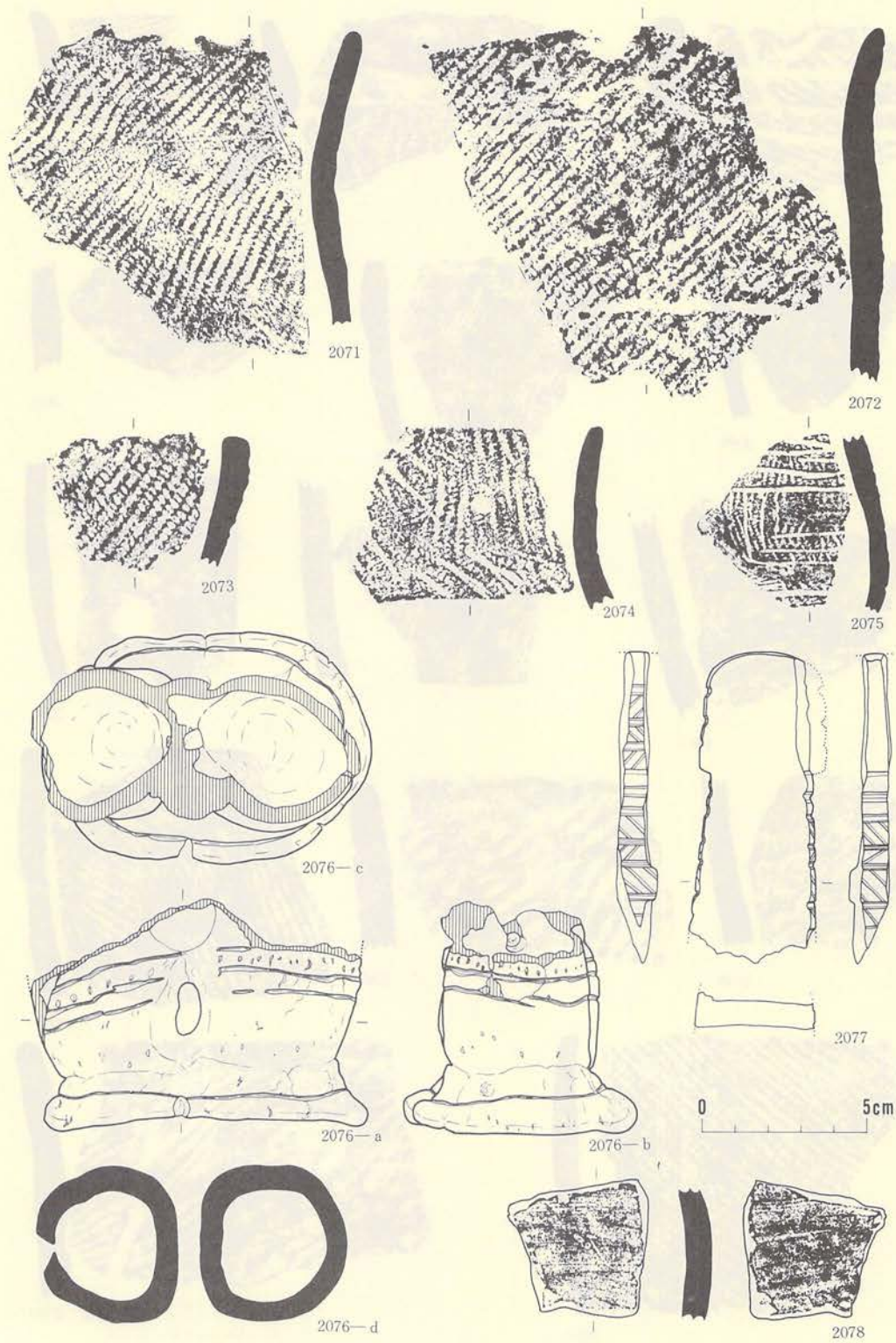


第54图 H IV区粗掘出土遗物(6)



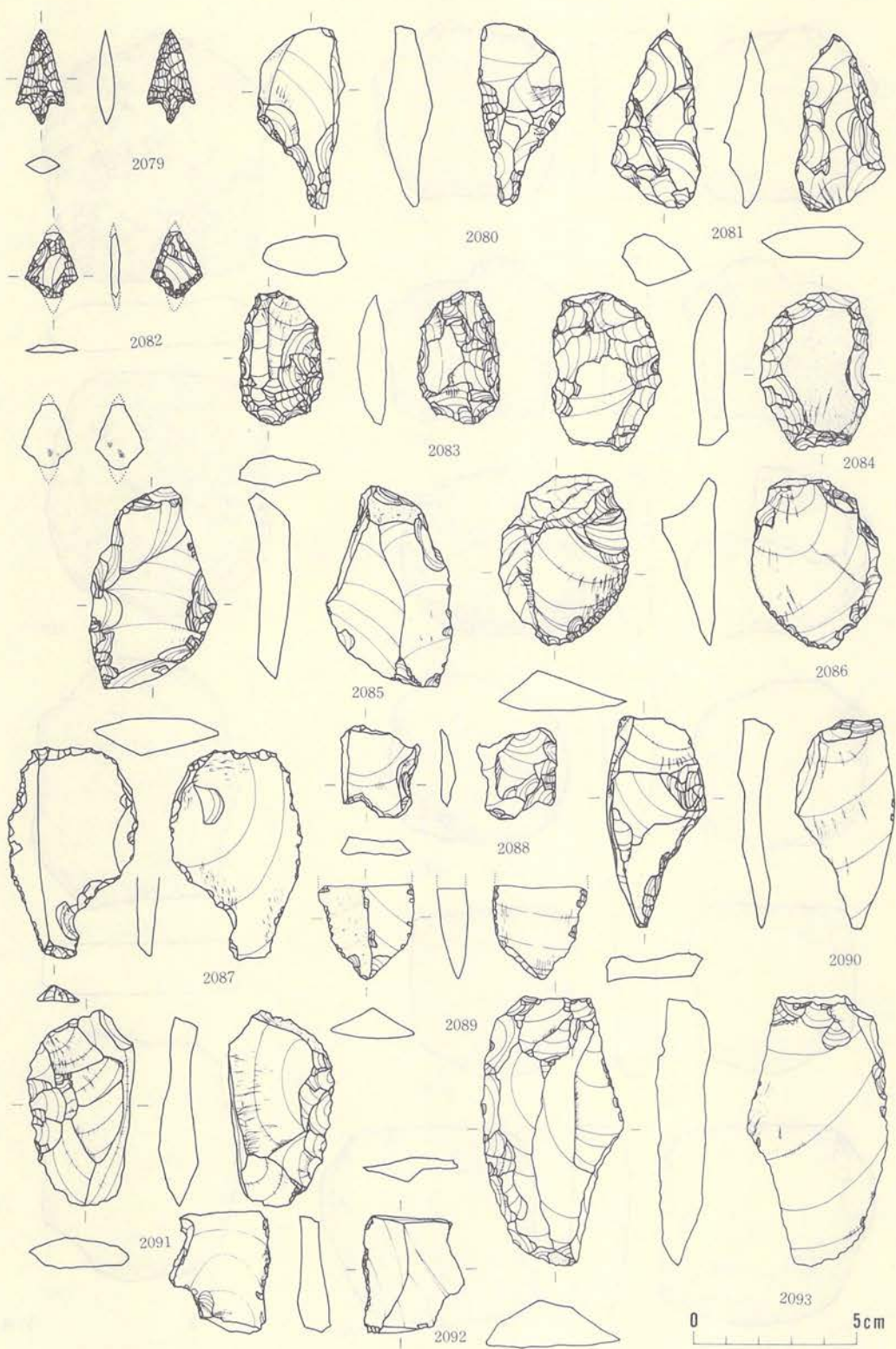


第55图 H IV区粗掘出土遗物(7)

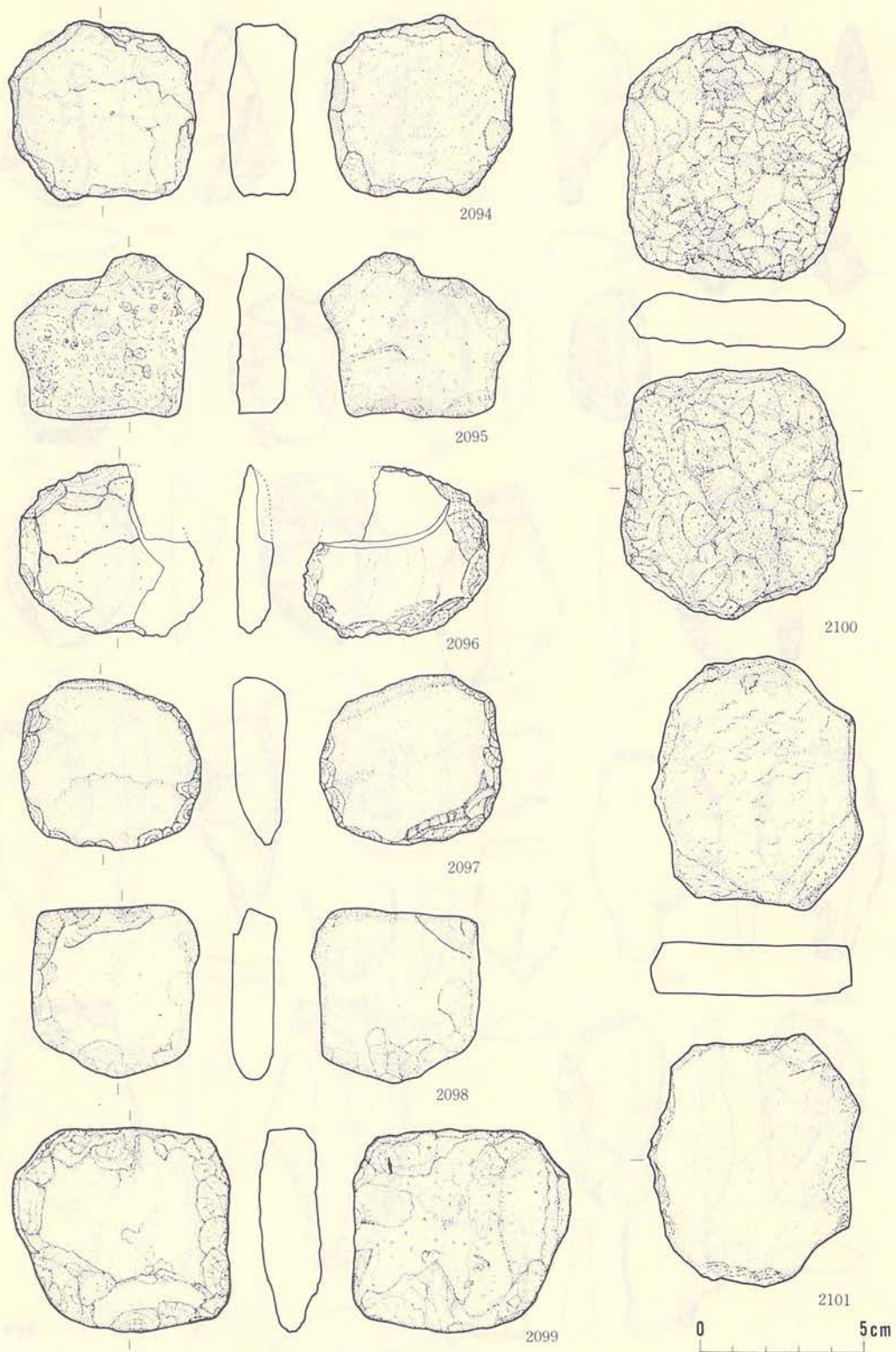


第56图 H IV区粗掘出土遗物(8)



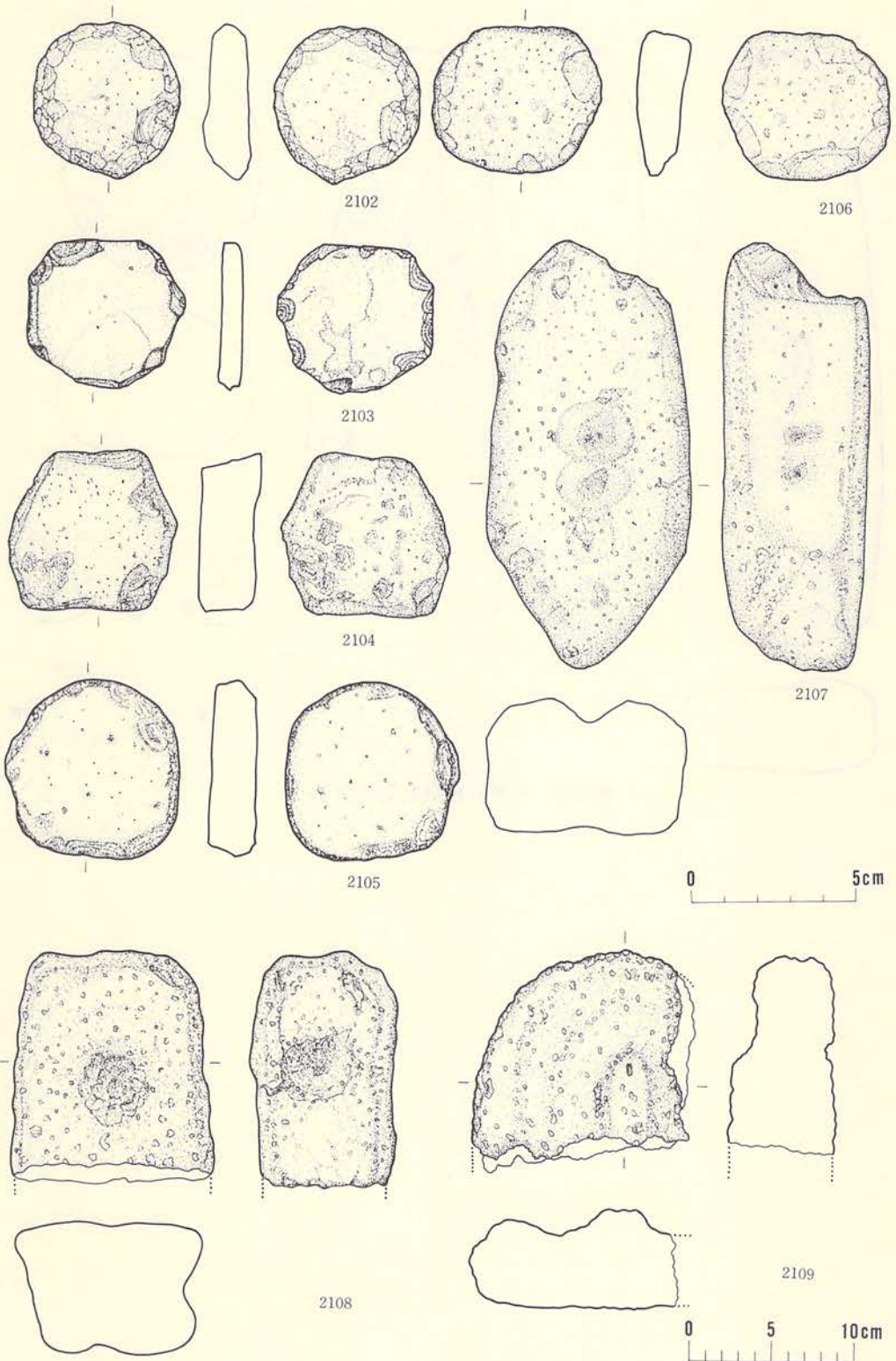


第57图 H IV区粗掘出土遗物(9)

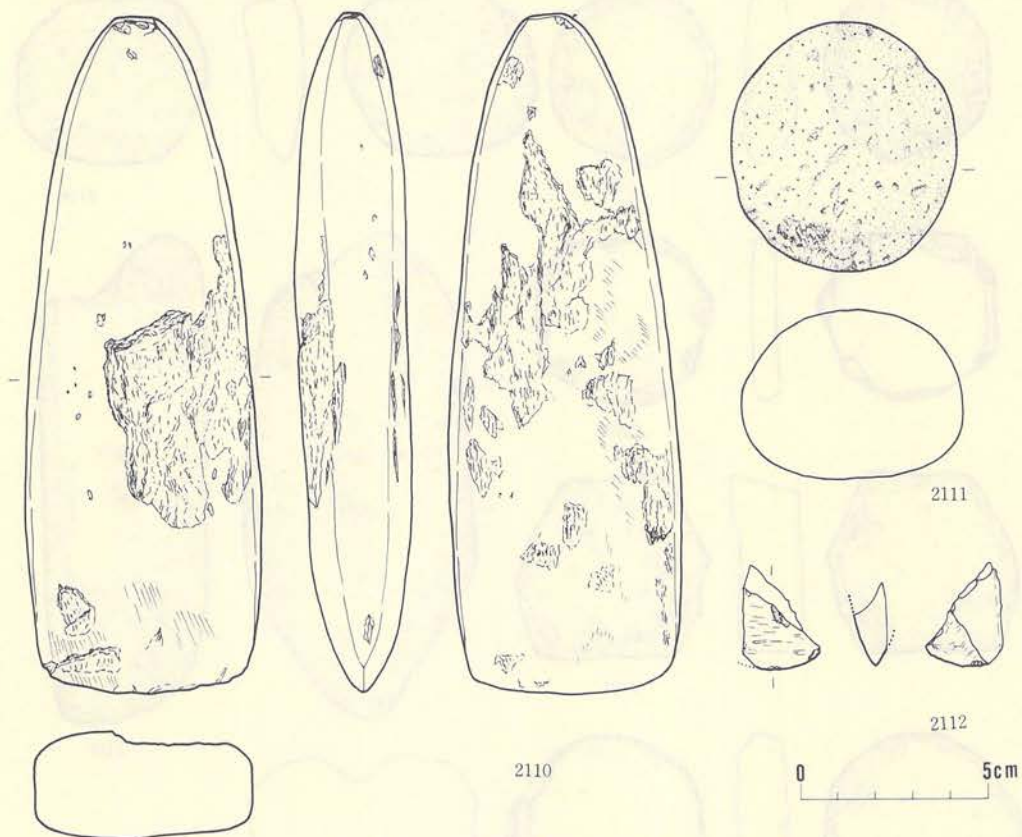


第58图 H IV区粗掘出土遗物(10)



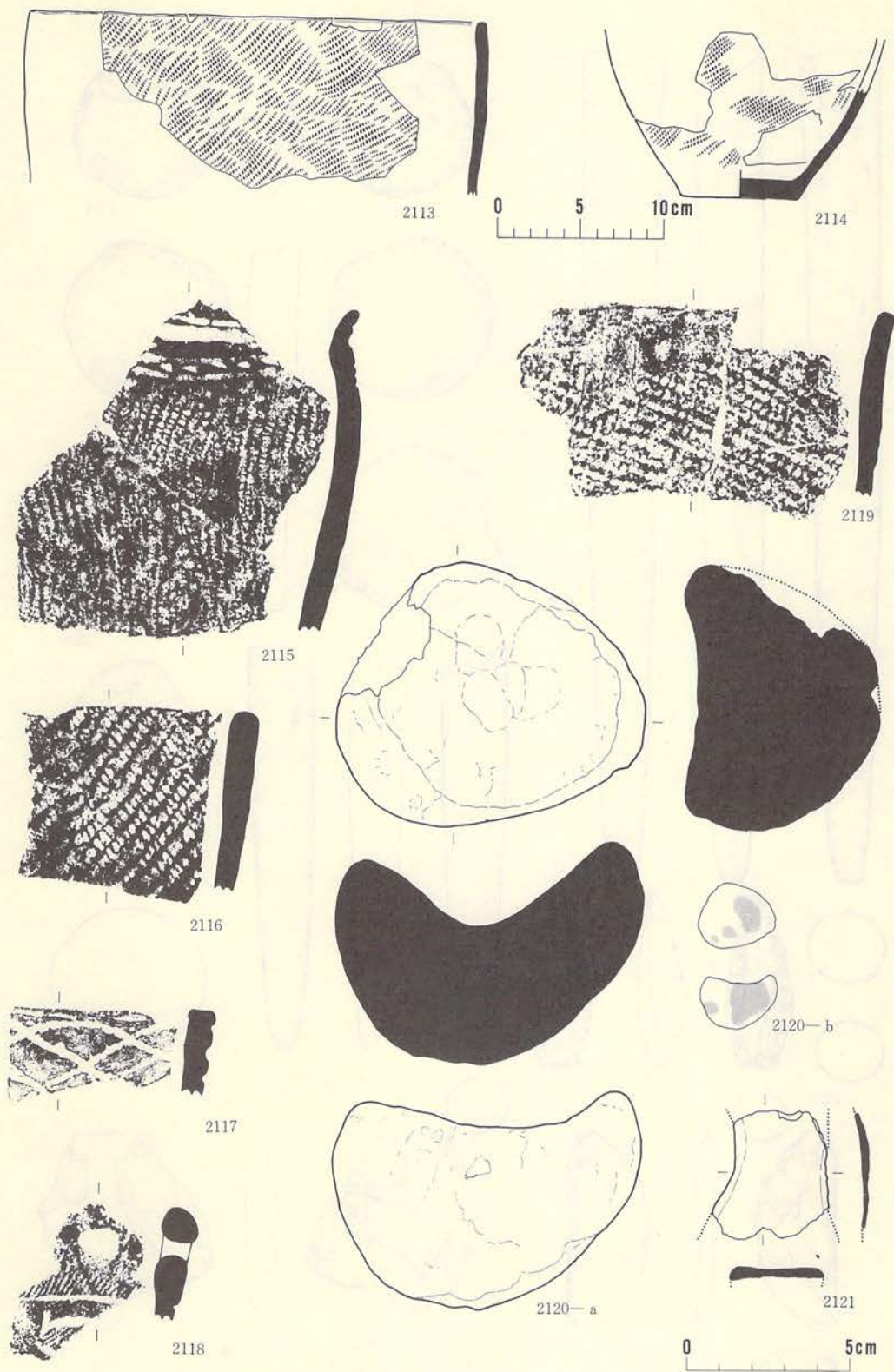


第59图 H IV区粗掘出土遗物 (II)

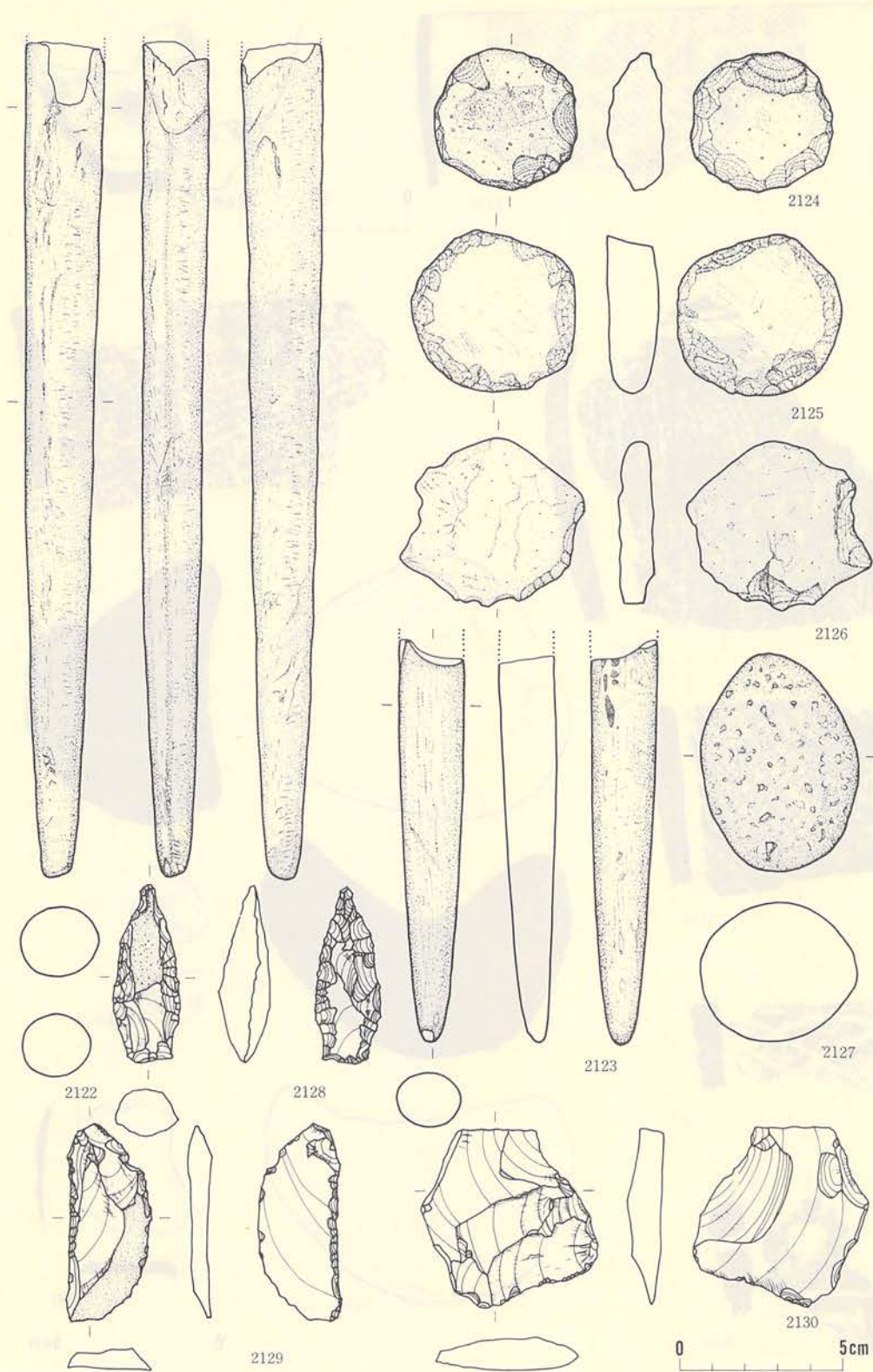


第60图 H IV区粗掘出土遗物 (12)



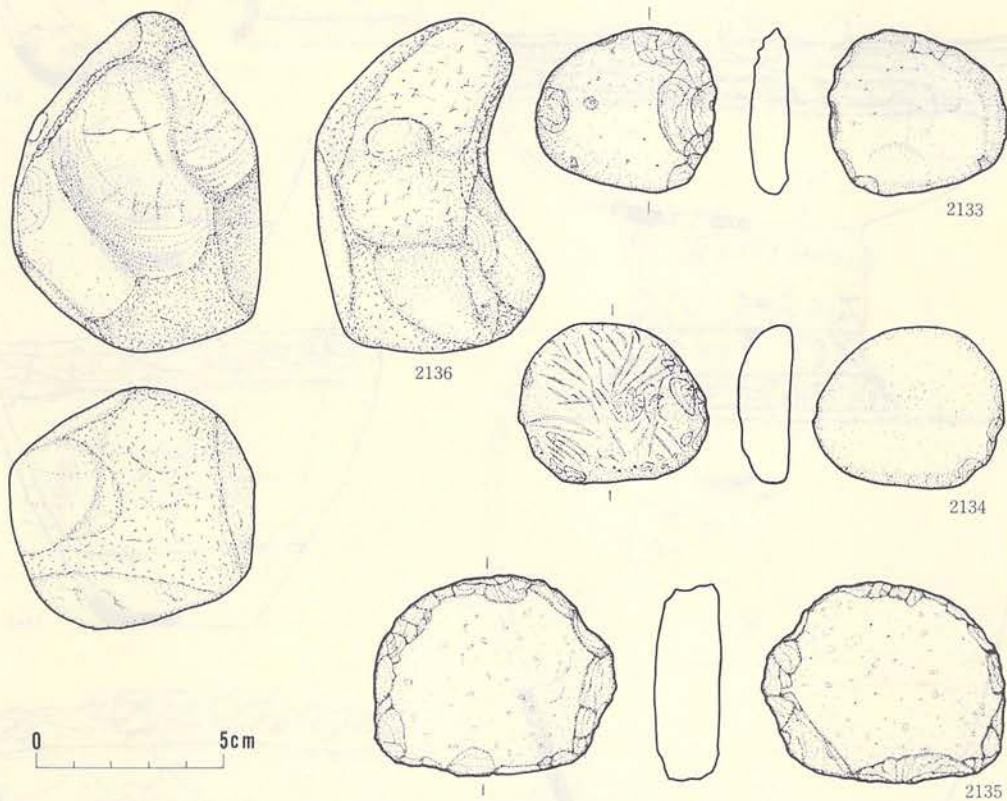


第61图 HV区粗掘出土遗物(1)

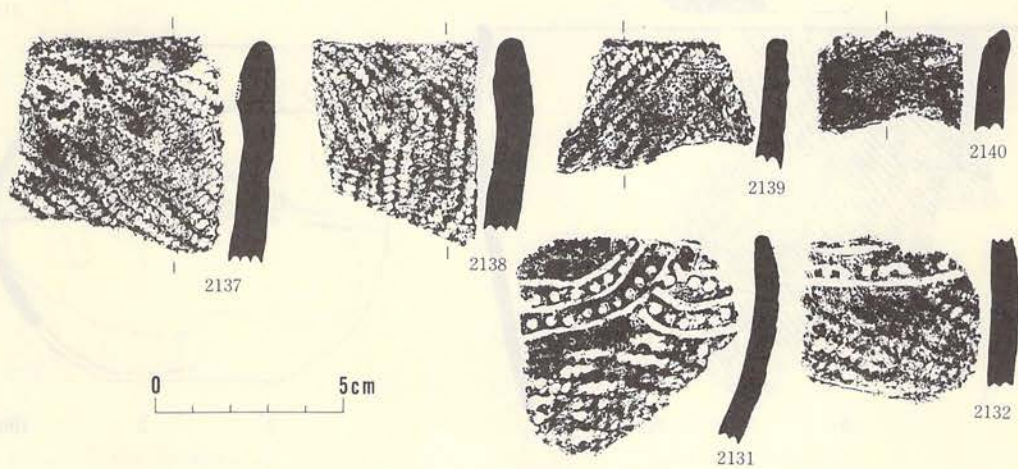


第62图 H V区粗掘出土遗物(2)

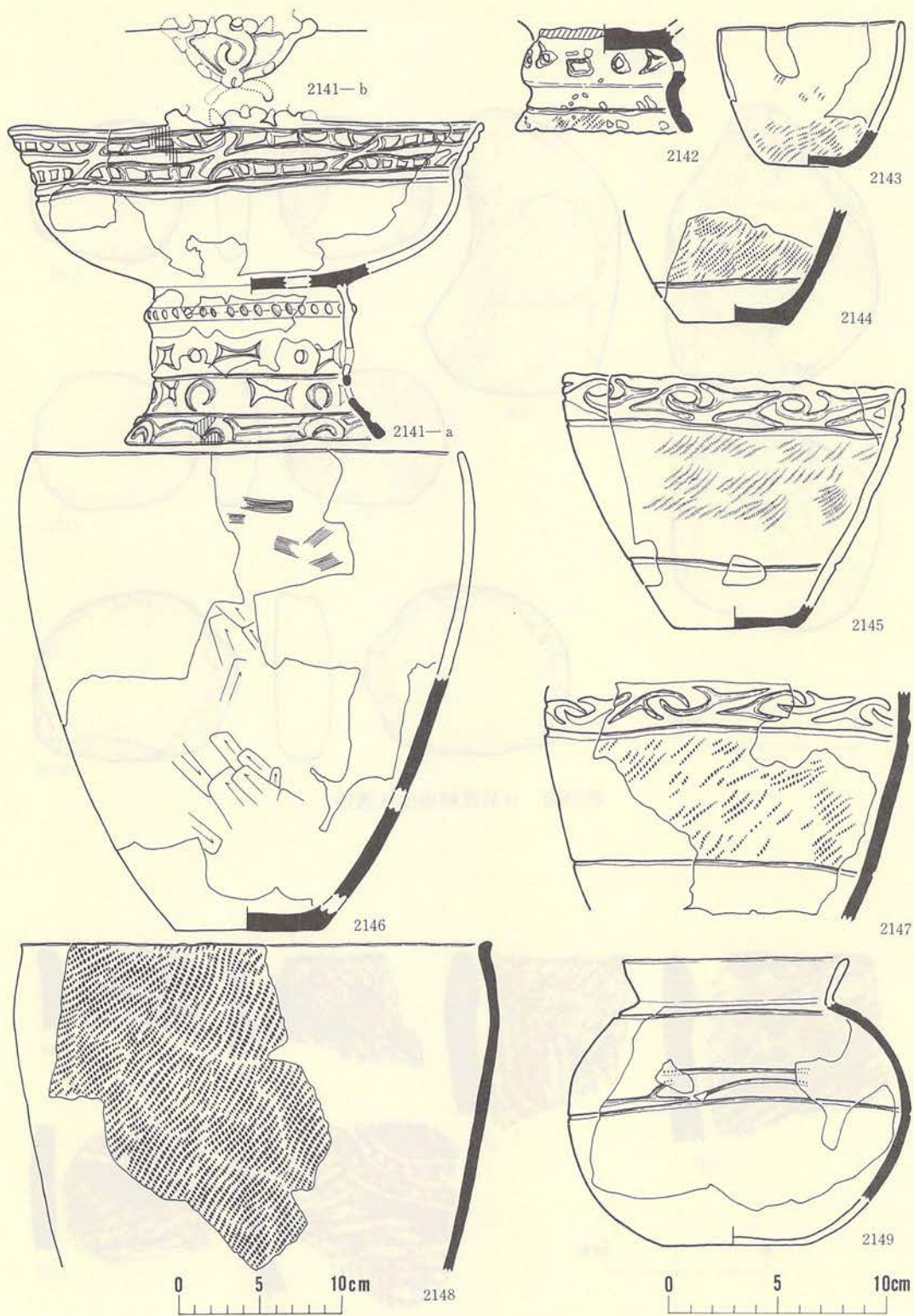




第63图 H VI区粗掘出土遗物

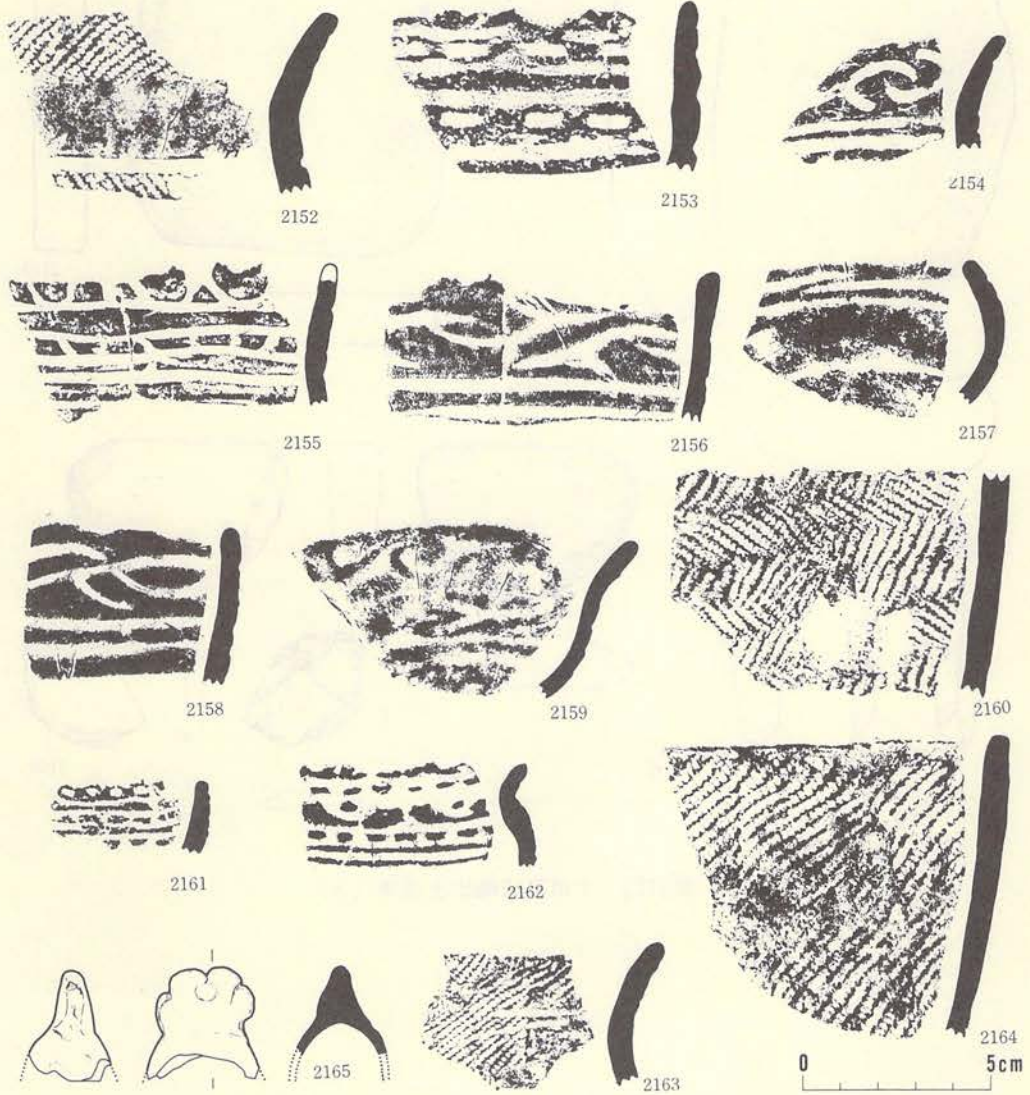
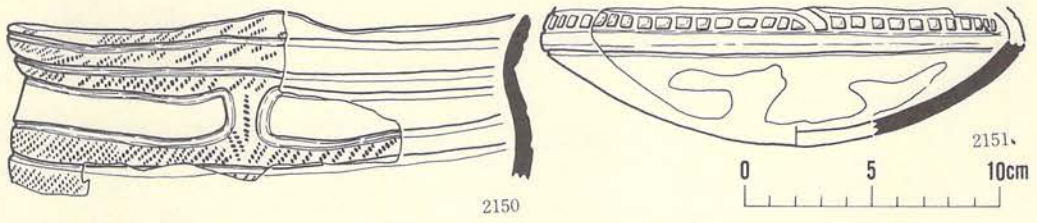


第64图 H VII区粗掘出土遗物

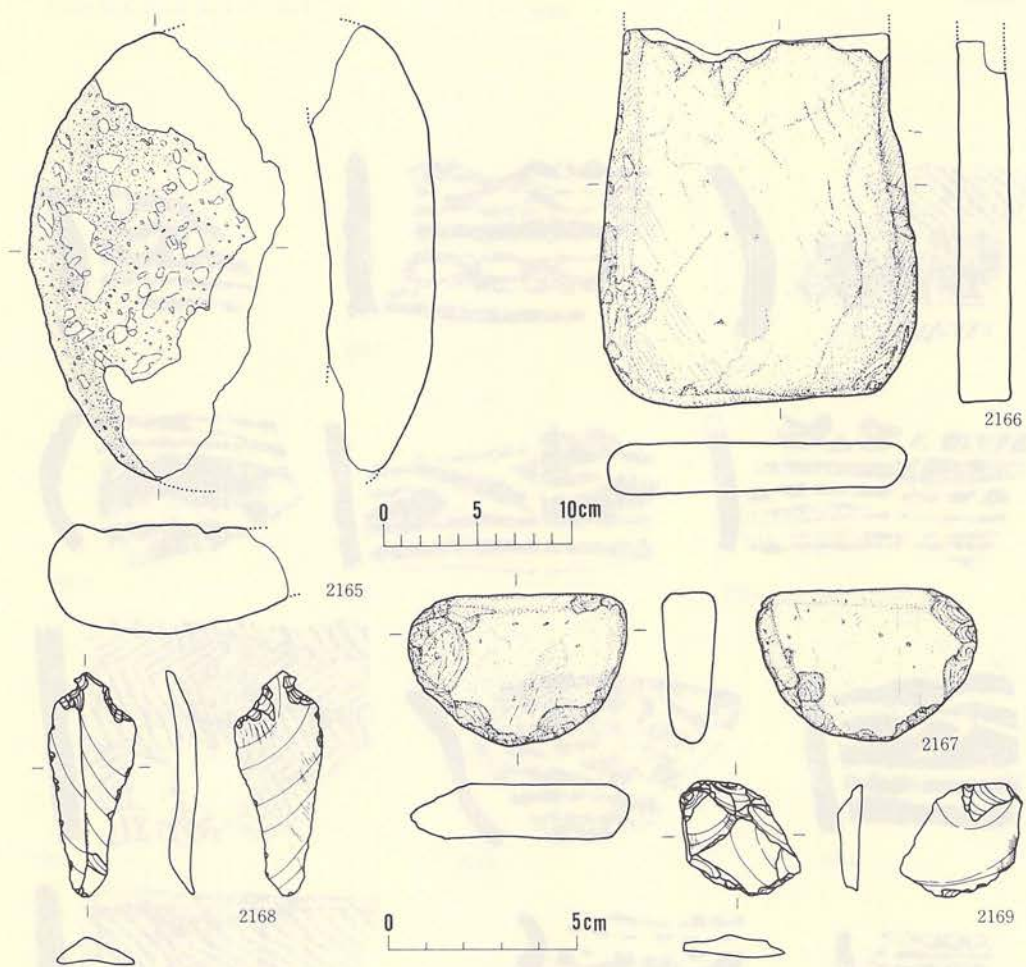


第65图 I III区粗掘出土遗物 (I)



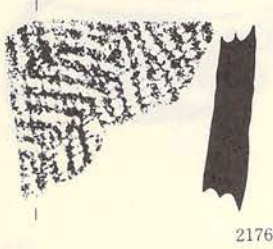
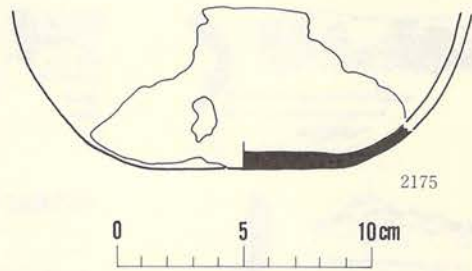
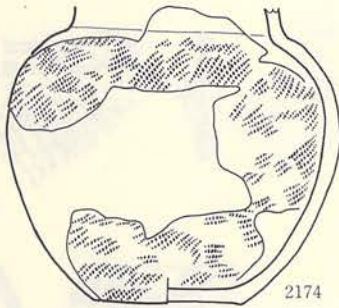
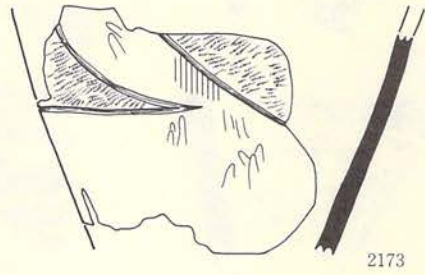
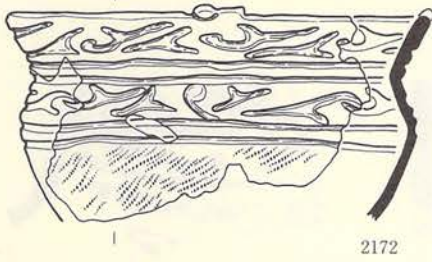
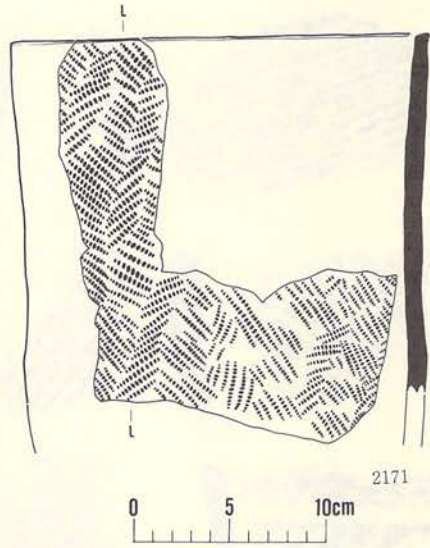
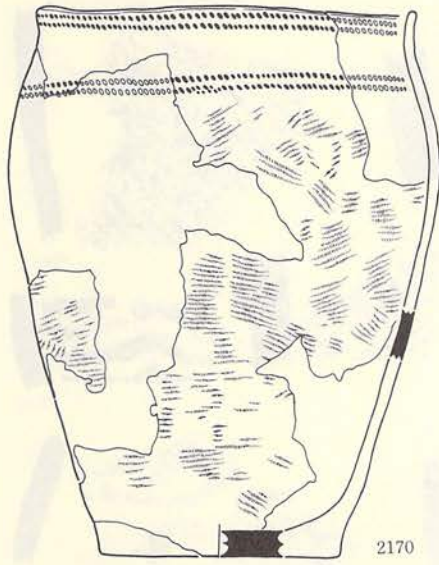


第66图 I III区粗掘出土遗物(2)

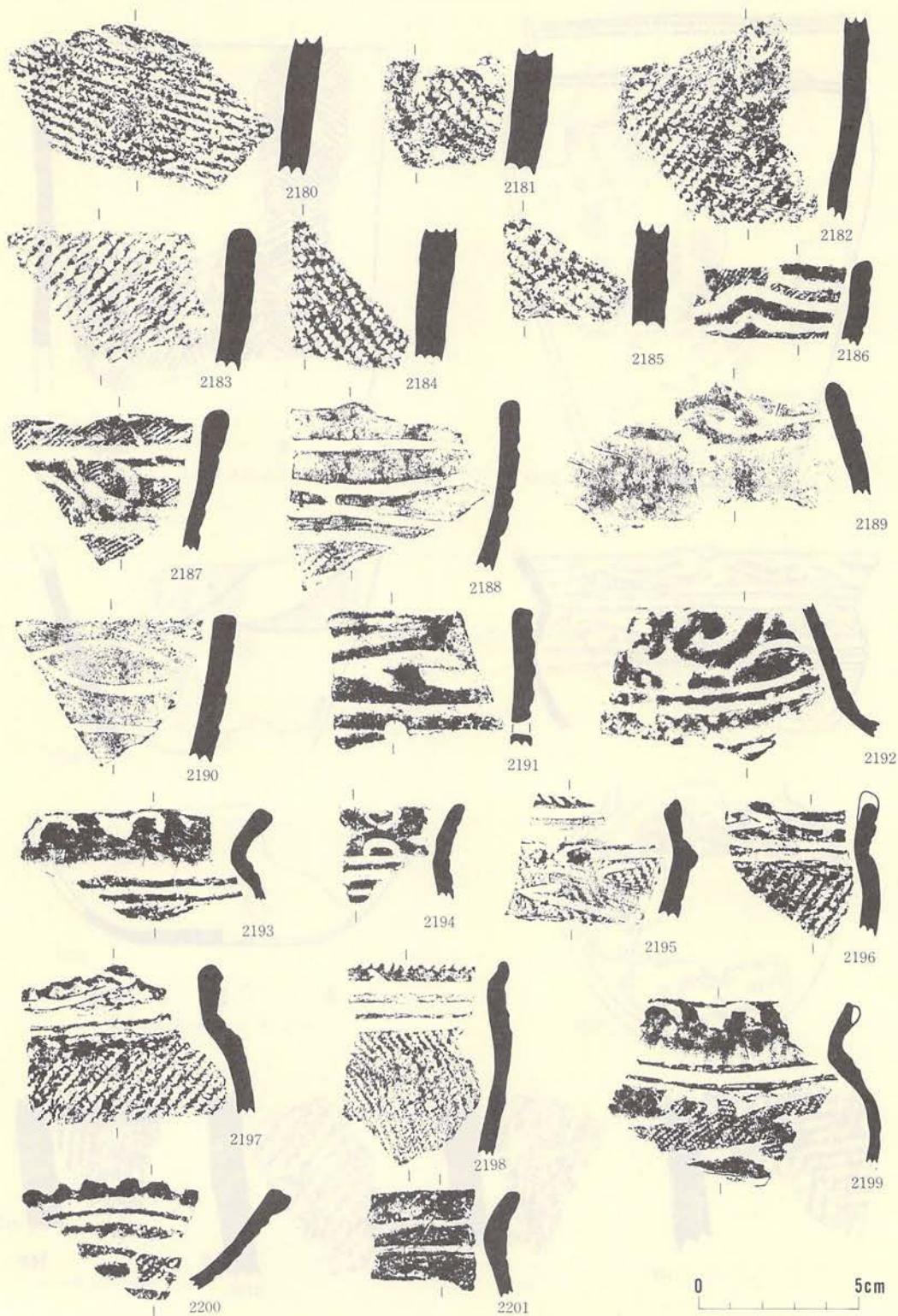


第67图 I III区粗掘出土遺物(3)



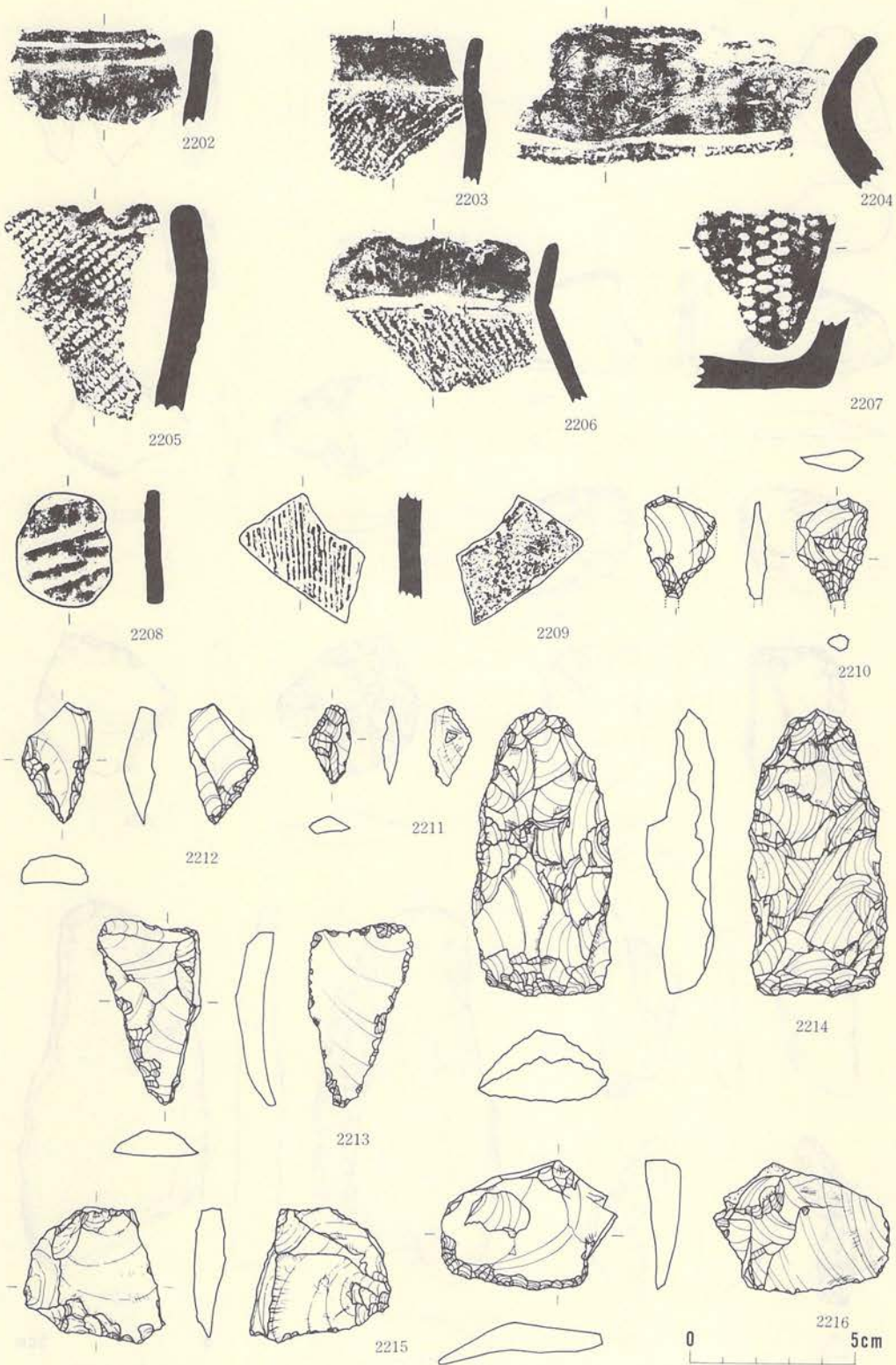


第68图 I IV区粗掘出土遗物

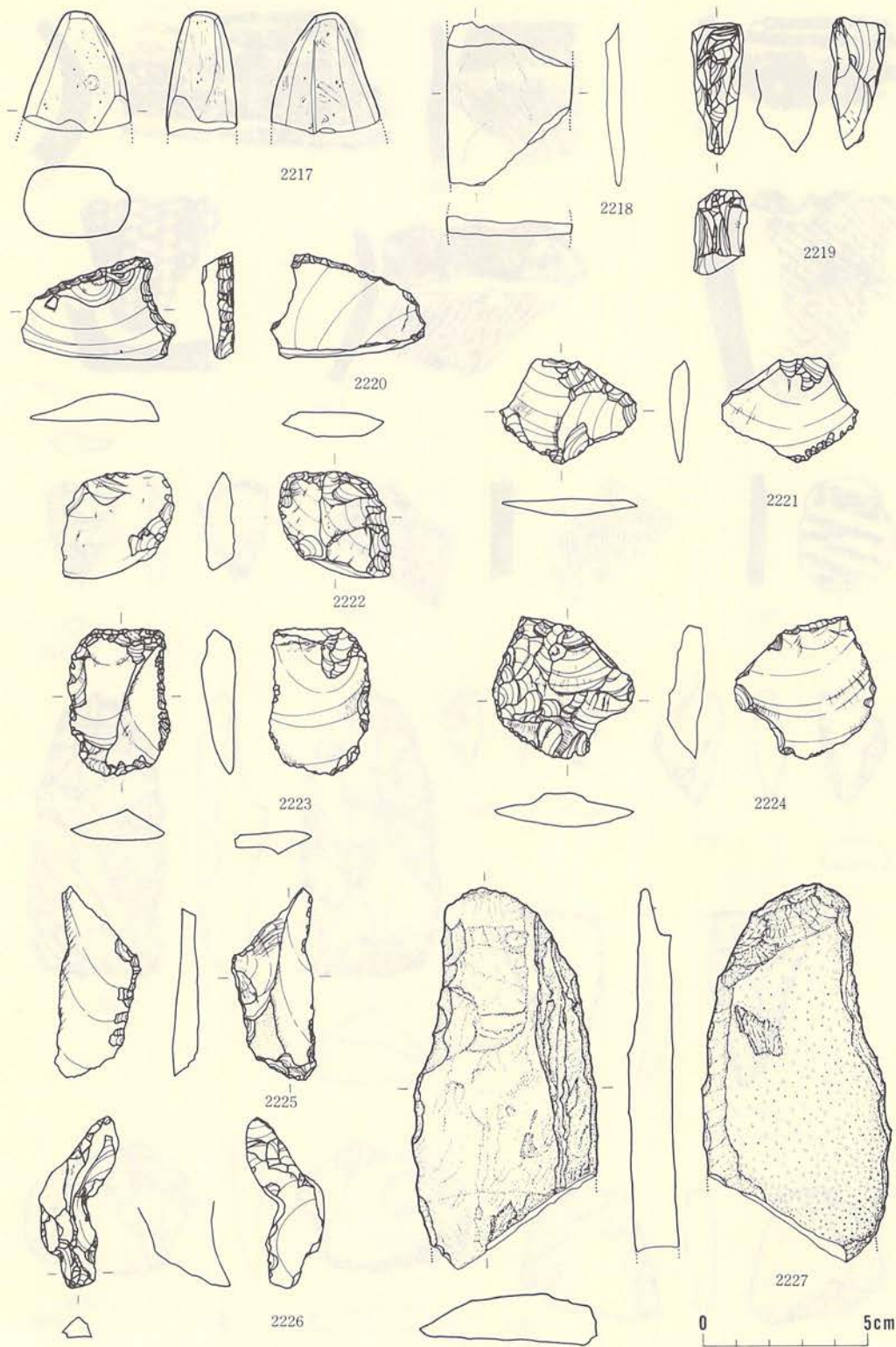


第69图 I IV区出土遗物 (I)



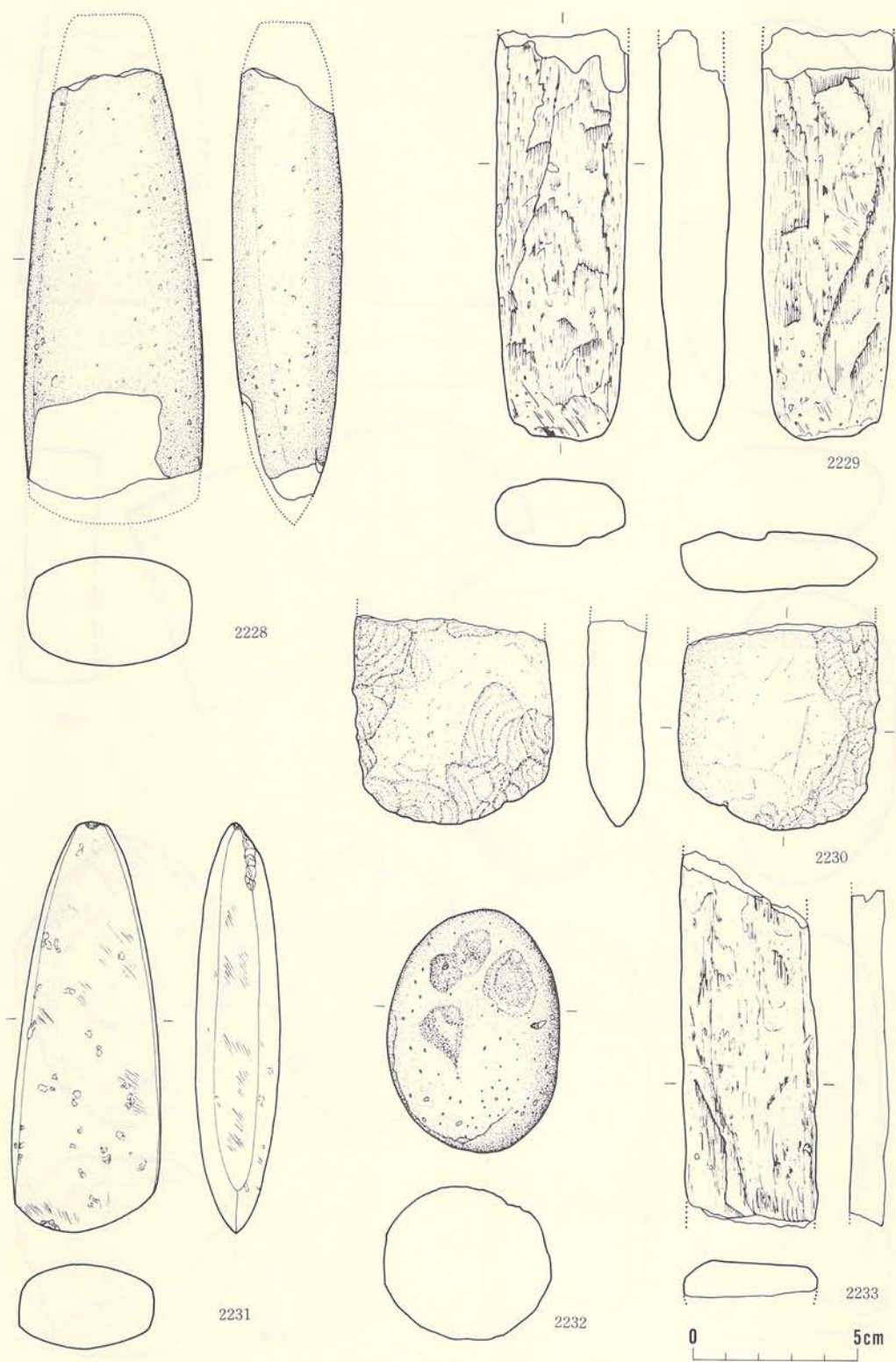


第70图 I IV区出土遗物(2)

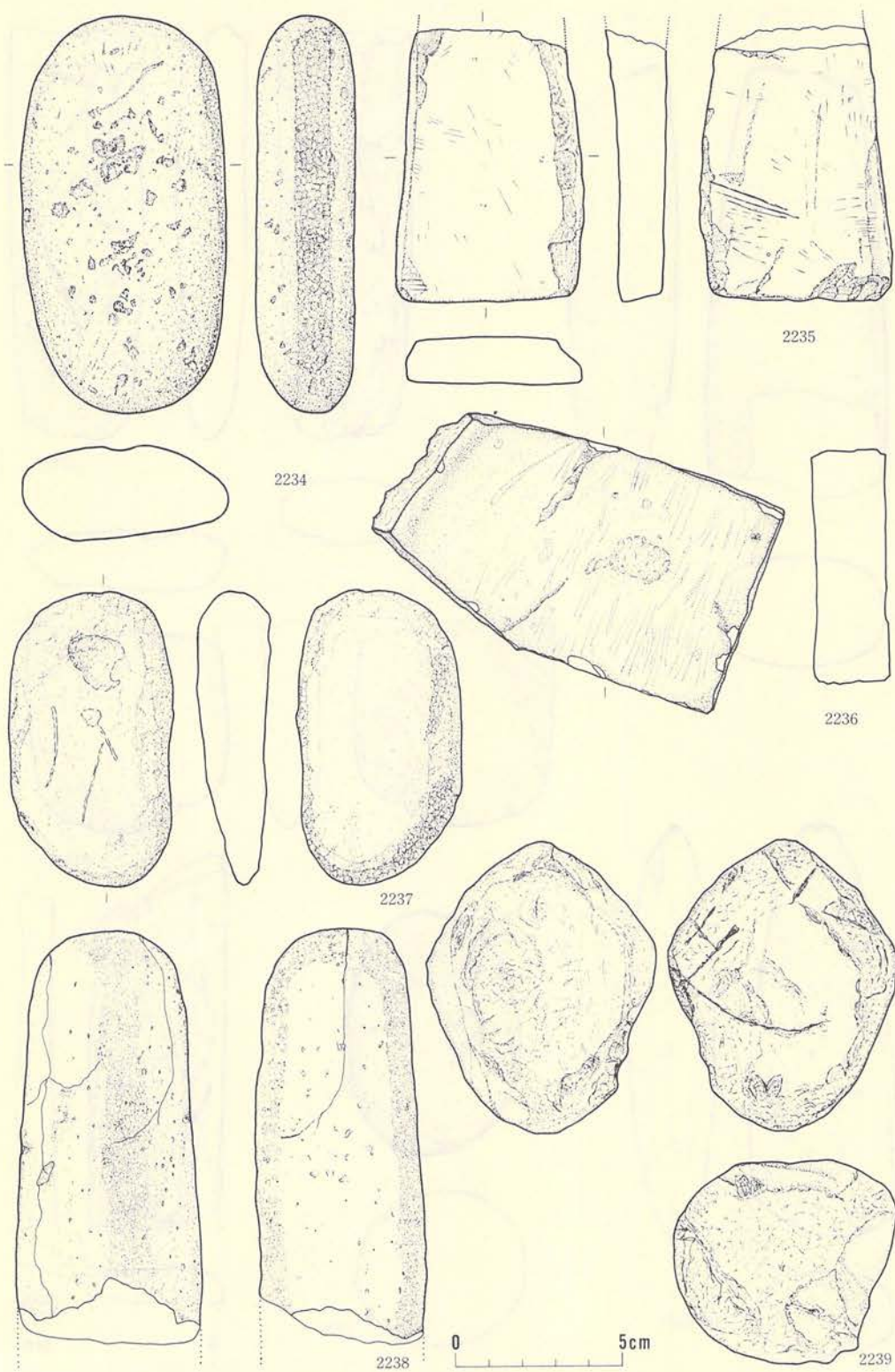


第71图 I IV区出土遗物(3)



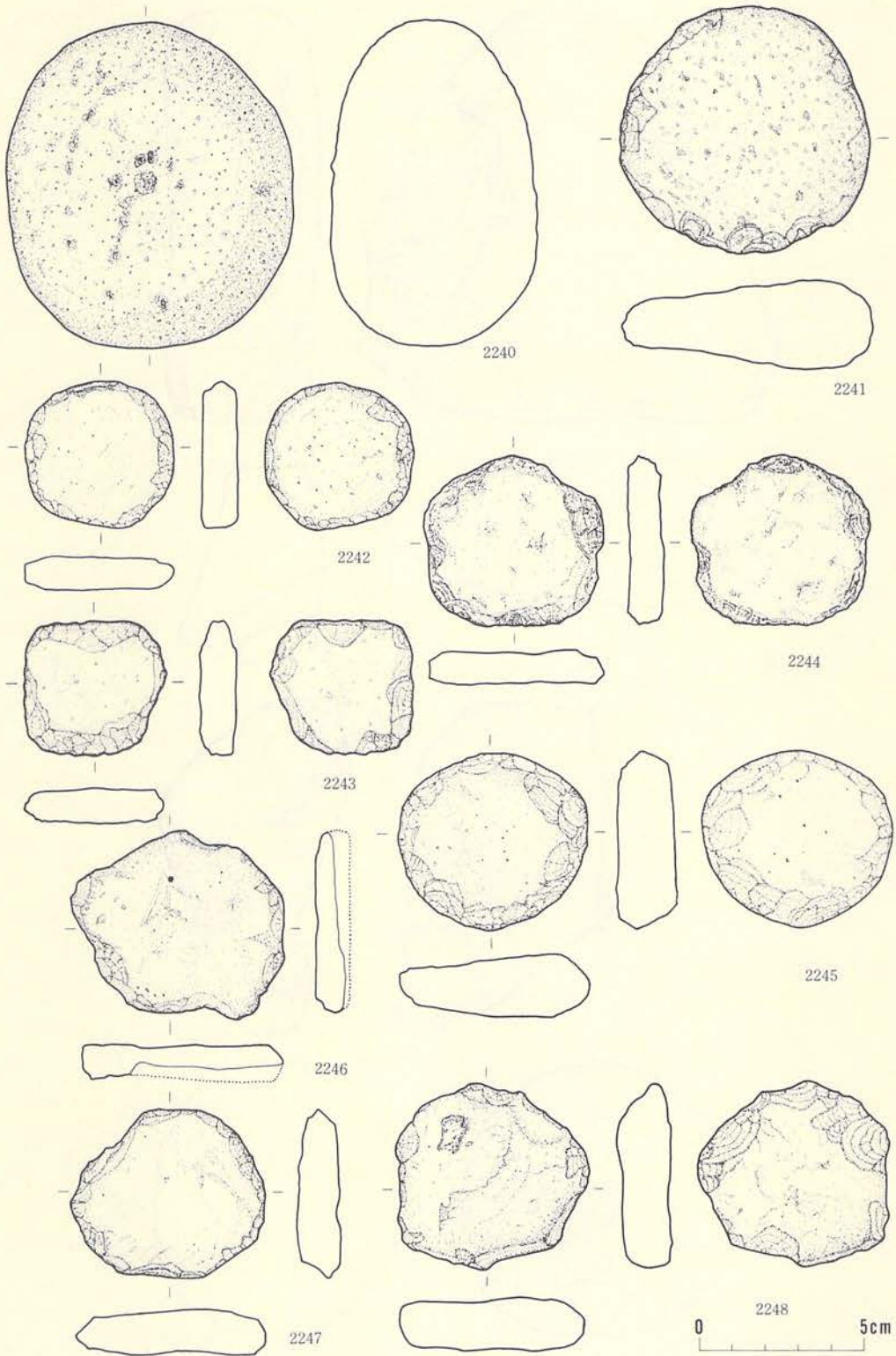


第72图 I IV区出土遗物(4)

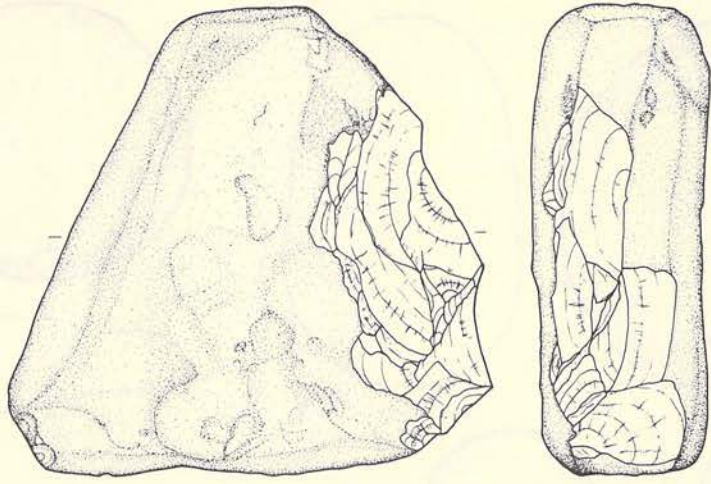


第73图 I IV区出土遗物(5)

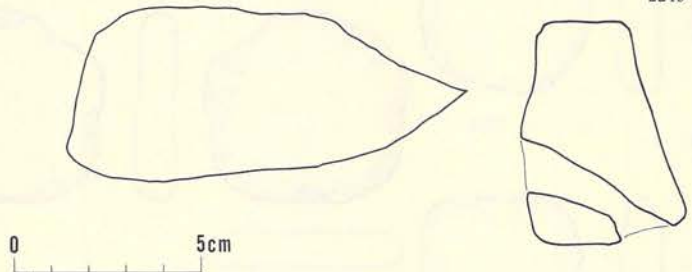




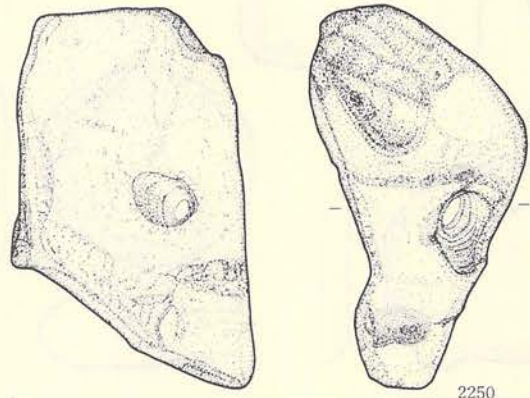
第74图 I IV区出土遗物(6)



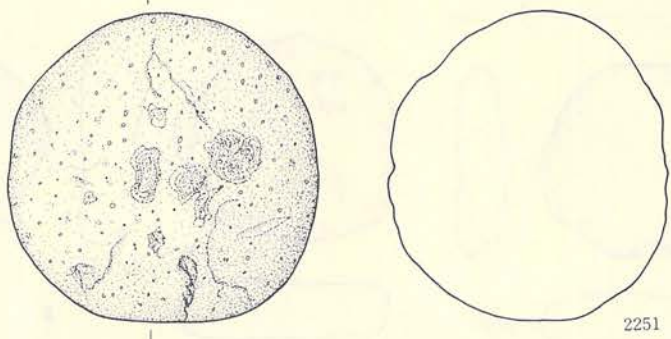
2249



0 5cm



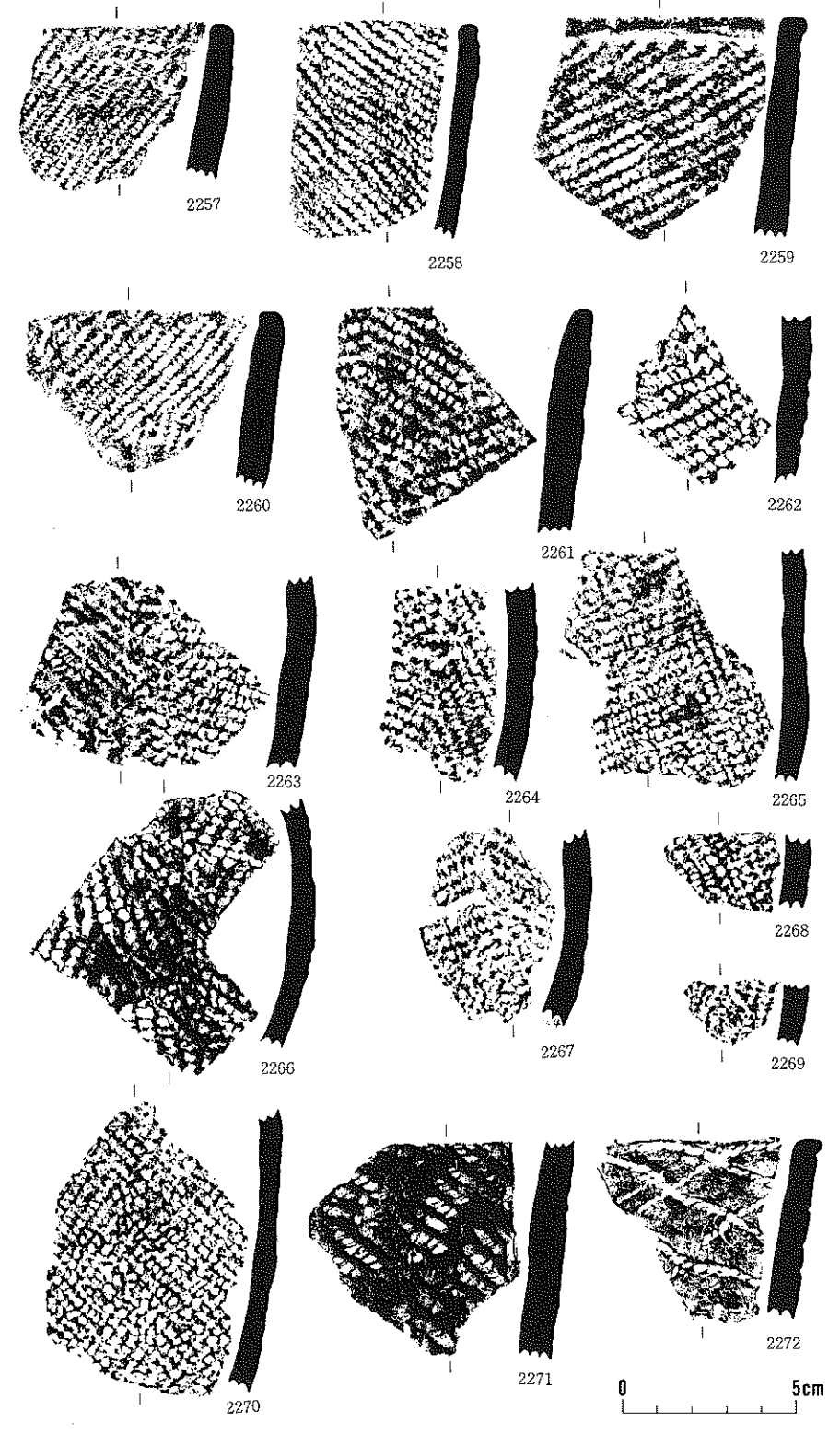
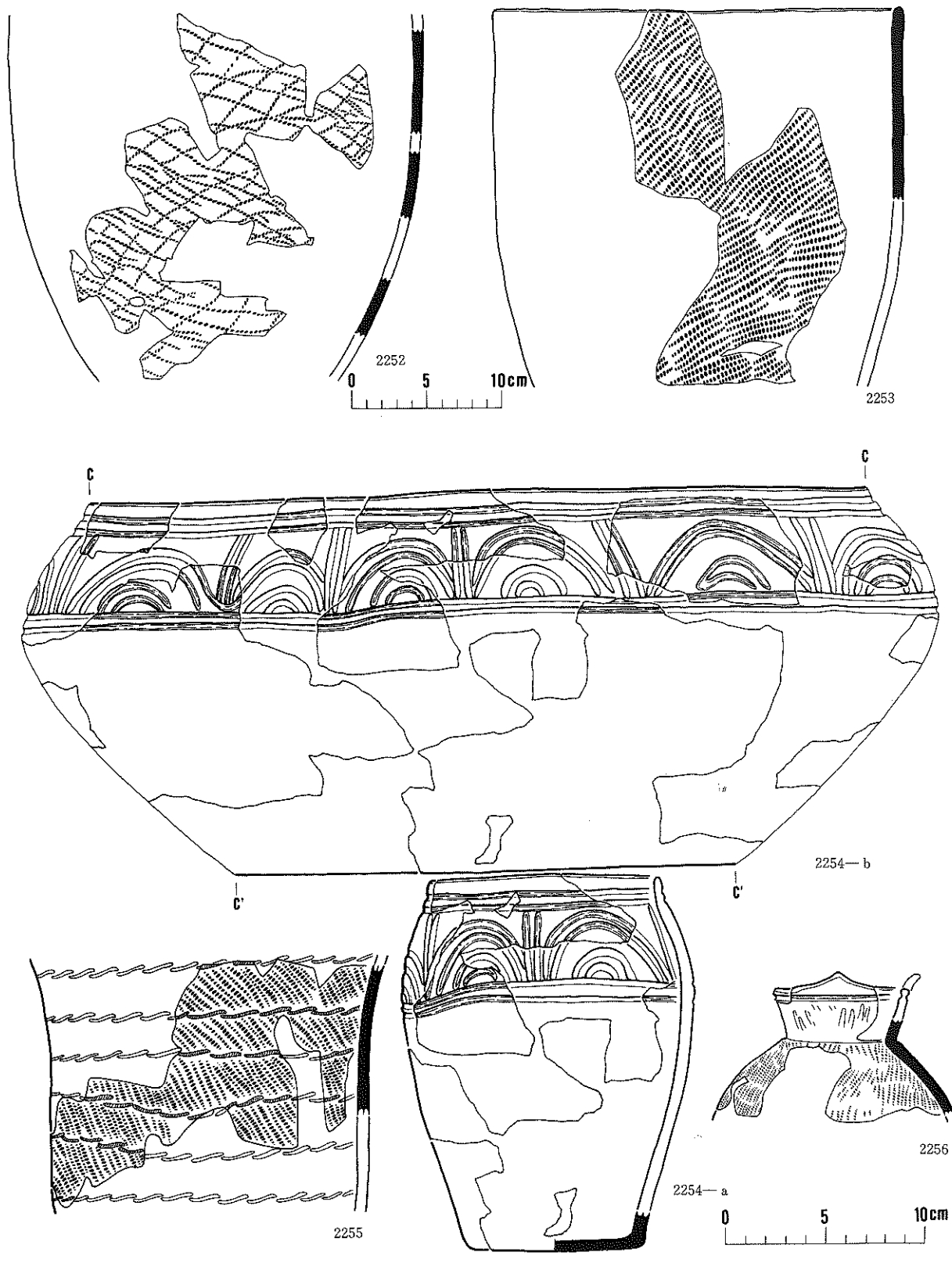
2250



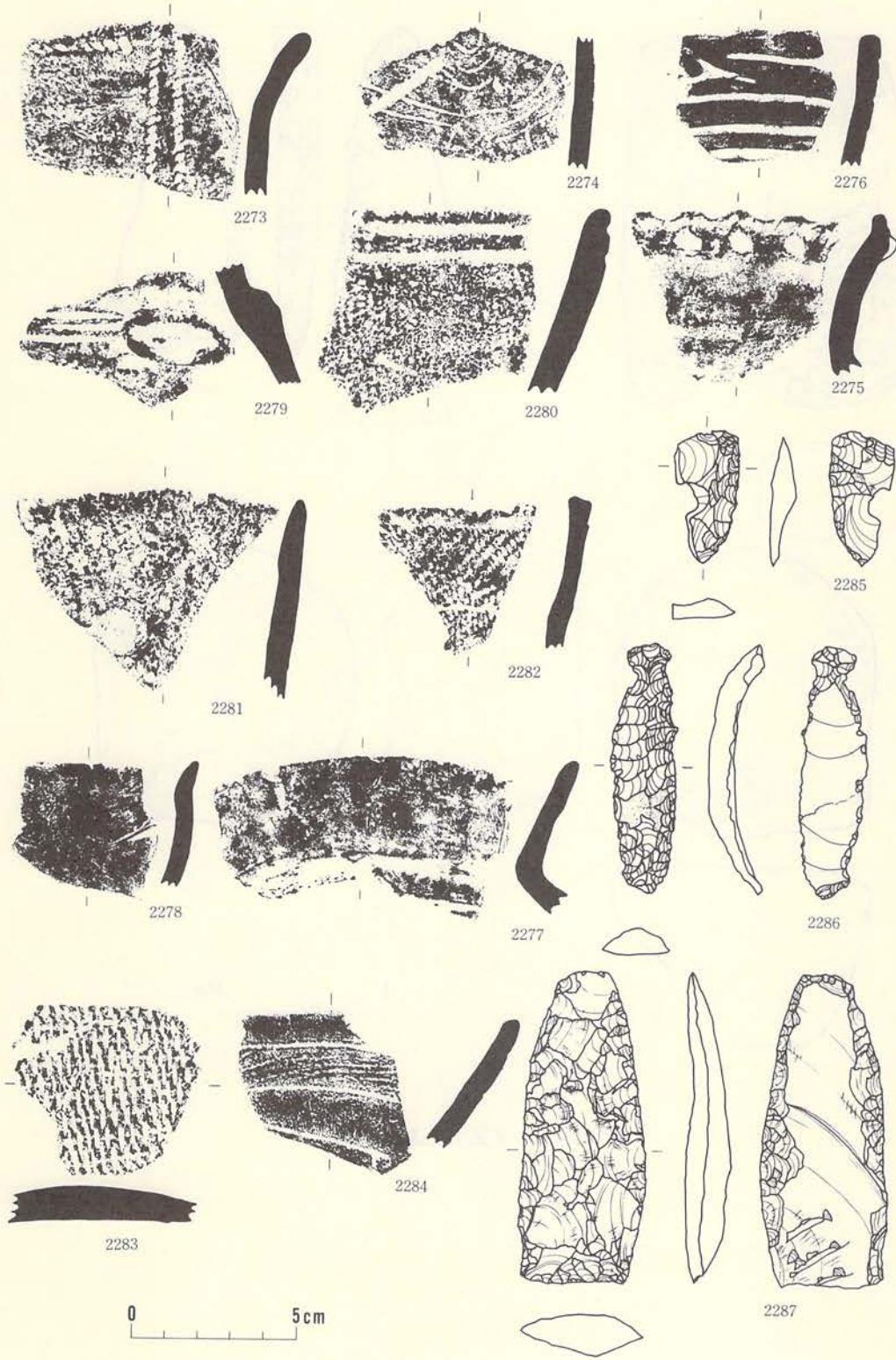
2251

第75图 I IV区出土遗物(7)



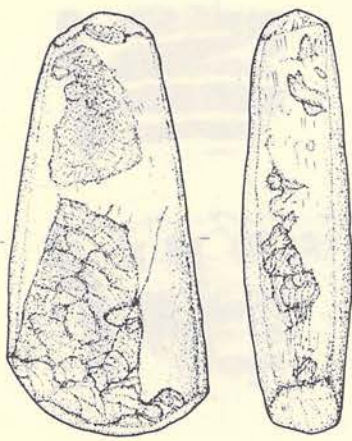


第76图 I V区粗掘出土遗物

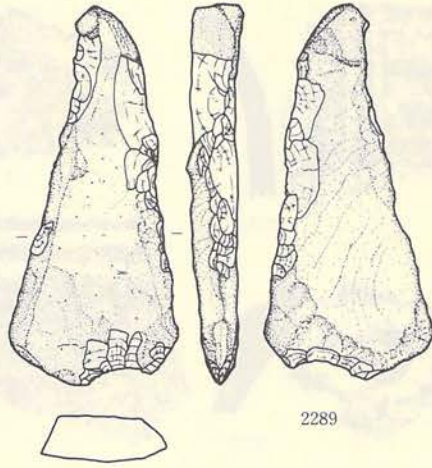
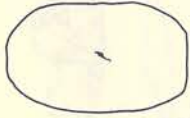


第77图 IV区出土遗物(1)

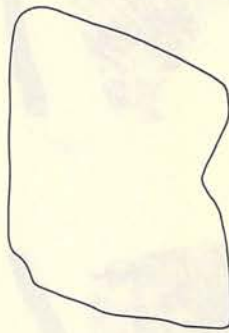




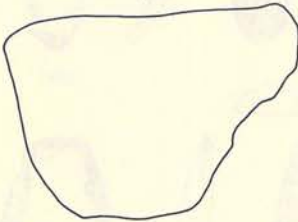
2288



2289

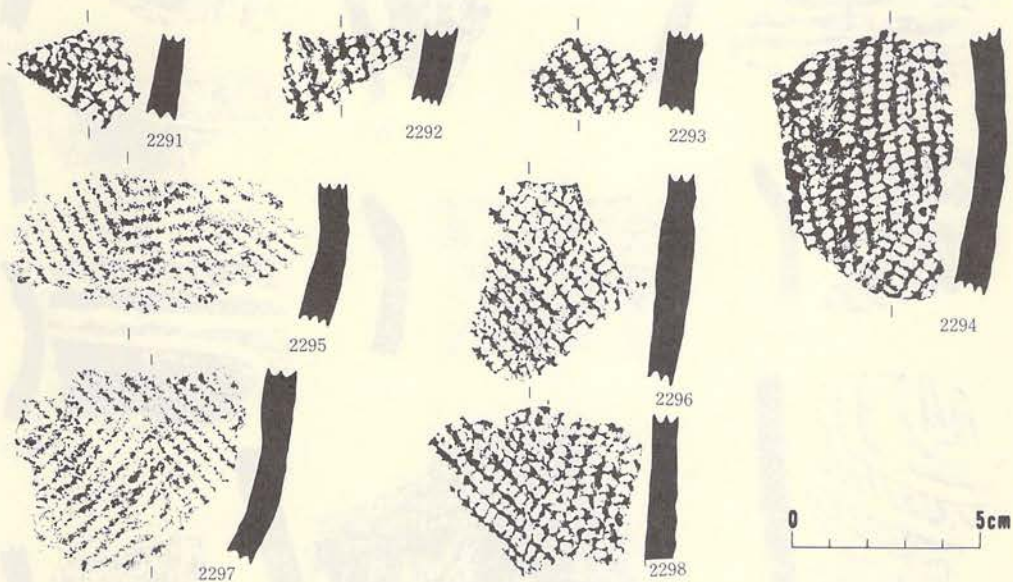


2290

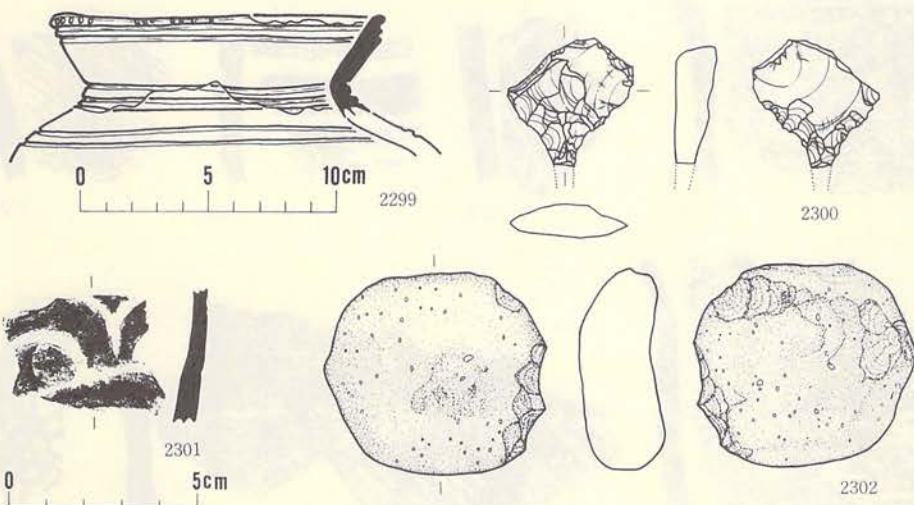


0 5cm

第78図 I V区出土遺物(2)



第79图 I VI区粗掘出土遗物

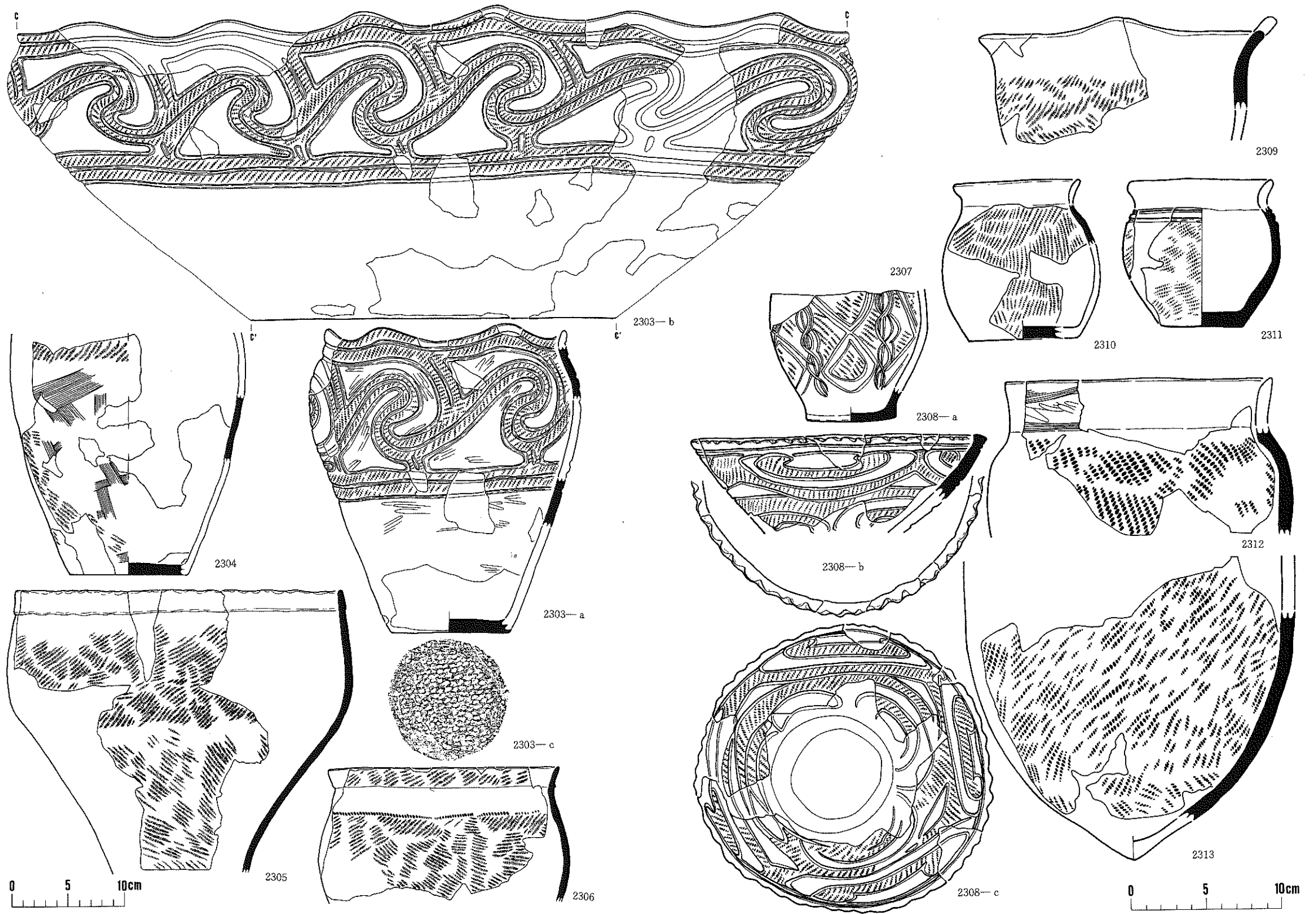


第80图 J IV区粗掘出土遗物



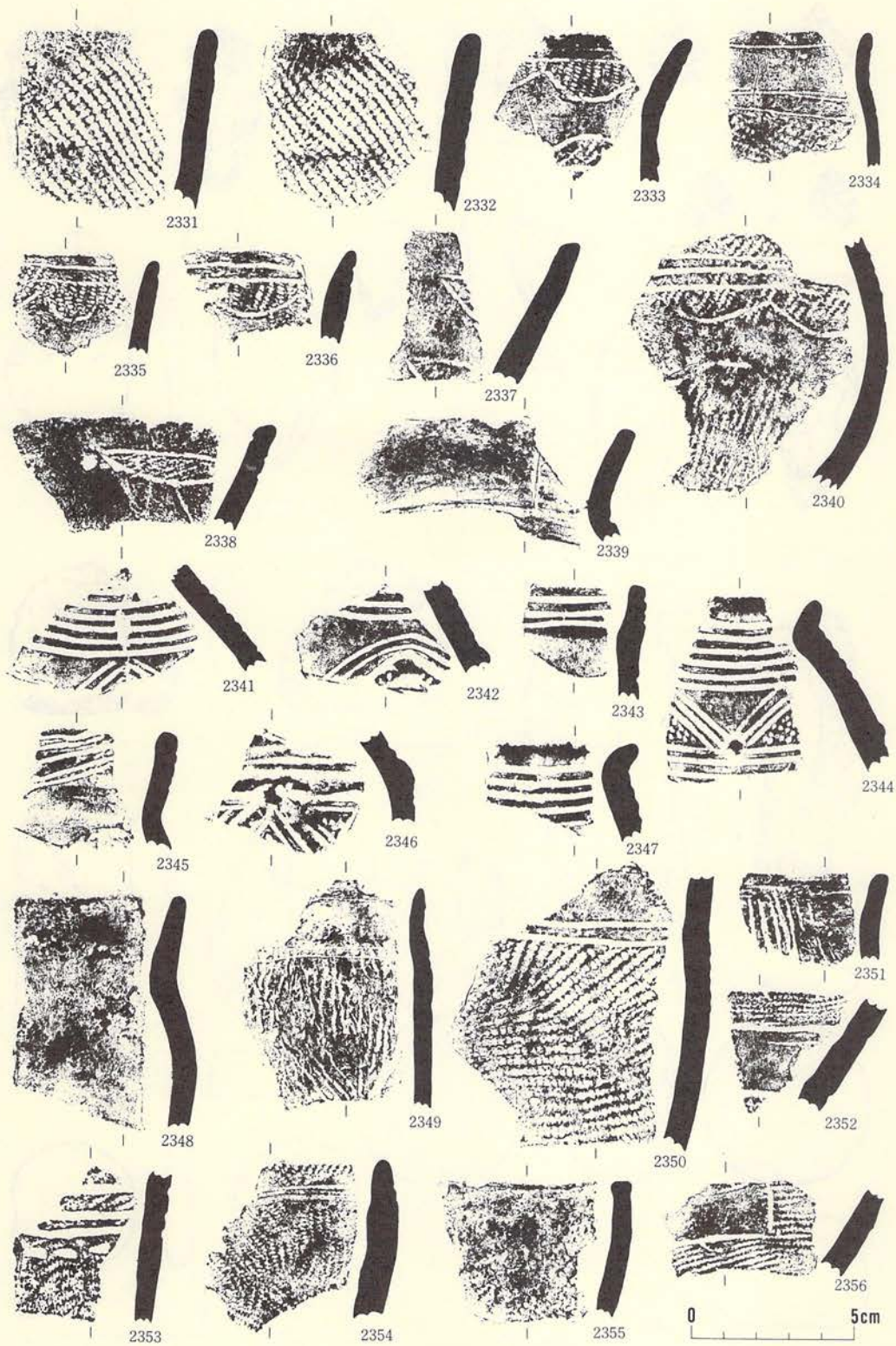


第81图 J V区粗掘出土遗物 (I)

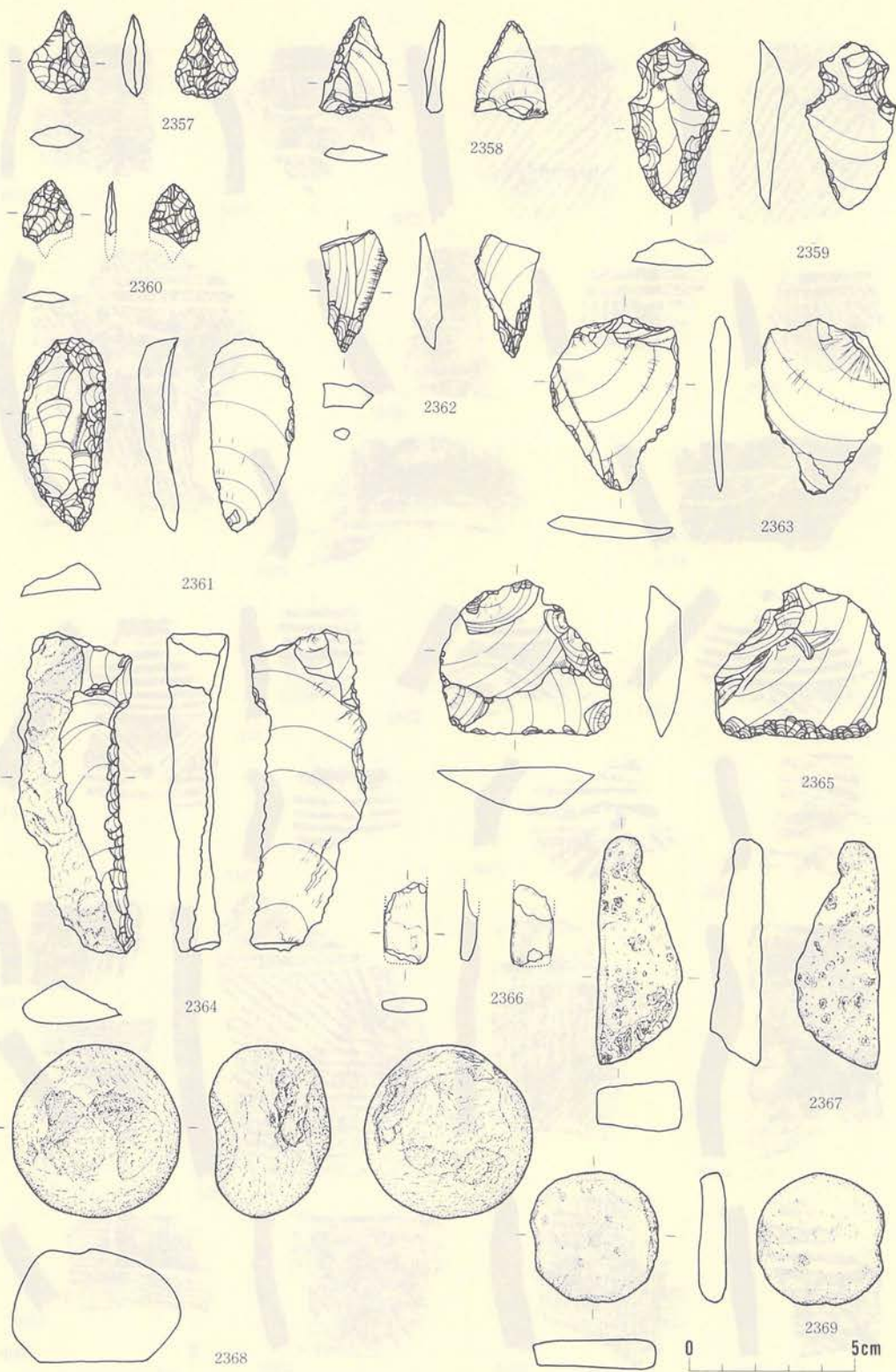


第82图 J V区粗掘出土遗物(2)



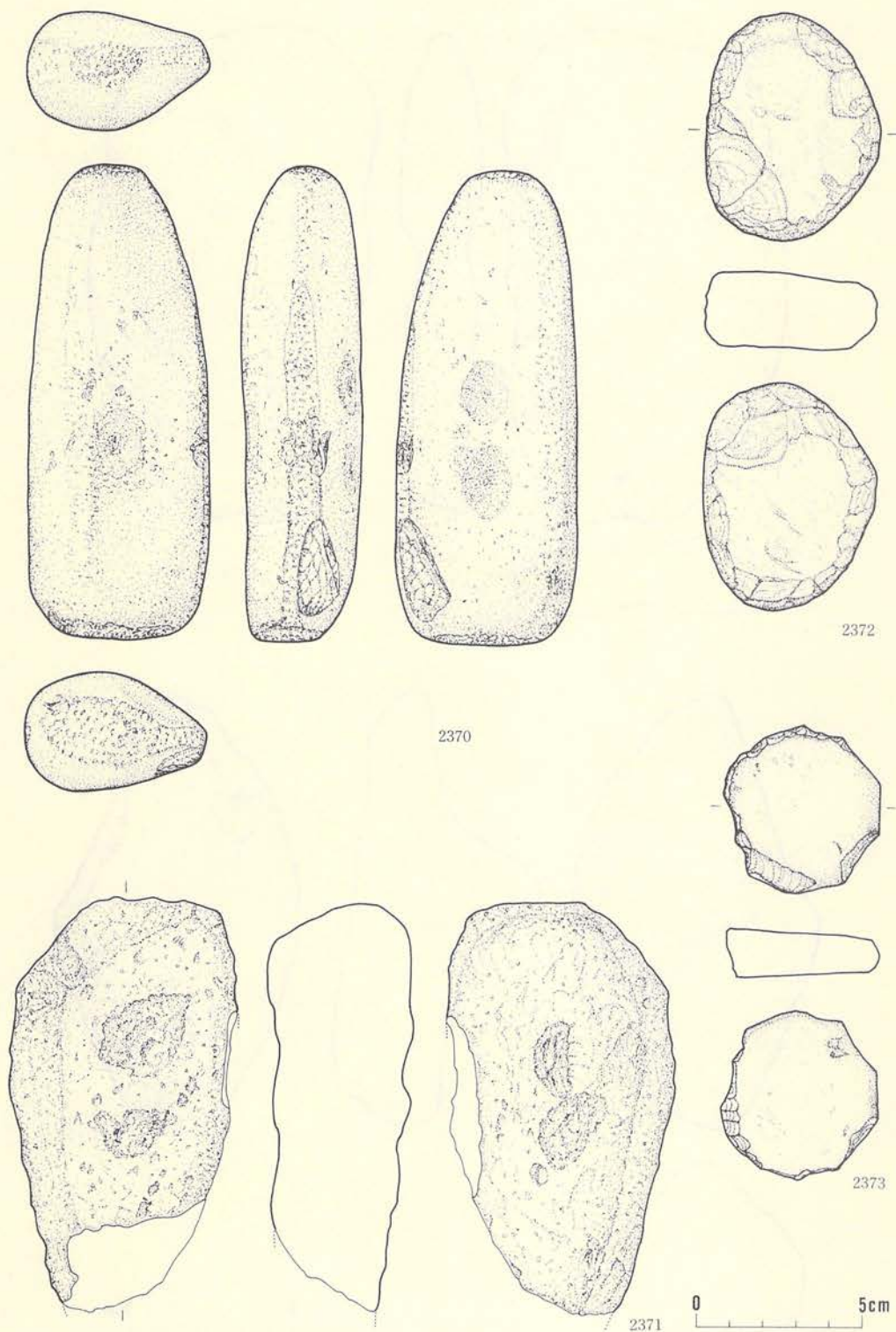


第83图 J V区粗掘出土遗物(3)

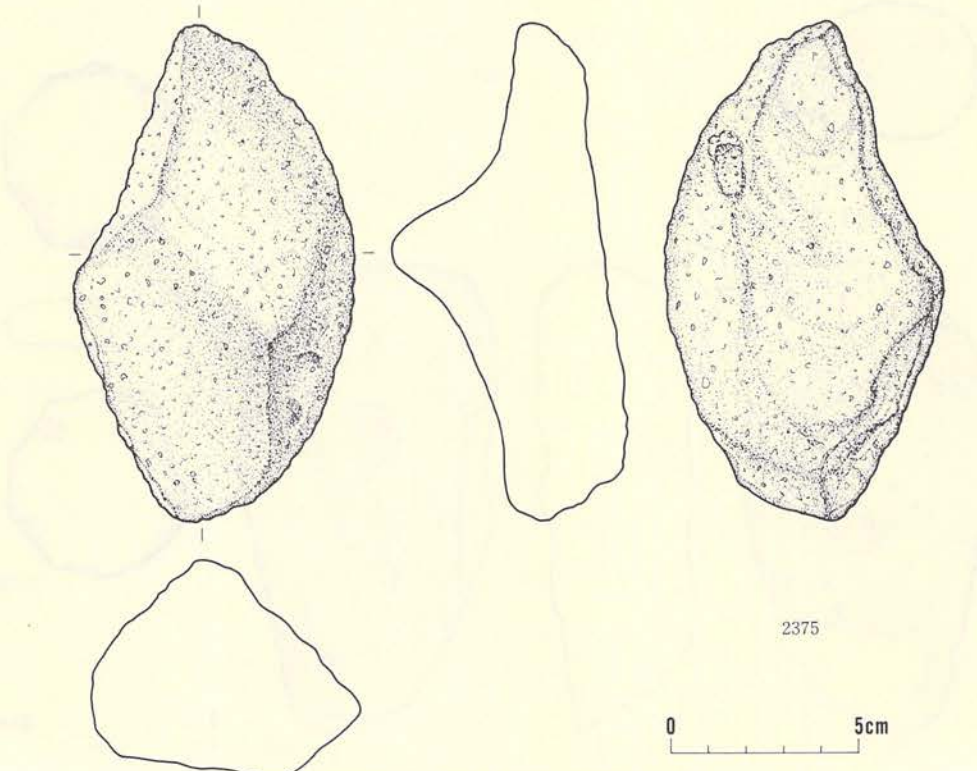
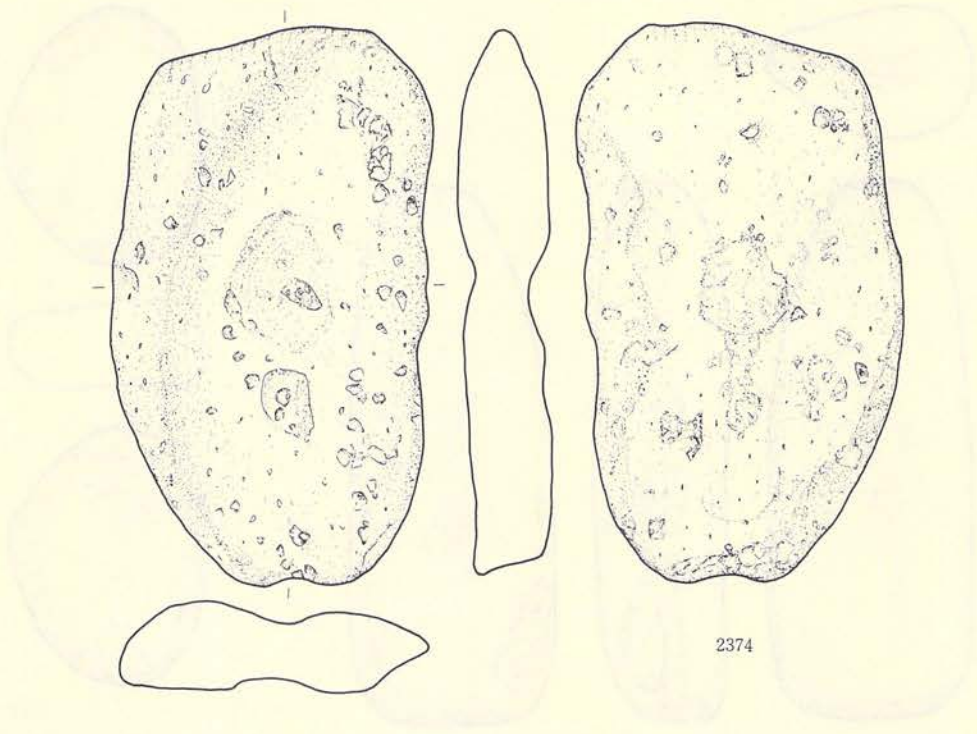


第84图 J V区粗掘出土遗物(4)



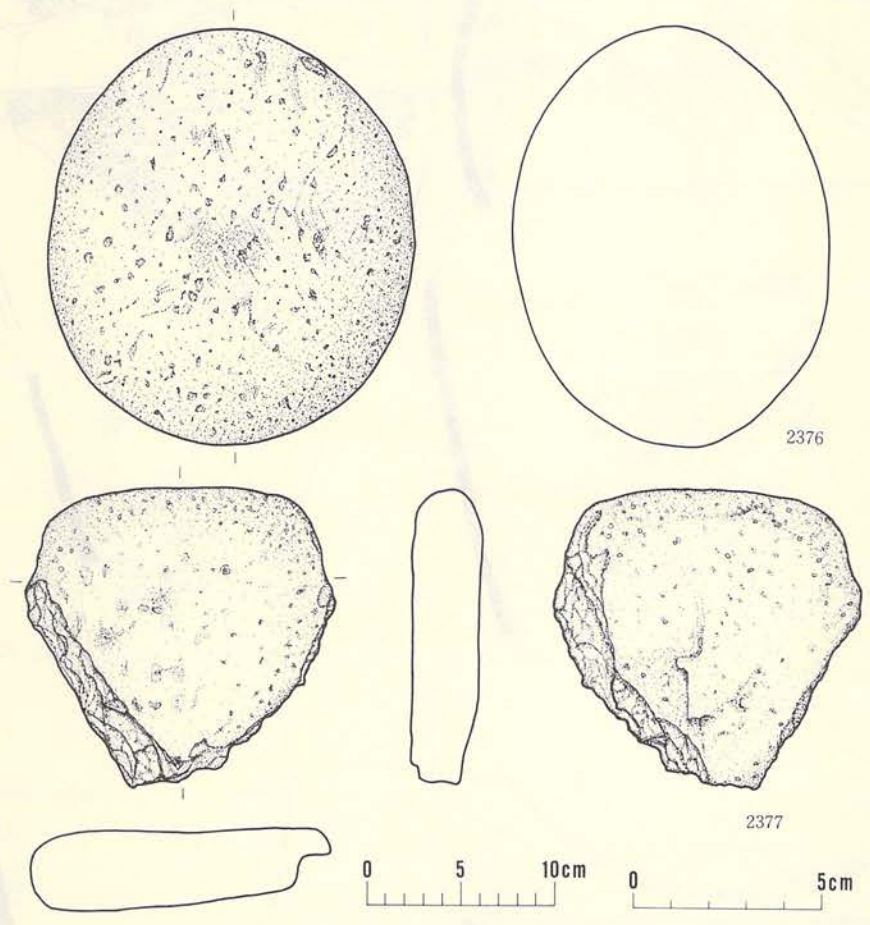


第85图 J V区粗掘出土遗物(5)

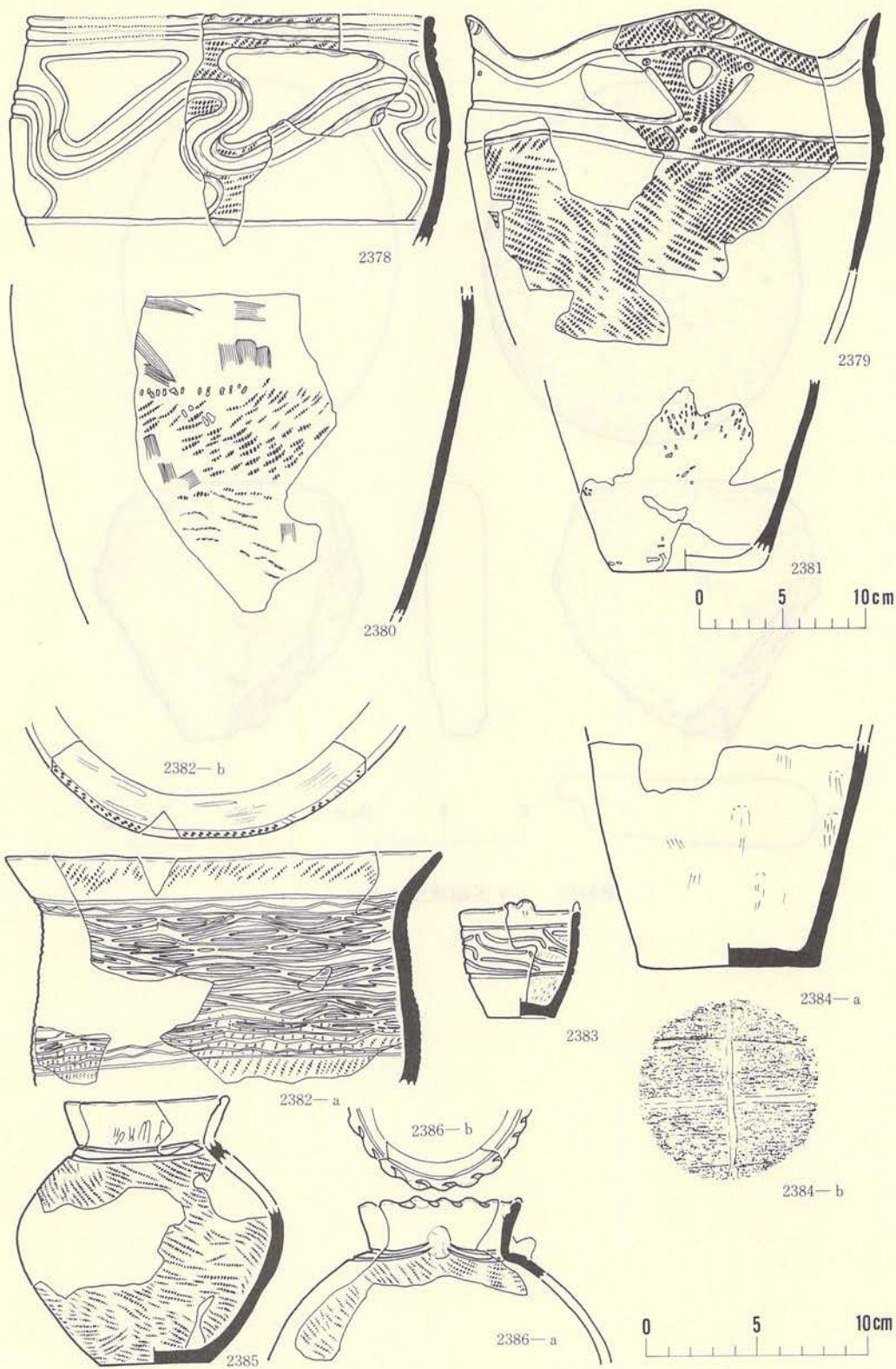


第86图 J V区粗掘出土遗物(6)



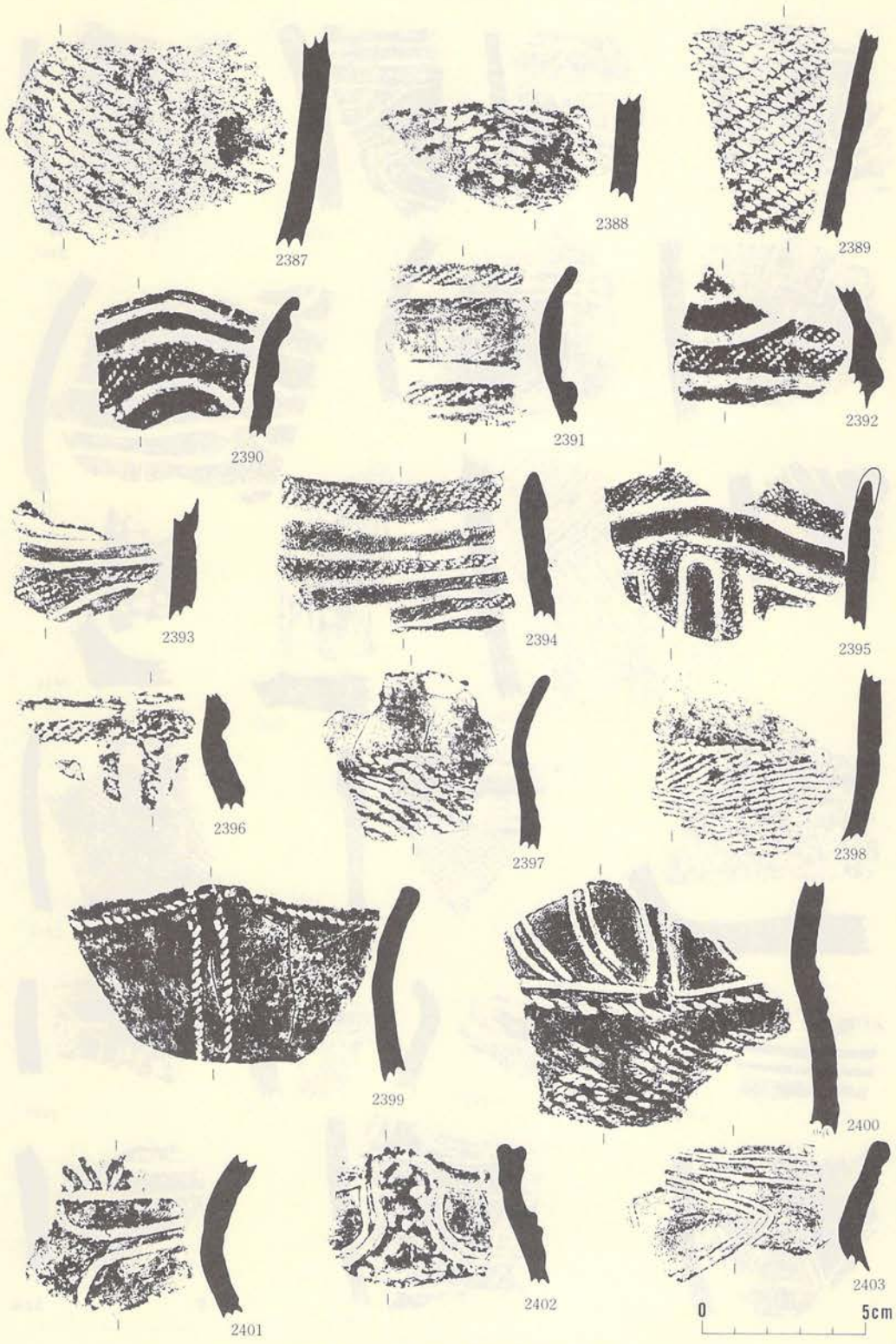


第87图 J V区粗掘出土遺物(7)

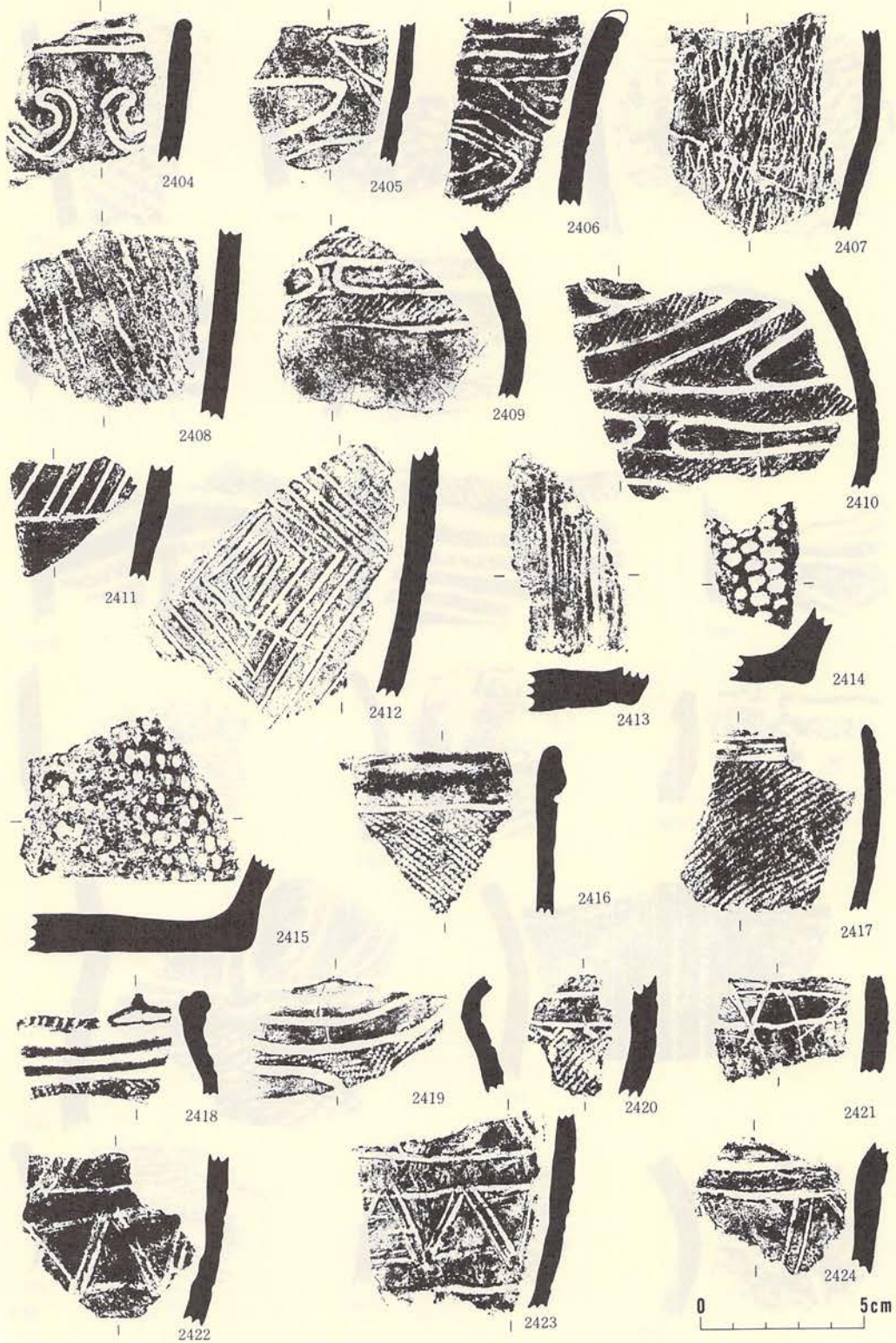


第88图 J VI区粗掘出土遗物 (I)



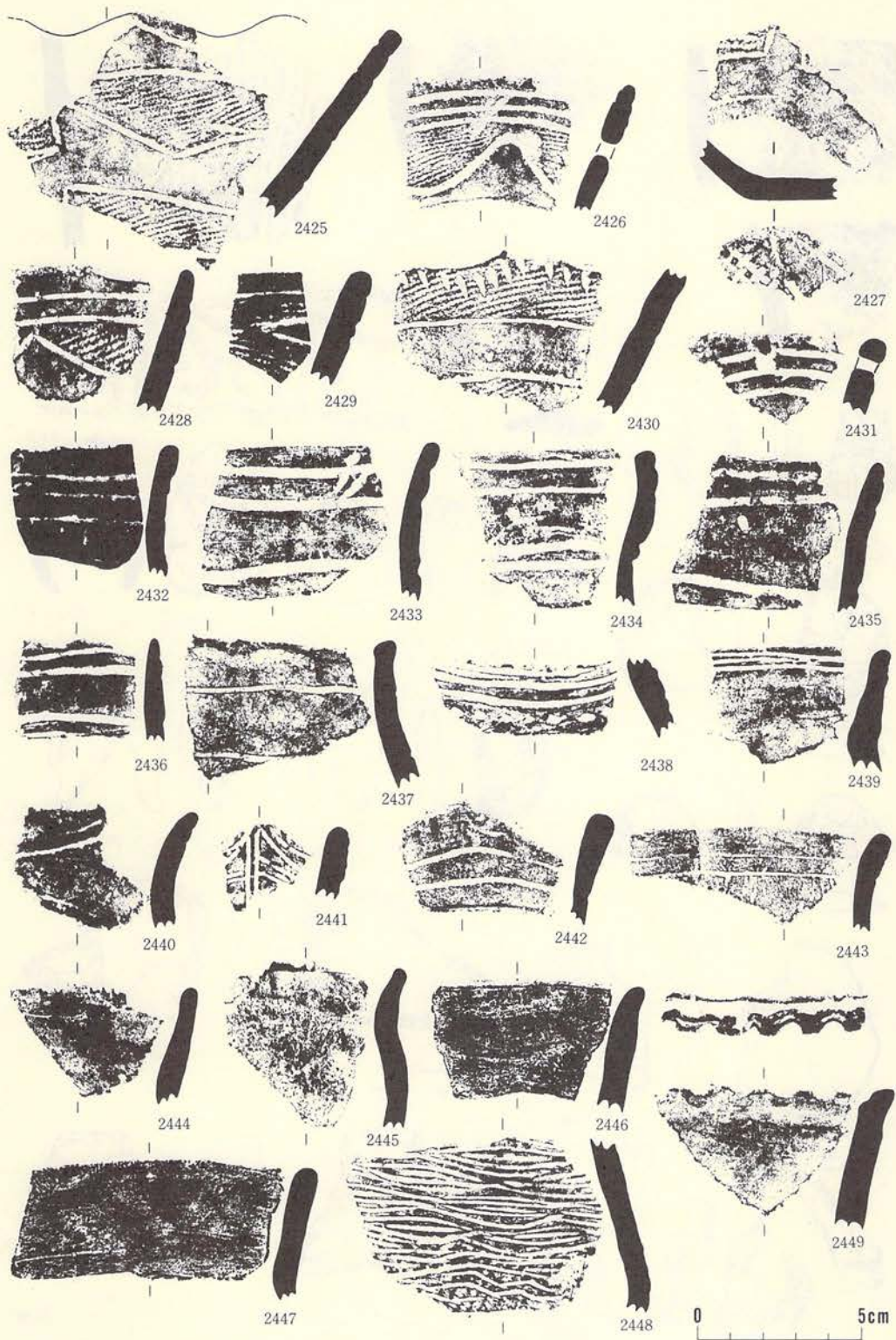


第89图 J VI区粗振出土遗物(2)

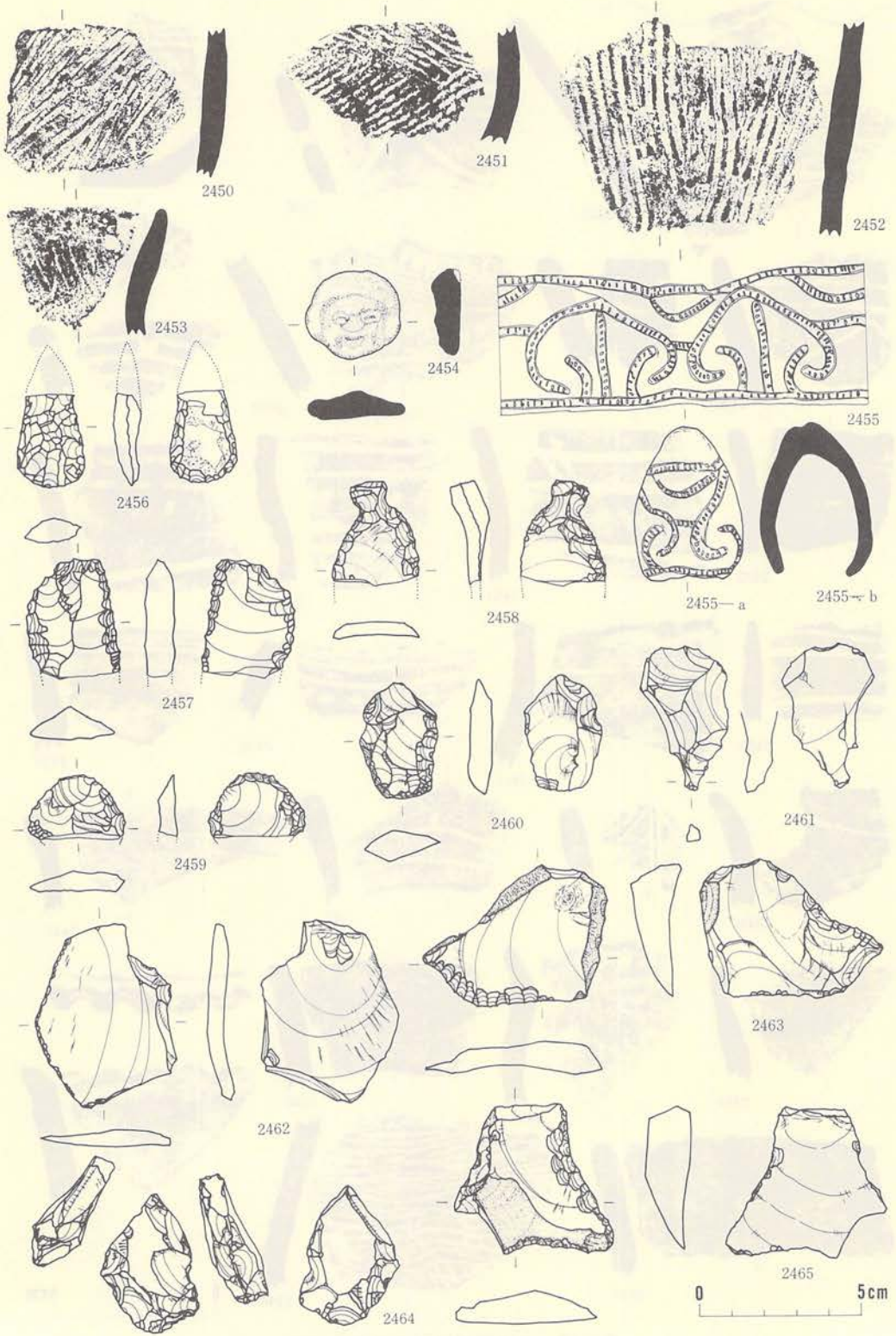


第90图 J VI区粗掘出土遗物(3)



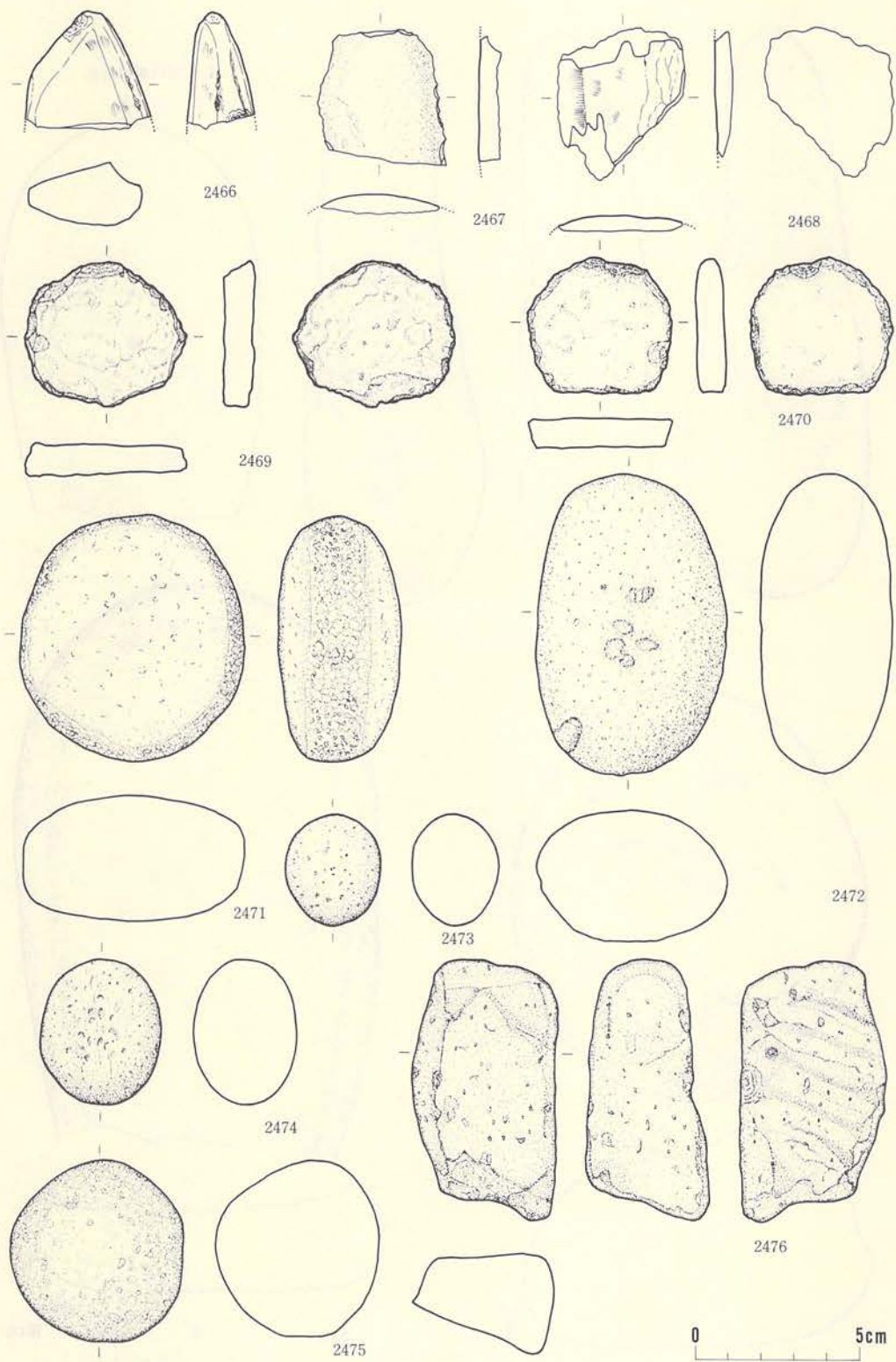


第91图 J VI区粗掘出土遗物(4)

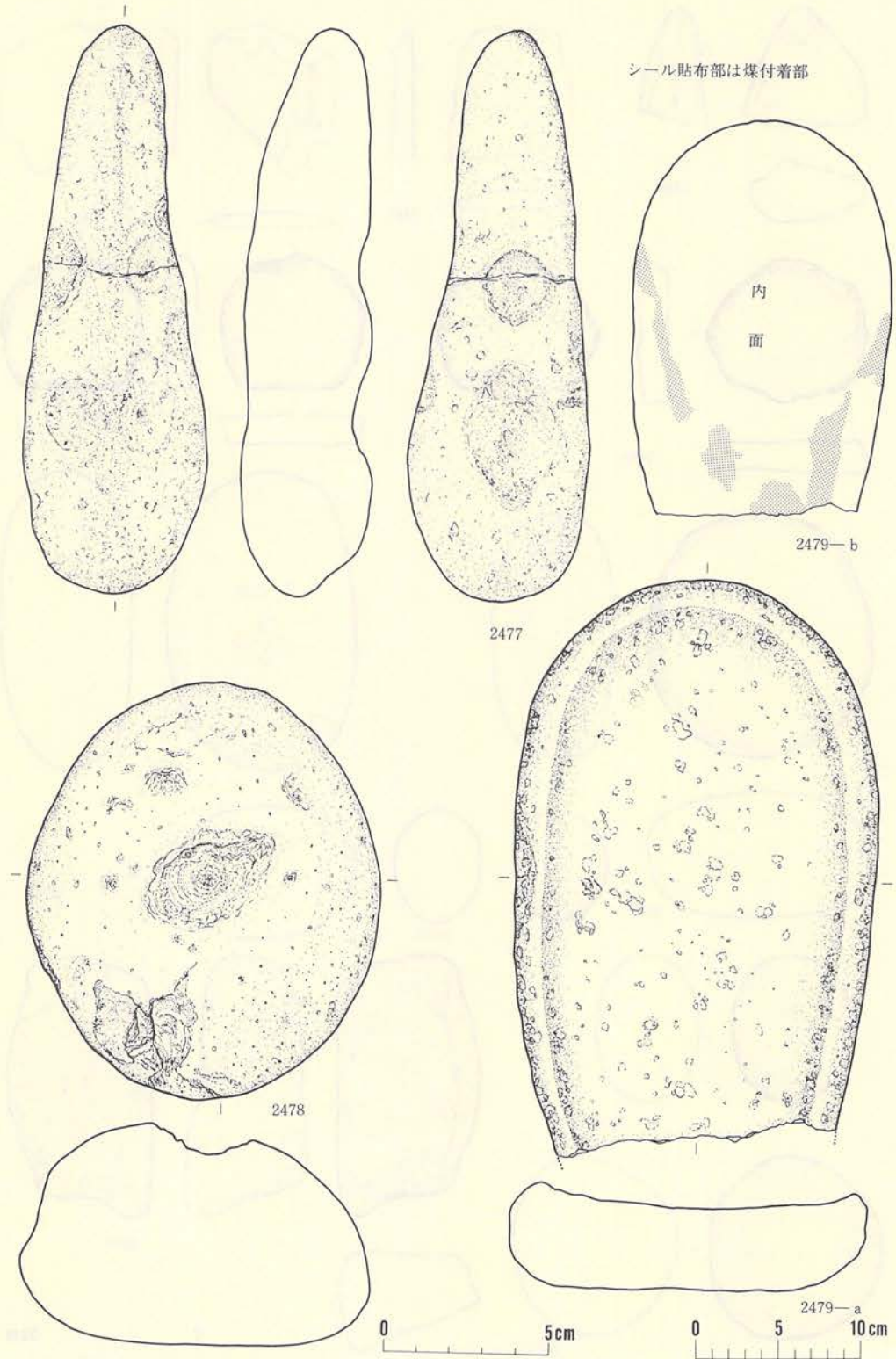


第92图 J VI区粗掘出土遗物(5)



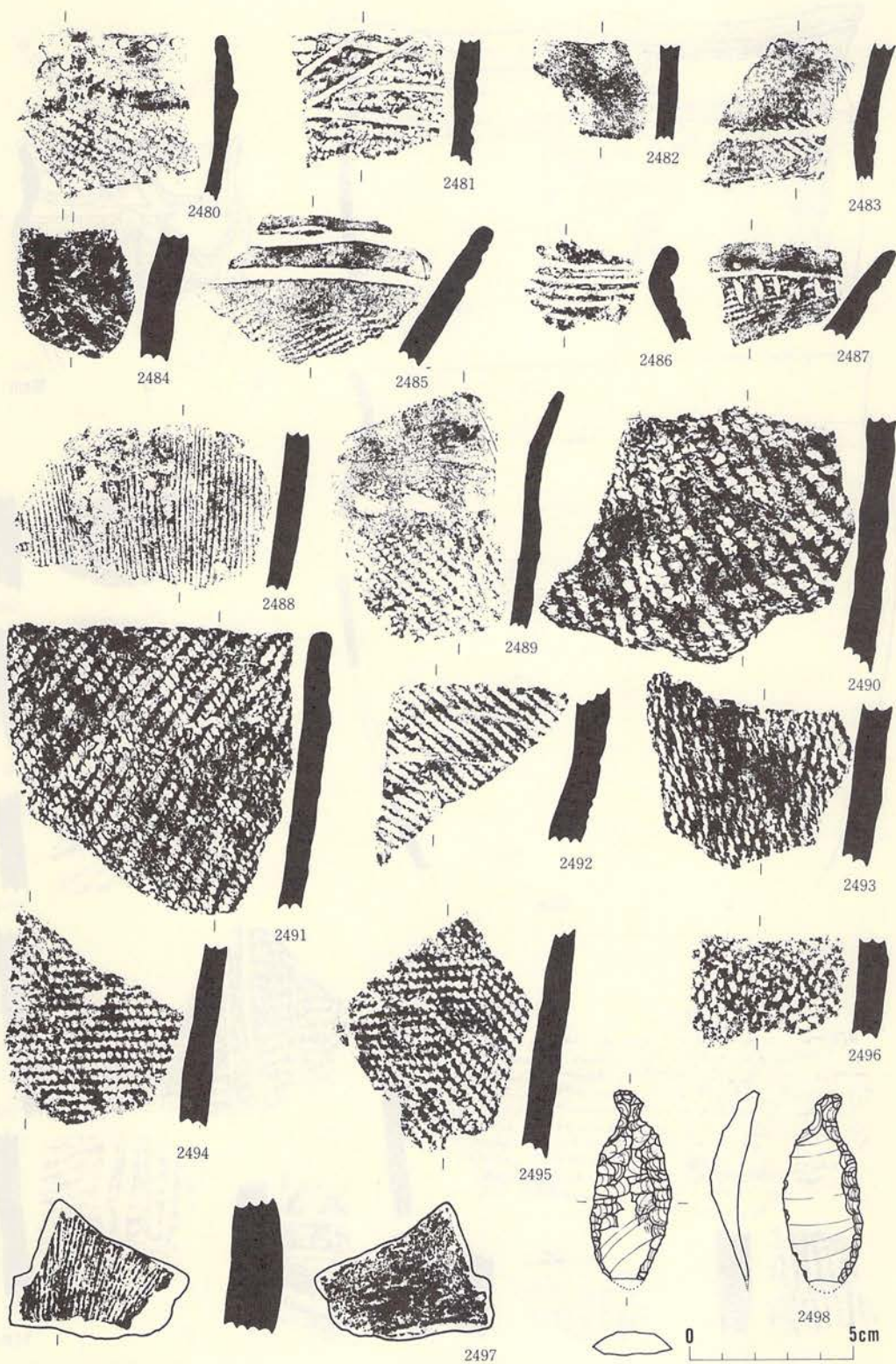


第93图 J VI区粗掘出土遗物(6)

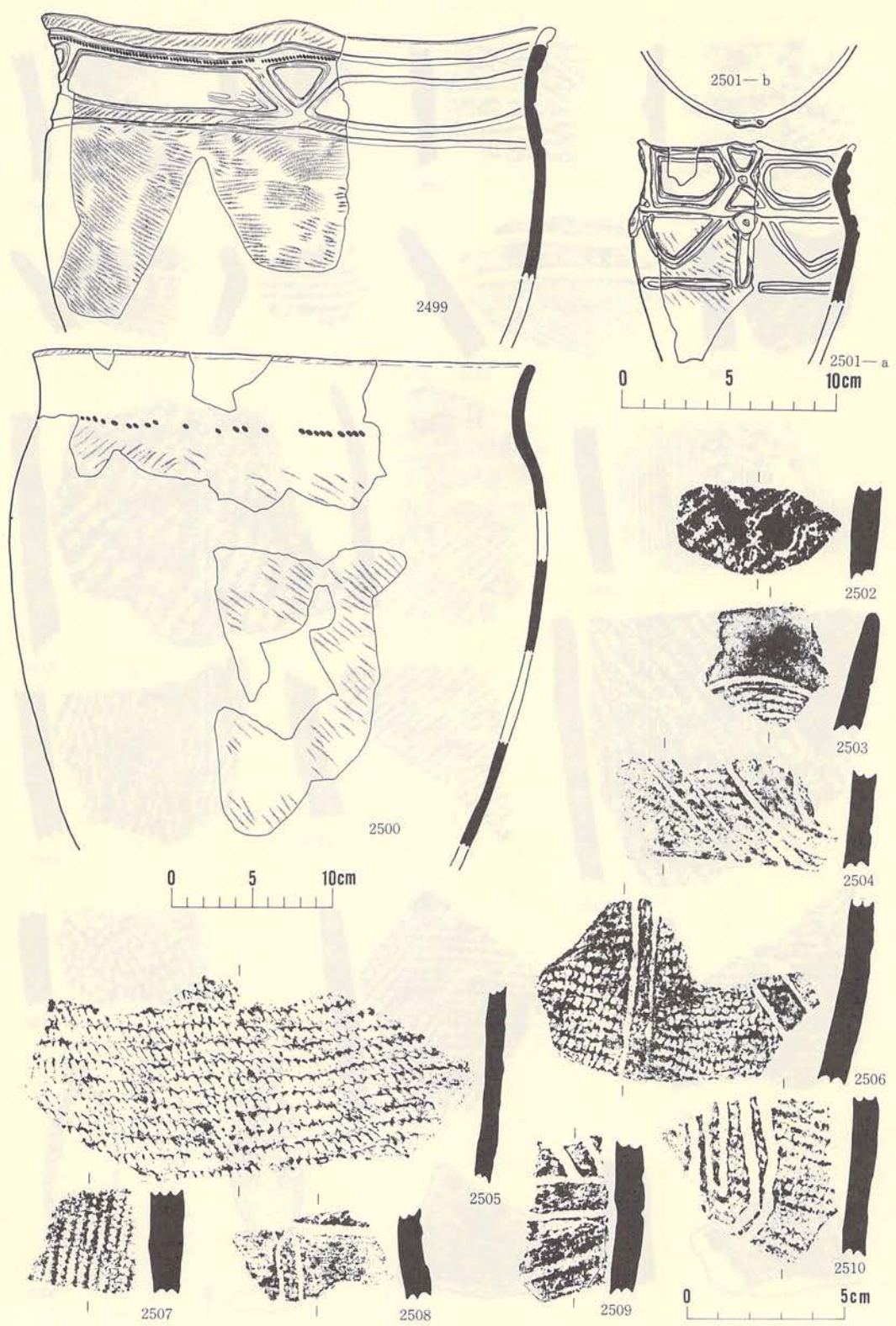


第94図 J VI区粗掘出土遺物(7)





第95图 KV区出土遗物



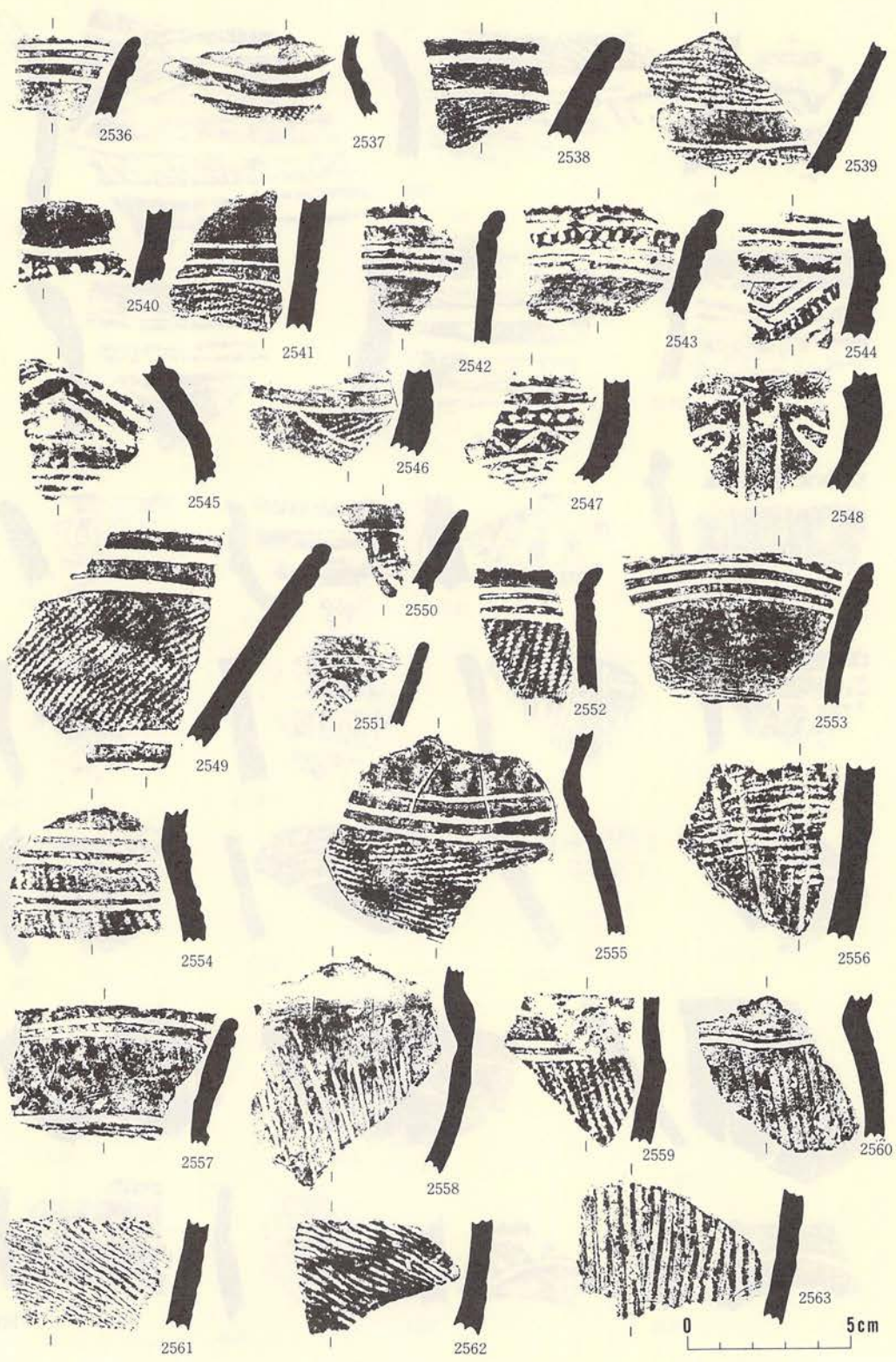
第96图 K VI区粗掘出土遺物





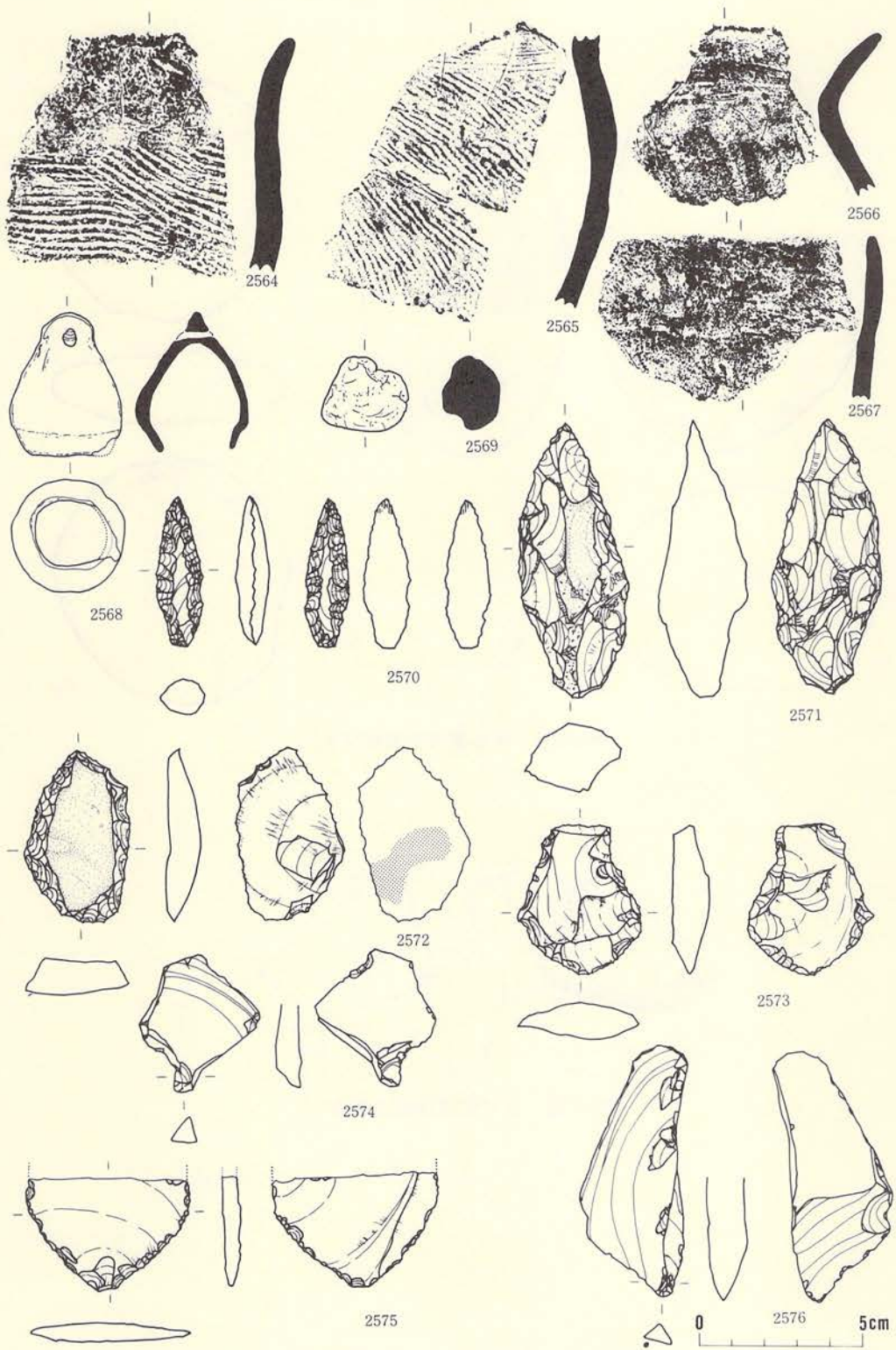
第97图 K VI区出土遗物 (I)



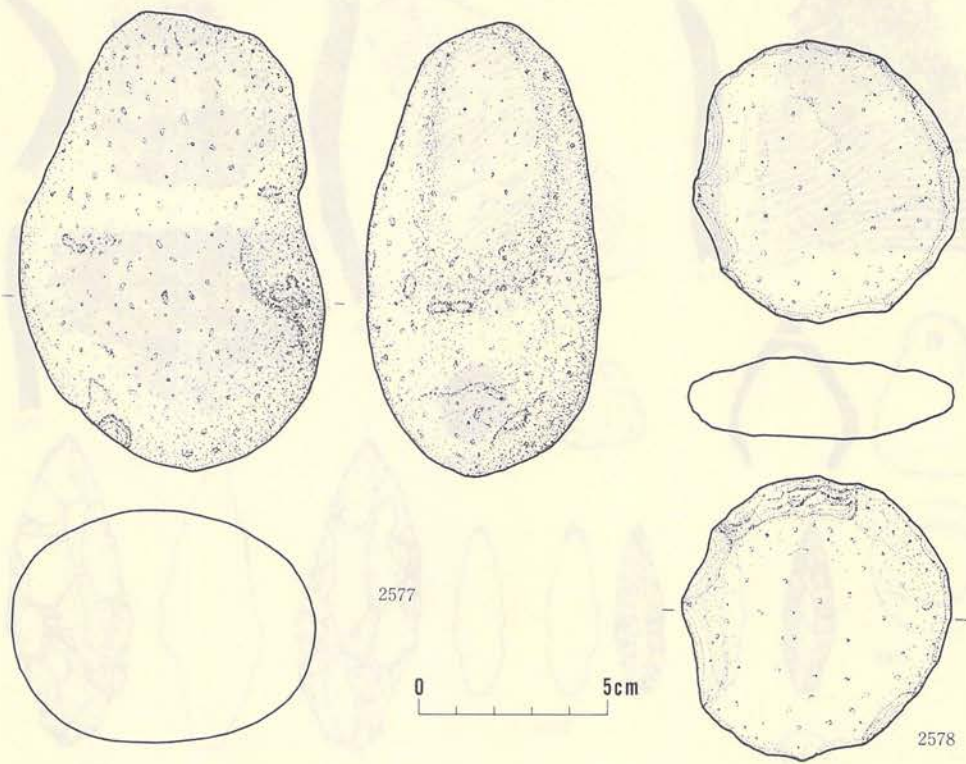


第98图 K VI区出土遗物(2)

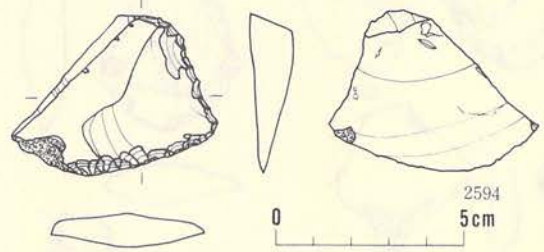




第99图 K VI区出土遗物(3)

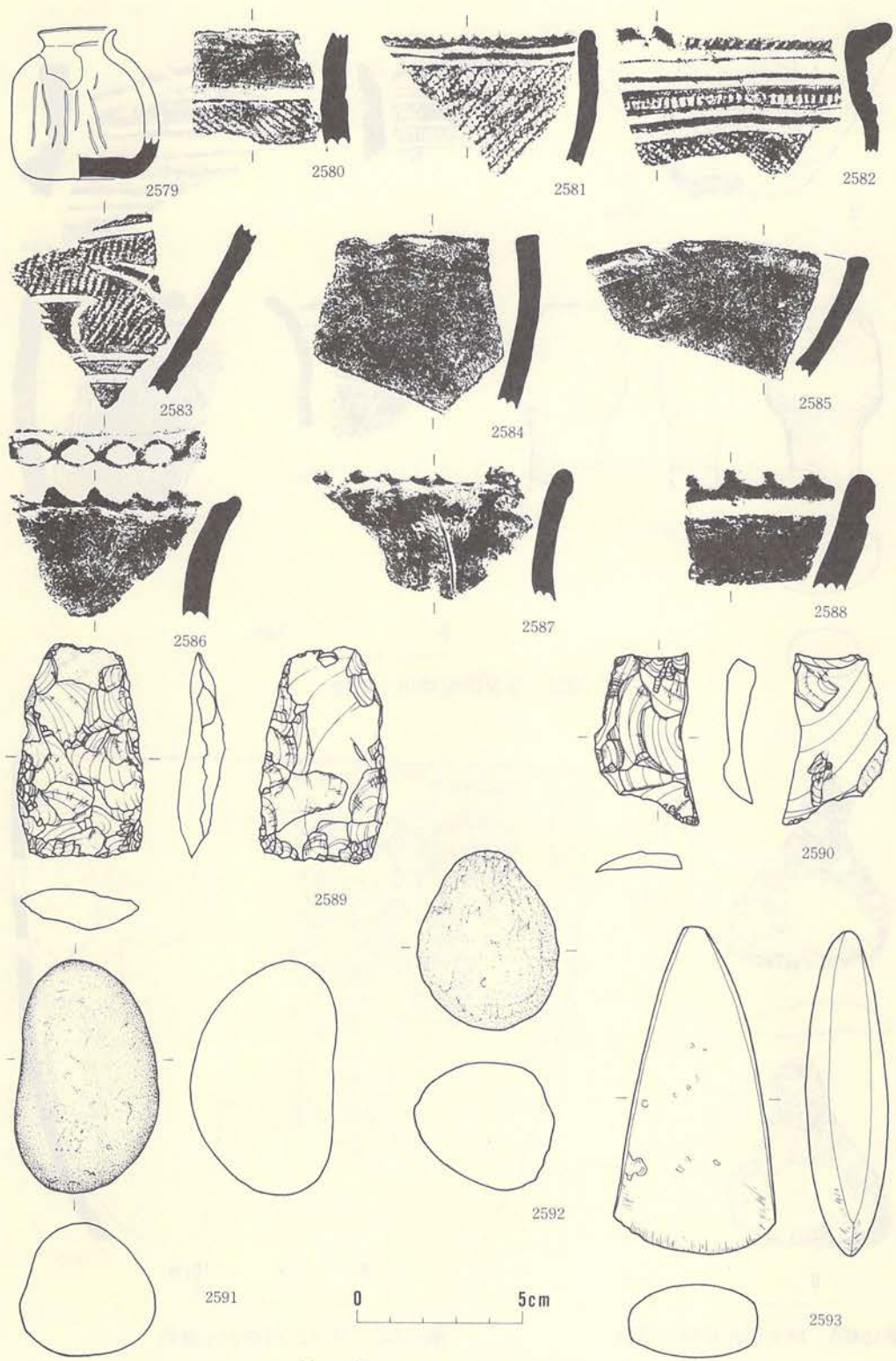


第100图 K VI区出土遺物 (4)

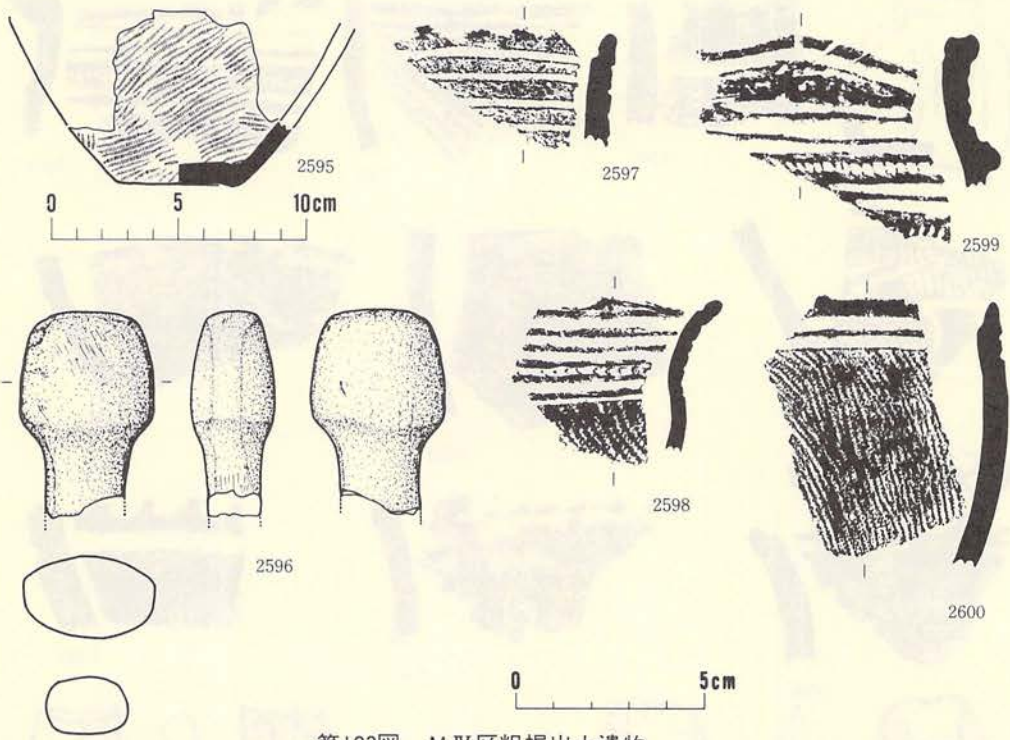


第101图 L V区粗掘出土遺物

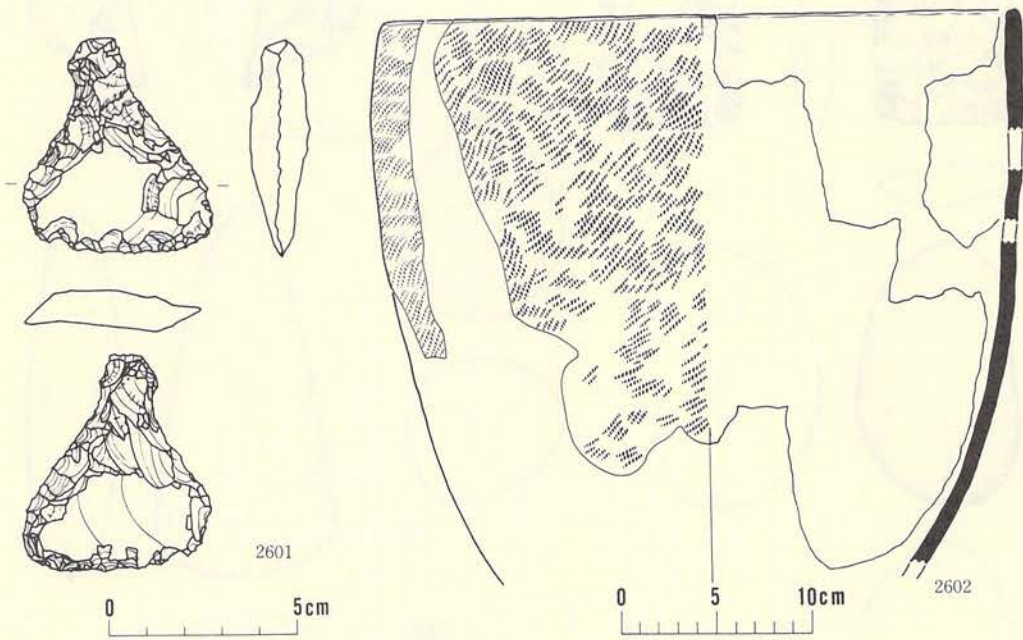




第102图 L IV区粗掘出土遗物



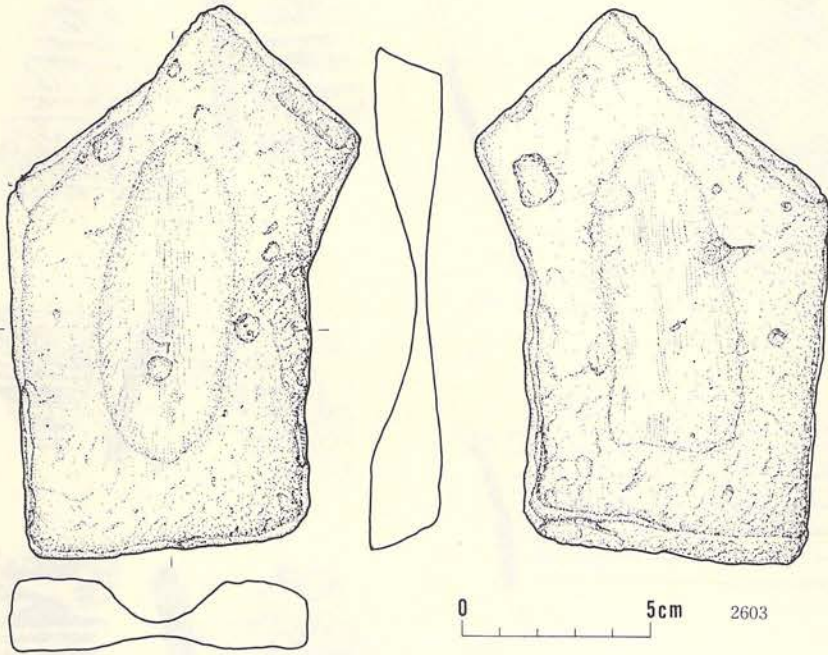
第103图 M IV区粗掘出土遗物



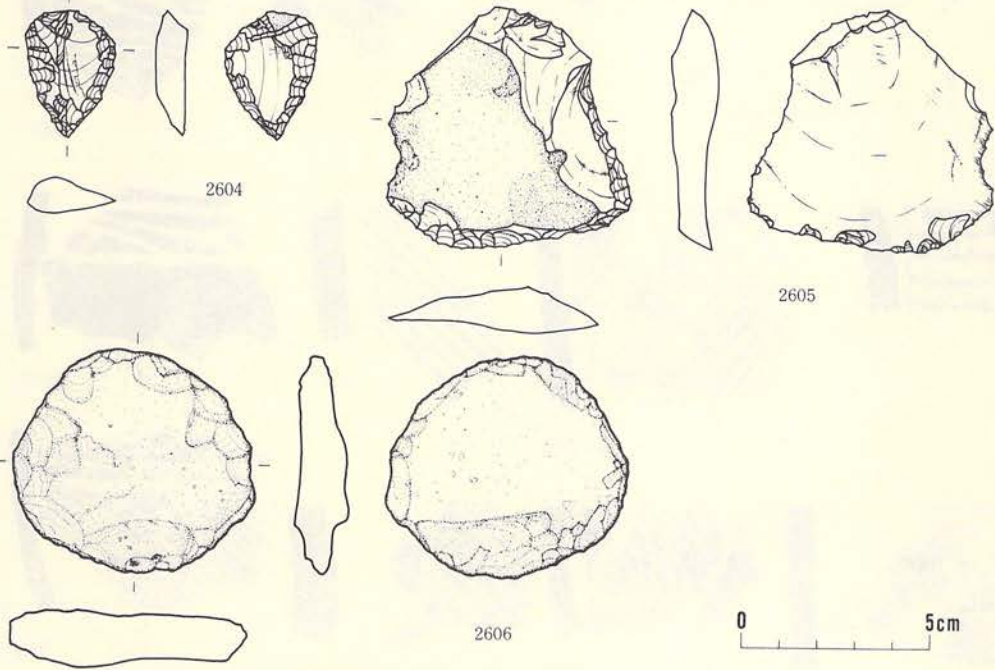
第104图 M V区粗掘出土遗物

第105图 M VI区粗掘出土遗物

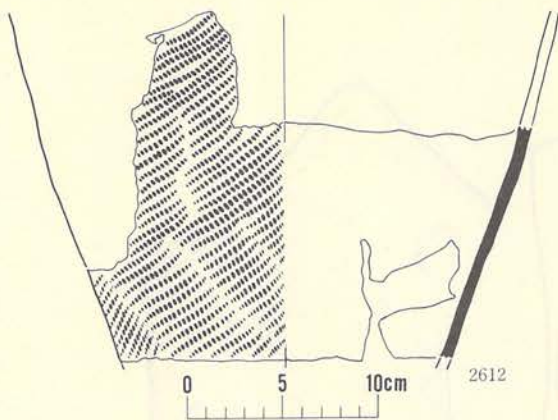




第106图 G III区表採遺物



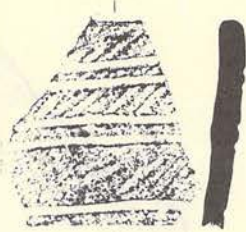
第107图 J IV ~ J V区表採遺物



2612



2615



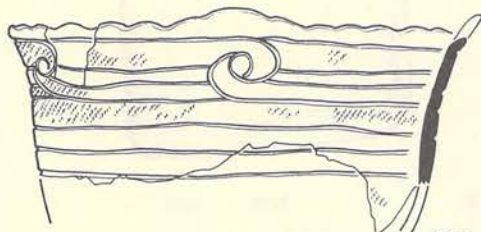
2616



2617



2618



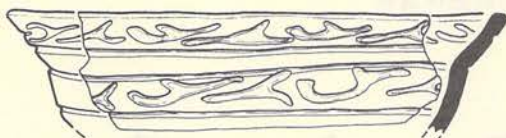
2613



2619



2620



2614



2621



2622



2623



2624



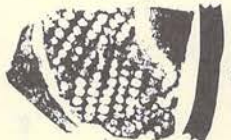
2625



2626



2627



2628



2629

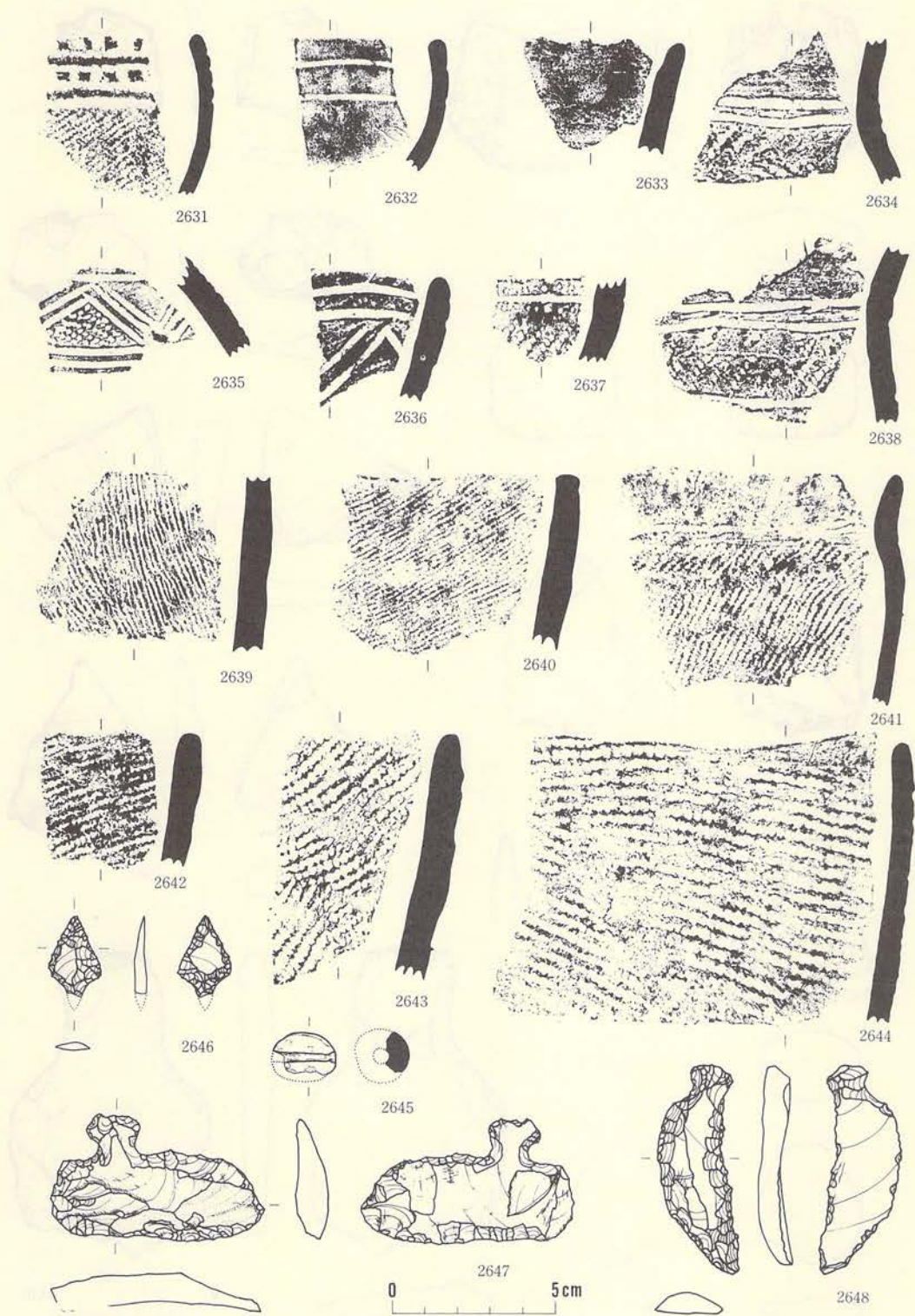


2630



第108图 表採遺物 (1)



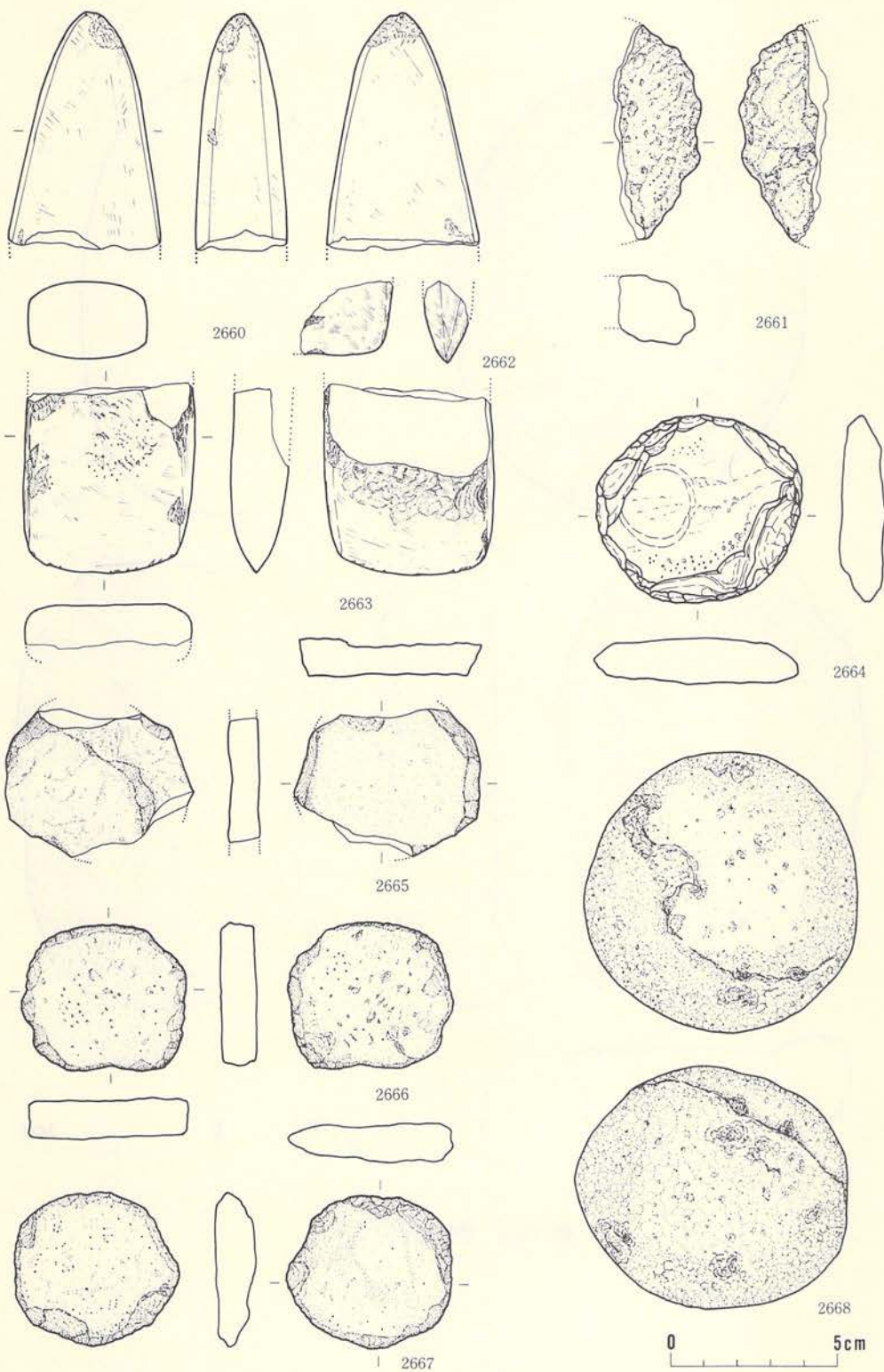


第109图 表採遺物(2)

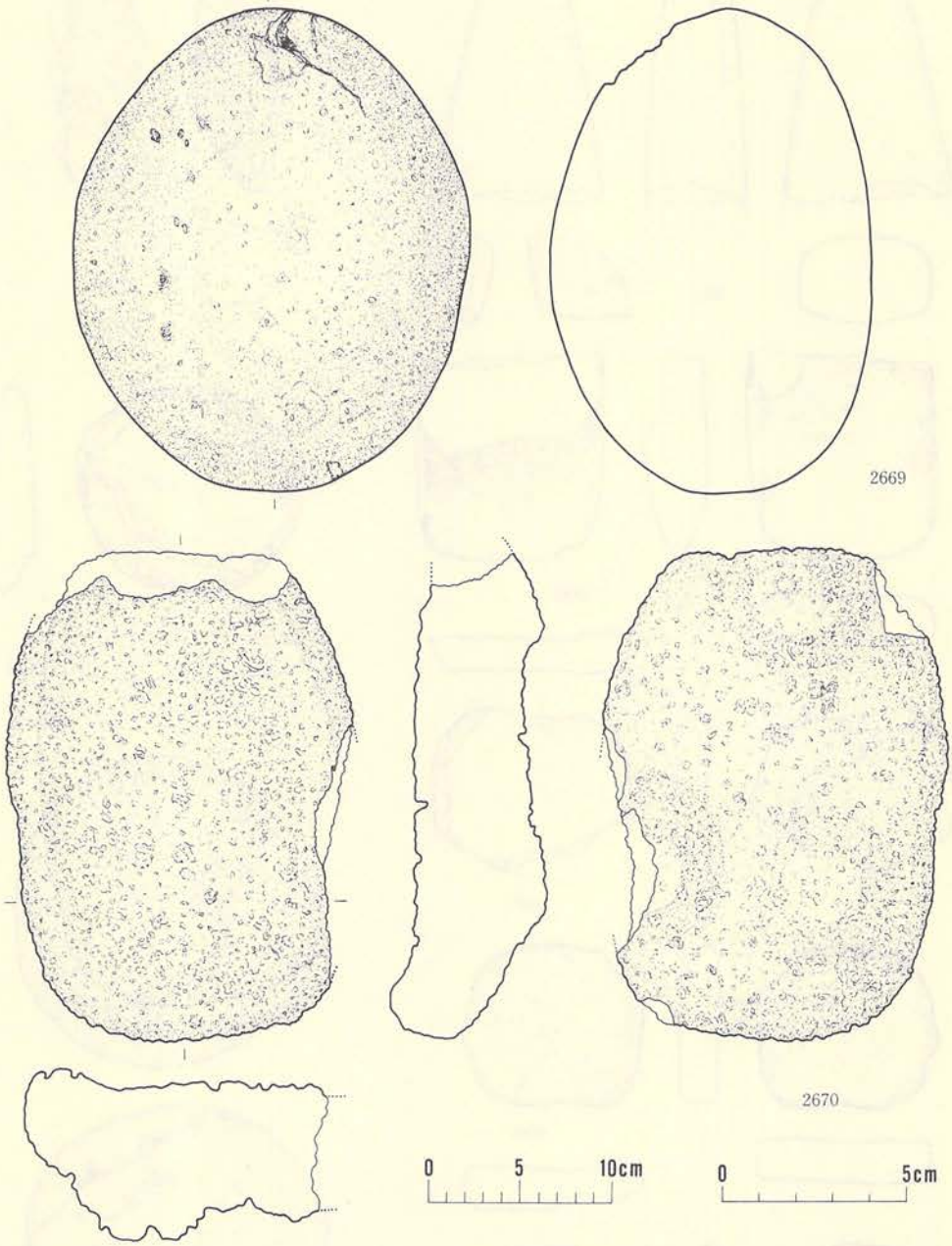


第110图 表採遺物(3)





第III図 表採遺物(4)



第112図 表採遺物(5)



## 第4章 ま と め

### 第1節 遺構について

#### (1) 縄文時代の住居跡

発見された縄文時代の住居跡と建物跡は、中期後葉、後期前葉、後期後葉、晩期前葉の各期のものがあり、住居跡はいずれも竪穴住居跡と思われる。これらのうち、晩期前葉期のものが圧倒的に多く、次いで後期前葉のものが多い。これらは調査区西辺や中央北辺部に集中し、集落跡としてのまとまりをもっているが、他は1～2棟であり集落とみなしうるか疑問である。

##### ○形態

中期のものは円形である。後期前葉のうち、形状の比較的よく残存するものでは隅丸方形～長方形をなしている。後期後葉では円形、晩期前葉では円形がほとんどであるが、楕円形の例が2～3みられる。

##### ○炉跡

中期後葉では四角形の石囲い炉、後期前葉では板状の立石が一辺についた地床炉、後期後葉では円形の石囲い炉、晩期前葉では円形の地床炉と地床炉が一般的である。若干の例外はあるが、各期を通じて床の中央部に設けられるのが普通である。

##### ○柱穴

上部構造に関連する支柱穴数は不明なものが多い。中期後葉の住居跡にはみとめられない。後期前葉の住居跡では壁際に8基並ぶ例があるほか、床中央部に炉を囲んで方形に4基配される例もみられる。後期後葉の住居跡も炉を囲んで床の中央部に四角形に配置される例があり、掘立柱建物跡としたLⅣ—011建物跡を住居跡とみると六角形状の配置になる。

晩期前葉では柱穴配置の不明なものが多く、柱穴の不明な住居跡も含まれる。柱穴配置の明らかな例では中央部の炉を囲んで4～6基の柱穴があり、GⅢ—014住居跡のように縁辺部に支柱穴と思われる柱穴をもつ例もみられる。

##### ○溝

壁際に溝の確認されたのは後期前葉のJⅤ—011住居跡やJⅥ—011住居跡、晩期前葉のFⅣ—012住居跡である。また、溝のかわりに壁際に小さな柱穴列のまわる例としてFⅢ—019・GⅡ—016・GⅣ—014住居跡がある。

## ○立石

F III—019 住居跡の初期のプランに伴う立石がある。炉からやや離れた位置に炉に面して直立している。このような施設は他では知られていないようであり、性格は明確ではない。

## ○入口

入口施設の確認された例はない。

## ○住居跡の規模

各時期の住居跡の床面積は、中期後葉で 3.9㎡、後期前葉が 9.2㎡、後期後葉が11.8㎡といずれも中・小規模に入れられる。晩期の住居跡は 3.2～ 106.7㎡まで平均16.1㎡となるが、大・中・小の3つのタイプに分けられ、中タイプが多い。規模の大小はその機能の相異を反映しているものと思われる。

## ○重複

住居跡の切り合いや重複は集落の占地上の制約によるためか、後期前葉、晩期前葉の住居跡にかなり一般的にみられる。多少位置を変えて複数の住居跡が切り合う場合とほぼ同一の場所に床面や規模をかえて営まれた例がみられる。前者では晩期前葉のG III—011 住居跡が代表的で4～5期の重複が認められる。後者では後期前葉のJ VI—011 住居跡の3期、晩期前葉のF III—019 住居跡、G III—016 住居跡で5期前後の重複がある。

## ○埋土と遺物

住居跡内の埋土は主旨自然堆積と思われる。遺物は住居跡の床面から出土するものが少なく大部分が埋土の上～中層から出土している。

埋土中の遺物は住居跡によって一定していないが、廃絶後捨て場として利用された晩期前葉のE III—011、F III—0113～0116、G IV—0116、H IV—01住居跡などでは非常に多く、その大部分が破片となった土器である。

捨て場として利用された住居跡の主要な遺物包含層はほとんど単一の層からなっており、含まれている土器の文様からみるとかなりの時期幅をもっていることがしられる。しかし、遺物相互の位置関係が複雑であり、個々の新旧関係は確認できなかった。

## ○住居跡の形態と機能

後期前葉の住居跡では平面形が隅丸の方～長方形をなし、床の中央部に板状の石をもつ地床炉がある。この種の形態は東北地方北部では一般的でなく、ほとんどみられないが、曲田I遺跡では少数ではあるが普遍的である。このような例は特殊例なのか、あるいは安比川上流域やさらに広汎な地域に及ぶ形態が今後類例の分布や所属時期についてさらに検討される課題である。

晩期前葉の住居跡はその規模によって3グループに分けられる。このような規模の相違は、



縄文時代の住居跡一覧表

番号	住居跡名	平面形	規模	床面積	柱穴	炉	時期
1	E II-011 住居跡	円形	推 $3.1 \times 2.9$ <sup>m</sup>	5.7 <sup>m<sup>2</sup></sup>		地床炉	縄文時代晩期前葉
2	E II-012 "	"	推 2.0×2.9	5.5		"	"
3	E II-013 "	"	推 4.8×4.3	19.5		"	"
4	E II-014 "	"	推 4.1×4.3	12.0		"	"
5	E II-015 "	"	推 4.0×4.2	11.3		石囲炉(破壊)	縄文時代後期後葉
6	E III-011 "	"	6.0×5.9	26.5		地床炉	縄文時代晩期前葉
7	E III-012 "	"	推 3.0×3.4	7.2		"	"
8	F III-012 "	"	2.4×3.0	5.4		"	"
9	F III-013 "	"	2.3×2.8	4.3		"	"
10	F III-014 "	"	推 4.0×4.1	14.0		"	"
11	F III-015 "	"	2.5×3.1	5.5		"	"
12	F III-016 "	"	推 2.8×3.0	6.0		"	"
13	F III-017 "	隅丸長方形	3.5×3.0	6.8			縄文時代晩期 ?
14	F III-018A "	円形	2.5+α×4.2	16.3		石囲埋糞炉(破壊)	縄文時代晩期前葉
15	F III-018B "	"	推 4.8×4.2	15.7		石囲炉(破壊)	"
16	F III-019A "	"	推 6.0×6.0	25.5		地床炉	"
17	F III-019B "	"	推 5.4×5.3	22.4		"	"
18	F III-019C "	"	4.1×4.0	13.3		"	"
19	F III-019D "	"	3.1×3.4	8.7		"	"
20	F III-019E "	"	2.7×2.8	6.4		"	"
21	F III-0110 "	"	推 5.6×5.1	27.0		"	"
22	F III-0111 "	"	2.5×2.5	3.9		"	"
23	F III-0112 "	"	推 2.2×2.5	3.2		"	"
24	F III-0113 "	"	推 4.7×5.4	23.7		"	"
25	F III-0114 "	"	推 5.0×5.3	20.0		石囲炉	"
26	F III-0115 "	"	推 3.2×3.0	5.8		"	"
27	F III-0116 "	"	推 5.9×5.6	25.5		石囲炉(破壊)	"
28	F III-0117 "	"	推 1.9×1.9			地床炉	
29	F IV-011A "	円形	1.9×2.0	5.0		重複(破壊)	縄文時代晩期前葉
30	F IV-011B "	"	推 2.3×2.6	2.8		重複	"
31	F IV-012 "	"	推 2.6×2.5	6.3		石囲炉	"
32	G II-011 "	"	推 3.0×2.9	8.0	不明	"	"
33	G II-012 "	"	推 4.0×4.3	12.0		"	"
34	G III-012A "	"	推 3.5×3.4	9.6		破壊	"
35	G III-012B "	"	推 3.3×3.5	9.0		"	"
36	G III-012C "	楕円形	推 3.3×2.8	7.8		壊滅	"
37	G III-012D "	円形	推 2.2×2.6	4.0		破壊	"
38	G III-012E "	不明	不明	不明	不明	破壊 ?	"
39	G III-013 "	円形	推 2.6×2.8	5.8		地床炉	"

番号	住居跡名	平面形	規 模	床面積	柱穴	炉	時 期
40	G III-014 住居跡	円 形	推 $4.1 \times 4.0^m$	14.6 <sup>m</sup>		石・土器片囲炉	縄文時代晩期前葉
41	G III-015 "	"	推 4.0×4.3	12.5		地 床 炉	"
42	G III-016 B "	"	11.8×11.3	106.7		"	"
43	G III-016(C <sub>1</sub> ) "	"	推 10.2×9.5	74.5		"	"
44	G III-016(C <sub>2</sub> ) "	"	推 10.0×8.9	71.9		"	"
45	G III-016 D "	"	推 8.6×8.3	58.6		"	"
46	G III-016 E "	"	推 7.4×7.1	42.5		"	"
47	G IV-011 "	"	2.9×3.3	6.5		地 床 炉	"
48	G IV-012 "	"	推 4.2×4.3	9.0		石 囲 炉	"
49	G IV-013 "	楕 円 形	推 2.8×4.1	22.3			"
50	G IV-014 "	円 形	推 6.0×5.9	11.5		地 床 炉	"
51	G IV-015 "	"	推 3.8×3.6	9.6		地 床 炉	"
52	G IV-016 "	楕 円 形	2.3×2.6	3.9		石 囲 炉	縄文時代中期末
53	H IV-012 "	"	推 2.5×2.6	4.5		埋 襲 炉	縄文時代晩期前葉
54	H IV-013 "	"	推 2.3×2.4	5.8			"
55	H III-011 "	"	3.0×3.3	6.9		地 床 炉	"
56	H III-012 "	"	推 16内外×60内外	不明			"
57	H III-013 "	"	推 10内外×40内外	"			"
58	H III-014 "	"	推 10内外×41内外	"			"
59	H III-015 "	"	推 4.6×4.5	16.0		石 囲 炉(破壊)	縄文時代後期後葉
60	H IV-011 "	"	2.4×2.4	4.0		石 囲 炉	縄文時代晩期前葉
61	J V-011 "	隅丸長方形	2.8×2.2	4.0		地 床 炉	縄文時代後期前葉
62	J V-012 A "	不 明	推 3.2×3.4	推8.0			"
63	J V-012 B "	"	推 3.6×3.5	9.5			"
64	J V-013 "	隅 丸 方 形	推 3.7×3.1	10.7		地 床 炉	"
65	J VI-011 "	"	(張出なし) 3.5×4.1 (張出あり) 6.0	11.4		"	"
66	J VI-012 建物跡		1.4×3.2	3.5			縄文時代
67	K VI-011 住居跡	不 明	不 明			地 床 炉	縄文時代後期 ?
68	K VI-012 "	円 形	推 2.6×2.9	5.0		石 囲 炉	
69	L VI-011 建物跡	(六角形)	3.9×2.4	7.5			縄文時代後期後葉

中・近世建物遺構一覧表

番号	遺 構 名	平面形	規 模	床面積	柱穴	炉	時 期
1	J IV-011 竪穴遺構	張出し付長方形	推 $2.2 \times \begin{matrix} 3.4 \\ 2.9 \end{matrix}$ (張出し付) (張出なし)	6.6 <sup>m</sup>		な し	中～近世
2	J IV-012 建物跡	長 方 形	$12.2 \times 6.5^m$			"	"
3	J IV-013 "	"	10.6×5.0			"	"
4	J IV-014 "	長 方 形 ?	2.1+α×4.1			"	"
5	J IV-015 "	"	1.7+α×8.1			"	"
6	J IV-016 "	"	0.9+α×5.6			"	"



機能の違いを反映していると思われる。例えばもっとも多い中型住居跡では夫婦と子供を単位家族として想定でき、大型住居跡を集落の居住者全体に関わる会合や儀式を行なう共同の施設とみなすことも可能である。特に大型住居跡は規模が大きく、占地場所が集落のほぼ中央に位置している。また、床面の凹凸が著しく、床面の南北端の比高が1 mほどもあって傾斜が著しい。さらに床の中央部に配置された柱穴は方位にほぼ一致し、南北中軸線の延長上に馬場山からせり出した尾根の断崖が屹立しているなど他の住居跡と異った点があげられる。

類似した建物遺構には後期前葉の北上市八天遺跡、晩期の弘前市勝山遺跡にみられるが、集落の規模や大型住居跡の集落内における位置など未確認であり、さらに類例をまけて検討する課題である。

## 2. 住居跡

### (2) ピット

ピット類の総数は、大小合せて2,500ほどに達する。その中にはフラスコ形ピットや大～中型の円形鉢形ピットや円筒形ピット、皿形ピット、平面楕円形の舟底形ピット及び各種の不定形ピット・柱穴状ピットなど、種々の形態のものが含まれる。このうち、圧倒的に多いのは、約2,300の柱穴状ピットである。次いで、円形の鉢形、皿形、楕円形の舟底形のピット類であり、総数は100前後で極めて少ない。不整形ピットは40未満で多くはない。このほか、埋ガメを伴う単独のピットが2例あり、1例は柱穴状ピットを転用したものである。

## 3. 土器

### i 時期

大部分のピットに遺物が伴わないために、所属時期の不明なものが多いが、柱穴状ピットの場合、一部が歴史時代に下るほかはほとんど縄文時代に属すると思われる。特に縄文時代晩期前葉の住居跡が密集する区域及びその周囲の柱穴状ピットは、住居跡とほぼ同時期に入る可能性が大きい。縄文時代後期前葉の住居跡の集中区域周辺にあるピットは、住居跡と同時期に入る可能性のほか、付近から弥生時代中期の遺物も出土しており、この時期のものが多数含まれていることも考えられる。LⅣ～LⅤ区の直線状に並ぶ柱穴状ピットは、埋土が非常に柔らかく、新しい様相をおびており、近・現代に入るものと思われる。

フラスコ形ピットと大多数の皿形ピットや円筒形ピット、鉢型ピットは、位置関係や埋土、遺物の出土状況などから縄文～弥生時代に入れられる。フラスコ形ピットのうち、縄文時代後期前葉の住居跡周辺にあるものは、住居跡とほぼ同時期と推定される。他の場所に分布するものについては縄文時代晩期前葉に入るものもみられ、詳細時期の不明なものも縄文時代後～晩期に収まることは確実と思われる。鉢形ピットのうち、大部分は縄文時代晩期に入るであろう。

しかし、I V-021ピットのように縄文時代前期前葉に入るもの、J VI-24ピットのように弥生時代中期に入る可能性があるものも含まれている。また、K VI-022・023・025～027のように埋土の状況などから明らかに歴史時代に下ると思われるものがある。

楕円形の舟底形ピットのうち、J V-022、J VI-025・026・028・029・0211・0223の各ピットは形態的に類似し、时期的にもまとまりのあるピット群と見なすことができる。そのうち、J VI-028には弥生時代中期の土器が出土しており、この時期に位置付けられる。他はほとんど時期不明であるが、K VI-025ピットのように縄文時代後～晩期に入るものやK IV-024ピットのように歴史時代に入るもの、F III-022ピットのように縄文時代後～晩期に位置付けられるもの、K IV-021～024ピットのように縄文～弥生時代に入れられるものなどがある。

不定形のピットについても既述のピットと同様に縄文時代～歴史時代にいたる各時期のものが含まれているとみられる。

## ii 用途・機能

各ピットの用途や機能についてはよく解らないが、類例や位置関係などから推定できるものは柱穴状ピット、フラスコ形ピット、楕円形の舟底形ピットなどである。

柱穴状ピットの場合、その大部分が住居跡や建物跡に関連した支柱穴や柱穴の跡と思われる。断面や埋土の状況からは柱の部分と埋土の部分が明瞭なものと不明瞭なものがあって一定していないが、前者の形が圧倒的に多い。縄文時代後期前葉及び晩期前葉の住居跡周辺には多数の柱穴状ピットが散在しているが、資料が不十分で個々のピットの帰属関係や相互の配置形については明らかでない。そのほか、歴史時代のものの中には柵の柱穴列と思われるものも含まれる。

フラスコ形ピットは、多くの遺跡で指摘されているように貯蔵穴の一種と思われる。しかしその大きさについては縄文時代中期頃の一般的な形態のものに比較してはるかに小型である。

楕円形の舟底形ピットのうち、弥生時代に入るものの中にはJ IV-026ピットのように埋土中に赤色顔料の粉末が混じっていたり、J IV-028ピットのように完形の壺が入れられているものがある。土壌中に壺などを伴う例は県内では弥生時代の水沢市常盤広町遺跡にもみられ、赤色顔料の散布される例では時代が不明であるが、青森県八戸市是川遺跡などで発見されている。いずれも墓壇と思われる例であり、曲田 I 遺跡の場合も同様の施設跡とみられる。その場合、一部のピットに付随してみられる柱穴状のピット、あるいは赤色顔料の散布域と死者の頭位との関係など明らかでない点があるが、今後の比較検討が必要である。そのほか、同様の形態をもつ縄文時代後～晩期頃のピットが10基ほど点在しているが、その一部は墓壇かもしれない。歴史時代に入るJ V-0212ピットについては、必ずしも同一機能を有するとはみられず、な



お検討を要する。

やや大型の円筒形ピットである I V-021ピットは、縄文時代の陥し穴とされるピットの一種に類似しており、これと同様の機能をもつものかもしれない。

そのほか、各所に点在する不定形ピットについてはほとんど不明なものが多く、無作為的に形成されたものが含まれていることも考えられる。

### (3) 焼土遺構

他の遺構に伴わないと思われる焼土遺構は10ヵ所である。いずれも伴出遺物がなく、時期は明らかでない。埋土の関係からみると、I III区の焼土遺構以外は縄文時代の遺物を含む層の下に発見されており、縄文時代に属する遺構と考えられる。

性格については、焼土遺構の周辺に柱穴群が存在するものでは住居跡に伴う炉跡の可能性も十分考えられるが、伴わないものはやはり簡易的な野外炉と考えることが自然と思われる。

### (4) 集石遺構

集石遺構と認められるのは調査区西辺に位置する F III-0113~0115住居跡の北側に1例あるほか、北東の I IV区溝跡に1例がある。前者は縄文時代後期初頭の遺物が出土する F III-020ピットを被っているが、伴出遺物がないため時期を特定することができない。

性格についても明らかでないが、位置関係からは F III-0113~0116住居跡が作られる際に掘り出された石が積みあげられた跡かもしれない。また、F III-02・ピットを墓壇とみるとこれに関連した墓域施設跡の可能性もあげられる。

後者の集石遺構は位置と形状から、溝が埋没する以前に水を堰止めるために作られた施設跡と考えられる。伴出遺物がないので特定できないが、溝中から石皿や石斧などとともに縄文時代の土器片が出土しており、縄文時代の遺構と考えられる。

### (5) 捨て場跡

縄文時代の集落跡に伴う生活廃棄物の捨て場跡は、集落縁辺部の空地や斜面に単一遺構として存在する場合と住居跡の凹地を利用する場合である。

後者の例は、晩期の E III-011住居跡や F III-0113~0116住居跡、G II-012、G IV-017住居跡、H IV-011住居跡などに認められる。これらの住居跡は E III-011住居跡のように廃絶後間

もなく利用された例もあるが、いずれもある程度埋没した段階で利用されているようで埋土上層部に遺物の集中がみられる。この中には従来の編年上の様式区分で大洞B式と大洞B-C式とされる土器がほぼ同一層に混在しているものが多い。

このほか、晩期の遺物を主体とする捨て場が3ヵ所、時期の特定できない捨て場跡1ヵ所がある。前二者は晩期前葉期の遺物を主体とし、他の1ヵ所は晩期中葉のC<sub>1</sub>式相当期の遺物によって構成されている。時期不明の1ヵ所は遺物包含層が大部分削平をうけて失われており、粗製の土器片で占められているものである。

これらの捨て場跡は、当然のことながら同時期の集落跡に伴うものと考えられるが、晩期前葉と時期不明の捨て場跡については関連する遺構が存在していると想定され区域がすでに削平されており、帰属関係は明らかでない。

## (6) 竪穴住居跡状遺構と掘立柱建物跡

竪穴住居跡状遺構及び掘立柱建物跡とその周辺にある柱穴状ピット群については、伴出遺物がなく、その所属時期は明らかでない。柱穴の埋土が縄文時代の住居跡に伴う柱穴のそれより柔らかく新しい様相を示していることや各地の調査例からみると形態的に中世～近世前期の建物跡に似ている。

これらの遺構の位置関係からはすべて同時期に存在したことは考えられない。しかし、各遺構の上部を被う黒ボクシルト質土からは新旧が判明せず、ほとんど耕作によって攪乱をうけており、遺構相互の重複関係は明らかでない。重複の可能性とその位置からは竪穴住居跡状遺構と掘立柱建物跡はそれぞれ独立して営まれた可能性もあるが、いくつか共存していたことも考えられる。

## (7) 道路跡

道路状遺構には土層断面の観察などから少なくとも3期以上の重複のあることが認められる。時期を決定する伴出資料が出土していないため、時期を特定することは困難であり、現状では縄文時代より近代までに求められる。

安比川流域と鹿角市方面を結ぶ交通路が古来から開けていたことは、「三代実録」等の史書からも十分伺われるところである。しかし、その経路を具体的に知り得るのは近世以降であり、主要な交通路は近代初期まで曲田の集落を経て新田川の谷を登り、梨木峠、田山を経由して花輪方面に向って延びている。現在、遺跡を貫いて西北西から南東方向に走る町迄はその名残りであり、存続期間中に改修や付け替えが行なわれたことが推定される。



## 第2節 遺物について

### (1) 土器

遺構の内外から出土した土器は、破片を含め、約10万点に達する。これらの中には縄文時代前期初頭、中期後葉、後期前～後葉、晩期前～中葉、弥生時代中期中葉の各時期に属する土器が含まれている。中でも縄文時代晩期前葉期の土器が多く、出土した土器の過半を占めている。次いで後期前葉、晩期中葉、弥生時代中期の土器であるが、その数ははるかに少ない。以下は縄文時代前期前葉、中期後葉、後期後葉・中葉の順である。

#### ○縄文時代前期初頭

縄文時代前期初頭の土器は胎土中に植物繊維を含み、文様の特徴から大きく2群に分けられる。1群は竹管様原体の木口部分を縦・横等に押し引きした一種の沈線が外面全体に施される尖底土器群である。類例には函館市春日町・梁川町などの道南部を中心に、東北地方北部にかけてみられ、県内では二戸市上里遺跡などから同時期かやや遅れる時期の土器が出土している。いずれも早期最終末～前期初頭頃の位置付けが考えられる。

他の1群は外面に斜縄文を主とした地文が施される土器群であり、口辺部に横行する不整撚糸文やループ状撚糸文が加わったり、胴部に横行する綾絡文の加わるものが含まれる。さらに斜縄文のほかに少数ながら網目状撚糸文の地文が施される例がある。斜縄文の種類はRL、LRのほか0段多状と無節のものがみられる。器形は大部分平底、または尖底の深鉢と思われるが、全体の形がしれる資料がないので詳細は明らかでない。文様の構成上からはさらにいくつかのグループに分けられる可能性もあるが、広く縄文時代前期初頭に位置付けても誤りはないと思われる。

#### ○縄文時代中期中～後葉

縄文時代中期中～後葉とした土器群は胎土中に砂を含み、大きく2群に分けられる。1群は1例であるが、斜縄文と横行する綾絡文を胴部文様とする土器である。類例は円筒上層E式などにあり、中期中葉頃と推定される。周辺の遺跡では湯の沢・荒屋II遺跡に中期中葉の大木8a、8b式に相当する土器があるが、曲田I遺跡では確認されていない。

他の1群はやや太い沈線で区画された磨消縄文帯を主体とする土器群であり、さらに湾曲する降線や点列文を伴うこともある。器形としては深鉢型土器が主体となるようであるが、全体の知られる資料が乏しく詳細は不明である。これらの土器群はさらに次のように細分される。

(1) やや幅広い沈線で縦方向に長く区画される大木9式に相当する破片1点である。類例は有

矢野遺跡にみられる。

- (2) (1)より細い沈線で胴中～上部にかけてJ字状・C字状・やや不定な雲形状等に区画され、ヒレ状の隆線や列点文などを伴うこともある。そして、この種の丁寧な作りの土器には、網目状か簾状の撚糸文が施される簡素な土器が相伴している。文様構成上からは多少の幅があるようであるが、従来大木10式の新段階の土器群とされているものに相当する。ほとんど破片しか出土していないが、周辺の越戸Ⅱ・上の山館・上の山Ⅶ・上の山Ⅹ・荒屋Ⅰなどの遺跡にはかなりまとまって出土している。
- (3) 磨消しを伴わず、斜縄文の地文に直接沈線に雲形の区画文様の描かれる土器群である。時期的には(2)と同じかやや遅れる時期のものと考えられ、東北地方の南部はもちろん県南地方ではほとんどみられず、主として青森県などにみられる土器群である。文様的には大木10式土器の地域的な変形と考えられる。

#### ○縄文時代後期前葉

大きく2群に分けられる。1群は口辺部に細い隆線を伴う鎖線文やボタン状突起が付され、関東地方の掘の内Ⅰ式、東北地方南部の綱取Ⅰ式等に併行、またはやや遅れる時期のものと考えられる。また、県南の門前式とされる資料などに併行かやや遅れる時期のものと考えられる。構成器種は細片が多く不明であるが、県内の陸前高田市門前貝塚、北上市樺山・八天などの遺跡ではかなり豊富にみられる。

他の1群は縦・横・斜め、あるいは蛇行する沈線によってS字状連続文や核果状文など各種の幾何学的文様の描かれる土器群と磨消し縄文の手法や隆線区画を併用する土器群、さらに斜縄文や網目状撚糸文のみが施される土器群から構成される。この土器群では斜縄文の場合、頸部のくびれた器形が多く、口頸部が無地になりこれに縦・横方向の撚糸側面圧痕文がめぐられる例や口唇部に縄文帯のめぐられる例がある。笹の葉や木葉痕、網代痕なども東北地方では中期末から盛行するようであるが、この土器群にかなり普遍的にみられる。

このような構成の土器群は文様上多少の時期幅があるが、従来縄文時代後期前葉に位置付けられ、十腰内Ⅰ式とされた土器群に非常に近い内容をもっているといえる。器種には大小の深鉢型土器、小型の壺型土器、小型浅鉢型があり、他の遺跡では朱塗りの破片も若干みられる。

類例には青森・秋田・岩手の各県で多数発見されており、近年の調査では軽米町長倉・駒板一戸町小井田Ⅳ、盛岡市萩内などの遺跡に出土している。

#### ○縄文時代後期中葉

出土点数が極めて少ないが、大きく2群に分かれるようである。1群は縄文の地文上に平行する横行沈線が施され、これに直交する蛇行沈線をもつものであり、文様は関東地方の後期中葉の加曽列B<sub>1</sub>式などに典型的にみられるものであり、併行関係にあると思われる。



他は細い沈線で波状口縁の突起部に同心円状の文様の施されるものであり、鹿角市大湯、北上市八天などの遺跡に類例がみられる。前記の十腰内Ⅰ式相当の土器よりやや時間の降る縄文時代後期中葉の前半、早くても前葉の後半ほどの時期になる土器群と思われる。

#### ○縄文時代後期後葉

文様の構成上から大きく2群に分かれるようである。1群はコブ付土器を含む一群であり、精製土器では無文のもの以外に沈線区画された帯状の磨消縄文帯が多用される。帯状縄文帯は横行したり、彎曲して眼鏡状に配され、また、向きの異なる円弧を交差や連続させる入組文を構成している。さらに精製土器、粗製土器をとわず、異方向の斜縄文が多用される特徴がある。この種の土器はやはり後期中葉の土器群と同様、関東地方に類例がみられ、縄文時代後期中葉～後葉の中間に入る加曾利B<sub>3</sub>、曾谷、安行Ⅰ式などの土器に相当するものと思われる。東北地方では相馬市新地小川貝塚、名取市宝ヶ峰、塩釜市西ノ浜貝塚・宮戸貝塚、県内では盛岡市萩内、大槌町崎山弁天、西根町崩石など多くの遺跡に出土している。

2群は平頂や2つの山形突起をめぐる口縁をもち、口縁～胴中部に縦の刻線列を沈線区画した帯が横にめぐるか彎曲しながら入り組んで連続した文様をもつ一群である。コブの付くこともあるようであるが、全体に点数が少ない。

類例には関東地方の安行Ⅱ<sub>b</sub>式などにあり、東北地方では塩釜市台囲貝塚・西ノ浜貝塚、盛岡市萩内遺跡など各地にみられ、縄文時代晩期最終末に位置付けられる。

#### ○縄文時代晩期前葉

もっとも出土点数が多く、大小の深鉢型土器、小型の浅鉢型土器、大中小の台付鉢型土器、注口土器、皿型土器、椀型土器、大中小の壺型土器、各器形の小型品などが含まれる。各器形は形態上種々の変化がみられるが、概して大型は胎土、器面調整、文様などの粗末なものが多く、小型の土器に精巧なものが多くなる傾向が認められる。

文様は大型深鉢型土器などで外面全体に縄文の付されるものが主体を占めるが、口辺部にわずかに文様帯をもつものも多い。ほかに全体無文のものもみられる。中小型の深鉢ではさらに口辺部文様を有するものが多い。

浅鉢型土器、台付土器、皿型土器等では口辺部文様をもつものが主体をしめ、無文や縄文のみが施される例はほとんどない。

壺型土器では、①胴部全体に縄文のみが施されるもの。②胴下半部に縄文、胴上半部に磨消し縄文の施されるもの。③外面全体がヘラミガキされ、口辺部あるいは胴上半部に沈線文状の文様が施されるもの。④外面全体がヘラミガキされ、無地のものなどの種類がみられる。器形からみると①は中小型のものも多く、②は大中小型品に多く、大型でも作りが精巧である。③、④は小型品に多く丁寧な作りのものが多い。

各器形の中には祭礼具などの特殊な機能の想定される朱塗り土器が少数含まれ、中型の台付浅鉢型土器、浅鉢型土器、壺型土器に認められる。特に皿型土器、小型の壺型土器に若干多くなるようである。しかし、注口土器に朱塗りの例はみられない。また、漆塗りの例も極めて少ない。そのほか、器壁の内外面に煤・炭化物の付着する日常の煮沸用具には、大中小の深鉢型土器、大部分の小型浅鉢型土器と台付鉢型土器がある。

これらの土器は、文様上から無文や斜縄文のみの施される粗製土器を除いて以下の4群に分けられる。

1群は深鉢型土器などの口辺～胴上部や口～胴中部に沈線区画された磨消し縄文によって横または階段状の帯状文が施される土器群である。後期後葉に連なる階段状の文様や山形突起からなる波状口縁が一般的であるが、瘤はまれにしかみられない。口辺には平縁のものが若干含まれる。さらに文様の中間部に列点文が配されたり、横行する帯状磨消し文様帯をいくつかに分轄し、その境界部に円や点を囲むような沈線文、いわゆる玉抱三叉文状の文様をもつもの、あるいは口辺の突起部に三叉状の沈線が付される例もみられる。胴下半部では上部の磨消し縄文と同じ原体を回転させる単節の斜縄文が施される。そのほか、やや粗製の深鉢のなかには緩い波状口縁を有し、口辺のまわりに沈線区画されて無文帯をもつものがある。また、注口土器にはほとんど無文で丸胴になり、口辺部の大きいものがあるほか、深鉢型土器に似た文様の施されたものがあるようである。

類例にはいわき市寺脇貝塚、鳴瀬町里浜貝塚、弘前市大曲・十腰内、八戸市是川、木造町亀ヶ岡、盛岡市萩内遺跡など東北地方各地にみられ、縄文時代晩期最初頭に位置付けられている。その扱いは一定していないが、大洞B式の古式、あるいは大洞B式に先行する時期の土器群と考えられている。宮城県里浜貝塚の台囲地区の出土例によってみると、1・2群に共伴する粗製土器の中には羽状縄文の出現する頻度が高いようであるが、曲田I遺跡ではそれほど多く出土していない。

2群は主として口～胴上部に横行する沈線などで無地の文様帯が区画され、その中に向いあう三叉状沈線文が連続して描かれる一群である。瘤や玉抱き三叉文も省略形としてわずかにあるが、ほとんどみられない。文様帯にはしばしば横方向の点線文が伴う。三叉文は一段のほか2・3段に描かれる場合もみられる。胴部には多くの場合単節の斜縄文が施される。口辺部は深鉢型、浅鉢型、台付鉢型土器などでは小波状縁や、やや目の粗い鋸歯状縁が多く、平縁も若干含まれる。また、2・3頂の突起列からなる口縁もみられる。さらに、浅鉢や深皿型と思われる土器の中には口辺の一部に複雑な形の装飾突起の付く例もみられ、小型深鉢型土器では胴部に尾の付いた菱形の連続文の施される例がある。

注口土器は1群のそれより全体に低く、受け口部分も低く内彎して前方部にせり上がる。文



様は受け口部分の口唇部と胴上半及び注口の付けね部分に施され、横行する平行沈線文、列点文、三叉状文を主とし、それらの変形文で占められる。台付土器では脚部に三叉文や玉抱き文状の透しの入る例がみられる。

類例には東北地方を中心に東日本各地にみられ、大洞B式としてしられる縄文時代晩期前葉の代表的な土器とされている。

そのほか、この種の文様の鉢型土器には、三叉文の尻の部分に2・3のヒレ状沈線が付加される例、口唇部上端に三叉文の一部が延びる例、突起部を囲むように切り込みが入る例があり、さらに歯列状文や羊歯状文の先駆形というべき文様もみられる。また、三叉文の施される文様帯はほとんど無地であるが、まれに帯状縄文帯が併用されたり、斜縄文の地文に直接三叉状文の描かれる例がみられる。

壺型土器では胴部に縄文のみ施される例もあるが、精製の壺型土器では無文のほか、胴下半部に縄文、上半部に縄文の地文に沈線と磨消しによる楕円文、菱形文の入組み文が施され、頸部に三叉文の入った帯が一条めぐる例もみられる。

3群は台付土器、深鉢、浅鉢型土器の口～胴上部に三叉状文のかわりに沈線によって数段の歯列や羊歯状の文様の描かれる一群である。胴下部の文様は三叉文の施される場合と同様である。列点文はかなり少なくなる。口唇部にまわる突起は2・3の小突起の列からなるのが普通であり、口唇そのものが羊歯状文を構成する要素として重視されている。そのため、沈線によって細工が突起部とその周辺の口唇全体に施されている。

このようにして施された歯列や羊歯状文の列は、概して目が粗い。羊歯状文の場合、葉軸となる部分が端部以外は平らなものが多い。これは一戸町蒔前台遺跡などに多くみられる目の細かい葉軸部分の斜めに走るものとかかなり印象を異にしている。これは層位的に未確認であるが文様上からは前者が古い要素をもっており、地域的な差というより時期差によるように見受けられる。

形態的な特徴としては、小型の台付土器の場合は口辺部にミミズク形の複雑な装飾突起の付くもの、脚部に透しを持つもの、小型深鉢・浅鉢型土器などの中に胴部に尾の付いた菱形の連結文の施される例や四葉形区画文の描かれる例などがある。壺型土器の体部文様はやや大ぶりの磨消し縄文や沈線による雲形文やK字状文、X字状文等が多くみられる。

小型の壺形土器はすべて平縁であり、無文、または胴部に縄文をもつ以外は口～胴上部に目の粗い歯列文や羊歯状文の施される例が一般的である。また、朱塗りも比較的多くみられる。

4群は、①精製土器の口辺は細かな鋸歯状口縁、平縁が主流を占め、2・3の突起列からなる口縁はほとんどみられない。大小の台付鉢型土器の口辺にコブ状装飾突起の付く例がみられる。②口辺部のまわりに羊歯状文、歯列文から発展したと思われる細かな歯列文や斜めに区切

られる直線的な羊歯状文の施される一群である。

この種の土器は、台付土器や小型深鉢などでは主として胴中～上部にやや細い線の雲形文が描かれる。さらに浅鉢や皿型土器の中に口唇～口辺部内面に連続菱形か三角形の隆線文が施される例がみられる。また、隆線の上に縄文の付されるものもある。注口土器では完形品がないが、鉢や皿型土器などにみられるようなやや直線的な雲形文が胴部に施されるようである。

#### ○弥生時代中期中葉

弥生時代中期中葉頃の土器群である。主として浅鉢型土器や台付鉢型土器などでは平行沈線や円弧状の沈線、丸みのある三角形の沈線などで区画された縄文帯を有する。縄文はほとんど粒子が細かく単節である。縄文帯はしばしばまるい列点文、縦長の刺突文を伴う。深鉢型土器等では細かな押し潰しを伴う鋸歯状口縁もあるが、平縁の例も含まれる。胴部の地文は横や斜め方向の斜線、撚糸文状の文様が施される例があるほか、縦方向の条痕文をもつものがある。

胴上部や口辺部周辺には沈線によって鋸歯状文が施されるもの、沈線によって鋸歯状文が施されるもの、三角波状沈線を組み合わせて上下左右に連続する重菱形文状の文様が描かれるもの、平行線の間には鋸歯波状沈線が施され、三角形のジグザグ模様が描かれるものなどがみられる。また、壺型土器の胴中部や上部には沈線と刻線の施される隆線によって三角形の区画の連続文が描かれる例がある。

類例には大曲市宇津ノ台、琴浜村志藤沢、小坂町小坂鉦山、平鹿町牛首、田舎館村垂柳、県内の松尾村金沢屋敷、一戸町滝野遺跡などがあり、その一部の土器に類似している。各遺跡の土器は柵形囲式土器などと同時期に位置付けられており、これらとほぼ同時期と考えられる。

#### ○朱塗り土器

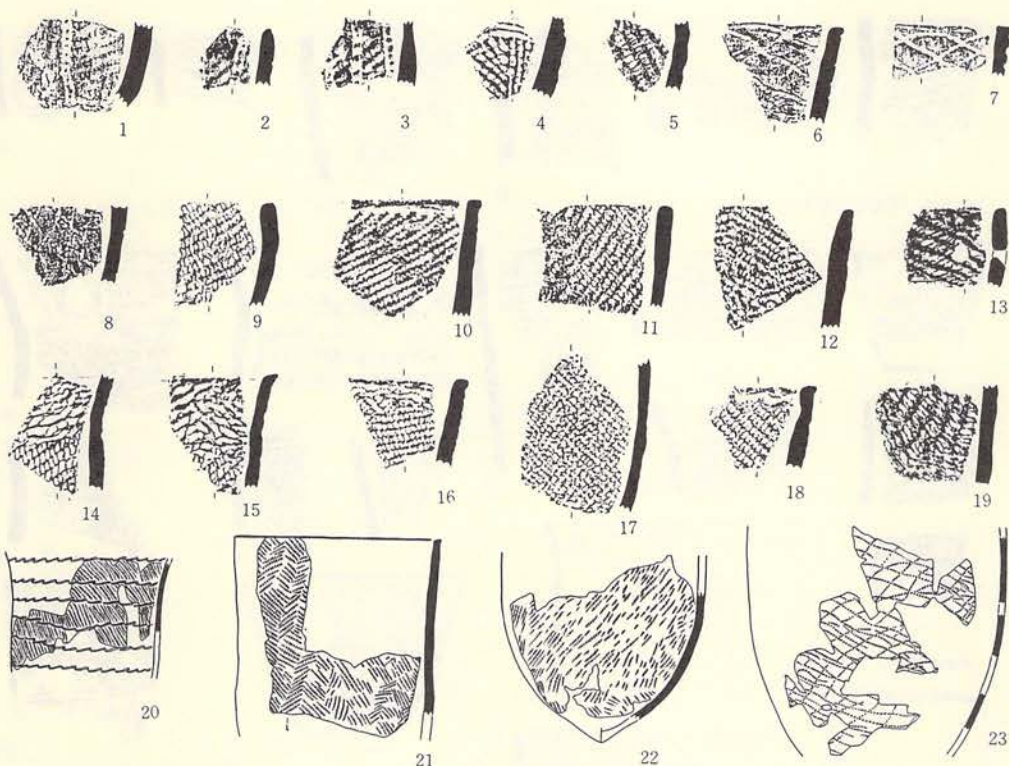
朱塗り土器は破片を含めて200点であり、漆塗りの黒色土器も少数みられる。時期的にはほとんど晩期である。

土器に塗られた赤色顔料は詳細な分析がなされていないが、色調などからみて酸化第二鉄を主体とした顔料と思われる。朱塗りの方法は、焼成前に水などに溶いて塗る場合と焼成後に漆に混ぜて塗る方法があるようであり、数的には前者が圧倒的に多い。朱の施される土器には、大・小の壺型土器、台付土器、皿型土器、椀型土器、注口土器などの一部があり、深鉢型土器ではほとんど見当たらない。

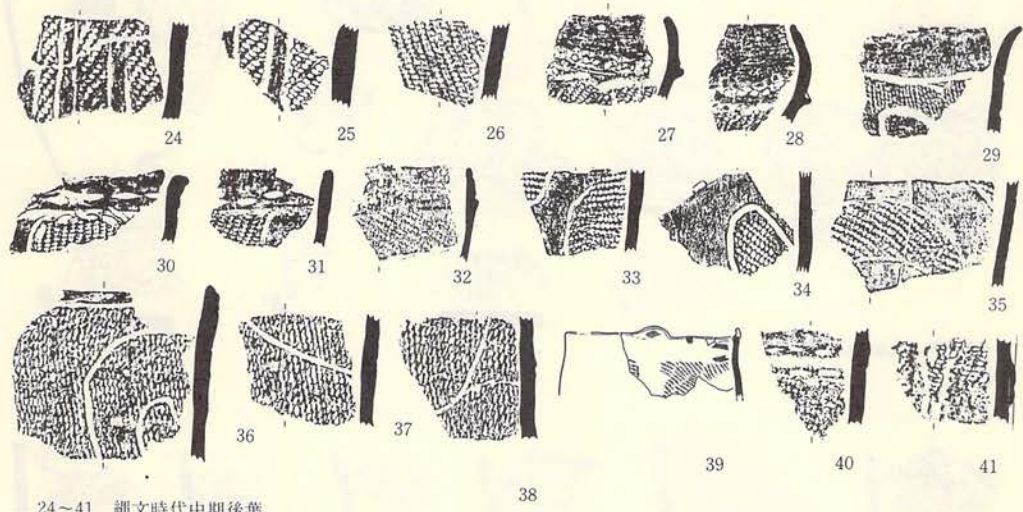
#### ○その他

時期の特定できない縄文時代の土器があるが、縄文時代晩期を主とする土器と思われる。いずれも破片でその器形や全体の形状が不明なものである。





1~23 縄文時代前期初頭



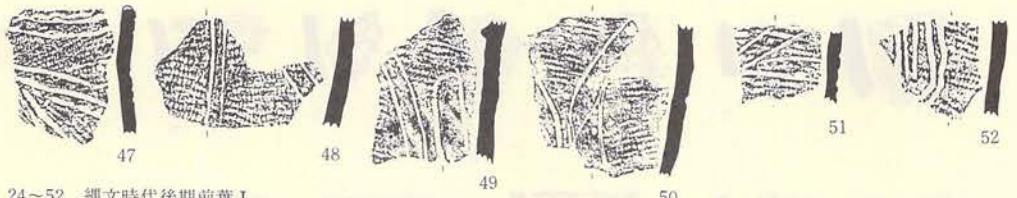
24~41 縄文時代中期後葉



24~41 縄文時代中期後葉

第113図 出土土器時期別集成図—1



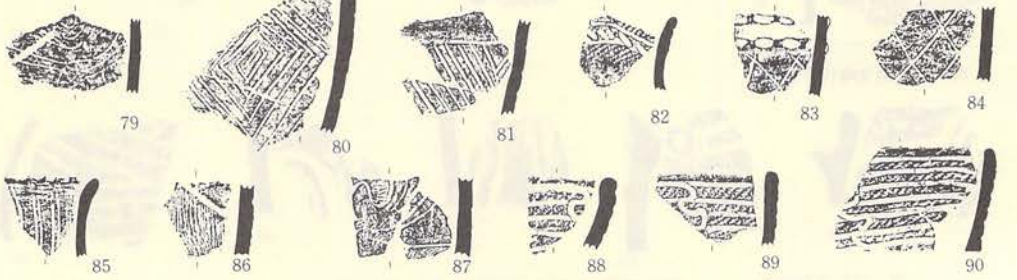


24~52 縄文時代後期前葉 I



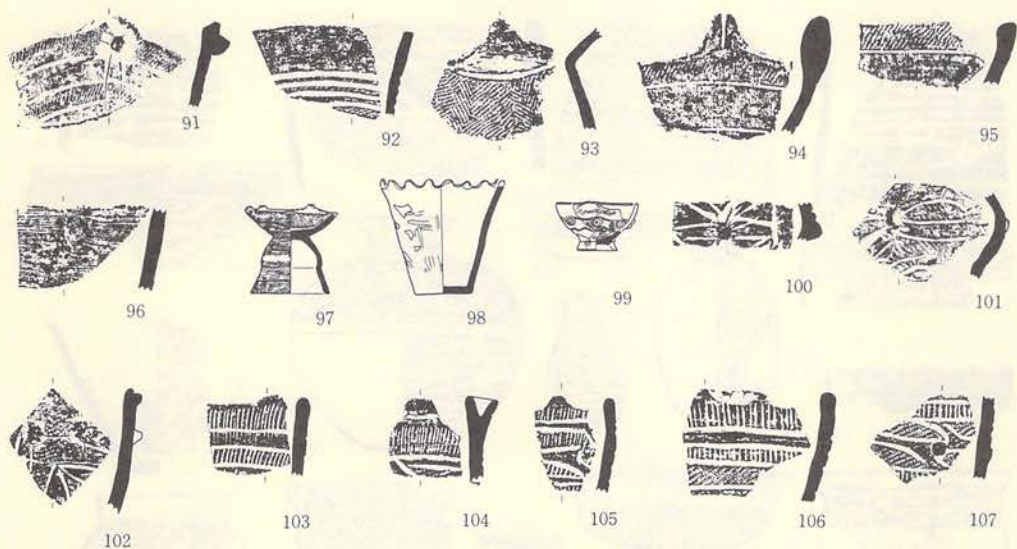
53~72 縄文時代後期前葉 II

79~107 縄文時代後期中葉



第114図 出土土器時期別集成図—2





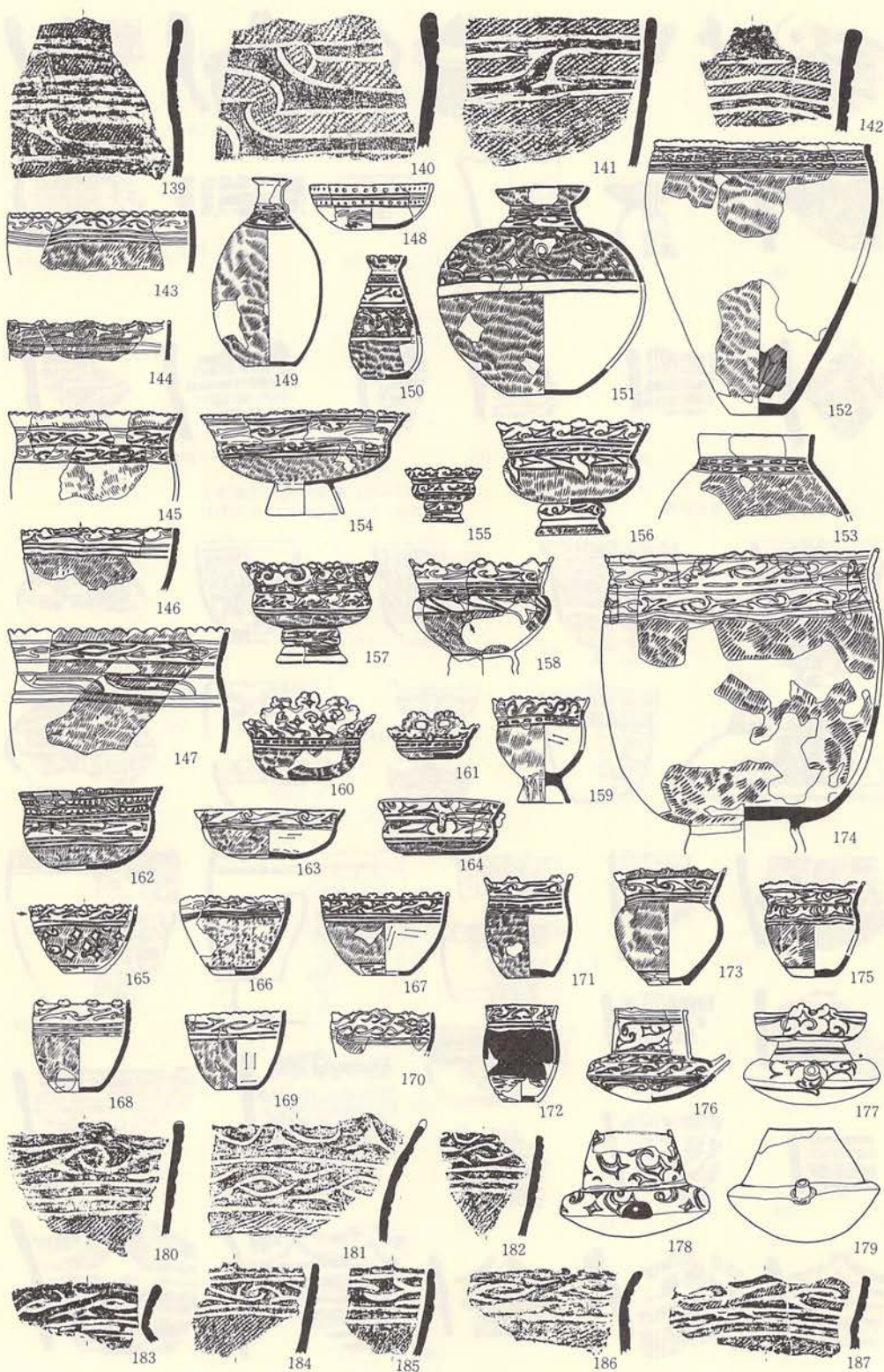
108~142 縄文時代後期後葉

143~214 縄文時代晩期前葉 I  
215~238 縄文時代晩期前葉 II



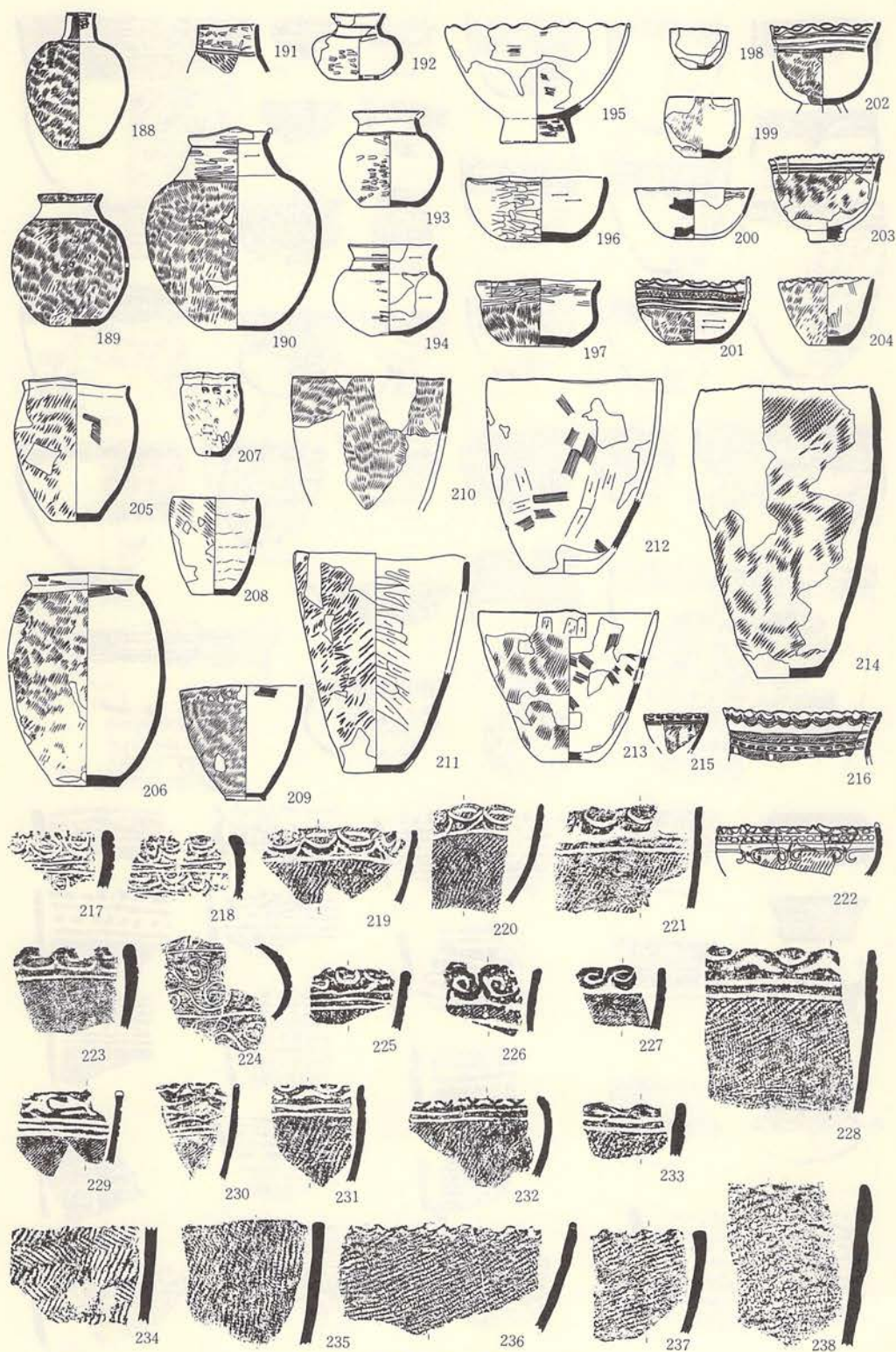
第115図 出土土器時期別集成図—3





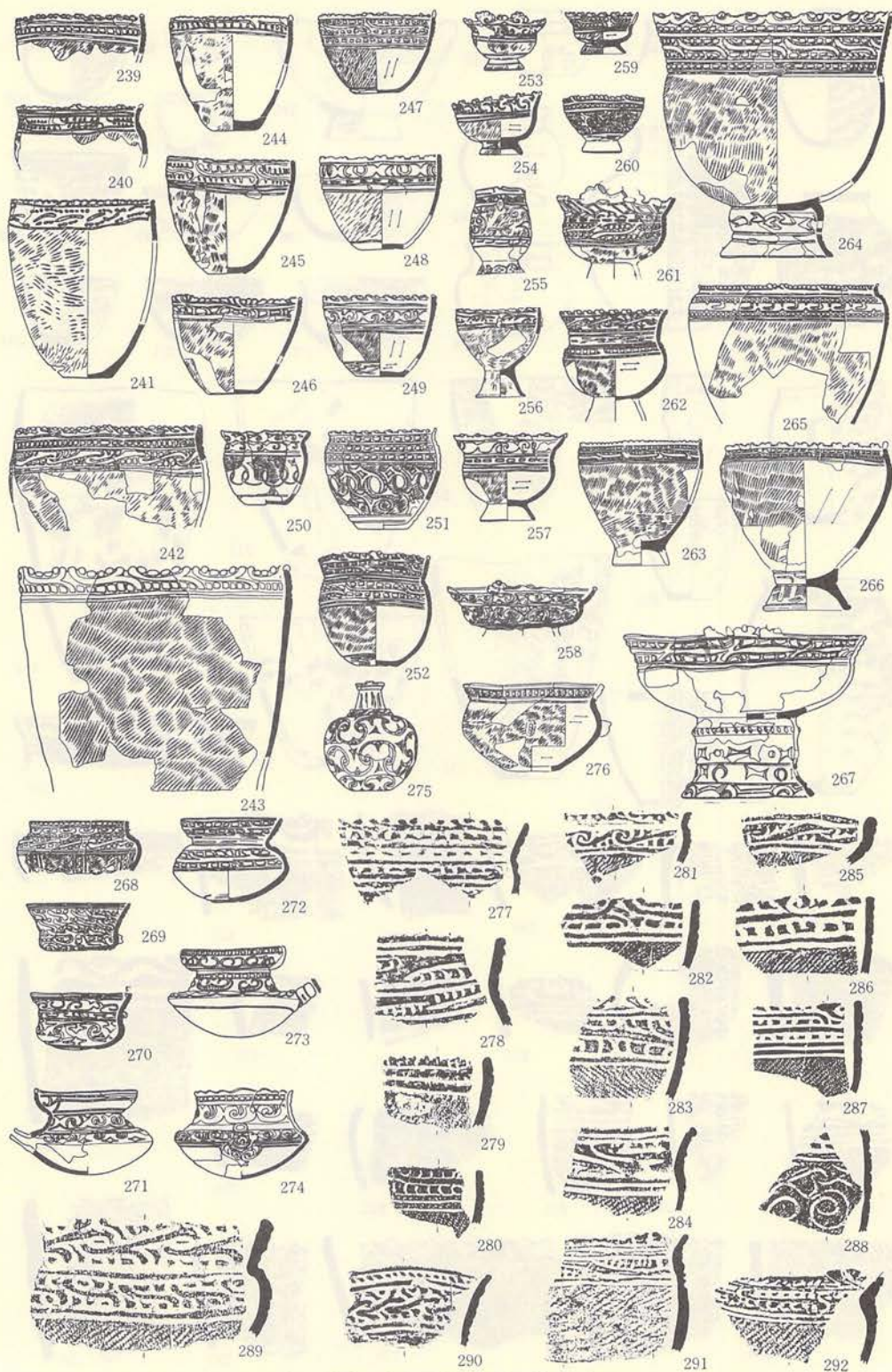
第116图 出土土器时期别集成图—4





第117图 出土土器时期别集成图—5





第118图 出土土器时期别集成图—6





第119图 出土土器时期别集成图—7



第120图 出土土器时期别集成图—8



## (2) 石器・石製品

遺構の内外から合せて2,075点出土している。そのうち、明らかに近・現代以降の遺物と考えられる砥石や炭窯跡出土品を除いた大部分は、縄文時代前期前葉～弥生時代中期中葉のものと思われる。さらにそのほとんどは明確な特徴がないものの土器の出土量が多い縄文時代晩期前葉のものとして推定される。

### i 形態・用途について

出土した石器・石製品は縄文時代中～晩期の遺跡で一般的にみられるものがほとんどである。例えば剥片石器として石鏃、スクレーパー類、ヘラ状石器、石槍、石錐、調整痕や使用痕のある剥片類、種別の不明な未製品類があり、原石を素割りしただけの粗刃礫器様のものもみられる。礫器としては磨石、凹み石、叩き石、それらと同じ用途の小さな丸い石類、台石、平石等である。また、バナナ状その他の不定形な礫もみられる。さらに敲打ちや研磨によって加工された石器には、石皿、砥石、磨製石斧、石棒などがあり、有孔装飾品、岩版等が含まれる。その他の打製石器では、打製の掘具、横刃型円板状石製品がある。

もっとも点数の多い石器は、いわゆる石匙を含めたスクレーパー類で130点以上にのぼる。次いで円盤状石製品80点、調整痕や使用痕のある剥片類が40点である。以下に磨石、石鏃、石棒、磨製石斧、叩き石、石錐、石皿である。石槍、砥石、打製掘具、岩版は3・4点以下である。

### ○石鏃

細葉形の無茎鏃、丸尻の無茎鏃、有茎鏃などの形態がみられる。細葉形の石鏃には厚手、幅広く未製品と思われるものがある。三角形無茎鏃はみられず、有茎鏃が主流を占める。縄文時代後期～弥生時代の鏃に多くみられる一般的な特徴を示している。これらの中には、アスファルト様の黑色樹脂の付着の認められるものが5点含まれている。樹脂は石鏃を柄に固定するために用いられたと推定されるが、石器や骨角器、土器、土偶などに付着する例は東北地方を主とする東日本の縄文時代中～晩期の遺跡で多くみつかり、すでに100ヵ所を超えるものと思われる。アスファルトの産地は極めて少なく、縄文時代の広域的交易活動をする手掛りとして重要視されており、黑色樹脂がアスファルトであるとする奥羽山地と日本海側の交易活動を裏付ける資料として重要視される。

### ○スクレーパー

切削加工に用いられたと思われるナイフ、スクレーパーの類は、もっとも点数の多い石器である。時期を特定できないが、土器と同様に縄文時代晩期前葉期を主体とすると思われる。

形態はつまみをもつ縦型と横型がみられる。両者はほぼ同数で大きな差は認められない。つまみのない丸刃（エンドスクレーパー）型、側刃（サイドスクレーパー）型、端刃（エンドス

クレーパー)型、それらの混合型など多岐にわたり、スクレーパー類の中にもっとも多い。このような形態の変化は、それぞれの機能や用途上何らかの差異を反映していると思われるが、現在のところ詳細を確めるに至っていない。

他の出土石器に比してスクレーパー類の占める割合が円盤状石製品とともに圧倒的に高いことは、これらが日常用品であることを加味しても石器の器種構成上の一つの特徴となっている。その背景には他の遺跡とは異なった条件下に多用せざるを得なかった生業のあり方が存在した可能性もあげられる。

#### ○石ペラ

石篋と称される用途不明のへら状石器は3点である。いずれも平面が長台形に近く、断面が平らな蒲鉾型やレンズ形をなしている。細部調整は主として側面と台形の底にあたる部分に加えられ、特に後者は調整がなされた刃部と考えられる。

東北地方の縄文時代早期～前期に一般的にみられるが、県内では雫石町桜松、紫波町西田など多くの遺跡で発見されている。縄文時代中～晩期にも形態的に似たものがみられ、衣川村東裏などで出土しているが早～前期ほど一般的ではなく、弥生時代にはなくなるようである。

曲田Ⅰ遺跡の場合は土器との伴出関係が明らかでないが、形態的には縄文時代早～前期のものに近いように思われる。3点のうち、5156は刃部周辺が極度に磨滅し、剥離面の境界が不鮮明で光沢をおびており、特殊な使われ方が伺われる。

#### ○石錐

10点以上発見されている。形態からはEⅡ-014住居跡から出土した両端と片側の尖った身の厚い石鏃様のもの、FⅢ-016住居跡出土の一端が肥大してつまみになったもの2種がある。形態上の違いは細かな用途の違いによるかもしれないが明らかでない。両者とも先端部の磨滅がみられる。

#### ○石槍

石槍とするものは極めて少ない。KⅣ区出土の厚手で小振りな1点が相当すると思われるが他はいずれも破片である。旧石器時代末～縄文時代早期にみられる薄手で大振りな尖頭器と比較して粗略にみえ、いずれも時期的にはかなり降るようである。

#### ○細部調整痕・使用痕のある剥片

器種不明の石器片を含む使用痕のある剥片、細部調整痕のある剥片は比較的多い。この中には各種石器の断片や二次的に転用された石屑、加工途中で放棄された未製品や失敗品などが含まれ、明らかに器種の同定可能な資料は含まれていない。数的にはスクレーパー類をはじめとする剥片石器の出土点数が多く、それに付随して多くなる傾向がみられる。形状は一定しないが、1573・1576のように挟り入り石器ノッチを思わせるような形態のものや1577のようにマイクロ



スクレーパーと思われるものも含まれる。

1891、2219、2226など3点は、彫器と考えられる剥片類の一部である。他の剥片類と同様に形状は一定していないが、共通して剥片全体に厚味があり、その一端を打ちかき、または剥離調整によって尖ったり、細身の刃がつけられている様に見えることである。これによれば技術的に旧石器時代の彫器とかなり似たものになると考えられるが、縄文時代の石器製作技術の系譜や石器組成の問題を考える上で重要になるものと考えられるが、必ずしも見解の統一は得られていない。

#### ○粗刃石器

剥片石器と同質のやや扁平な礫の側面を粗く打ち欠いて刃部を形成した粗刃礫器というべき1点が出土している。IⅣ区出土の2249である。類例には県内の北上市鬼柳西裏、雫石町広瀬Ⅱなど縄文時代中期末の大木10式の土器を出土する遺跡にみられるが、晩期の衣川村東裏遺跡にも多数発見されている。

その認定をめぐっては彫器と同様に見解の分かれる資料であるが、刃部の先に使用によって生じたと思われる刃こぼれ跡の例がいくつかあり、石器とする方が妥当と思われる。

そのほか、扁平礫を素割して刃部を形成した石器に2377があるが、石質は2249と異なる安山岩である。横刃型打製石斧の類に近いように思われるが、東裏遺跡では前者と同種の扱いにしている。

#### ○横刃型石斧

用途不明な半円状扁平打製石器がHⅢ区から2点出土している。詳細な調整が幾分異なるがいずれも扁平か板状にそいだ礫を片面、または両面から粗く打ち欠いて調整したものである。形態は大鰐町大平、碓ヶ関村大面、八竜町萱刈沢の遺跡や県内の江釣子村鳩岡崎、紫波町西田遺跡など、縄文時代前～中期の遺跡でみられる半円状扁平横刃型打製石器とよばれる打製石器に似ている。これらは半円の弦にあたる部分の側面が擦られているのが普通であるが、曲田Ⅰ遺跡ではそのような痕跡が認められず未製品であるかもしれない。

#### ○掘具

打製の掘具とみられる石器は4点である。いずれも板状剥離する石材を素割りし、簡単にぎり部や柄をつけたものと思われる。時期は縄文時代晩期～弥生時代に入るものと推定され、類例は県内の衣川村東裏、北上市九年橋などの遺跡で出土している。東裏遺跡では細部の形態によってさらにいくつかの種類に分かれるようである。

#### ○凹み石・叩き石・磨石

礫面に凹み加工痕、擦り痕、叩き痕などを残す礫石器は遺構の内外から多く出土している。形態的にはやや扁平な球か多少不整な球形を主体とするが、凹み石や叩き石では不整形のもの

も含まれる。そのほか、磨石には三角形の例があり、凹み石では片面に1孔だけの例のほか両面に凹みのつくものがある。この種の石器は形態的变化に乏しく製作時期にも幅があり、時期を特定することが難しいが、伴出関係から大部分は縄文時代晩期のものと考えられる。

#### ○石皿・台石

凹み石や磨石とセットになって発見される石皿や台石の類がある。時期は一部を除いて特定できないが、縄文時代中期～晩期のものと思われる。扁平な川原石や板状礫を素材としたもので、台石は素材の原形を生かしており、石皿では原形を残す例もあるが楕円形の石皿状に加工するものが多い。形態的には板状礫の両面を使用面とするもの、台形や楕円形の皿状のもの、さらに楕円形の皿の中央部に高まりをもつものや脚をもつ例などがある。そのうち、1点は皿の内面に赤鉄鉱などを砕いて顔料を製造した際に生じたと思われる酸化第二鉄の粉末が付着している。

そのほか、砥石や何らかの調整具として用いたと思われる平石がある。いずれも形状は一定していないが、概して隅丸四角形の板状礫が多くみられ、擦痕や調整痕はほとんどみられない。砥石には石皿の破片を転用したものや長方形の板状に整形した小型のものも含まれる。

平石については石器とみるが疑問のあるところであるが、調査区の土層中にある自然礫は石英安山岩の亜円～亜角礫が主であり、平石としたものはほとんどみられない。ほとんど土器などの集中する区域から出土していることから、石器に含めるものである。

#### ○円盤状石製品

扁平小型の礫を円形に打ち欠いた円盤状石製品は数点である。他に磨製の円盤状石製品が1点出土している。打製の石製品のうち、1393、1798など4点は打ち欠きも粗く、整形が不十分で未製品と思われる。

類例には東北地方北半の縄文時代中期後葉～晩期中葉の多くの遺跡にみられ、県内では中期後葉の北上市鬼柳西裏、都南村湯沢、晩期前葉の滝沢村卯遠坂、後・晩期の大迫町立石、晩期前・中葉の衣川村東裏などの遺跡に出土している。曲田Ⅰ遺跡の場合は晩期前葉期に集中するものと思われる。用途については石錘などいくつか考えられるが明確でない。

#### ○磨製石斧

概して破損品が多く、全体の形状がしられるものは少ない。大小各種があるが、中型品が多い。

形状のしられるものでみると、細長い台形をなし、横断面形が隅丸長方形であり、比較的うすく両刃のものが大部分である。大～中型品の場合は木材加工用と考えられるが、小型品は宝器などその他の用途が考えられるかもしれない。しかし、曲田Ⅰ遺跡では美しい石材を用いていないので価値は期待できないように思われる。



破損品の中には、1990など叩き石に転用された例がみられる。転用の例は各地で行なわれているようであり、県内では縄文時代中期の紫波町西田、北上市鬼柳西裏などの遺跡にみられる。

#### ○石ノミ

磨製石斧より細身で長い磨製石器が4点出土している。いずれも破片で全体が不明であるが石斧より大型の製品であるらしい。時期は石斧とほぼ同時期と思われる。

#### ○石棒

石棒と考えられる棒状の石製品は、すべて破片で全体の形状は明らかでない。精巧な文様の刻まれた大型品もみられるが、大部分は文様のほとんどない小型品である。ほとんど縄文時代晩期前葉の土器と共伴して出土しており、この時期の遺物と考えられる。

この種の遺物は何らかの社会的地位の象徴や呪具として考えられているが、他の遺物と異なる特殊な埋設状況や出土状況は曲田 I 遺跡では確認されていない。

#### ○装飾品

装飾品やその未製品と思われる有孔の石製品3点が出土している。形態がそれぞれ異なり、時期は特定できないが縄文時代晩期前葉のものと思われる。類例は各地の同時期の遺跡にみられる。

そのほか、有孔の自然礫1点がある。縄文時代の遺跡にしばしば発見されており、北上市鬼柳西裏跡に2例確認されているが、その用途は明らかでない。

#### ○その他

半円形につまみのついた形の板状軽石製品や小さい円形の扁平礫に擦痕のある石器などが少数出土している。

石器のほかには多くの石材が出土している。その中には剥片をとるための調整石核や石器を作るための調整剥片が含まれていると思われるが、ほとんどは剥片石器を作る際の石屑とみられる。これらは集中して出土することなく、土器に共伴したり、単独に遺構内外で発見されている。多くの剥片が出土することからみると、遺跡内に石器製作跡があったことを伺わせるが接合資料は含まれていない。

#### ii 石材の材質と産地について

石鏃、スクレーパー、石錐、石べら、調整痕や使用痕のある剥片などの剥片石器とこれに関連した石片類の石質は、大部分が灰、黒、灰白、黄、黄灰褐、黒褐色などの珪質泥岩、珪質細粒凝灰岩、硬質泥岩など緻密質で打撃加工の容易な泥岩類で占められている。そのほか少数ながら玉髓、流紋岩、鉄石英、黒曜石などが加わっている。

これらの石材のうち、泥岩系石材は奥羽山地を構成する新生代第三紀中新世の堆積層中に含まれている。曲田 I 遺跡の周辺には、秋田県北部の鹿角市西域の山地や安代町田山地区の瀬ノ

沢川上流域に保滝層（瀬ノ沢層）、大葛層などとして分布しており、その分布域一帯が原産地と思われる。

流紋岩は田山地区の瀬ノ沢川上流域や荒沢地区の安比川上流域一帯等に広く分布している。黒曜石はフレーク1点出土しているが、色はわずかに褐～緑色をおびた黒色でガラス状の光沢をもち、透明度は極めて低い。県内では雫石町小赤沢、水沢市松木沢等をはじめ、何か所かしられているが、それらとは肉眼的に異なるようであり他産地のものと思われる。

安代町内には黒曜石産地が知られていないが、安比川上流域の流紋岩分布域の中に一部真珠岩を含んでおり、この付近に黒曜石の原石露頭があるかもしれない。しかしながら、安代町内の調査遺跡には黒曜石の利用がほとんどみられず、この点からはそれほど期待できないかもしれない。

鉄石英、玉髓などは各種岩石の空間をみたとす形で各地に分布しているが、遺跡周辺の奥羽山地にも当然分布していることが予想される。

以上のうち、資料的にもっとも多い泥岩系石材は石屑などから観察するかぎり、原石は岩石露頭の石ではなく、川原石となったものである。おそらく分布域を通過する諸河川に流れ込んだものを拾って使っていることが考えられる。

叩き石、凹み石、磨石、石皿、砥石、大型石棒の素材となる石材は、一部を除いて大部分が安山岩、石英安山岩、石英安山岩質凝灰岩等で占められている。これらの石材は遺跡の周辺をとりまく八幡平、安比岳、七時雨山、稲庭岳、馬場山、上の山などの山地を構成する主要な岩種として、荒沢地区一帯では極めて普遍的にみることができる。

半円状扁平打製石器の素材は緑色の砂質凝灰岩やプロピライトと思われるが、これらの産地は泥岩等の産地と重なるものと思われる。有孔装飾品の礫は淡褐色や淡緑色の細粒凝灰岩であるが、ほぼ同時期の層中に産するものとみられる。



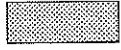







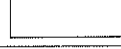
磨製石斧の大部分は玢岩、閃緑岩、輝緑凝灰岩などからなるが、蛇紋岩が1点含まれる。これらの岩石はいずれも遺跡付近にみられず、北上山地に広く分布している。石屑もほとんどみられず、北上山地周辺の地域から交易等を通じて持たらされたものと考えられる。

石棒は粘板岩、千枚岩からなっているが、磨製石斧の場合と同様、北上山地に広く分布しており、同様の経路によって持たらされたと思われる。

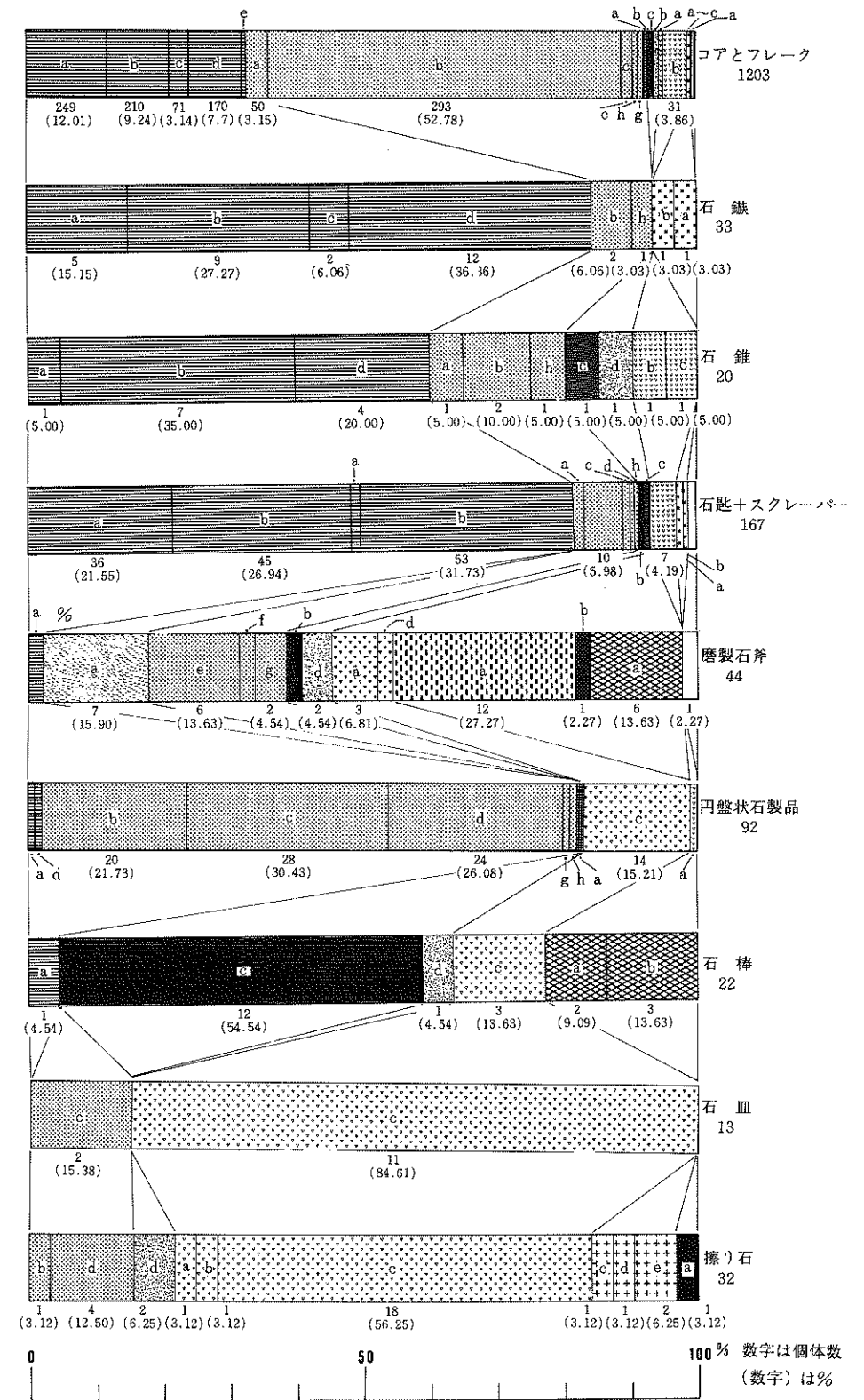
石ノミ、打製掘具の素材は粘板岩や輝緑凝灰岩であるが、周辺の地域では北上山地にもっとも一般的にみられるものである。

そのほか、軽石製品の素材となった軽石は十和田火山等の噴出物と思われる。十和田火山の噴出物は秋田県北の米代川上流域～青森県南～岩手県北に及ぶ地域を広く厚く被っており、その中には軽石層も含まれている。その分布域のいずれからか持たらされたと思われる。



区分	記号	材質名	種別	時期	主な推定産地	備考
	a	硬質泥岩	泥岩	新生代 第三紀	奥羽脊梁山地 (田山・鹿角盆地) 西辺部	大葛層 瀬ノ沢川 層(仮称)
	b	珪質泥岩				
	c	硬質凝灰質泥岩				
	d	珪質凝灰質泥岩				
	e	石質泥岩				
	a	凝灰質砂岩	砂岩			
	a	硬質泥質凝灰岩	凝灰岩			
	b	珪質細粒凝灰岩				
	c	珪質凝灰岩				
	d	細粒凝灰岩				
	e	凝灰岩				
	f	緑色凝灰岩				
	g	淡緑色凝灰岩				
	h	流紋岩質細粒凝灰岩				
	a	輝石凝灰岩	各種堆積岩	古生代 二~三疊紀	主として北上山地	搬入品
	b	粘板岩				
	c	チャート				
	d	硬砂岩				
	a	安山岩	火山岩 安山岩質岩石	新生代 第三紀以降	主として奥羽脊梁山地	
	b	輝石安山岩				
	c	両輝石安山岩	流紋岩質岩石			
	d	プロピライト				
	a	流紋岩				
	b	玻璃質流紋岩				
	c	黒燧石				
	a	輝石玢岩	深成岩			
	b	蛇紋岩				
	c	石英閃緑石				
	d	半花崗岩				
	e	花崗閃緑石				
	a	凝灰質千枚岩	変成岩			
	b	粘板岩ホルンフェルス				
	a	鉄石英	石英	新生代 第三紀	奥羽脊梁山地?	
	b	玉ざい				
	c	石英				
	a	磁鉄鉱	金属鉱物	—	?	礫状搬入品か
	—	材質不明	—	—	—	紛失

第121図 出土石器・石片の材質別組成



### iii 組成と交易

石器・石製品の所属時期は大部分縄文時代晩期のものであり、曲田 I 遺跡の石器は各器種によって構成されているといえる。種別構成自体は縄文時代後・晩期の主要な器種をほぼそろえており、技法的にも後述するものを除いて際立った特徴はあまりみられない。しかし、組成比率の上から注目されることは、各種のスクレーパー類や円盤状石製品の全体に占める比率が著しく高いことである。このことは土器・土製品の組成の問題をもあわせて生活環境と生業、あるいは遺跡の性格の面から検討されなければならない。

これに関連することでは粗刃礫器や彫器と考えられている剥片類、調整具とした平石がある。これらを石器として認めるか、その認定の根拠によって議論の分かれるところである。このことは従来の縄文時代の石器観に対して、製作技法や器種組成のあり方の面から大きな影響を及ぼすばかりでなく縄文時代の生業に対する考え方にも変化がもたらされる問題でもある。特に彫器と考えられている剥片類については見解の一致をみない現状である。

石器組成とともに石器の材質と産地についても大きな課題である。曲田 I 遺跡で用いられる石器の素材は、産地別に大きく 2 分される。1 つは硬質泥岩、その他の第三紀中新世の泥岩系石材、玉髓、鉄石英、黒曜石、流紋岩、プロピライト、淡緑色細粒凝灰岩、安山岩、石英安山岩、石英安山岩質凝灰岩、軽石などである。玉髓、鉄石英、黒曜石以外は奥羽山地の各地で一般的にみられ、半径 20km 以内の奥羽山地にも多くみられる。そのうち、前 5 種は原石や粗割した石核や剥片が遺跡に持ち込まれているといえる。

他は玢岩、蛇紋岩、輝緑凝灰岩、粘板岩、粘板岩質ホルンフェルスなどであり、50km 以上離れた北上山地の古代層や各期の貫入岩体中にみられるものである。これらは交易などを通じて曲田 I 遺跡にもたらされたものと考えられるが、ほぼ完成した製品として持ち込まれたらしく県北の奥羽山地寄りの遺跡ではほとんど石屑をみない。

このように曲田 I 遺跡の石材は、付近で調達されたものと他から入手したものの二者に分かれる。既して生産活動の主要な道具となるスクレーパー類、その他の石器の原料となる石器は付近のもので占められている。しかし、一方では同じ生産活動を支える用具の磨製石斧などが外来の石材で占める比率の高い例もあり、交易に頼る面の大きかったことが伺われる。

従来から縄文時代の社会生活が自給自足を経済基盤としながらも、各地の社会集団間ではかなり広域の交易活動が営まれていたといわれているが、以上のように交易活動の重要性が決して無視できない規模のものであることが知られる。

石鏃、スクレーパー類のほか、いくつかの土器には少数ながらアスファルト様樹脂の付着する例もみられる。アスファルトは原油の中に含まれる炭素・水素を主成分とした化合物であり常温で固結しているが、加熱によって容易に液化し粘着性をおびる。この性質を利用して縄文



時代には各地で接着剤として利用されている。

石油鉍床は太平洋側では静岡県相良付近に若干発達しているがほとんどないに等しく、北海道から新潟県や長野県の一部にかけての日本海側地域に発達している。天然アスファルトの産地もこれらの地域の中に限られるが、アスファルト出土遺跡の分布は極めて広く北海道から奈良県に及び、縄文時代の交易活動を考える資料として注目されているものである。

県内では縄文時代中～晩期の遺跡にしばしばみられ、塊となったアスファルトは軽米町君成田Ⅳ、盛岡市萩内、下猿田、雫石町塩ヶ森、滝沢村湯舟沢、安代町赤坂田Ⅰなどの遺跡で出土している。特に赤坂田Ⅰ遺跡出土アスファルト塊は300gを超えている。このような県内に出土するアスファルトは、いずれも秋田県方面からもたらされた可能性が大きい。赤坂田Ⅰ遺跡や曲田Ⅰ遺跡など安比川流域の資料は、奥羽山地を挟んだ東西の交易径路の存在を示す手掛りとして重要な意味をもつものと思われる。

そのほか、赤鉄鉍の礫が1点発見されている。遺構に伴うものでないが、縄文時代のものと思われる。土器などに塗付する赤色顔料の原料と考えられるが、産地は明らかでない。

### (3) 土製品

遺構の内外から合わせて27点の土製品が出土している。円盤状土製品6点、土偶及び類似する土製品8点、土笛2点、皿型土製品1点、釣鐘状土製品2点、耳栓1点、円筒形土製品1点、帯状土製品2点、臓器状土製品1点、その他3点である。

#### ○円盤状土製品

いずれも土器片を丸く打ち欠いたものである。ほとんど縄文の施されている土器片であるが1554のように網目状撚糸文のある例や2208のように三叉状沈線文の描かれている例もみられる。県内における網目状撚糸文土器の初現は、すでに縄文時代早期に求められるが、前期前～中葉の大木式土器、中期末～後期前葉の大木式土器及びその後続形式の土器に多くみられる。1554の場合、器壁が薄く胎土も比較的緻密で繊維を含まないこと、網目の撚糸が細めで張りが強いことなどから前期よりは中期末～後期前葉の特徴が伺える。また、2208の三叉状文は晩期の大洞B式土器の特徴とされるものである。他は文様に際だった特色がなく、時期の特定は困難であるが、ほぼ縄文時代後期前葉～晩期前葉と考えてまちがいないものと思われる。

円盤状土製品の出土例は、県内では衣川村東裏、北上市鬼柳西裏・九年橋・江釣子村鳩岡崎、紫波町西田、盛岡市萩内、岩手町上斗内など縄文時代中期後葉～晩期中葉の遺跡に多い。遺跡当りの出土点数は概して多い方であるが、曲田Ⅰ遺跡の場合は少ないといえる。無孔のもの以外に中央部に穿孔された例があるが、FⅢ-014住居跡出土の406以外はすべて無孔である。401

は片面に穿たれているが、貫通していないものである。

用途については、青森県木造町亀ヶ岡遺跡に晩期の土器をアスファルトで接着して補修する例があるが、現段階では定説がなく今後の検討が必要である。

#### ○土偶

土偶とこれに類似する8点のうち、2点を除いて中空である。大部分が縄文時代晩期前葉に属すると思われ、類例も多い。しかし、1250は器表全体に沈線による横縞があるが、晩期に類例がなくなお検討を要する。

縄文時代後・晩期の遺跡では、県内の北上市九年橋、大迫町立石・小田遺跡のように100個体以上の土偶が出土する例もあるが、これに比して極めて少ないといえる。その要因については、「送り場」や墓地などの祭葬地と一般の集落というような遺跡の性格によることや地域性の違いによるものなどが考えられるが、現段階では比較的資料が乏しく明らかでない。

#### ○釣鐘状土製品

鐸状土製品とするのが一般的かもしれない。東北地方各地の遺跡に出土しており、形態的にはいくつかの種類がみられるようである。時期はほぼ縄文時代後期後葉に限られるようであるが、用途は不明である。

県内の出土例には、大迫町立石、盛岡市川目、玉山村日戸、軽米町駒板、吠屋敷I<sub>a</sub>などにみられる。

#### ○耳栓

いずれも小型のものである。1267はやや大きく片側の凹んだ鼓形であり、片側に同心円状の沈線と刺突列がまわる。椎骨形をなす1556は無文である。この種の耳栓は陸前高田市中沢浜貝塚、九戸村嶽II遺跡などの出土品に似ており、縄文時代後期後葉～晩期中葉のものと考えられる。

#### ○土笛

亀型土製品と呼ばれる中空の土製品である。文様からいずれも縄文時代晩期のもと思われる。1点は器面に沈線でS字状渦巻文の列が描かれている。同種の文様は岩版にもみられ、晩期前葉のもと考えられる。他の1点は晩期中葉の土器と同じ文様が施されており、ほぼ同時期のものと推定される。

東北地方の縄文時代晩期前～中葉の遺跡に出土例があり、県内では岩手町どじの沢、豊岡、衣川村東裏、北上市九年橋遺跡などがあるが、遺跡当りの出土点数は少ない。

#### ○その他

2110の臓器形土製品がある。粘土塊の表面に多くの指紋を残しており、何らかの意図によって作られたものと思われるが、その用途については類例もなく明らかでない。



以上のように土製品はJ VI区出土の2454を除いてほとんど縄文時代晩期前葉を中心とする縄文時代後期～晩期のものである。出土点数は発掘調査面積からみると決して多いとはいえない。特に円盤状土製品、土偶等の出土点数については、近接した時期の立石・小田遺跡など100点以上出土した例があり、これらに比して著しく少ない。一般集落遺跡と特殊な機能をもつ遺跡の性格的な違いがあるのかもしれない。さらに資料の増加をまって検討する必要がある。

#### (4) 須恵器・陶器

遺構からは発見されていないが、平安時代の須恵器の甕と思われる焼物の破片が1点出土している。調査区外のいずれかに奈良・平安時代の居住遺構があり、何らかの関連があって持ち込まれたものかもしれない。曲田I遺跡の周辺では、上の山Ⅶ、上の山館、上の山X、保土沢遺跡など多くの平安時代の集落跡があり、道路跡の一部とともにこれらの集落跡との関連も考えられる。

陶器は近世以降のものと思われる。摺鉢片3点である。遺構との関連はいずれも明確でないが、近世以降には曲田をはじめとする集落も成立しており、また、掘立柱建物跡や炭焼場跡等の遺構との関連も考えられる。

#### (5) 鉄製品

FⅣ-081炭窯跡の埋土中から出土した1334～1338の天井釣金具部品5点とKⅣ-021ピットから出土した器種不明の板状鉄器片1075の1点である。

天井釣金具は直径3mm前後の針金と厚さ2mmの鉄板からなり、全体に錆化が著しい。使用時は針金の一方を鉄板の孔に通して固定し、この部分を炭窯天井部の粘土中に埋め込み、さらに針金の一端を炭窯の覆屋天井の梁に結びつけ、天井部の補強、支持したものである。

#### (6) 漆

漆の入った小型の壺型土器539が縄文時代後期初頭のJ VI-011住居跡床面から出土している。漆は褐色のスポンジ状の固体をしており、壺の外側全体にも褐色の泥状付着物としてみられる。この住居跡では540の土器の器面にも一部漆の付着がみられる。

そのほか、漆の利用は縄文時代後・晩期の朱塗り土器の一部にもあり、晩期の土器の中には朱以外の黒色の漆を塗った土器もみられる。

### 第3節 遺構と遺物

2次にわたる調査の結果、曲田Ⅰ遺跡は縄文時代後期前葉と晩期前葉の2時期の集落跡を主体とする複合遺跡であることが明らかになった。その時期は縄文時代前期前葉から中・近世に及んでいる。

発見された遺構には縄文時代の住居跡、ピット、同時代の掘立柱建物跡、捨て場跡、集石遺構、焼土遺構のほか、弥生時代中期の墓壇や歴史時代の竪穴住居跡遺構、掘立柱建物跡、道路遺構、炭焼き場跡等である。そのほか、自然地形の跡として雨裂跡や埋没谷も発見されている。

遺構と同様、出土遺物も縄文時代のものが多い。縄文時代晩期前葉の遺物を中心にして、縄文時代前期前葉、中期後葉、後期前～後葉、晩期中葉、弥生時代中～後期、歴史時代の各期に及び、種類も多様である。

#### (1) 縄文時代の遺構と遺物

##### i 縄文時代前期前葉

縄文時代前期前葉の遺構と思われるものはわずかししか発見されていないが、土器片はかなりの数量に及んでいる。現在までに県内では松尾村長者屋敷や二戸市中曾根Ⅱ遺跡に集落跡や住居跡が発見されているが、県域全体からみると未調査の空白部が大きく不明な点も多い。曲田Ⅰ遺跡出土の土器はその空白を埋める資料になるものである。

これまで安比川流域では縄文時代前期前葉の資料が乏しく、その様相も明確でなかったが、今回の資料によって少なくとも前期前葉の一時期、北方系の春日町式土器や大木1～2式土器の存在することが確認された。

##### ii 縄文時代後期前葉

縄文時代後期前葉の集落跡は、調査区の西寄り部分を蛇行して下る埋没谷の北東寄りに立地している。地形からみて集落の規模は、未調査区域を含めても晩期の集落跡ほど大きくならないものと推定される。遺構は住居跡にフラスコ状ピットや焼土遺構、掘立柱建物跡などが伴うようである。

遺物は土器が主体である。時期に多少の幅があるが、従来十腰内Ⅰ式といわれてきた土器の一部や大湯遺跡の土器の一部に類似する文様帯をもつ例があり、これらと同時期かやや前後する時期に入るものと思われる。

発見された後期前葉の住居跡はいずれも竪穴住居跡と思われるが、形状の判明するのは2例だけである。平面形は隅丸長方形と隅丸方形をなし、後者は内外に排水溝を伴っている。炬は



いずれも地床炉や石囲い炉ではなく、地床炉状の炉の一辺に石英安山岩の板状亜角礫を焼土に面するように立てた独特の構造である。全形の不明な住居跡の一部には、これと同様の特徴の伺えるものがみられる。

東北地方の北部で従来調査された後期住居跡の平面形はほとんど円形であり、曲田 I 遺跡にみられるような隅丸方～長方形は例をみないといってよい。また、排水溝を伴う例も稀であり炉の形態もほとんど類例がみあたらない。現段階ではこの種の住居跡が曲田 I 遺跡以外に確認されていないが、その分布範囲はさらに広がるものと予想される。

### iii 縄文時代中期後葉・後期後葉・晩期中葉

縄文時代中期後葉では住居跡 1 棟、後期後葉では新しい時期の住居跡 2 棟、やや古い時期の掘立柱建物跡 1 棟、晩期中葉では捨て場跡 1 ヶ所がそれぞれ確認されている。

このうち、中期後葉、後期後葉の住居跡、建物跡はいずれも散在している。遺跡全体を調査していないのでその実数は不明であるが、1～2 棟にとどまるとすると、一般的な集落跡とはいい難く、野営施設跡や一時的な宿泊施設跡としての性格付けが考えられそうである。また、晩期中葉の捨て場跡と同時期の住居跡などの遺構は確認されていないが、近接して発見された柱穴群がこれに関係するかもしれない。

### iv 縄文時代晩期前葉

縄文時代晩期前葉の資料はもっとも豊富であり、住居跡などの遺構も多く、土器、石器などの遺物も大部分この時期のものと思われる。

晩期前葉の集落跡は、調査西辺の山麓緩斜面から新田川に面した崖縁部にかけて形成されている。その主要部は開田工事や道路の開削工事によってすでに大きく破壊されているが、未調査区域を含めてみると、ここまで営まれた住居跡の総数はさらにこれを上まわることが予想される。

### v 縄文時代晩期住居跡出土の土器

住居跡出土の土器は多くの場合、従来大洞 B<sub>1</sub> 式（B 式のうち、古式とされる土器群であり、いわゆる玉抱三叉状文や縄文帯と無文帯が階段状ないし S 字状に交互に入組む文様帯が盛行する段階の土器群である）大洞 B<sub>2</sub> 式（B 式の新式ないしはかつて B 式とされていた土器群でありいわゆる三叉状文の盛行する段階の土器群である）大洞 B-C 式（羊歯状文の盛行する段階の土器群である）の三者によって構成されている。

これらの土器群相互の埋土中における層位関係は十分な観察資料がないため確定できないが比較的資料の整った E III-011 住居跡の例でみるとほぼ同一層中に混在していたと考えられる。勿論、個々の遺物には廃棄された時間差があり、堆積の結果として層全体ではかなりの時間幅が予想される。したがって、そこには時々の流行を反映し、土器の文様や形態の変遷過程が示

されることになる。

しかし、先にあげた3者の土器群はほぼ同色、同質の層中に間層を挟まずに堆積しており、上下の位置関係はかなり錯相しているため、3群相互の層位的な関係はほとんど確認されていない。B<sub>1</sub>式土器群については、ほぼ同類の土器がGⅣ-014住居跡の床面からいくつかまとまって出土しており、独立の一時期をなすことはほぼ確定的であるといえる。他の2群については両者が単独で出土する例がないため、明確な時間差を伺うことはできない。

このことから両者については、従来多くの文献に記されているような大洞B<sub>2</sub>式→大洞B-C式という時間的な変遷関係は必ずしもよみとれることはできず、両者の関係を同時期に共伴する異文様の土器群とする見解も成り立つ。この点について、二戸市雨滝遺跡を調査した芹沢長介氏は大洞B式、大洞B-C式とされてきた土器が層位的に分離できないことをあげ、両者は時間的な前後関係があるのではなく共存すると指摘している。

これらの土器についてみると、施される文様や文様帯の構成のうえで明らかに両者の間の過渡的な様相を示すものが少なからず存在する。大洞B-C式に属する土器には、羊歯状文の葉の小さい葉部分の粒が粗く、葉脈部分が幅広で水平に延びてから両端で強く曲がる形態のものが多い。一戸町蒔前台や大迫町小田遺跡などで多くみられる大洞B-C式の優品と比較すると前者は重厚でいかにも粗形的な印象をうけるものである。勿論、曲田I遺跡においても同様の繊細な羊歯状文を有する土器があるが、羊歯状文をもつ土器全体の中で占める割合はいたって少ない。

このようにみると、曲田I遺跡の場合では大洞B式土器群と大洞B-C式土器群の時期差はそう大きいものではなく、かなり近接する時期に集中し、変遷も漸移的に行なわれているのではないかと考えられる。

曲田I遺跡の晩期前葉の土器群からは、大洞B<sub>1</sub>式、B<sub>2</sub>式、B-C式とした三者の間にそれぞれ文様の形態や構成上過渡的な様相がみられ、三者が間断なく漸移的に変化していく過程ととらえられる。文様の変遷過程が直ちに時間的過程に置きかえられるか即断できないが、大まかにはある程度の時間的な流れがみられる点で、晩期前葉のある期間中間断なく居住していたことも想定される。

## (2) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は墓壇と思われるピット群であり、なかには副葬品とみられる土器が発見されているピットや埋土下層から死者にふりかけたと思われる粉末状の酸化第二鉄の出土するピットが含まれている。

これらに伴う住居跡等の遺構は調査区に発見されていないが、ほぼ同時期か近接する時期の



集落跡とみられる遺跡が300～400mほど離れた上の山Ⅲ遺跡にあったものと思われる。ここは現在畑地になっており、類似する土器片が散布している。おそらく弥生時代中期末葉頃に上の山Ⅲ遺跡の居住者が墓地を設けていたことが伺われる。

遺物はほとんど土器であるが、かなりまとまって出土している。その中には、県南部の谷起島式（中期前葉）、青森県の田舎館式の新段階（中期後葉）に類似する土器が含まれているほか、一戸町上野B、秋田県宇津ノ台、新潟県山草荷遺跡出土の多重連続の扁平菱形文付土器や、秋田県貝沢遺跡にみられる下垂する連続半円状の磨消縄文帯を伴う土器（中期ないし後期前葉か）に類似する土器もみられる。

このようにこれまで安比川上流域で知られている資料ではもっともまとまりがあり、特に墓坑状ピットの発見によって遺構との関連から、この地域における弥生時代の文化の様相がより具体的に追求できる見通しができたといえる。また、土器を主とする遺物もこの地域の弥生文化の編年や系譜をたどるうえで貴重な資料である。

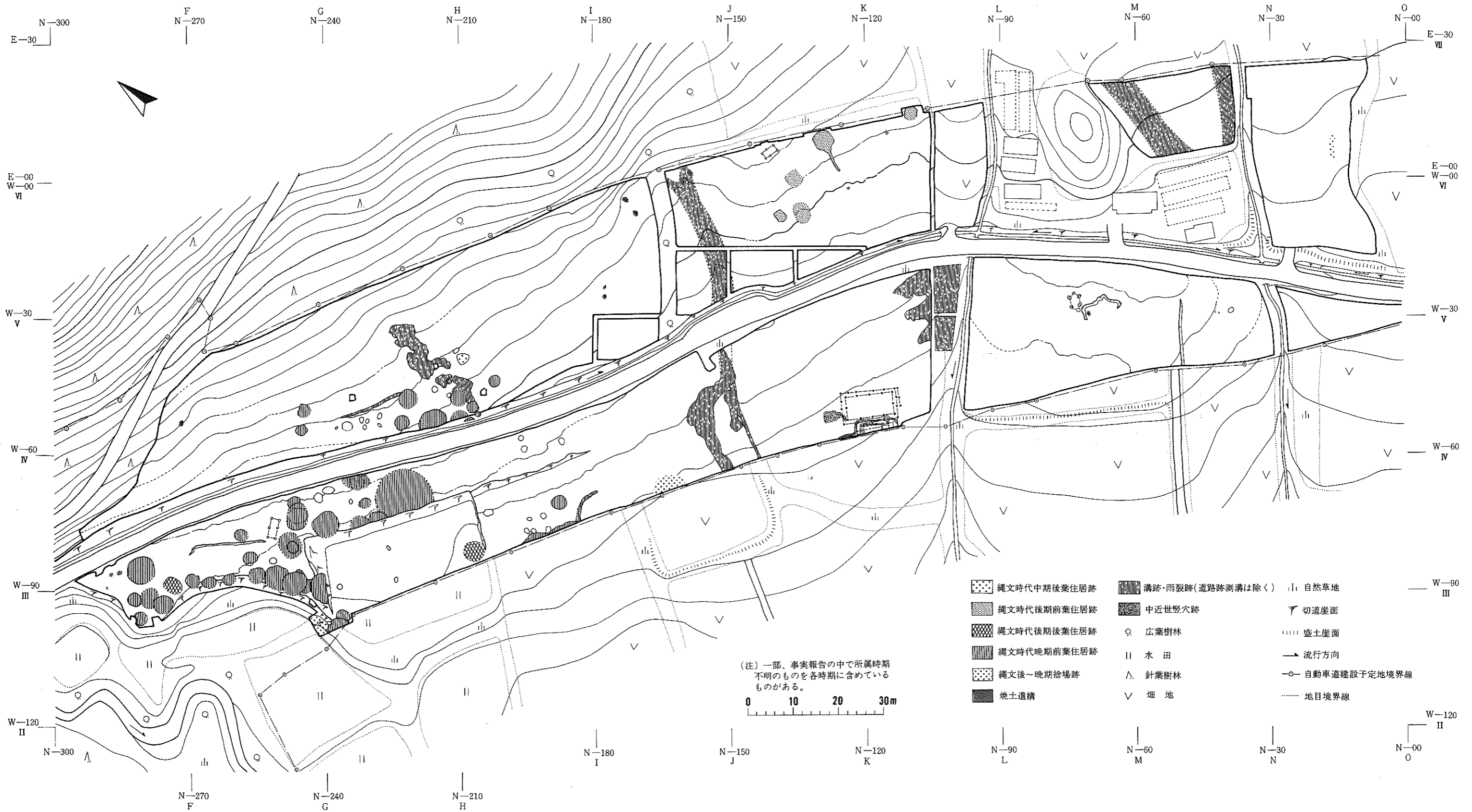
### (3) 中・近世の建物遺構

調査区南東寄りの中央部で発見された竪穴状遺構及び掘立柱建物跡の所属時期は明確ではない。形態的な類似例が中世の遺構にみられることから、ほぼその時期の遺構と想定される。

各遺構の重複関係については、全体的な配置関係によってみると多少の前後関係があるものの、JⅣ-011掘立柱建物とJⅣ-012掘立柱建物の2棟はJⅣ-013・014掘立柱建物といくつかの共存関係が成りたちそうである。また、JⅣ-011・012掘立柱建物とJⅣ-011竪穴住居跡状遺構及び東南のピット群とは共存しない可能性が大きい。いずれも相互の共存関係は不明であるが、これらの遺構は土層が類似しており、ある一定期間内に関連をもって営まれた一群の遺構とみなすことができる。

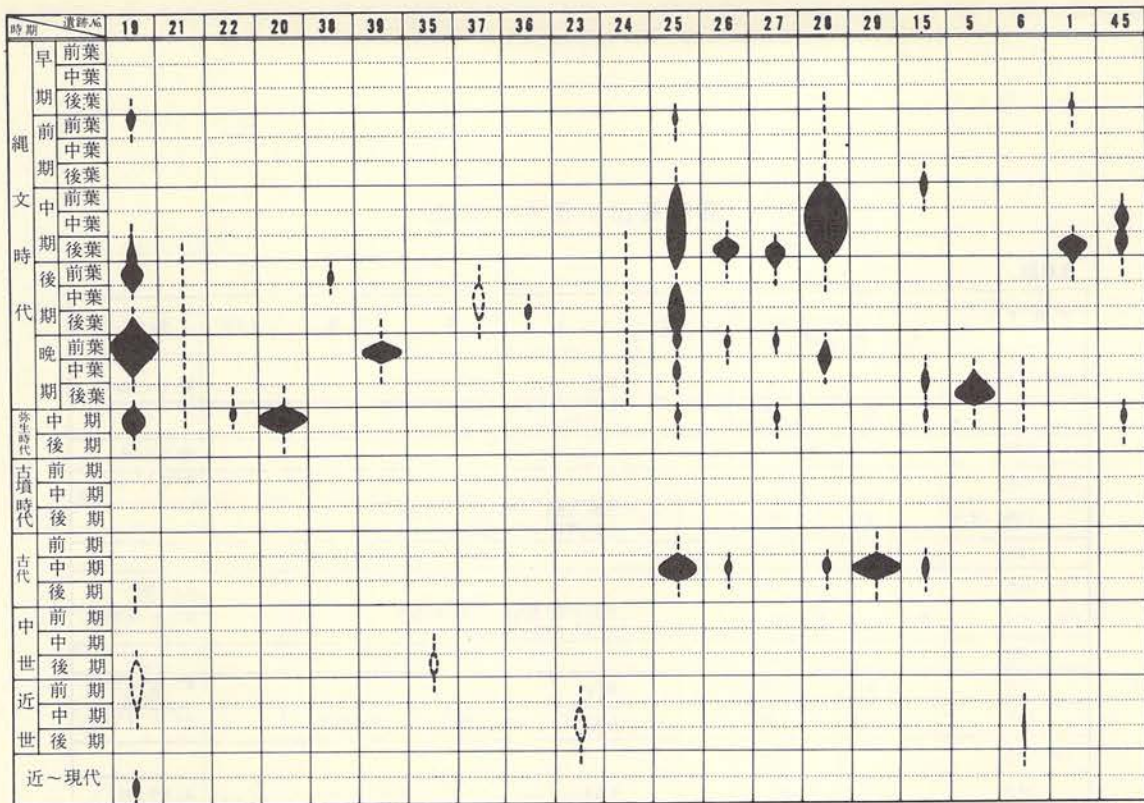
掘立柱建物の性格についても、現在のところ明確ではない。全体的な柱配置の明らかなのは2棟であり、いずれも外側の柱穴だけであり、内部の間仕切りや梁を中央で支える柱穴の痕跡は発見されていない。さらにJⅣ-011建物跡では柱並びが歪んでおり、柱間寸法や柱数が異なっている。このような対応関係が一定しない長方形の掘立柱建物跡は各地にみられるが、状況資料が乏しく住居跡なのかある種の小屋なのかも明らかでない。

竪穴住居跡状遺構に類似する遺構は、中世の遺跡でかなり普遍的にみられる。県内では二戸市長瀬C・D、金ヶ崎山館山、盛岡市安倍館遺跡などでみられ、多くの場合住居跡と推定されている。住居跡と想定される例は竪穴内に焼土遺構が存在するが、曲田Ⅰ遺跡では焼土の存在は認められていない。また、竪穴の短辺に入口が設けられ、中央部に柱穴をもつなど、住居跡とするには疑問が残り、中世に時期設定することも多少早計にすぎるかもしれない。



- 161・162 - 122図 時代別遺構分布図

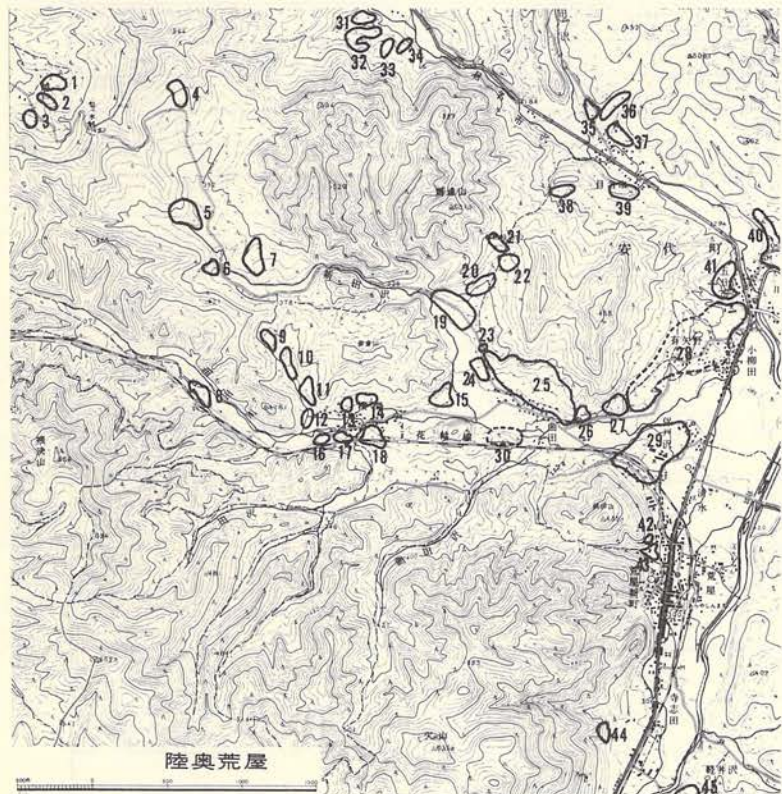




第123図 曲田 I 遺跡周辺の遺跡と消長概念図

123-1

123-2



No.	遺跡名	第90号 No.	No.	遺跡名	第90号 No.
1	越戸 II	42	24	曲田 II	65
2	越戸 I	43	25	上の山 VII	68
3	越戸 III	44	26	上の山館跡	70
4	曲田 X	45	27	上の山 X	71
5	梨木峠南東麓	147	28	有矢野	74
6	曲田一里塚	148	29	保戸沢	73,75
7	未命名	54,55	30	伝曲田館跡 (位置不明)	なし
8	横間奥	149	31	戸沢	46
9	曲田 VII	78	32	戸沢 III	47
10	曲田 VII	79	33	戸沢 I	48
11	曲田 V	81	34	戸沢 II	49
12	ヤカマシダ	83	35	目名市館跡	50
13	曲田 VI	80	36	田ノ沢 II	152
14	曲田 XII	82	37	田ノ沢 I	51
15	横間東	150	38	林粕峠北	151
16	横間台	84	39	谷地田	153
17	横間 II	85	40	五日市館跡	52
18	横間 I	86	41	有矢野館跡	53
19	曲田 I	60	42	荒屋一里塚	76
20	上の山 III	58	43	荒谷館跡	77
	上の山 I	57	44	瀬戸谷地窯跡	101
22	上の山 II	59	45	荒谷 II	102
23	曲田経塚	62,63			



## 遺構別出土遺物一覧表

### 住居跡

遺構名	土 器								石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥	中	その他				
EⅡ-012住									磨石1			実1, 台付土器
013住		前+	後+			前+	中+		(スクレーパー)1			
014住				後+								実1, 小型深鉢
EⅢ-011住												実250, 大~小型深鉢 51他
012住	(後)+		後+	中+	後+	前+++		J+	石鏝2, 石匙2, (スクレーパー)8, 石匙4 石皿1, 糠石・石斧1, 石棒1			
013住						前+						
FⅡ-011住						前+						実1, 小型壺
FⅢ-011住		前+		前+	後+	前+++		J+	石鏝3, 石匙2, 使用剥片1, 円板状石製品 2, 凹石1, 石皿2, 石斧2, 石棒1			実12, 大~小型深鉢 中~小壺
012住								J+				
013住			後+			前+			磨石1			実15, 大~小型深鉢 台付他
014住		前+		前+		前+		J+	石鏝1, (スクレーパー)1, 磨石1	円板状土製品1		実10, 大~小型深鉢 注か
014~015住						前+						
015住									叩石6			実1, 鉢型土器
016住						前+	中+		石匙1, 大型石棒1, (スクレーパー)1, 使用剥 片1, 円板状石製品2, 叩石1, 石皿1, 石斧1,			実3, 大型深鉢2 小型壺
017住						前+++			石匙2, (スクレーパー)1, 凹石1, 石棒2, 磨石1			実5, 大~小型深鉢 中型壺, 鉢
018住						前++						実2, 大型深鉢
019住				前+	中+	前+++			石鏝1, (スクレーパー)1			実11, 大型深鉢, 台付 浅鉢, 注口
0112住						前++			(スクレーパー)3, 使用剥片1	円板状土製品 (有孔)		実3, 大~中深鉢 台付
0113住	後+		後+	中+	後+	前+++	中+		石鏝2, 石匙2, 円板状石製品2, 石棒1	円板状土製品 土偶		実11, 中~小型深鉢 台付他
0114住			中+			前++	中+		石匙1, (スクレーパー)2, 円板状石製品	円板状土製品		実5, 中~小型深型
0115住						前++	中+		石鏝1, 石錐1, 円板状石製品4, 磨石1, 石棒1			実3, 小型深鉢, 台付 注口
0116住						前+++	中+		石鏝4, 石錐1, 石匙2, (スクレーパー)2, 使用 剥片3, 円板状石製品2, 小球礫2, 叩石1, 石斧2	円板状土製品1		実20, 大~小型深鉢 中~小壺
FⅣ-011A住				後+		前+	中+	J				実2, 大型深鉢 大型台付
011B住						前+						
012住						前+						実2, 大型深鉢
GⅡ-012住				前+	後+	前++						実2, 小型深鉢
GⅢ-012A住												
012B住												
012C住						前+						実1, 大型壺
012D住												
013住												
014住						前?+						
016住			中+			前+++			石鏝1, 石匙1, (スクレーパー)2, 円板状 石製品1, 磨石1, 凹石2, 石皿1			実3, 中~小型深型
017住									円板状石製品1, 磨石1			
0116住												実1, 小型深鉢
GⅣ-011住									石鏝2, 石匙1, 石斧2, 石棒1			
012住			後+									
014住			後++			前++			石匙1, (スクレーパー)1, ノッチ1			実11, 大~小型深鉢 小型壺, 注口
015住						前+						



遺構名	土 器								石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他					
GV-016住			後+						石斧1			実1, 中型深鉢
017住			後+		前+	中+			石椀1, 石匙1, 石匙2, (スクレーパー)2, 使用剥片6, 円板状石製品6, 扁平礫2, 磨石2, 小球礫1, 石斧1, 岩版1			実28, 大~小深鉢, 台付, 小型壺, 注口
018住					前+							
019住					前+							実1, 注口土器
0110住			後+		前++							
HIII-011住									石匙1, (スクレーパー)1			
012住									(スクレーパー)1			
HV-011住								J+				実1, 大型深鉢
IV-011住									(スクレーパー)1			
JV-011住					前+				(スクレーパー)1, 小球礫2, 石斧1			実1, 小型深鉢
012住			後+	前++								実3, 大~中型深鉢
JVI-011住			後+	前++					(スクレーパー)2, 使用剥片3, 凹石1, 平石1, 三角柱状礫1			実7, 大~小深鉢, 小型壺
KVI-011住			前+						石鏝1, 使用剥片3, 掘具1			
012住			後+	前+					バナナ状礫器1			

ビット

遺構名	土 器								石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他					
EIII-028P				初1								
FIII-022P		前+										
GII-021P					前+							
GII-022P					"							
GIII-021P					"							
HIII-021P					"							
HIII-022P					"							
HIII-023P					"							
HIII-024P					"							
HIII-025P					"							
HIII-026P					"							
IV-022P		前+										
JV-022P				前++								
JVI-023P				前+								
JVI-028P				中?+								
LIII-0215P				中+								
LIII-0218P					中+							
MIII-025P					中++							

その他の遺構

遺構名	土 器								石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他					
GII-00捨場				前++ 中+	前+++				石鏝1, 石匙8, (スクレーパー)8, 使用剥片1, 円板状石製品1, 石斧1, 耳栓1, 円板1			実70, 大~小深鉢, 浅鉢, 台付, 壺類
MV-00捨場												

遺構名	土 器								石 器	土 製 品	その他	備 考
	早	前	中	後	晩	弥 中	その他					
NⅦ-001捨場								J++				
GⅣ-051溝					前+							
IⅥ-051溝				+	+							
GⅣ-071炭窯				中+	前++				石匙1, 擦痕石片1, 竈道具2		鉄製天井釣金具4	実1, 小型台付深鉢
FⅢ-061石組									石棒1			
HⅢ-031埋ガメ								J+				実1, 大型深鉢
FⅢ-041道路跡									スクレーパー2, 円板状石製品1			

組 掘

遺構名	土 器								石 器	土 製 品	その他	備 考	
	早	前	中	後	晩	弥 生	その他						
EⅡ区	(後)+	前++	後++	後++	前+++				(スクレーパー), 円板状石製品, 剥片				
EⅢ	#+	#+	中+ 後+	前+ 中+ 後++	#+++				平石2, 石斧3, 大小石棒6, 孔有石製品1, ノッチ(スクレーパー)14, 使用剥片7, 石匙4, 円板状石製品4, 石皿2	円板状土製品1 耳栓1, 土偶1		実30, 大~小型深鉢 台付, 注口他	
FⅡ				中+ 後++	#+++				(スクレーパー)1, 石棒1				
FⅣ									叩石1, 石棒1				
GⅡ			後+	前+ 後+	前+++				(スクレーパー)2				
GⅢ					前+++ 中+				石皿1, 石槍1, (スクレーパー)10, 石皿1, 有孔石製品1, 石棒1, 石匙3, 円板状石製品4, 磨石2, 凹石1, 平石1, 石斧6, 砥石1	円板状土製品 土製土製苗		実26, 大~小型深鉢 浅鉢他	
GⅣ			後+	後+	前++				石皿1, (スクレーパー)1, 使用剥片2, 円板状石製品2, 有孔石製品1	円板状土製品		実3, 大型深鉢	
HⅢ			後+	前+ 中+	前+++				石皿4, 石匙4, (スクレーパー)13, 円板状石製品12, 凹石3, 磨石2, 叩石2	土偶, 円柱状土製品1, 不明!		実4, 小型深鉢, 台付 注口	
HⅣ			後+	前+	前+++ 後+				平石1, 石斧1, 石棒1, 石皿1, 横刃型打製石斧1, 石皿2, 石錐2, (スクレーパー)11 円板状石製品14, 小球礫1, 石棒2, 石斧 石錐1, (スクレーパー)2, 円板状石製品3, 小球礫1, 石棒2	須恵器1		実24, 大~小型深鉢 台付, 中~小壺他	
HⅤ				後+	前+			J+	円板状石製品4, 叩石1	不定形土製品	骨片		実2, 大~中型深鉢
HⅥ					前+			J+					
IⅢ			中+	前++	前++			J+	(スクレーパー)1, 円板状石製品1, 砥石1, 石皿1				実11, 大~小型深鉢 台付, 注口他
IⅣ		前++		前+ 中+	前+++				(スクレーパー)11, 石へら1, 円板状石製品7, 叩石2, 磨石3, 砥石1, 三角柱状磨石器具2, 石斧4, 石棒2		(摺鉢片)		実5, 中型深鉢, 鉢
IⅤ		前++	+	前+ 中+	前+			J+	(スクレーパー)1, 石匙1, 石へら1, 小球礫1, 叩石1, 掘具1, 石斧1				実5, 大~中型深鉢 小型壺
IⅥ		前++											
JⅢ								J+					
JⅣ									石皿1, 石錐1, 円板状石製品1, 凹石1, 砥石1, (スクレーパー)1				実1, 大型深鉢
JⅤ			後+	前+++		前+++	J+		石皿3, 石錐1, 石匙1, (スクレーパー)4 円板状石製品2, 小球礫1, 磨石1, 凹石3 砥石1, 平石1, 注石1, 叩石1				実11, 大~小型深鉢 壺, 鉢
JⅥ				前+++		前+++			石皿1, 石匙1, (スクレーパー)4, 円板状石製品2, 小球礫1, 凹石1, 砥石1, 石斧1				実9, 大~小型深鉢
KⅣ							J+		石皿1				
KⅤ		前++	後+	前+	前+		J+		石皿1, 石槍1, 石匙1, (スクレーパー)3 円板状石製品1, 叩石1	釣鐘状土製品	(摺鉢片)		実3, 大~小型深鉢
KⅥ		前+	後+	前+++	前+++								
LⅢ				中+					石へら1, (スクレーパー)1				
LⅣ					中++				磨石2, 石斧1				実1, 小型壺
LⅤ									(スクレーパー)1				
MⅣ					中+				石斧1, 石棒1				実1, 大型深鉢
MⅤ					中+				石匙1				
MⅥ					中+								実1, 大型深鉢
出土地不明	後+		後+ 後++	前+ 中+ 後+	前++	前+							



# 出土遺物觀察表

第1表 土器

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高 cm	口径 cm	底径 cm	容量 cc	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
12-3	81	小型くびれ付 (口~胴上部)	E II - 011住	残 6.0	推 11.7	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		黒褐色	376
19-11	81	小型深鉢 (口~底部)	E II - 014住	残 12.3	推 16.3	推 5.3	1,300	$\frac{2}{10}$ 口~底部		"	503
19-12	81	小型深鉢 (口~胴中部)	"	残 8.0	推 12.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	501
19-13	81	小型丸胴壺 (口~胴上部)	"	残 10.1	推 9.3	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		暗赤褐色土	554
19-14	81	超小型無文高台深鉢 (胴下部~高台)	"	残 2.1	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~胴		にぶい赤褐	555
19-15	81	小型深鉢 (口~胴上部)	"	残 6.5	推 10.7	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		褐色	502
22-49	83	小型無文深鉢	E II - 015住	11.5~ 12.4	13.2	6.0	600	$\frac{95}{10}$ 口辺、胴	+ E III - 011住 縄文後期末	明赤褐色	378
26-52	85	大型深鉢	E III - 011住	32.0	22.6	推 8.7	6,800	$\frac{8}{10}$ 口~底部	606-2	橙	169
26-53	84	"	"	残 13.4	推 26.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口~底		褐色	644
26-54	84	大型深鉢 (口~胴中部)	"	残 26.9	推 31.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		"	172
26-55	84	大型深鉢	"	残 33.2	推 26.2	6.5	—	"		にぶい黄橙	187
26-56	—	中型深鉢	"	残 16.0	—	7.5	1,160	$\frac{25}{10}$ 口~胴部	187	橙	186
26-57	85	大型深鉢	"	残 10.0	—	7.8	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部	17-4+4-6	にぶい赤褐	188
26-58	—	大型深鉢 (胴下部)	"	残 9.8	—	—	—	$\frac{1}{10}$ 口~底部		にぶい黄橙	189
27-59	84	大型深鉢	"	残 6.5	推 29.4	—	—	$\frac{05}{10}$		にぶい橙	649
27-60	84	大型深鉢 (口~胴部)	"	残 29.6	推 32.8	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		暗赤褐色~ 極暗赤褐色	175
27-61	—	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残 15.5 ~14.5	推 25.8	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐	178
27-62	85	大型中鉢? (胴下部~底部)	"	残 13.3	—	推 8.8	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		にぶい橙	190
27-63	—	大型深鉢 (胴下部~底部)	"	残 9.2	—	推 7.7	—	$\frac{15}{10}$ 口~胴部		"	191
27-64	85	"	"	残 6.8	—	7.6	—	$\frac{1}{10}$ 口~底部		明赤褐色	195
27-65	85	大型中鉢 (口~胴上部)	"	残 9.0	20.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部	906+310-2	にぶい褐色	161
27-66	85	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残 18.3	推 25.2	—	—	"		灰褐色	176
27-67	—	"	"	残 14.9	推 28.6	—	—	"		にぶい褐色	179
28-68	86	大型深鉢 (口~底部)	"	残 27.2	25.3	—	—	$\frac{7}{10}$ 口~胴部		にぶい黄褐色	174
28-69	86	大型深鉢 (口~胴部)	"	残 25.8	25.2	—	—	$\frac{6}{10}$ 口~底部		黒褐色	171
28-70	86	大型深鉢	"	33.3	推 20.8	推 8.0	8,500	$\frac{3}{10}$ 口~底部		にぶい橙	185
28-71	84	大型深鉢	"	残 23.3	推 28.7	—	—	$\frac{25}{10}$		灰黄褐色	648
28-72	84	"	"	残 20.5	推 30.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底		褐色	647
29-73	83	大型深鉢 (胴部)	"	残 32.5	推 33.2	—	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部		明黄褐色	180
29-74	86	大型深鉢 (口~胴部)	"	残 26.8	推 36.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	183
29-75	88	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残 16.9	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		にぶい褐色	181
29-76	86	大型深鉢 (胴下部~底部)	"	残 6.4	—	推 8.4	—	$\frac{1}{10}$ 口~底部		にぶい橙	193
29-77	86	大型深鉢	"	残 11.0	—	8.0	—	"		明赤褐色	650
29-78	—	大型深鉢 (胴下部~底部)	"	残 9.0	—	8.1	—	$\frac{2}{10}$ 口辺~底部		明褐色	192
29-79	86	"	"	残 5.9	—	7.0	—	$\frac{1}{10}$ 口~底部		にぶい橙	194
29-80	85	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残 12.8	23.0	—	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	182
30-81	85	中型深鉢 (口~胴部)	"	残 26.7 ~27.6	22.9	—	6,000	"	705	"	170
30-82	87	中型深鉢 (口辺~胴上部)	"	28.7	21.1	6.8	5,650	$\frac{6}{10}$ 口~胴		にぶい褐色 ~褐灰	165
30-83	87	中型深鉢	"	27.3~ 26.3	推 20.8	7.0	4,950	$\frac{75}{10}$ 口~底部		にぶい橙	167
30-84	—	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残 11.6	推 23.0	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		にぶい黄橙	177



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接 合 関 係	色 調	整理 番号
30-85	—	中 型 深 鉢	EⅢ-011住	残13.6 <sup>cm</sup>	推25.4 <sup>cm</sup>	—	— <sup>cc</sup>	15/10口～底部		褐 色	184
30-86	87	中 型 深 鉢 (口～胴中部)	"	残17.2	推16.2	—	—	25/10口～底部		にぶい橙～黒	166
30-87	87	中 型 深 鉢 ? (胴下～底部)	"	残 8.7	—	7.5	—	2/10口～胴部		褐 色	106
31-88	88	くびれ付 小 型 深 鉢	"	16.2～ 17.2	13.2	5.9	1,700	6/10口～胴		にぶい 橙	117
31-89	88	くびれ付小型深鉢 (口～胴部)	"	残15.4	推14.3	—	—	2/10口～底部		にぶい赤褐～ にぶい褐色	119
31-90	—	中 型 深 鉢 (口～胴上部)	"	残 8.6	推17	—	—	"		にぶい 橙	197
31-91	88	中 型 中 鉢	"	18.2	推21.8	6.8	3,150	6/10口～底部		にぶい黄褐～ 黒褐色	105
31-92	88	中 型 深 鉢 (胴中～底部)	"	残11.9	—	6.0	—	4/10口～胴部		浅 黄 橙	379
31-93	88	中 型 深 鉢 (胴下部～底部)	"	残 6.1	—	6.0	—	1/10口～胴部		にぶい褐～ 褐灰	196
31-94	89	中 型 深 鉢 (胴下～底部)	"	残13.2	—	6.1	—	3/10口～胴部		にぶい 褐	199
32-95	89	小 型 深 鉢	"	残12.4	—	5.2	—	5/10口～胴部		橙	109
32-96	—	"	"	残 8.6	—	4.6	—	3/10口～胴部		にぶい赤褐～ 黒褐	113
32-97	—	小 型 深 鉢 (口～胴上部)	"	残 6.2	推 5.8	—	—	2/10口～底部		にぶい赤褐	66
32-98	88	"	"	残 6.6	推 6.1	—	—	2/10口～胴		灰 黄 褐	64
32-99	89	小 型 深 鉢	"	残 9.7	推 6.0	—	—	2/10口～底部		暗 赤 褐 色	112
32-100	90	小 型 深 鉢 (胴下～底部)	"	残 5.9	—	4.8	—	2/10口～胴部		にぶい赤褐	111
32-101	89	小 型 深 鉢	"	8.6	推11	3.8	400	8/10口 辺部		褐～黒褐	102
32-102	88	小 型 深 鉢 (台なし)	"	残11.7 ～12.3	15.9	—	—	6/10口～底部		にぶい赤褐	101
32-103	89	小 型 深 鉢 (胴中～底部)	"	残11.5	—	6.6	—	35/10口～胴部		明 褐	110
32-104	89	小 型 深 鉢 (胴上～底部)	"	残12.1	—	5.2	—	65/10口～胴部		暗 赤 褐	108
32-105	88	小 型 深 鉢 (胴下部～底部)	"	残 6.1	—	5.7	—	3/10口～底部		にぶい黄褐～ 黒褐	65
32-106	90	小 型 深 鉢	"	残 6.7	—	4.4	—	25/10口～胴部		にぶい黄橙	114
32-107	89	小 型 深 鉢 (高台付、胴下部～底部)	"	残 9.5	—	5.1	—	35/10口～胴上部		にぶい黄褐	104
32-108	88	くびれ付 小 型 深 鉢	"	9.8	11.0	4.6	450	9/10口～胴部		にぶい黄橙	85
32-109	—	小 型 深 鉢	"	残 4.8	—	5.2	—	3/10口～胴部	縄文中期末? + GⅣ-011住	にぶい黄褐	562
33-110	90	小 型 深 鉢 (口～胴上部)	"	残 7.4	推15.7	—	—	15/10口～底部		灰 褐	121
33-111	—	小 型 深 鉢	"	13.8	14.2	6.0	1,050	8/10 胴 部		にぶい 橙	99
33-112	89	"	"	11.8	推10.3	5.2	700	7/10口～胴		にぶい黄褐	98
33-113	90	"	"	17.1	17	5.5	2,150	9/10同・底		橙～にぶい褐	96
33-114	89	小 型 深 鉢 (高台付)	"	13.9	15.1	5	1,150	75/10口辺～胴部		にぶい褐～ 褐灰	94
33-115	89	小 型 深 鉢 (高台なし)	"	9.4	推10.1	4.4	400	75/10口～胴上		黄橙～黄褐	107
33-116	90	"	"	残14.1	15	5.3	1,200	8/10口～胴		明褐～黒褐	95
33-117	90	小 型 深 鉢	"	11.4	推 9.5	4.4	700	4/10口～胴		灰 褐	97
33-118	89	小 型 深 鉢 (胴～底部)	"	7.3	推 8.6	4.7	—	3/10口～胴部		褐 色	103
34-119	90	中 型 深 鉢 (口辺部)	"	残 4.8	推19.8	—	—	15/10口～底部	4-2	"	162
34-120	89	くびれ付小型深鉢 (口～胴部)	"	残13.9	推14.0	—	—	3/10口～底部		橙	91
34-121	95	中 型 深 鉢 (口辺～胴上部)	"	残10.5	15.6	—	—	25/10口～底部	欠24+欠64	灰 黄 橙	163
34-122	94	くびれ付小型深鉢 (口～胴部)	"	残12.6	推19.1	—	—	3/10口～底部	905+欠-1	にぶい赤褐～ 黒褐	90
34-123	—	中 型 深 鉢 ? (口辺～胴上部)	"	残11.1 ～11.5	18.1	—	—	2/10口～底部		にぶい赤褐	78
34-124	90	中 型 深 鉢	"	残 7.0	推22.5	—	—	1/10口～底		にぶい黄褐	651
34-125	90	"	"	残10.5	推22.0	—	—	2/10口～底		黒 褐 色	645

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
34-126	93	中型深鉢	EⅢ-011住	cm 19.1	cm 推20.6	cm 6.6	cc 3,800	$\frac{6}{10}$ 口～胴		赤 褐	164
35-127	90	小型深鉢	"	13.3	14.5	5.8	1,350	$\frac{9}{10}$ 口～底部		にふい褐	36
35-128	93	"	"	9.6	13.7	5.8	800	$\frac{85}{10}$ 口～胴	202-1	褐灰～黒褐	42
35-129	92	"	"	9.8	13.9	5.5	750	$\frac{9}{10}$ 口～胴		にふい褐	49
35-130	94	くびれ付 小型深鉢	"	10.1	15.4	5.0	1,000	$\frac{9}{10}$ 口～胴部	+ GⅢ-pit	にふい橙～黒褐	87
35-131	90	小型深鉢	"	11.0	推15	6	1,000	$\frac{45}{10}$ 口～底部	512	にふい赤褐 ～黒褐	39
35-132	92	小型中型	"	7.4～ 6.9	11.8	4.3	400	$\frac{65}{10}$ 口～胴上部		にふい黄褐	76
35-133	92	小型深鉢	"	11.5	15.5	推6.9	1,200	$\frac{7}{10}$ 口～底部		にふい黄褐 ～にふい橙	41
35-134	91	"	"	11.8	15.1	5.3	1,100	$\frac{7}{10}$ 口・胴		黄 褐	35
35-135	91	"	"	11.0	11.6	5.2	700	$\frac{85}{10}$ 胴	4-6	にふい赤褐 ～橙	58
36-136	91	"	"	9.2	12.0	5.2	500	$\frac{85}{10}$ 口～胴		にふい褐	44
36-137	91	"	"	9.2	11.7	5.4	550	$\frac{7}{10}$ 口～胴	303外	明 赤 褐	55
36-138	—	"	"	10.2	12.6	5.1	700	$\frac{75}{10}$ 口～胴		褐	48
36-139	91	"	"	8.8～ 9.5	12.3	4.9	550	$\frac{7}{10}$ 口～胴		にふい赤褐	60
36-140	92	"	"	8.2	12.3	6	500	$\frac{75}{10}$ 口～胴		黒 褐	43
36-141	91	"	"	9.0	推11.6	5.0	450	$\frac{5}{10}$ 口～胴		にふい褐	46
36-142	91	"	"	9.8	11.4	5.0	600	$\frac{9}{10}$ 口～胴		にふい褐～ 褐灰	56
36-143	91	小型深鉢 (口～胴下部)	"	6.5	8.2	推4.5	200	$\frac{3}{10}$ 口～底部		にふい褐～ 黒褐	47
36-144	91	"	"	7.4～ 8.2	推8.9	推3.3	200	$\frac{4}{10}$ 口～底部		にふい橙～ 褐灰	59
36-145	91	小型深鉢	"	7.8	11.7	5	350	$\frac{75}{10}$ 口～胴		黒褐～ にふい橙	100
36-146	91	"	"	13.7	14.2	5.4	1,300	$\frac{7}{10}$ 口～胴		にふい赤褐	52
36-147	93	"	"	11.3	14.7	5.4	1,100	$\frac{8}{10}$ 口～胴		褐	54
36-148	91	"	"	11.5	14.7	5.7	1,000	$\frac{6}{10}$ 口・胴		橙 ～ 褐	38
36-149	91	"	"	10.3	15.2	5.6	1,000	$\frac{85}{10}$ 口辺		にふい褐	51
37-150	92	"	"	残6.9	推13.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にふい赤褐	62
37-151	90	"	"	残12.4	16.6	推7.2	2,000	$\frac{6}{10}$ 口・底部	502-2+311-2	にふい赤褐 ～赤黒	40
37-152	92	"	"	残7.7	推13.7	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底		にふい赤褐	646
37-153	93	小型深鉢 (口～胴上部)	"	残6.8	推13.5	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		にふい橙	69
37-154	93	小型深鉢 (口辺～胴上部)	"	残7.0	推14.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		にふい赤褐	79
37-155	94	くびれ付 小型深鉢	"	13.2	11.4	推6.2	800	$\frac{6}{10}$ 胴～底部		"	118
37-156	91	小型深鉢 (口辺部)	"	残4.3 ～5.3	推12.4	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		にふい橙	68
37-157	93	小型深鉢 (口～胴上部)	"	8.6	15.3	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部	95-1	灰 褐	53
37-158	93	小型深鉢 (口辺部)	"	残5.8	推17.0	—	—	"		赤 褐	63
37-159	92	小型深鉢 (口～胴上部)	"	残9.3	推18.8	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		にふい赤褐	120
38-160	92	小型深鉢	"	残10.8	16.2	推6.2	1,300	$\frac{8}{10}$ 胴・底部		褐～にふい褐	37
38-161	92	"	"	11.0	14.3	4.9	950	$\frac{7}{10}$ 口～底部		にふい褐	45
38-162	92	"	"	11.3	6.1	6.0	1,200	$\frac{85}{10}$ 口～胴		にふい黄褐 ～黒	61
38-163	93	"	"	13.2	推15.7	5.8	1,500	$\frac{6}{10}$ 口～底部		にふい赤褐	50
38-164	93	"	"	残4.8	推8.0	—	—	$\frac{25}{10}$ 胴～底部	303-10	にふい褐	67
38-165 <sup>a</sup> b	92	"	"	8.3	12.9	推5	500	$\frac{75}{10}$ 口～底部	(展開図)	にふい黄褐 ～黒褐	57
39-166	95	くびれ付 小型深鉢	"	13.8	13.2	4.7	1,300	$\frac{9}{10}$ 口～胴		明 赤 褐	80



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接 合 関 係	色 調	整理 番号
39-167	94	くびれ深付鉢 小型	EⅢ-011住	12.2 cm	10.9 cm	5.8 cm	650 cc	7/10口～胴		にぶい褐	82
39-168	94	くびれ付小型深鉢 (口～胴上部)	"	残14.8	16.5	—	2,100	75/10口～底部		にぶい赤褐 ～褐	88
39-169	95	くびれ深付鉢 小型	"	11.6	12.6	5.1	700	8/10口～胴部		にぶい褐	84
39-170	95	くびれ付小型深鉢 (口～胴上部)	"	11.7	推 8.7	推 4.4	500	7/10口～底部		明赤褐～黒褐	89
39-171	95	くびれ深付鉢 小型	"	14.1	13.6	5.0	1,000	75/10口～胴部		にぶい赤褐 ～黒色	115
39-172	95	くびれ付小型深鉢 (口～胴下部)	"	残12.4	12.5	—	—	4/10口～胴		灰 褐	92
39-173	95	"	"	14.2	15.2	推 4.7	1,500	8/10口～底部		にぶい褐～ 黒褐	83
39-174	95	くびれ深付鉢 小型	"	12.5	12.0	推 4.6	800	75/10口辺～底部		にぶい褐	81
39-175	94	"	"	残15.5	13.7	推 7.5	1,900	6/10口～底部		橙～灰褐	116
40-176	94	小型中鉢	"	9.9	15.6	6.5	1,100	7/10口～底部	211-2	にぶい橙	70
40-177	94	"	"	7.2	13.4	5.8	550	9/10口～底	1-6+308-4	にぶい褐	74
40-178	96	台付浅鉢	"	4.9	推 8.9	5.5	100	7/10口辺部～胴		褐	11
40-179	96	"	"	6.2	推 8.9	5.2	200	6/10口～胴		にぶい赤褐	15
40-180	96	"	"	9.5	12.7	推 7.2	450	9/10胴～脚		"	6
40-181	96	"	"	8.9～ 9.9	11.6	7.8	400	9/10口～脚		にぶい橙	5
40-182	94	小型中鉢	"	7.6～ 8.1	12.4	推 4.4	450	7/10口～底部		にぶい橙～ 灰褐	75
40-183	94	"	"	8.6	12.9	4.4	500	9/10口辺	905	赤 褐	71
40-184	95	くびれ浅付鉢	"	10.5	推17.1	推 5.2	1,400	75/10口～底部		にぶい橙～ にぶい褐	156
40-185	96	台付浅鉢	"	残 4.6	—	6.4	—	2/10口～胴		にぶい橙	25
40-186	97	"	"	残 5.3	—	5.7	—	35/10口～脚		"	24
40-187	96	大台付浅型鉢	"	残 8.0	—	9.2	—	3/10口～胴		"	23
40-188	95	くびれ深付鉢 小型	"	9.0	10.8	推 5.2	400	75/10口～底部		にぶい赤褐	86
40-189	92	小型中鉢	"	8.0	12.3	3.5	400	95/10口～胴		緑 黒	73
40-190	90	小型中鉢 (胴上～底部)	"	残 7.4	—	4.4	—	5/10口～胴		にぶい褐	77
40-191	99	小型中鉢	"	8.0	14.1	5.8	600	65/10口～底部	508	灰 黄 褐	72
40-192	96	台付浅鉢	"	残10.5	推14.2	推 4.6	750	6/10口～脚		にぶい黄橙	17
41-193	97	"	"	残13.4	12.9	7.3	850	8/10胴～口		黒～ にぶい黄橙	21
41-194	96	台付深鉢	"	12.8	推11.8	6.1	550	8/10口辺、胴		浅 黄 橙	22
41-195 <sup>a</sup> b	96	くびれ浅付鉢	"	14.3	21.3	—	2,450	65/10口～底部	(展開図)	"	157
41-196 <sup>a</sup> b c	96	台付浅鉢	"	14	18.7	9.2	1,500	9/10	(展開図)	黒褐・明赤褐	1
41-197	97	"	"	残13.4	—	7.8	1,000	8/10口辺部	507-1	にぶい橙	24
41-198	97	"	"	残12.5	15.4	推 9.5	2,300	5/10口～脚	1204-1+1002	暗 褐	18
41-199	97	"	"	残 6.7	推12	—	500	4/10口～脚		黒褐～ にぶい褐	19
41-200	96	"	"	10.3	推12.0	推 5.9	450	5/10口～脚		浅 黄 橙	10
41-201	96	"	"	3.4	8.4	—	100	6/10口辺、脚		黒 褐	13
41-202	97	"	"	10.6	13.6	6.7	600	65/10口～脚	311-9	橙	9
41-203	97	"	"	残 6.1	推19.7	—	1,800	2/10口～胴上～底		明 赤 褐	215
42-204	97	"	"	7.9	11.5	7.5	250	95/10内底、脚		"	7
42-205 <sup>a</sup> b c	97	"	"	残12	推17.8	—	1,800	4/10口～脚	(展開図)	褐 黒	20
42-206	99	"	"	9.6	12.7	6.8	500	8/10口～胴下部		褐 灰	4
42-207	—	"	"	—	—	—	—	—	欠番(205と同じ)		

図版番号	写真 番号	器 種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接 合 関 係	色 調	整理 番号
42-208 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	98	浅鉢	EIII-011住	cm 9.8	cm 17.6	cm 5.3	cc 1,400	95/10口辺一部	(展開図)欠113+114 ○高さは1.16倍に伸ばし	明褐～暗褐	○153
42-209	—	台付浅鉢	"	10.4	9.3	—	100	95/10脚		にふい橙	12
42-210 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	98	くびれ付浅鉢	"	8.3	20.0	9.2	1,350	75/10口～底部	308-1	にふい赤褐	144
42-211	97	台付浅鉢	"	12.3	16.4	8.6	1,000	85/10口～脚部		橙～黄褐	3
42-212	97	"	"	7.2	9.9	4.8	150	5/10口～胴		にふい褐	14
42-213	97	"	"	6.1～ 7.5	10.9	5	200	7/10口～胴		にふい橙	8
42-214 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	95	台付浅鉢	"	残5.4	9.3	—	200	9/10脚	(展開図)	黒	16
43-215 <sup>a</sup> <sub>b</sub> <sub>c</sub>	96	小型くびれ付皿	"	5.8	18.1	8.8	600	8/10口～胴部	(展開図)	暗赤灰	151
43-216	99	小型浅鉢 (胴上～底部)	"	残2.8	—	丸底	—	6/10口～底部		にふい橙～ にふい褐	150
43-217 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	99	小型くびれ付浅鉢	"	5.1	11.1	—	300	9/10口～胴部	(展開図)	極暗赤褐～黒	152
43-218	99	小型台付浅鉢 (口～胴上部)	"	残7.1	推12.7	推5.0	450	3/10口～脚		にふい橙	160
43-219	99	くびれ付小型浅鉢 (口～胴上部)	"	5.0	13.0	推4.0	300	25/10口～底部		にふい黄橙	159
43-220 <sup>a</sup> <sub>b</sub> <sub>c</sub>	99	くびれ付浅鉢	"	6.6	14.6	8.4	700	85/10口～底部	(展開図)202-1	黒褐～黒	145
43-221	99	くびれ付小型浅鉢	"	6.7	16.5	5.3	700	65/10口～底部		褐～黒褐	158
43-222	99	小型有文浅鉢	"	6.1	13.8	丸底	450	9/10口～胴部		灰 褐	148
43-223 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	98	耳付小型浅鉢	"	9.7	15.5	—	650	75/10口～底部	(展開図)	黒 褐	155
43-224 <sup>a</sup> <sub>b</sub> <sub>c</sub> <sub>d</sub>	98	"	"	3.5～ 5.8	11.1	5.8	200	10/10完形	○は展開図の高さは不定 ( " ) 3	"	○154
44-225	99	小型無文浅鉢	"	8.0	17.0	7.3	1,000	8/10口辺～胴	206-1+108-2	にふい赤褐	146
44-226	99	"	"	6.2	14.6	—	550	7/10口～底部	欠-13	明 褐	147
44-227	99	小型無文浅鉢 (口～胴上部)	"	残3.9	9.2	—	—	2/10口～底部		にふい赤褐	209
44-228	99	超小型無文浅鉢	"	4.5～ 4.9	推7.2	3.2	100	4/10口～胴部		にふい橙	214
44-229	99	小型くびれ付浅鉢	"	8.2	15.2	7.7	800	95/10口～胴部	206	明赤褐～ オリーブ黒	149
44-230	99	超小型浅鉢	"	残3.6	推6.2	推5.0	200	5/10口～底部		橙	213
44-231	100	中型丸胴壺	"	24.5	9.8	8.2	4,800	95/10胴		にふい黄橙	198
44-232	100	中型丸胴壺 (胴上～中部)	"	残12.1	—	—	—	15/10口～胴部		にふい橙	142
44-233	99	小型つばみ口壺 (口辺部)	"	残5.8	7.4	—	—	1/10口～底部		赤褐～ にふい褐	131
44-234	99	小型壺	"	16.0	8.0	5.8	1,450	99/10胴	11	にふい黄褐	127
45-235	100	大型丸胴壺 (胴中～底部)	"	残16.8	—	11.0	—	35/10口～底部	804+908-1+518-4	にふい橙	139
45-236	100	大型直口壺 (口～胴上部)	"	残10.5	推14.2	—	—	15/10口～底部		暗 褐	141
45-237 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	100	大型丸胴壺 (口～胴中部)	"	25.3	11.4	8.2	5,800	85/10口～胴部	503+511-2+908-2 (展開図)	黒 褐	137
46-238	101	中型直口壺 (口～胴中部)	"	23.1	11.4	8.0	3,950	4/10口～胴部	1101-1	赤 褐	138
46-239	101	中型長胴壺 (胴上～胴下部)	"	残22.0	—	—	—	25/10口～底部		にふい黄橙	134
46-240	100	中型丸胴壺 (胴上～底部)	"	残12.9	—	8	—	75/10口辺～胴上		橙～褐灰	140
46-241	100	中型無文壺	"	15.2	推10.5	7.5	2,100	5/10口～胴部	FIII-019住	黒褐～赤黒	132
46-242	101	中型長胴壺 (胴中～底部)	"	残16.5	—	8.4	—	25/10口～底部		浅黄橙	135
47-243	102	小型長細口壺	"	22.8	4.8	6.4	1,400	8/10口～底部	1-6	にふい橙	124
47-244	103	超小型無文壺	"	5.8	推2.6	推3.0	20	55/10口～底部		"	212
47-245 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	102	長トックリ型 胴壺	"	15	4.8	5.3	400	6/10胴部	(展開図)	褐灰～黒	(A,B) 129
47-246	102	小型細口壺	"	16.5	3.6	5.3	950	10/10完形	902	にふい黄褐	126
47-247	102	小型扁平広口壺	"	4.4	6.3	丸底	100	9/10口辺～胴上	105-2	灰黄褐	206
47-248	101	小型直口壺 (口～胴部)	"	残12.5	推10	—	—	3/10口～底部	欠78	にふい褐色土	130



図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
47-249	102	小型無文壺	FⅢ-011住	残8.4 cm	推5.2 cm	推4.6 cm	150 cc	3/10口~底部		赤 褐	136
47-250	101	長胴壺 (口~胴)	"	残13.0	—	—	—	2/10口~底	縄文後期前葉 EⅢ相, FⅢ相, GⅡ001, FⅢ-0112, 欠67, 欠3	明 褐	504
47-251	102	小型無文壺	"	7.9~ 8.0	6.6	5.5	300	75/10口~底部		黒褐~ にぶい橙	211
48-252	102	小型広口壺	"	10.1	12.2	3.4	800	99/10口辺部	欠108+?	灰 黄 褐	122
48-253	104	小型無文壺	"	残6.4	推5.2	—	—	25/10口~底部	110-1	にぶい 赤褐色土	133
48-254	102	"	"	残10.6	—	6.9	700	95/10口辺部	107	褐 灰	123
48-255	102	"	"	6.5	4.8	3.4	100	99/10口辺部	305	にぶい黄橙	125
48-256	—	超小型壺	"	残3.9	推4.8	—	—	25/10口~底部		黒 褐	216
48-257	102	小型広口壺	"	6	推7.0	3.5	150	8/10口辺部	315	明 赤 褐	207
48-258	—	小型壺 (口~胴上部)	"	残6.4	推6.7	—	—	25/10口~底部		にぶい 赤褐色土	208
48-259	102	小型無文広口壺	"	9.1	8	6	450	85/10口~胴		にぶい赤褐色 ~暗赤褐色	201
48-260	102	"	"	9.1	推7.4	5.8	400	75/10口~胴	106	赤 灰	202
48-261	—	"	"	11.2	9.8	4.9	950	8/10口~胴		にぶい黄橙 ~灰黄褐	200
48-262	102	小型無文扁平壺 (胴上~底部)	"	残4.9	推5.0	3.6	150	85/10口辺部	607	褐 灰 色 土	205
48-263	102	小型無文広口壺 (口~胴部)	"	残9.2	7.0	推5.0	450	5/10口~底部		にぶい黄褐	203
49-264	103	小型無文壺	"	11.8	推6.8	6.8	700	4/10口~胴		にぶい黄橙	128
49-265	103	"	"	残8.7	推7.6	丸底	500	6/10口~底部		灰 黄 褐	210
49-266	103	小型無文広口壺	"	10	推7.6	6	450	5/10口~胴	201	にぶい橙	204
49-267	104	注口土器	"	残3.7	—	丸底	—	4/10口~底部	311-2	暗 褐	34
49-268	103	"	"	10.2~ 12.1	15.4	丸底	1,200	5/10口~底部	311+G3グリット出土品	黒 褐	26
49-269	—	"	"	残7.6	7.5	—	—	25/10口辺部		にぶい黄褐	657
49-270	103	"	"	10.3	13.7	丸底	700	6/10口~底部		暗オリーブ褐	29
50-271	104	"	"	11.0	推9.5	"	800	85/10口辺部	5	黒褐~ にぶい橙	33
50-272	103	"	"	11.2	13.3	"	850	85/10口~底部	201-1	オリーブ黒	27
50-273	103	"	"	11.9~ 12.6	9.2	"	1,350	8/10口~底部	311-1	灰 褐	28
50-274	103	"	"	残10.5	推11.9	"	950	7/10口~底部	4-1+欠75	浅 黄 橙	32
50-275	104	"	"	13.7	推7.7	"	1,550	95/10口辺部	9	にぶい黄橙	31
50-276	104	"	"	5.4	—	—	—	5/10胴~底部	104+99	にぶい橙	30
58-362 <sup>a</sup> b c	108	小型細口丸胴壺 (口~胴中部)	EⅢ-012住	残11.6	3.4	—	550	6/10胴~底部		にぶい黄褐色	383
63-364	108	大型深鉢	FⅢ-013住	32.0	推29.5	7.5	(水) 9,500	1		にぶい黄褐色	391
63-365	108	大型深鉢 (口~胴中部)	"	残18.9	推27.3	—	—	2/10口~底部		黒 褐 色	393
63-366	108	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残14.0	推28.4	—	—	15/10口~底部	+FⅢ-0113住	にぶい黄褐色	390
63-367	108	大型深鉢 (口~胴中部)	"	残17.7	推19.4	—	—	15/10口~底部		にぶい褐色	389
63-368	108	"	"	残23.0	推25.4	—	—	2/10口~底部		にぶい赤褐色	388
63-369	108	"	"	残20.6 ~21.3	推23.0	—	—	"	1	明 褐 色	392
64-370	109	高小型深付鉢	"	12.5	12.7	5.4	850	75/10口~胴部		にぶい赤褐色	395
64-371	109	小型深鉢	"	15.7	14.8	6.7	1,500	"		褐 色	397
64-372 <sup>a</sup> b	109	高小型深付鉢	"	17.9	16.9	6.4	2,000	9/10口・胴	+HⅣ-1粗, 011住埋土 (展開図)	にぶい赤褐色	394
64-373	109	コブ付長頸丸胴壺 (口下~胴上部)	"	残15.9	推6.8	—	—	2/10口~底部	No15-2, FⅢ粗 縄文後期末	黄 褐 色	496
64-374	109	小型浅鉢 (口~胴下部)	"	残10.8	推18.5	—	—	"		にぶい黄褐色	399
64-375	109	中型深鉢 (口~胴下部)	"	残17.8	20.6	—	—	75/10口~底部		にぶい褐色	396

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
64-376	109	小型浅鉢	FⅢ-013住	cm 8.7	cm 推11.6	cm 推4.6	cc 450	$\frac{2}{10}$ 口~底部		褐灰色	398
64-377	—	小型広口浅鉢 (口~胴部)	"	残6.4	推17.8	—	1,000	$\frac{25}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	387
64-378 <sup>a</sup>	109	高台付小型浅鉢	"	6.4	10.2	推4.4	200	$\frac{95}{10}$ 口、高台少々	(展開図)	にぶい褐色	400
67-383	110	大型深鉢 (口~胴中部)	FⅢ-014住	残21.0	推26.4	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		灰褐色	408
67-384	110	中型深鉢	"	残12.6	推22.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底		にぶい橙	652
67-385	110	小型無文浅鉢	"	3.1	推7.9	推3.7	100	$\frac{3}{10}$ 口~底部		明黄褐色	403
67-386	110	小型浅鉢 (口~胴下部)	"	残9.0	—	—	—	$\frac{45}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	406
67-387	110	大型深鉢 (胴部~底部)	"	残8.2	—	8.0	—	$\frac{2}{10}$ ~胴下		にぶい褐色	409
67-388 <sup>a</sup>	111	小型浅鉢	"	10.6	18.2	5.0	1,400	$\frac{7}{10}$ 口~胴部	(展開図) 8、欠-4	浅黄色	402
67-389 <sup>a</sup>	110	小型浅鉢 (口~胴下部)	"	残5.6	推8.0	—	150	$\frac{25}{10}$ 口~底部	(展開図)	明赤褐色	407
67-390	110	高台付小型 くびれ付深鉢	"	12.2	13.8	6.7	1,000	$\frac{9}{10}$ 口~胴部	(展開図) +欠5-4、1-7	にぶい黄褐色	401
67-391	—	超小型 無文丸胴壺	"	4.4	2.7	丸底	10	$\frac{10}{10}$ 完形	№5	灰黄褐色	404
67-392	110	小型丸底壺 (口~胴下部)	"	推3.8	—	"	600+a	$\frac{2}{10}$ 口~底部		黄褐色	405
69-410	111	小型広口浅鉢	FⅢ-015住	残6.4	推19.3	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		橙褐色	410
71-411	111	大型深鉢 (口~胴中部)	FⅢ-016住	残25.0	推27.1	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部	+5-1	にぶい褐色	413
71-412	111	大型深鉢 (口~胴下部)	"	残38.0	推31.0	—	—	$\frac{65}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色	412
71-413	—	中型丸胴壺 (口~胴上部)	"	残24.3	推11.5	—	—	$\frac{45}{10}$ 口~底部		明褐色	411
74-423	112	大型深鉢	FⅢ-017住	残8.7	推35.6	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底	707-1	にぶい黄橙	653
74-424	112	中型台付中鉢 (口~胴中部)	"	残16.6	推21.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~脚部		黒褐色~褐色	418
74-425	112	中型長頸無文壺 (口~胴下部)	"	残21.8	—	—	—	$\frac{5}{10}$ 口~胴部		にぶい赤褐色	417
74-426	113	小型丸胴壺 (口~胴部)	"	残9.4	推13.8	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		橙色~ 浅黄褐色	415
74-427	112	大型深鉢 (胴下~底部)	"	残9.2	—	7.5	—	$\frac{25}{10}$ 口~胴下部		明赤褐色	420
74-428	113	小型高台付深鉢	"	7.9	8.1	4.2	200	$\frac{95}{10}$ 脚部		にぶい黄褐色	414
74-429	113	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残6.5	推15.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口~底部		明赤褐色	419
49-430	113	小型丸胴壺 (胴上~底部)	"	残16.6	—	3.2	—	$\frac{2}{10}$ 口~胴下部	+FⅢ-粗	にぶい黄褐色 ~黒褐色	416
78-455	—	大型深鉢 (胴中部)	FⅢ-018住	残15.5	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		灰黄褐色	421
82-461	115	中型深鉢 (口~胴下部)	FⅢ-019住	残11.9	推19.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 胴~底部		灰褐色	429
82-462	116	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残17.8	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部	欠1-9、床1	にぶい黄褐色	431
82-463	116	大型深鉢 (胴上部~胴下部)	"	残15.2	推26.7	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色 ~明褐色	430
82-464	116	大型深鉢 (胴上部~胴下部)	"	残26.0	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		橙色~ にぶい赤褐色	616
82-465	116	高台付小型深鉢	"	残11.3	—	—	—	$\frac{75}{10}$ 口~胴部		灰褐色	422
82-466	—	小型広口浅鉢 (口~胴下部)	"	残5.6	推14.8	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい橙色	426
82-467	116	中型深鉢 (口~胴中部)	"	残29.5	26.0	—	(水) 9,250	$\frac{2}{10}$ 口~底部	2-2	浅黄色	506
82-468 <sup>a</sup> b	115	高台付小型深鉢	"	14.7	17.0	5.1	1,500	$\frac{7}{10}$ 口~胴部	(展開図) 8-2、P埋土	明赤褐色	423
82-469	115	小型無文 浅鉢	"	7.0	推18.0	推10.0	1,150	$\frac{25}{10}$ 口~底部		灰黄褐色	427
82-470	—	小型深鉢	"	残9.7	推13.5	5.2	800	$\frac{45}{10}$ 口~底部		褐灰色	424
82-471	115	小型丸底浅鉢	"	4.4	12.4	丸底	200	$\frac{98}{10}$ 口、胴		にぶい褐色 ~黒色	425
82-472	115	注口土器 (胴中部)	"	残7.2	—	"	400+α	$\frac{25}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色	428
89-504	119	大型深鉢 (口~胴上部)	FⅢ-0112住	残13.6	推33.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色	433
89-505	119	中型深鉢 (口~胴部)	"	残18.8	推21.0	—	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部	+0116住	にぶい橙色	432
89-506	119	小型高台付 くびれ付深鉢	"	11.5	推17.0	6.7	—	$\frac{6}{10}$ 口~胴部		にぶい橙色 ~黒褐色	434



図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合割合	色調	整理番号
91-522	120	小型深鉢 (口~胴下部)	FⅢ-0113住	残13.8 cm	18.3 cm	— cm	— cc	$\frac{6}{10}$ 口~底部		にぶい橙色	441
91-523	120	高台付小型深鉢	"	18.3~ 18.5	16.5	推5.2	2,250	$\frac{65}{10}$ 口~底部	+0112住	にぶい褐色	442
91-524	120	小型深鉢 (口~胴上部)	"	残10.0	推20.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		明褐色	563
91-525	120	小型台付深鉢 (胴上~底部)	"	残12.0	—	5.7	—	$\frac{2}{10}$ 口~胴部		灰褐色	437
91-526	—	中型深鉢	"	推17.0	推23.4	—	3,550	$\frac{4}{10}$ 口~底部	欠8-2	黒褐色 にぶい黄褐色	438
91-527	120	小型中鉢	"	6.7	推9.0	推4.8	250	$\frac{3}{10}$ 口~底部	+114住、欠4、FⅢ-011住	にぶい黄褐色	435
91-528	120	小型台付浅鉢	"	7.4	10.0	3.2	200	$\frac{98}{10}$ 口辺部		橙 色	439
91-529	—	小型台付浅鉢 (胴下~脚部)	"	残4.3	—	推6.1	—	$\frac{15}{10}$ 口~胴部		"	556
91-530	120	小型無文浅鉢	"	5.8	推12.2	7.6	400	$\frac{4}{10}$ 口~底部		"	440
93-531	—	注口土器 (胴上~胴下部)	"	残9.4	—	丸底	—	$\frac{25}{10}$ 口~底部		にぶい黄色 黒褐色	436
93-532	120	注口土器 (胴部)	"	推11.8	—	"	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部	欠5-4、欠4-1、+ FⅢ-011住、FⅢ-0114住	橙 色	443
95-563	122	小型深鉢 (口~胴上部)	FⅢ-0114住	16.1	推19.6	推7.2	2,600	$\frac{4}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色 黒	444
95-564	122	くびれ付小型深鉢 (口~胴上部)	"	残7.9	15.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	446
95-565	122	小型深鉢 (胴部)	"	残11.5	推11.5	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		橙 色	447
95-566	122	小型深鉢 (口~胴下部)	"	残7.7	—	—	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部	+FⅢ-0116住	灰黄褐色	445
95-567	122	超小型台付浅鉢	"	5.2	推8.8	4.2	—	$\frac{35}{10}$ 口~底部		にぶい橙	656
98-595	123	超小型広口長胴壺 (口~胴中部)	FⅢ-0115住	残5.6	推5.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい 赤褐色土	558
—	—	超小型無文浅鉢 (胴下~脚部)	"	残2.7	—	3.0	—	$\frac{25}{10}$ 口~胴下部		にぶい黄橙	557
103-628	124	くびれ付大型深鉢 (口~胴下部)	FⅢ-0116住	残29.0	24.7	—	—	$\frac{8}{10}$ 口~底部	1-3、1-1、11	にぶい赤褐色	466
103-629	124	くびれ付 中型深鉢	"	26.1	14.2	8.0	4,350	$\frac{75}{10}$ 口~胴部	Λ6.3	にぶい黄褐色	465
103-630	124	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残10.4	推28.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口~底部	欠20	にぶい褐色	468
103-631	124	中型深鉢	"	16.7	17.0	5.6	3,250	$\frac{7}{10}$ 口~胴部	3-1	にぶい黄褐色	464
103-632	—	"	"	残15.0	推20.8	—	—		H506の内の一つ	明赤褐	658
102-633	124	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残14.9	推20.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	467
102-634	124	中型長胴壺 (胴上~胴中部)	"	残10.8	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部	欠1-1	明黄褐色	463
102-635	124	小型無文丸胴壺	"	残9.0	—	50	550	$\frac{6}{10}$ 口~胴部		黄褐色~ 黒褐色	462
102-636	124	小型無文長胴壺	"	15.9	8.6	7.0	1,000	$\frac{8}{10}$ 口~胴部		にぶい橙色	461
102-637	125	小型台付浅鉢 (口~胴下部)	"	9.7	10.0	5.5	—	$\frac{4}{10}$ 口~脚部		にぶい褐色	451
102-638	124	小型無文浅鉢	"	4.0	8.0	3.0	100	$\frac{10}{10}$ 完形	Λ6.3	橙 色	454
102-639	124	超小型台付無文鉢 (胴中~脚部)	"	残3.7	—	2.2	—	$\frac{25}{10}$ 口~胴部		"	559
102-640	124	超小型深鉢	"	残3.2	—	2.3	—	$\frac{15}{10}$ 口~胴部		にぶい黄褐色	457
102-641	125	小型台付くびれ付深鉢 (口~胴下部)	"	残15.9	推12.4	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~脚部		にぶい褐色	458
102-642	125	中型台付浅鉢 (口~胴中部)	"	残9.6	推19.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~胴部		にぶい橙色	453
102-643	125	小型台付深鉢	"	残13.9	14.5	—	1,100	$\frac{75}{10}$ 口~脚部		"	448
102-644	124	小型無文浅鉢	"	5.4	9.5	3.7	250	$\frac{9}{10}$ 口辺一部		灰黄褐色	455
102-645	125	小型広口浅鉢 (口~胴下部)	"	残5.1	推19.0	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		橙 色	460
102-646	—	小型くびれ付深鉢 (口~胴上部)	"	残6.3	推15.9	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~脚部		"	459
102-647	—	小型台付浅鉢	"	9.0	9.3	7.4	300	$\frac{95}{10}$ 口、胴	欠1-4、21	にぶい黄褐色 にぶい赤褐色	450
102-648	125	小型広口浅鉢	"	9.0	18.1	5.0	750	$\frac{9}{10}$ 口~胴部	欠4-2、12-1、 2-3、11-4	黒褐色	452
102-649	125	小型台付浅鉢	"	10.0	10.2	6.2	300	$\frac{8}{10}$ 口~胴下部	+FⅢ-011住	にぶい黄褐色	449
102-650	125	小型深鉢	"	11.6~ 12.3	推8.3	4.5	450	$\frac{6}{10}$ 口~胴部		橙 色	456

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高 cm	口径 cm	底径 cm	容量 cc	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
112-731-1	129	大型台付中鉢	FⅣ-011住	残29.5	28.8	13.5	5,350 <sup>±</sup>	75/10口~脚部	△1	にぶい橙色	498
112-732-1	129	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残16.0	推24.0	—	—	2/10口~底部		明赤褐色~ にぶい褐色	499
113-739	129	大型深鉢 (口~胴上部)	FⅣ-012住	残14.5	推27.8	—	—	2/10口~底部		灰黄褐色	500
113-740	—	大型深鉢	"	残24.9	—	8.0	—	3/10口~胴部		にぶい黄褐色 明褐色	507
117-741	130	小型深鉢	GⅡ-012住	残4.3	推14.1	—	—	1/10		にぶい褐	(拓本) 1548
120-757 <sup>a</sup> 120-757 <sup>b</sup> 120-757 <sup>c</sup>	131	大型直口丸胴壺 (胴上部)	GⅢ-012住	33.8	12.1	9.9	—	2/10口~底部	(展開図) 1	にぶい黄褐色	386
124-760	131	中型深鉢 (胴中~底部)	GⅢ-014住	残16.5	—	8.0	—	6/10口~胴部		にぶい赤褐色 ~灰褐色	227
124-761	131	中型丸胴壺	"	残13.6	—	推5.0	—	7/10口~底部	+GⅢグリット	にぶい赤褐色	228
126-762	131	高台付小型深鉢 (口~胴下~底部)	GⅢ-015住	残8.1	—	5.7	—	5/10口~胴部		淡赤橙色	239
129-764	131	小型深鉢 (口~胴上部)	GⅢ-016住	残7.5	推18.0	—	—	2/10口~底部		暗褐色	229
129-765	—	小型深鉢 (胴下~底部)	"	残7.5	—	推5.9	—	15/10口~底部	+GⅢ層	赤褐色	231
129-766	131	"	"	残4.0	—	推4.4	—	2/10口~底部		黒褐色	230
129-767	131	手づくね 超小型壺	"	4.4	推3.9	丸底	—	6/10口~底部		橙	690
129-768	131	小型深鉢	"	6.4	推7.5	3.6	100	6/10口~胴		にぶい赤褐	553
139-804	134	"	GⅣ-014住	14.2	15.3	4.5	1,500	9/10口~胴部	埋土、△1+017住	にぶい褐色	316
139-805	134	"	"	15.1	15.0	6.0	1,250	95/10 胴部		にぶい赤褐色	325
139-806	—	注口土器	"	残6.5	推9.2	—	—			黒褐	(拓本) 0374
139-807	134	高台付中型深鉢	"	残21.1	20.4	—	4,500	8/10口~高台	4	にぶい黄褐色	317
139-808 <sup>a</sup> 139-808 <sup>b</sup> 139-808 <sup>c</sup>	134	注口土器	"	残10.9	推7.8	丸底	1,100+α	9/10口、及び注口		橙色~ にぶい黄褐色	326
140-809	135	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残8.8	推36.0	—	—	1/10口~底部		褐色	324
140-810	135	中型深鉢 (胴下部~底部)	"	残6.0	—	7.4	—	15/10口~底部		暗褐色	318
140-811	134	大型深鉢 (口~胴中部)	"	残20.5	推27.0	—	—	"		にぶい黄褐色	320
140-812	134	大型深鉢 (口~胴下部)	"	残16.9	推26.5	—	—	15/10口~底部		赤褐色	321
140-813	135	大型深鉢 (口~胴中部)	"	残21.8	推27.8	—	—	25/10口~底部		橙褐色	322
140-814	134	大型深鉢 (口~胴下部)	"	残23.4	推29.0	—	—	25/10口~底部	2	にぶい赤褐色	319
146-836	136	大型深鉢 (胴上部~胴中部)	GⅣ-016住	残17.6	推21.0	—	—	"	縄文中期	にぶい褐色	327
—	—	小型平底下張壺 (胴下部)	GⅣ-0110住	残6.0	推12.2	—	—	15/10口~底部		にぶい黄橙	561
149-851 <sup>a</sup> 149-851 <sup>b</sup>	136	小型深鉢 (口~胴下部)	HⅢ-012住	残10.0	推15.2	—	—	25/10口~底部		にぶい橙色	380
153-855	136	大型深鉢 (胴下~底部)	HⅣ-011住	残8.2	—	推8.6	—	2/10口~底部		橙	570
156-856	137	大型深鉢 (口~胴中部)	HⅣ-012住	残23.4	推26.8	—	—	2/10口~底部		黒褐色	347
156-857	137	大型深鉢 (胴下部~底部)	"	残4.8	—	推8.0	—	1/10口~底部	8	褐灰色	346
156-858	—	大型深鉢 (胴部)	"	残20.6	—	—	—	"		灰褐色	345
156-859	137	大型深鉢 (口~胴上部)	"	残10.4	推27.6	—	—	15/10口~底部	2-1, 5-1	褐色	343
156-860	137	"	"	残16.6	推27.8	—	—	2/10胴上~底部		にぶい橙色	342
156-861	137	大型深鉢 (胴部)	"	残8.4	—	—	—	15/10口~底部		橙褐色	344
156-862	137	大型深鉢 (口~胴中部)	"	残17.9	推34.0	—	—	1/10口~底部		黒褐色	358
157-863	137	大型台付深鉢	"	残34.0	推33.4	—	25,500	4/10口~脚部	017住-(1)-2-1 炉跡5-1,1-1,1-2	明褐色	354
157-864	137	小型深鉢 (口~胴上部)	"	残6.3	推12.5	—	—	15/10口~底部	1-5-2	黄灰色	332
157-865	138	高台付小型深鉢	"	残15.0	12.3	—	1,300	65/10口~高台		にぶい赤褐色	328
157-866	138	小型深鉢 (口~胴中部)	"	残10.7	推14.7	—	—	35/10口~底部		灰黄褐色	330
157-867	139	小型深鉢	"	残10.5	推13.8	—	—	4/10口~底部		にぶい黄褐色	338



図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
157-868	139	小型深鉢	H IV - 012住	cm 12.4	cm 推14.3	cm 5.7	cc 1,150	45 10口~胴部		にぶい褐色	329
157-869	138	小型深鉢 (口~胴部)	"	残14.8	推16.8	—	—	45 10口~底部	+ H IV粗	にぶい橙色	356
158-870	138	小型浅鉢	"	残7.2	—	4.4	—	5 10口~胴部	(展開図) + H IV粗	暗灰黄色	337
158-871	138	小型中鉢 (タル形)	"	6.7	6.4	5.2	150	6 10口~胴部	( " )埋1	黒褐色	335
158-872	138	小型浅鉢	"	6.8	15.7	4.7	600	7 10口~底部	H IV、G IV粗、F IV-011住	にぶい黄色	336
158-873	138	小型深鉢	"	10.1	7.2	3.5	250	10 10完形	△6?	灰褐色	334
158-874	138	超小型浅鉢	"	1.8	4.8	2.0	10	8 10口辺部		にぶい橙色	357
158-875	138	小型深鉢 (口~胴上部)	"	残7.9	推14.9	—	—	2 10口~底部		灰褐色	331
158-876	138	"	"	残6.3	推20.0	—	—	1 10口~底部		褐色	333
158-877	138	中型深鉢	"	残11.9	推18.9	—	—	1 10口~底部		灰褐色	339
158-878	138	小型無文 下ぶくれ壺	"	15.2	10.1	7.0	1,200	7 10口~底部		橙色	341
155-879	139	注口土器 (口辺下~胴中部)	"	残9.0	—	丸底	2,300+α	5 10口~底部		オリーブ黒色	355
155-880	—	注口土器 (口辺部)	"	残4.6	推12.0	—	—	1 10口~底部		にぶい黄橙色	353
155-881	139	注口土器	"	12.4	13.5	丸底	1,100	9 10口~胴部	13	褐色~黒褐色	349
155-882	139	"	"	残10.4 ~11.3	15.0	"	1,300	8 10口、胴部	10	灰黄褐色	350
155-883	139	中型無文広口壺 (口~胴下部)	"	残16.5	14.2	—	2,500	35 10口~底部		明赤褐色 ~黄色	340
155-884	—	注口土器 (口辺部)	"	残5.4	推8.0	—	—	15 10口~底部		にぶい褐色	352
155-885	—	注口土器 (口~胴下部)	"	残13.6	—	—	1,000+α	35 10口~底部		にぶい赤褐色	351
168-959	145	くびれ付大型深鉢 (口~胴上部)	J V - 011住	残10.7	推26.4	—	—	1 10口~底部		橙	529
168-960	145	大型深鉢 (胴下~底部)	"	残5.3	—	9.1	—	1 10口~底部		"	585
171-961	145	小型丸胴壺 (口~胴上部)	J V - 012住	残6.7	8.1	—	—	4 10口~底部	(展開図) △3	にぶい黄橙	541
168-962	145	くびれ付大型深鉢 (口~胴下部)	J V - 011住	残35.0	推35.6	—	—	35 10口~底部		にぶい橙	530
171-963	145	小型深鉢	"	15.4	推14.8	6.5	1,100	7 10口~脚部	(展開図)	にぶい橙	537
174-971	146	小型丸胴壺 (胴上部~底部)	J VI - 011住	残10	—	6.6	600+α	9 10口辺部	( " )	にぶい黄褐色 黒	540
174-972	146	くびれ付 大型深鉢	"	28.2	323.8	10.6	6,500	95 10口~胴		明褐	542
174-973	146	"	"	34.5	推31.8	13.6	—	3 10口~胴部		浅黄橙	543
174-974	146	小型丸胴壺	"	9.7	5.4	5.0	250	10 10完形	樹脂固結(内部)	にぶい黄褐色	539
174-975	146	小型深鉢 (胴下部~底部)	"	11.0	推10.8	6.5	500	25 10口~胴部		にぶい黄橙	538
—	—	大型深鉢	"	残7.7	18.7	—	—	完形	第2層、縄文後期前葉	にぶい黄褐	(拓本) 1311+ 1315
182-1020	150	くびれ付 小型深鉢	K VI - 012住	13.8	14.5	6.8	1,050	5 10口~胴部	(展開図)	にぶい褐	515
182-1021	150	大型深鉢 (口~胴上)	"	残12.4	推30.0	—	—	2 10口~底部		橙	518
182-1022	150	小型無文深鉢	"	6.0	推7.3	3.5	100	5 10口~胴部		にぶい橙	517
182-1023	—	小型無文丸胴壺 (胴上~底部)	"	残10.4	—	5.0	450	35 10口~底部		橙	516
185-1025	150	高台付皿型土器	L V - 建物跡	9.4	10.0	8.5	150	95 10皿部		明褐	508
218-1028 <sup>a</sup> b c	151	つぼみ口、くび れ付丸胴小型壺	E III - 021 P	11.15	4.1	4.1	600	15 10口~底	(展開図) E 2、3グリット	灰褐~黒褐	642
219-1037	151	くびれ付大型深鉢 (口辺部)	H III - 021 P	残7.8	推28.8	—	—	1 10口~底部		にぶい褐	567
219-1038	151	くびれ付小型深鉢 (口~胴上)	"	残14.9	推24.8	—	—	15 10口~底部		にぶい褐	568
220-1045	—	小型無文深鉢	H III - 210 P	9	9	4.8	300	10 10完形		にぶい赤褐 黒	550
220-1046	152	大型深鉢	H III-091 埋ガメP	残32.1	—	8.3	13,000	45 10口~胴		にぶい黄橙	549
221-1049	152	大型深鉢 (口~胴中)	H IV - 022 P	残30.0	推34.3	—	—	3 10口~底部		浅黄橙	571
221-1050	152	"	"	残28.5	推27.2	—	—	15 10口~底部		にぶい黄褐	572

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
221-1051	153	小型深鉢	HⅣ-022P	14.0 <sup>cm</sup>	推17.2 <sup>cm</sup>	5.7 <sup>cm</sup>	1,600 <sup>cc</sup>	$\frac{75}{10}$ 口~胴部		褐色	606
221-1052	153	小型くびれ付台付深鉢	"	7.0	6.1	4.0	100	$\frac{75}{10}$ 口~底部	HⅣ区Pit	にぶい黄褐色	575
221-1053	—	中型深鉢(胴下~底部)	"	残4.5	—	6.3	—	$\frac{1}{10}$ 口~胴		褐色	573
221-1054	—	"	"	残7.9	—	4.7	—	$\frac{15}{10}$ 口~胴	HⅣ区Pit	にぶい黄褐色	576
221-1055	153	小型深鉢	"	10.5	推12.0	5.2	600	$\frac{5}{10}$ 口~胴部		にぶい橙	607
221-1056	153	小型高台付深鉢	"	残11.4	推13.5	—	700	$\frac{35}{10}$ 口~高台		にぶい 黒褐色	608
221-1057	153	小型広口浅鉢(口~胴上)	"	残6.8	推18.3	—	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部		灰黄褐色	574
222-1058	153	大型深鉢	IⅤ-021P	残23.3	推29.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい褐色	596
222-1063 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	154	波状広口浅鉢	JⅤ-023P	8.2	推15.2	5.5	450	$\frac{55}{10}$ 口~胴		にぶい黄褐色	527
223-1066	154	台付小型浅鉢	JⅤ-0214P	残10.7	19.8	推6.0	1,450	$\frac{75}{10}$ 口~脚部		灰黄褐色	528
223-1069	154	くびれ付中型深鉢(口~胴中部)	JⅥ-024P	残17.4	推17.2	—	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部	(展開図)	灰黄褐色	545
223-1070	154	くびれ付中型深鉢(口~胴上部)	"	残13.5	推19.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色	544
224-1071	155	中型無文広口中鉢	JⅥ-028P	18.1	推25.8	8.0	4,500	$\frac{6}{10}$ 口~胴部	スス多量付着	にぶい赤褐色	546
224-1072	155	小型胴張広口壺	"	14.3	9.8	5.4	1,100	$\frac{10}{10}$ 完形	"	灰黄褐色	547
224-1073	155	小型無文丸胴壺	"	9.6	7.9	4.0	300	$\frac{98}{10}$ 口、胴		褐色 灰	548
224-1076	155	小型深鉢(口~胴下)	KⅣ-025P	残15.7	19.4	—	底部なし 2,500	$\frac{6}{10}$ 口~底部		灰黄	519
235-1083	156	大型深鉢(口~胴中部)	GⅡ-061 捨場跡	残14.5	26.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色 ~にぶい褐色	274
235-1084	156	中型無文深鉢(胴下部~底部)	"	残5.7	—	9.5	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい黄褐色	269
235-1085	156	大型深鉢(胴下部~底部)	"	残10.5	—	6.8	—	$\frac{15}{10}$ 口~胴部		灰褐色	276
235-1086	156	中型無文壺(胴下部~底部)	"	残6.3	—	推10.0	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		にぶい赤褐色	294
235-1087	156	大型丸胴壺(底部)	"	残6.7	—	13.2	—	$\frac{1}{10}$ 口~胴部		にぶい赤褐色	289
235-1088	156	大型丸胴壺(胴上部)	"	残10.8	—	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		オリーブ褐色	288
235-1089	156	大型浅鉢(口~胴上部)	"	残16.5	推24.8	—	—	"		にぶい赤褐色	617
235-1090	156	大型深鉢(口、胴部)	"	残6.9	推26.4	—	—	"		にぶい褐色	277
235-1091	156	大型深鉢(口~胴上部)	"	残15.4	推31.2	—	—	"		浅黄褐色	306
235-1092	156	"	"	残8.7	推29.0	—	—	"	8-1-1、欠-47-1	灰オリーブ色	275
235-1093	157	大型浅鉢(口~胴中部)	"	残14.4	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部	1-7、欠-20、ヤ-22	にぶい黄褐色	385
230-1094	—	大型深鉢(口~胴中部)	"	残28.8	推30.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部	7、1-6、欠-50-2	にぶい赤褐色	273
230-1095	—	大型深鉢(口~胴下部)	"	残27.5	27.8	—	—	$\frac{8}{10}$ 口~底部	13	橙褐色	272
236-1096	157	小型深鉢	"	残13.0	推14.0	5.8	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部	欠-41、欠43、欠99-2	にぶい黄褐色 ~黒褐色	254
236-1097	157	小型深鉢(口~胴中部)	"	残5.5	推11.4	—	—	"	8、イ-15、欠-26	灰褐色	256
236-1098	157	"	"	残8.7	推10.5	—	—	$\frac{35}{10}$ 口~底部		赤褐色 ~黒褐色	255
236-1099	157	小型深鉢(口~胴上部)	"	残6.5	推12.3	—	—	$\frac{2}{10}$ 口~底部		黒褐色	259
236-1100	157	小型深鉢(口~胴上部)	"	残5.4	推14.0	—	—	$\frac{15}{10}$ 口~底部		にぶい橙褐色	258
236-1101	156	小型深鉢(胴~底部)	"	残7.2	—	5.7	—	$\frac{35}{10}$ 口~胴下部		明赤褐色 ~黒褐色	260
236-1102	157	中型中鉢(口~胴中部)	"	残11.2	推19.4	—	—	$\frac{4}{10}$ 口~底部	10、49、欠-64	にぶい黄褐色	267
237-1103	—	小型台付浅鉢(胴下部~脚部)	"	残8.4	—	5.2	—	$\frac{3}{10}$ 口~胴部		にぶい橙褐色	250
237-1104	—	小型深鉢(口~胴上部)	"	残6.6	推14.0	—	—	$\frac{3}{10}$ 口~底部		灰褐色	257
237-1105	158	小型無文深鉢	"	14.5	推13.9	5.2	1,250	$\frac{4}{10}$ 口~胴部		にぶい黄褐色	261
237-1106	158	中型台付深鉢	"	20.2	19.5	10.7	2,900	$\frac{9}{10}$ 口~胴部	1-4、5-5、9-4 6、5、欠47-2-56		240
237-1107	158	超小型無文壺	"	9.3	推8.8	1.7	250	$\frac{75}{10}$ 口~胴部	?+GⅢ粗	明褐色 灰色	299



図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
237-1108	158	小型台付深鉢	G II-061 捨場跡	残 9.9 cm	推 13.4 cm	推 6.6 cm	700 cc	6/10口~台部		にふい 橙色 ~ 灰褐色	245
237-1109	158	小型台付浅鉢 (口~胴上部)	"	残 6.2	推 13.6	—	—	2/10口~脚部		にふい 褐色	384
237-1110	—	中型無文深鉢 (口~胴下部)	"	残 17.0	推 18.9	—	—	25/10口~底部		明黄褐色	268
237-1111	158	小型深鉢	"	14.1	12.4	7.2	1,000	7/10口~胴部		橙色~ にふい 黄褐色	253
239-1112 <sup>a</sup> b	159	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残 12.5	23.8	—	—	5/10口~底部	5-3, 欠-26, 6-6, 欠-37 (展開図)	灰褐色	265
239-1113	158	小型深鉢 (口辺部)	"	残 8.0	推 18.0	—	—	1/10口~底部	欠-1, 欠-61, 41-1	にふい 褐色	619
239-1114 <sup>a</sup> b	159	小型台付深鉢	"	15.0	14.4	5.5	1,250	8/10口~胴部	(展開図) 15-1, 欠-52-2 G II粗, 欠-15	にふい 赤褐色 ~ 灰褐色	243
239-1115	159	中型深鉢 (口~胴上部)	"	残 6.5	18.8	—	—	3/10胴上部~底部	101, 9-6, イ-15, イ-10	灰黄褐色	266
239-1116	158	小型台付浅鉢 (胴中~底部破片)	"	残 5.8	—	—	—	3/10口~脚部	11, 欠68	にふい 褐色	248
239-1117	159	小型台付浅鉢	"	残 6.4 ~ 5.9	9.3	—	—	45/10口~脚部	1-2-4, ヤ-9	橙 色	247
239-1118	—	小型台付浅鉢	"	残 4.6	—	—	—	22/10口~脚部	欠31, イ-22	にふい 褐色	249
239-1119 <sup>a</sup> b	158	小型台付深鉢	"	11.0	5.8	6.2	200	8/10口~胴部	イ-15, イ-28, 欠-16 欠55-20	にふい 黄褐色	246
239-1120	158	小型台付浅鉢 (口~胴下部)	"	残 4.2	8.6	—	—	3/10口~脚部		にふい 赤褐色	252
239-1121	158	小型高台付深鉢	"	7.4	11.5	推 5.1	450	65/10口~高台	49, 95-1, 欠42	にふい 橙色	244
239-1122 <sup>a</sup> b	158	小型台付深鉢 (口~胴部)	"	残 8.8	—	—	—	5/10口~脚部	(展開図) 52, 1-4, 欠-2	にふい 赤褐色	251
238-1123	159	小型浅鉢	"	6.7	12.2	3.8	400	9/10口~胴部	(展開図) 9-5-1, 欠-70, 欠-94-1	にふい 黄褐色 ~ 灰黄褐色	278
238-1124	159	"	"	4.3	10.2	—	250	5/10口~胴部	(展開図)	灰褐色	280
238-1125	159	小型丸底浅鉢	"	7.0	推 11.8	丸底	350	65/10口~胴部	51,	灰黄色	279
238-1126	—	小型浅鉢 (口~胴下部)	"	残 6.9	推 13.9	"	600	22/10口~底部	1+7+G II-012住	灰褐色	284
238-1127	160	超小型無文深鉢	"	5.7~ 5.2	8.0	2.6	100	6/10口~胴部	手ずくね イ-12, ヤ-40	灰黄褐色	263
238-1128	—	"	"	5.0	推 5.0	3.0	50	8/10口辺部	ヤ-15	にふい 橙色	262
238-1129	160	"	"	2.6	推 4.3	推 2.0	10	6/10口~底部		灰黄色	264
238-1130	159	中型台付 無文浅鉢	"	14.4	推 22.6	9.2	2,400	5/10口~底部		明赤褐色	241
238-1131	159	"	"	8.5	18.9	7.8	900	5/10口~胴部		浅黄褐色	242
240-1132	160	小型広底浅鉢	"	5.5	推 15.0	5.0	600	45/10口~胴部	?+欠-84-5 G II-粗, G II-012住	明褐色	282
240-1133	160	"	"	5.9	推 18.3	8.1	900	55/10口~胴下部	?+欠-61	にふい 橙色	281
240-1134	160	中型長胴壺	"	25.8	推 12.0	9.0	4,100	6/10口~胴部	欠-45-1, 欠86	にふい 黄褐色	286
240-1135	160	中型壺	"	残 5.3	推 8.8	—	—	"		"	(拓本) 1536
240-1136	160	中型高台付浅鉢 (胴上部~底部)	"	推 9.25	—	—	—	22/10口~脚部		にふい 褐色	271
240-1137	160	中型深鉢 (胴下部~底部)	"	残 7.0	—	推 7.0	—	15/10口~底部		褐色	270
240-1138	—	小型丸胴壺 (胴上~底部)	"	残 12.5	推 17.4	—	—	3/10口~胴部		にふい 赤褐色	618
241-1139	160	中型丸胴壺 (口~胴上部)	"	残 6.1	推 9.5	—	—	2/10口~底部		にふい 赤褐色	293
241-1140	160	中型無文壺 (胴部)	"	残 16.7	—	—	—	15/10口~底部		にふい 黄褐色	296
241-1141	160	小型丸胴壺 (胴上部~胴下部)	"	残 14.7	—	—	—	35/10底部	9,	にふい 橙色	287
241-1142	161	小型直口壺	"	11.7	5.1	4.1	400	10/10口 壳形	No11	にふい 黄褐色 ~ 明褐色	305
241-1143	161	小型無文平底壺	"	9.7	8.3	6.0	550	6/10口~胴部		にふい 赤褐色	291
241-1144	161	小型無文壺	"	残 12.9	—	6.1	—	6/10口~胴部	?+F III-019住 E III-011住	にふい 橙色	285
241-1145	161	中型無文壺 (胴下部~底部)	"	残 7.5	—	5.0	—	25/10口~底部		にふい 赤褐色	295
241-1146	—	小型無文平底壺 (口~胴上部)	"	残 5.6	推 6.0	—	—	25/10口~胴部	10,	"	292
241-1147	161	小型下ぶくれ壺	"	残 16.3	7.0	11.0	750	3/10胴~底部	3, 9, 5, 6, ヤ-18, 26, 88	暗灰黄色~ 黒褐色	297
241-1148	161	小型無文丸底壺 (胴上~底部)	"	残 8.5	—	丸底	—	6/10口~胴部	8-2, 54	明赤褐色~ 褐色	290

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
241-1149	161	小型長頸壺 (口・底部)	G II-061 捨場跡	cm 残 8.4	cm 9.4	cm —	cc —	$\frac{2}{10}$ 口～底部	8. 縄文後期	にぶい黄褐色	298
242-1150	161	注口土器	"	14.1	推 8.4	丸底	1,000	$\frac{6}{10}$ 口～底部		"	302
242-1151	161	"	"	12.0	7.4	1.6	500	$\frac{95}{10}$ 口辺、注口	4-5, 5-5. 縄文後期	明赤褐色	300
242-1152 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	161	"	"	12.1	推 9.2	丸底	1,100	$\frac{6}{10}$ 口～底部	51, 1-3, 6-2 欠-55, 欠-6, 欠-33	褐色	301
252-1297	169	小型台付中鉢	I III-061 捨場跡	7.9	9.7	5.0	200	$\frac{65}{10}$ 口～底部		橙	599
252-1298	169	中型長胴壺 (胴上～底部)	M IV-061 捨場跡	推22.4	推 7.0	7.5	2,700	$\frac{25}{10}$ 口～胴部		"	612
252-1299	169	中型丸胴壺 (胴上～胴中)	"	残18.2	推 7.5	丸底	2,100	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい赤褐	611
252-1300	170	小型丸胴壺	"	13.8	7.2	4.8	1,050	$\frac{10}{10}$ 完形		にぶい黄橙	510
252-1301	170	中型台付中鉢 (口～胴下部)	"	残12.5	推18.0	—	1,300	$\frac{35}{10}$ 口～脚部		褐色	610
254-1302	170	大型深鉢 (口～胴中)	"	残22.1	推28.5	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	598
254-1303	170	高台付浅鉢	"	7.4	9.6	5.4	300	$\frac{95}{10}$ 胴部		暗灰黄色	511
254-1304	170	台付小型鉢	"	残 4.0	—	7.2	—	$\frac{3}{10}$ 口～底部	J9 グリット	橙 色	(拓本) 1558
265-1316	171	大型深鉢 (口～胴中部)	F IV-082 炭痕跡	残16.2	推27.0	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	359
265-1317	171	小型中鉢 (口辺～底部)	"	残 8.0	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		橙 色	360
7-1411	178	大型深鉢 (胴部)	F III ~ 粗掘	残26.7	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	491
7-1412	178	大型深鉢 (胴下～底部)	"	残12.4	—	7.2	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		"	492
7-1413	178	中型無文深鉢	"	残23.5	推21.3	—	(水) 4,500	$\frac{7}{10}$ 口～底部		にぶい橙色	493
7-1414	178	くびれ付中型深鉢 (口辺部)	"	残10.1	推21.1	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	480
7-1415	178	中型深鉢 (口～胴上部)	"	残 4.6	20.6	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		褐色	481
7-1416 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	179	くびれ付 小型深鉢	"	残10.1	13.0	—	1,250	$\frac{65}{10}$ 口～底部	(展開図) 欠2-1	橙 色	476
7-1417	—	くびれ付 小型深鉢	"	15.4	14.9	推 7.0	1,900	$\frac{65}{10}$ 口～底部	80年度試掘	にぶい橙色	615
7-1418	—	くびれ付中型深鉢 (口～胴上部)	"	12.6	22.3	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		"	479
7-1419	179	小型高台付浅鉢 (胴下～脚部)	"	残 6.3	—	4.6	150+ $\alpha$	$\frac{4}{10}$ 口～脚部		灰黄褐色	474
7-1420	179	小型高台付浅鉢	"	12.6	推10.9	7.3	500	$\frac{4}{10}$ 口～脚部		にぶい橙色	475
7-1421	179	くびれ付小型深鉢 (口～胴下部)	"	残14.7	推15.4	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		褐色	477
7-1422	179	中型広口浅鉢	"	残10.0	推21.7	推 5.6	1,750	$\frac{25}{10}$ 口～底部	欠2-1	にぶい褐色	473
7-1423	179	くびれ付 小型浅鉢?	"	残 5.1	推16.1	—	700	$\frac{15}{10}$ 口～底部		灰褐色	487
7-1424	—	小型広口浅鉢 (胴上～底部)	"	残 3.7	—	5.8	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色	469
7-1425	179	小型深鉢 (胴下～底部)	"	残 6.7	—	5.0	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	478
6-1426 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	180	小型くびれ付 丸平底浅鉢	"	7.7	推15.5	推 6.5	600	$\frac{4}{10}$ 口～底部	(展開図)	にぶい黄褐色	494
6-1427	179	小型丸胴壺 (口～胴上部)	"	残 5.1	7.7	—	—	$\frac{2}{10}$ 胴上～底部		"	560
6-1428	180	中型平丸胴壺 (胴上～胴中部)	"	残10.5	—	—	2,000	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	484
6-1429	179	小型注口土器	"	9.0	6.8	丸底	200	$\frac{8}{10}$ 口、注口		にぶい橙色～ にぶい黄褐色	485
6-1430	180	小型無文鉢	"	5.7	推12.0	推 4.0	—	$\frac{1}{10}$ 口～底		赤褐色	643
6-1431	179	小型無文浅鉢	"	6.0	推16.2	5.3	600	$\frac{2}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	472
6-1432	179	超小型無文長胴壺 (胴上～胴下部)	"	残 4.0	—	—	—	$\frac{35}{10}$ 口～底部		にぶい橙色	552
6-1433	179	小型トックリ型壺 (口～胴上部)	"	残 4.8	推 5.3	—	—50	$\frac{2}{10}$ 口～底部		"	486
6-1434	180	超小型中鉢	"	残 1.9	—	2.2	10	$\frac{5}{10}$ 口～胴部		明赤褐色	489
6-1435	—	超小型無文深鉢 (口～胴下部)	"	残 3.9	推 2.0	—	—	$\frac{35}{10}$ 口～底部		"	490
6-1436 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	180	広口外反 小型浅鉢	"	残 5.8	推12.5	7.6	350	"	(展開図) 80年度試掘	淡赤橙色	614
6-1437	179	くびれ付広口小型深鉢 (口～胴中部)	"	残 9.7	推19.0	推 8.6	1,800	$\frac{25}{10}$ 口～底部		にぶい橙色	471



図版番号	写真 番号	器 種	出土遺構	器高 cm	口径 cm	底径 cm	容量 cc	残存部位 残存割合	接合関係	色 調	整理 番号
6-1438	—	くびれ付 広口小型浅鉢	FⅢ—粗掘	残 5.7	推18.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部		明赤褐色	470
6-1439	180	中型丸胴直口壺 (口～胴上部)	"	残 5.7	推10.4	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色	483
6-1440	180	広口扁平壺	"	7.9	11.5	6.0	400	$\frac{55}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	495
6-1441	180	超小型注口土器 (胴及び底部)	"	残 2.1	—	丸底	—	$\frac{6}{10}$ 口～胴上部		にぶい褐色	488
22-1629	191	大型深鉢 (口～胴上部)	GⅢ—粗掘	残12.5	推26.3	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		"	620
22-1630	191	中型深鉢 (口～胴上部)	"	残13.0	推27.2	—	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色	222
22-1631	191	大型深鉢 (胴下部～底部)	"	残10.0	—	10.0	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色 ～明褐色	226
22-1632	191	中型深鉢 (口～胴上部)	"	残 6.0	推19.6	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		暗褐色	224
22-1633	192	小型深鉢 (口～胴上部)	"	残 7.3	推14.6	—	—	"		にぶい赤褐色	505
22-1634	192	小型中鉢 (口～胴下部)	"	残 9.3	推15.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		浅黄色	311
22-1635	191	中型深鉢 (口～胴上部)	"	残 7.1	22.4	—	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	221
22-1636	—	中型深鉢	"	残13.9	推20.8	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	220
22-1637	191	大型深鉢 胴下部～底部)	"	残 8.1	—	8.6	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部		明赤褐色～ 淡黄色	225
22-1638	192	くびれ付小型深鉢 (口～胴上部)	"	残18.4	推16.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		褐色	218
22-1639	191	くびれ付中型深鉢 (口～胴上部)	"	残10.9	推20.4	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部		赤褐色	217
23-1640 <sup>a</sup> b	192	小型深鉢 (口～胴上部)	"	残 5.9	推13.6	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～胴上部	(展開図)	灰黄褐色	314
23-1641	192	小型深鉢 (胴上～底部)	"	残7.7～ ～8.4	—	6.5	—	$\frac{65}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	312
23-1642	192	中型深鉢 (口～胴上部)	"	残 4.1	推19.0	—	—	$\frac{95}{10}$ 口～底部		暗褐色	223
23-1643	192	小型深鉢 (口～胴上部)	"	残 9.5	15.0	—	—	$\frac{3}{10}$ 口～底部		灰黄褐色	219
23-1644	192	小型浅鉢	"	残 5.9	推14.7	推 5.0	450	"	A 5 グリット	にぶい黄褐色	303
23-1645	192	小型浅鉢 (胴上部～底部)	"	残 5.6	—	推 5.2	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部		"	309
23-1646	192	小型浅鉢 (口～胴部)	"	残 5.2	推19.0	—	1,100	$\frac{2}{10}$ 口～底部		褐灰色	310
23-1647	193	小型台付浅鉢 (口～胴上部)	"	残 6.0	推12.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～脚部		にぶい黄褐色	307
23-1648	192	小型台付浅鉢 (口～胴部)	"	残 8.0	推14.1	—	—	"		にぶい黄褐色 ～黒褐色	308
23-1649	192	中型丸胴壺 (胴上～胴下部)	"	残14.7	—	—	—	$\frac{3}{10}$ 口～底部		にぶい橙色 ～黒褐色	315
23-1650	192	中型丸胴壺 (口～胴中部)	"	残12.6	推 6.3	—	—	$\frac{3}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	623
36-1803	201	大型深鉢	GⅣ—粗掘	残28.6	推33.1	—	—	$\frac{4}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色	361
36-1804	201	大型深鉢	"	残21.0	推30.0	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		橙 色	362
38-1829	203	小型深鉢 (口～胴下)	HⅢ—粗掘	残14.7	推18.9	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	564
38-1830	203	小型深鉢	"	11.3	11.6	3.8	650	$\frac{10}{10}$ 完形	C-8、グリット	黒褐色	551
38-1831	203	注口土器	"	残 4.5	—	丸底	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		暗灰黄色	566
38-1832	203	小型台付浅鉢 (胴部)	"	残 4.3	—	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～脚部	+HⅢ—埋カメ	にぶい橙色	565
50-1947	211	大型深鉢 (口～胴中)	HⅣ—粗掘	残22.6	推28	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部	I 9 グリット	明黄褐色	632
50-1948	211	中型深鉢	"	22.1	推23.7	8.2	(水) 5,500	$\frac{65}{10}$ 口～底部		橙 色	373
50-1949	212	中型深鉢 (口～胴上部)	"	残 8.8	推19.0	—	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部	+GⅣ-017住、埋土(1)	褐 色	374
50-1950	211	小型台付浅鉢	"	残 9.2	推17.4	—	—	$\frac{55}{10}$ 口～脚部		にぶい褐色	367
50-1951	211	大型深鉢 (口～胴底部)	"	残19.6	—	6.5	—	$\frac{25}{10}$ 口～胴部	C 9 グリット	にぶい黄褐色	633
50-1952	211	小型深鉢	"	11.3～ 12.3	推14.2	5.2	900	$\frac{4}{10}$ 口～胴部		明赤褐～ にぶい橙	581
50-1953	212	小型深鉢 (口～胴中部)	"	残 8.2	16.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		橙 色	369
50-1954	212	小型台付浅鉢 (口～胴下部)	"	残 8.5	推18.1	—	—	$\frac{3}{10}$ 口～脚部		黒褐色	577
50-1955	211	小型深鉢	"	9.1	推12.8	5.0	700	$\frac{65}{10}$ 口～胴部	+GⅣ-017住、 GⅣ-014住	にぶい橙色	365

図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
50-1956	211	小型深鉢 (口~胴上部)	H V - 粗掘	残 5.1 cm	推 16.0 cm	— cm	— cc	1/10口~底部		橙 色	583
50-1957	211	小型浅鉢	"	5.2	8.1	3.9	100	55/10口~胴部	+ G IV - 017住	にふい黄褐色 ~黒褐色	366
50-1958	212	小型深鉢 (口~胴中部)	"	残 4.2	推 8.2	—	200	25/10口~底部		にふい黄褐色	370
50-1959	211	小型深鉢	"	8.7	推 10	推 4.6	350	25/10口~底部		にふい橙色	582
50-1960	212	小型台付浅鉢 (口~胴下部)	"	残 7.7	推 18.3	—	1,050	35/10口~脚部		明黄褐色	578
50-1961 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	—	小型台付浅鉢 (口~底部)	"	残 8.3 ~9.4	推 14.4	—	650	6/10口~脚部	(展開図) + G IV - 017住 G IV - 粗, G III - 1 P	暗灰黄色 ~黒色	364
50-1962	212	小型台付浅鉢	"	10.6	14.9	推 6.9	650	7/10口~脚部	+ G IV - 011住	橙 色	363
50-1963	212	小型深鉢	"	9.0	推 10.9	推 4.8	400	3/10口~底部	G IV - 011住	にふい黄褐色	371
50-1964	212	小型台付浅鉢 (口~胴下部)	"	残 4.2	推 12.4	—	—	2/10口~脚部		にふい橙色	579
49-1965	215	小型台付浅鉢 (口~胴上部)	"	残 5.8	推 18.4	—	—	"		黄 褐色	368
49-1966	212	中型無文浅鉢	"	8.5	推 20.5	推 5.7	1,700	25/10口~底部	G 9 グリット	にふい黄褐	634
49-1967	212	小型広口浅鉢 (口~胴中)	"	残 4.6	推 14.7	—	—	2/10口~底部		明黄褐色	580
49-1968	212	超小型 無文長胴壺	"	5.7	推 2.3	3.0	50	9/10口~胴上		にふい赤褐	584
49-1969	212	大型丸胴壺 (頸~胴上部)	"	残 5.5	—	—	—	1/10口~底部		暗 褐色	372
49-1970	212	注口土器 (口辺下~胴上部)	"	残 7.4	—	丸底	—	15/10口~底部		にふい黄褐色	375
61-2113	221	大型深鉢	H V - 粗掘	残 10.3	推 27.6	—	—	1/10口~底部		橙 色	569
61-2114	221	大型深鉢 (胴下~底部)	"	残 9.9	—	7.2	—	15/10口~胴部		にふい黄褐色	601
65-2141	222	中型台付浅鉢	I III - 粗掘	残 20.6 +α	推 29.3	16.0	3,850	35/10口~脚部	F 7.8 グリット	橙 色	628
65-2142	—	小型台付浅鉢 (脚部)	"	残 4.9	—	8.1	—	1/10口~脚部		にふい赤褐色	629
65-2143	223	小型深鉢	"	6.6	推 8.6	3.6	200	35/10口~胴部	F 7 グリット	にふい黄褐	625
65-2144	222	小型深鉢 (胴下~底部)	"	残 5.1	—	4.9	—	2/10口~胴		灰 褐色	595
65-2145	223	小型深鉢	"	10.95 ~11.7	推 15.8	5.6	900	3/10口~胴部		にふい橙~ 灰褐色	592
65-2146	—	大型深鉢 (胴上~底部)	"	残 29.4	推 26.8	推 8.8	9,400	3/10口~脚部	F 7 グリット	橙 色	630
65-2147	223	小型深鉢 (口~胴下部)	"	残 10.6	推 16.6	—	—	2/10口~底部	G 7 グリット	灰黄褐色	626
65-2148	223	大型深鉢 (口~胴上)	"	残 20.0	推 29.0	—	—	15/10口~底部		にふい黄褐色	594
65-2149	223	小型丸胴壺 (胴上~底部)	"	残 9.7	—	推 6.7	—	3/10口~底部	G 8 グリット	橙 色	627
66-2150	223	くびれ付大型深鉢 (口辺部)	"	残 6.8	推 20.6	—	—	1/10口~底部		にふい褐色	593
66-2151	—	注口土器 (胴中~底部)	"	残 4.6	—	丸底	—	3/10口~底部	F 7.8 グリット	褐 色	624
68-2170	224	大型深鉢	I V - 粗掘	28.8	19.8	推 12.5	7,000	5/10口~底部	D 6 グリット	橙 色	631
68-2171	224	大型深鉢 (口~胴中)	"	残 21.4	推 22.1	—	—	15/10口~底部		にふい橙色	597
68-2172	224	小型台付浅鉢 (口~胴部)	"	残 8.4	推 16.6	—	—	15/10口~脚部	D 2 グリット	にふい黄褐色	609
68-2173	224	中型深鉢 (胴中~底部)	"	残 9.6	—	—	—	2/10口~底部	C 3 グリット 縄文後期中葉?	にふい橙色	635
68-2174	224	小型丸胴壺	"	残 11.6	—	推 5.8	—	2/10口~底部	D 9 グリット	橙 色	602
68-2175	224	小型無文壺	"	残 6.4	—	7.3	—	2/10口~底部	H 5 グリットまめつ	灰黄褐色	636
76-2252	—	大型深鉢	I V - 粗掘	残 24.0	—	—	—	15/10口~底	縄文前期	にふい黄色	654
76-2253	—	大型深鉢 (口~胴)	"	残 25.2	推 27.4	—	—	25/10口~底部		黄 褐色	637
76-2254 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	230	小型深鉢	"	18.8	推 11.5	8.3	—	2/10口~胴部	(展開図) b 4 グリット 縄文前期前葉	にふい橙色	639
76-2255	230	大型深鉢 (胴中部)	"	残 12.2	—	—	—	15/10口~底部	A 2 グリット 縄文前期前葉	にふい黄橙	638
76-2256	230	小型丸胴壺 (口~胴上)	"	残 7.5	推 6.8	—	—	6/10口~底部	15 グリット 縄文後期前葉	にふい橙色	640
80-2299	232	中型丸胴広口壺 (口辺~胴上)	J V - 粗掘	残 3.7	13.1	—	—	1/10口~底部	e-3 グリット	にふい橙色	520
82-2303 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	234	くびれ付大型深鉢 (口~胴上部)	J V - 粗掘	27.0	21.3	10.5	6,800(推) 6,750	75/10口~底部	(展開図) J-1 グリット	にふい赤褐色	526



図版番号	写真番号	器種	出土遺構	器高	口径	底径	容量	残存部位 残存割合	接合関係	色調	整理番号
82-2304	233	くびれ付大型深鉢 (口～胴下部)	J V-1粗掘	cm 21.2	cm —	cm 10.5	— — cc	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい橙色	587
82-2305	233	くびれ付大型深鉢 (口～胴下部)	"	残24.8	推29.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい黄橙	586
82-2306	233	くびれ付大型深鉢 (口～胴上部)	"	残11.6	推20.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部	B-0グリット	にぶい橙色	525
82-2307	233	小型深鉢 (胴中～底部)	"	残8.6	—	6.0	—	$\frac{4}{10}$ 口～胴	A 7グリット	橙 色	521
82-2308 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	234	中型広口浅鉢 (口～胴上部)	"	残6.3	19.7	—	—	$\frac{7}{10}$ 口～底部	(展開図)A-9グリット	にぶい橙色	523
82-2309	233	くびれ付中型深鉢 (口～胴上部)	"	残7.5	推18.5	—	—	$\frac{15}{10}$ ～底部	I-9グリット	赤 灰	524
82-2310	233	小型丸胴壺 (胴上～胴部)	"	残9.0	—	推7.4	400+ $\alpha$	$\frac{25}{10}$ 口～底部		にぶい橙色	588
82-2311	233	小型浅鉢 (胴上～底部)	"	残7.9	—	推5.5	450+ $\alpha$	$\frac{5}{10}$ 口～底部	C-9グリット	にぶい黄橙 ～褐色	522
82-2312	233	中型丸胴壺 (胴上部)	"	残10.4	推17.9	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい橙色	589
82-2313	233	中型尖底深鉢? (胴中～下部)	"	残17.2	—	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部	縄文前期初?	橙 色	590
88-2378	238	くびれ付大型深鉢 (口～胴上部)	J VI-1粗掘	残14.0	推24.6	—	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部	g-8グリット	にぶい黄褐	535
88-2379	238	"	"	残20.2	推24.9	—	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部	g-6グリット	にぶい黄橙	536
88-2380	238	大型深鉢 (胴下～底部)	"	残19.1	推27.7	—	—	$\frac{1}{10}$ 口～底部		黄 褐 色	604
88-2381	—	大型深鉢 (胴下～底部)	"	残11.1	—	推8.2	—	$\frac{15}{10}$ 口～底部	J-0グリット	にぶい黄橙	534
88-2382	238	くびれ付中型深鉢 (口～胴上部)	"	残10.3	推19.9	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部	J-g、g-3グリット	"	533
88-2383	238	超小型高台付深鉢 (底部～胴部)	"	残5.3	推5.4	推3.0	—	$\frac{2}{10}$ 口～胴脚	H 2グリット	にぶい赤褐	603
88-2384	238	小型深鉢 (胴下部～底部)	"	10.2	—	8.2	—	$\frac{25}{10}$ 口～胴部	I-0グリット	にぶい褐色	531
88-2385	238	小型丸胴壺	"	11.9	推7.2	5.0	600	$\frac{5}{10}$ 口～胴部	I-1グリット	橙 色	532
88-2386	238	小型丸胴壺 (口～胴上部)	"	残7.5	推7.4	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい褐色	591
96-2499	245	くびれ付大型深鉢 (口～胴上部)	K VI-1粗掘	残18.8	推32.0	—	—	$\frac{3}{10}$ 口～底部	B-2グリット	灰 褐 色	513
96-2500	245	"	"	残29.9	推31.2	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部	C-0グリット	にぶい黄褐色	514
95-2501	245	くびれ付小型深鉢 (口～胴中)	"	残10.3	推10	—	—	$\frac{25}{10}$ 口～底部	A 8グリット、縄文後期初	にぶい黄褐色	605
103-2595	249	小型深鉢	M IV-1粗掘	残6.8	—	4.8	—	$\frac{2}{10}$ 口～胴部	I-0グリット	にぶい黄褐色	512
105-2602	249	大型深鉢 (口～胴中)	M VI-1粗掘	24	推33.5	—	—	$\frac{25}{10}$		にぶい褐～ 褐灰	613
108-2612	250	大型深鉢 (胴中部)	出土地不明	残18.1	—	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色 ～褐灰色	600
108-2613	250	小型深鉢 (口～胴上部)	"	残8.7	18.0	—	—	$\frac{3}{10}$ 口～底部		にぶい黄褐色	381
108-2614	250	くびれ付浅鉢	"	残4.6	推19.6	—	—	$\frac{2}{10}$ 口～底		褐 灰 色	655

第2表 土 製 品

図版番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況 残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理 番号
66-406	(6-1) 円板状土製品	(6-1) FⅢ-014住	cm 4.6	cm 4.5	cm 0.8	g 21.00	鈍い黄褐 褐		右上がり単節斜縄文付土器副 部破片利用。煤付着。有孔。	縄文時代 晩期前葉	5793
72-422	土 偶	FⅢ-016住埋	6.7	9.9	6.9	215.00	鈍い褐	胴 脚 部	中空、脚部破片、全面に条痕 状の横枕線がめぐる。	縄文時代 後 期 ?	1250
75-448	円板状土製品	FⅢ-017住	3.3	3.2	0.8	10.05	鈍い黄褐 褐	完 形	左上がり単節斜縄文付土器副 部破片。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5794
87-517	有孔半球状 土 製 品	FⅢ-0112住	3.4	3.8	1.6	22.44	黒 褐 橙	$\frac{1}{2}$ 残	断面半円形の横頭型、平らな 面の中央部に貫通しない孔一。 手握ね状。無文。	?	5812
92-554	(朱塗り) 土 偶	FⅢ-0113住	6.8	5.5	1.5	29.72	黄 灰	左肩部- 手部	中空小型遮光器型土偶の左肩 部-手部破片沈線+点列+縄 文。朱塗りあり。	縄文時代 晩期前葉	5811
92-555	"	"	6.3	6.5	1.2	26.45	浅黄橙 灰 白	頭 一 部 残	中空小型遮光器型土偶の頭部 左側顔面破片。一部。右上が り斜縄文付。朱塗りあり。	縄文時代 晩期前葉	5810
92-556	円板状土製品	"	3.3	3.1	0.8	7.67	鈍い橙 "	完 形	右上がり単節斜縄文付土器副 部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5795
96-589	"	FⅢ-0114住	4.1	4.0	0.7	11.67	明黄褐	"	右上がり単節斜縄文付土器副 部破片利用。煤なし。	縄文時代 晩期前葉	5796
107-710	"	FⅢ-0116住	4.4	4.2	0.5	12.05	鈍い褐 灰 褐	"	左上がり単節斜文付土器副部 破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5797
107-711	"	"	3.9	3.6	0.8	11.80	鈍い橙 鈍い褐	"	左上がり単節斜縄文付土器副 部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5798
141-831	土 偶 (臥坐姿勢)	GⅣ-014住	3.3	2.8	1.6	13.70	黒 褐	胴体部 $\frac{1}{3}$ 残	背部に渦巻状沈線+右上がり 無節斜縄文よりなる。磨消縄 文による文様あり。	縄文時代 後 期 ?	5861
249-1266	環状土製品	GⅡ-061 拾場跡	2.4	3.1	1.1	9.72	橙	一 部 残	無文。断面類長方形の帯状環 か。	縄文時代 後 期 ?	5859
249-1267	耳 栓	"	2.7	2.7	2.0	12.75	灰 褐	一 部 欠	台付白型断面円型一面は凹み 一面は平ら。沈線、刺突点列 よりなる重圏文あり。No3	"	5809
249-1268	円板状土製品	"	5.6	6.5	1.0	48.74	鈍い赤褐 鈍い黄褐	完 形	右上がり単節斜縄文付土器 (大型)副部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5803
249-1269	"	"	5.4	4.7	0.8	20.24	浅黄橙 橙	"	右上がり単節斜縄文土器副部 破片利用。煤なし。	"	5805
249-1270	"	"	6.1	6.8	0.9	41.72	"	"	右上がり単節斜縄文付土器 (大型)副部破片利用。煤僅か 付着。	"	5804
265-1328	"	FⅣ-082 炭黒跡	4.9	4.6	1.0	24.25	鈍い黄橙	"	右上がり単節斜縄文付土器副 部破片利用。煤僅か付着。	縄文時代 晩期前葉	5807
2-1388	扁平棒状 土 製 品	(F2) EⅢ-粗掘	4.7	2.2	1.0	12.40	鈍い橙	細 片	全形、用途とも不明。無文。	"	5860
13-1551	円板状土製品	FⅢ-粗掘	3.6	3.4	0.8	10.35	明赤褐	完 形	右上がり斜縄文付土器副部破 片利用。	縄文時代 晩期前葉	5800



図版番号	器種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重量	色調	保存状況 残存割合	備考	推定所属 時期	整理 番号
13-1552	円板状土製品	(J4) FIII - 粗掘	cm 4.6	cm 4.3	cm 0.7	g 15.27	黒 褐	完 形	右上がり単節斜縄文付土器胴部破片利用。煤付着。	縄文時代 晩期前葉	5802
13-1553	"	"	4.5	4.4	0.9	20.40	鈍い 褐	"	右上がり単節斜縄文付土器胴部破片利用。煤なし。	"	5801
13-1554	"	"	4.7	4.5	0.6	16.30	褐 橙	"	網状縄文付土器胴部破片利用。煤付着。	"	5799
13-1555	(足) 土 偶	"	2.1	2.8	2.7	10.65	灰 黄 褐	足 部	中空土偶、足部破片。足は平面円形前に刻可あり。	"	5858
13-1556	耳 栓	FIII - 粗掘	1.7	1.6	0.9	1.68	鈍い黄橙	一 部 欠	椎骨状の小型品、中央部縦方向に一孔。無文。	縄文時代 後 晩 期	5808
30-1763	土 製 笛	GIII - 粗掘	7.5	7.5	1.5	160.00	橙 褐	後背部 $\frac{1}{4}$ 残	沈線による採取りや渦巻状連続唐草文あり。端部孔残る。朱塗り痕。	縄文時代 晩期前葉	1264
30-1764	円板状土製品	"	6.1	6.0	1.2	44.05	浅 黄 橙	完 形	右上がり? 単節斜縄文土器胴部破片利用。煤なし。	"	5806
40-1880	平板状土製品	(F9) HIII - 粗掘	4.1	2.1	1.2	10.84	鈍い黄橙 橙	一 部 残	全形不明。土器の部品かも知れない。無文。	縄文時代	1252
40-1881	角柱状土製品	(B4) "	5.2	4.2	2.9	47.50	橙 褐 灰	脚 部	断面隅丸四角形の柱状土製品。沈線による縦横方向の線文。全体形状不明。	縄文時代 晩期前葉?	1253
40-1882	短円柱状 土 製 品	(E9) "	2.4	2.7	2.6	9.15	褐 灰	一 部 欠	無文、両端が丸みを帯びている。	縄文時代	1251
56-2076	角柱状土製品	(I9) HIV - 粗掘	8.5	8.3	5.2	100.00	浅 黄 橙 褐 灰	脚 部	中空土偶。耳部-足部破片脚部に沈線。一点列よりなる横平行文様。足部に沈線。一条開る粘土層。	縄文時代 晩期前葉?	1254
61-2120	罌器状土製品	HV - 粗掘	9.4	6.9	8.1	35.00	橙 黒	一 部 欠	砂多く含む胎土。指圧痕多く数付着。黒色付着物体あり。	縄文時代 晩期前葉?	1255
66-2165	土 偶	(F7) I III - 粗掘	3.6	2.8	2.3	7.00	灰 黄 褐	頭 頂 部	中空、頭頂部破片。上辺破状円で扁平。	縄文晩期 前 葉	1257
70-2208	円板状土製品	(A1) I IV - 粗掘	3.5	2.9	0.5	5.80	鈍い 褐	一 部 欠	三叉文入。精製、土器口辺部破片利用。	縄文時代 晩期前葉	1263
92-2454	土製えびす	JVI - 粗掘	2.7	2.9	0.8	5.42	鈍い 橙	頭 部	全体的に円板状、背面平ら。型押し製品か?	歴史時代	1258
92-2455	鈎鐘状土製品	"	4.1	3.3	3.3	18.30	鈍い黄橙 褐 灰	一 部 欠	頭部平ら、底部くびれ、中空全体に点列+沈線文よりなる帯状入組文あり。	縄文時代 後期前葉	1259
99-2568	鈎 鐘 状 小 型 土 製 品	(J1) KVI - 粗掘	4.7	3.4	3.3	25.08	浅 黄 橙	完 形	無文、頭部薄くなり一孔あり。下部くびれ。	縄文時代 後期前葉	1262
99-2569	小粘土焼塊	(C2) "	2.3	2.2	1.7	7.00	鈍い赤褐	"	手握ぬ団子状、しわやひびが入った不整形の砂入り粘土塊。土製品かわからない。	不 明	1260
109-2645	土製長丸玉	出土地不明	1.8	1.2	0.8	1.45	鈍い 褐	$\frac{1}{2}$ 残	手握ぬ状、長軸方向中央に一孔あり。無文。	"	1261

第3表 石器

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
12 - 1	81	砥石(凹有り)	E II - 011住	11.5 <sup>cm</sup>	4.9 <sup>cm</sup>	4.2 <sup>cm</sup>	400.00 <sup>g</sup>	鈍黄橙	珪質凝灰岩	完形 10	5064
12 - 2	81	石 匙	E II - 011住	4.1	6.3	1.2	25.95	黒 褐	珪質泥岩	完形 10	5063
14 - 4	81	擦 石	E II - 012住	10.2	6.5	5.5	580.00	灰 黄	崗礫石安山岩	完形 10	5813
17 - 10	81	スクレーパー	E II - 013住	4.0	1.6	0.8	7.50	黒 褐	硬質泥岩	5 残	5019
20 - 34	82	石 鏃	E II - 014住	5.8	1.9	0.8	6.60	鈍黄褐	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5146
20 - 35	82	石 鏃	E II - 014住	4.3	1.4	0.7	2.82	鈍黄褐	硬質泥岩	ほぼ完形 10	5147
20 - 36	82	石 鏃	E II - 014住	4.6	2.3	1.2	12.05	鈍黄橙褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5148
20 - 37	82	石 匙	E II - 014住	4.0	6.1	0.8	17.25	黒 褐	珪質泥岩	完形 10	5109
20 - 38	82	小スクレーパー	E II - 014住	2.4	3.9	0.7	8.03	黒	硬質泥岩	完形 10	5106
20 - 39	82	石 匙	E II - 014住	6.8	3.1	0.8	13.80	明灰白・褐 灰	珪質細粒凝灰岩	ほぼ完形 10	5108
20 - 40	83	スクレーパー	E II - 014住	6.2	6.1	1.6	52.05	褐 灰	珪質泥岩	完形 10	5110
20 - 41	82	加工痕のある 剥 片	E II - 014住	3.7	2.8	0.7	7.00	鈍黄橙	流紋岩質細粒凝灰岩	完形 10	5112
20 - 42	83	スクレーパー	E II - 014住	7.5	4.4	0.9	38.43	鈍黄橙 黒	硬質泥岩	完形 10	5107
20 - 43	83	スクレーパー	E II - 014住	5.00	4.50	0.70	24.42	黒	硬質泥岩	完形 10	5111
20 - 44	83	磨製石斧	E II - 014住	3.20	3.10	2.2	38.60	オリーブ灰	凝灰質砂岩	頭頂部	5077
20 - 45	83	磨製石斧	E II - 014住	6.6	3.3	1.7	40.25	鈍黒黄 橙	硬砂岩	側辺部	5078
20 - 46	—	石 棒	E II - 014住	12.20	2.5	2.1	85.00	暗 灰	粘板岩	細片	5162
21 - 47	83	石 皿	E II - 014住	30.4	30.4	13.4	14,500.00	灰白・黄灰 鈍黄	崗礫石安山岩	完形 10	5818
21 - 48	83	円板状石製品	E II - 014住	3.7	4.9	1.8	59.67	緑鈍 灰 鈍 橙	〃	完形 10	5084
22 - 51	83	スクレーパー	E II - 015住	4.1	3.6	0.7	11.89	黒	硬質泥岩	5 残	5020
54 - 341	107	石 鏃	E III - 011住	3.6	1.2	0.5	1.65	灰明 褐 明 褐	〃	先端一部欠	5850
54 - 342	107	石 鏃	E III - 011住	3.4	1.2	0.9	2.26	灰黄 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5039
54 - 343	107	石 鏃	E III - 011住	3.2	1.3	1.3	5.58	黒黄 褐 黄 橙	珪質泥岩	完形 10	5040
54 - 344	107	石 鏃	E III - 011住	3.9	1.9	1.3	8.20	褐灰・灰白 鈍オレンジ	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5041
54 - 345	107	石 匙	E III - 011住	4.3	3.8	0.7	7.40	灰 褐	〃	上 3	5029
54 - 346	107	石 匙	E III - 011住	4.7	6.0	1.1	27.85	灰灰 黄 褐 灰 白	〃	完形 10	5030
54 - 347	107	石 匙	E III - 011住	4.3	2.7	0.8	9.80	褐明 灰 明 褐	珪質泥岩	上 5	5028
54 - 348	107	石 匙	E III - 011住	6.3	2.5	0.5	8.12	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5031
54 - 349	—	スクレーパー	E III - 011住	3.5	4.0	1.1	11.45	鈍 褐	〃	3 残	5036
54 - 350	107	スクレーパー	E III - 011住	3.8	2.5	0.6	5.45	褐 灰	珪質泥岩	一部欠	5033
54 - 351	107	スクレーパー	E III - 011住	3.6	6.3	0.7	10.40	灰 褐	硬質泥岩	完形 10	5852
54 - 352	—	スクレーパー	E III - 011住	4.3	3.0	0.7	9.90	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5032
54 - 353	—	スクレーパー	E III - 011住	6.1	2.3	0.9	9.83	明褐・鈍褐 灰黄 褐	〃	下 5	5062
55 - 354	107	スクレーパー	E III - 011住	6.3	5.0	1.4	27.85	黒 褐	硬質泥岩	一部欠	5035
55 - 355	—	スクレーパー	E III - 011住	6.5	4.2	1.5	36.70	黄明 褐赤・灰 赤 褐	珪質細粒凝灰岩	完形 10	5034
55 - 356	107	使用痕のある 剥片	E III - 011住	6.2	4.4	0.9	16.10	灰 白	〃	完形 10	5038
55 - 357	107	石 棒	E III - 011住	23.8	2.9	2.5	320.00	暗青 灰	粘板岩	下 5	5026
55 - 358	—	凹 石	E III - 011住	10.4	7.9	5.6	640.00	浅黄 橙 黒	花崗閃緑炭	一部風化	5027
55 - 359	107	擦 石	E III - 011住	7.0	6.5	5.8	400.00	灰オリーブ 黒	崗礫石安山岩	完形 10	5815
55 - 360	107	小型磨製石斧	E III - 011住	5.6	2.5	0.9	23.00	オリーブ灰	凝灰質砂岩	完形 10	5025



図版番号	写真番号	器 種 類	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
56-361	107	石 皿	EⅢ-011住	41.5 <sup>cm</sup>	26.0 <sup>cm</sup>	14.5 <sup>cm</sup>	17,000.00 <sup>g</sup>	灰 白	兩輝石安山岩	完形 <sub>10</sub>	5814
61-382	110	擦 石	FⅢ-013住	11.4	9.2	6.5	1,080.00	黒・淡赤 灰 橙 黄	花崗閃緑岩	完形 <sub>10</sub>	5817
66-407	111	石 鉄	FⅢ-014住	3.8	1.4	0.7	2.50	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5149
66-408	—	スクレーパー	〃	3.6	2.4	1.0	9.37	〃	硬質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5113
66-409	—	擦 石	〃	8.4	8.2	7.3	680.0	灰	兩輝石安山岩	完形 <sub>10</sub>	5819
71-414	111	石 皿	FⅢ-016住	21.4	16.0	5.8	1,780.00	鈍黄橙	〃	2.5 残	5820
72-418	—	叩 き 石	〃	10.8	8.0	6.4	580.0	橙	珪質細粒凝灰岩	完形 <sub>10</sub>	5823
72-419	—	円板状石製品	〃	5.5	6.2	2.0	85.00	黒	硬質泥岩	(未製品)	5085
72-420	—	打痕ある礫	〃	6.8	5.6	2.6	130.00	褐	珪質細粒凝灰岩	完形 <sub>10</sub>	5100
72-421	111	スクレーパー	〃	5.8	3.1	0.6	11.85	黒・褐・橙 浅 黄 橙	珪質泥岩	5 残	5171
75-449	114	籠状石器	FⅢ-017住	6.9	3.8	1.6	43.10	黒 褐	硬質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5156
75-451	114	石 匙	〃	6.0	3.1	0.8	12.80	黄 橙 灰 黄 橙	珪質細粒凝灰岩	ほぼ完形 <sub>10</sub>	5114
76-452	114	擦 石	〃	7.80	7.10	4.60	390.00	青 灰	兩輝石安山岩	完形 <sub>10</sub>	5101
76-453	114	凹 石	〃	19.50	5.20	4.20	540.00	灰 白・黒 鈍 黄 橙	淡緑色凝灰岩	完形 <sub>10</sub>	5822
76-454	—	石 棒	〃	56.00	12.40	12.0	12,500.00	灰 黄 橙 鈍 黄 橙	兩輝石安山岩	完形 <sub>10</sub>	5821
84-493	118	石 皿	FⅢ-019住	31.00	16.50	11.00	3,800.00	灰 黒 明 青 灰	〃	完形 <sub>10</sub>	5824
84-494	118	石 棒	〃	13.60	2.80	1.40	56.55	明 青 灰	凝灰質千枚岩	細片	5163
84-495	118	石 匙	〃	4.7	4.7	0.8	10.35	灰 褐	珪質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5115
84-496	118	スクレーパー	〃	5.1	5.7	1.7	40.65	黒 明・灰 白 明 灰 白 褐	硬質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5116
84-497	118	石 鉄	〃	2.8	1.8	0.6	1.75	灰 黄 褐	珪質細粒凝灰岩	基部欠	5150
87-518	119	スクレーパー	FⅢ-0112住	3.7	2.2	0.7	6.68	灰黄褐・灰白 浅 黄 橙	珪質凝灰質泥岩	ほぼ完形 <sub>10</sub>	5118
87-519	119	加工痕のある 割片	〃	3.5	2.8	0.8	11.26	褐	〃	小片	5408
87-520	119	スクレーパー	〃	4.0	3.6	0.9	11.35	灰 横 褐	〃	完形 <sub>10</sub>	5119
87-521	119	〃	〃	6.1	6.1	1.2	29.02	灰黄褐・暗赤褐 水 和 層 淡 色	珪質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5117
92-557	121	石 棒	FⅢ-0113住	8.0	2.2	0.7	21.28	赤 黒	粘板岩	細片	5164
92-558	121	石 匙	〃	4.50	5.50	0.70	10.30	黒 鈍 黄 橙 鈍 黄 橙	珪質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5121
92-559	121	〃	〃	5.60	4.20	0.90	20.33	灰 橙 白	珪質凝灰質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5120
92-560	121	石 錐	〃	3.0	1.50	0.50	1.40	褐 灰	珪質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5158
92-561	121	円板状石製品	〃	5.0	5.0	1.8	78.00	橙	珪質細粒凝灰岩	未製品	5086
92-562	121	〃	〃	5.1	6.3	2.1	65.00	〃	珪質凝灰岩	完形 <sub>10</sub>	5087
96-590	—	スクレーパー	FⅢ-0114住	4.0	2.2	1.2	9.15	黒 褐	珪質泥岩	一部欠	5122
96-591	122	石 錐	〃	4.6	1.6	1.1	8.20	鈍 黄 橙 黒 褐	〃	完形 <sub>10</sub>	5159
96-592	122	石 匙	〃	5.0	2.3	0.8	9.95	黒 褐	硬質泥岩	6 残	5857
96-593	—	スクレーパー	〃	5.2	2.3	1.4	20.60	灰 褐	珪質泥岩	6 残	5123
96-594	122	円板状石製品	〃	4.90	6.1	1.3	42.55	褐	珪質凝灰岩	未製品	5088
99-619	123	石 錐	FⅢ-0115住	4.1	2.4	1.1	8.45	黄 橙	珪質細粒凝灰岩	一部欠	5160
99-620	123	石 鉄	〃	2.6	1.0	0.5	1.12	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 <sub>10</sub>	5151
99-621	123	円板状石製品	〃	4.2	5.3	1.3	41.37	鈍 赤 褐	珪質凝灰岩	完形 <sub>10</sub>	5090
99-622	123	〃	〃	4.4	5.8	2.0	65.00	明 褐	珪質細粒凝灰岩	未製品	5092
99-623	123	〃	〃	6.0	6.9	2.0	100.00	鈍 赤 褐 鈍 橙	〃	完形 <sub>10</sub>	5089
99-624	123	擦 石	〃	10.9	7.8	7.5	1,000.00	鈍 黄 橙	兩輝石安山岩	〃	5825

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
100-625	123	円板状石製品	FⅢ-0115住	4.9 <sup>cm</sup>	5.0 <sup>cm</sup>	1.3 <sup>cm</sup>	50.75 <sup>g</sup>	褐	珪質凝灰質泥岩	未製品	5091
100-626	—	叩 き 石	"	5.5	4.2	4.3	120.00	灰 褐	珪質細粒凝灰岩	完 形 10	5104
100-627	123	石 棒	"	9.50	3.80	1.90	65.00	黒	粘 板 岩	細 片	5165
107-712	128	石 錐	FⅢ-0116住	3.7	1.3	0.5	2.35	灰 白 灰 黄	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5153
107-713	128	石 錐	"	4.8	1.6	0.9	4.87	黒 褐	珪 質 泥 岩	完 形 10	5161
107-714	128	石 錐	"	3.1	1.6	0.9	3.83	"	珪質凝灰質泥岩	未製品	5154
107-715	128	"	"	3.4	1.2	0.5	1.60	"	硬 質 泥 岩	完 形 10	5155
107-716	128	"	"	3.0	1.2	0.6	1.80	灰 黄 褐	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5152
107-717	128	ノッチ付石器	"	3.9	3.2	0.6	8.52	灰 褐	珪 質 泥 岩	6 残	5127
107-718	128	加工痕のある剥片	"	2.5	2.0	0.7	3.08	黒 褐 鈍	"	完 形 10	5410
107-719	128	石 匙	"	4.2	7.2	1.4	30.42	黒 褐	"	完 形 10	5125
107-720	128	"	"	4.0	4.8	1.2	15.10	灰褐・灰黄褐 水和部淡色	"	上6残	5124
107-721	128	スクレーパー	"	3.6	2.3	1.5	11.45	黒 褐	硬 質 泥 岩	5 残	5775
107-722	128	加工痕のある剥片	"	6.1	2.6	0.9	12.86	灰 褐 黄	珪 質 泥 岩	完 形 10	5409
107-723	128	スクレーパー	"	3.4	2.4	1.0	8.65	黒	硬 質 泥 岩	6 残	5126
107-724	128	"	"	3.5	2.5	0.8	6.70	褐 灰	珪 質 泥 岩	完 形 10 (?)	5128
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
108-726	128	磨製石斧	FⅢ-0116住	11.30	5.40	3.4	340.00	明 青 暗 緑	灰 凝 黒 質 青 砂 青 岩	刃部欠	5080
108-727	128	"	"	10.3	5.0	2.2	200.00	青 黒 暗 灰	"	"	5081
108-728	128	"	"	10.3	4.3	2.3	165.00	暗 緑 灰	"	ほぼ完形 10	5079
108-729	—	叩 き 石	"	13.7	5.8	4.0	560.00	灰 明 褐	褐 輝 石 安 山 岩	完 形 10	5826
108-730	128	円板状石製品	"	4.1	5.8	1.4	39.40	暗 赤	輝 緑 凝 灰 岩	未製品	5093
108-731	128	"	"	3.1	5.0	1.1	23.65	鈍 褐 橙	珪 質 凝 灰 岩	5 残	5094
108-732	—	小 球 礫	"	3.3	3.2	2.9	27.25	灰 鈍 鈍 黄	白 輝 石 安 山 岩	完 形 10	5103
108-733	128	"	"	4.0	3.6	3.2	53.90	浅 黄 橙	珪 質 細 粒 凝 灰 岩	完 形 10	5102
112-737	128	石 錐	FⅣ-011 住	4.1	2.3	1.4	11.42	黒	黒 輝 石	錐部欠	5420
112-738	128	円板状石製品	"	5.5	5.7	1.5	65.00	橙	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	5421
130-792	133	石 匙	GⅢ-016 住	3.9	6.4	1.1	20.52	黒 褐	珪 質 泥 岩	完 形 10	5517
130-793	133	石 錐	"	1.6	2.0	0.9	2.55	褐 灰	チャート	錐部欠	5514
130-794	—	スクレーパー	"	3.5	4.5	0.9	16.50	"	硬 質 泥 岩	5 欠	5515
130-795	133	"	"	4.0	4.8	0.8	13.80	鈍 黄 橙	チャート	完 形 10	5516
130-796	133	円板状石製品	"	6.3	6.5	1.8	100.00	鈍 橙 橙	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	5777
130-797	133	擦 石	"	12.0	9.7	7.6	1,200.00	淡 質 灰	硬 砂 岩	完 形 10	5836
131-798	—	"	"	7.0	6.9	6.0	400.00	緑 灰	両 輝 石 安 山 岩	完 形 10	5834
131-799	133	磨製石斧	"	4.3	4.7	2.7	97.00	灰 白・黒 褐 灰	輝 石 玢 岩	胴部残	5535
131-800	133	(擦石兼用)石 凹	"	9.3	8.2	6.4	800.00	灰	両 輝 石 安 山 岩	完 形 10	5835
131-801	—	石 皿	"	14.20	12.60	9.80	1,300.00	灰 白 褐 灰	"	2.5残	5845
132-802	134	石 匙	GW-011 住	11.80	3.5	1.3	53.32	灰 褐	硬 質 泥 岩	完 形 10	5612
141-832	136	ノッチ付 スクレーパー	GW-014 住	2.9	6.5	1.2	24.10	褐 灰	"	"	5622
141-833	136	石 匙	"	5.0	4.9	0.9	15.02	"	珪 質 泥 岩	"	5621
141-834	136	スクレーパー	"	3.5	4.7	0.9	15.42	黒 褐	硬 質 泥 岩	"	5781



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
91-849	—	磨製石斧	GⅣ-0110住	6.0 <sup>cm</sup>	3.9 <sup>cm</sup>	2.1 <sup>cm</sup>	82.00 <sup>g</sup>	黒 明オリーブ灰	輝石玢岩	副刃部残	5641
91-850	—	円板状石製品	"	2.8	5.3	0.9	21.20	淡赤 黄褐	珪質凝灰岩	5 残	5633
149-852	136	スクレーパー (ノッチ)	HⅢ-012住	8.2	4.1	1.4	55.31	黒	珪質泥岩	完形 10	5713
148-853	136	石 匙	HⅢ-015住	2.9	2.9	0.4	2.80	褐 灰	珪質凝灰質泥岩	8 残	0174
148-854	136	スクレーパー	"	5.2	6.0	1.1	30.50	灰黄褐	"	完形 10	0173
161-928 <sup>a</sup> <sub>b</sub>	143	石 鏃	HⅣ-012住	3.6	1.4	0.6	2.20	黒 褐	珪質泥岩	茎部欠	5609
161-929	143	"	"	3.3	1.5	0.5	2.02	"	"	"	5608
161-930	143	スクレーパー	"	3.7	2.0	0.7	5.13	鈍赤褐	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5620
161-931	143	石 匙	"	7.0	3.3	0.8	19.80	明赤・黒褐・鈍黄 橙・水和層淡色	珪質泥岩	"	5614
161-932	143	"	"	3.4	5.3	0.8	11.9	黒鈍 黄褐橙	"	"	5613
161-933	143	石 錐	"	3.5	2.5	0.9	6.25	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	"	5624
161-934	143	加工痕のある 剥片(ノッチ)	"	3.5	5.5	1.6	16.05	黒鈍 黄褐橙	硬質泥岩	完形 10	5619
162-935	143	加工痕のある剥片 (ノッチなし)	"	3.7	2.7	0.8	4.83	褐 灰	珪質泥岩	一部欠	5617
162-936	143	加工痕のある 剥片(ノッチ)	"	2.6	2.5	0.9	5.45	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	細片	5615
162-937	143	小型 スクレーパー	"	2.4	2.4	0.7	4.35	褐 赤 灰	"	未製品	5783
162-938	143	スクレーパー	"	4.6	2.4	1.1	11.72	黒 褐	硬質泥岩	"	5782
162-939	143	加工痕のある剥片 (ノッチなし)	"	4.1	3.0	0.8	9.65	灰白・灰褐 橙	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5618
162-940	143	"	"	4.3	3.5	0.6	9.35	鈍黄 黒褐・灰白	珪質泥岩	完形 10	5616
162-941	143	石 楯	"	9.9	3.3	1.5	49.00	鈍 黄	珪質凝灰質泥岩	未製品	5784
162-942	143	石 棒	"	16.6	2.2	1.9	80.00	暗灰 灰黄	粘 板 岩	3 残	5644
162-943	143	岩 版	"	3.6	2.9	0.9	5.85	灰灰 白褐	流紋岩質細粒凝灰岩	小片	5646
162-944	143	小 球 礫	"	5.0	4.6	3.4	95.00	灰白・黒褐 明 褐	崗輝石安山岩	完形 10	5635
162-945	143	磨製石斧	"	3.3	4.4	2.8	70.00	灰白・黒褐 黒	輝石玢岩	副部細片	5640
163-946	143	円板状石製品	"	4.4	4.5	2.0	65.00	緑 灰	崗輝石安山岩	完形 10	5626
163-947	144	"	"	4.2	4.4	1.1	28.32	淡 褐 黄	珪質凝灰岩	"	5627
163-948	144	"	"	5.2	5.4	1.9	57.05	灰 白	淡緑色凝灰岩	"	5629
163-949	144	加工痕のある 扁平礫	"	6.5	3.8	1.2	39.35	明オリーブ灰	流 紋 岩	"	5638
163-950	144	円板状石製品	"	5.2	5.3	1.1	55.53	明褐・黄灰 灰白	珪質細粒凝灰岩	未製品	5632
163-951	144	擦 石	"	5.4	4.3	5.1	140.00	褐灰・灰白 黒	半花崗岩	小片	5637
163-952	144	円板状石製品	"	5.5	5.9	2.3	120.00	鈍褐・浅黄 明 橙	珪質凝灰岩	完形 10	5628
163-953	144	加工痕のある 扁平礫	"	7.2	6.0	1.8	120.00	オリーブ灰	流 紋 岩	"	5639
163-954	144	擦 石	"	6.4	6.1	4.5	230.00	灰 オリーブ黒	崗輝石安山岩	"	5636
164-955	144	円板状石製品	"	5.9	6.0	2.0	100.00	鈍 褐	珪質凝灰岩	"	5631
164-956	144	"	"	5.6	5.9	2.0	90.00	赤 褐 橙	"	"	5630
164-957	144	平 石	"	13.3	12.2	2.2	620.00	褐灰・明黄 灰 白	凝灰質角礫岩	"	5839
171-964	145	磨製石斧	JⅤ-012住	5.2	3.8	2.3	65.00	暗緑 明緑灰・灰	プロピライト	頭部残	0159
171-965	145	スクレーパー	"	3.2	3.4	0.7	8.45	明 灰 褐 白	玻璃質流紋岩	完形 10	0160
171-966	145	小 球 礫	"	3.9	3.1	2.6	43.90	灰 白	珪質凝灰岩	"	0213
171-967	145	"	"	3.7	3.7	3.1	57.85	褐 灰 灰 白	"	"	0212
176-1000	148	スクレーパー	JⅥ-011住	6.0	4.4	1.5	43.30	鈍い赤褐・鈍い 橙・鈍い黄橙	珪質細粒凝灰岩	"	0178
176-1001	148	使用痕ある剥片	"	5.3	3.8	1.7	34.95	褐	"	"	0182

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
176-1002	148	スクレーパー	J VI-011 住	4.8 <sup>cm</sup>	4.2 <sup>cm</sup>	0.8 <sup>cm</sup>	23.00 <sup>g</sup>	黒 褐	硬質泥岩	完形 10	0175
176-1003	148	"	"	3.7	3.1	0.7	6.800	暗赤褐	珪質凝灰質泥岩	7 残	0179
176-1004	148	"	"	3.5	2.9	0.9	10.60	黒 褐	珪質泥岩	5 残	0179
176-1005	148	フ レ ーク	"	6.5	1.7	0.9	10.30		"	完形 10	0177
176-1006	148	凹 み 石	"	7.8	5.4	3.7	140.00	鈍い赤褐 鈍い	両輝石安山岩	5 残	0162
177-1007	148	平石(砥石?)	"	11.3	6.9	1.8	230.50	灰白・黄橙 灰黄褐	珪質凝灰岩	完形 10	0209
177-1008	148	平 石	"	23.10	20.60	6.0	395.00	灰白・灰 褐	両輝石安山岩	"	0211
177-1009	148	三角柱状礫	"	15.30	8.40	6.80	1,080.00	明黄褐・灰 白・灰黄褐	石英安山岩	5 残	0158
179-1015	149	石 鉄	K VI-011 住	3.1	1.1	0.6	2.30	灰黄 黄褐	硬質凝灰質泥岩	基部欠	0161
179-1016	149	スクレーパー	"	6.3	3.9	1.0	24.70	明 浅黄褐	珪質細粒凝灰岩	一部欠	0207
179-1017	149	フ レ ーク	"	4.3	2.7	0.8	6.40	黒 褐	石質泥岩	完形 10	0185
179-1018	149	使用痕ある 剥片	"	4.4	3.2	0.9	10.80	黄 褐	細粒凝灰岩	"	0186
179-1019	149	打製掘具	"	20.8	12.5	2.0	710.00	オリーフ灰 灰白・緑灰	凝灰質千枚岩	"	0157
182-1024	150	バナナ状礫器	K VI-012 住	30.20	11.80	7.80	4,430.00	明オリーフ灰	珪質凝灰岩	"	0210
219-1035	151	エンドサイド スクレーパー	G III-021Pit	7.2	3.3	1.1	25.10	灰白・褐 水和層 淡色	珪質凝灰質泥岩	"	5778
219-1036	151	円板状石製品	G III-021Pit	5.8	6.1	1.7	90.00	橙	珪質凝灰岩	"	5545
220-1040	152	擦痕ある 小平礫	H III-022Pit	4.4	2.8	0.9	11.45	淡 黄	細粒凝灰岩	2本接合 はほぼ完形	0180
222-1064	154	円板状石製品	J V-0210Pit	4.2	4.2	1.0	24.20	鈍い 褐 橙	珪質凝灰岩	完形 10	0208
222-1065	154	磨製石斧片	"	4.5	1.9	0.4	5.20	緑 浅 灰黄	凝灰質千枚岩	刃一部残	0206
225-1078	155	石 剣(片)	M IV-025 P	8.0	2.9	1.3	37.90	暗青灰	粘 板 岩	副先端 部細片	0181
232-1082	156	石 棒	F III-041 果石遺構	35.7	9.9	8.3	4,900.00	黒褐・灰白 鈍黄橙	両輝石安山岩	完形 10	5828
249-1271	168	石 鉄	G II-061 捨場跡	2.1	1.8	0.5	2.62	黒 橙 褐	珪質凝灰質泥岩	"	5422
249-1272	168	石 錐	"	3.6	3.8	0.6	7.22	黒	硬質泥岩	錐部欠	5439
249-1273	168	石 匙	"	3.5	2.7	0.9	4.62	褐 灰	チャート	頭部残	5435
249-1274	168	"	"	5.8	4.3	1.2	29.65	鈍黄橙・鈍赤 褐・水和層	珪質凝灰質泥岩	一部欠	5434
249-1275	168	"	"	4.1	3.1	0.9	10.43	黒 褐	硬質泥岩	"	5433
249-1276	168	スクレーパー	"	2.5	2.6	0.5	3.17	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	細片	5430
249-1277	168	石 匙	"	2.6	4.0	0.7	4.65	褐 灰	"	頭部残	5438
249-1278	168	スクレーパー	"	3.5	2.0	0.6	3.96	浅 黒 黄 橙	珪質泥岩	完形 10	5423
249-1279	168	"	"	4.2	2.1	1.2	10.16	灰 橙 褐	珪質凝灰質泥岩	"	5432
249-1280	168	石 匙	"	5.9	2.0	0.8	8.07	灰黄褐・橙 黒褐・水和層	"	"	5437
249-1281	168	スクレーパー	"	3.9	2.9	0.5	7.20	灰 褐	"	5 残	5425
249-1282	168	加工痕の ある剥片	"	3.60	1.80	0.60	3.58	褐 灰	珪質泥岩	完形 10	5440
249-1283	168	スクレーパー	"	2.5	2.6	0.5	3.17	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	細片	5430
250-1284	168	"	"	7.5	4.1	1.2	34.85	灰 橙 褐	硬質泥岩	完形 10	5851
250-1285	168	"	"	4.5	5.3	1.0	17.53	褐 灰	珪質凝灰質泥岩	6 残	5427
250-1286	168	"	"	4.2	5.8	1.2	23.40	"	硬質泥岩	一部欠	5426
250-1287	168	"	"	2.5	4.6	0.8	7.70	灰褐・褐灰 水和層 淡色	珪質泥岩	完形 10	5424
250-1288	169	"	"	5.2	3.6	1.1	19.45	黒 褐	硬質泥岩	"	5428
250-1289	169	"	"	4.0	4.5	1.0	16.50	浅 黄	流紋岩質 細粒凝灰岩	6 残	5429
250-1290	—	凹 石	"	3.6	3.3	1.0	16.45	鈍赤褐	珪質凝灰岩	細片	5446



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
250-1291	169	円板状石製品	G II-061 拾場跡	4.7 <sup>cm</sup>	4.8 <sup>cm</sup>	1.3 <sup>cm</sup>	34.60 <sup>g</sup>	橙	珪質凝灰岩	完形 10	5444
250-1292	169	"	"	5.0	5.3	0.8	34.52	"	"	"	5443
250-1293	169	"	"	5.0	6.4	1.1	50.95	"	"	"	5445
250-1294	169	磨製石斧	"	4.0	3.3	2.4	44.67	緑灰・淡黄 暗緑	輝石珪岩	頭頂部残	5442
250-1295	169	"	"	4.40	3.10	1.90	33.23	緑明 緑	凝灰質千枚岩	"	5441
252-1296	169	スクレーパー	I III-061 拾場跡	4.4	6.9	0.8	22.70	灰 黄	玻璃質流紋岩	9 残	0119
256-1312	171	石 鏝	G IV-051溝	2.7	1.9	0.6	2.60	褐 灰	珪質泥岩	基部欠	0135
256-1313	171	磨製石斧	"	4.2	4.5	1.7	49.35	黒灰 褐白	輝石珪岩	刃部残	0204
256-1314	171	石皿(1おもて 平石(2)うら)	"	13.6 33.5	19.5 25.4	3.2 5.0	1,260.00 4,220.00	鈍い褐 灰白・黒	両輝石安山岩	2体接合 5残	0195
256-1315	171	石 皿	"	23.5	19.9	1.5	1,500.00	明オリブ 明赤褐・黄橙	淡緑色砂質凝灰岩	3体接合(01952) と接合) 6残	0197
265-1329	172	石 匙	F IV-082 炭窯跡	3.4	7.3	0.9	20.20	灰 白	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5623
261-1330	172	磨製石斧	"	4.6	3.5	2.4	53.20	灰 黒 白	輝石珪岩	頭頂部残	5642
261-1331	172	磨痕のある石片 (A B)	"	5.3 3.0	6.0 4.1	2.6 1.3	75.00 16.75	灰黄 褐	A 硬質泥岩 B 粘板岩	細片 (A) 5643	
260-1339	173	小スクレーパー	E III-071 道路跡	3.8	2.3	0.8	655	黒 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5131
260-1340	173	"	"	3.4	3.3	1.1	10.45	"	珪質泥岩	小片	5129
260-1341	173	"	"	5.5	2.5	1.0	13.80	鈍灰 橙白	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5130
260-1342-1	173	円板状石製品	"	4.3	4.4	1.4	36.95	暗 赤 橙	珪質細粒凝灰岩	完形 10	5095
1-1389	—	スクレーパー	E III 粗掘	5.4	2.5	0.8	8.80	黒 褐	珪質泥岩	下 5	5067
2-1390	177	"	"	3.9	1.10	0.4	2.45	灰浅 黄 褐橙	珪質泥岩	6 残	5754
3-1391	177	扁平石	"	14.3	12.5	1.40	440.10	鈍黄 橙	珪質細粒凝灰岩	完形 10	5816
3-1392	177	石 刀	"	7.90	4.10	1.10	52.12	紫 灰	凝灰質千枚岩	小片	5066
3-1393	177	円板状石製品	"	4.20	4.60	1.40	37.65	鈍赤 褐	珪質凝灰岩	未製品	5065
4-1394	177	石 棒	F II-粗掘	5.8.	2.60	0.80	13.52	灰黄 褐	硬質泥岩	小片	5075
5-1408	177	円板状石製品	F III-試掘	5.00	4.30	1.40	45.80	鈍い 褐	珪質細粒凝灰岩	完形 10	0039
5-1409	177	スクレーパー	"	8.60	3.70	1.20	37.15	赤・灰オリブ 灰 白	鉄石英	"	0138
5-1410	177	磨製石斧	"	8.90	7.00	2.80	200.00	灰オリブ 灰 白	凝灰質千枚岩	頭部欠	0049
13-1558	186	石 匙	F III-粗掘	3.20	5.00	0.70	8.70	灰 褐	珪質泥岩	完形 10	5133
13-1559	187	"	"	7.30	2.10	0.50	9.72	黒 褐	"	"	5132
13-1560	187	"	"	6.0	1.60	0.80	8.25	灰褐・鈍褐 橙	珪質凝灰質泥岩	"	5134
14-1561	187	"	"	6.0	3.9	1.3	22.28	褐黄 灰褐	"	ほぼ完形 10	5143
14-1562	187	籠状石器	"	6.00	3.00	1.40	25.80	黒 褐	珪質泥岩	一部欠	5157
14-1563	187	ノッチ付石器	"	6.40	4.00	0.90	20.32	黒	硬質泥岩	完形 10	5145
14-1564	187	加工痕のある 剥片	"	4.00	3.10	1.10	12.24	黒鈍 黄 褐橙	チャート	"	5417
14-1565	187	スクレーパー	"	4.50	2.90	0.50	6.60	黒明 褐 褐灰	珪質泥岩	"	5137
14-1566	187	"	"	8.20	4.70	1.10	45.70	灰浅 褐・橙 黄 橙	"	"	5136
14-1567	187	"	"	3.70	3.30	0.9	9.80	灰 褐	硬質泥岩	一部残	5416
14-1568	187	"	"	3.30	3.50	0.9	8.66	鈍灰 黄 橙褐	珪質細粒凝灰岩	5 残	5141
14-1569	187	加工痕のある 剥片(ノッチ)	"	5.00	3.40	0.60	9.85	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5412
14-1570	187	"	"	2.70	2.90	0.60	4.75	"	"	"	5419
15-1571	187	スクレーパー	"	4.20	3.40	0.60	10.15	灰白・灰黄 黒 褐	"	"	5142
15-1572	187	"	"	4.60	6.20	1.20	42.08	灰 褐	珪質凝灰岩	一部欠	5413

図版番号	写真番品	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番品
				cm	cm	cm	g				
15-1573	187	加工痕のある 剥片(ノッチ)	F III-粗掘	4.50	2.60	1.00	10.55	黒 褐	珪 質 泥 岩	一部欠	5415
15-1574	187	スクレーパー	"	4.50	2.50	0.50	7.15	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	(?) 5 残	5140
15-1575	187	"	"	5.00	2.30	1.10	12.65	"	硬 質 泥 岩	完 形 10	5138
15-1576	187	"	"	3.40	4.50	0.90	12.06	褐	珪質凝灰質泥岩	"	5144
15-1577	187	"	"	2.00	3.10	0.60	2.70	灰 白	珪質細粒凝灰岩	"	5411
15-1578	188	"	"	7.00	3.00	1.40	29.80	灰黄褐・明黄 褐・鈍黄橙	珪 質 泥 岩	"	5139
15-1579	188	加工痕のある 剥片	"	8.00	3.10	1.30	32.85	鈍 黄 褐 灰 黄 褐	珪質細粒凝灰岩	"	5414
15-1580	187	スクレーパー	"	4.00	5.50	1.00	23.25	鈍 褐	珪質凝灰質泥岩	"	5776
15-1581	188	"	"	4.80	4.00	0.80	18.36	灰 黄 褐	珪質細粒凝灰岩	"	5135
15-1582	187	加工痕のある 剥片	"	4.9	3.20	0.90	13.77	灰 褐	珪 質 泥 岩	"	5418
16-1583	—	磨製石斧	"	12.0	4.6	2.4	220.00	暗緑灰・明 緑灰・淡黄	輝 石 珪 岩	刃部欠	5082
16-1584	188	石 棒	"	9.7	2.9	1.3	65.00	オリープ灰 赤	硬 砂 岩	細 片	5166
16-1585	188	"	"	4.3	2.0	1.9	24.58	褐 灰	粘 板 岩	"	5168
16-1586	188	磨製石斧	"	10.3	4.3	2.2	130.00	灰 白	輝 石 珪 岩	完 形 10	5083
16-1587	188	石 棒	"	11.70	3.6	1.5	100.00	オリープ灰 灰	凝灰質千枚岩	細 片	5169
16-1588	188	"	"	9.20	2.00	1.60	41.65	灰	粘 板 岩	"	5170
16-1589	188	"	"	22.3	12.40	11.60	4,020.00	鈍黄橙・灰 明 赤 褐	両輝石安山岩	2.5残	5833
16-1590	188	"	"	9.50	3.0	2.0	90.00	暗 青 灰 灰 白	粘 板 岩	細 片	5167
17-1591	188	円板状石製品	"	5.50	6.60	1.70	98.00	鈍 橙	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	5099
17-1592	188	"	"	6.20	6.50	1.70	120.00	明オリープ灰	両輝石安山岩	"	5098
17-1593	188	"	"	6.0	6.1	2.0	100.00	暗赤灰・浅黄 橙・明赤褐	珪 質 凝 灰 岩	"	5096
17-1594	189	"	"	3.8	4.5	1.0	27.10	鈍 赤 褐	珪質細粒凝灰岩	"	5097
17-1595	189	石 皿	"	22.3	20.4	4.70	3,140.00	明緑灰・灰オ オリープ・灰黄褐	両輝石安山岩	6 残	5830
17-1596	189	叩 き 石	"	9.0	6.4	4.6	440.00	灰 白	安 山 岩	完 形 10	5829
17-1597	189	台 石	"	29.8	22.4	10.5	6,600.00	黄 灰 灰 白	両輝石安山岩	"	5832
18-1598	189	石 皿	"	35.2	29.0	7.8	9,600.00	鈍褐・褐灰 黒	"	"	5831
19-1599	189	スクレーパー	"	3.9	3.7	0.7	8.28	黒 褐	珪 質 泥 岩	6 残	5431
21-1628	191	石 槍	G III-試掘	4.3	3.0	1.1	5.50	鈍い黄橙	玻璃質流紋岩	尾 部 一部残	0153
30-1766	199	石 鎌	G III-粗掘	3.40	1.00	0.40	1.20	黒 褐	珪 質 泥 岩	ほぼ完形 10	0146
30-1767	199	石 匙	"	1.80	1.80	0.50	1.90	鈍 赤 褐	珪質凝灰質泥岩	頭部残	5525
30-1768	199	石 匙	"	3.7	1.8	0.8	4.21	褐 灰	"	ほぼ完形 10	5513
30-1769	199	石 匙	"	3.1	6.8	0.9	4.65	灰 褐	"	"	5524
30-1770	199	加工痕のある 剥片	"	3.1	1.8	0.9	4.75	黒 褐	硬 質 泥 岩	"	5531
30-1771	199	スクレーパー	"	4.0	2.8	1.1	12.15	褐 鈍 鈍 灰 褐	珪質凝灰質泥岩	完 形 10	5533
30-1772	199	"	"	5.10	2.50	0.50	8.21	明鈍 鈍 黄 橙	"	"	5520
30-1773	199	加工痕のある 剥片	"	3.2	3.8	0.6	6.52	黒 灰 褐 白	珪 質 泥 岩	小 片	5526
30-1774	199	"	"	2.0	2.0	0.9	3.55	黒 灰 褐	"	"	5532
30-1775	199	"	"	4.0	3.5	0.9	9.52	褐 灰	硬 質 泥 岩	"	5528
30-1776	199	"	"	3.7	2.7	1.2	10.85	鈍 黒 橙	珪 質 泥 岩	"	5529
30-1777	199	"	"	3.9	3.0	1.2	10.82	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	"	5530
31-1778	199	スクレーパー	"	4.5	3.7	1.1	21.05	"	"	6 残	5521



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長 — cm	最大巾 — cm	最大厚 — cm	重 量 — g	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号	
31-1779	199	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5521	
31-1780	199	スクレーパー	GⅢ-組掘	5.0	8.0	1.5	58.95	鈍黄 灰	橙褐 珪質凝灰質泥岩	完形 10	5519	
31-1781	199	"	"	5.2	7.9	1.5	56.84	褐 灰	硬質泥岩	"	5518	
31-1782	199	"	"	7.1	3.6	0.9	27.74	灰黄褐	珪質凝灰質泥岩	"	5522	
31-1783	199	加工痕のある 剥片	"	4.5	3.3	0.7	12.32	灰 褐	"	小片	5527	
31-1784	200	スクレーパー	"	7.1	5.0	1.0	37.51	"	硬質泥・岩	完形 10	5523	
31-1785	199	小型磨製石斧	"	3.4	1.8	0.8	8.32	オリーブ黒	凝灰質砂岩	刃部欠	5779	
31-1786	199	磨製石斧	"	3.0	4.7	2.5	65.00	灰黄褐 オリーブ灰	"	胴2.5残	5538	
31-1787	199	"	"	6.3	4.3	2.7	117.00	褐浅 黄	灰橙 輝石珪岩	頭部残	5536	
32-1788	200	"	"	7.0	4.9	2.5	138.00	黒 灰白	"	"	5539	
32-1789	200	擦石(凹み石)	"	7.6	6.4	5.2	320.50	灰黄 白灰	両輝石安山岩	完形 10	0073	
32-1790	200	磨製石斧 (即き石に転用)	"	9.7	5.3	2.6	240.00	オリーブ灰	輝石珪岩	"	5534	
32-1791	200	擦 石	"	6.4	6.0	4.5	250.50	灰黄褐 鈍い黄	両輝石安山岩	"	0080	
32-1792	200	有孔石製品	"	7.5	7.20	0.60	39.62	鈍黄橙	珪質細粒凝灰岩	"	5548	
32-1793	200	砥 石	"	6.0	5.7	1.2	55.07	鈍浅 黄	橙黄	"	2.5残	5547
32-1794	200	打製掘具	"	7.9	6.0	1.0	65.00	褐 灰	粘板岩	6残	5546	
33-1795	201	擦 石	"	12.00	11.70	8.40	1,560.00	灰白・ 黄 橙	硬砂岩	完形 10	5837	
33-1796	201	平 石	"	11.0	11.7	1.6	400.00	橙	珪質凝灰岩	5残	5838	
33-1797	200	石 棒	"	28.4	2.8	2.3	330.00	暗青 紫	灰粘 板岩	"	5537	
34-1798	200	円板状石製品	"	4.8	5.3	1.0	30.60	明黄褐	両輝石安山岩	未製品	5544	
34-1799	201	"	"	4.6	4.7	1.3	39.85	橙	珪質凝灰岩	完形 10	5541	
34-1800	201	"	"	5.6	5.8	1.7	80.00	暗浅 赤黄	褐橙 粘板岩	"	5540	
34-1801	201	"	"	6.1	6.4	1.3	65.00	褐 灰	粘板岩	6残	5543	
34-1802	200	"	"	7.1	7.0	1.3	80.00	明浅 赤黄	褐橙 珪質凝灰岩	完形 10	5542	
37-1822	203	石 鉄	GⅣ-組掘	3.5	1.3	0.5	1.79	黒 褐	珪質泥岩	ほぼ完形 10	5610	
37-1823	203	"	"	4.7	1.8	0.7	6.75	灰 白	流紋岩質細粒 凝灰岩	完形 10	5611	
37-1824	203	加工痕のある 剥片	"	2.5	2.1	0.8	3.57	黒 褐	硬質泥岩	細片	5625	
37-1825	203	スクレーパー	"	7.0	3.0	1.0	15.75	褐 灰	珪質凝灰質泥岩	5欠	5785	
37-1826	203	磨製円板状 石製品	"	4.7	5.2	1.9	58.55	明 緑 灰	流紋岩	完形 10	5634	
35-1827	203	有孔石製品	"	6.2	2.4	2.1	33.65	鈍黄橙	珪質細粒凝灰岩	"	5647	
35-1828	203	石 棒	"	19.3	2.3	2.0	90.00	灰	粘板岩	2.5残	5645	
41-1883	206	石 鉄	HⅢ-組掘	2.8	1.4	0.4	1.25	灰黒 灰	白褐 珪質泥岩	基部欠	0142	
41-1884	206	"	"	4.0	2.0	0.8	5.75	灰 黒	白	"	基一部欠	0140
41-1885	206	石 錐	"	4.8	1.8	1.2	4.05	灰黄褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	0155	
41-1886	206	石 鉄	"	2.7	1.5	0.5	1.95	褐 灰	硬質泥岩	先端 7残	0134	
41-1887	206	石 匙	"	2.7	4.0	0.5	5.30	灰黄褐	珪質凝灰質泥岩	一部欠	0122	
41-1888	206	"	"	5.8	3.5	0.8	13.75	褐	"	完形 10	0123-(1)	
41-1889	206	"	"	4.1	4.5	1.0	18.00	黒 褐	硬質泥岩	一部欠	0123-(2)	
41-1890	206	"	"	4.7	2.3	0.7	4.35	明青 紫	灰灰 玉すい	8残	0111	
41-1891	—	フ レ ー ク	"	2.5	7.5	1.2	17.40	—	硬質泥質凝灰岩	完形 10	0587	
41-1892	206	スクレーパー	"	5.9	4.6	1.1	37.65	明 褐	珪質細粒凝灰岩	"	0093	

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	良好状況 残存割合	整理番号
41-1893	206	スクレーパー	H III-粗掘	3.6	2.6	0.9	7.55	灰 黄 褐	珪質凝灰質泥岩	先 3 端 残	0149
41-1894	206	"	"	8.3	4.5	1.1	37.65	黄 灰	硬質凝灰質泥岩	完 形 10	0530
41-1895	206	"	"	3.1	2.4	0.8	4.55	鈍い黄褐	"	2 残	0168
41-1896	206	"	"	4.3	2.9	0.7	9.10	黒	両輝石安山岩	一部欠	0098
42-1897	—	"	"	4.7	3.8	1.3	22.25	褐 灰	硬 質 泥 岩	ほぼ完形 10	0953
42-1898	—	"	"	3.7	4.4	1.0	21.30	"	珪質凝灰質泥岩	6 残	0104
42-1899	206	"	"	4.9	3.5	0.8	11.75	黒	硬 質 泥 岩	一部欠	0110
42-1900	206	使用痕ある 剥片片	"	4.2	3.9	1.1	13.90	黒 鈍 黄 橙	珪 質 泥 岩	完 形 10	1162
42-1901	206	スクレーパー	"	4.8	5.7	1.0	28.10	褐 灰	"	ほぼ完形	0106
42-1902	206	"	"	4.5	2.9	1.1	11.20	灰 橙 白	珪質細粒凝灰岩	完 形 10	0116
42-1903	206	使用痕のある 剥片片	"	1.8	4.0	0.8	5.25	褐 灰	珪 質 泥 岩	"	1010
42-1904	206	スクレーパー	"	3.8	3.2	0.4	7.00	灰 黄 褐	珪質凝灰質泥岩	5 残	0118
42-1905	—	"	"	5.70	2.60	0.80	12.80	"	"	ほぼ完形	0115
42-1906	207	磨 製 石 斧	"	4.5	3.2	2.2	42.45	緑 暗 オリーブ 灰	淡 緑 色 凝 灰 岩	頭部残	0047
42-1907	207	"	"	5.6	4.4	2.4	80.50	オリーブ黒・明 オリーブ灰 淡黄	凝 灰 岩	"	0050
42-1908	208	"	"	5.8	3.3	1.1	33.05	鈍 黄 橙 灰 オリーブ オリーブ 黒	"	頭部欠	0057
42-1909	207	"	"	4.8	4.1	2.4	70.00	オリーブ黒 灰 白	"	上 部 5 残	0051
42-1910	207	凹 み 石	"	10.0	7.2	6.7	640.00	灰白・褐 灰 灰	両輝石安山岩	完 形 10	0084
43-1911	207	石 棒	"	32.3	3.0	2.6	411.00	灰 暗 灰	粘板岩 ホルンフェルス	3体に破 損、上 8残	0064
43-1912	207	"	"	5.5	1.6	0.6	5.90	暗 青 灰	"	3 体 胴部細片	0065(1)
43-1913	207	"	"	8.0	1.7	1.3	41.55	"	"	"	0065(2)
43-1914	207	"	"	2.9	2.6	0.9	8.3	灰 灰 白	粘 板 岩	胴部細片	0831
43-1915	—	"	"	5.6	2.8	1.0	27.85	暗 青 灰	粘板岩 ホルンフェルス	3 体 胴部細片	0065(3)
43-1916	207	叩き凹み 痕ある礫	"	13.0	6.4	4.2	580.00	灰オリーブ 暗 灰 黄	両輝石安山岩	完 形 10	0192
43-1917	207	擦 石	"	6.4	5.1	2.6	120.50	暗 灰 黄 褐	"	5 残	0082
44-1918	208	"	"	8.2	5.2	4.6	320.50	灰オリーブ 灰 黄	"	完 形 10	0075
44-1919	208	"	"	7.3	5.9	5.1	305.00	黄 灰 灰 白	"	"	0072
44-1920	208	叩き凹み 痕ある礫	"	12.0	5.2	4.4	380.00	灰 黄 褐	"	先 端 一 部 欠	0191
44-1921	—	凹 み 石	"	10.0	7.2	6.7	640.00	灰白・褐 灰 灰	"	完 形 10	0084
44-1922	208	叩き凹み 痕ある礫	"	12.60	4.50	3.80	300.00	灰	"	"	0190
45-1923	208	擦 石	"	11.30	8.40	4.60	680.00	褐 灰 灰 白	花崗閃緑岩	"	0069
45-1924	208	叩 き 石	"	10.7	10.6	9.0	1,660.00	灰 灰 黄 白 褐	両輝石安山岩	一部欠	0222
45-1925	208	平石(横刃形 打製石斧)	"	17.3	11.80	3.7	1,250.00	緑 灰 ・ オ リ ブ 灰 ・ 青 褐	"	完 形 10	0219
45-1926	208	横刃型 打製石斧	"	10.6	15.3	5.3	1,200.00	明 灰 青 灰 黄 褐	"	"	0226
46-1927	209	円板状石製品	"	4.70	4.90	2.00	20.00	明 褐 黄 褐	細 粒 凝 灰 岩	"	0025
46-1928	209	"	"	4.4	4.5	1.4	38.55	鈍い黄橙	"	"	0044
46-1929	209	"	"	4.7	4.6	1.5	43.10	鈍い 橙	"	"	0036
46-1930	209	"	"	5.4	4.2	1.3	28.50	鈍い黄橙	"	"	0013
46-1931	209	"	"	4.8	4.1	2.0	70.00	鈍い赤褐	珪質細粒凝灰岩	"	0227
46-1932	209	"	"	5.1	5.0	1.6	70.50	灰 白	両輝石安山岩	"	0018
46-1933	209	"	"	5.7	5.0	2.0	70.05	褐 橙	珪質細粒凝灰岩	"	0038



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
46-1934	209	円板状石製品	HⅢ-粗掘	5.3 <sup>cm</sup>	5.3 <sup>cm</sup>	2.0 <sup>cm</sup>	80.50 <sup>g</sup>	橙	珪質細粒凝灰岩	完形 未製品	0023
46-1935	209	"	"	5.3	4.2	1.1	29.44	鈍い赤褐 鈍い黄褐	細粒凝灰岩	残6	0023
47-1936	209	"	"	6.3	5.4	2.1	90.00	鈍い褐	珪質細粒凝灰岩	完形 10	0004
47-1937	209	"	"	6.7	6.2	2.0	130.00	明黄褐	細粒凝灰岩	"	0001
47-1938	209	"	"	6.8	6.2	2.5	190.00	灰黄 白灰	崗輝石安山岩	"	0026
47-1939	210	叩き石	"	10.0	5.6	5.1	470.00	褐黄 浅黄	珪質細粒凝灰岩	"	0193
47-1940	209	円板状石製品	"	9.3	8.4	3.3	350.20	鈍い黄橙	"	"	0002
47-1941	209	擦痕ある平石 (砥石)	"	5.1	3.7	0.9	22.55	浅黄橙	"	4残	0205
47-1942	209	擦石(擦痕ある 板状礫)	"	4.3	3.2	0.8	14.55	明黄褐	細粒凝灰岩	2残	0061
48-1943	210	平石	"	17.00	11.20	2.80	990.00	鈍い橙	珪質細粒凝灰岩	7残	0194
48-1944	210	石皿(砥石)	"	16.90	13.40	5.40	1,700.00	浅黄橙	珪質凝灰岩	3残	0220
48-1945	210	石皿	"	23.60	21.50	4.4	382.00	灰オリーブ	崗輝石安山岩	8残	0188
48-1946	210	"	"	24.50	15.90	5.70	2,762.00	オリーブ灰 灰	"	4残	0196
56-2077	—	石棒	HⅣ-粗掘	9.4	3.7	1.0	42.55	灰 灰	粘板岩	頭部細片	0089
57-2079	219	石錐	"	2.90	1.40	0.50	1.40	灰黄褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5714
57-2080	—	石錐	"	5.50	2.60	1.40	11.85	灰 白	流紋岩質 細粒凝灰岩	一部欠	5715
57-2081	219	"	"	5.20	2.7	1.4	8.95	灰 鈍	玻璃質流紋岩	8残	0163
57-2082	219	石錐	"	1.9	1.5	0.3	0.85	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	先端基部 一部欠	5856
57-2083	219	スクレーパー	"	4.0	2.5	0.8	10.67	灰 黒	珪質泥岩	ほぼ完形 10	5719
57-2084	219	"	"	4.5	3.5	1.0	21.26	黒 褐	珪質凝灰質泥岩	完形 10	5721
57-2085	219	"	"	6.2	3.7	1.5	23.55	鈍明褐 明褐	"	一部欠	5720
57-2086	219	"	"	5.2	3.9	1.6	30.05	黒鈍 黄褐	珪質泥岩	ほぼ完形	0137
57-2087	—	フ レ ーク	"	4.4	6.3	0.9	23.15	—	珪質細粒凝灰岩	完形 10	1035
57-2088	219	使用痕ある 剥片	"	3.0	2.8	0.6	3.40	橙 黒	硬質泥岩	"	1192
57-2089	219	スクレーパー	"	2.9	2.8	1.0	6.70	黄鈍 黄橙	珪質凝灰質泥岩	2残	0151
57-2090	219	"	"	6.3	3.0	1.1	18.52	褐 灰	"	完形 10	5717
57-2091	219	"	"	6.0	3.4	1.2	20.85	黒 褐	硬質泥岩	ほぼ完形	5718
57-2092	219	使用痕ある 剥片	"	3.8	3.0	0.9	8.95	鈍 褐	"	6残	1044
57-2093	219	スクレーパー	"	8.2	4.1	1.4	55.31	褐灰・灰白 灰黄	珪質泥岩	完形 10	5716
58-2094	219	円板状石製品	"	5.4	5.5	2.2	98.00	灰 白	流紋岩質 細粒凝灰岩	"	5749
58-2095	219	"	"	4.9	5.6	1.5	65.00	浅黄 黄橙	珪質凝灰岩	未製品	5752
58-2096	219	"	"	5.9	5.2	1.1	29.70	鈍黄 黄橙	細粒凝灰岩	残6	0035
58-2097	219	"	"	5.8	4.9	1.0	60.05	灰鈍 鈍	珪質細粒凝灰岩	完形 10	0021
58-2098	219	"	"	5.2	5.5	1.4	59.47	橙	珪質凝灰岩	未製品	5753
58-2099	220	"	"	6.7	6.2	2.2	120.50	灰褐・鈍橙	細粒凝灰岩	完形10 (未製品)	0014
58-2100	219	"	"	7.40	6.60	1.70	110.00	鈍褐 橙灰	崗輝石安山岩	ほぼ完形 10	0011
58-2101	220	"	"	6.40	8.00	1.90	140.00	鈍赤褐	珪質細粒凝灰岩	未製品	5751
59-2102	220	"	"	4.7	4.5	1.5	38.00	"	"	完形 10	0034
59-2103	220	"	"	4.5	4.8	0.7	21.05	暗浅赤 黄褐	細粒凝灰岩	"	0017
59-2104	220	"	"	4.8	4.5	1.9	55.75	鈍鈍 鈍	"	完形10 (未製品)	0020
59-2105	220	"	"	5.3	5.3	1.6	70.00	灰鈍 黄灰	崗輝石安山岩	"	0016

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
59-2106	220	円板状石製品	HⅣ-粗掘	4.8	5.1	1.5	49.80	褐灰・灰白 一部赤化	両輝石安山岩	完形10 (未製品)	5750
59-2107	220	凹 み 石	"	12.90	6.0	4.3	430.00	鈍黄褐	"	1 欠	0200
59-2108	220	"	"	6.9	6.0	4.3	280.00	灰黄 白褐	"	5 残	0201
59-2109	—	石 皿	"	12.90	13.20	6.6	131.00	黄 灰	"	2.5残	0218
60-2110	220	磨 製 石 斧	"	18.00	6.10	2.90	570.00	暗緑灰・オリ ープ灰・灰白	蛇 紋 岩	完 形 10	0052
60-2111	220	擦 石	"	6.4	5.8	4.7	260.00	—	輝石安山岩	"	5844
60-2112	220	磨 製 石 斧	"	2.9	1.8	1.1	5.50	暗 オリープ灰	緑色凝灰岩	刃部細片	0167
62-2122	222	石 棒	HⅤ-粗掘	25.50	2.50	2.20	200.00	灰 黄 灰	粘板岩 ホルンフェルス	先端5残	(A) 0066
62-2123	222	"	"	12.30	2.0	1.7	53.50	"	"	"	(B) 0066
62-2124	222	円板状石製品	"	4.40	4.20	2.00	34.85	浅鈍黄 橙 鈍黄 橙	細粒凝灰岩	完形10 (未製品)	0029
62-2125	221	"	"	4.7	4.8	1.7	52.20	浅黄 橙	"	"	0028
62-2126	—	"	"	5.8	5.1	1.2	40.90	"	"	"	0027
62-2127	222	擦 石	"	6.4	4.6	4.3	180.00	灰 オリープ	両輝石安山岩	"	0074
62-2128	221	石 錐	"	5.3	2.0	1.6	15.35	灰 褐	珪質凝灰質泥岩	"	0144
62-2129	221	スクレーパー	"	5.9	2.3	0.7	11.30	黄褐 橙 褐 灰白	玻璃質流紋岩	ほぼ完形	0108
62-2130	221	"	"	5.4	4.7	1.0	29.50	褐灰 橙 灰 灰白	珪質泥岩	完 形 10	0114
63-2133	222	円板状石製品	HⅥ-粗掘	4.7	4.5	1.5	29.65	浅黄 橙 鈍黄 橙	細粒凝灰岩	"	0008
63-2134	222	"	"	5.0	4.3	1.5	35.15	浅黄 橙 鈍黄 橙	"	"	0007
63-2135	222	"	"	6.5	5.2	1.9	100.00	鈍い 褐 灰	両輝石安山岩	残 6	0032
63-2136	222	叩き石 (砥石兼用)	"	8.6	6.8	5.4	430.00	明 褐	珪質細粒凝灰岩	完 形 10	0231
67-2165-2	224	石 皿	IⅢ-粗掘	23.80	14.00	6.00	1,815.00	灰	両輝石安山岩	2.5残	0189
67-2166	224	擦 石	"	9.60	8.30	1.40	190.00	淡黄 褐	細粒凝灰岩	6 残	0063
67-2167	224	円板状石製品	"	5.80	4.00	1.50	48.50	黒 橙 褐	珪質細粒凝灰岩	完 形 10	0040
67-2168	224	石 匙	"	5.9	2.2	0.8	7.65	黒	硬質泥岩	完 形 一部欠	0130
67-2169	224	スクレーパー	"	2.7	3.6	0.6	4.40	明灰 褐	玻璃質流紋岩	一部欠	0105
70-2210	226	石 錐	IⅣ-粗掘	3.0	2.2	0.7	3.80	灰 黒 白 褐白	珪質泥岩	錐部欠	0154
70-2211	226	小型 スクレーパー	"	1.20	2.3	0.8	1.00	黒灰 褐 白 褐白	"	ほぼ完形	0171
70-2212	226	石 錐	"	3.50	2.10	0.9	6.05	黒	"	完 形 10	0871
70-2213	226	スクレーパー	"	5.70	2.80	0.80	14.45	黒灰 褐 白 褐白	"	ほぼ完形	0097
70-2214	226	石 へ ら	"	8.60	4.20	2.20	70.50	黄灰・黒褐 鈍黄 褐	珪質凝灰質泥岩	完 形 10	0133
70-2215	226	スクレーパー	"	4.0	4.1	0.9	20.40	灰灰 褐 白 褐白	珪質細粒凝灰岩	5 残	0096
70-2216	226	"	"	3.8	5.3	1.2	23.00	黒灰 褐 白 褐白	硬質泥岩	ほぼ完形	0578
71-2217	226	磨 製 石 斧	"	3.8	3.2	2.1	23.20	鈍黄 橙	細粒凝灰岩	頭部残	0068
71-2218	—	"	"	5.0	3.8	0.6	11.95	褐灰 灰 白	粘板岩	—	0165
71-2219	227	フ レ ー ク	"	3.8	2.7	1.5	15.20	—	珪質泥岩	完 形 10	0884
71-2220	—	スクレーパー	"	3.1	4.6	0.8	11.90	灰 白	玻璃質流紋岩	9 残	0120
71-2221	—	"	"	3.1	4.1	0.7	6.2	鈍黄 褐	珪質凝灰質泥岩	8 残	0099
71-2222	—	"	"	3.0	3.2	0.9	10.05	—	硬質凝灰質泥岩	完 形 10	0776
71-2223	227	"	"	4.4	2.7	1.0	14.55	褐黒 灰 褐	珪質泥岩	ほぼ完形	0095
71-2224	227	"	"	3.6	4.1	1.0	15.30	黒	硬質泥岩	完 形 10	0113
71-2225	227	"	"	5.8	2.4	0.9	9.35	鈍黄 橙 鈍黄 灰褐	珪質細粒凝灰岩	ほぼ完形	0949



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
71-2226	227	フ レ ー ク	IⅣ-組掘	3.2 <sup>cm</sup>	5.3 <sup>cm</sup>	1.5 <sup>cm</sup>	17.10 <sup>g</sup>	—	珪 質 泥 岩	完 形 10	0983
71-2227	227	打 製 掘 具	"	11.50	5.6	1.5	130.00	暗オリーブ灰 水 和 層 淡	粘 板 岩	胴部6残	0086
72-2228	227	磨 製 石 斧	"	12.9	5.4	3.3	400.00	灰	—	頭刃部欠	0048
72-2229	227	"	"	12.3	4.0	2.0	170.50	緑 緑 灰 灰	凝 灰 質 千 枚 岩	下 残 3	0058
72-2230	227	打 製 掘 具	"	6.2	6.0	1.7	90.00	明オリーブ 灰 白	兩 輝 石 安 山 岩	胴部一部残	0059(2)
72-2231	227	磨 製 石 斧	"	12.3	4.4	2.6	220.00	浅黄・オリーブ灰 箱オリーブ灰	凝 灰 岩	完 形 10	0045
72-2232	229	擦 石	"	7.1	5.1	4.9	260.00	灰 黄 褐 鈍 黄 橙	細 粒 凝 灰 岩	"	0071
72-2233	227	磨 製 石 斧	"	11.30	4.10	1.20	100.00	オリーブ灰 白	凝 灰 質 千 枚 岩	下 残 3	0059(1)
73-2234	228	擦 石(凹み石)	"	11.9	6.0	3.0	370.00	灰 鈍 黄 橙	兩 輝 石 安 山 岩	完 形 10	0230
73-2235	227	砥 石	"	8.1	5.5	1.9	110.50	明オリーブ灰	淡 緑 色 凝 灰 岩	6 残	0062
73-2236	228	擦痕ある平石	"	11.5	6.7	2.5	330.00	鈍 黄 橙 褐 暗 黄 橙 褐	珪 質 凝 灰 岩	一部残	0198
73-2237	228	叩 石	"	8.7	4.8	2.2	130.00	鈍 黄 褐 橙 鈍 黄 橙	細 粒 凝 灰 岩	完 形 10	0060
73-2238	228	三角柱状擦石	"	12.50	5.5	4.9	470.00	鈍 黄 橙 鈍 黄 橙	兩 輝 石 安 山 岩	6 残	0229
73-2239	228	叩 き 石	"	8.7	6.8	5.8	440.00	浅 黄 橙 褐 鈍 赤 褐 鈍 黄 橙	珪 質 細 粒 凝 灰 岩	完 形 10	0085
74-2240	228	擦 石	"	9.8	8.6	6.4	790.00	明 緑 灰 明オリーブ灰	兩 輝 石 安 山 岩	"	0224
74-2241	228	円板状石製品	"	7.6	7.5	2.5	32.70	褐 鈍 黄 橙	"	"	0037
74-2242	229	"	"	4.5	4.4	1.0	32.70	鈍 い 黄 橙	細 粒 凝 灰 岩	"	0042
74-2243	229	"	"	4.3	4.0	1.0	27.85	鈍 い 橙	"	"	0024
74-2244	229	"	"	5.5	5.4	1.1	43.55	橙	"	"	0005
74-2245	229	"	"	5.7	5.7	1.9	65.00	鈍 い 黄 橙	"	"	0041
74-2246	229	"	"	6.6	5.4	1.1	38.80	明 浅 黄 褐 鈍 黄 橙	"	裏 欠 5	0012
74-2247	229	"	"	5.7	5.3	1.2	48.30	鈍 い 褐	珪 質 細 粒 凝 灰 岩	欠 2	0031
74-2248	228	"	"	5.7	5.8	1.9	80.00	黄 褐	"	完 形 10	0043
75-2249	—	コ ア	"	12.20	12.90	4.4	970.00	—	"	"	0172
75-2250	229	有 孔 自 然 礫	"	10.7	6.7	5.3	350.00	暗 赤 褐	"	"	0228
75-2251	229	球 状 石 製 品	"	8.2	8.2	7.6	720.00	灰 白	細 粒 凝 灰 岩	"	1089
77-2285	231	スクレーパー	IⅤ-組掘	4.0	1.9	0.7	3.95	灰 灰 白	珪 質 泥 岩	5 残	0169
77-2286	231	石 匙	"	7.3	1.8	0.9	13.14	褐 水 和 層 灰 褐 鈍 黄 橙	"	ほぼ完形	0136
77-2287	232	石 ヘ ラ	"	9.4	3.6	1.3	47.40	灰 褐	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	完 形 10	0139
78-2288	232	磨 製 石 斧 (叩き石転用)	"	11.20	5.3	2.9	295.00	黒 明 緑 褐 明 緑 灰	安 山 岩	頭刃部欠	0053
78-2289	232	掘 具	"	19.8	9.0	2.5	440.00	鈍 い 黄 橙	珪 質 凝 灰 岩	一部欠	0217
78-2290	231	叩き石 (砥石兼用)	"	8.4	7.8	6.3	550.00	鈍 灰 褐 鈍 灰 褐	珪 質 細 粒 凝 灰 岩	完 形 10	0232
80-2300	232	石 錐	JⅣ-組掘	3.3	3.3	1.0	9.65	黒 褐 鈍 灰	珪 質 泥 岩	錐部欠	0612
80-2302	232	円板状石製品	"	5.8	5.4	2.1	50.85	橙	兩 輝 石 安 山 岩	完 形 10	0033
84-2357	236	石 鏃	JⅤ-組掘	2.4	1.7	0.7	1.70	暗 赤	鉄 石 英	ほぼ完形	0147
84-2358	236	"	"	2.9	2.2	0.5	2.45	—	硬 質 泥 岩	完(?) 未製品	0604
84-2359	236	石 匙	"	5.0	2.7	1.0	10.50	灰 褐	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	完 形 10	0129
84-2360	236	石 鏃	"	1.8	1.4	0.3	0.65	黒 褐	珪 質 泥 岩	尾部欠	0625
84-2361	236	スクレーパー	"	5.7	2.5	0.9	14.30	灰 暗 灰 白 灰 黄	玻 璃 質 流 紋 岩	完 形 10	0112(2)
84-2362	236	石 錐	"	3.6	2.0	0.7	4.35	鈍 黄 褐	硬 質 泥 質 凝 灰 岩	"	0780
84-2363	236	使用痕ある 銅片	"	5.1	4.3	0.7	11.30	黒 褐	硬 質 泥 岩	"	0785

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
84-2364	236	スクレーパー	J V-粗掘	9.4 <sup>cm</sup>	3.1 <sup>cm</sup>	1.7 <sup>cm</sup>	50.75 <sup>g</sup>	黒 橙 灰 白	粘 板 岩	完 形 10	0112(1)
84-2365	236	"	"	4.8	5.6	1.4	29.30	鈍 黄 褐	珪質凝灰質泥岩	"	0103
84-2366	—	小型磨製石斧	"	2.4	1.3	0.5	2.30	石キ、不明	頭 刃 部 欠	"	0857
84-2367	236	浮石製石器	"	6.9	2.6	1.5	6.85	明 黄 褐	軽 石	"	0091
84-2368	237	叩 き 石	"	5.1	5.1	3.1	160.00	灰 白	粘 板 岩	"	0090
84-2369	237	円板状石製品	"	4.1	4.0	0.8	15.80	鈍 い 橙	細 粒 凝 灰 岩	"	0010
85-2370	236	凹 み 石 (叩き・擦石兼用)	"	14.4	5.5	3.6	400.00	オリープ灰	流 紋 岩	"	0203
85-2371	236	凹 み 石	"	12.6	6.7	4.6	500.00	淡 黄 灰 黄 褐	崗 礫 石 安 山 岩	一 部 欠	0225
85-2372	236	円板状石製品	"	6.8	5.4	2.6	130.00	黄 明 黄 褐 褐	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	完 形 10	0019
85-2373	236	"	"	5.0	4.6	1.3	38.20	浅 黄 橙	細 粒 凝 灰 岩	"	0009
86-2374	237	凹 み 石	"	14.6	8.0	2.6	420.00	浅 黄 灰 褐	崗 礫 石 安 山 岩	一 部 欠	0223
86-2375	237	砥 石	"	12.6	7.1	6.9	480.00	灰 白・黒 褐 灰	"	6 残	0221
87-2376	237	擦 石	"	11.0	9.6	8.4	1,260.00	浅 黄 灰 黄 橙	石 英 閃 緑 岩	完 形 10	0215
87-2377	237	平 石	"	16.0	15.0	4.2	1,460.00	明 暗 緑 灰 灰	崗 礫 石 安 山 岩	"	0202
92-2456	242	石 錐	J VI-粗掘	2.8	2.0	0.8	5.3	黄 褐	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	先 端 部 3 欠	0141
92-2457	242	スクレーパー	"	3.5	2.8	1.0	10.40	灰 黄 褐 灰 白	珪 質 泥 岩	6 残	0109
92-2458	242	石 匙	"	3.1	2.6	0.8	5.35	灰 黄 白 灰 褐	玻 璃 質 流 紋 岩	頭 部 5 残	0156
92-2459	242	スクレーパー	"	2.8	1.9	0.6	4.50	黒 灰 褐 灰 白	珪 質 泥 岩	3 残	0152
92-2460	242	"	"	3.5	2.3	1.0	7.35	灰 黄 褐	"	3 残	0150
92-2461	—	フ レ ー ク	"	3.4	2.4	0.8	6.25		珪 質 凝 灰 質 泥 岩	完 形 10	0501
92-2462	242	スクレーパー	"	5.1	4.4	0.6	16.25	灰 黄 褐 灰 灰	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	5 残	1129
92-2463	242	"	"	4.3	5.3	1.3	24.25	明 褐・鈍 黄 灰 黄 褐	硬 質 泥 質 凝 灰 岩	完 形 10	0841
92-2464	241	フ レ ー ク	"	3.8	2.8	1.4	16.15		硬 質 泥 岩	"	0657
92-2465	242	スクレーパー	"	4.6	4.4	1.4	37.85	明 灰 黄 褐 灰 褐	硬 質 泥 質 凝 灰 岩	一 部 欠	0660
93-2466	241	磨 製 石 斧 (叩き石転用)	"	3.5	3.7	2.1	29.40	明 黒 緑 灰	粘 板 岩	頭 部 残	0056
93-2467	242	磨 製 石 斧	"	3.8	3.6	0.7	14.15	明 緑 灰 緑 灰	凝 灰 岩	胴 部 細 片	0067
93-2468	242	擦痕ある石片	"	4.4	4.0	0.5	10.70	灰 緑 白 灰 灰	珪 質 淡 緑 色 凝 灰 岩	"	1119
93-2469	242	円板状石製品	"	4.7	4.4	1.1	30.85	オ レ ン ジ 黄 オ レ ン ジ	細 粒 凝 灰 岩	完 形 10	0015
93-2470	242	"	"	4.2	4.1	0.9	27.25	赤 褐	珪 質 凝 灰 質 泥 岩	"	0030
93-2471	242	擦 石	"	7.0	6.7	3.7	350.00	暗 灰 灰	安 山 岩	"	0645
93-2472	242	"	"	9.0	5.7	4.4	320.00	オ レ ン ジ・黒 黄 灰 オ レ ン ジ	細 粒 凝 灰 岩	"	0070
93-2473	242	小 球 礫	"	3.3	2.8	2.6	34.60	浅 暗 灰 黄	"	"	0077
93-2474	—	擦 石	"	4.4	3.6	3.1	70.00	浅 灰 黄	崗 礫 石 安 山 岩	"	0079
93-2475	243	"	"	5.4	5.2	4.7	140.00	灰 暗 オリープ灰	"	"	0078
93-2476	242	砥 石	"	7.8	4.3	3.6	140.00	灰 黒・灰 明 白 褐	"	一 部 残	0088
94-2477	243	凹 み 石	"	17.1	5.6	3.9	385.00	暗 褐・灰 明 黄 白	"	完 形 10 2 体 接 合	0083
94-2478	243	"	"	12.7	10.7	6.6	1,280.00	褐 灰・灰 オリープ灰	"	完 形 10	0214
94-2479	243	石 皿	"	34.0	22.1	6.1	6,690.00	浅 黒 黄	"	9 残	0187
95-2498	244	石 匙	K V-粗掘	5.7	2.3	0.8	9.70	黒 褐	珪 質 泥 岩	一 部 欠	0126
99-2570	248	石 錐	K VI-粗掘	4.5	1.3	1.0	5.45	褐 灰	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	完 形 10	0148
99-2571	248	石 錐	"	8.3	3.1	2.5	60.00	鈍 黄 褐	硬 砂 岩	ほぼ完形	0145



図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号	
99-2572	248	スクレーパー	K VI-粗掘	3.1	5.2	1.2	20.55	黒 灰	赤 褐	鉄 石 英	ほぼ完形	0094
99-2573	248	"	"	4.6	3.7	1.0	18.20	灰	褐	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	0571
99-2574	248	フ レ ー ク	"	3.6	3.2	0.9	8.40			硬 質 泥 岩	"	0629
99-2575	248	スクレーパー	"	3.3	4.9	0.6	11.00	オリープ灰		細 粒 凝 灰 岩	5 残	0117
99-2576	—	フ レ ー ク	"	3.1	7.6	1.2	23.70			硬質凝灰質泥岩	完 形 10	1180
100-2577	248	叩き痕のある 碟	"	12.1	8.0	6.2	830.00	明 鈍 青 黄	灰 褐	崗 礫 石 安 山 岩	"	0199
100-2578	248	円板状石製品	"	7.3	6.5	2.4	130.50	浅黄褐 鈍	オレンジ 灰	"	"	0006
102-2589	249	石 へ ラ	L IV-粗掘	6.5	3.7	1.3	35.10	暗淡 灰	黄 黄	珪 質 泥 岩	"	0132
102-2590	249	スクレーパー	"	3.8	5.4	0.9	12.30	褐	灰	"	"	0107
102-2591	249	擦 石	"	6.9	4.0	4.3	160.00	明 黄 鈍	褐	珪質細粒凝灰岩	"	0076
102-2592	249	"	"	5.3	4.4	3.8	220.00	青 灰	黒 白	磁 鉄 鉱	"	0081
102-2593	249	磨 製 石 斧	"	9.7	4.7	2.3	140.00	灰	黒 白	安 山 岩	"	0046
101-2594	249	スクレーパー	L V-粗掘	4.7	5.5	1.1	17.50	灰	黒 白	硬 質 泥 岩	"	0923
103-2596	249	石 刀 (柄頭)	M IV-粗掘	5.6	3.6	2.3	57.45	灰 浅 鈍	黄 褐 黄 褐	硬 砂 岩	頭部残	0164
104-2601	249	石 匙	M V-粗掘	5.4	4.7	1.6	28.60	黄 鈍 鈍	灰 褐 灰 黄	珪 質 泥 岩	ほぼ完形	0128
106-2603	250	薬 研 状 石 皿	G III-表採	28.9	17.2	3.8	2,620.00	淡 鈍	黄 黄	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	0216
107-2604	250	石 鉄	J IV~J V -表採	3.4	2.4	1.1	7.45	黒	褐	珪 質 泥 岩	"	0672
107-2605	250	スクレーパー	"	6.6	6.5	1.3	49.45		褐	硬質泥質凝灰岩	"	0673
107-2606	250	円板状石製品	"	6.4	6.0	1.4	60.00	鈍	い 褐	細 粒 凝 灰 岩	"	0022
109-2646	252	石 鉄	出土地不明	2.4	1.6	0.4	1.00	灰	白	玉 子 貝	基 部 一 部 欠	0143
109-2647	252	石 匙	"	6.4	2.0	0.8	120.00	黄	灰	珪質凝灰質泥岩	ほぼ完形	0125
109-2648	252	"	"	4.0	6.5	1.0	22.75	黄 鈍	褐 黄	"	完 形 10	0124
110-2649	252	石 へ ラ	"	5.3	4.8	1.9	42.60	褐	灰	"	下 部 残	0131
110-2650	252	スクレーパー	"	3.4	3.3	0.4	5.65		黒 橙	硬 質 泥 岩	完 形 10	5855
110-2651	252	"	"	4.4	3.9	1.4	23.40	明 浅	黄 褐 黄	玻 璃 質 流 紋 岩	"	0100
110-2652	252	"	"	2.7	4.2	0.8	7.60	褐	灰	珪 質 泥 岩	1 残	0101
110-2653	253	"	"	4.7	4.2	1.0	21.00	灰	黄 褐	硬 質 泥 岩	5 残	0102
110-2654	252	"	"	5.7	4.0	1.0	22.40	黒	褐	"	完 形 10	5006
110-2655	252	"	"	5.5	5.5	0.9	15.45	褐	灰	"	"	5005
110-2656	252	磨 製 石 斧	"	5.0	3.7	2.4	54.00	明 灰	オリープ 灰 白	凝 灰 岩	頭部残	0054
110-2657	—	小型磨製石斧	"	2.7	1.4	0.8	4.20	灰 暗	白 灰	玻 璃 質 流 紋 岩	上 部 残	0170
110-2658	—	有溝扁平礫	"	3.7	3.1	0.7	4.52	灰	白	流 紋 岩 質 細 粒 凝 灰 岩	完 形	5004
110-2659	252	掘 具	"	9.3	6.1	1.0	70.00	暗 紫	紫 灰	粘 板 岩	一 部 欠	0092
111-2660	253	磨 製 石 斧	"	6.9	4.6	2.8	120.00	明 鈍 鈍	緑 灰 黄 褐	輝 石 珪 岩	頭 部	5002
111-2661	252	円板状石製品	"	2.6	6.4	2.1	41.15	灰	褐	崗 礫 石 安 山 岩	1/2 残	5007
111-2662	253	磨 製 石 斧	"	2.0	2.3	1.1	7.30	緑 暗	緑 灰	硬 質 泥 岩	刃 の 一 部 の み	5001
111-2663	253	"	"	5.5	5.0	1.8	80.00	オリープ 灰	黒 白	硬 砂 岩	刃 部	5003
111-2664	253	円板状石製品	"	5.6	6.2	1.4	58.60	鈍 赤 鈍	褐 黄 黄 褐	珪 質 凝 灰 岩	完 形 10	5790
111-2665	253	"	"	4.4	5.4	1.2	38.97	鈍	赤 褐	"	側 面 一 部 欠	5008
111-2666	253	"	"	4.4	4.9	1.1	41.45			"	完 形 10	5010
111-2667	253	"	"	4.7	4.8	1.3	35.20			"	"	5009

図版番号	写真番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材 質	保存状況 残存割合	整理番号
111-2668	253	擦 石	出土地不明	7.6 <sup>cm</sup>	6.3 <sup>cm</sup>	5.5 <sup>cm</sup>	340.00 <sup>g</sup>	褐 灰	高輝石安山岩	完 形 10	5847
112-2669	253	"	"	13.0	10.5	9.0	1,700.00	"	"	"	5848
112-2670	253	石 皿	"	25.2	18.1	9.4	4,640.00	青 橙 灰	"	1 欠	5846

第4表 須恵器・陶器

図版番号	器 種	出土遺構	層位	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況 残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理番号
56-2078	須 恵 器 (壺か瓶)	G 9 グリット	層	4.1 <sup>cm</sup>	4.2 <sup>cm</sup>	0.9 <sup>cm</sup>	17.70 <sup>g</sup>	黒褐 灰白	細 片	ロクロ使用による横撫で痕 内外にあり。外面。灰釉な いし、灰かぶり痕あり。	古代～ 中近世	T 001
70-2209	陶 器 (スリ鉢)	I IV一括	I b	4.0	2.3	0.7	8.10	灰褐	"	外面無文。横方向ケズ痕あ り。釉ありか？ 内面に細か な縦方向の条線多数。	近～現代	T 002
95-2497	陶 器 (掃鉢)	K V一括	I a	1.7	2.1	0.2	0.70	"	"	外面無文横方向横り痕あり。 釉ありか？ 内面細かな縦 方向条線多数。002より厚手。		拓本 1194より T 003

第5表 金属製品

図版番号	器 種	出土遺構	層位	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	材質	保存状況 残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理 番号
1075	鉄 製 品	K V - 21 pit	層 埋 土	4.1 <sup>cm</sup>	5.1 <sup>cm</sup>	1.6 <sup>cm</sup>	46.25 <sup>g</sup>	錆化で ヒビ割れ 黄 褐	鉄	細片 錆化亀裂 著るしい	板状、片割寄りに 面直交する直線状 突起帯あり。全体 形状不明。	現代？	I 001
1334	A 炭窯の 天井釣金具	F IV-082 炭 窯 跡	針 金 天井板 崩落土	17.4	8.5	0.3	24.00	黒 褐	鉄	約± 錆化著 るしい	四角形の板状鉄板 及び針金よりなる 針金の屈曲。	現代 1930年代	5843 A
1335	D "	"	" "							±以下 錆化著 るしい	鉤状に曲がって いる。	"	" D
1336	B "	"	"							"	V字形に曲がっ ている。	"	" B
1337	E "	"	"							"	蛇行し、ねじれた りV字形に曲がっ ている。写真では 2つに離れている。	"	" E
1338	C "	"	"							"	V字形に曲がっ ている。	"	" C

第6表 窯 道 具

図版番号	器 種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況・残存割合	整 理 番 号
1332	煙 突 込 石	F IV-082炭窯跡	17.4 <sup>cm</sup>	8.9 <sup>cm</sup>	4.8 <sup>cm</sup>	1,080.00 <sup>g</sup>	黒 鈍い橙	完 形	5840
1333	窯 口 部 品	"	17.2	10.8	9.9	1,840.00	鈍い橙 鈍い褐	"	5841

第7表 自然遺物

図版番号	器種	出土遺構	最大長	最大巾	最大厚	重 量	色 調	保存状況・残存割合	備 考	推定所属 時 期	整理番号
222-2121	骨片	H V -粗掘	3.4 <sup>cm</sup>	3.8 <sup>cm</sup>	0.4 <sup>cm</sup>	3.24 <sup>g</sup>	浅黄橙 鈍 橙	破 片	中～大型哺乳動物の肩甲骨の 一部と思われる。	現代？	1256



付 編

### 3. 炭化材の樹種鑑定

遺構の内外から出土した炭化材の肉眼鑑定を行なった。結果は下記のとおりである。

昭和57年11月24日

岩手県木炭協会指導員 早坂 松次郎

試料整理番号	出土遺構	層位	樹種
S-26 a	F III-019住居跡	埋土	クリ Castanea Mill
26 b	"	"	"
23	G III-016住居跡 P 1	"	"
22	" P 7	"	不明
16	" P 23	"	クリ Castanea Mill
15	" P 31	"	"
25 a	G IV-011住居跡	床面	スギ?
24	G IV-017住居跡	埋土	クリ Castanea Mill
14	G IV-ピット	"	"
18	"	"	"
29 a	J V-011住居跡	床面	"
20	L III-ピット	埋土	"



# 写 真 图 版



写真図版 I 遺跡付近景観

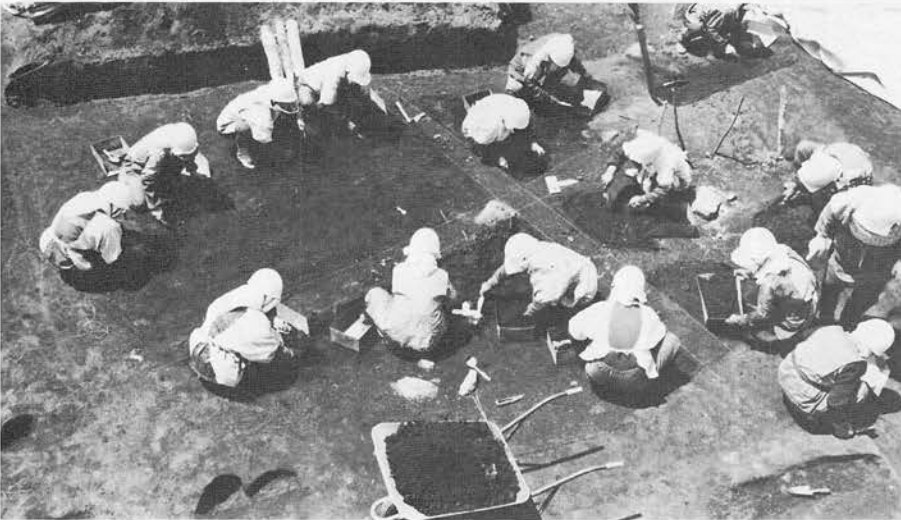




F IV—081 炭焼場跡



G III—016 住居跡



F III—019A～D 住居跡

写真図版 2 調査風景



F III-0112~0116  
住居跡付近



F IV-011  
住居跡



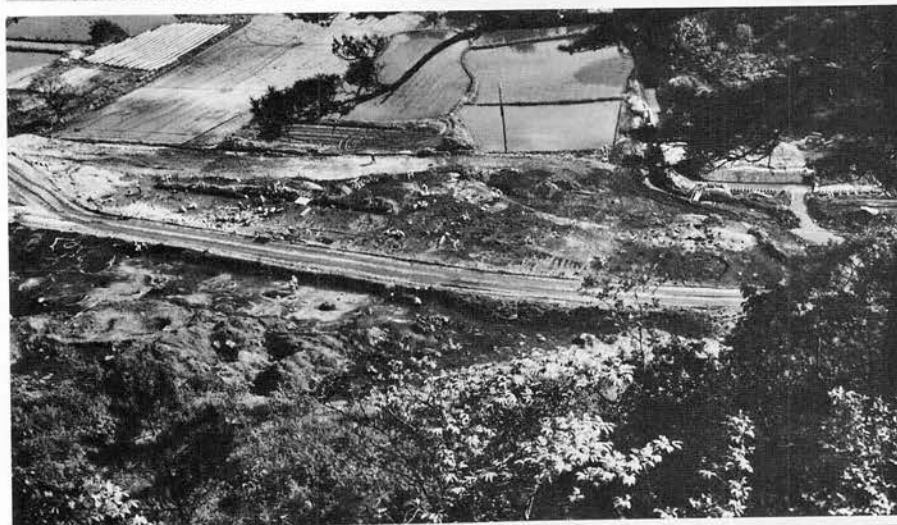
E III・F III区付近

写真図版3 調査風景





G III区から55年度  
調査区域を望む



56年度調査区域  
遠望（北から）



調査終了時の状況、  
工事進行状況と器  
材搬出（北から）

写真図版4 調査風景

J V・VI、K V・VI区  
(北西から)



J V・VI、K V・VI区  
(西南西から)



J V・VI、K V・VI区  
(西から)

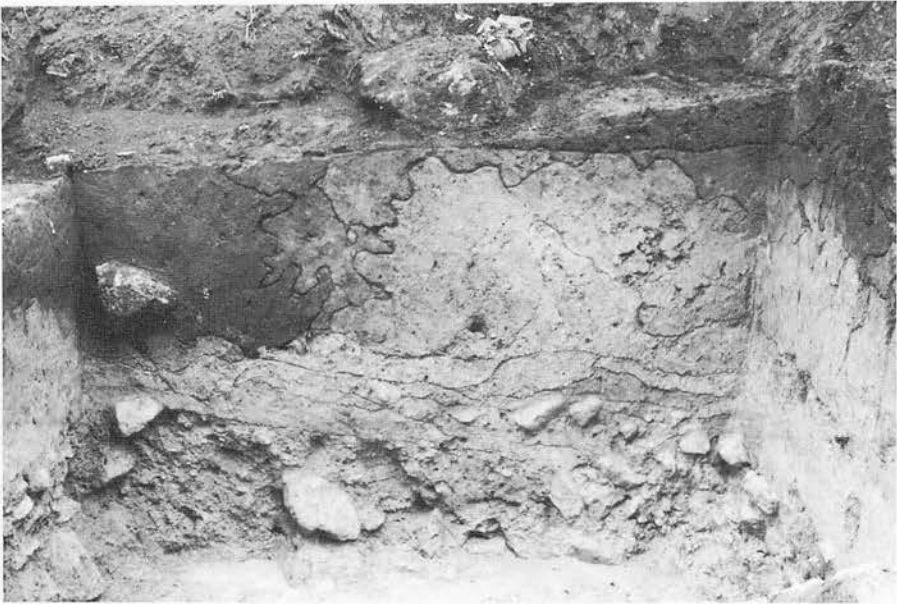


写真図版 5 遺構群全景



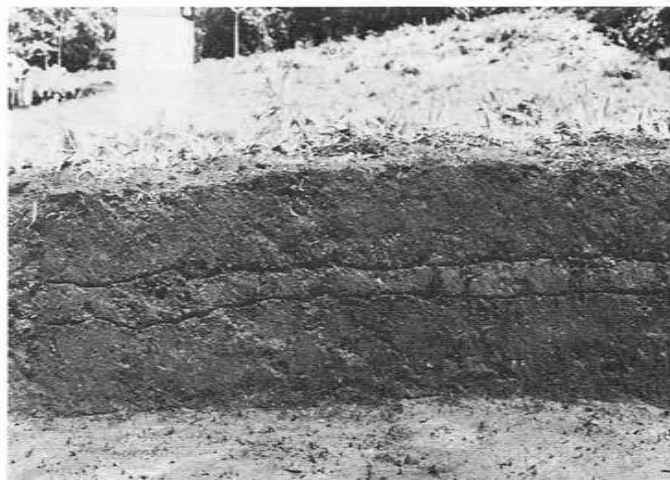


F IV区（西側）土層観察用トレンチ

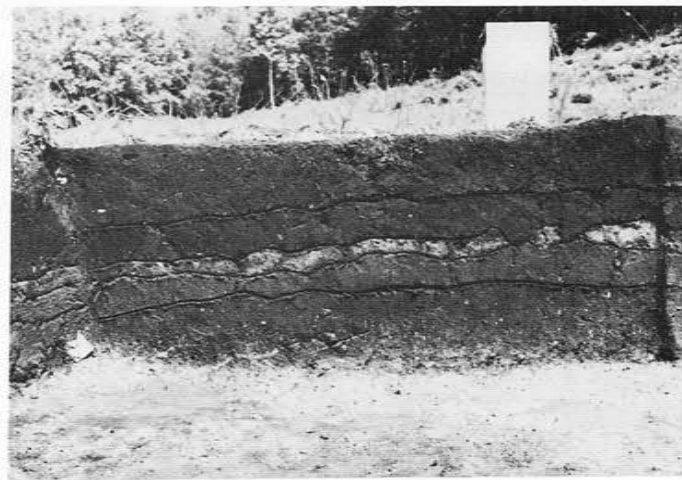


F IV区（東側）土層観察用トレンチ

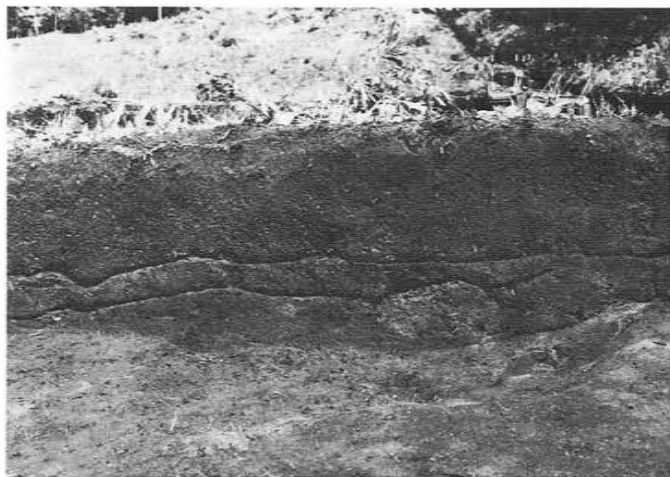
写真図版 6 F IV区土層断面



J V - A 6・7 グリッド (東から)



J V - A 4 グリッド (東から)



J V - A 4 グリッド (東から)

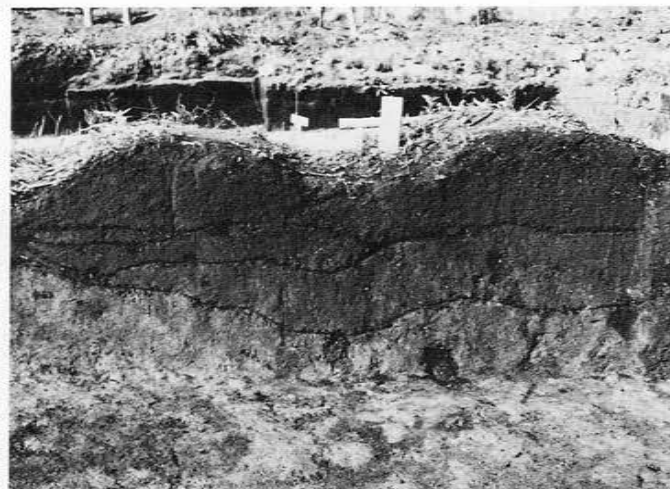


J V - B 5 グリッド (東から)

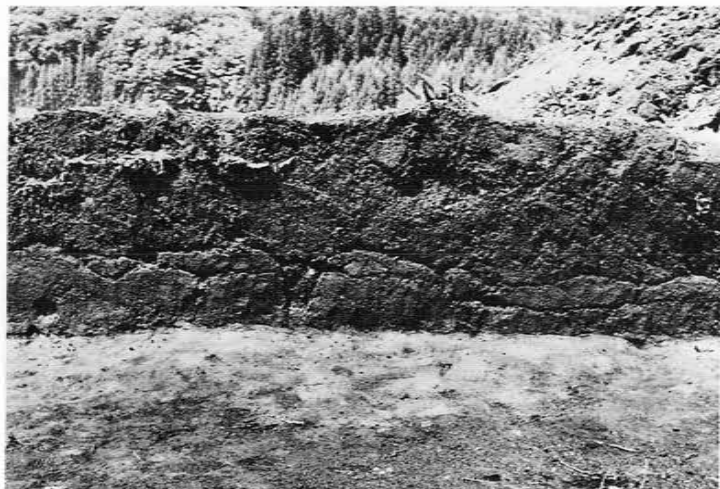




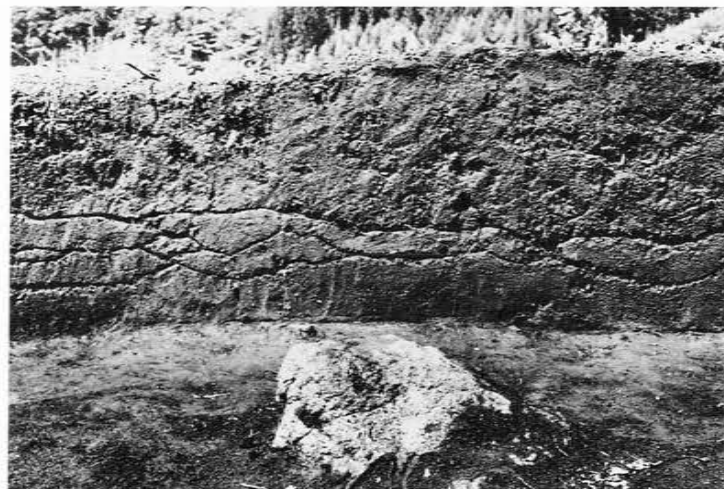
JV-B5グリッド (東から)



JV-D9-E9グリッド (南西から)



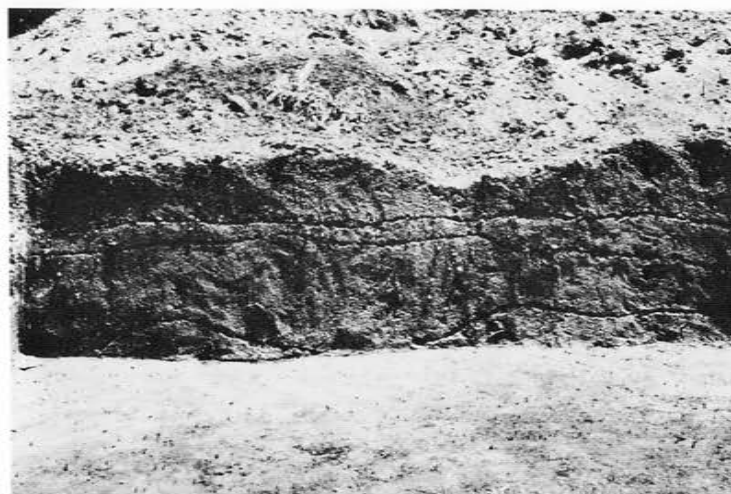
JV-G5グリッド (北から)



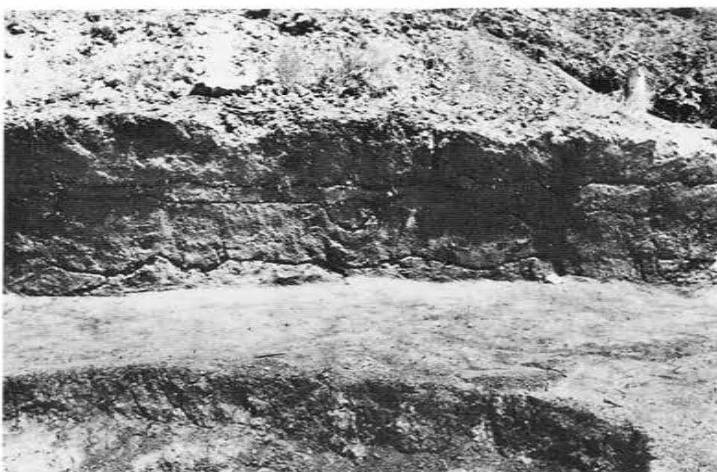
JV-I5グリッド (北から)



JVI-A1グリッド (東から)



JVI-A1グリッド (東から)



JVI-B2グリッド (南から)

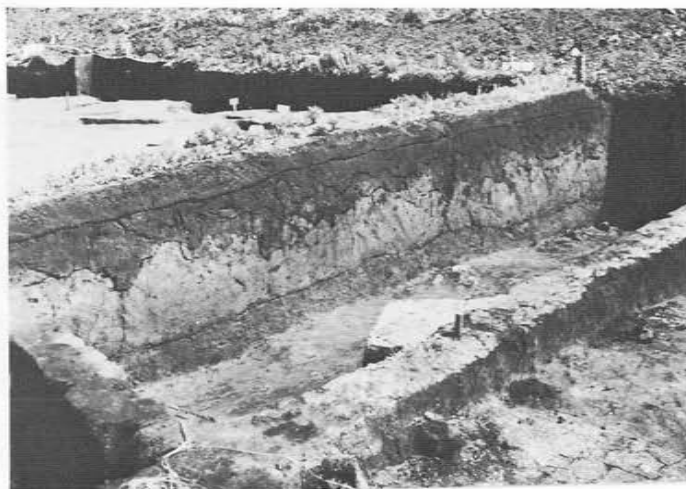


JVI-J4グリッド (東から)

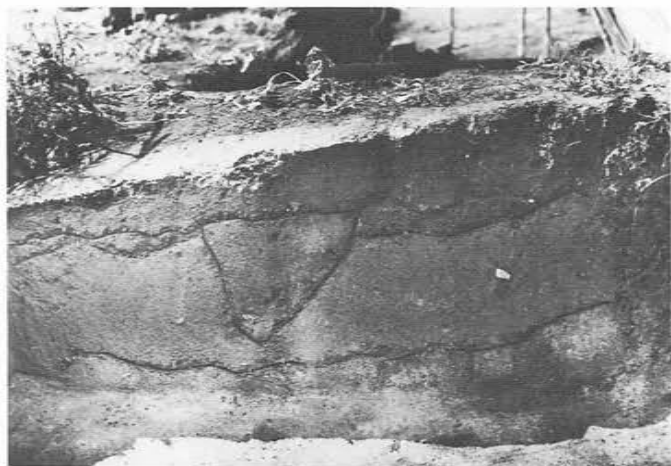




JVI-J4グリッド (南から)



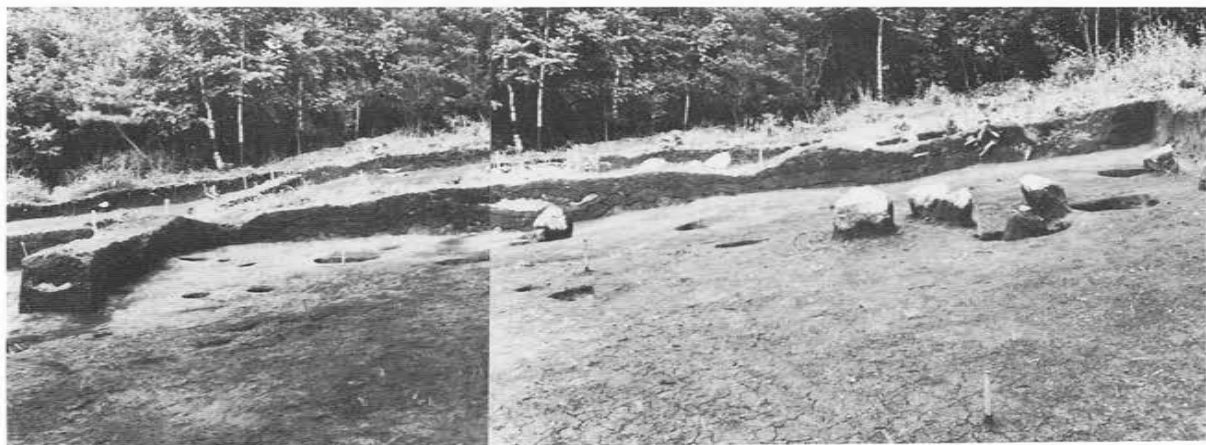
JVI-F0~6グリッド 深掘り (南から)



KVI-A0グリッド (南から)



KVI-A4グリッド (南から)



MV-Fグリッド (東北東から)



H区グリッド (南南西から)



I VI-F0~J0グリッド (東から)





E III・F III区  
完掘状況(1)



E III・F III区  
完掘状況(2)



G III・IV区  
完掘状況(1)

写真図版12 E III・F III・G III・G IV区完掘状況

G III・IV区  
完掘状況(2)



G III・IV区  
完掘状況(3)



G III・IV区  
完掘状況(4)

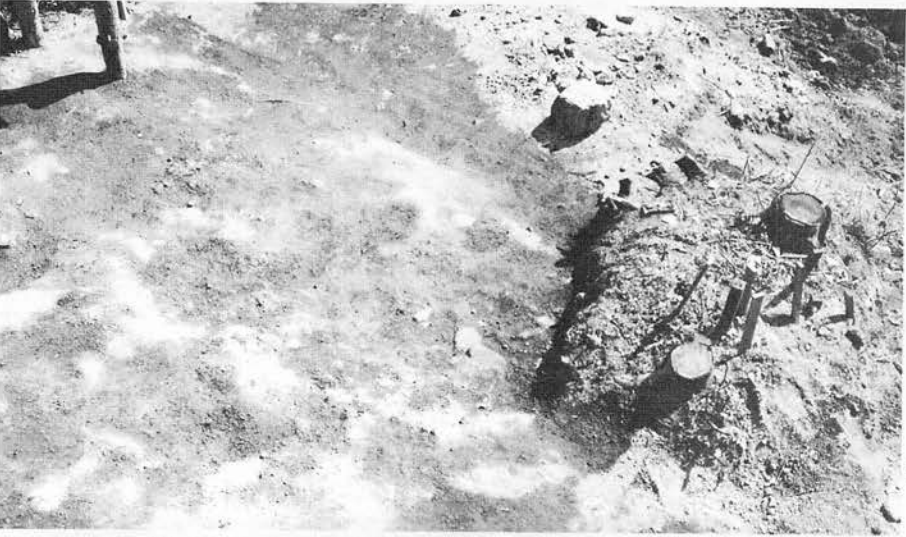


写真図版13 G III・IV区完掘状況





F II・III区  
完掘状況



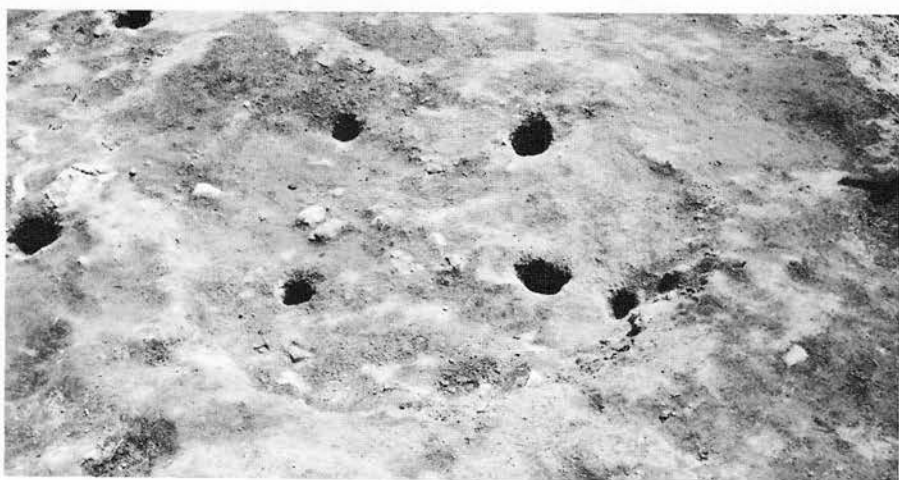
E II-011  
住居跡完掘状況



E II-014  
住居跡完掘状況



E II-013  
住居跡完掘状況



E II-012  
住居跡完掘状況



E II-015  
住居跡完掘状況

写真図版15 E II-012・013・015住居跡





E III-011住居跡  
遺物出土状況(1)



E III-011住居跡  
遺物出土状況(2)



E III-011住居跡  
遺物出土状況(3)

写真図版16 E III-011住居跡遺物出土状況

E III-011住居跡  
遺物出土状況(4)



E III-011住居跡  
完掘状況







E III-011住居跡  
土器出土状況(1)



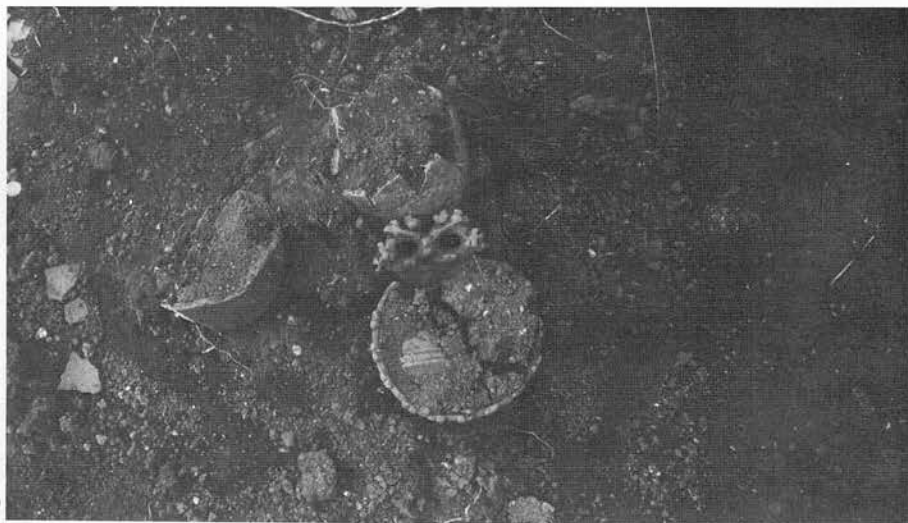
E III-011住居跡  
土器出土状況(2)



E III-011住居跡  
土器出土状況(3)

写真図版18 E III-011住居跡遺物出土状況(1)

E III-011住居跡  
土器出土状況(4)



E III-011住居跡  
土器出土状況(5)



E III-011住居跡  
土器出土状況(6)



写真図版19 E III-011住居跡遺物出土状況(2)





F III-011住居跡  
完掘状況



F III-012住居跡  
完掘状況

写真図版20 F III-011・012住居跡



F III-015住居跡  
完掘状況



F III-016住居跡  
完掘状況



F III-0112住居跡  
完掘状況

写真図版21 F III-015・016・0112住居跡





F III-014住居跡  
完掘状況(1)



F III-014住居跡  
完掘状況(2)



F III-014住居跡  
炉跡

写真図版22 F III-014住居跡



F III-018 A 住居跡



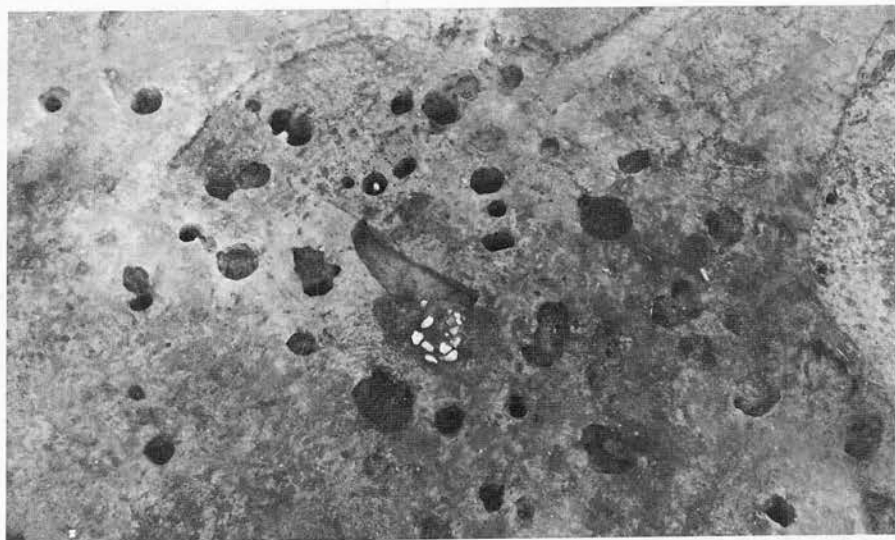
F III-018 A 住居跡  
炉跡



F III-018 A 住居跡  
炉跡断面

写真図版23 F III-018 A 住居跡





F III-018 B 住居跡  
完掘状況



F III-018 B 住居跡  
炉跡



F III-018 B 住居跡  
炉跡断面

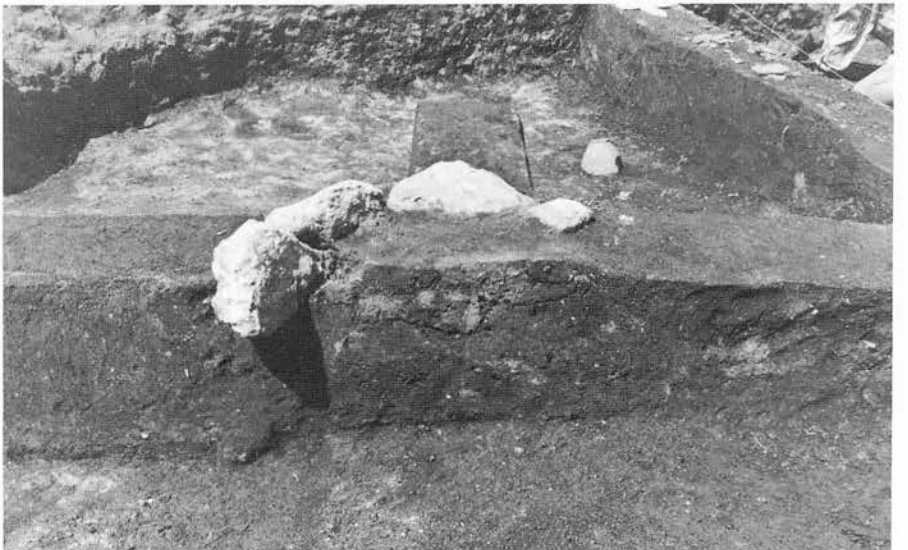
写真図版24 F III-018 B 住居跡



F III-019A ~ D 住居跡  
炉跡



F III-019A ~ D 住居跡  
埋土上層部より検出した  
炉跡



F III-019A ~ D 住居跡  
埋土上層部より検出した  
断面

写真図版25 F III-019住居跡

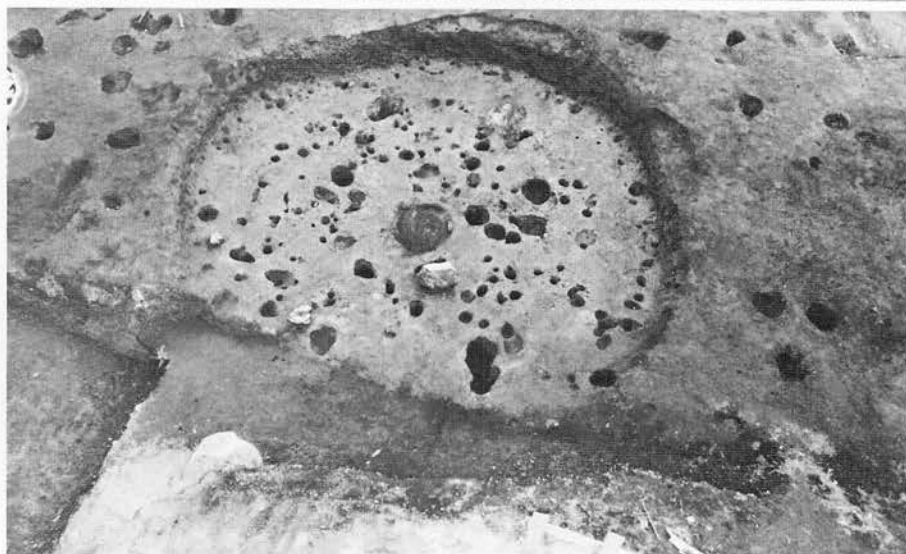




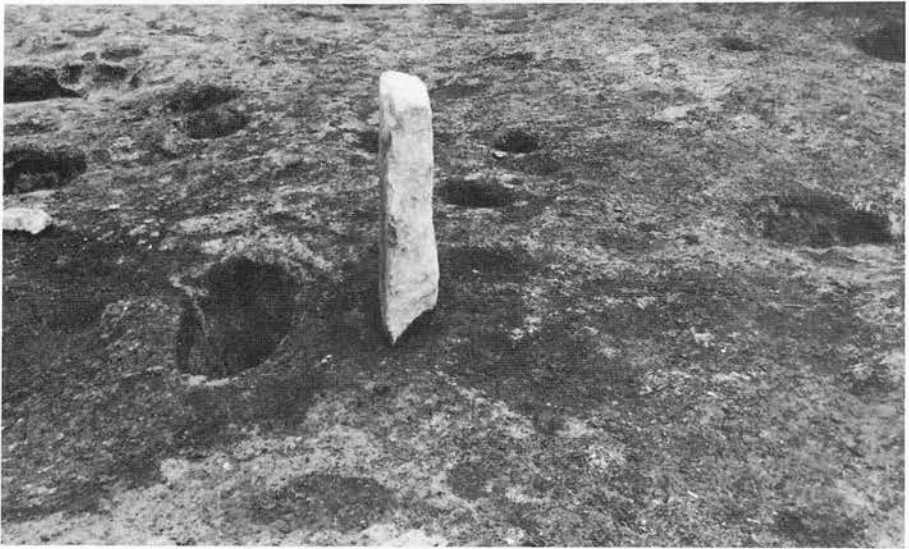
F III-019A ~ D 住居跡  
上層部検出状況



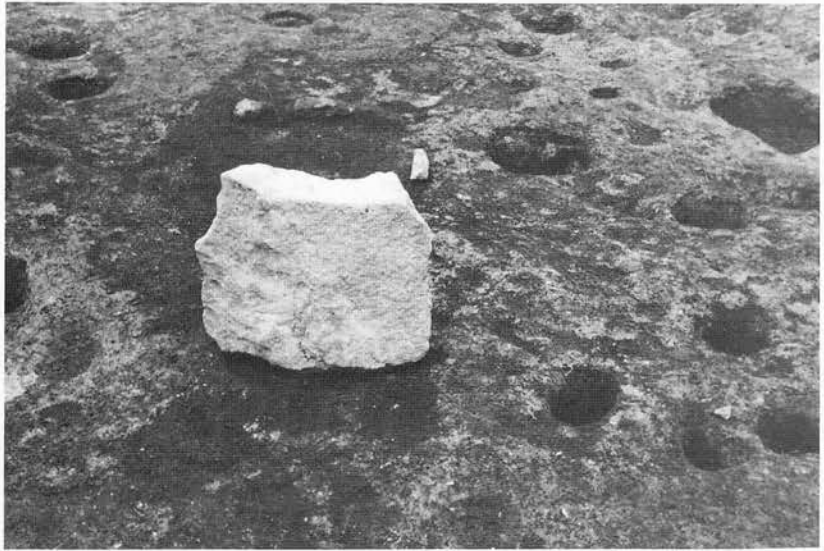
F III-019D 住居跡



F III-019D 住居跡  
完掘状況



F III-019A ~ D 住居跡  
床面の立石(1)



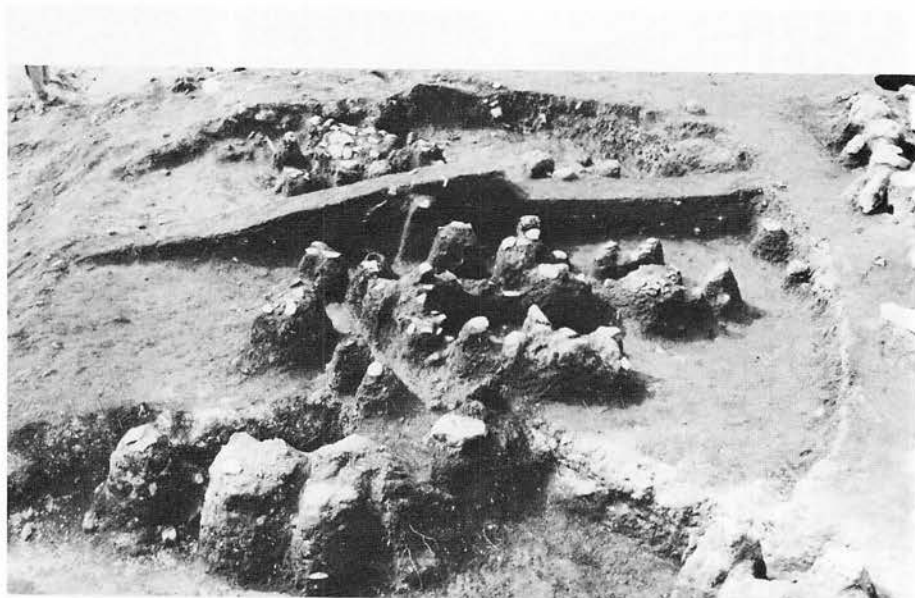
F III-019A ~ D 住居跡  
床面の立石(2)



F III-019A ~ D 住居跡  
炉跡断面

写真図版27 F III-019D 住居跡

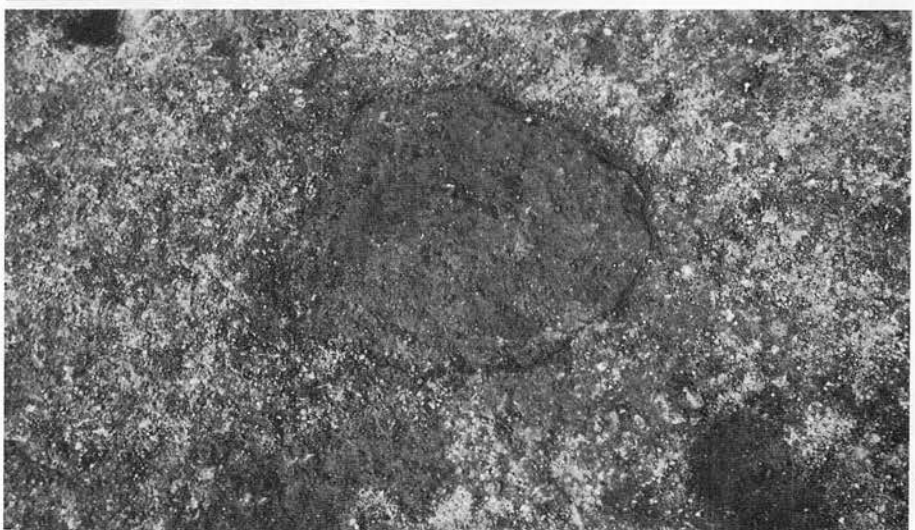




F III-0113住居跡  
土層断面



F III-0113住居跡  
完掘状況



F III-0113住居跡  
炉跡



F III-0113~0116  
住居跡完掘状況



F III-0113~0116  
住居跡遺物出土状況



F III-014・0113~0117  
住居跡完掘状況

写真図版29 F III-014・0113~0117住居跡

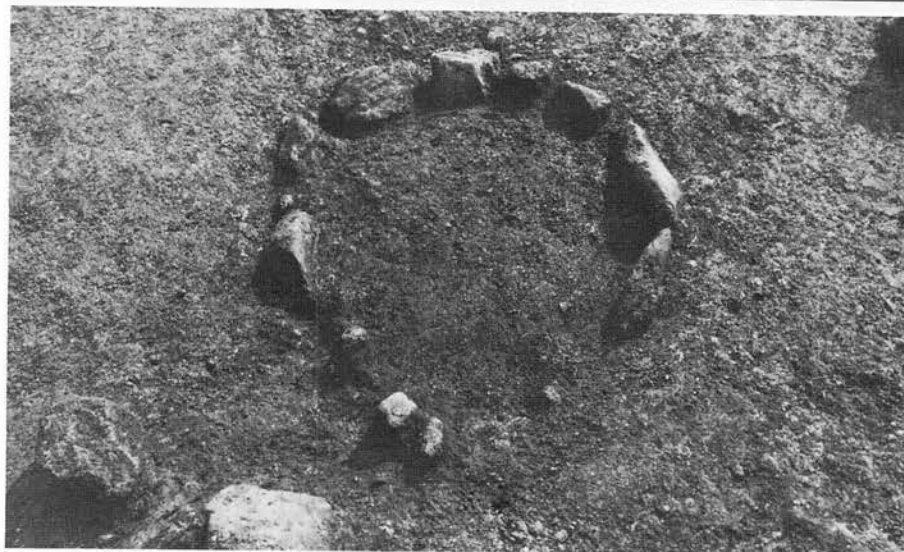




F III-0114住居跡  
土層断面

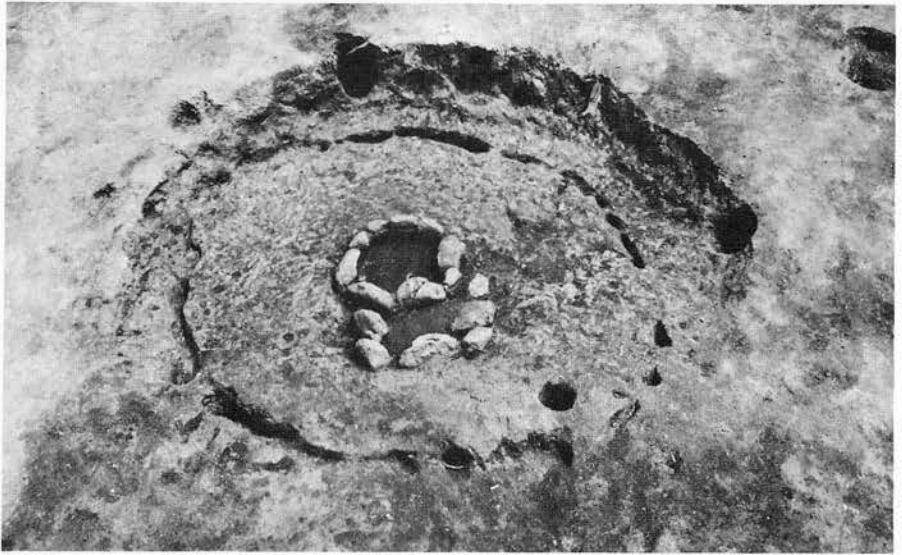


F III-0114住居跡  
完掘状況

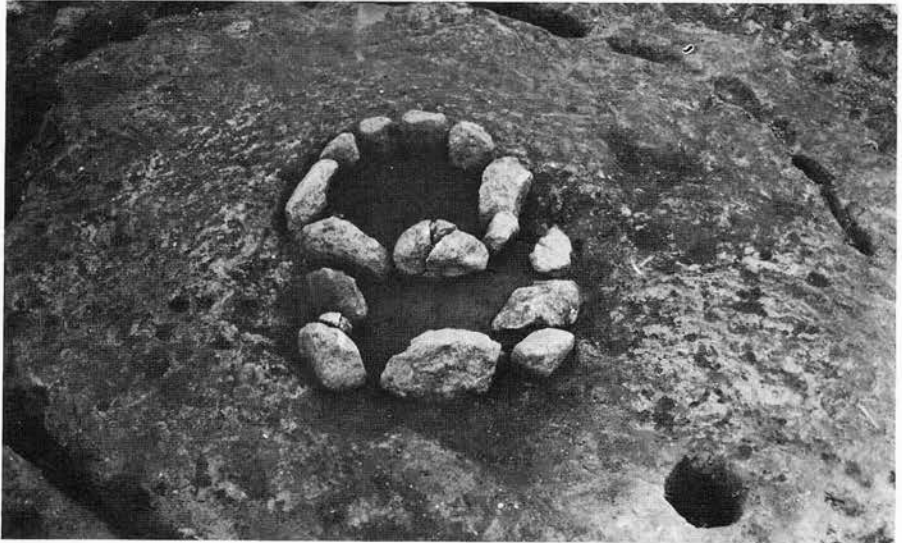


F III-0114住居跡  
炉跡

写真図版30 F III-0114住居跡



F IV-011A・B 住居跡  
完掘状況



F IV-011A・B 住居跡  
炉跡



F IV-011A・B 住居跡  
炉跡断面

写真図版31 F VI-011住居跡





F IV-011B 住居跡  
完掘狀況



F IV-011B 住居跡  
炉跡



F IV-011B 住居跡  
土器出土狀況

写真図版 32 F IV-011B 住居跡



F IV-012住居跡  
完掘状況



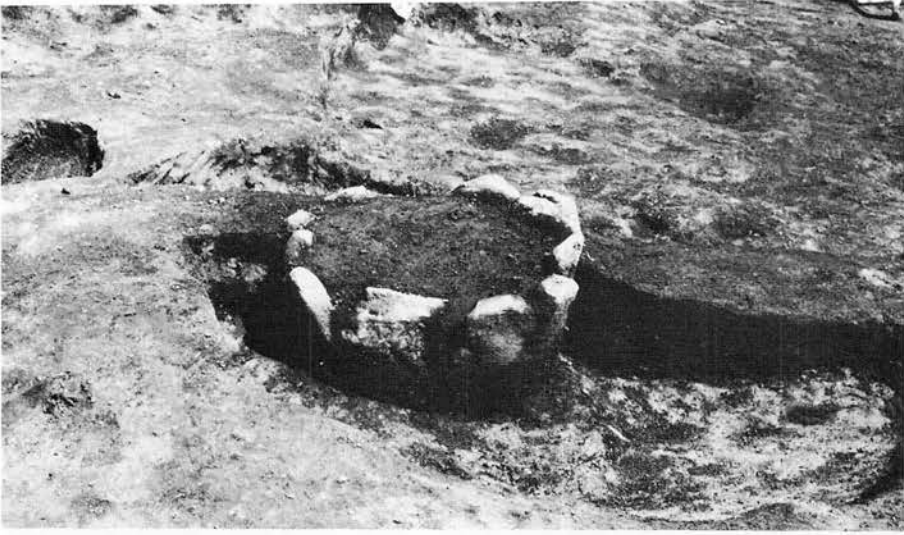
F IV-012住居跡  
完掘状況



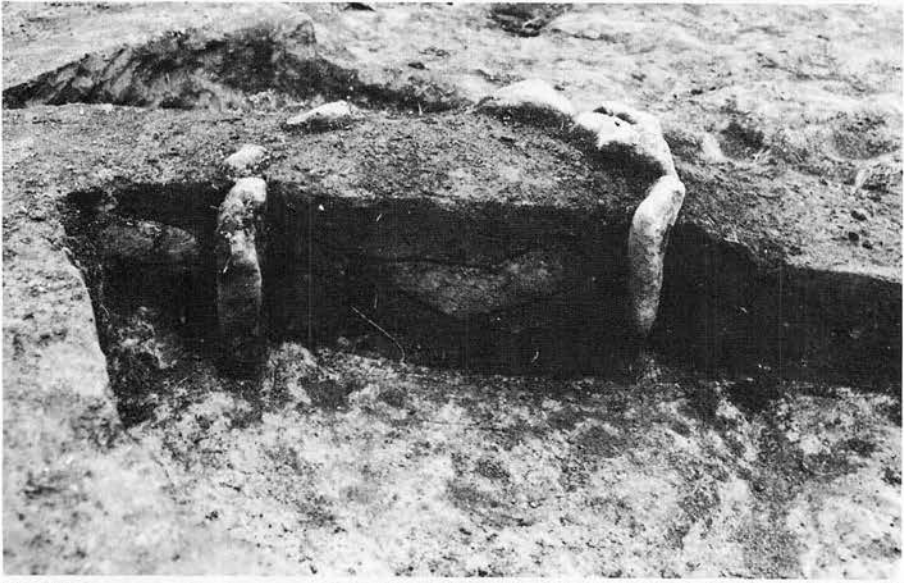
F IV-012住居跡  
炉跡

写真図版33 F IV-012住居跡 (1)





F IV-012住居跡  
炉跡埋設状況



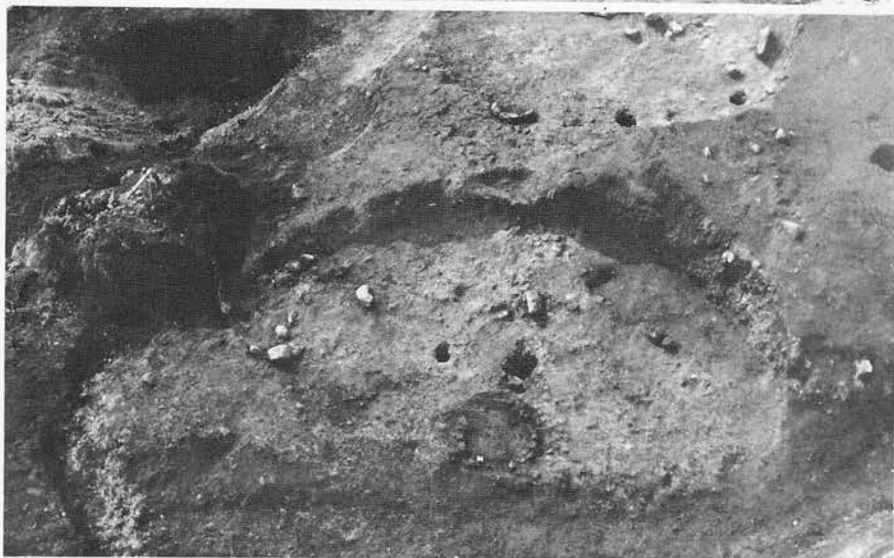
F IV-012住居跡  
炉跡断面



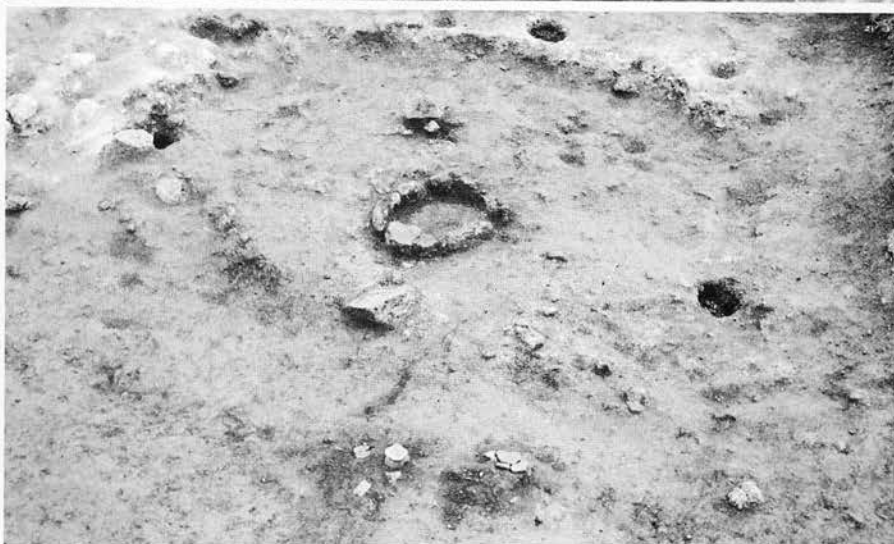
F IV-012住居跡  
土器出土状況



F III-0116住居跡  
土層断面



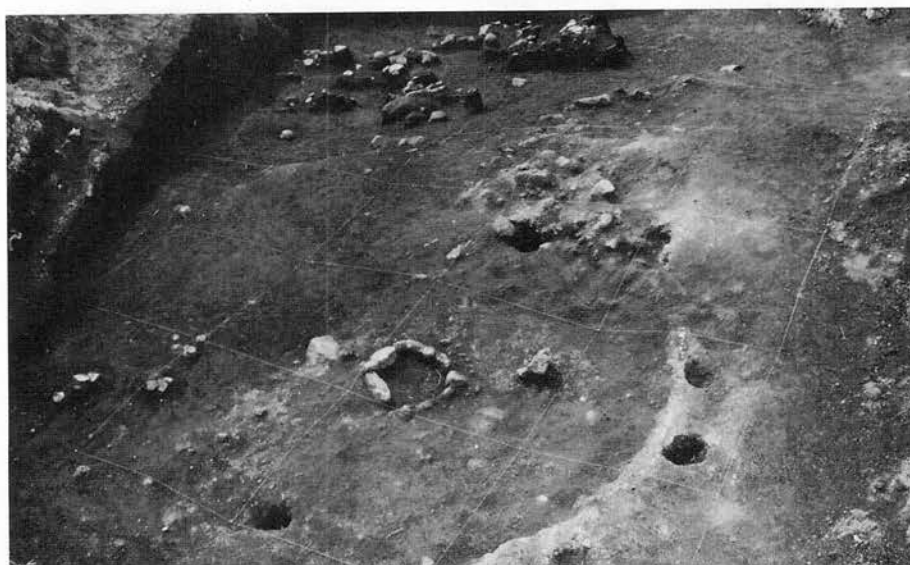
F III-0116住居跡  
完掘状況



G II-011住居跡  
遺物出土状況

写真図版35 F III-0116・G II-011住居跡





G II-011住居跡  
完掘状況



G II-011・012住居跡  
完掘状況



G II-011・012住居跡と  
G II-021・023ピット  
完掘状況

写真図版36 G II-011・012住居跡



G III-012A ~ D  
住居跡と  
G III-025ピット



G III-012A ~ D住居跡  
発掘途中の状況



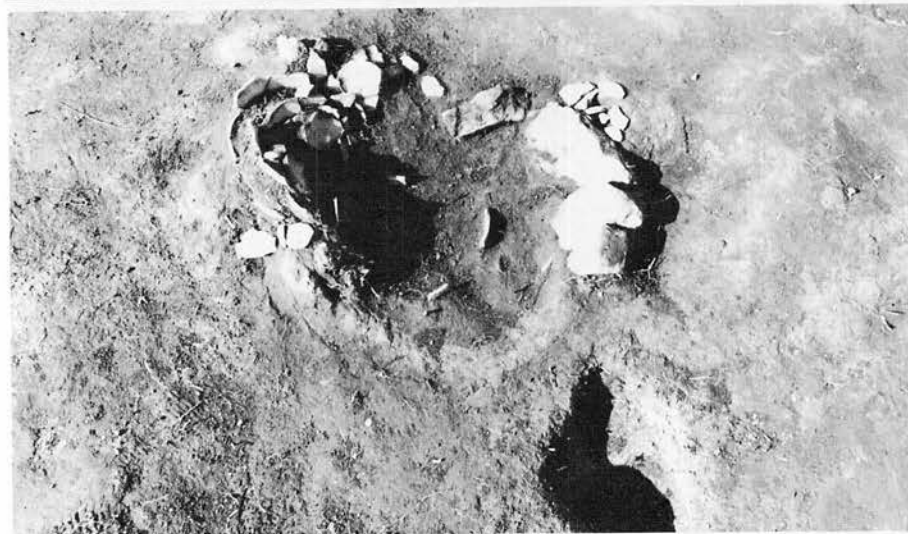
G III-012E住居跡  
土器出土状況

写真図版37 G III-012住居跡





G III-014住居跡  
完掘狀況



G III-014住居跡  
炉跡



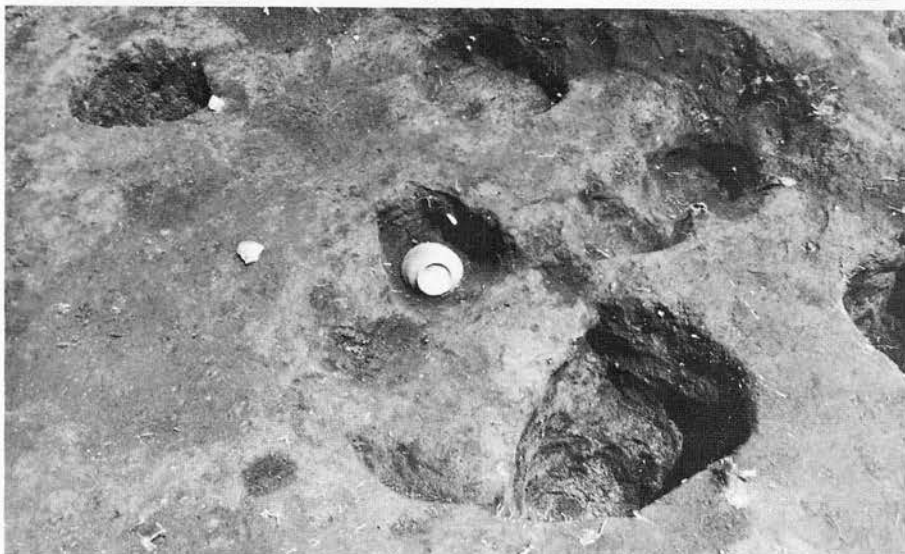
G III-014住居跡  
炉跡断面

写真図版 38 G III-014住居跡

G III-015住居跡  
完掘状況



G III-015住居跡  
土器出土状況



G III-015住居跡  
炉跡断面



写真図版39 G III-015住居跡

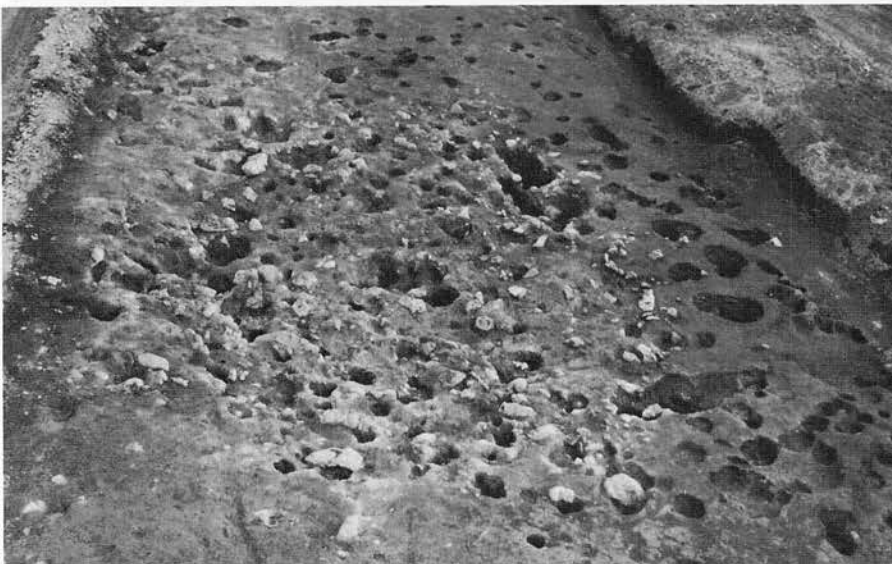




G III-016住居跡  
検出状況



G III-016住居跡  
集石の状況

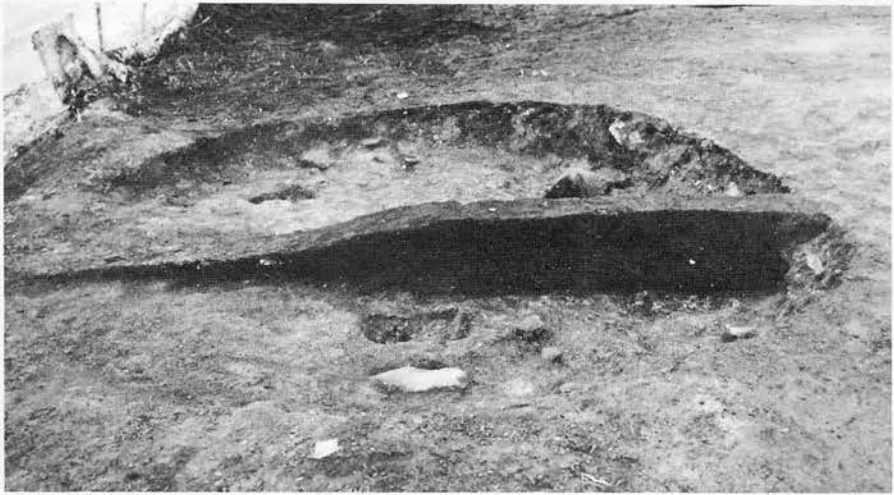


G III-016住居跡  
完掘状況

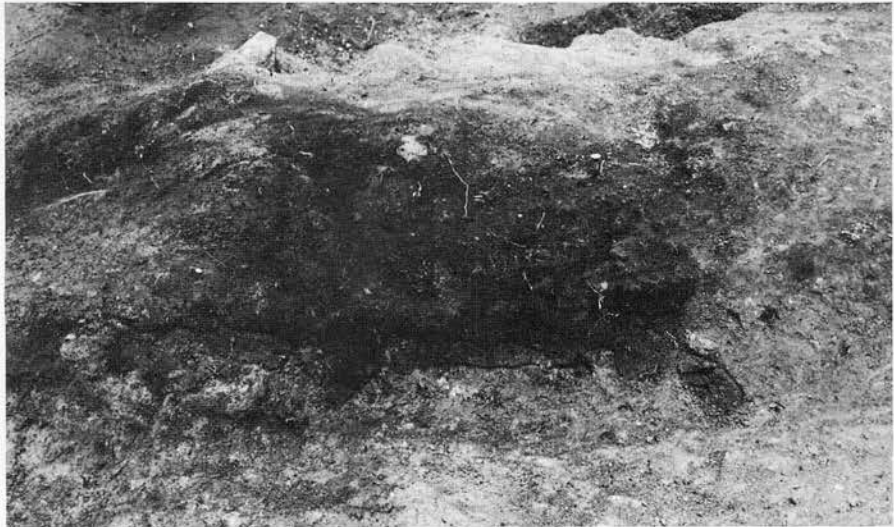
写真図版40 G III-016住居跡



G IV-011住居跡  
完掘状況



G IV-011住居跡  
土層断面



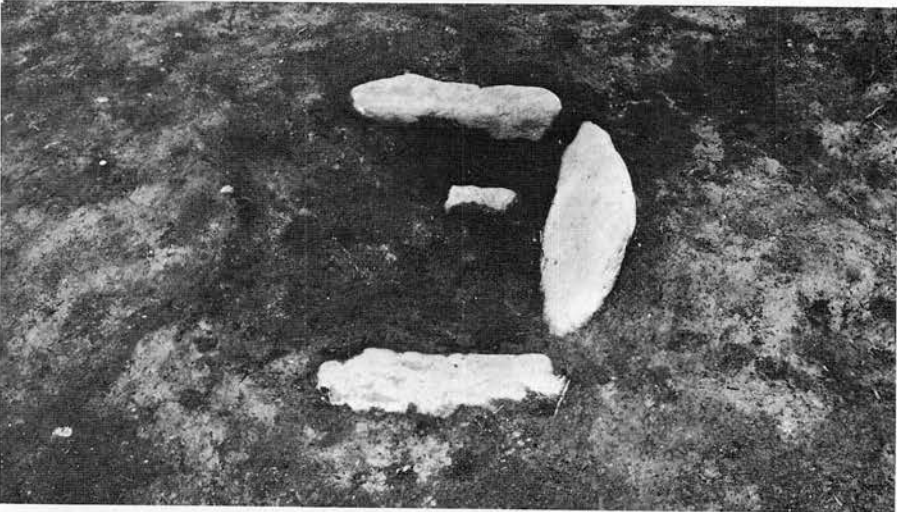
G IV-011住居跡  
炉跡断面

写真図版41 G IV-011住居跡

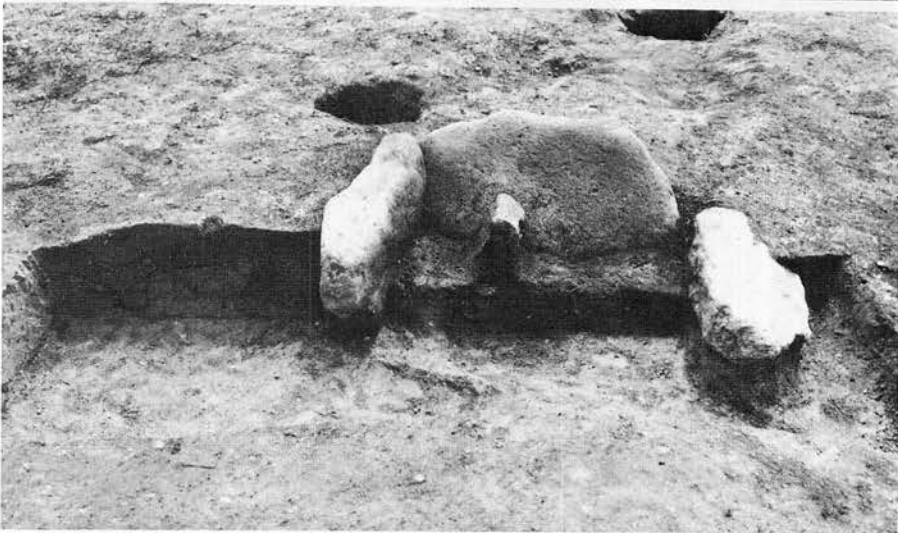




G IV-013住居跡  
完掘状況



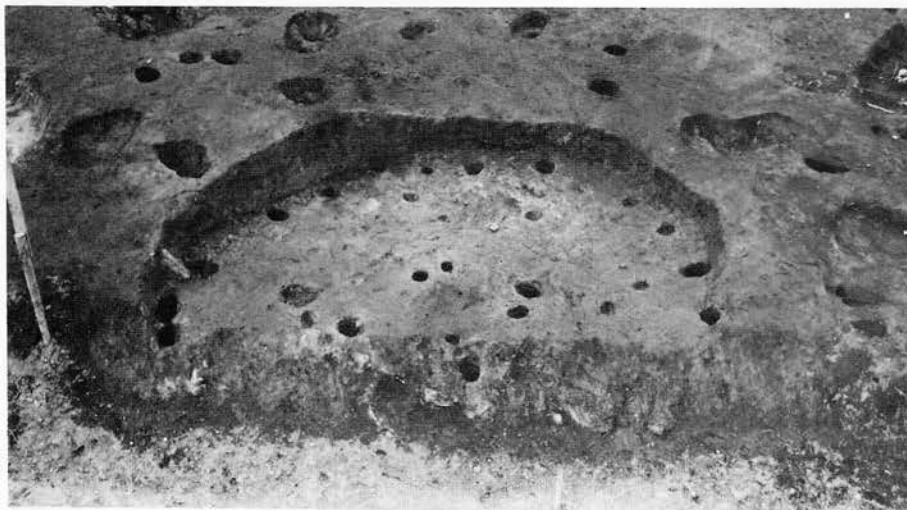
G IV-013住居跡  
炉跡



G IV-013住居跡  
炉跡断面

写真図版42 G IV-013住居跡

G IV-014住居跡  
完掘状況



G IV-014住居跡  
土層断面



G IV-014住居跡  
炉跡断面

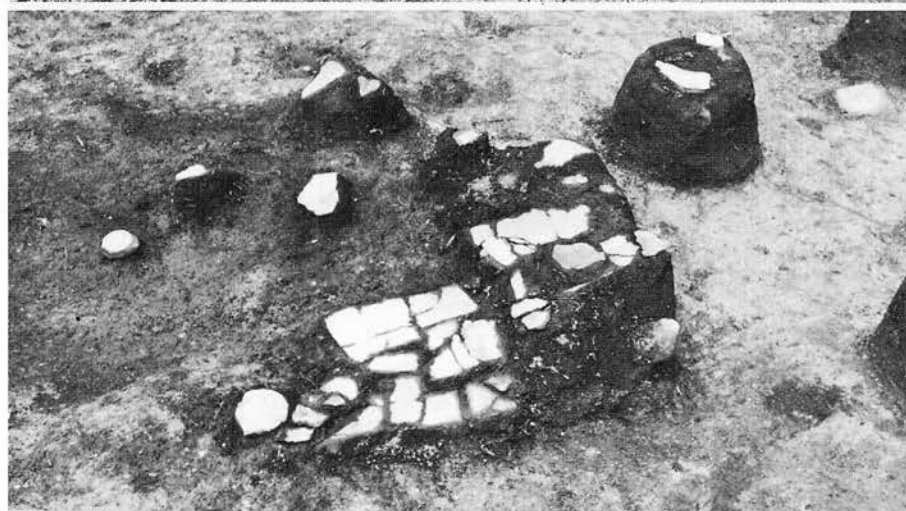


写真図版 43 G IV-014住居跡 (1)





G IV-014住居跡  
遺物出土状況



G IV-014住居跡  
土器出土状況(1)



G IV-014住居跡  
土器出土状況(2)

写真図版44 G IV-014住居跡 (2)



G IV-014住居跡ほか  
完掘状況



G IV-016住居跡  
完掘状況



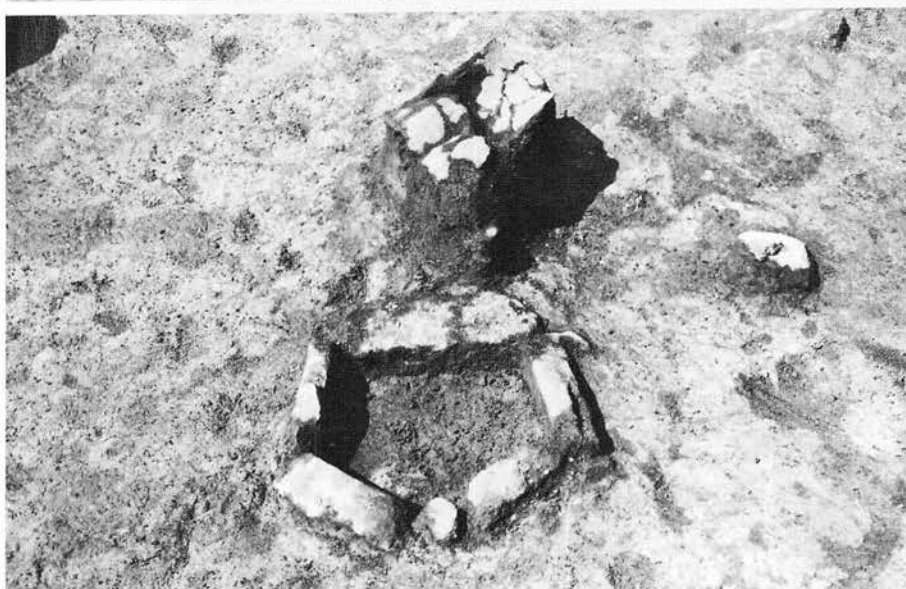
G IV-011住居跡  
完掘状況ほか

写真図版45 G IV-011・014・016住居跡





G IV-016住居跡  
完掘状況

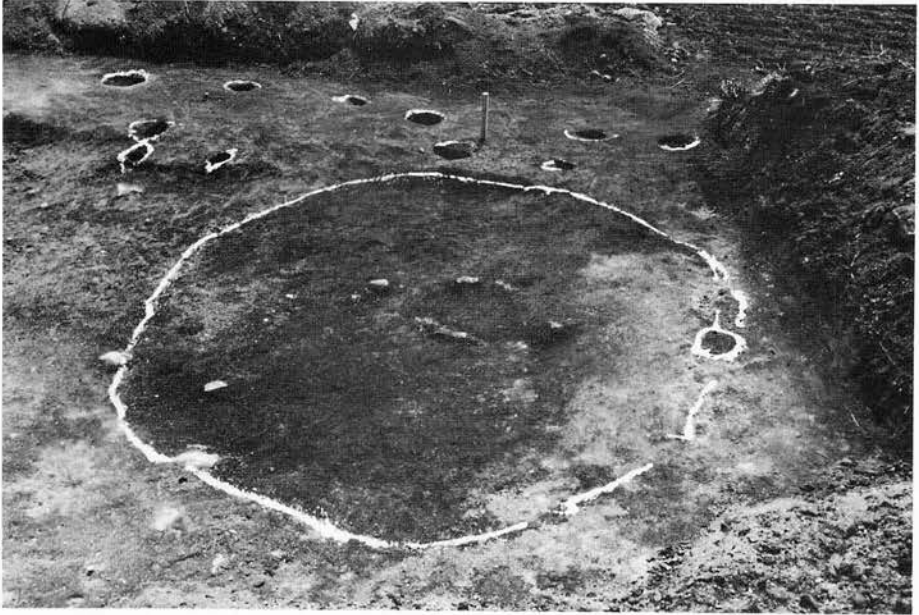


G IV-016住居跡  
炉跡



H IV-013住居跡

写真図版 46 G IV-016・H IV-013住居跡



H III-015住居跡  
検出状況



H III-015住居跡  
完掘状況

写真図版47 H III-015住居跡





H IV-011住居跡  
遺物出土状況(1)



H IV-011住居跡  
遺物出土状況(2)



H IV-011住居跡  
遺物出土状況(3)

写真図版48 H IV-011住居跡遺物出土状況

H III-011住居跡  
完掘状況(南南東から)



H IV-011住居跡  
完掘状況(南西から)



H IV-011住居跡  
炉跡

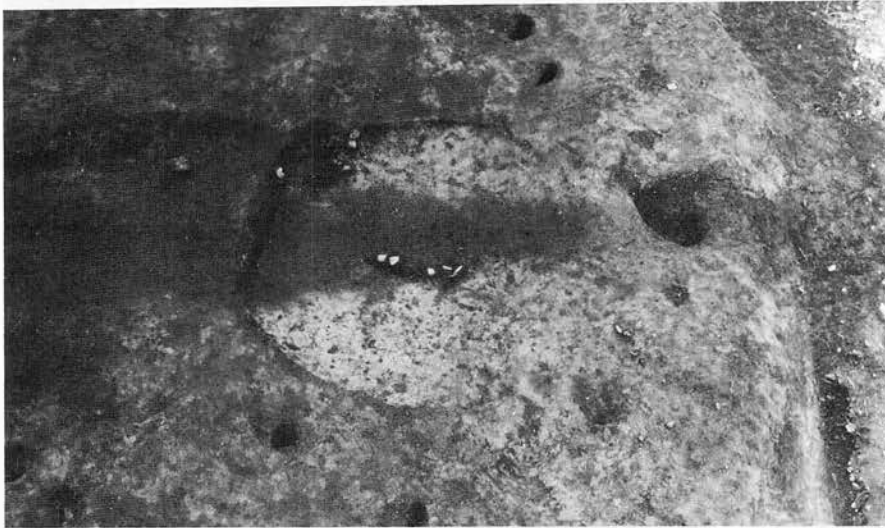


写真図版49 H III-011・H IV-011住居跡

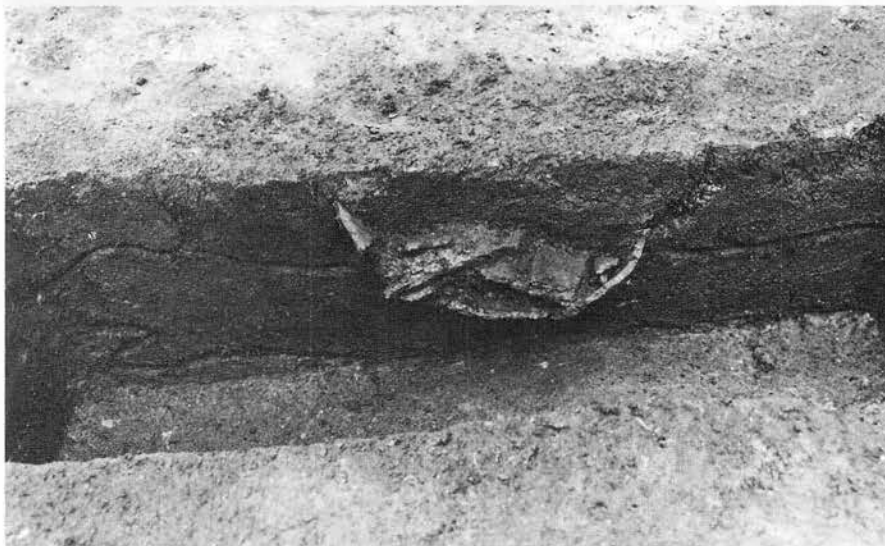




H IV-012住居跡  
遺物出土状況



H IV-012住居跡  
完掘状況

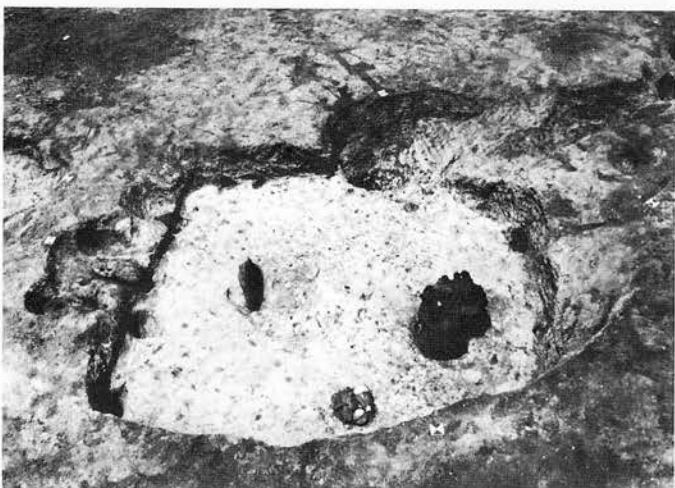


H IV-012住居跡  
炉跡断面

J V - 011住居跡  
完掘状況(南から)



J V - 011住居跡  
完掘状況(東から)



J V - 011住居跡  
土器出土状況



写真図版51 J V - 011住居跡





J V-012A 住居跡  
完掘状況(南東から)



J V-012A 住居跡  
完掘状況(南から)



J V-012A 住居跡  
土器出土状況

写真図版52 J V-012住居跡

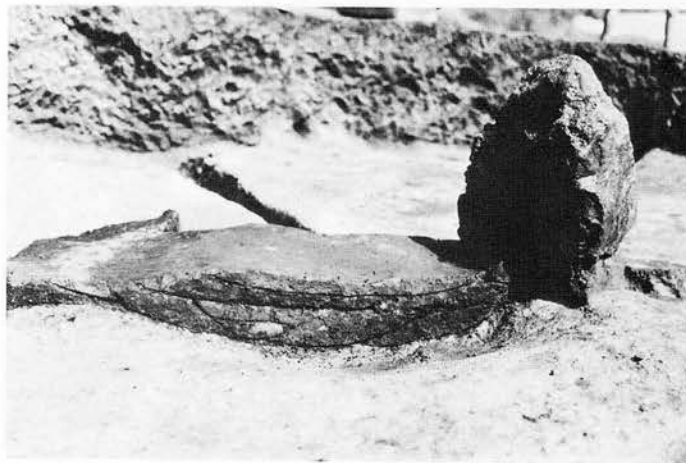
J VI-011A ~ C 住居跡  
完掘状況



J VI-011A ~ C 住居跡  
溝跡

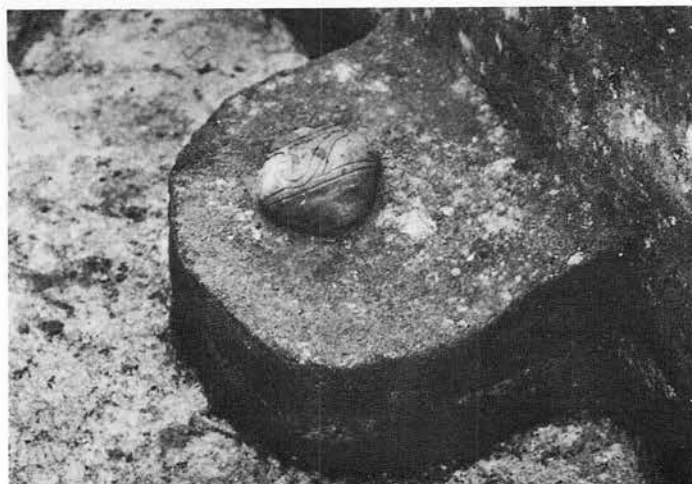


J VI-011A ~ C 住居跡  
炉跡断面

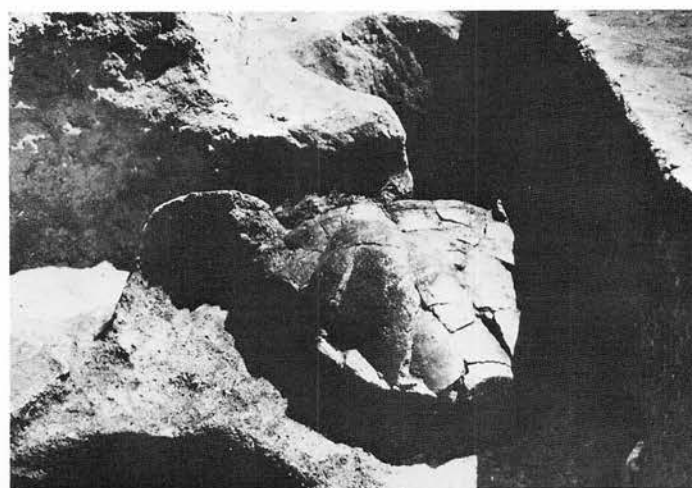


写真図版53 J VI-011住居跡 (1)





J VI-011C 住居跡  
土器出土状況(1)



J VI-011C 住居跡  
土器出土状況(2)



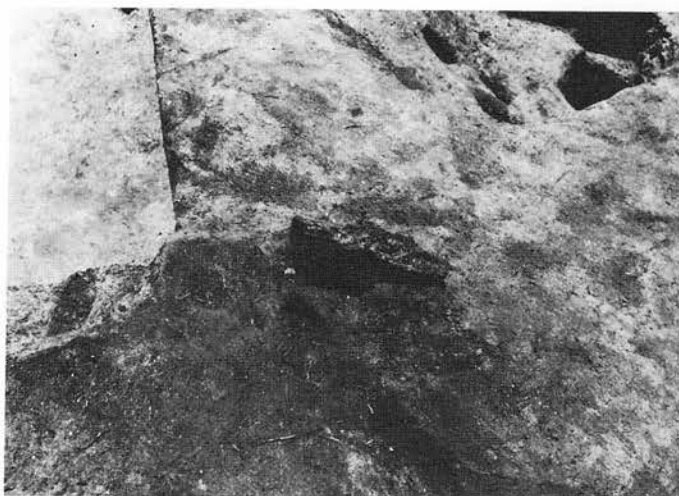
J VI-011C 住居跡  
土器出土状況(3)

写真図版54 J VI-011住居跡 遺物出土状況

J VI—012掘立柱建物跡  
完掘狀況



J VI—012掘立柱建物跡  
炉跡断面

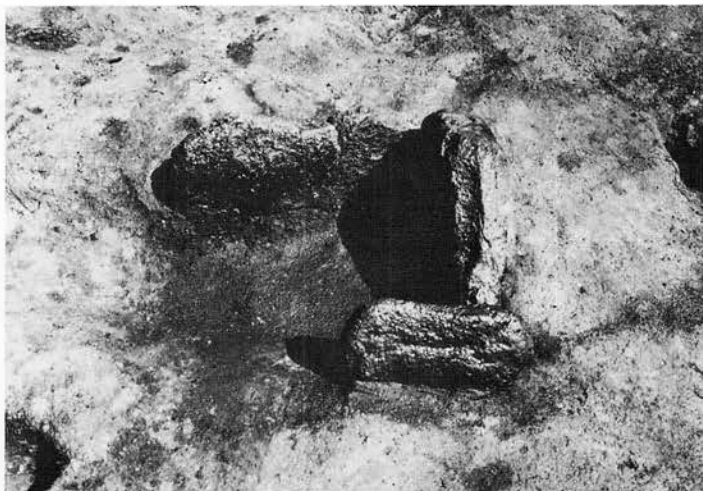


K VI—012住居跡  
完掘狀況



写真図版55 J VI—012・K VI—012住居跡





K VI-012住居跡  
炉跡



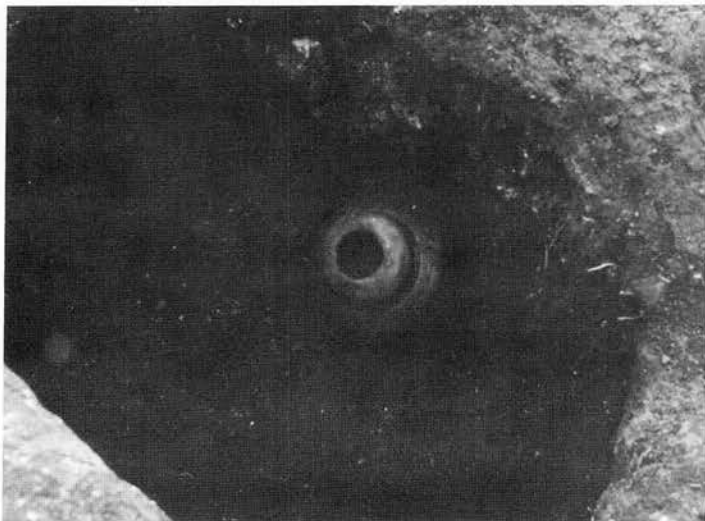
K VI-012住居跡  
炉跡断面



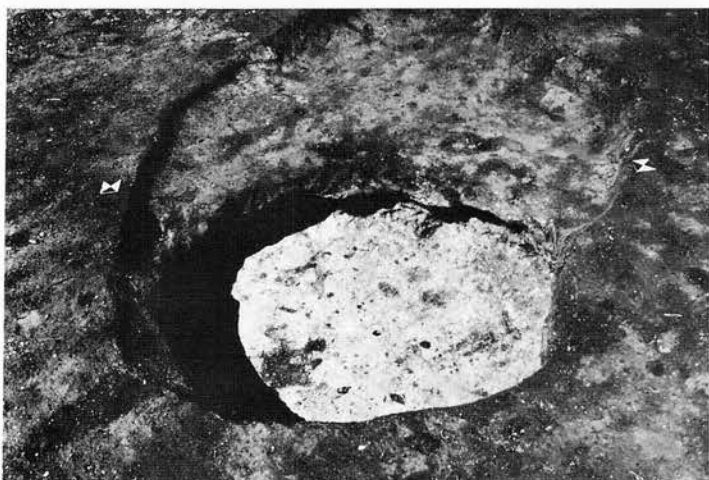
K VI-012住居跡  
土器出土状況

写真図版56 K-012住居跡

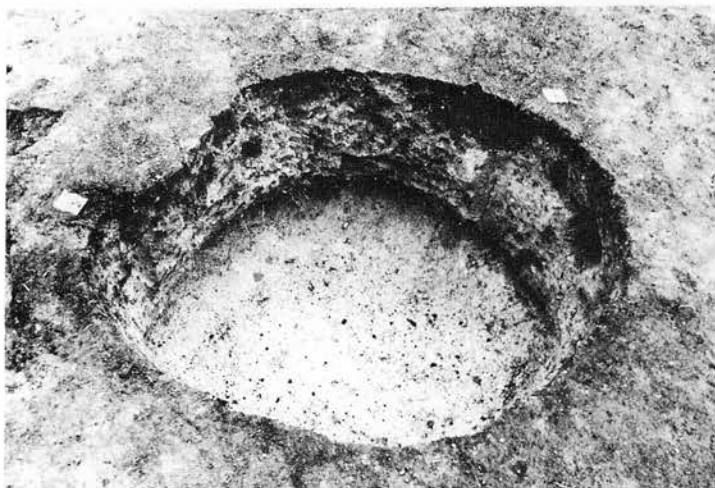
E III-021ピット  
遺物出土状況



H III-021ピット  
完掘状況

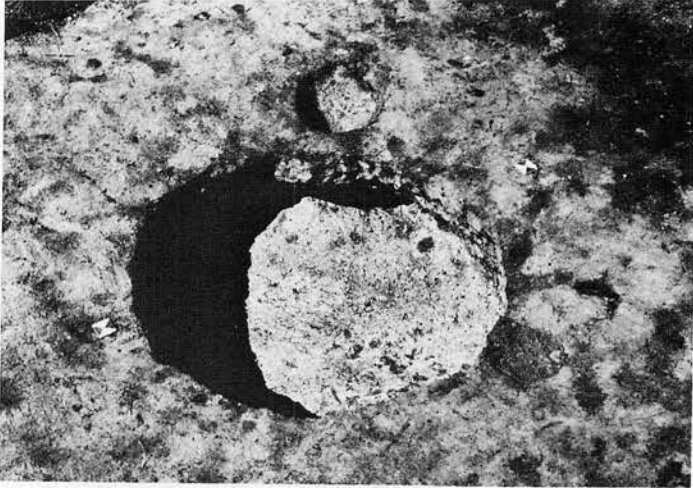


H VI-022ピット  
完掘状況

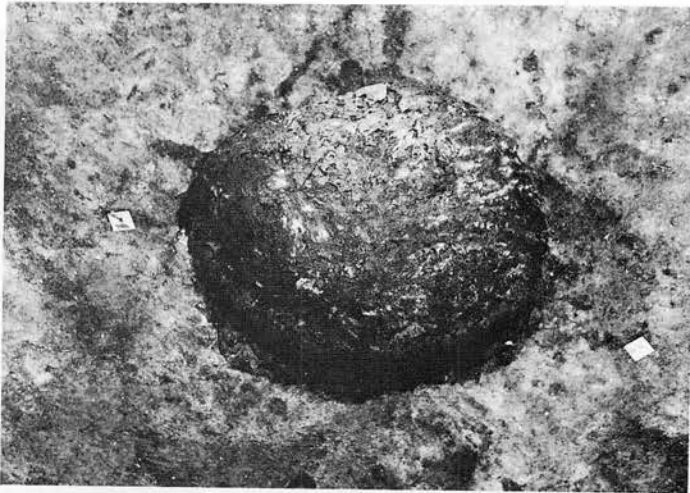


写真図版57 フラスコピット (1)

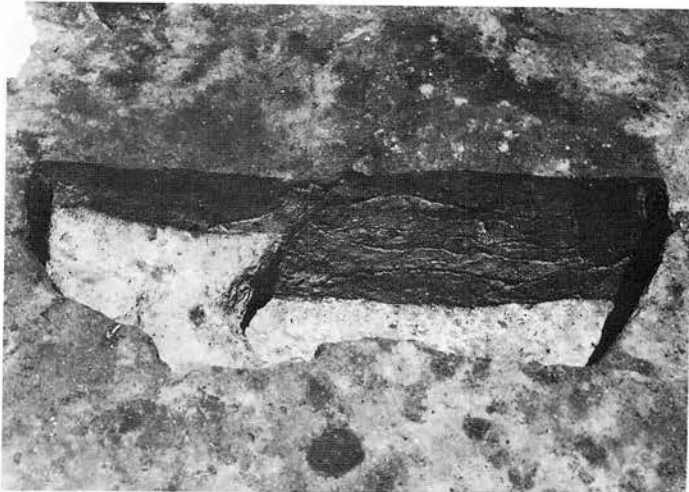




H V-021ピット  
完掘状況



J V-025ピット  
完掘状況



J V-023 A ~ Cピット  
土層断面

写真図版58 フラスコピット (2)

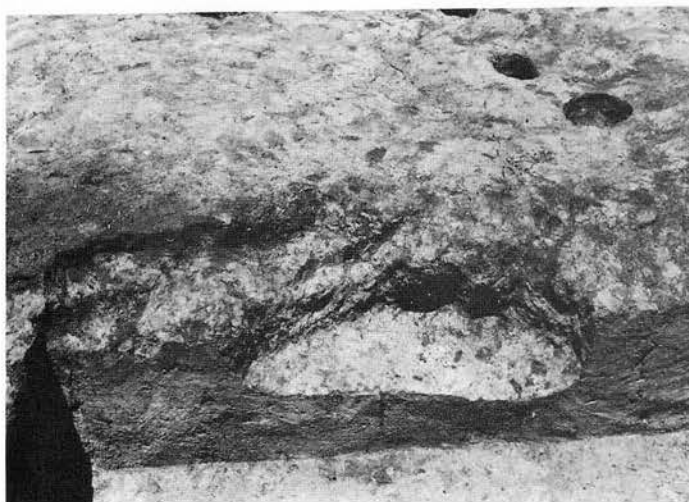
J VI-023ピット  
完掘状況



J VI-023ピット  
遺物出土状況



J VI-022ピット  
完掘状況

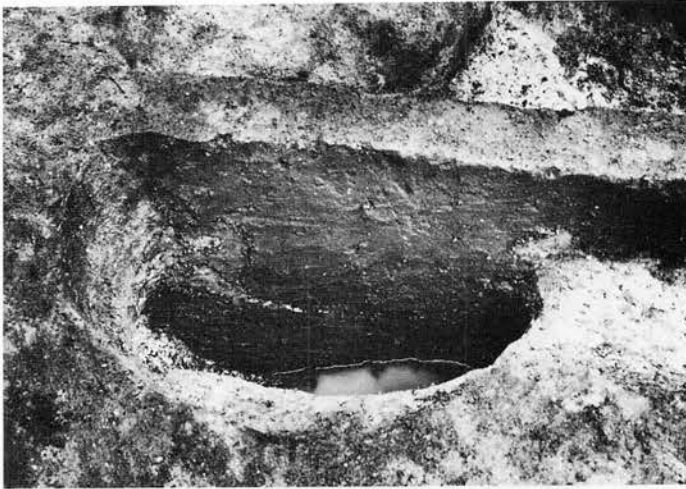


写真図版 59 フラスコピット

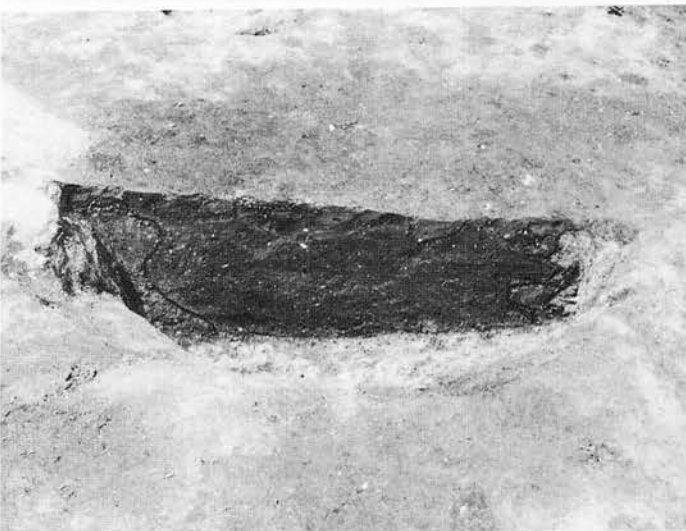




IV-021ピット  
完掘状況



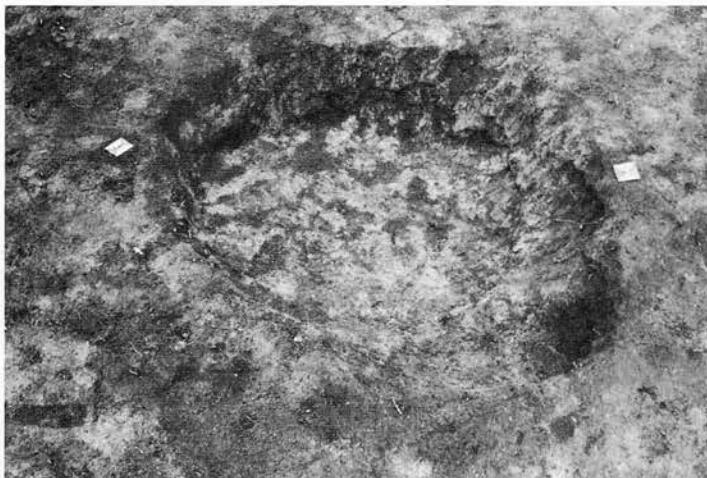
IV-021ピット  
土層断面



HIV-021ピット  
土層断面

写真図版 60 フラスコ・摺鉢状ピット

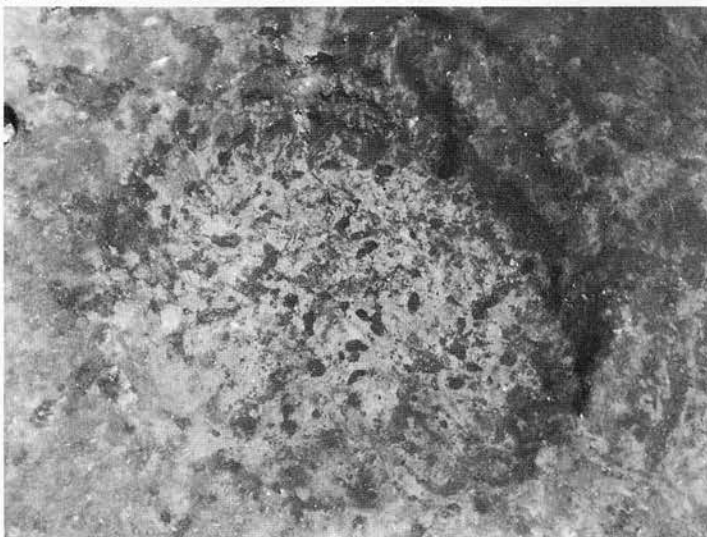
G IV-023ピット  
完掘状況



G IV-026ピット  
完掘状況

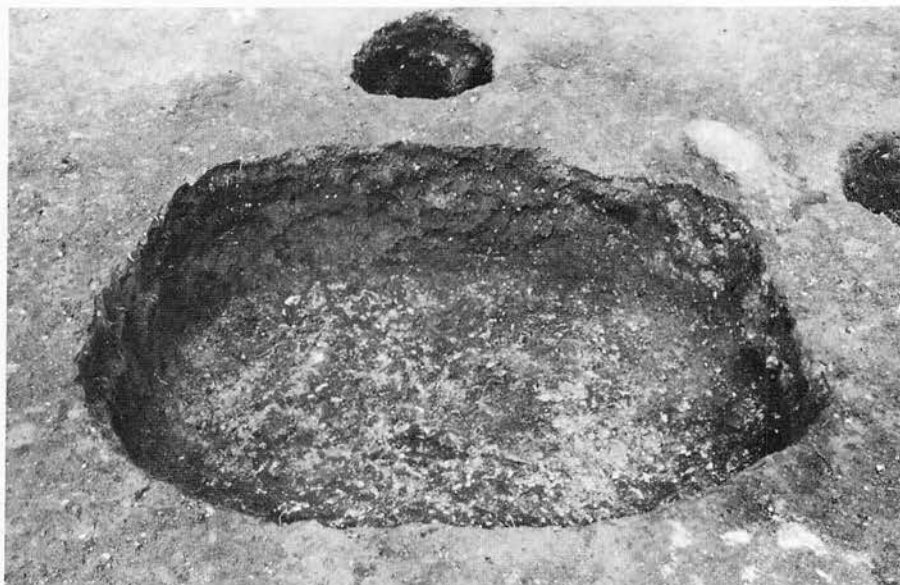


G IV-023ピット  
完掘状況

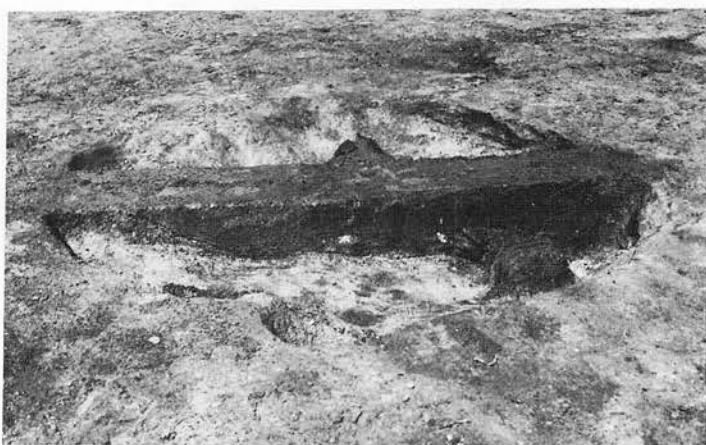


写真図版 61 大型円形ピット (1)

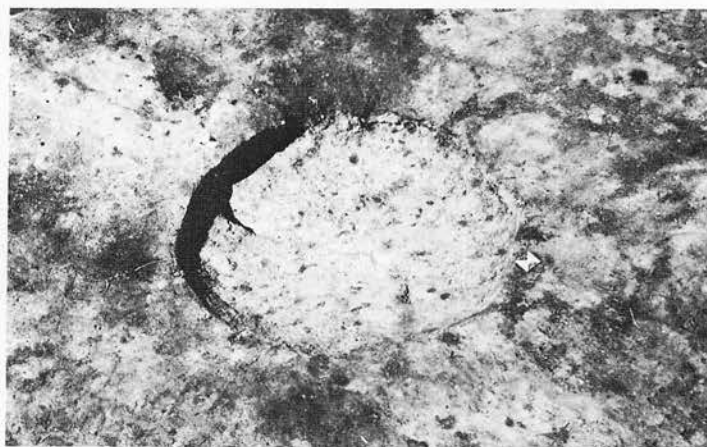




F III-025ビット  
完掘状況



H III-023ビット  
完掘状況



H IV-021ビット  
完掘状況

写真図版 62 大型円形ビット (2)

J V-024ピット  
土層断面



J V-0214ピット  
完掘状況

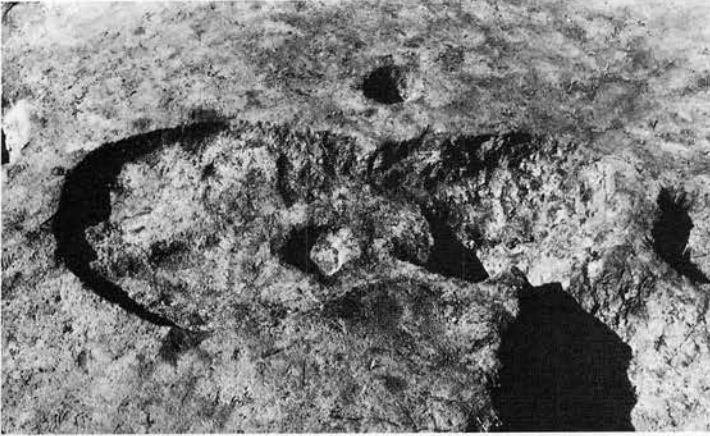


J VI-0216ピット  
遺物出土状況



写真図版 63 小型円形ピット (1)





J VI-0210ピット  
完掘状況



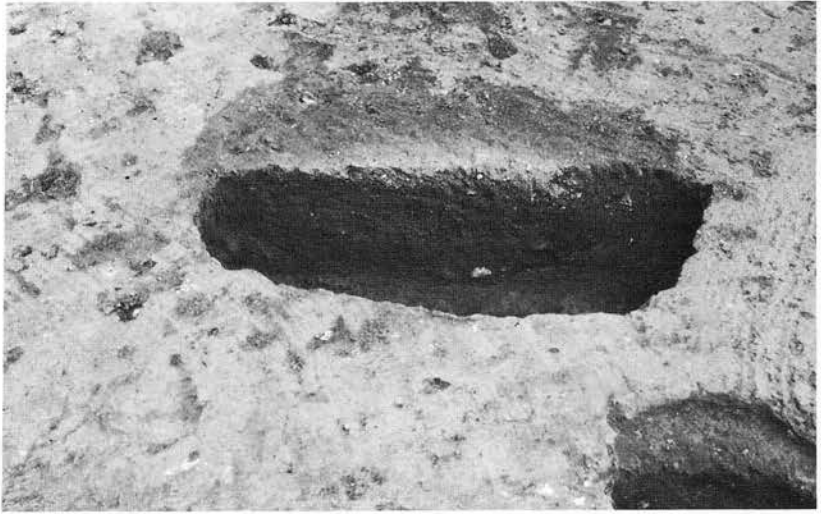
F III-022ピット  
完掘状況



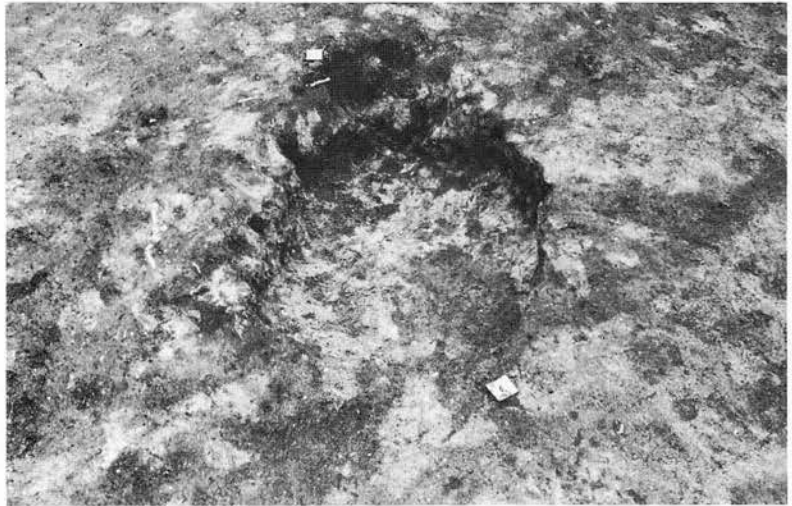
F III-028ピット  
完掘状況

写真図版 64 小型円型(2)・楕円形ピット(1)

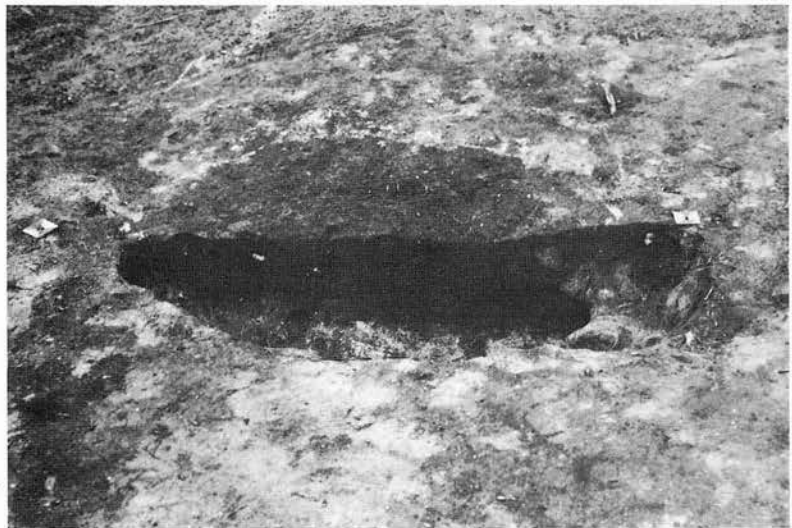
G III-023ピット  
土層断面



G IV-024ピット  
完掘状況

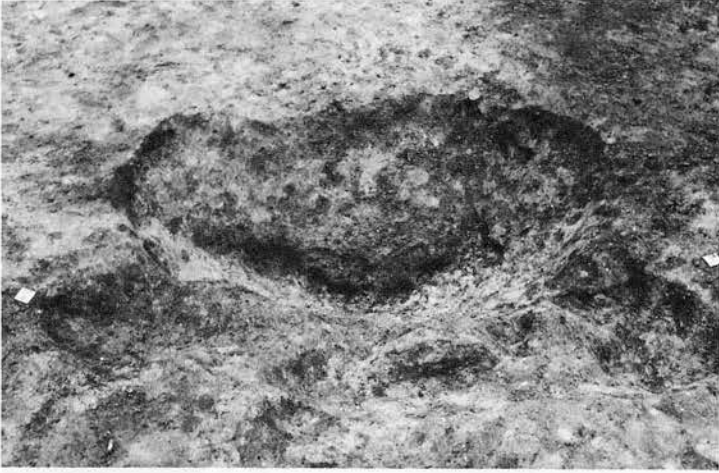


G IV-024ピット  
土層断面



写真図版65 楕円形ピット(2)





G IV-028ピット  
完掘状況



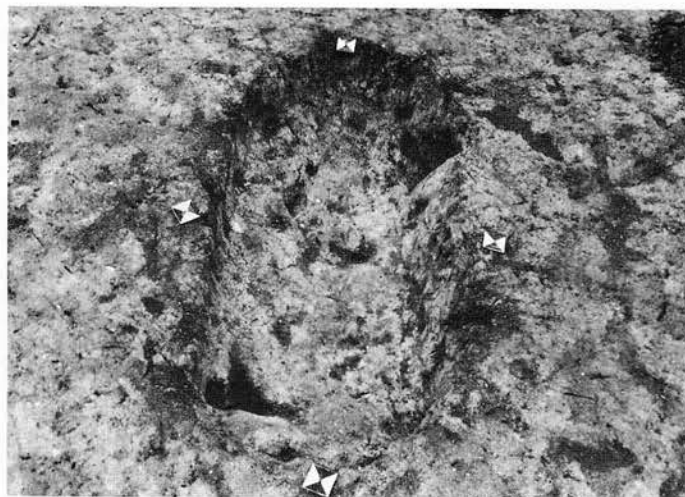
G IV-028ピット  
土層断面



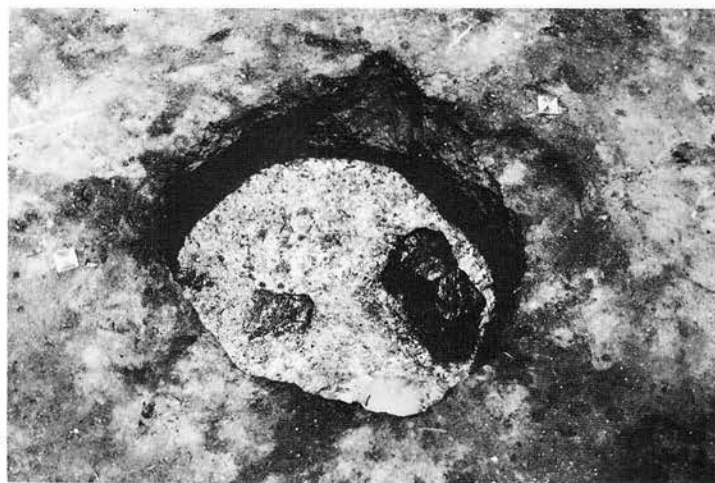
G IV-029ピット  
完掘状況

写真図版66 楕円形ピット (3)

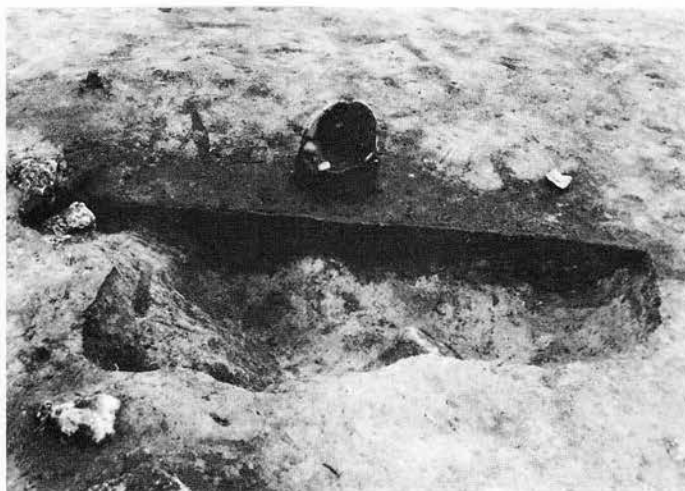
J V-022ピット  
完掘状況



J V-023Aピット  
完掘状況



J V-0214ピット  
土層断面



写真図版67 楕円形ピット(4)





J V-0215ピット  
完掘状況



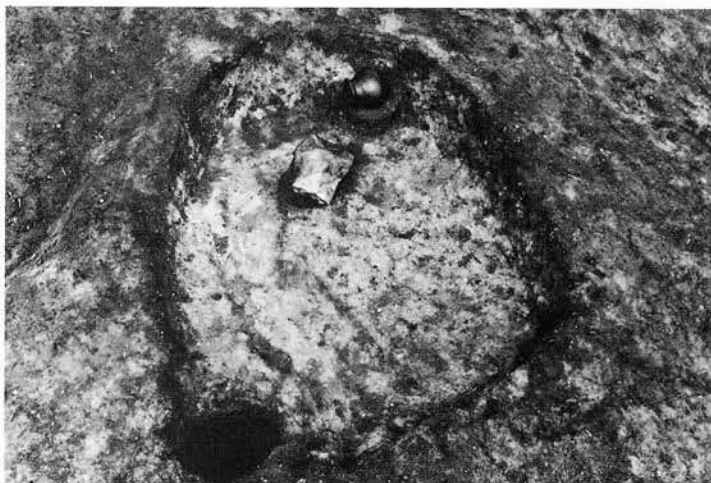
J VI-025ピット  
完掘状況



J VI-026ピット  
完掘状況

写真図版68 楕円形ピット (5)

J VI-028ピット  
完掘状況



J VI-029ピット  
完掘状況

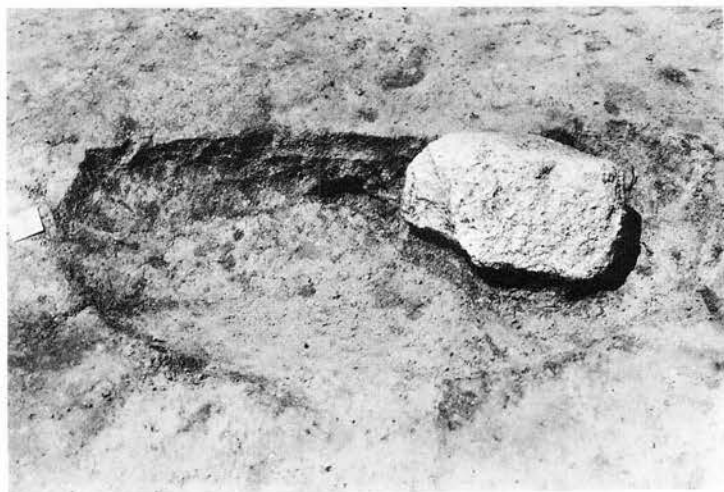


J VI-0223ピット  
完掘状況



写真図版69 楕円形ピット (6)





K VI-022ピット  
完掘状況



K VI-023ピット  
完掘状況



K VI-025ピット  
完掘状況

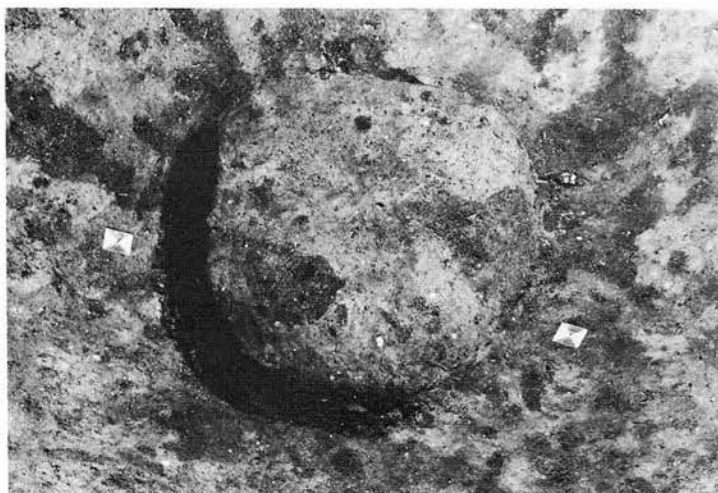
写真図版70 楕円形ピット (7)



F III-023ピット  
完掘状況



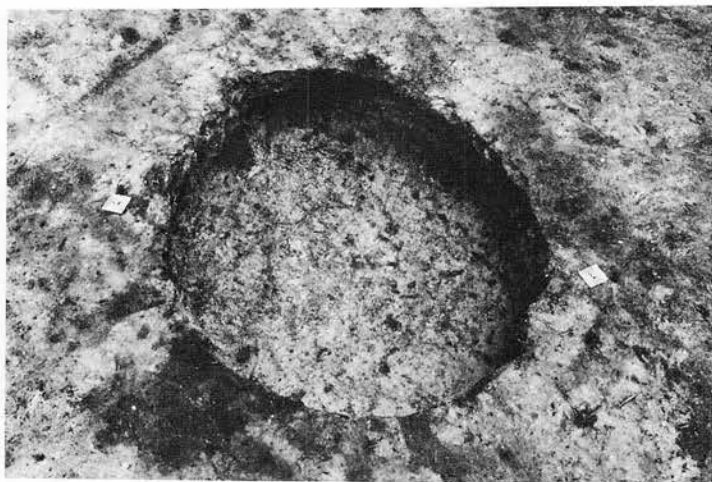
J V-027ピット  
完掘状況



J V-028ピット  
完掘状況

写真図版 71 不定形ピット (1)

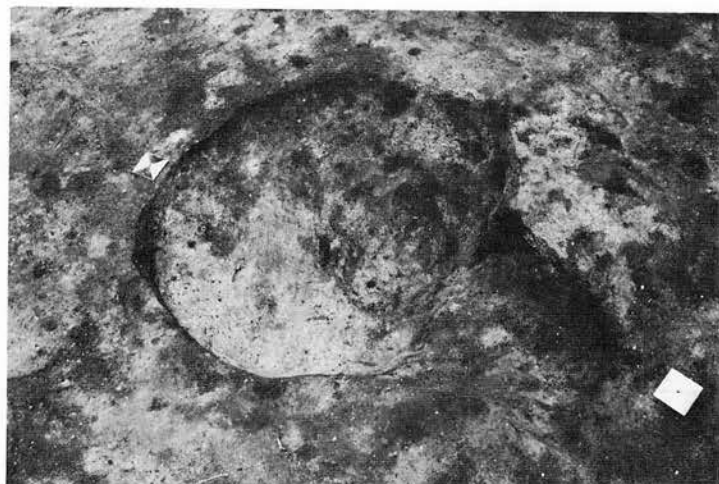




J V-021ピット  
完掘状況



J VI-028ピット  
完掘状況



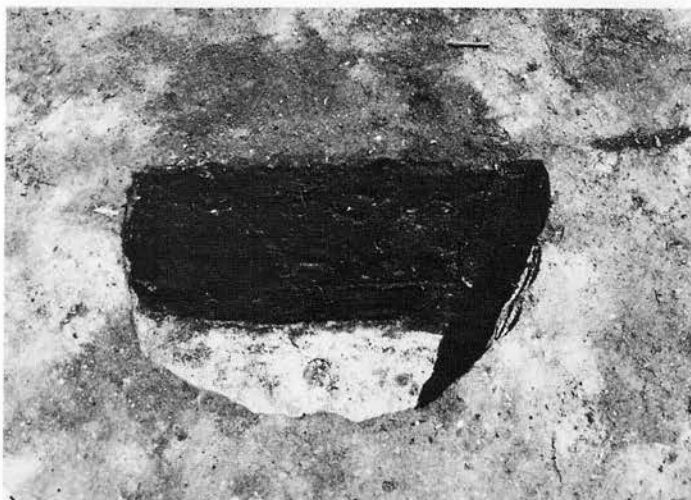
K VI-024ピット  
完掘状況

写真図版 72 不整形ピット (2)

J VI-0217ピット  
完掘状況



J VI-028ピット  
土層断面

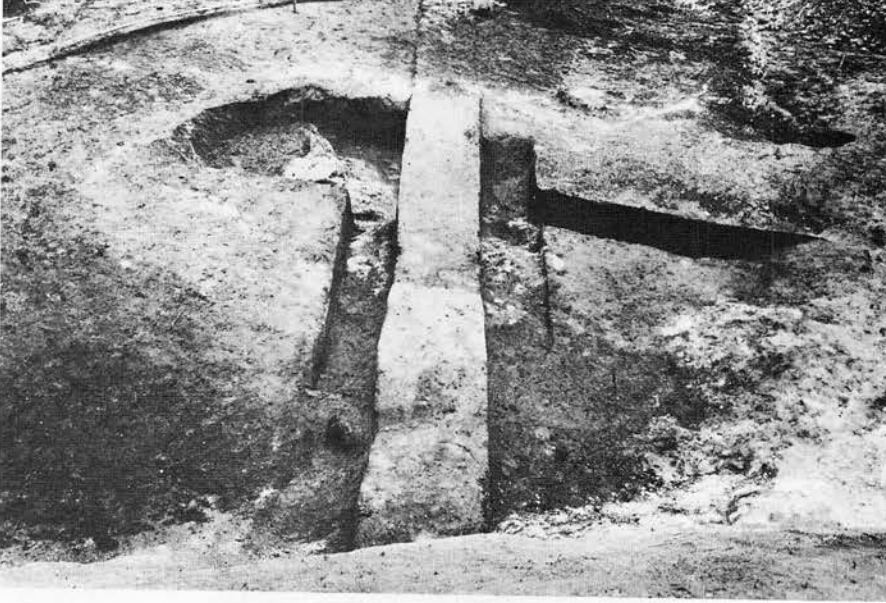


J VI-0129ピット  
土層断面

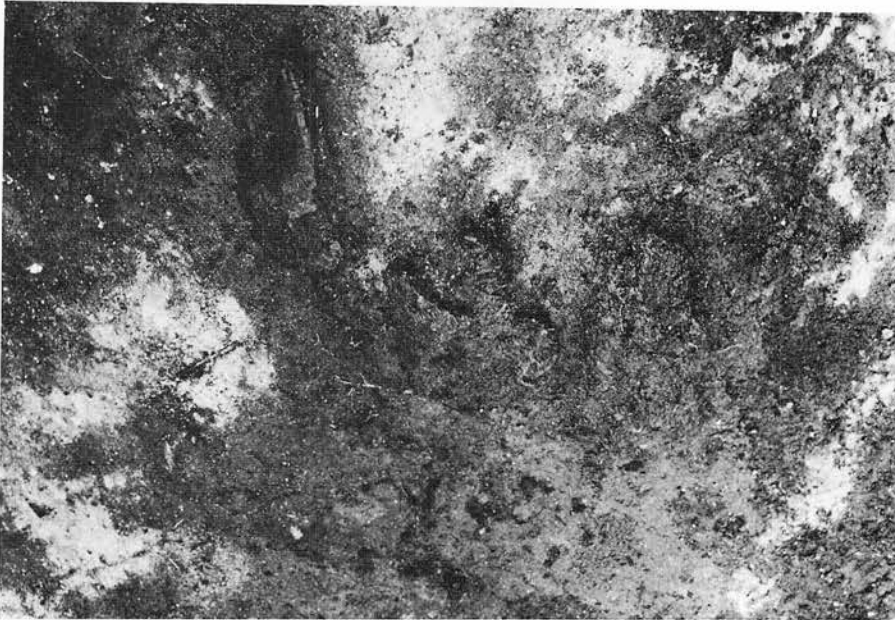


写真図版73 柱穴状ピット





I V-031-023焼土遺構  
発掘状況



I V-031焼土遺構  
炭化物出土状況

写真図版 74 焼土遺構



F III-041 集石遺構  
全景 (1)



F III-041 集石遺構  
全景 (2)



F III-041 集石遺構  
全景 (3)



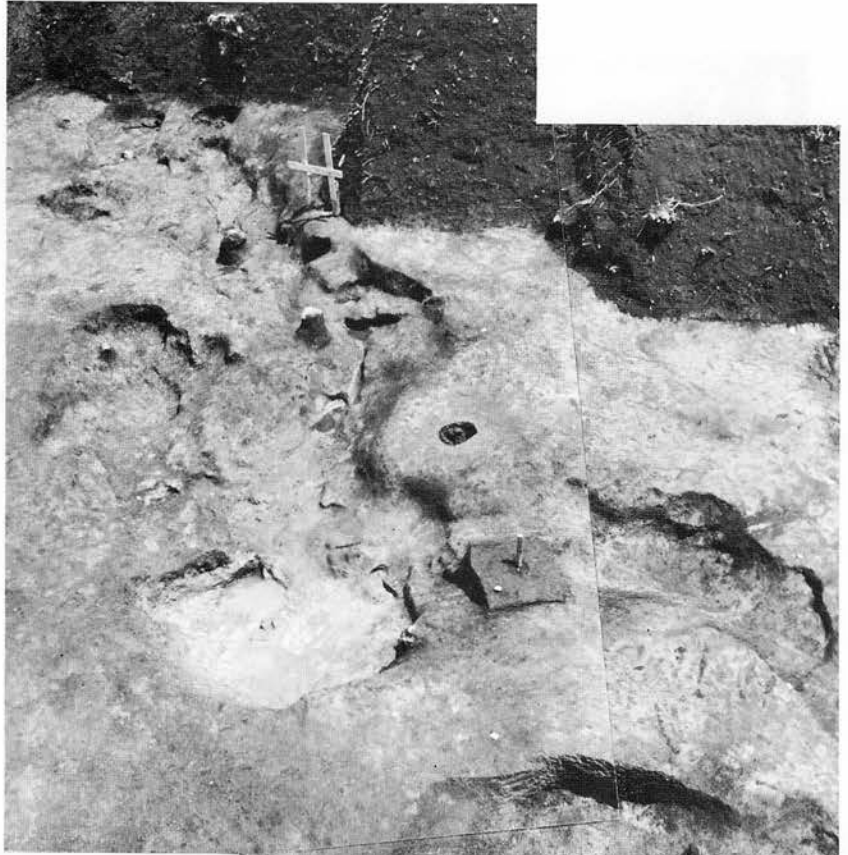


G II-061捨て場跡遺物  
包含層とG II-011住居  
跡完掘状況(一部)



G II-061捨て場跡遺物  
包含層土層堆積状況

写真図版76 捨て場跡



G IV—051雨裂跡北半部完掘狀況



G IV—051雨裂跡南半部  
完掘狀況

写真図版77 雨裂跡(1)





G IV-051 雨裂跡  
北部断面

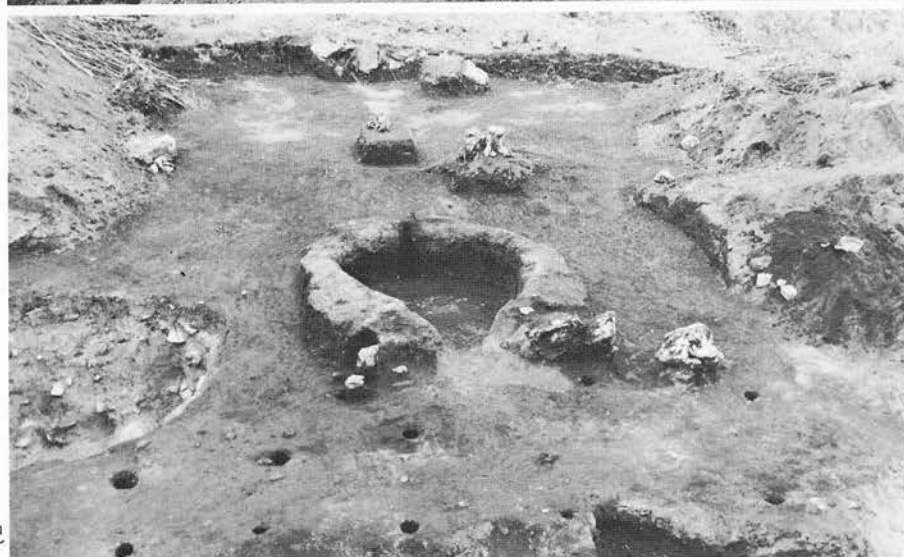


G IV-027 ピット  
(雨裂の一部)

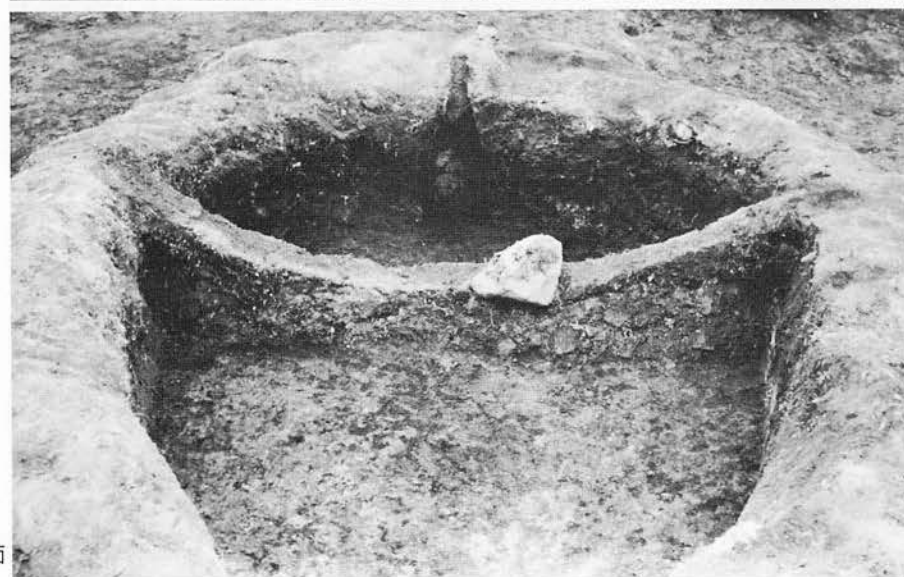
写真図版78 雨裂跡 (2)



F IV—081炭焼場跡  
土取り穴



炭窯跡  
完掘状況



炭窯跡  
土層断面

写真図版79 F IV—081炭焼場跡 (1)

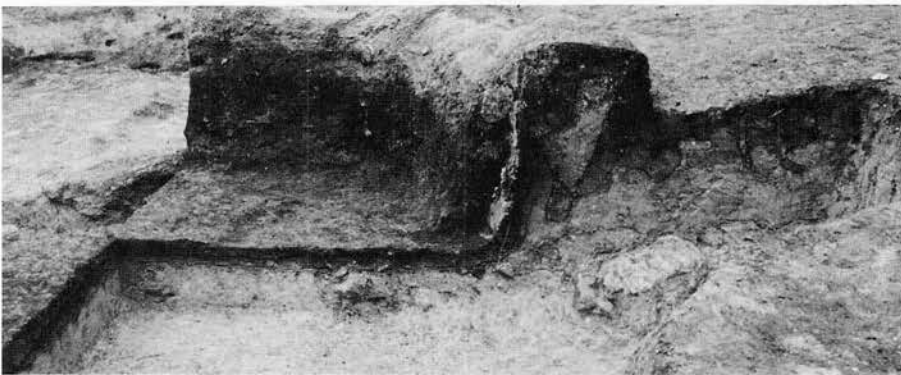




G IV区炭窯跡  
断面(1)



同上  
断面(2)

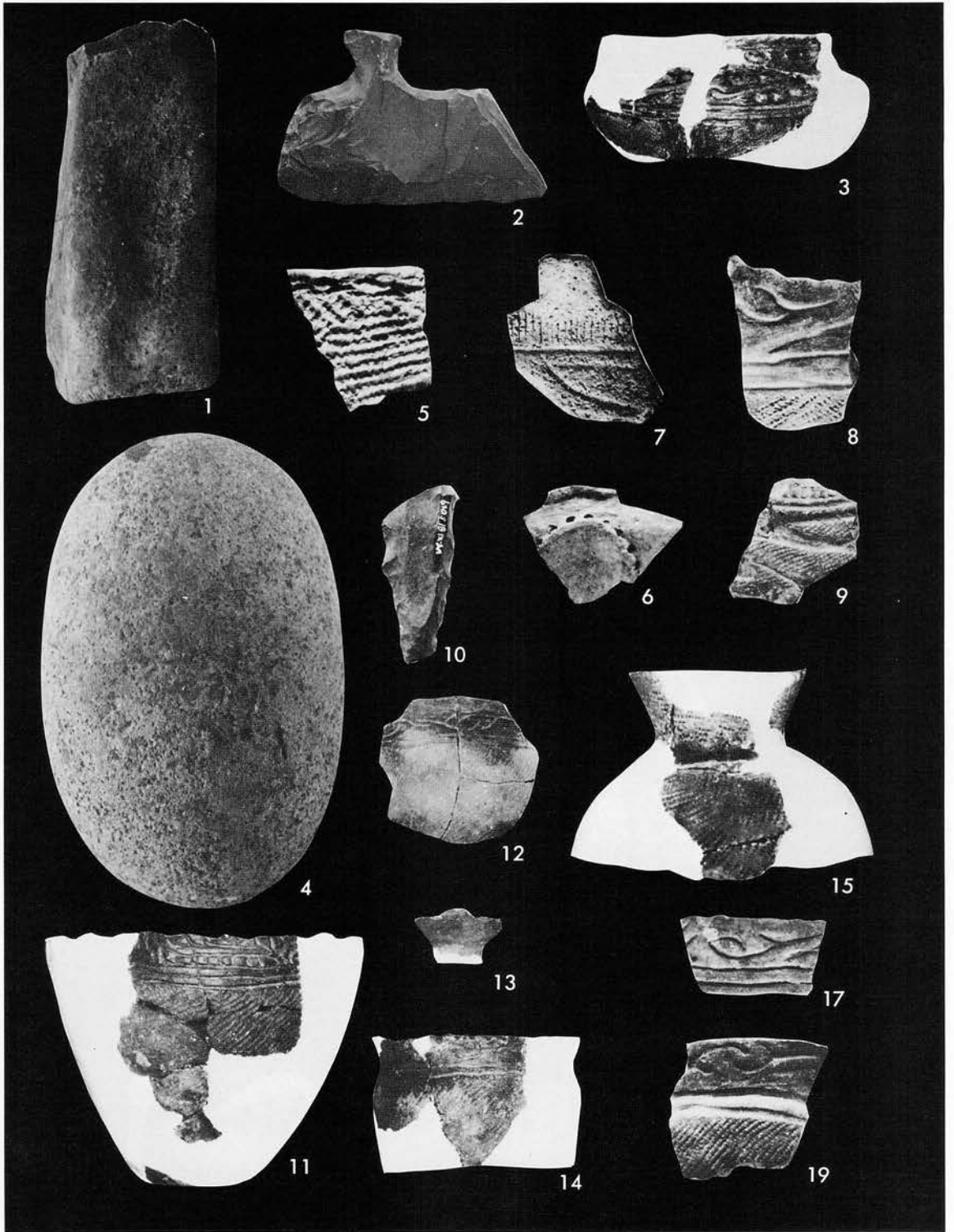


同上  
断面(3)



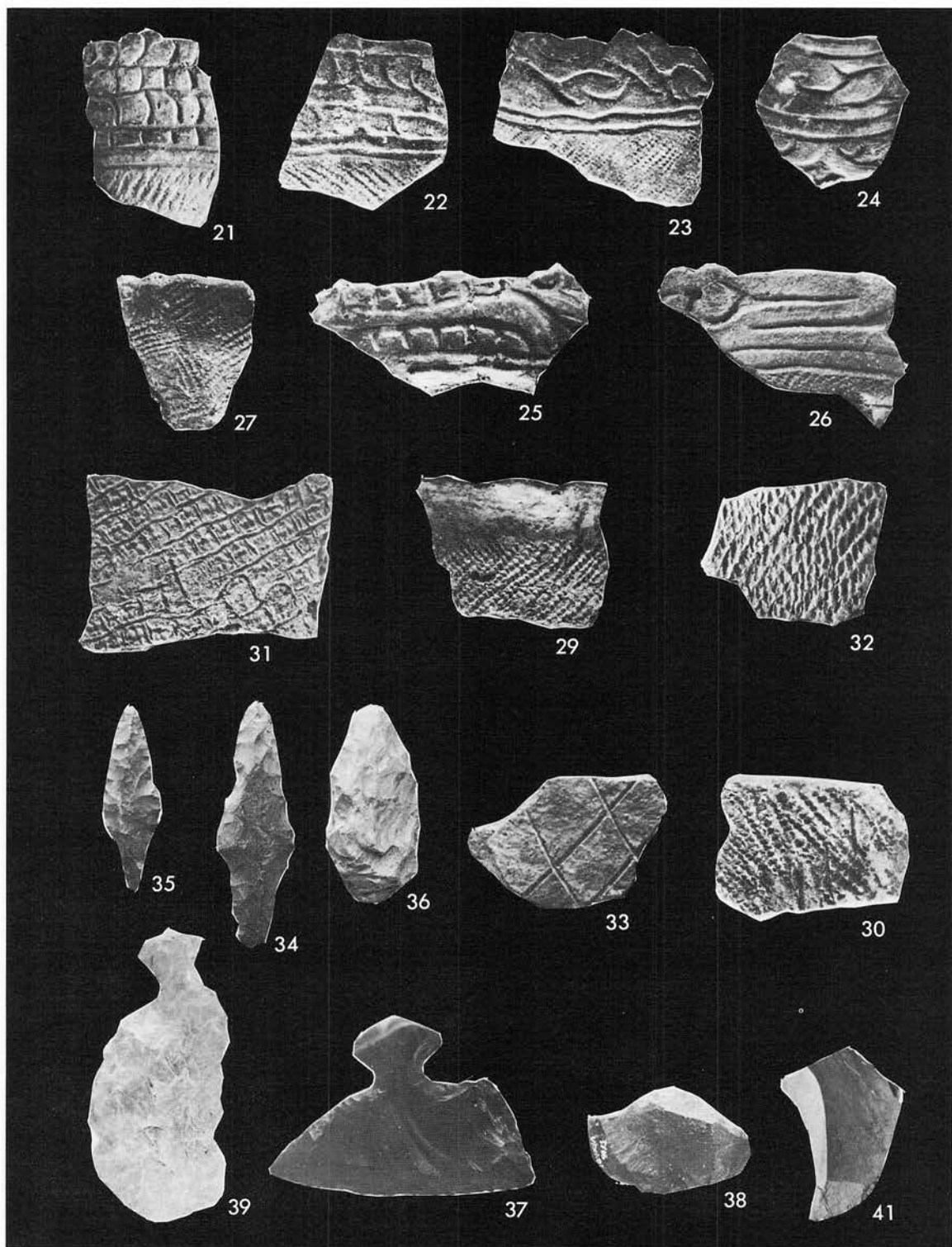
同上  
断面(4)

写真図版80 F IV-081炭焼場跡(2)

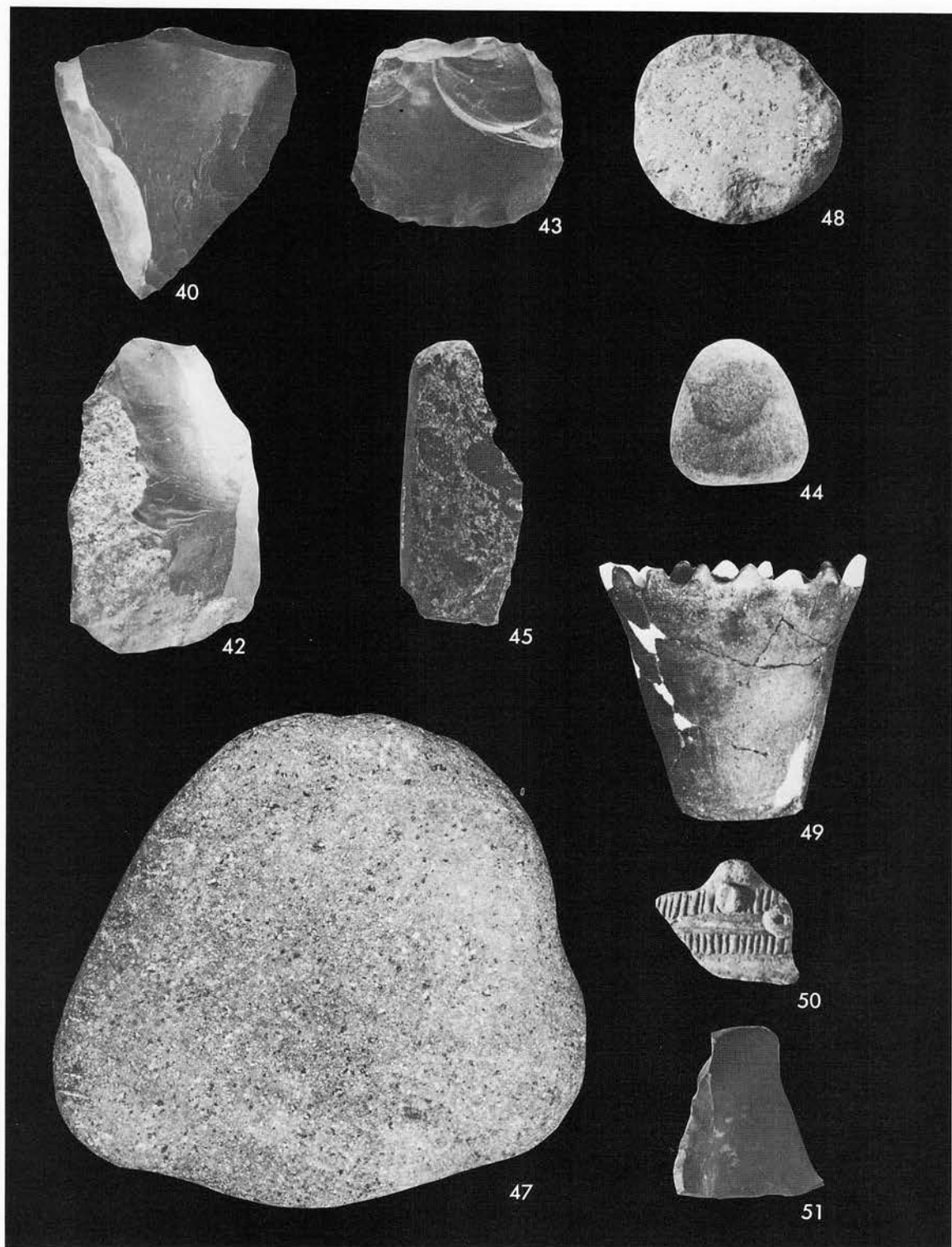


写真図版81 E II-011~014住居跡出土遺物



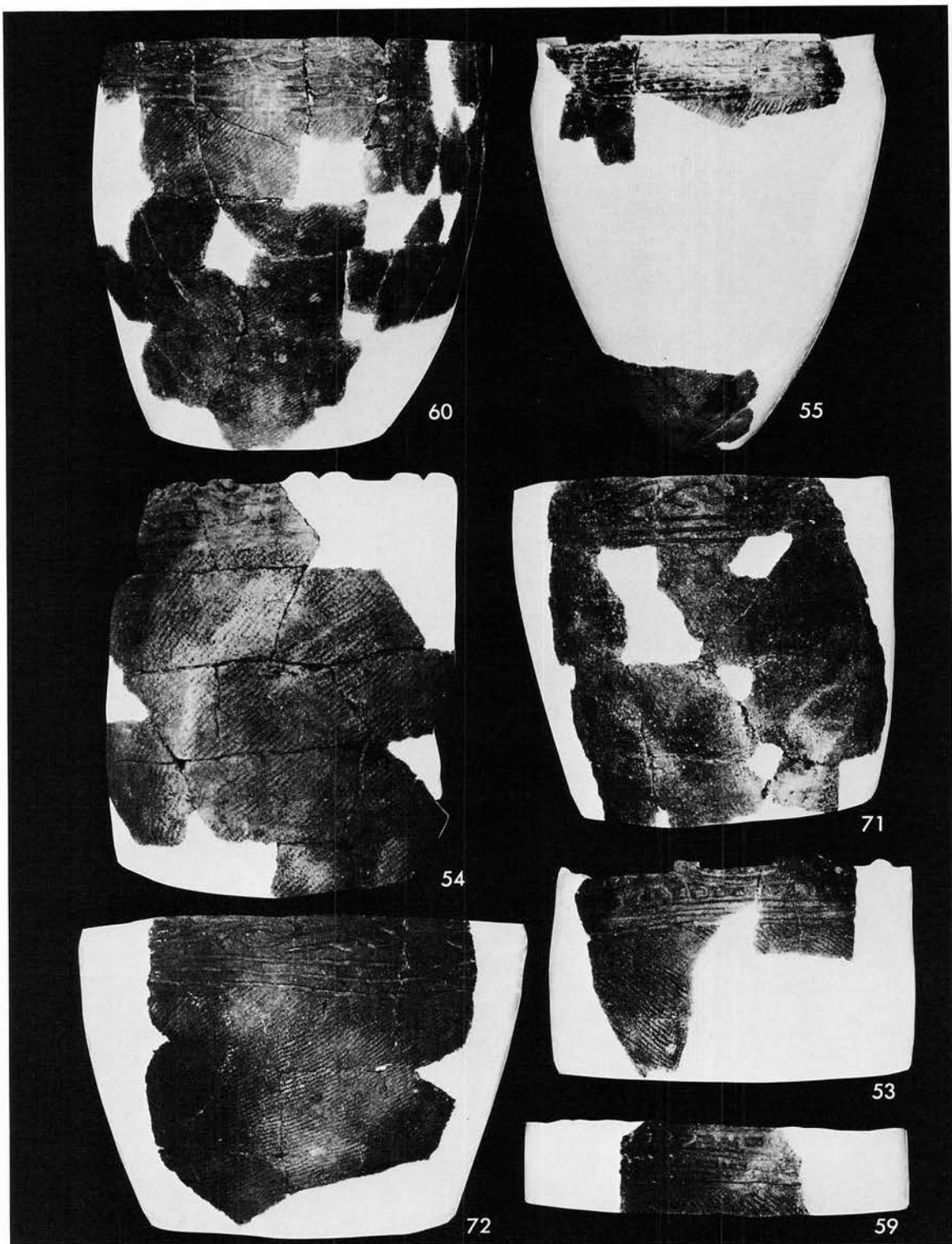


写真図版82 E II-014住居跡出土遺物

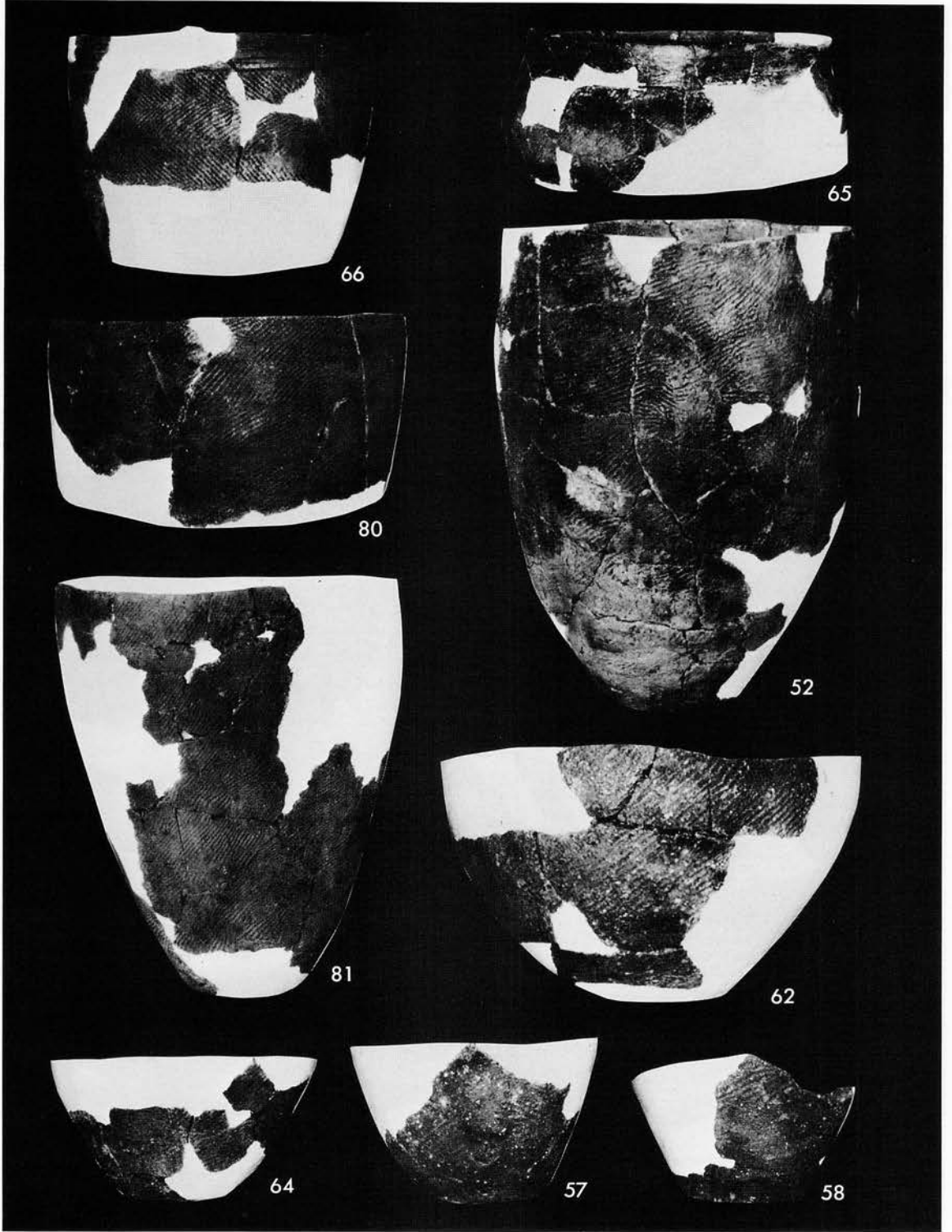


写真図版83 E II-014・015住居跡出土遺物



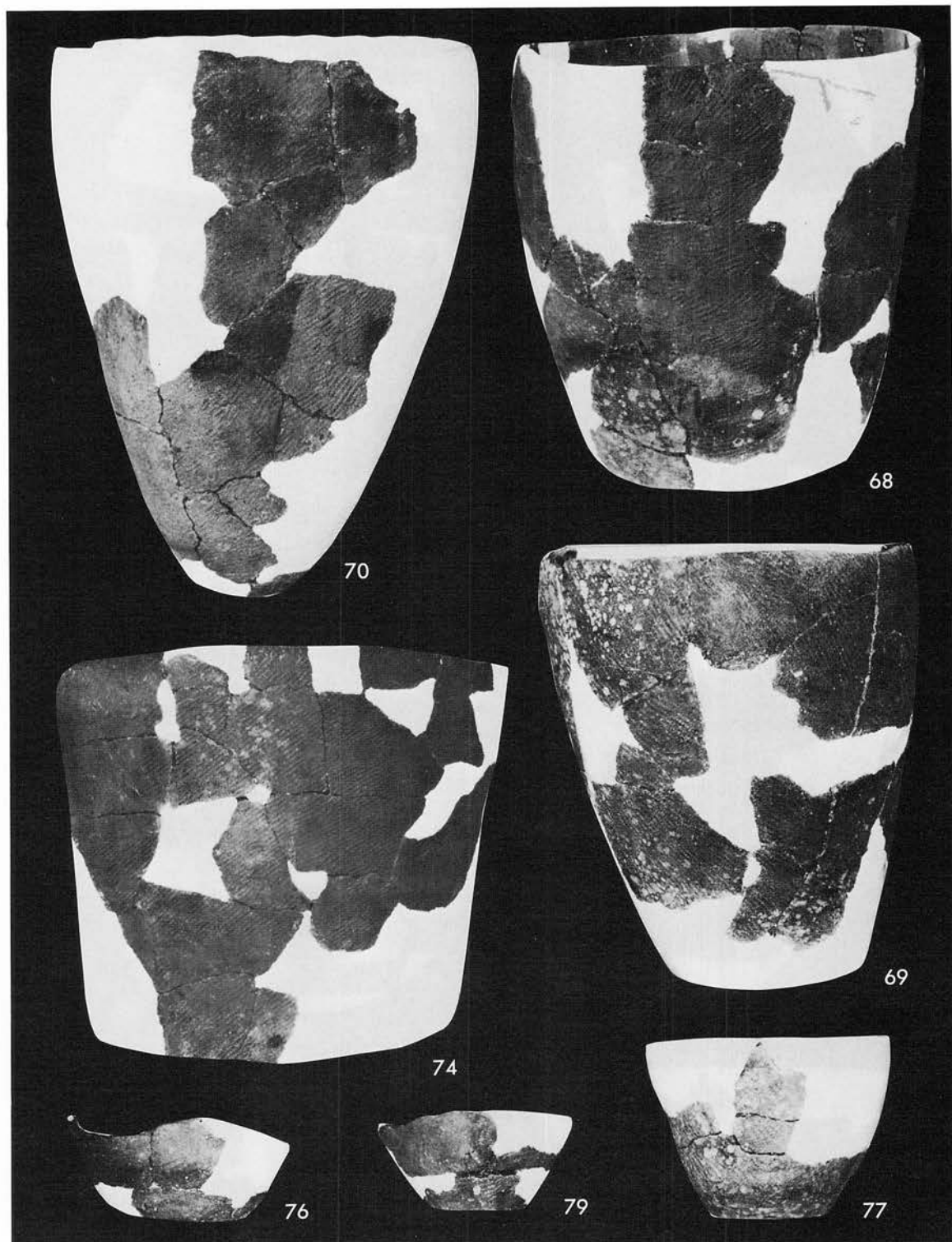


写真図版84 E III-011住居跡出土遺物(1)

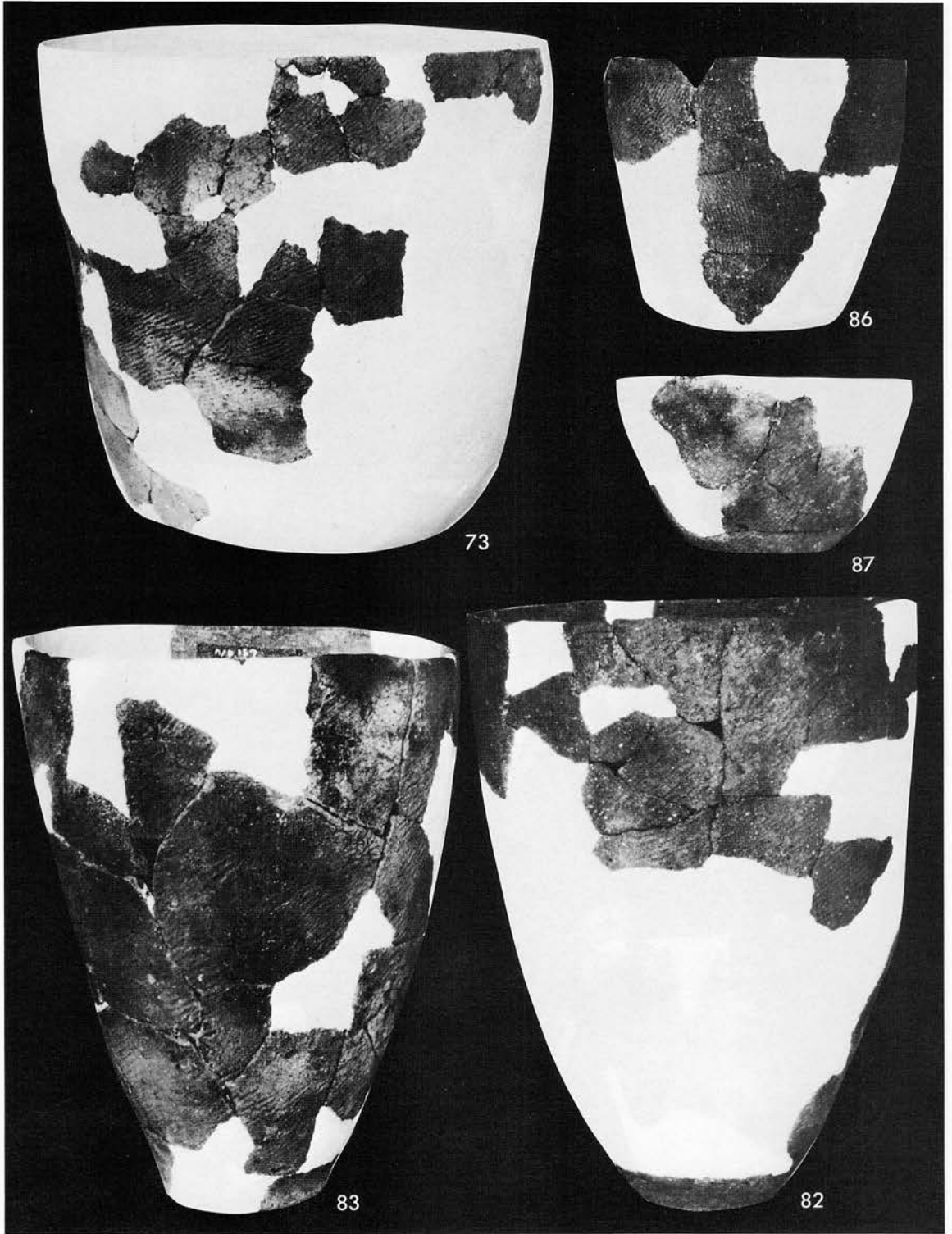


写真図版85 E III-011住居跡出土遺物(2)



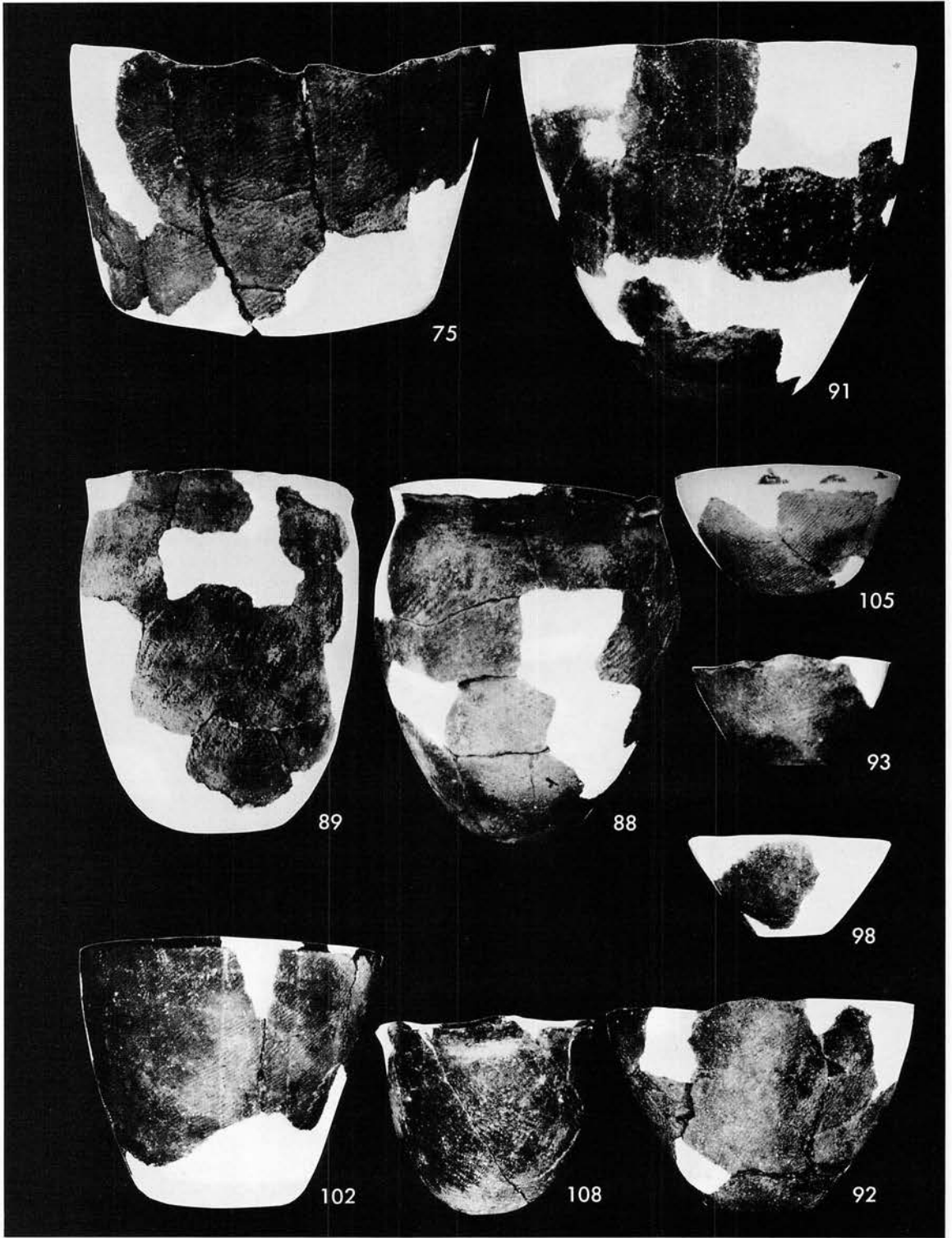


写真図版86 E III-011住居跡出土遺物(3)

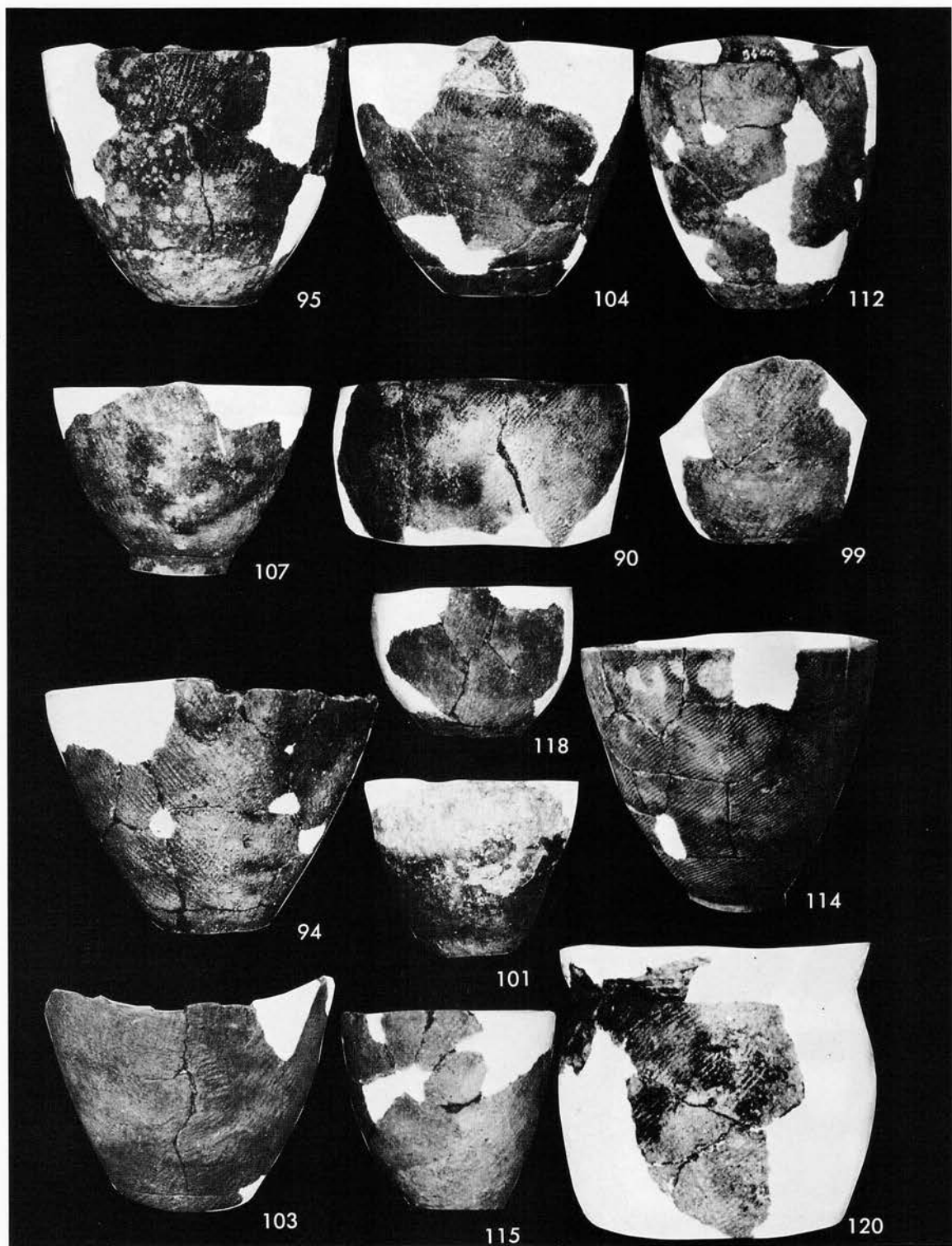


写真図版87 E III-011住居跡出土遺物(4)



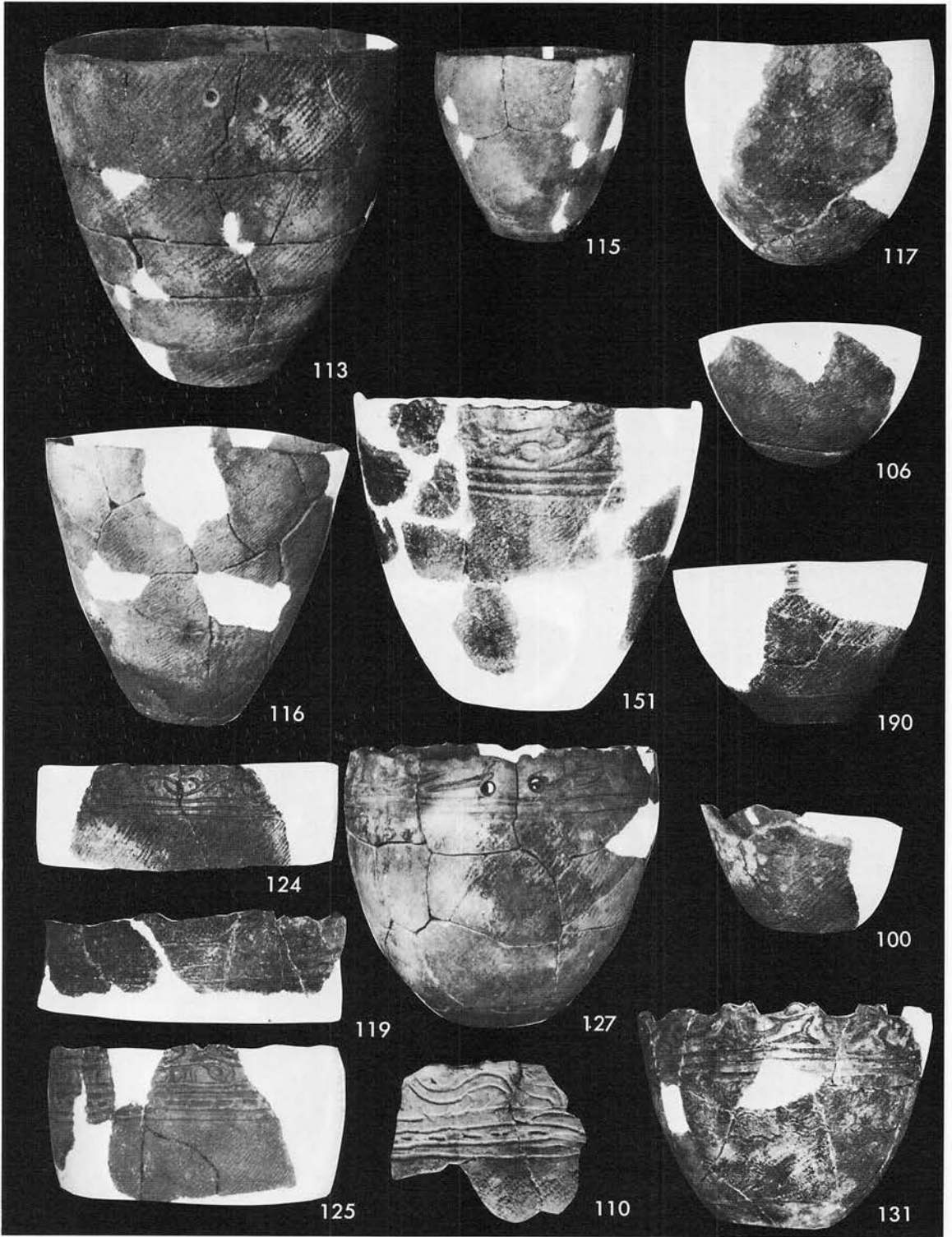


写真図版88 E III-011住居跡出土遺物(5)

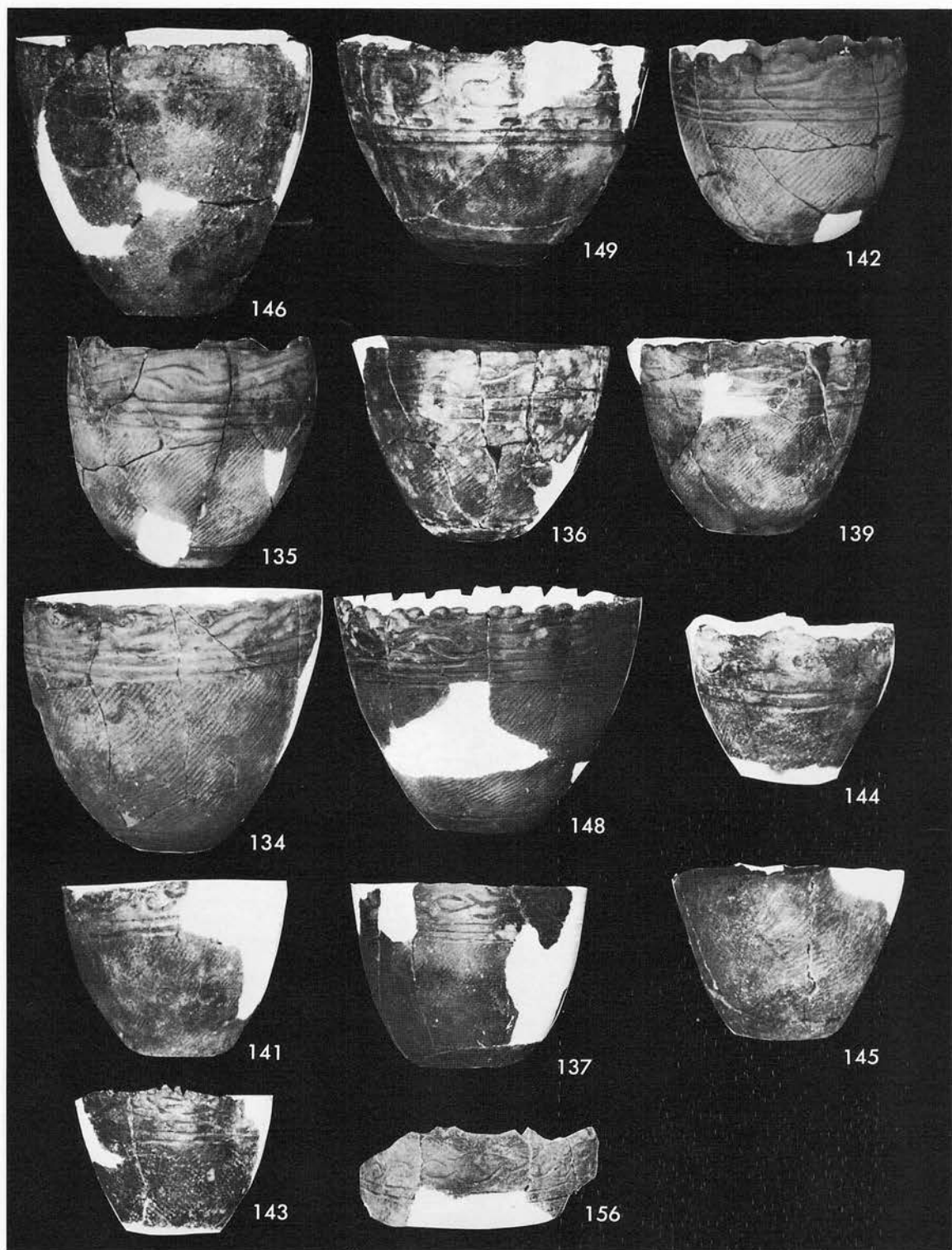


写真図版89 E III-011住居跡出土遺物(6)



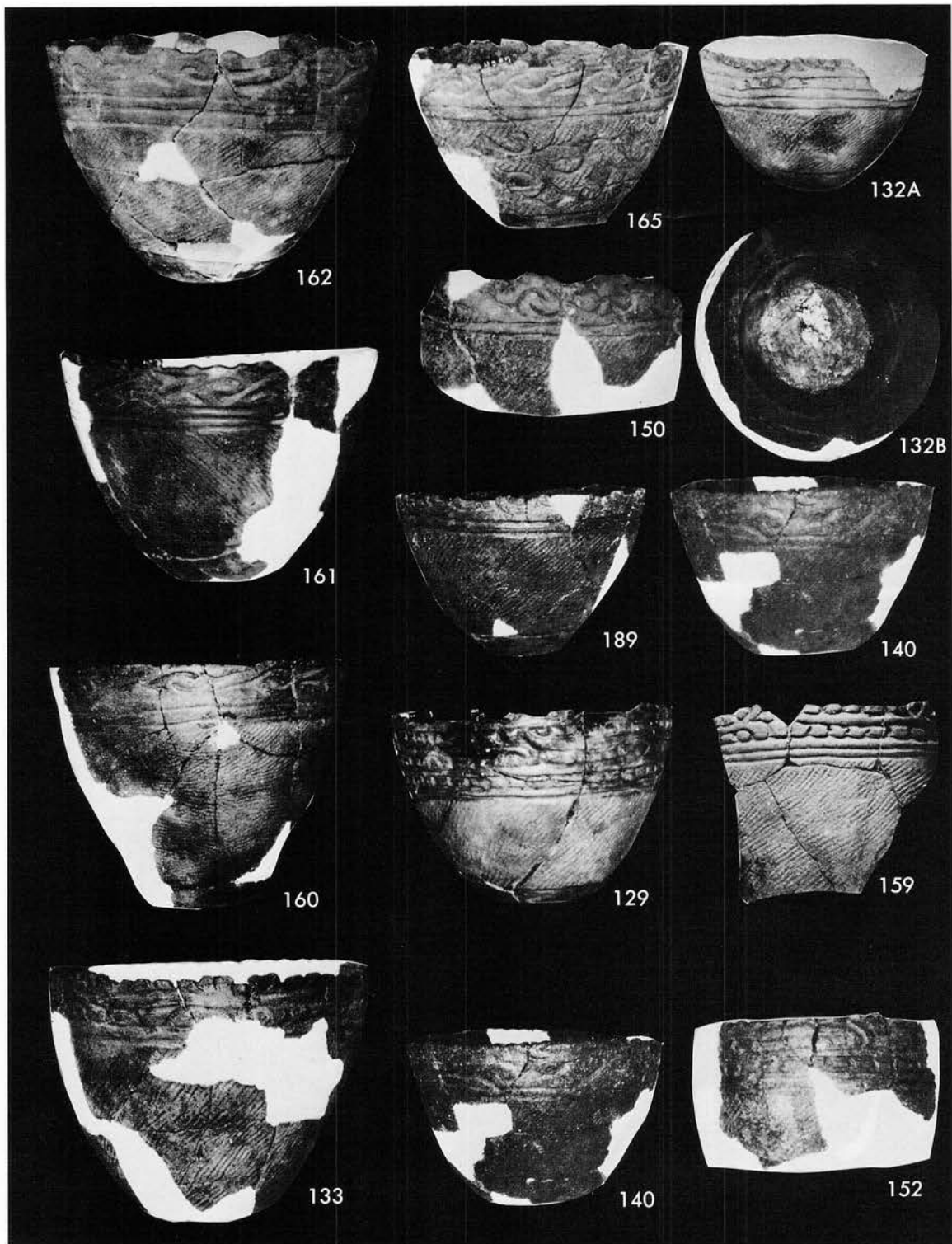


写真図版90 E III-011住居跡出土遺物(7)

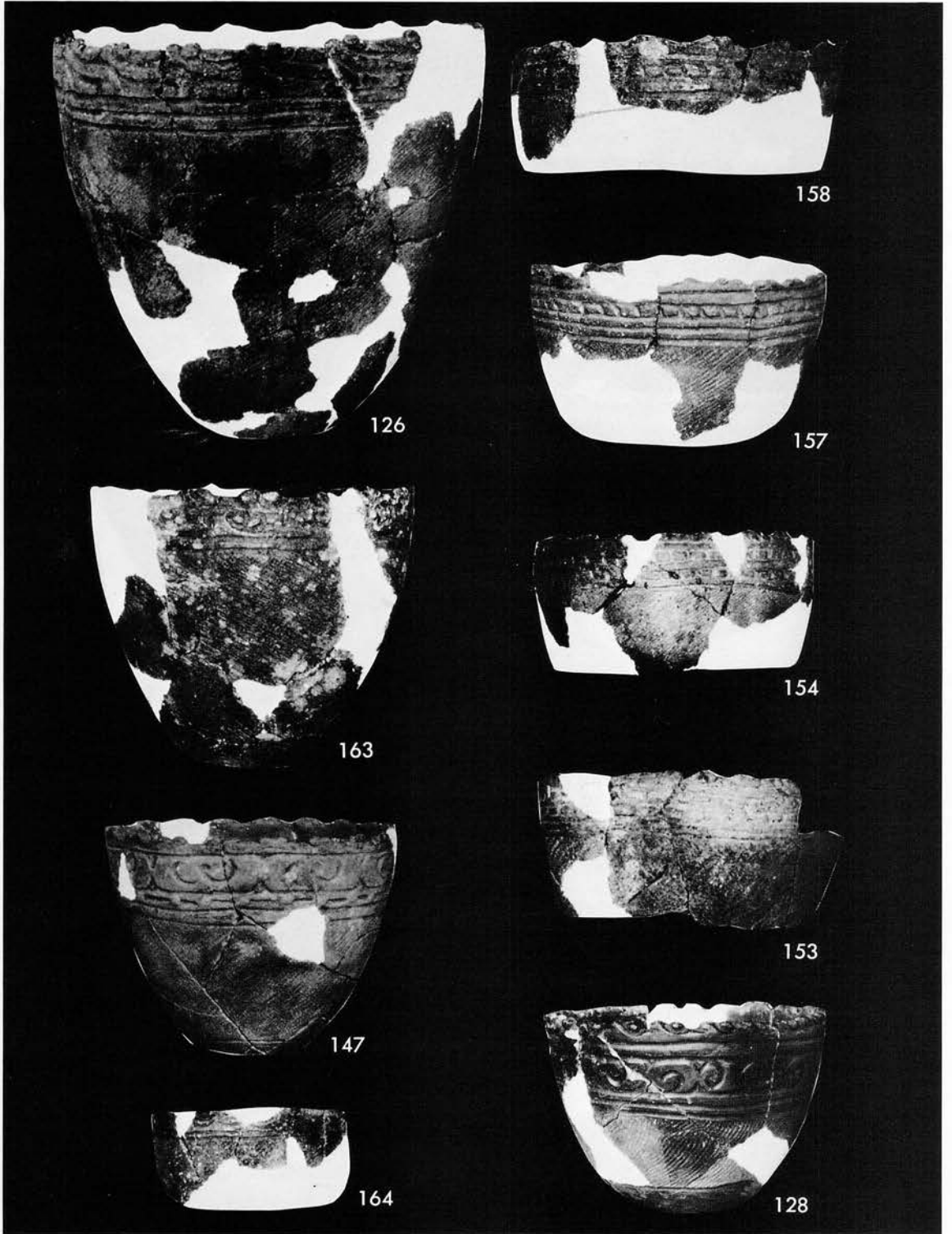


写真図版91 E III-011住居跡出土遺物(8)



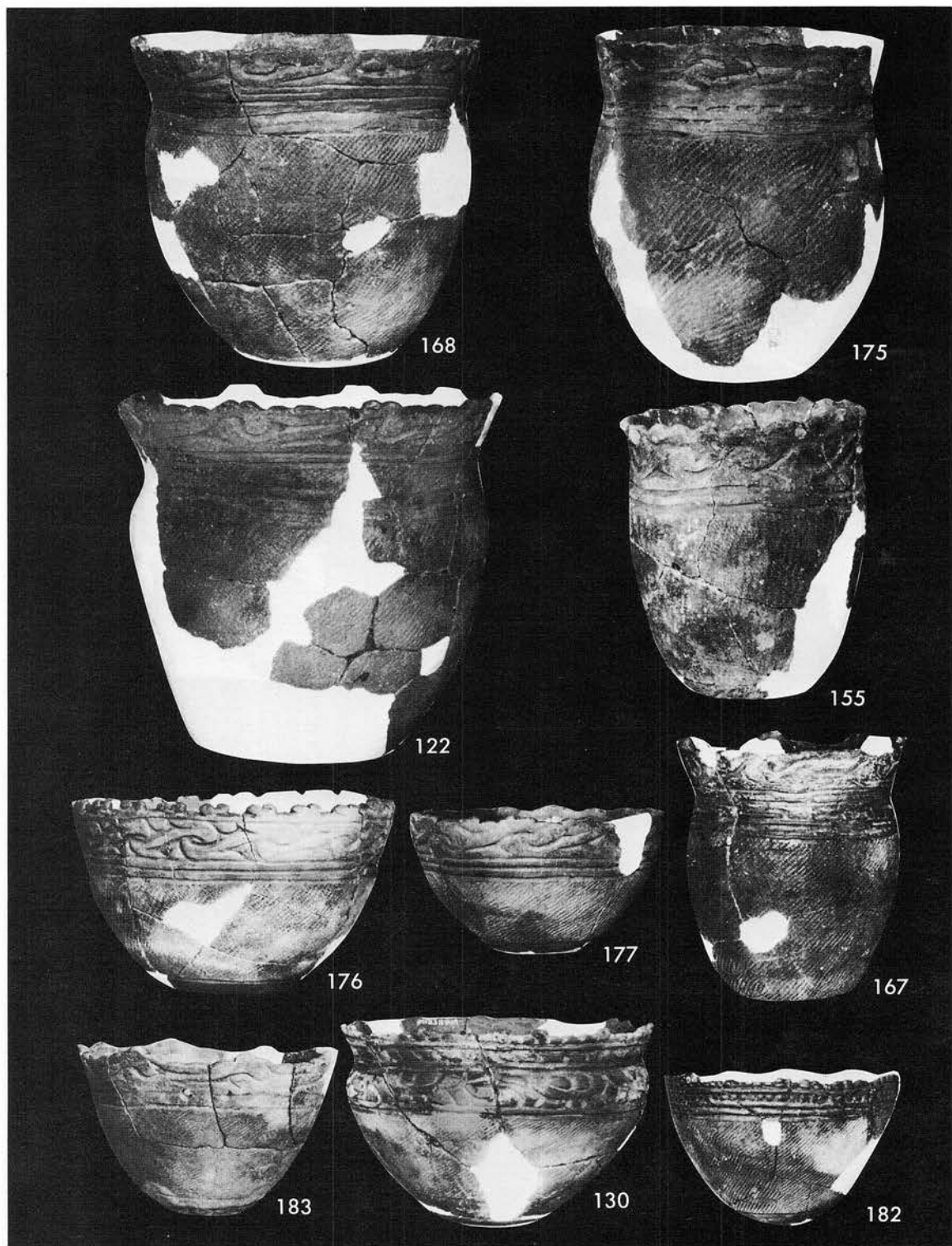


写真図版92 E III-011住居跡出土遺物(9)

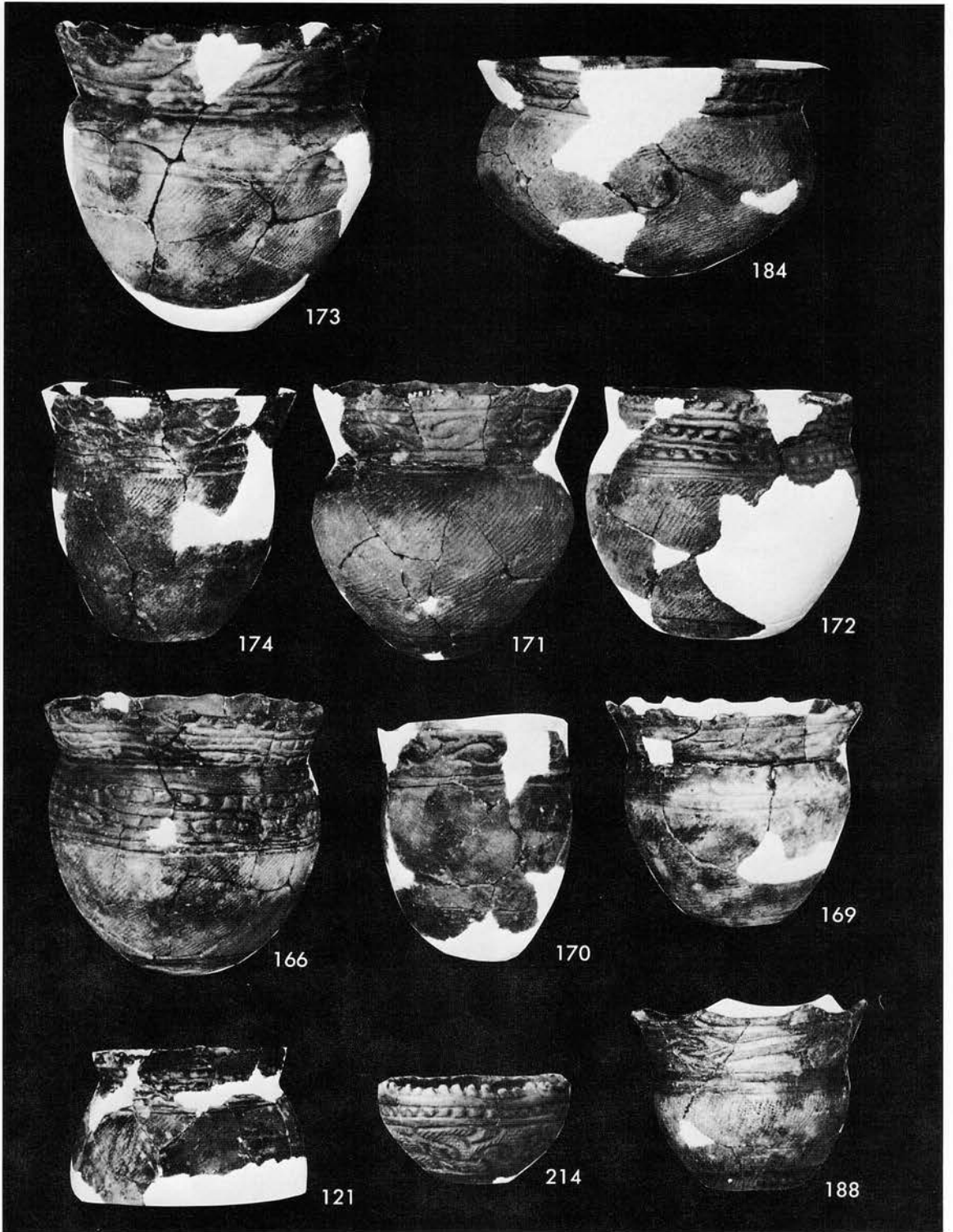


写真図版93 E III-011住居跡出土遺物 (10)



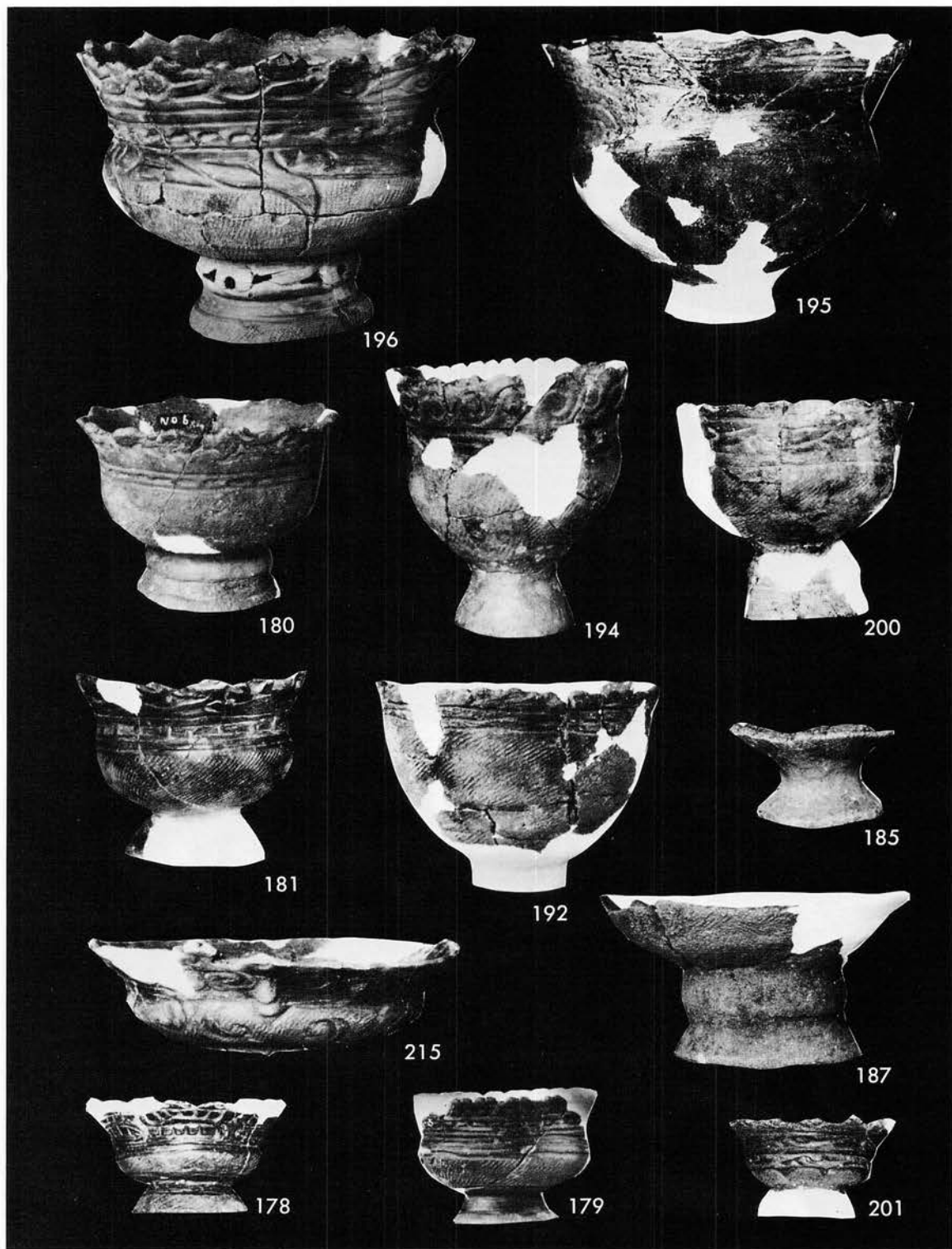


写真図版94 E III-011住居跡出土遺物 (II)

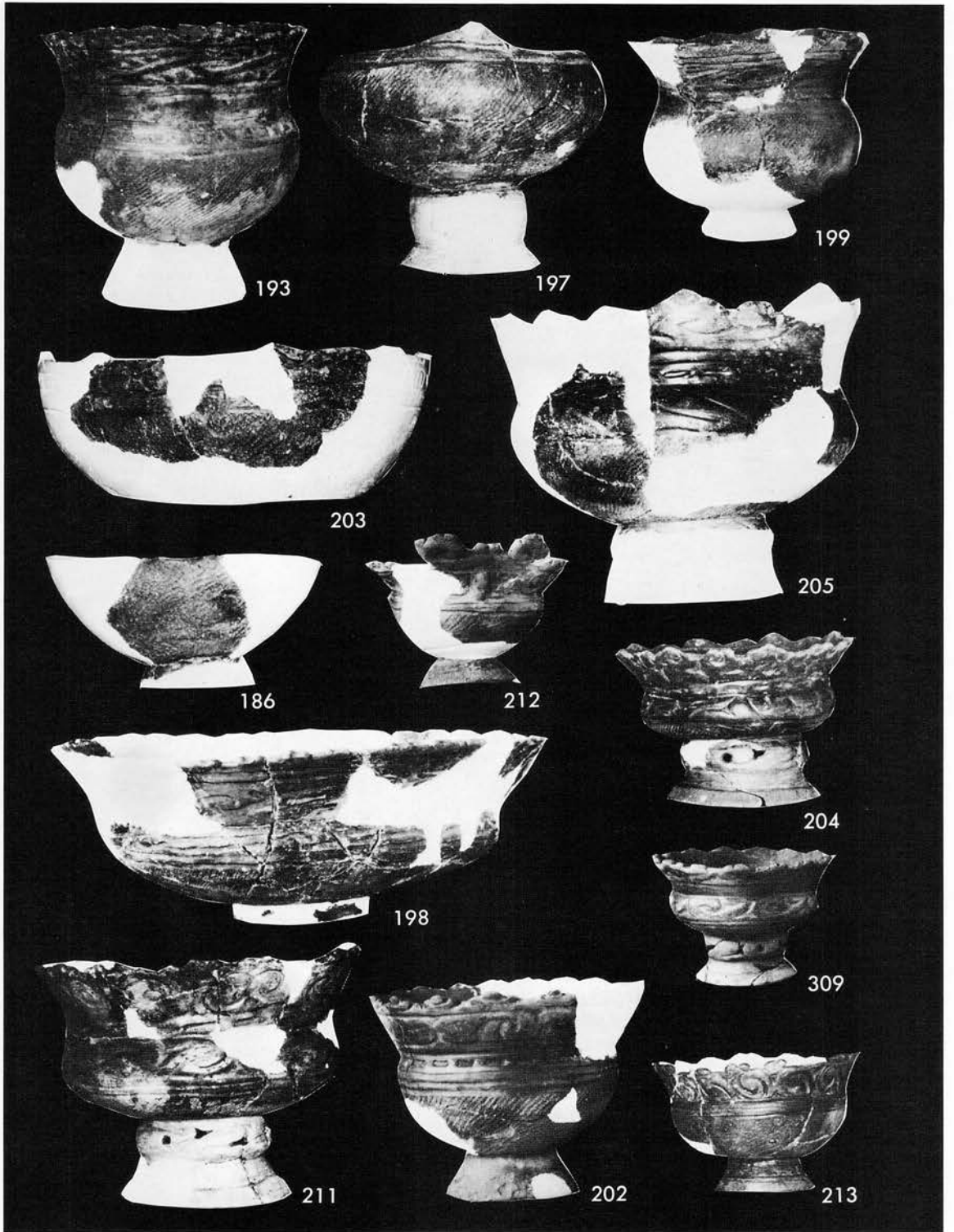


写真图版95 E III-011住居跡出土遺物 (12)



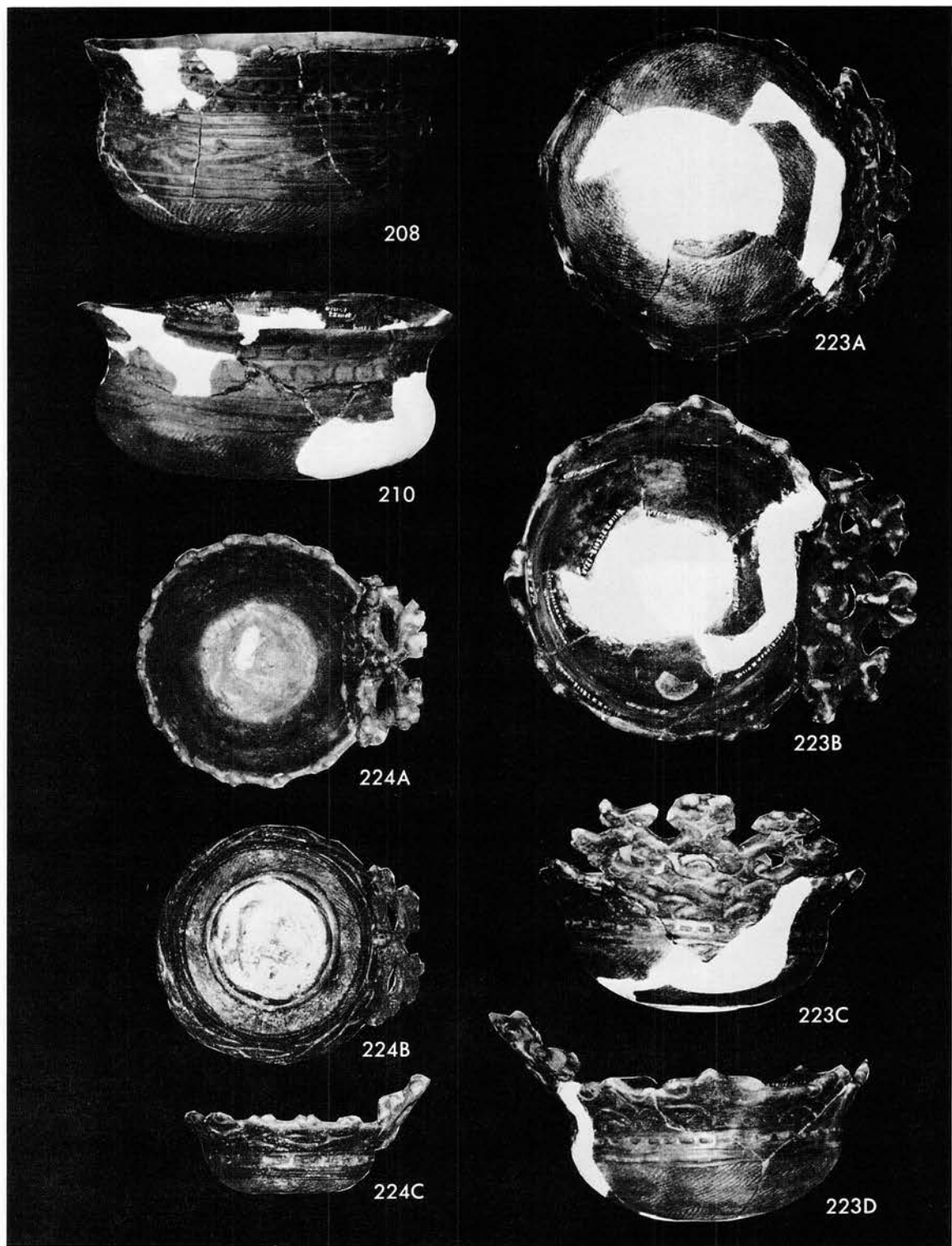


写真図版96 E III-011住居跡出土遺物(13)

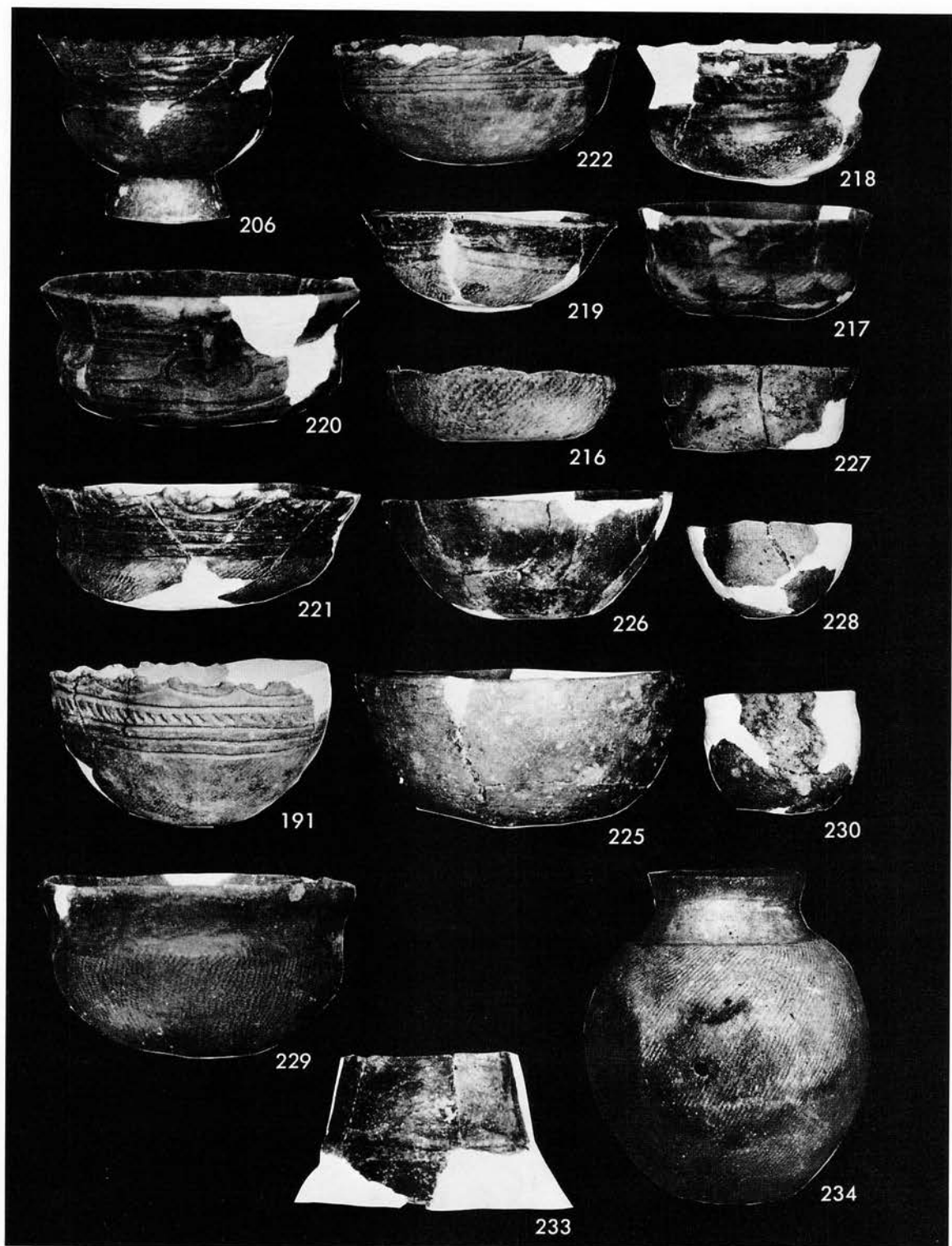


写真図版97 E III-011住居跡出土遺物 (14)



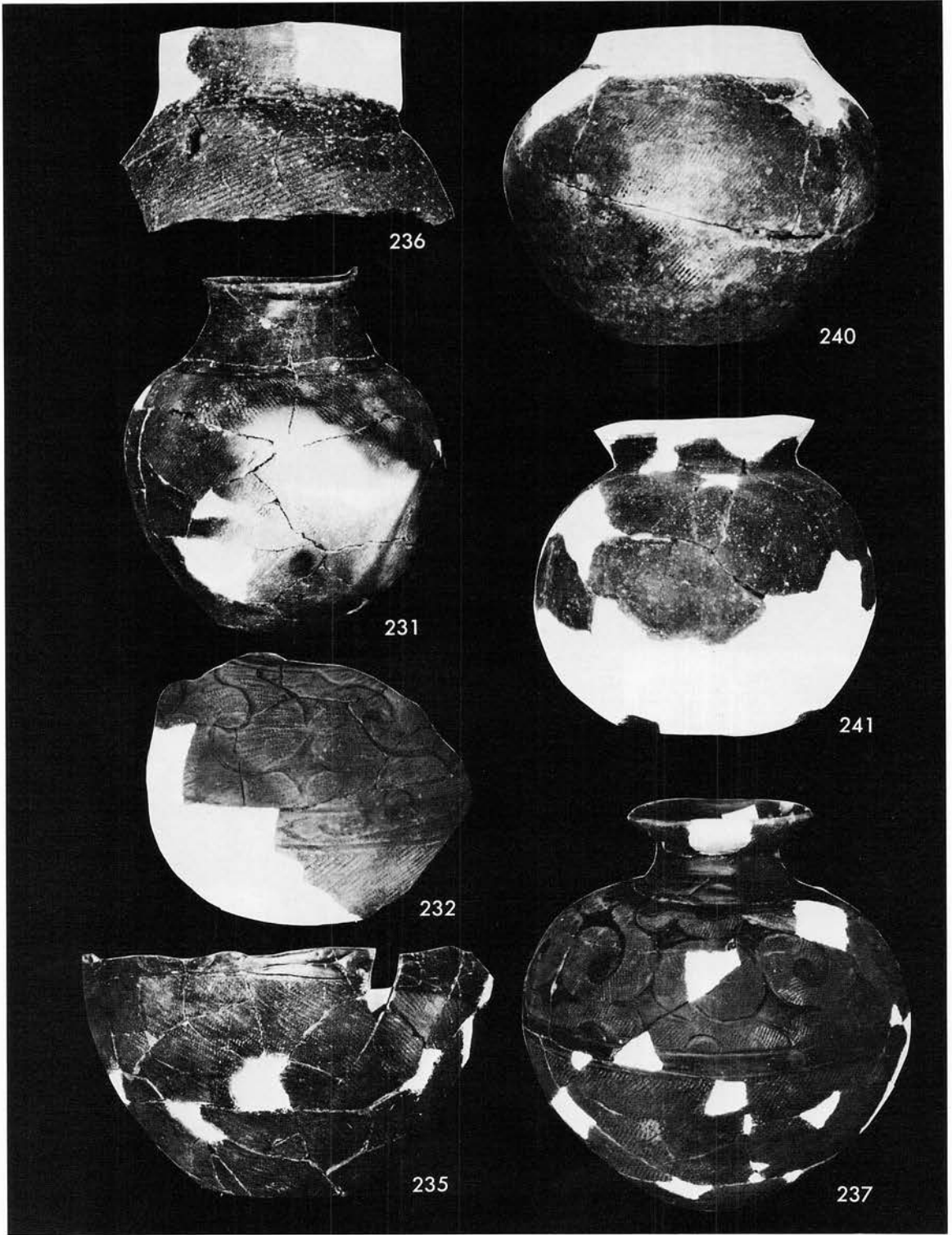


写真図版98 E III-011住居跡出土遺物(15)

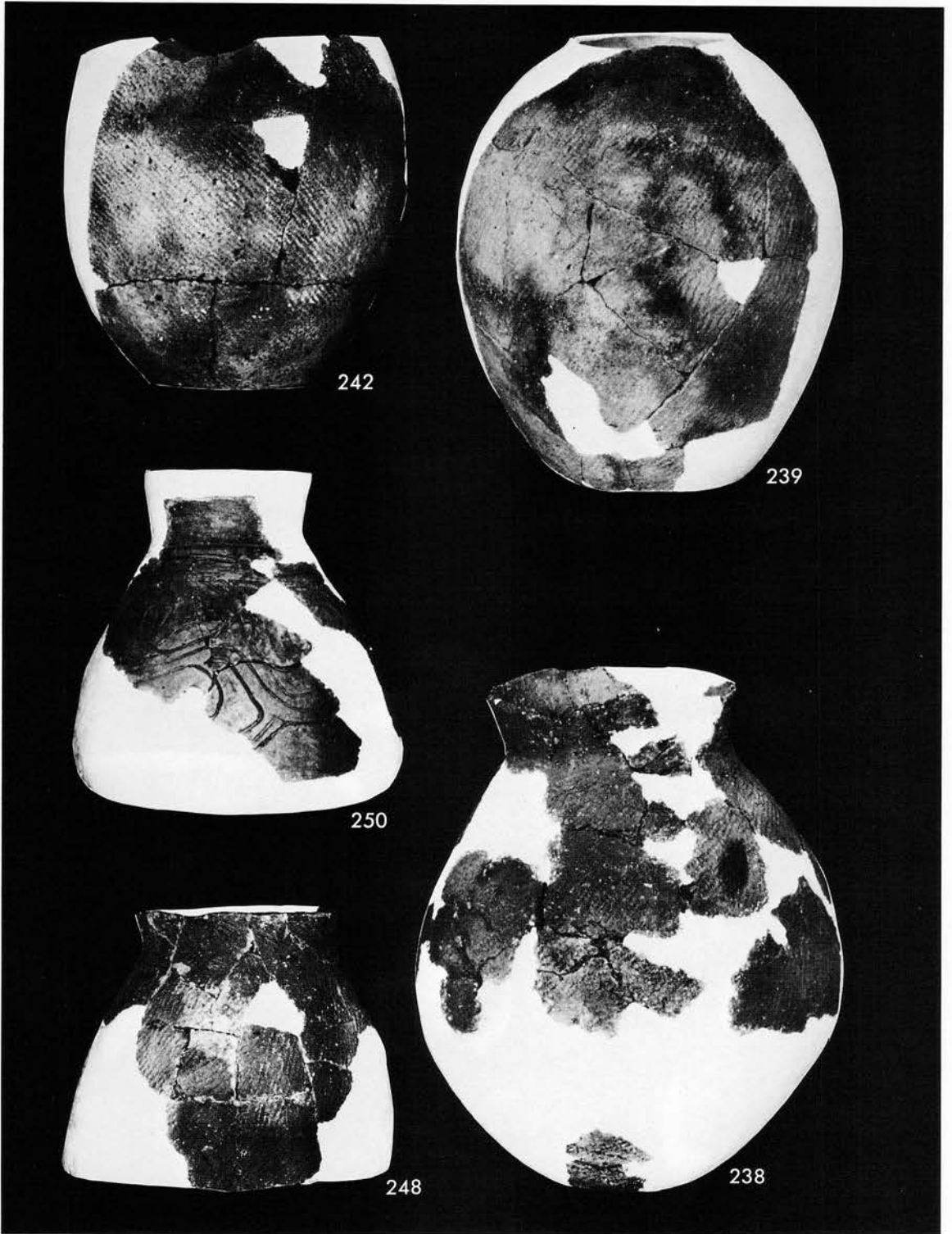


写真図版99 E III-011住居跡出土遺物 (16)



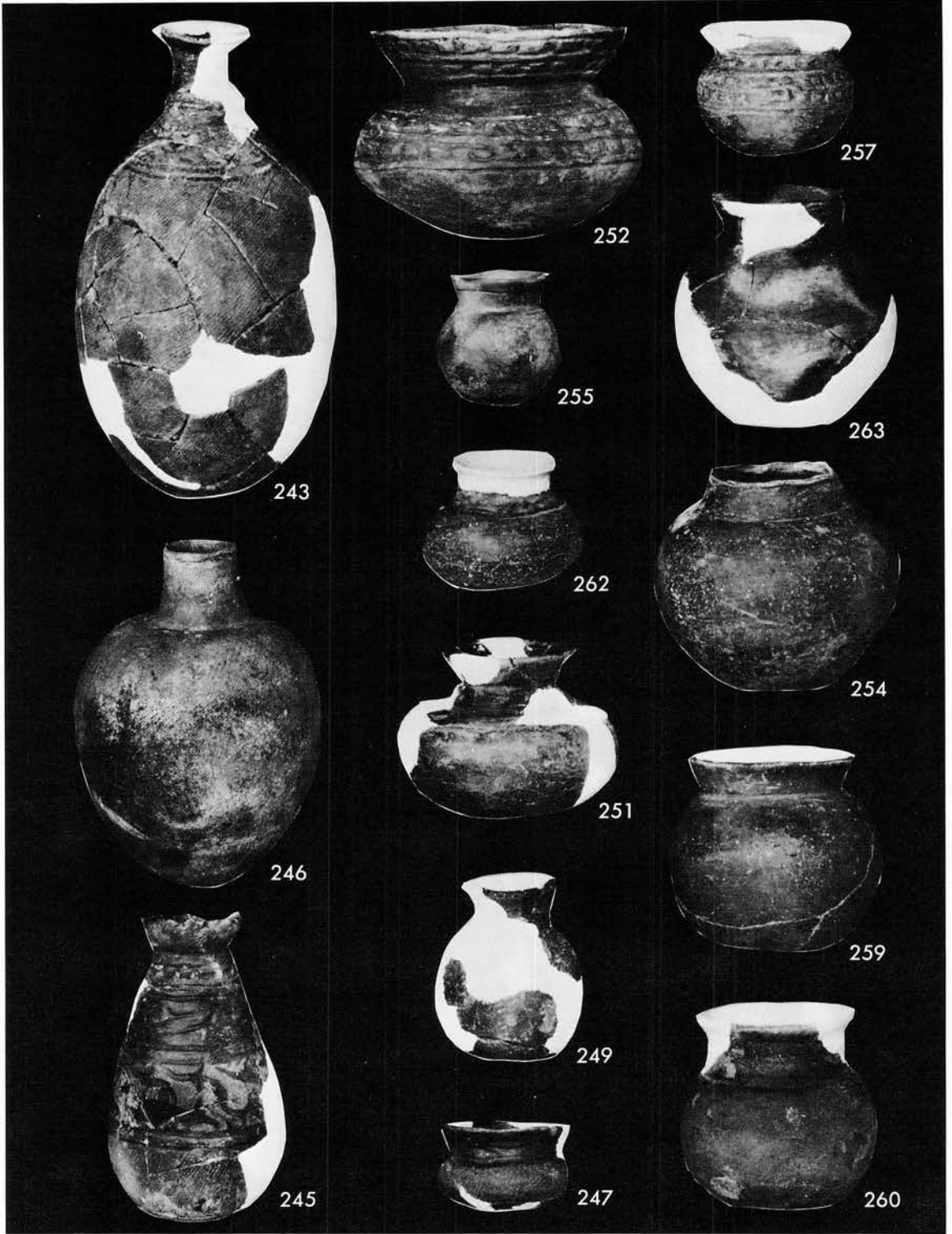


写真図版100 E III-011住居跡出土遺物 (17)

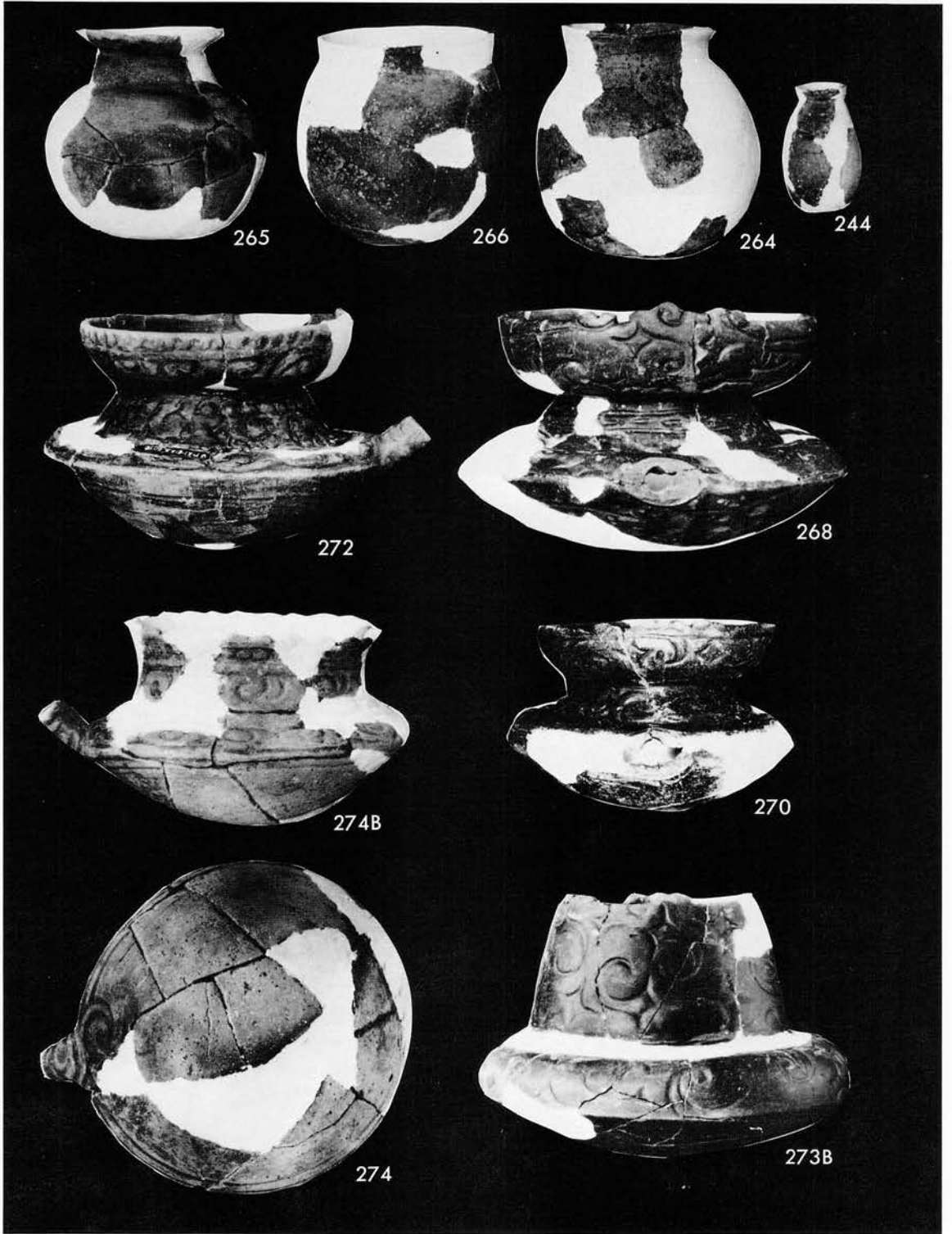


写真図版101 E III-011住居跡出土遺物 (18)



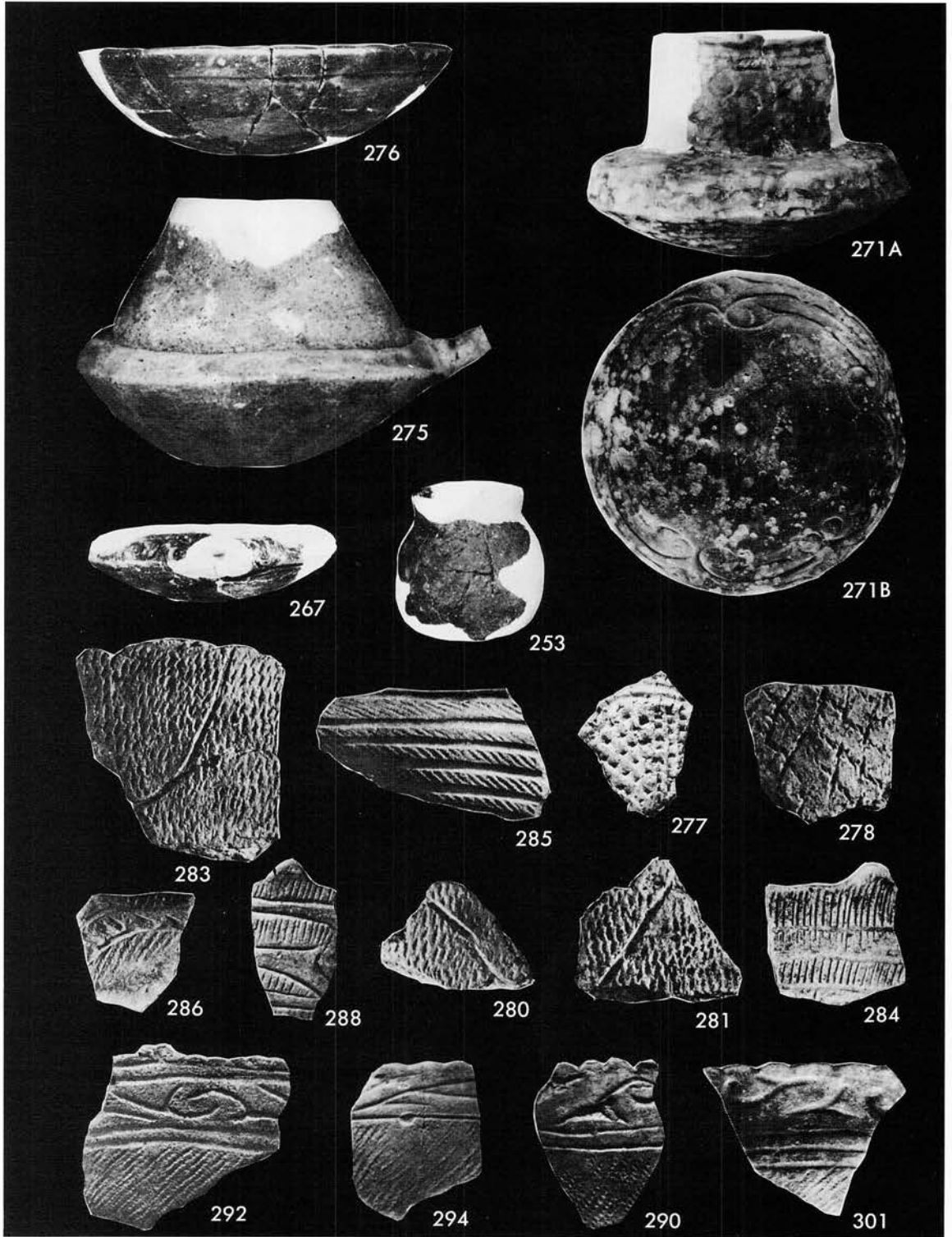


写真図版102 E III-011住居跡出土遺物 (19)

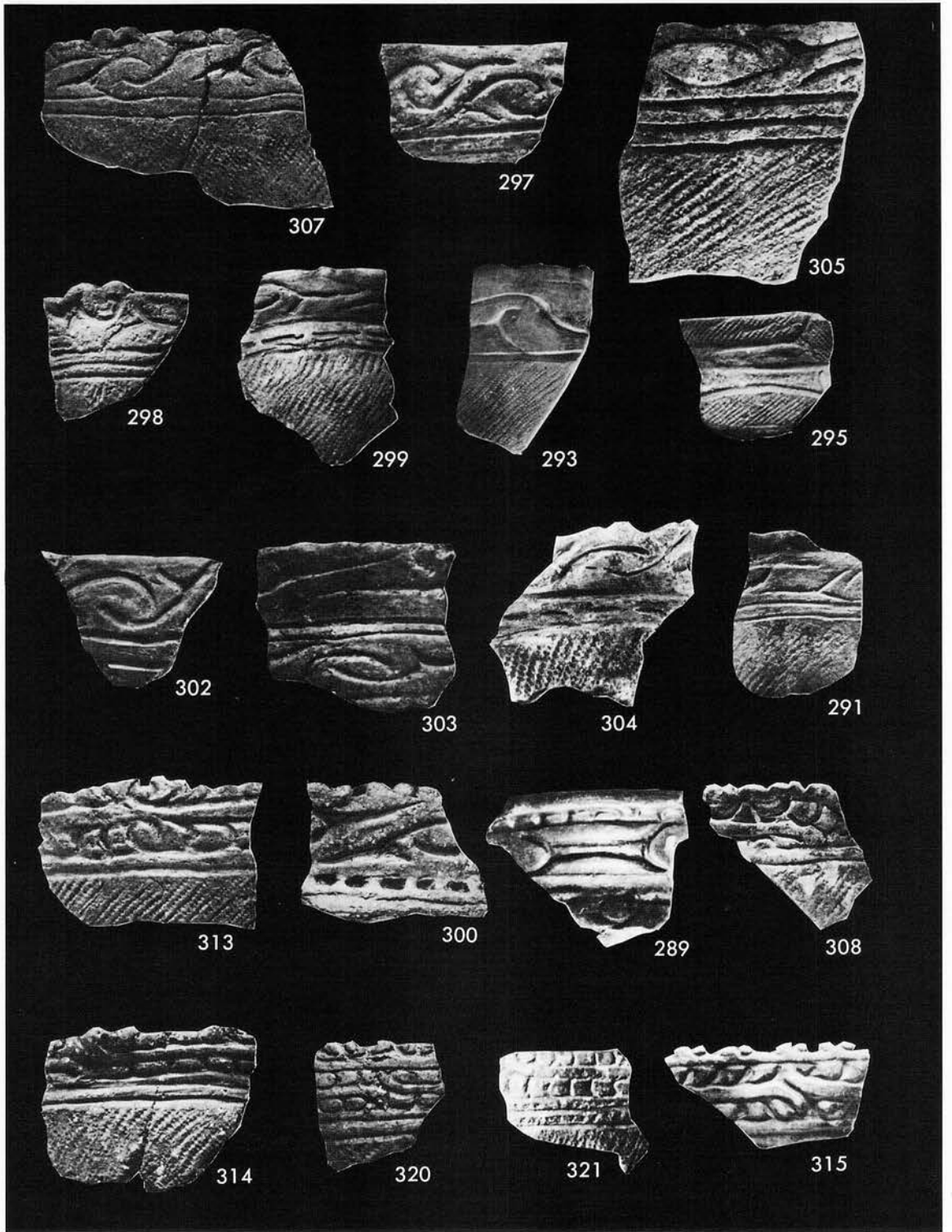


写真図版103 E III-011住居跡出土遺物 (20)



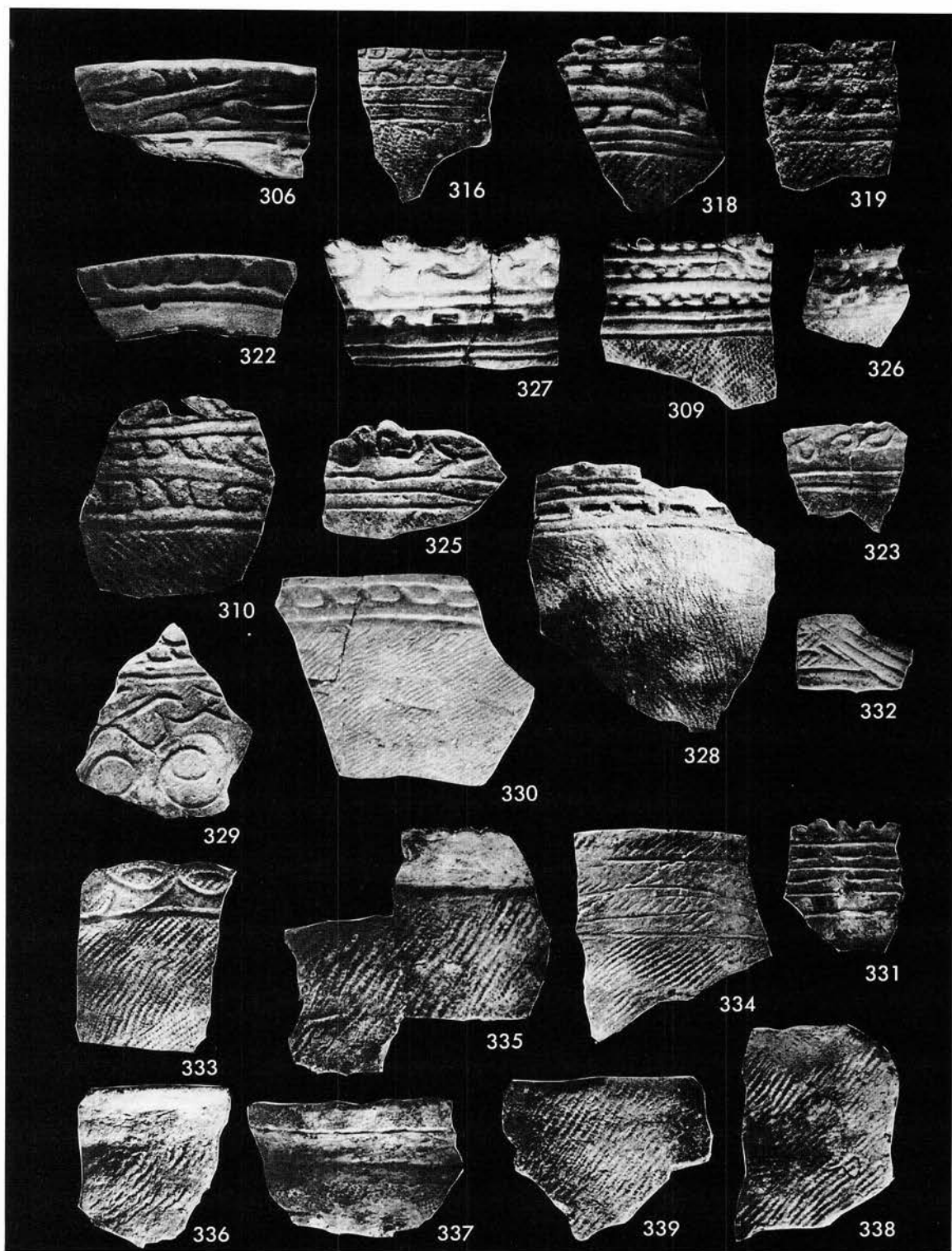


写真図版104 E III-011住居跡出土遺物 (21)

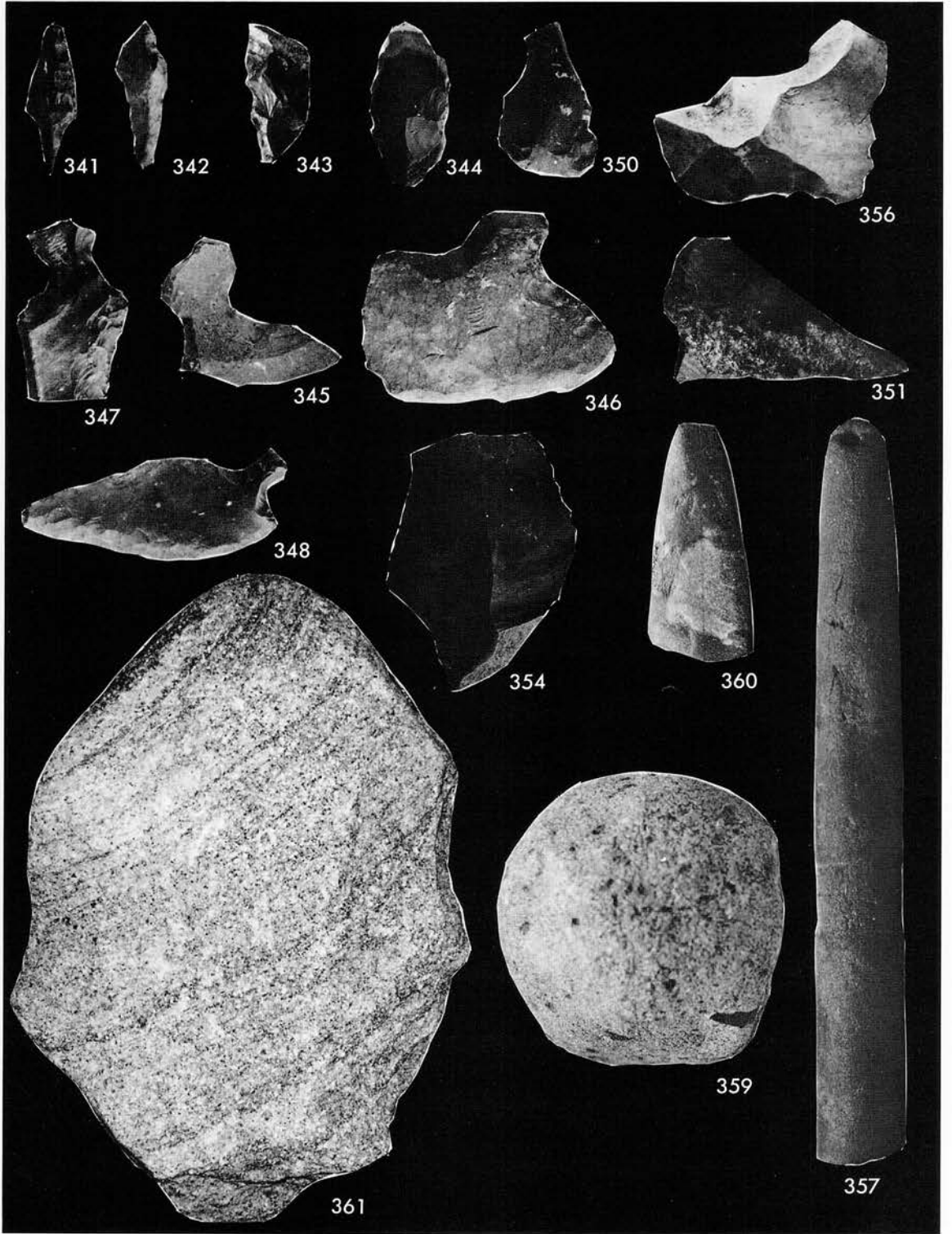


写真图版105 E III—011住居跡出土遺物 (22)



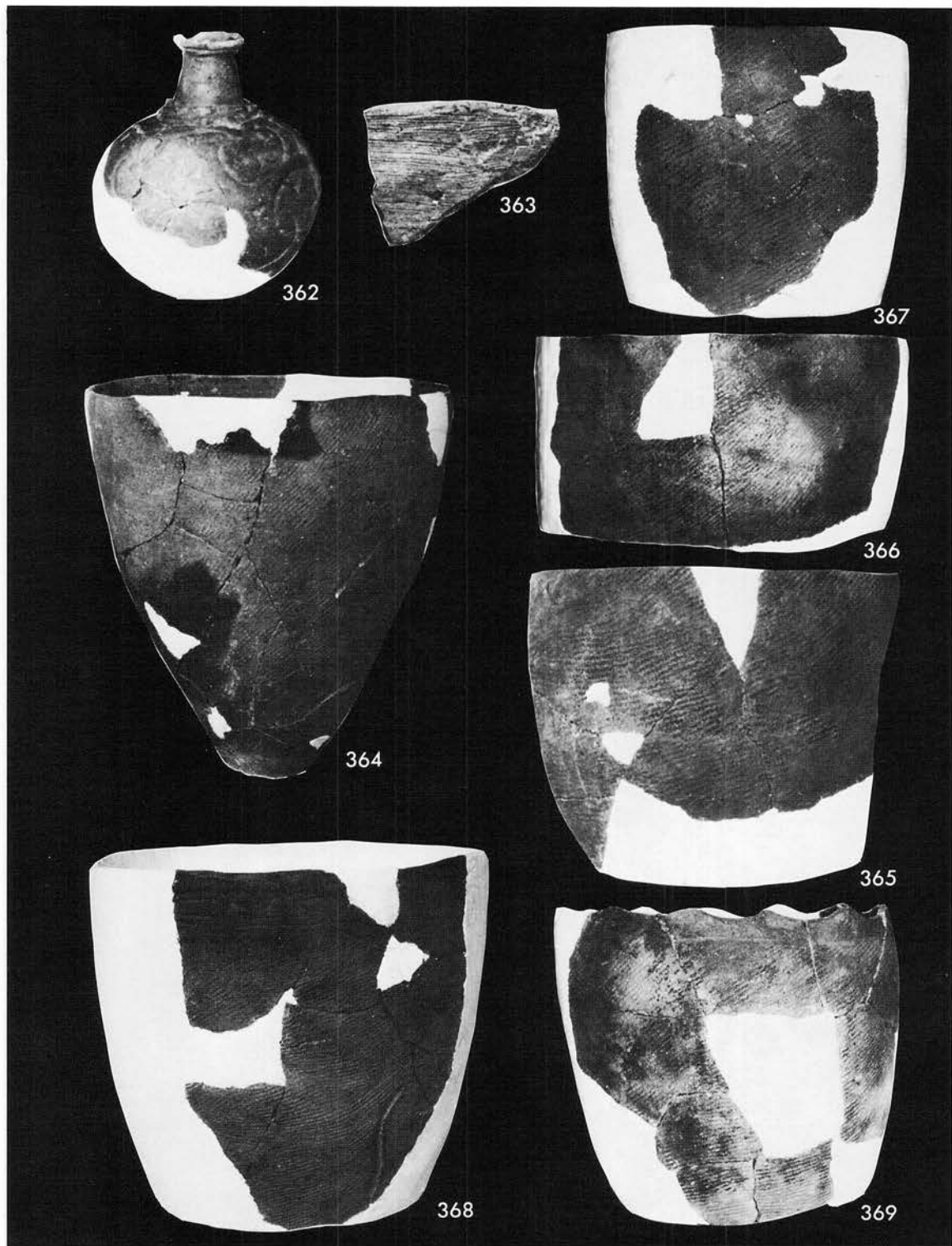


写真図版106 E III-011住居跡出土遺物 (23)

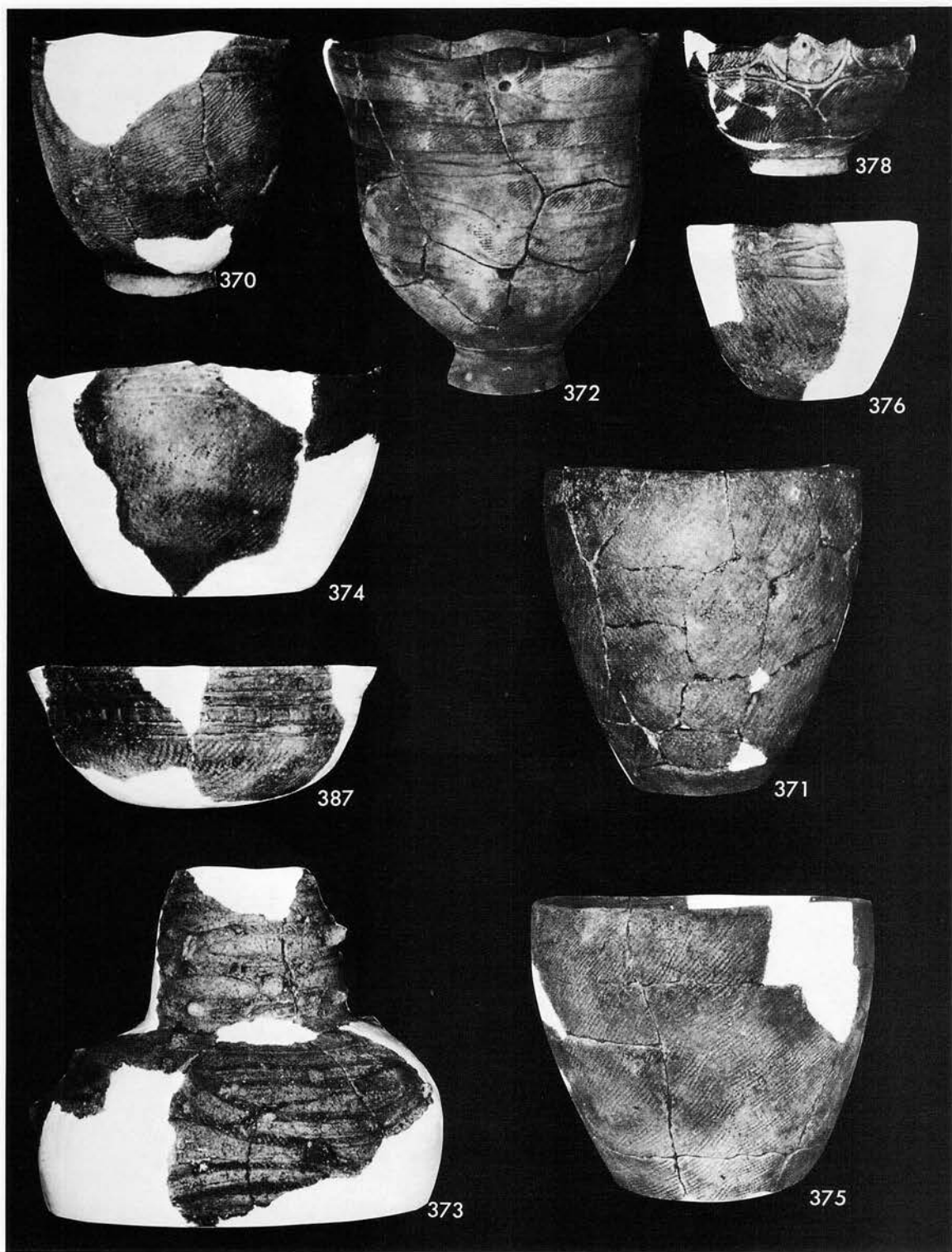


写真图版107 E III-011住居跡出土遺物 (24)



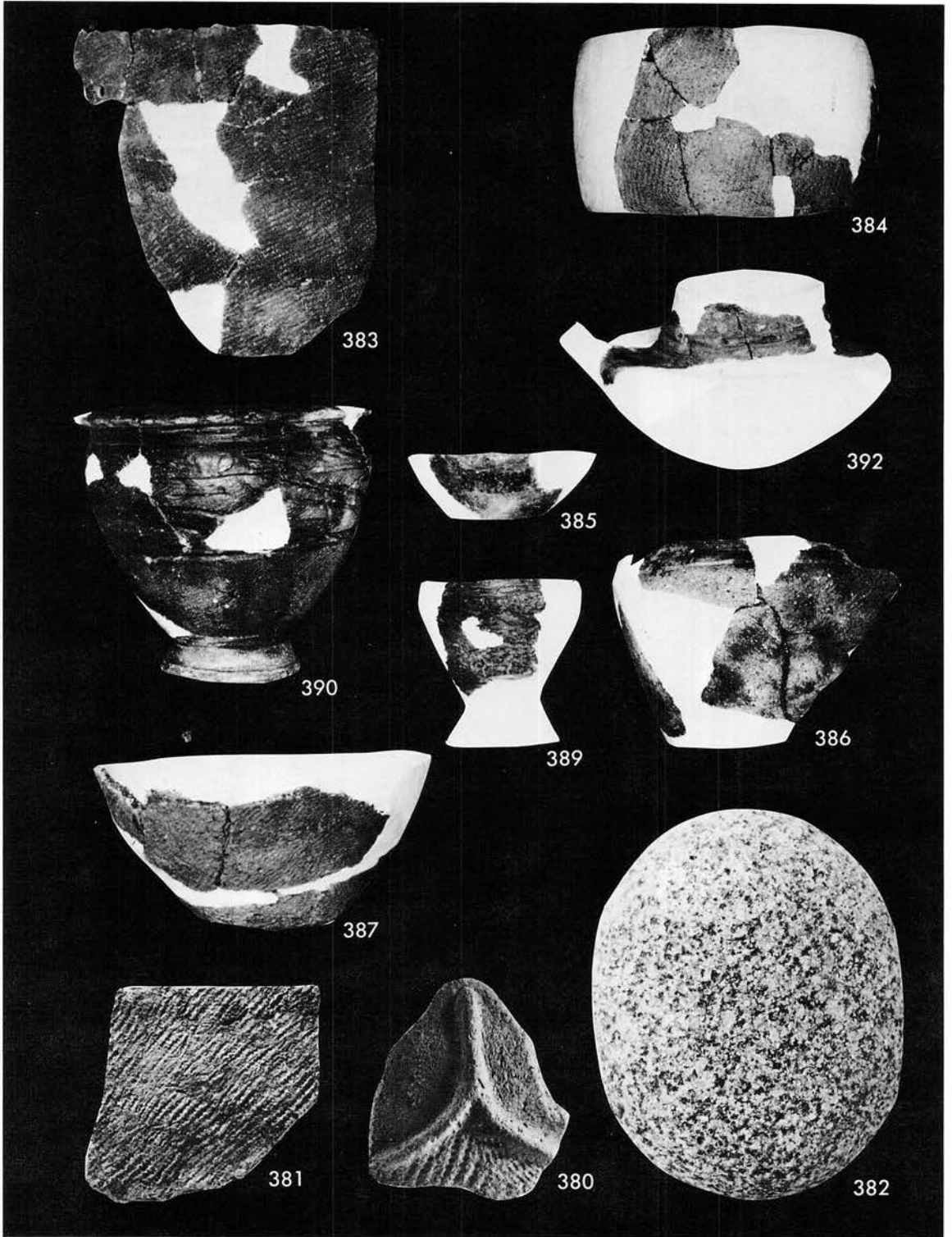


写真図版108 E III-012・F III-012・013住居跡出土遺物

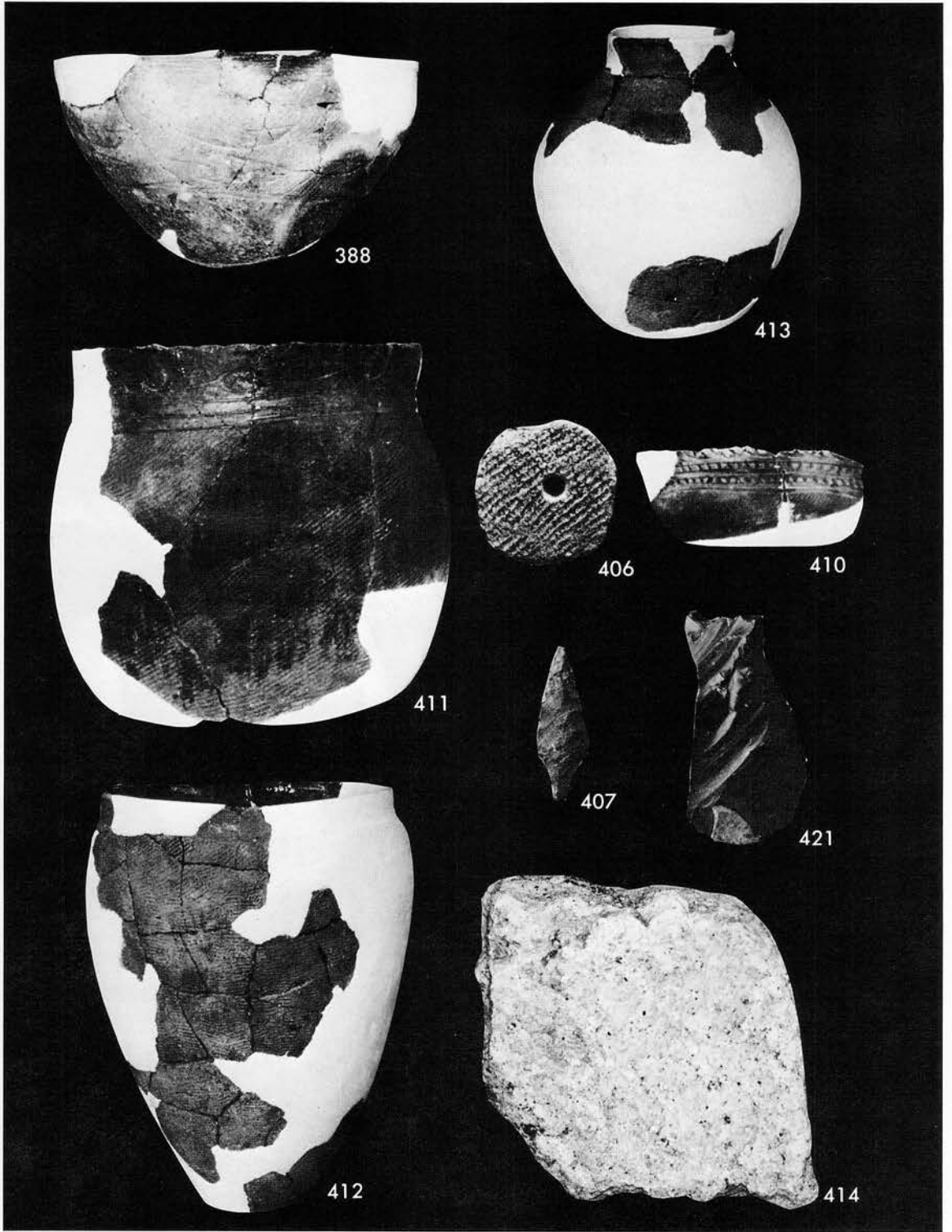


写真図版109 F III-013住居跡出土遺物(2)



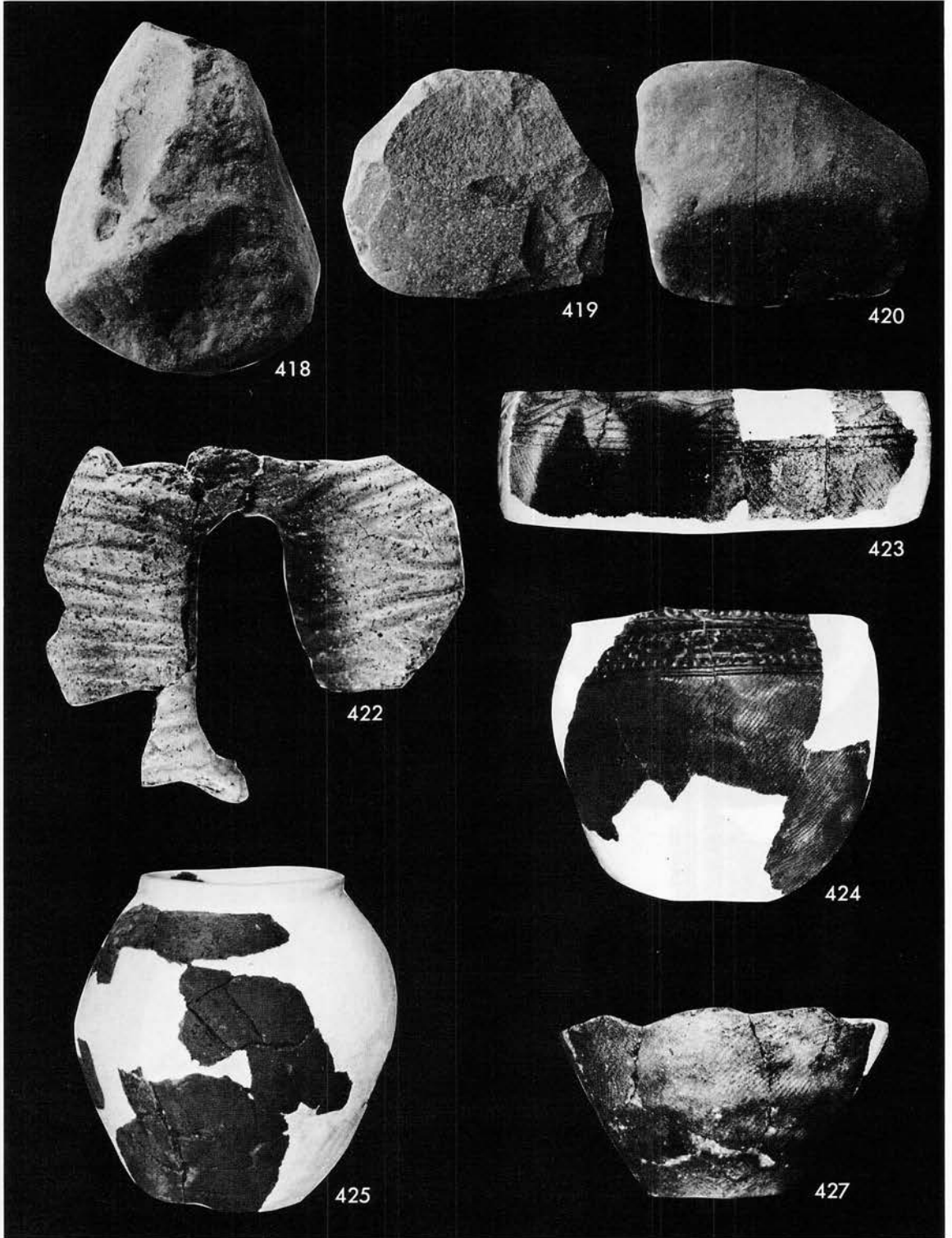


写真図版110 F III-013・014住居跡出土遺物

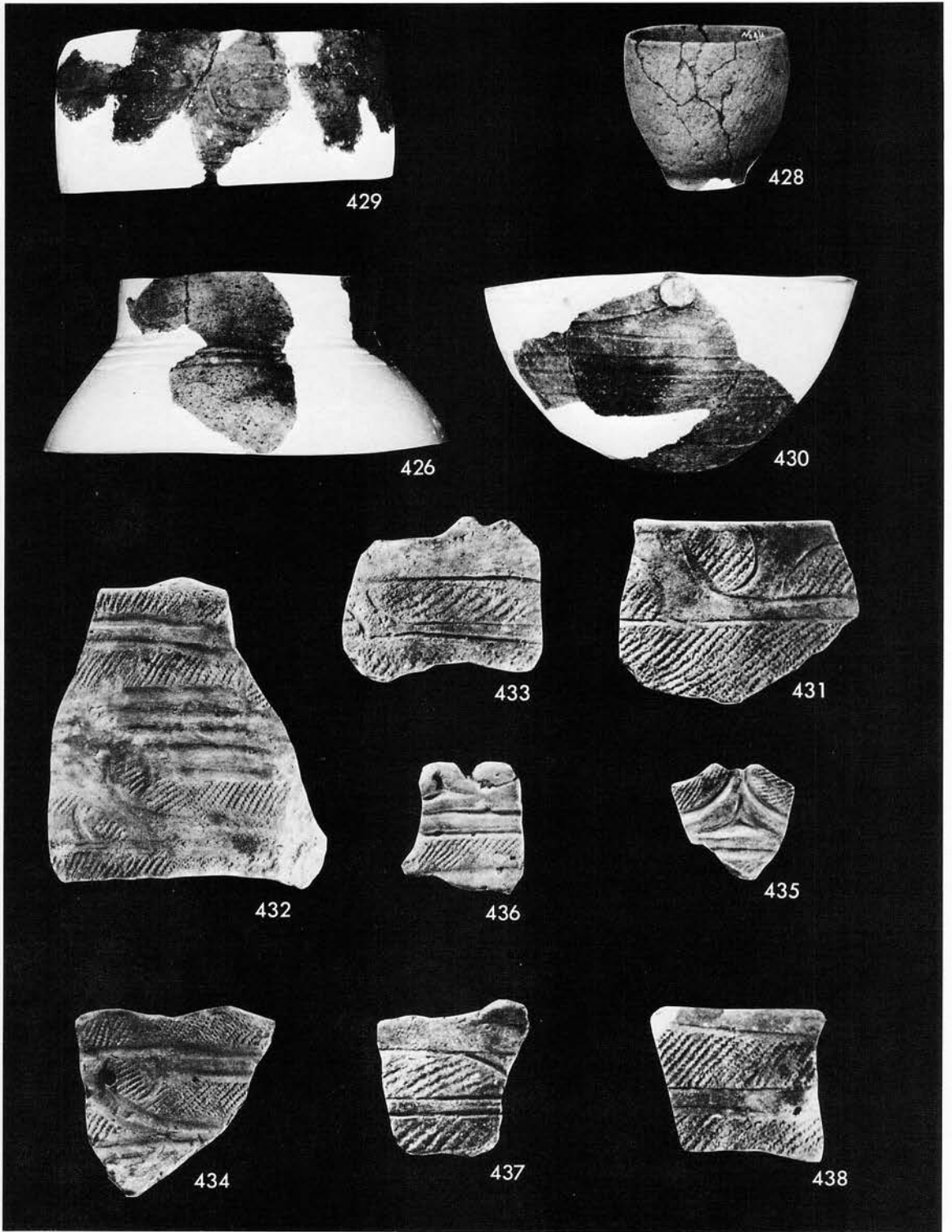


写真図版III F III-014・015住居跡出土遺跡



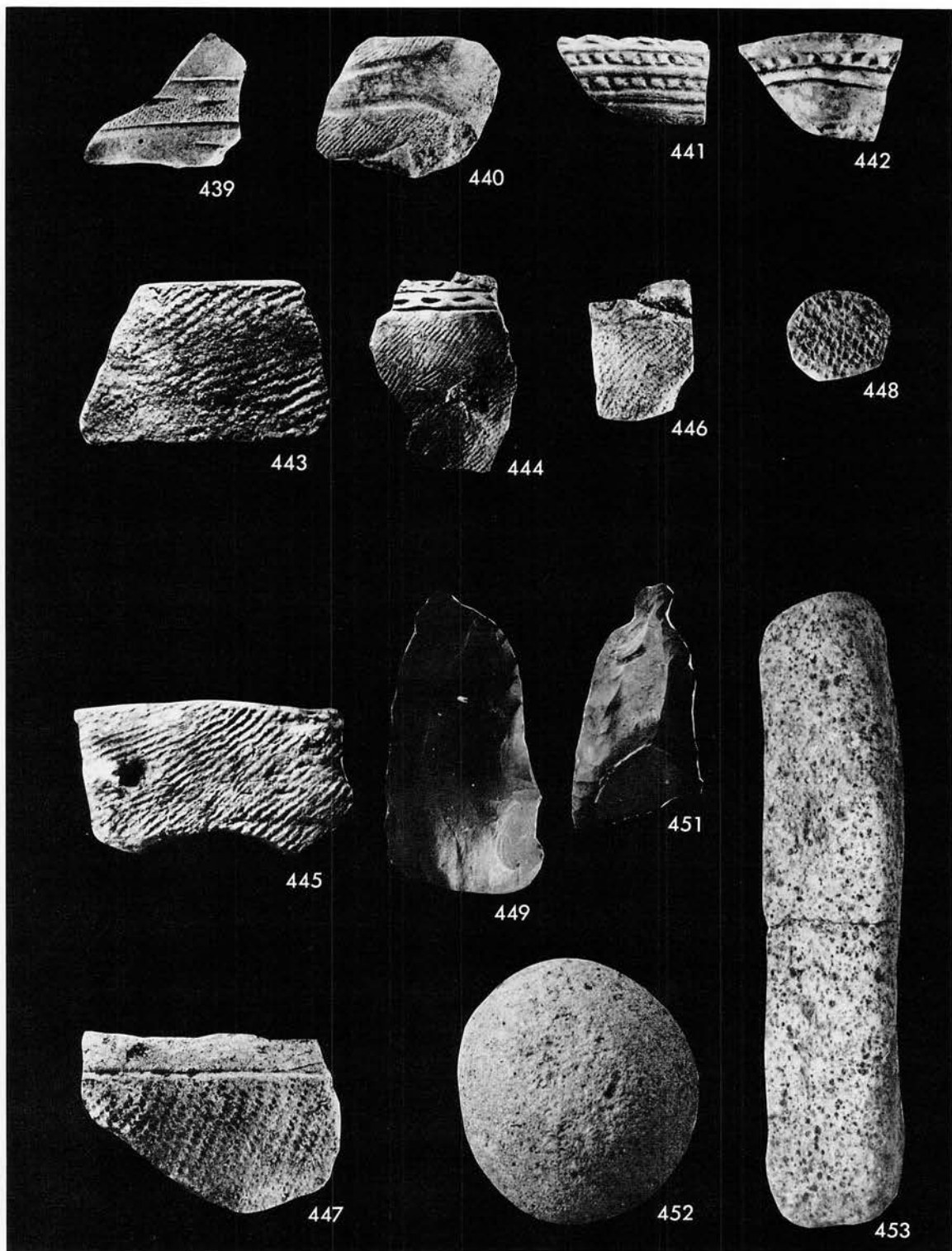


写真図版112 F III-016・017住居跡出土遺物

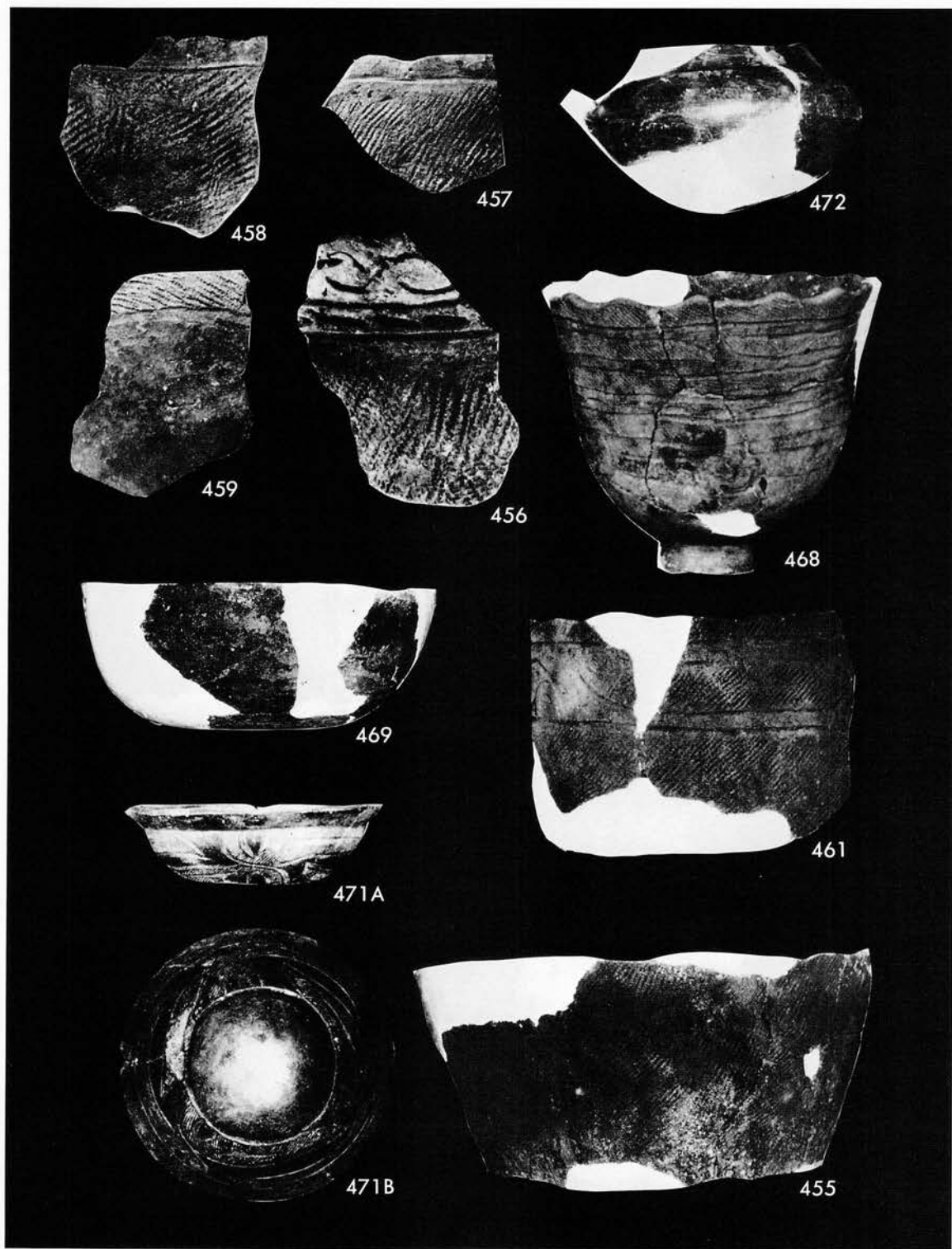


写真図版113 F III-017住居跡出土遺物(Ⅰ)



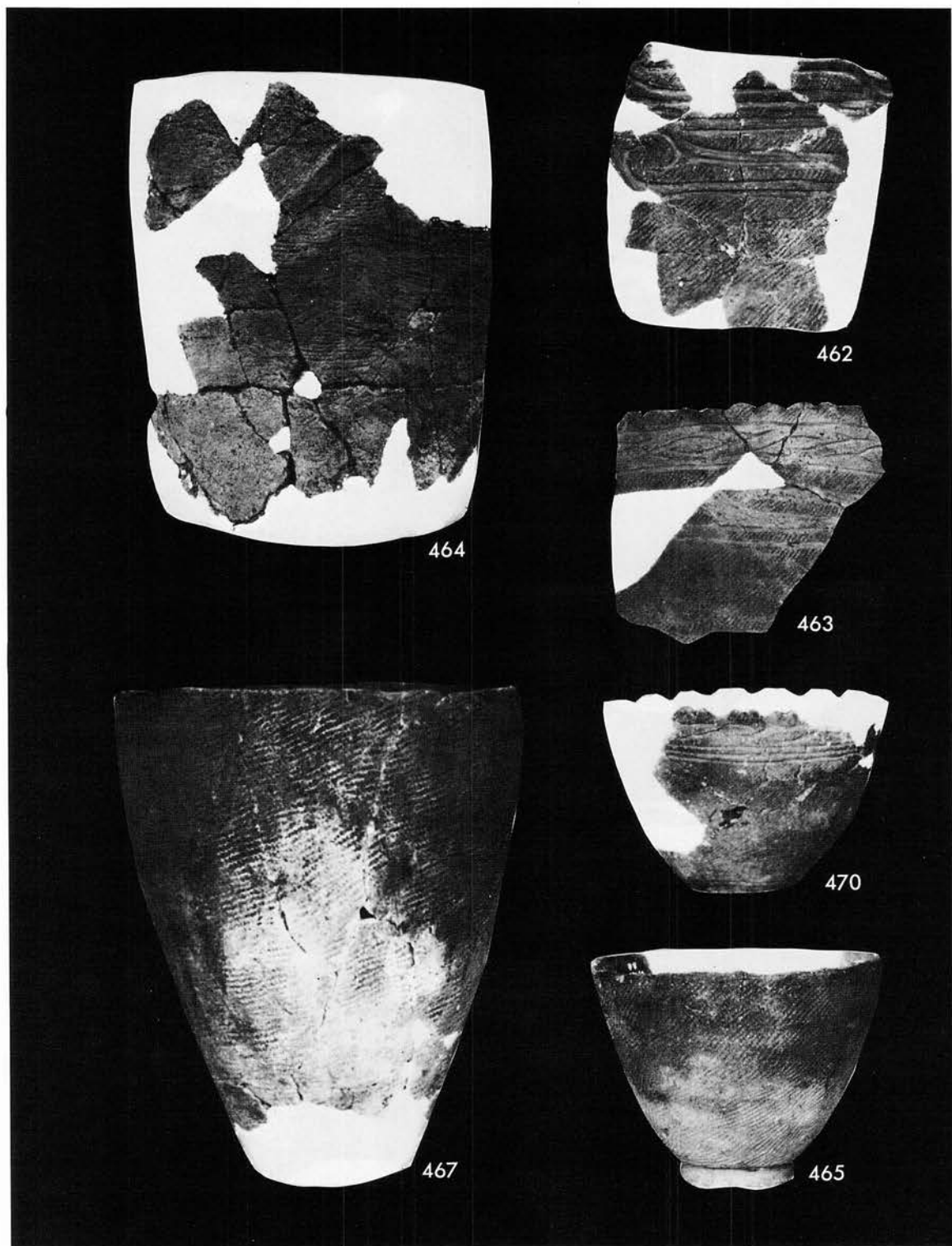


写真图版114 F III-017住居跡出土遺物(2)

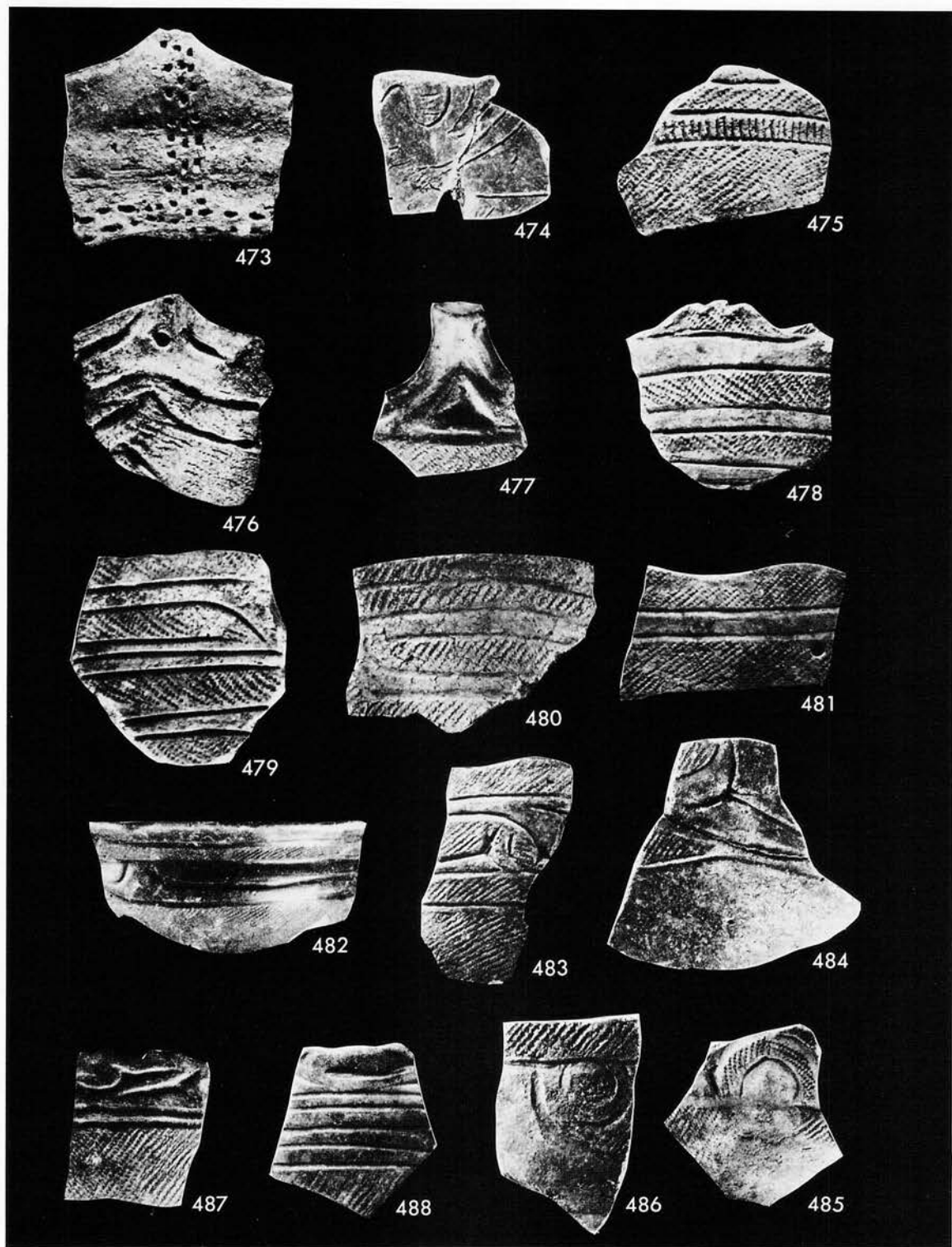


写真図版115 F III-018・019住居跡出土遺物



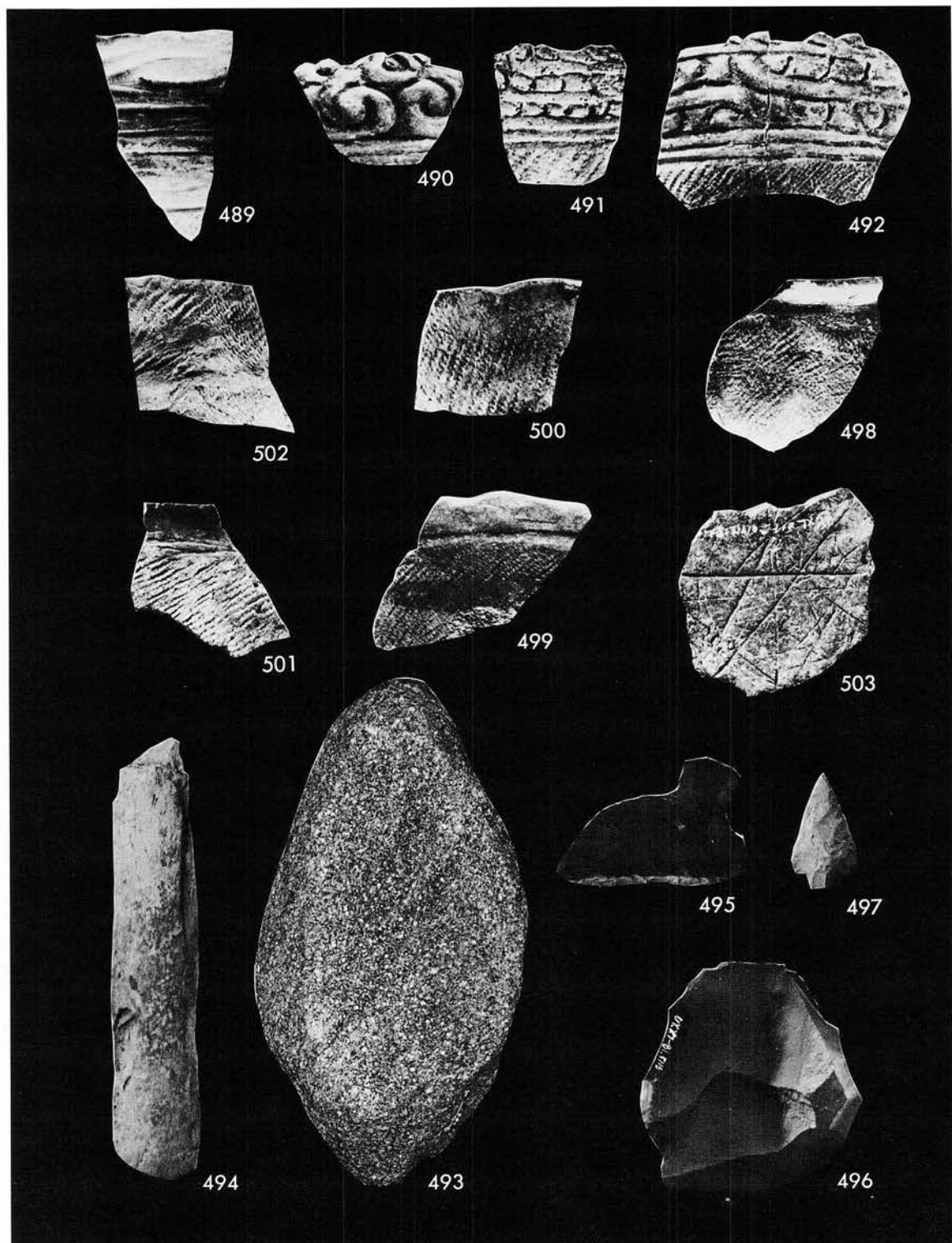


写真図版116 F III-019住居跡出土遺物(1)

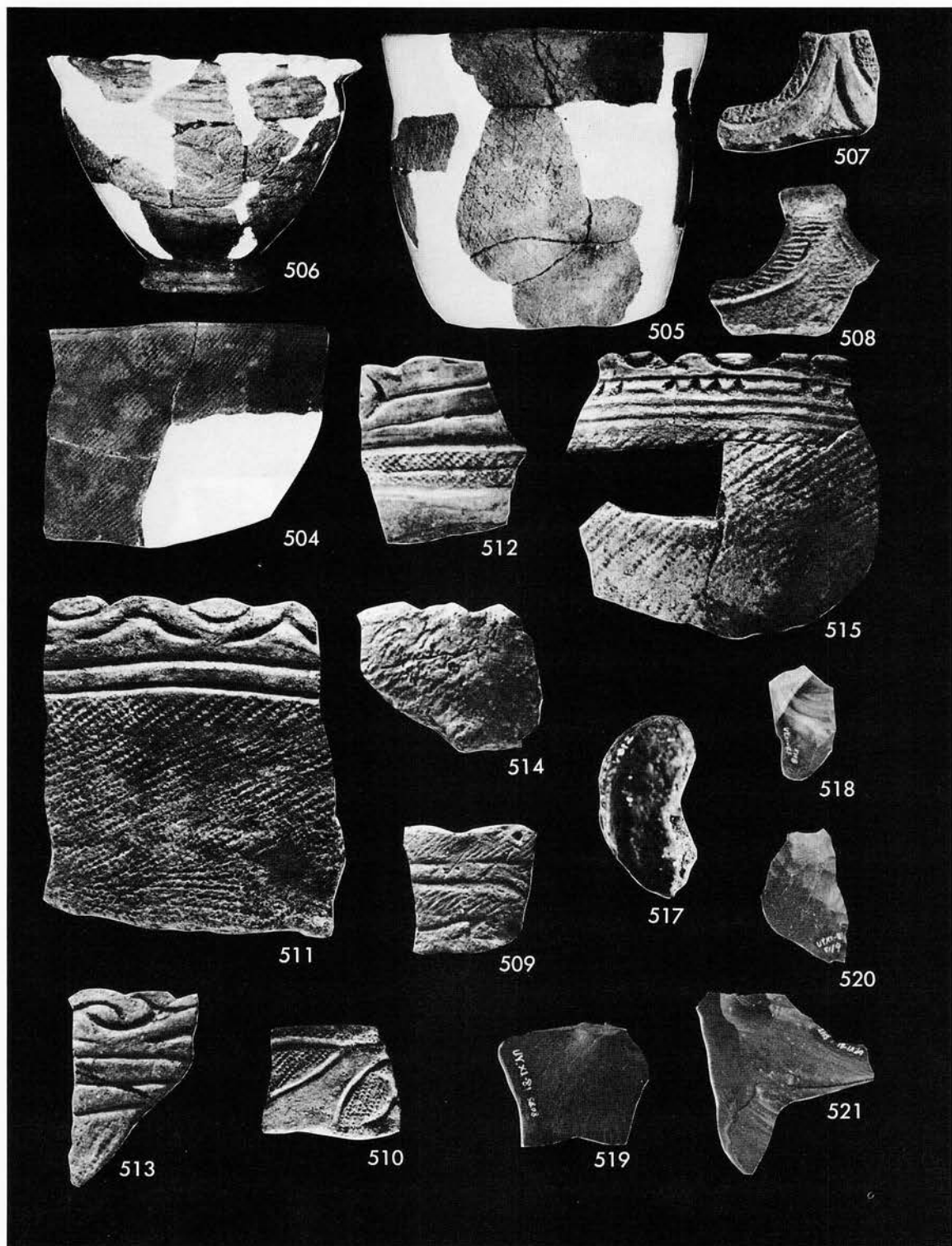


写真図版117 F III-019住居跡出土遺物(2)



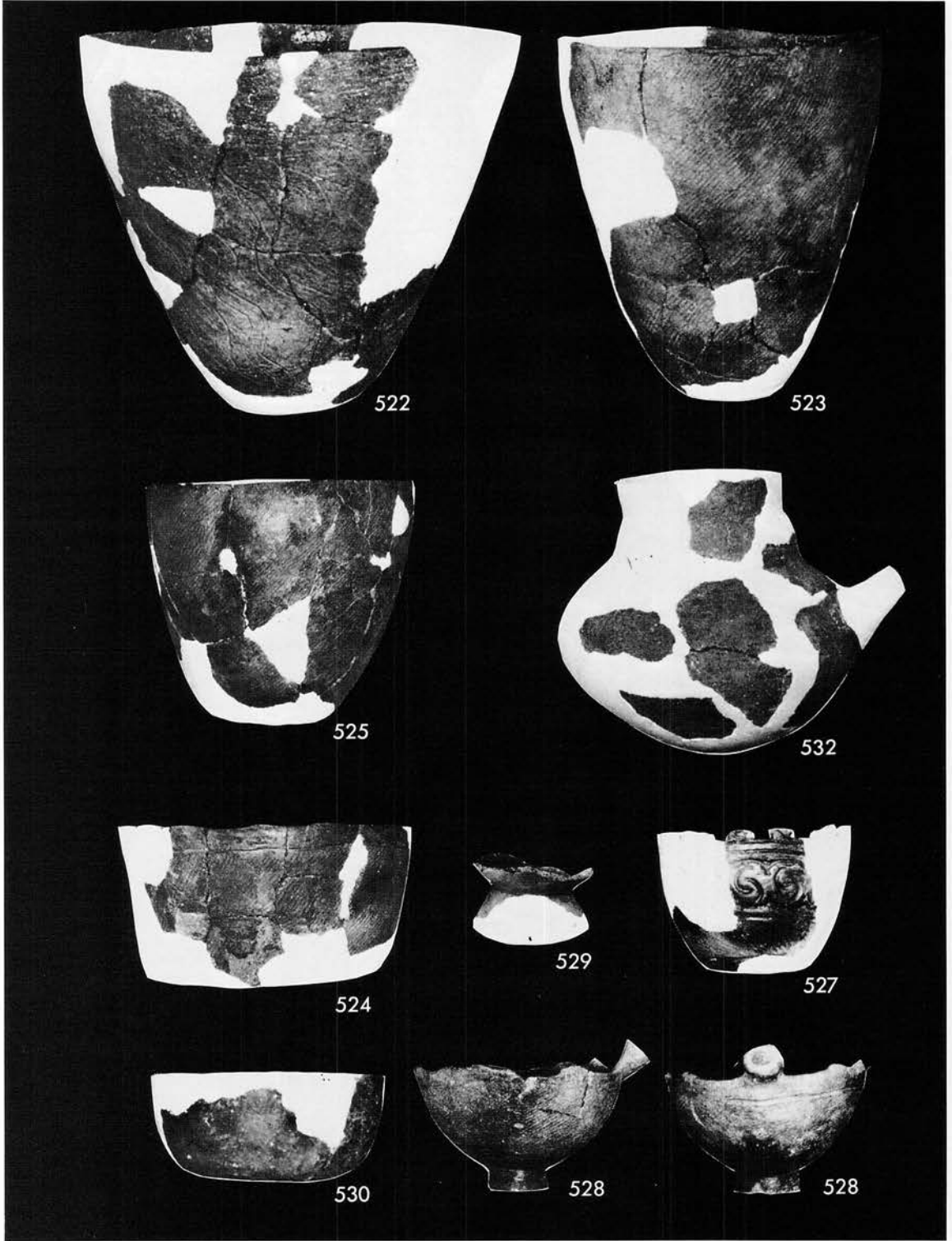


写真図版118 F III-019住居跡出土遺物(3)

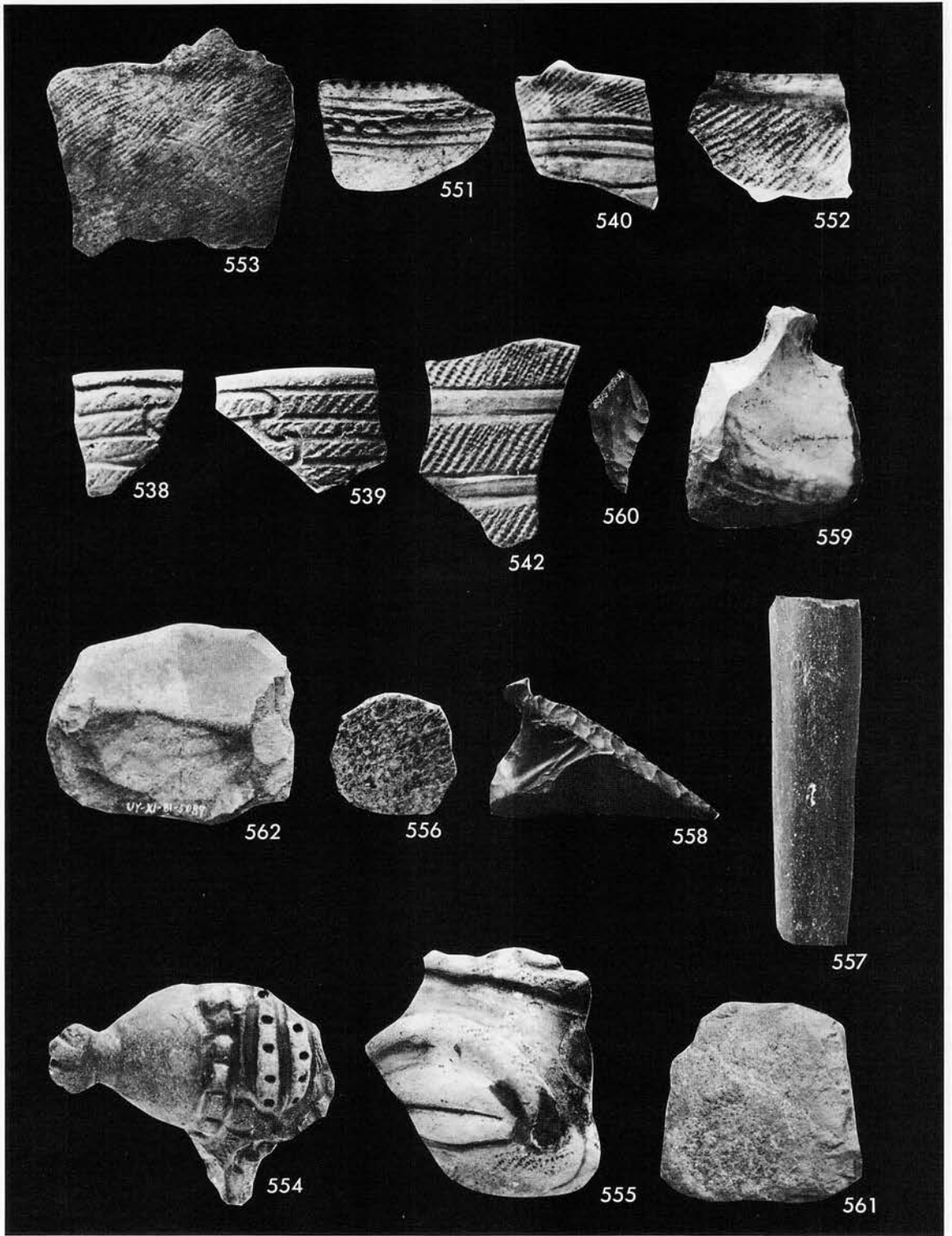


写真図版119 F III-0112住居跡出土遺物



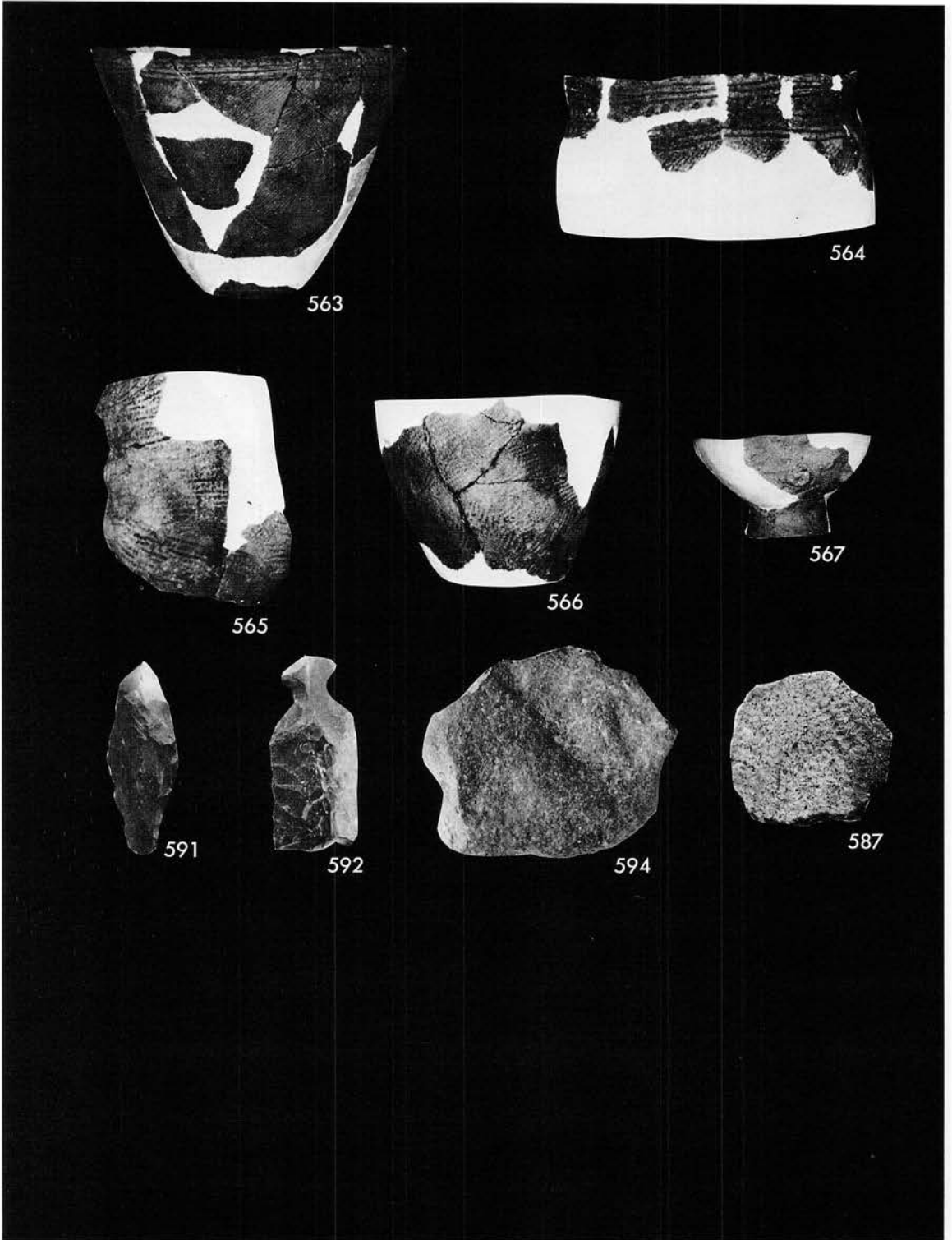


写真図版120 F III-0113住居跡出土遺物(Ⅰ)

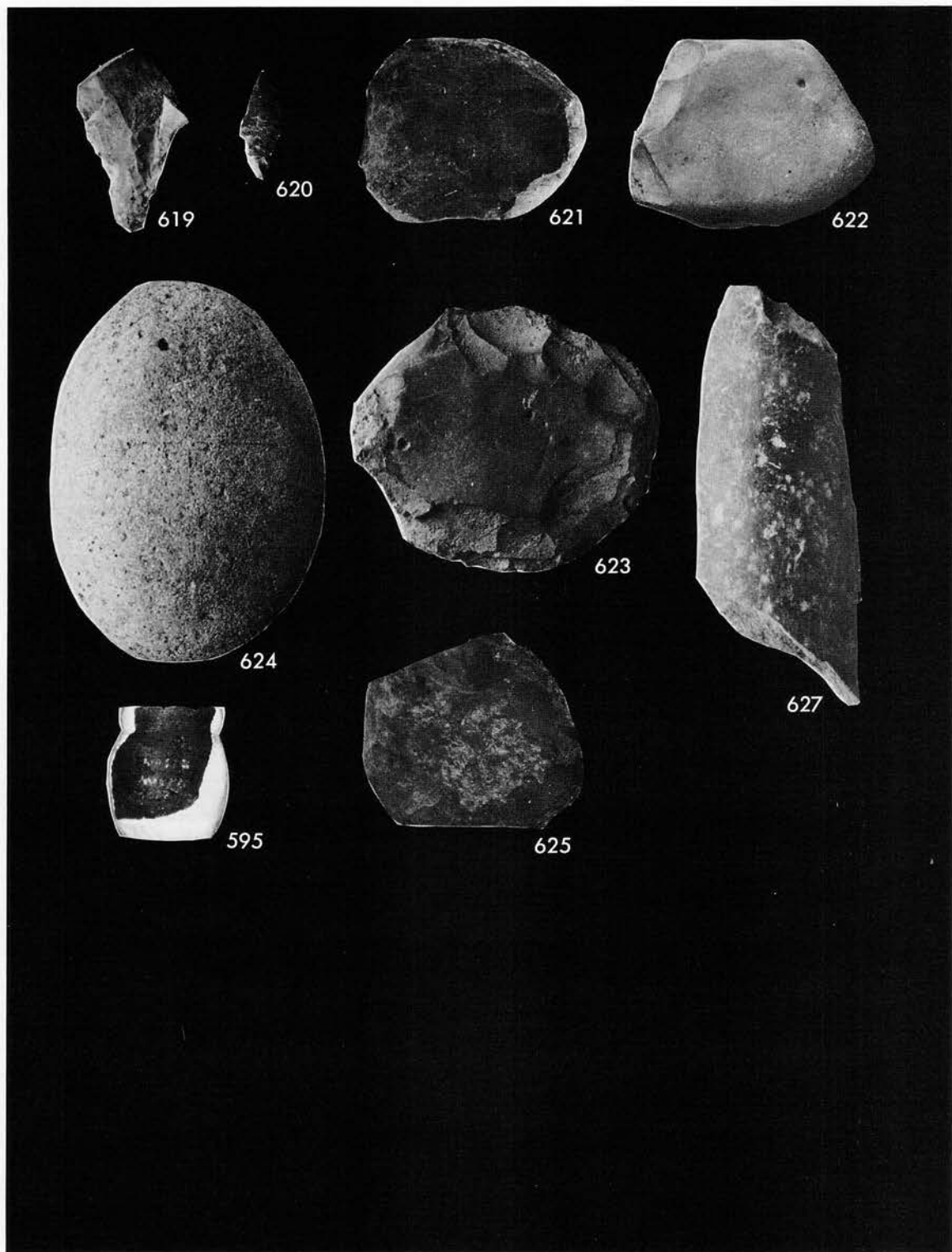


写真図版121 F III-0113住居跡出土遺物(2)



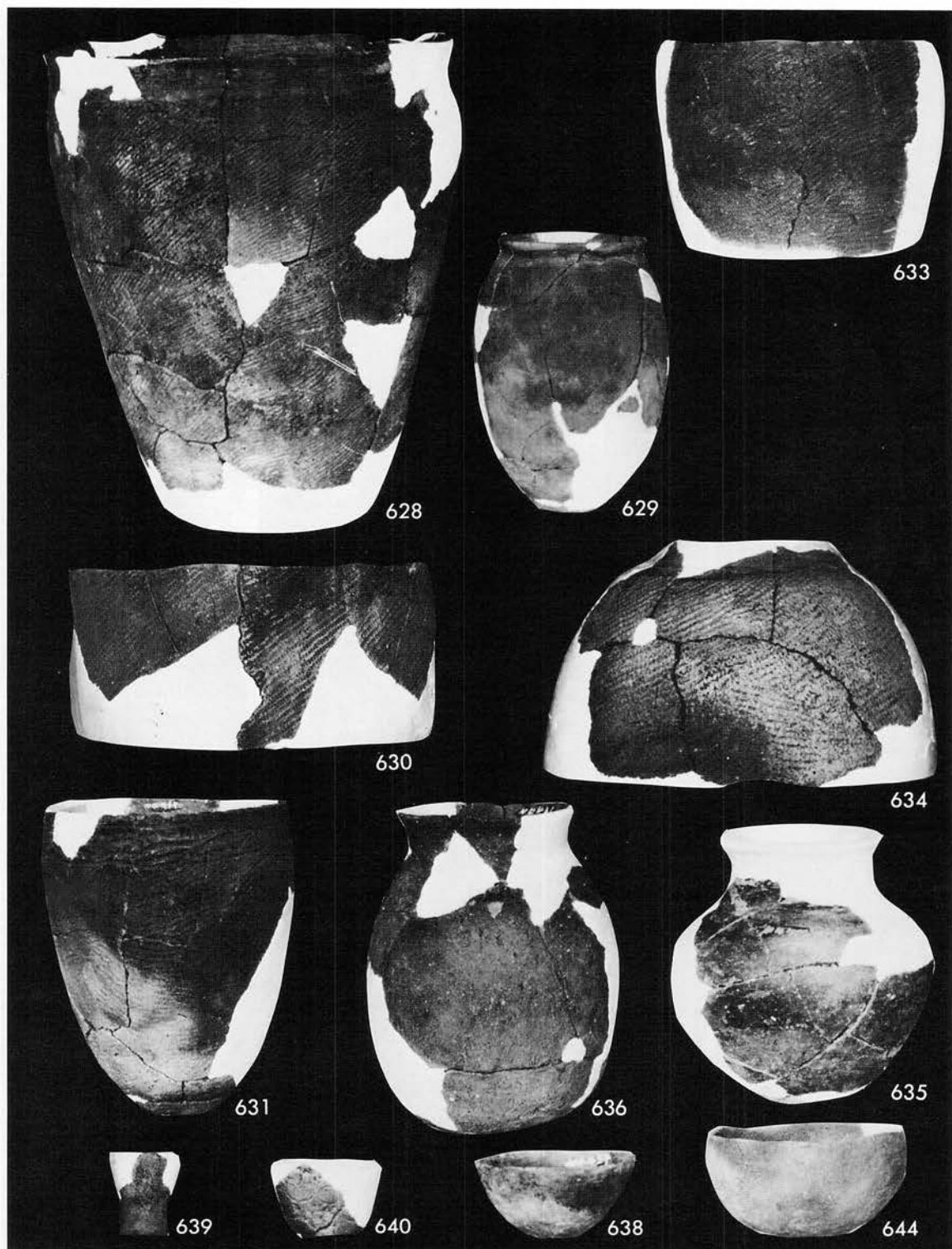


写真図版122 F III-0114住居跡出土遺物

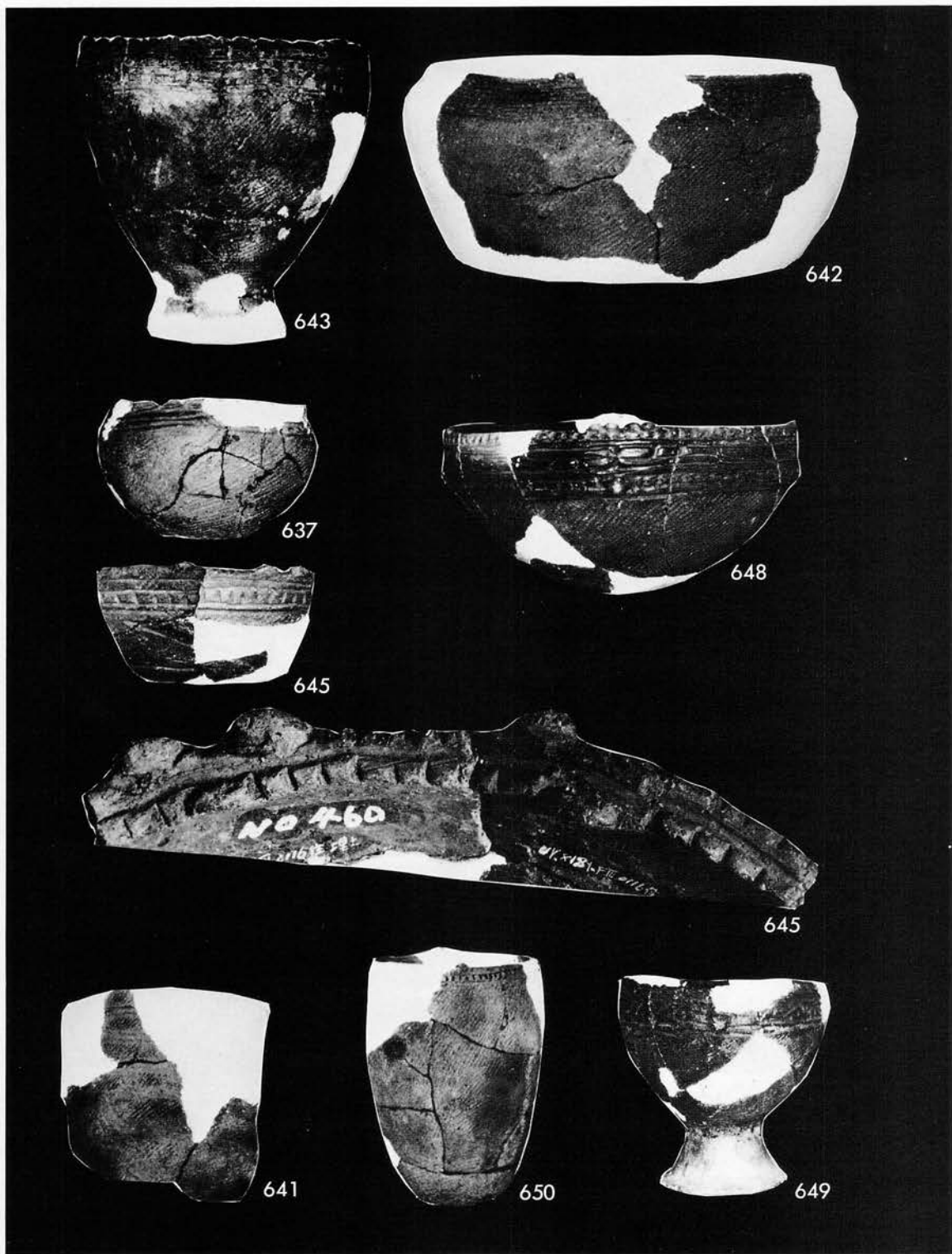


写真図版123 F III-0115住居跡出土遺物

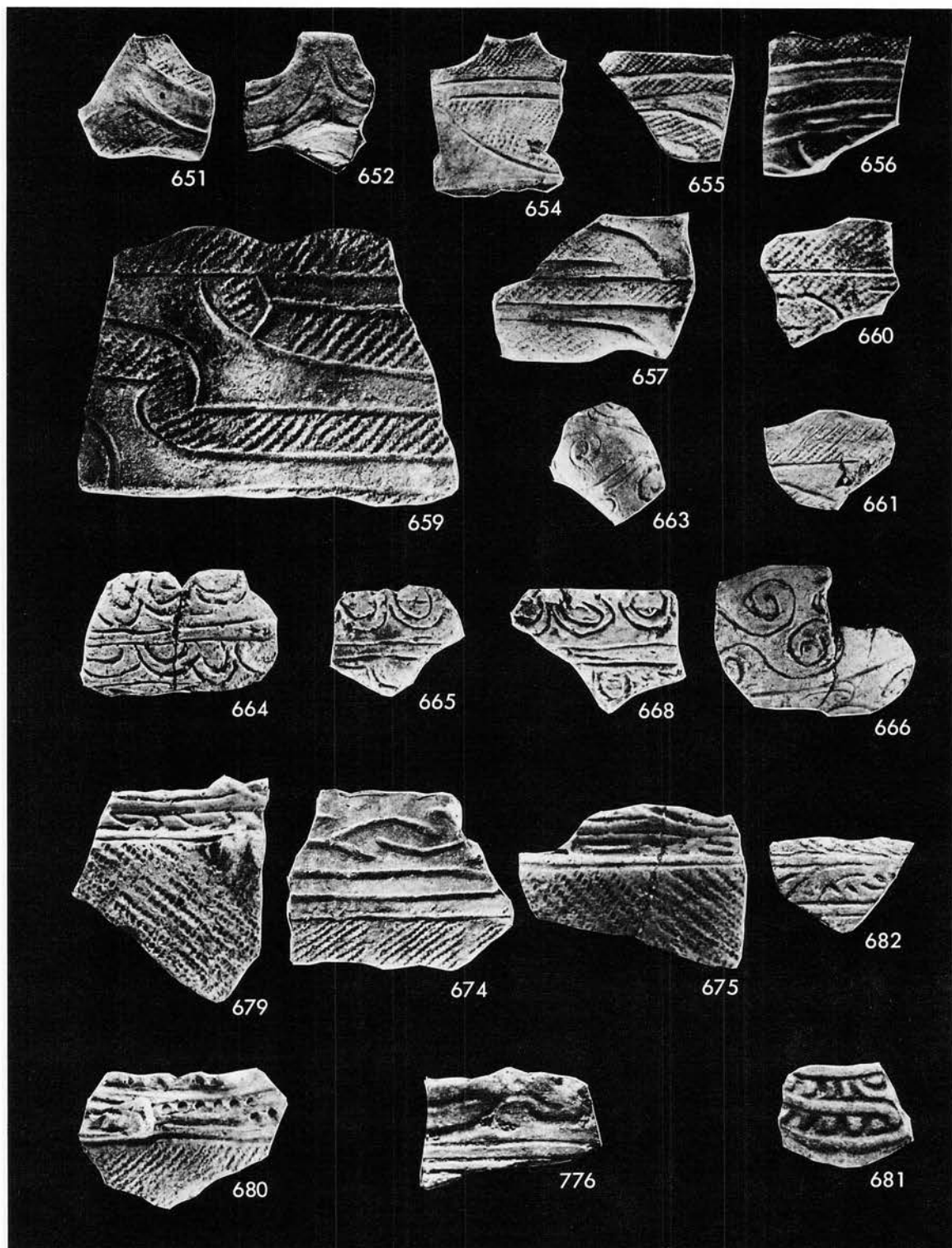




写真図版124 F III-0116住居跡出土遺物(1)

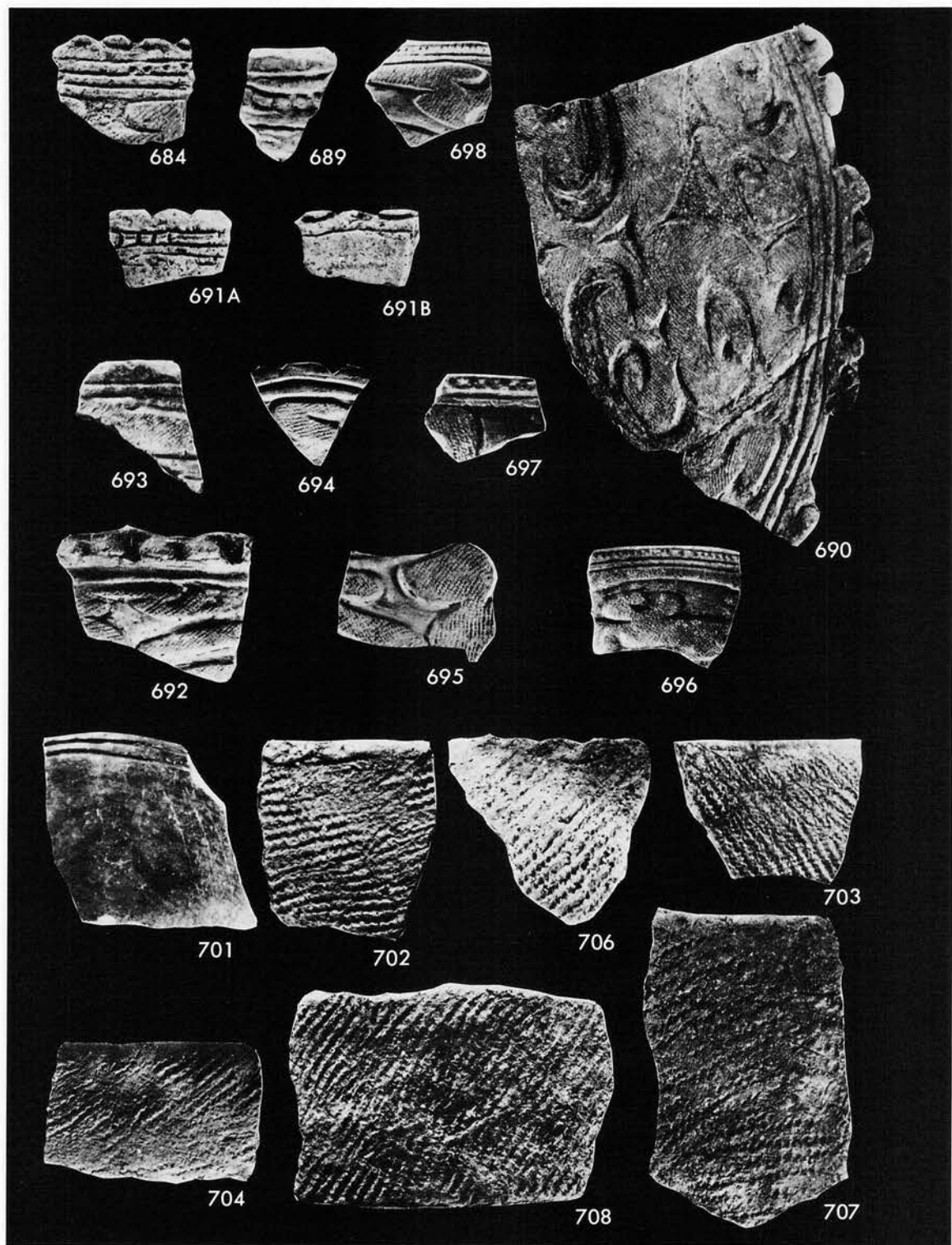


写真図版125 F III-0116住居跡出土遺物(2)

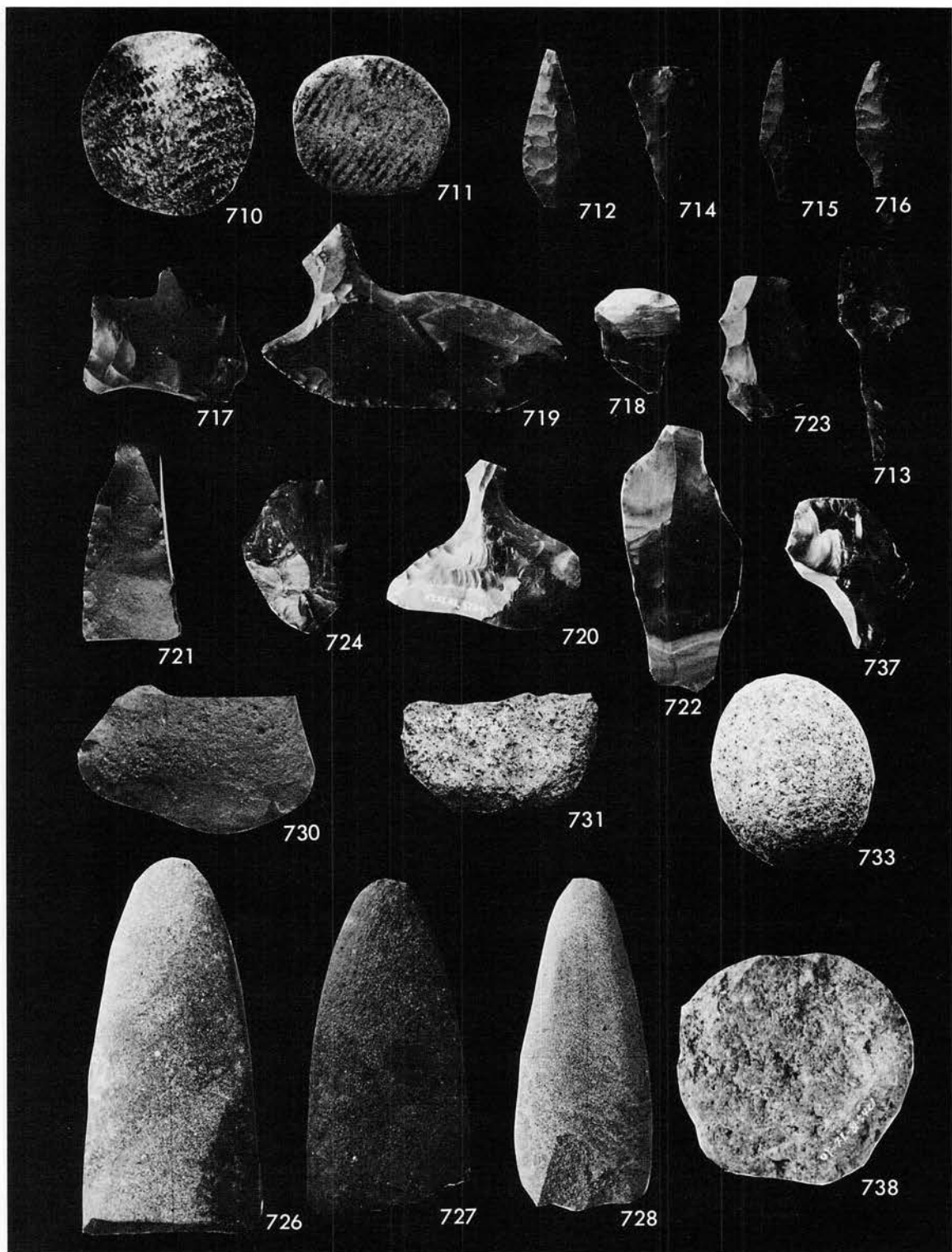


写真図版126 F III-0116住居跡出土遺物(3)

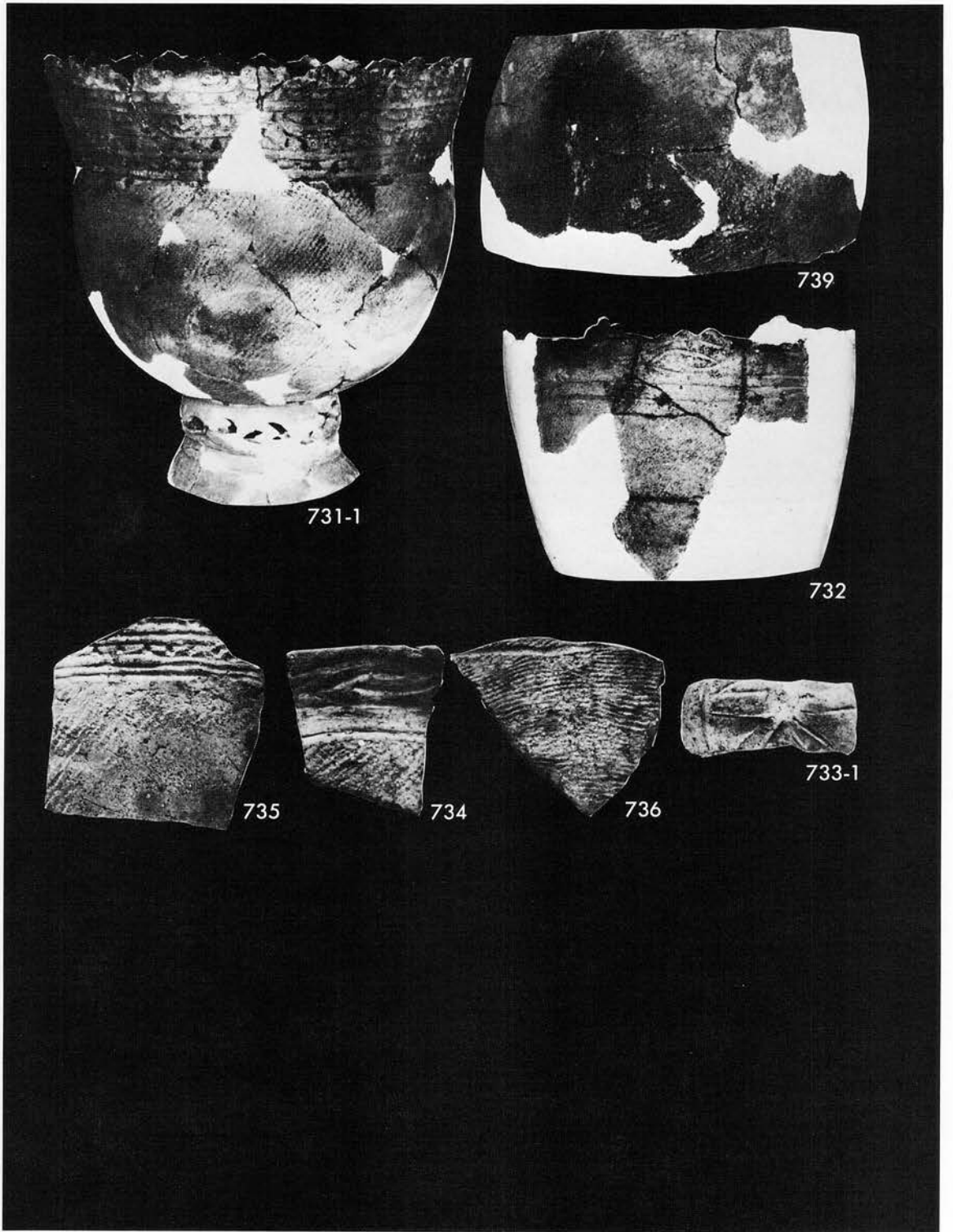




写真図版127 F III-0116住居跡出土遺物(4)

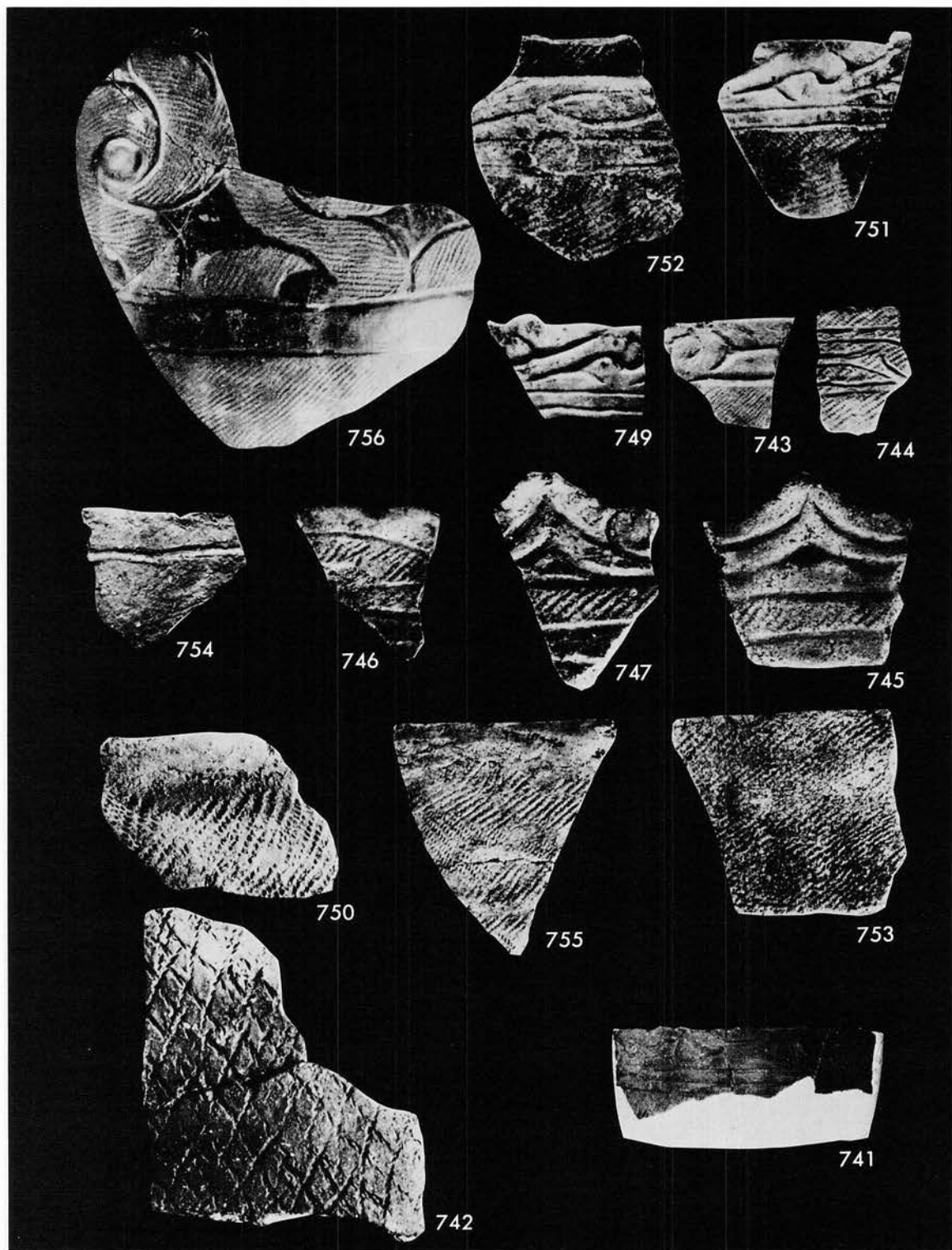


写真図版128 F III-0116住居跡出土遺物(5)

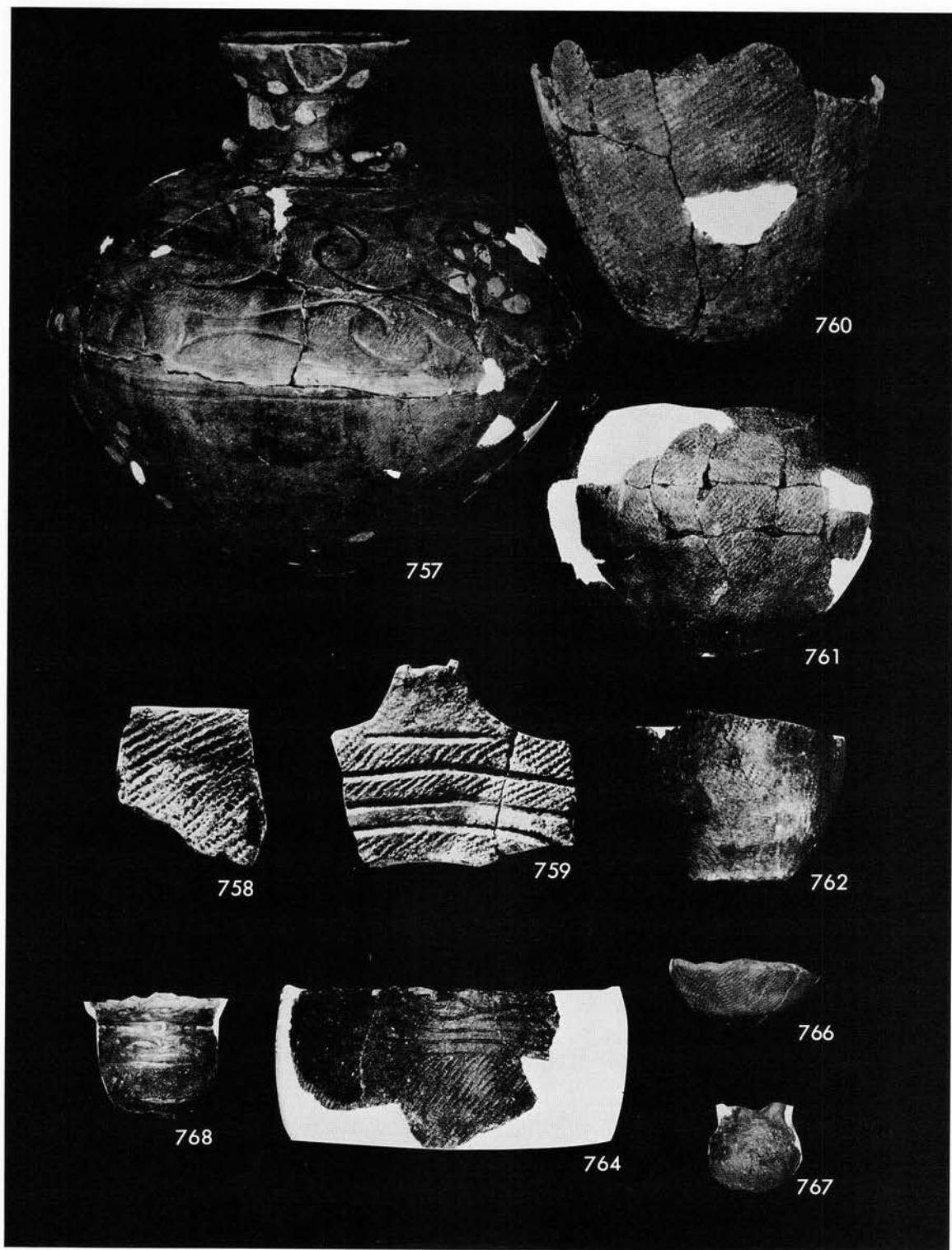


写真图版129 F IV-011・012住居跡出土遺物

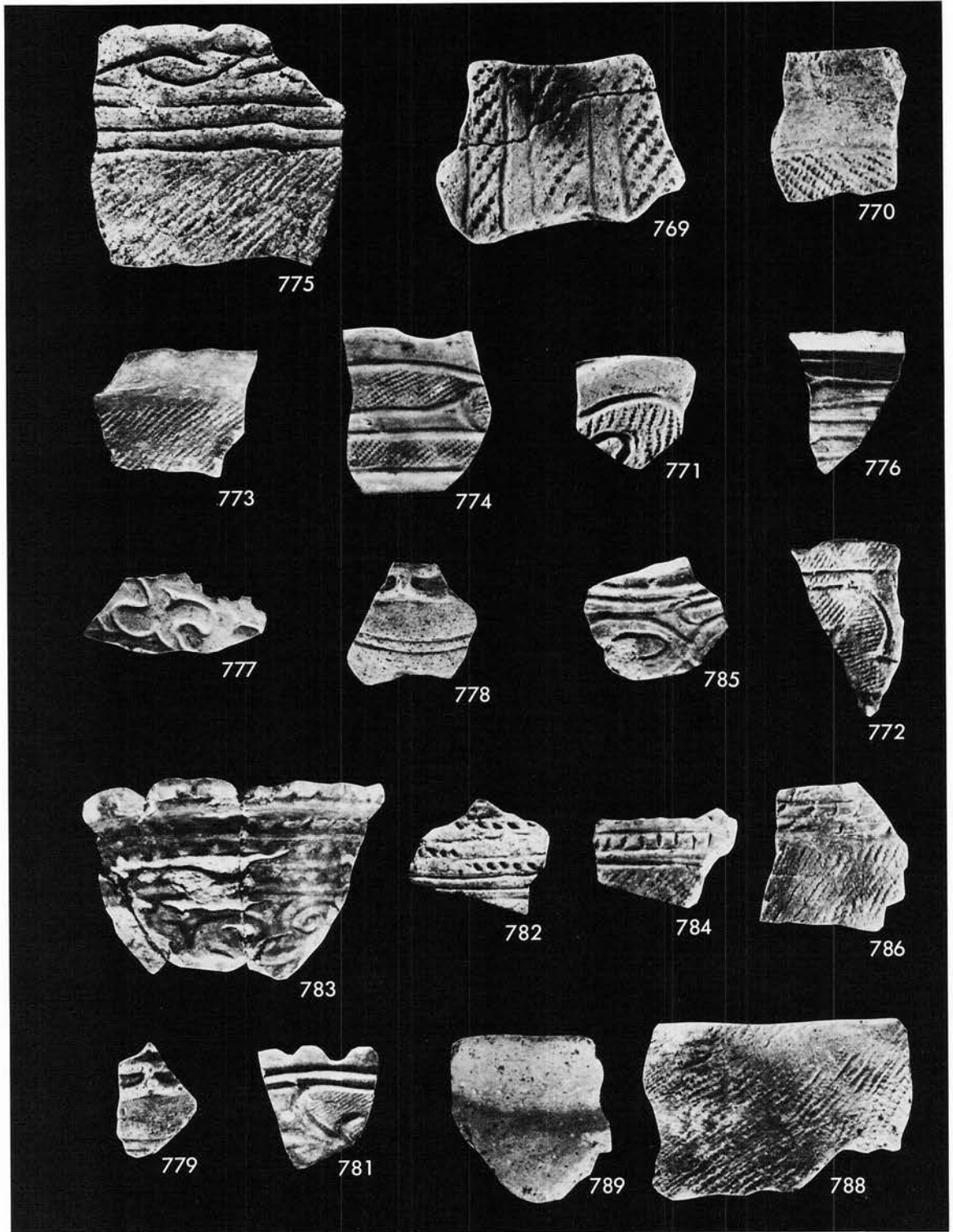




写真图版130 G II—012住居跡出土遺物

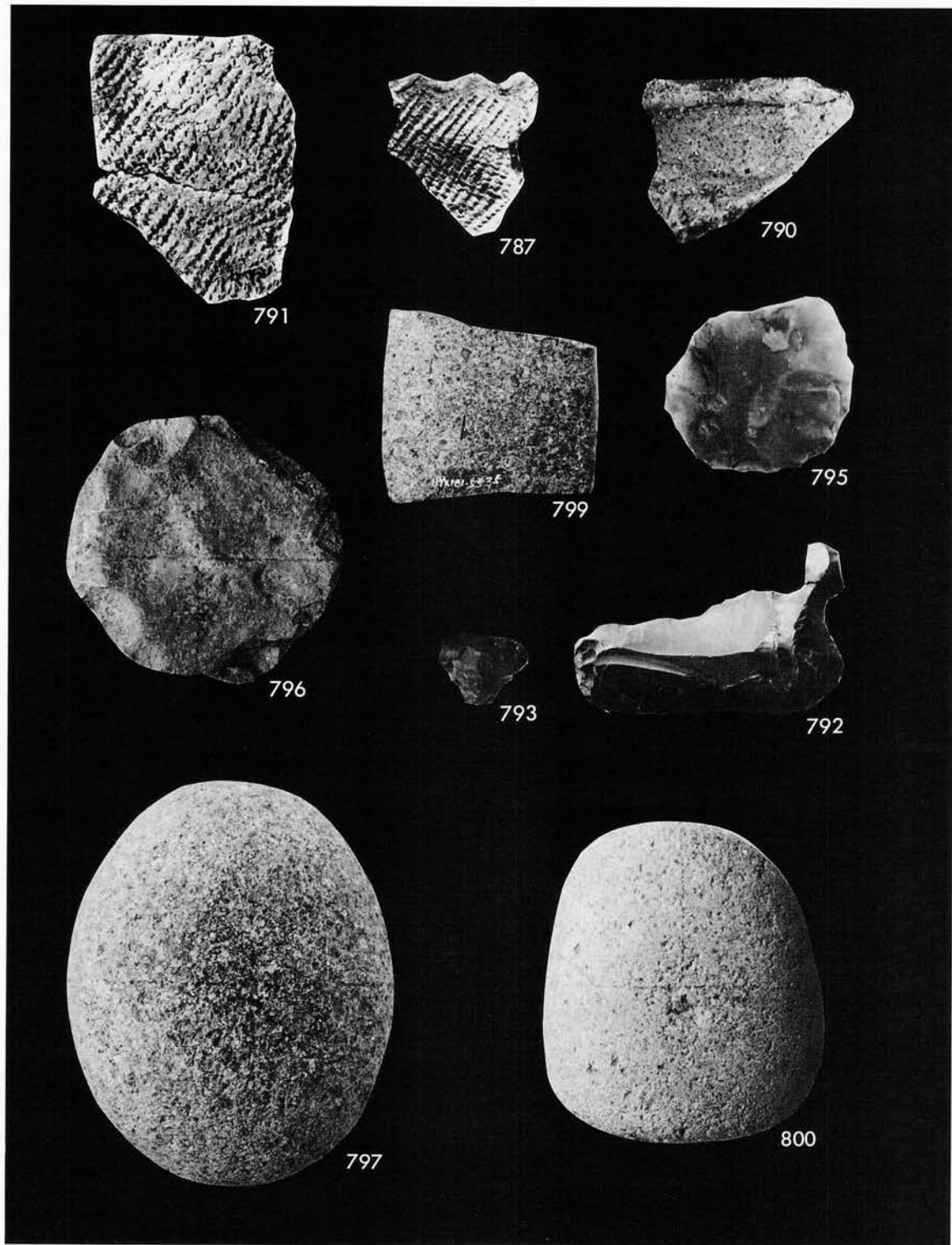


写真图版131 G III-012~016住居跡出土遺物

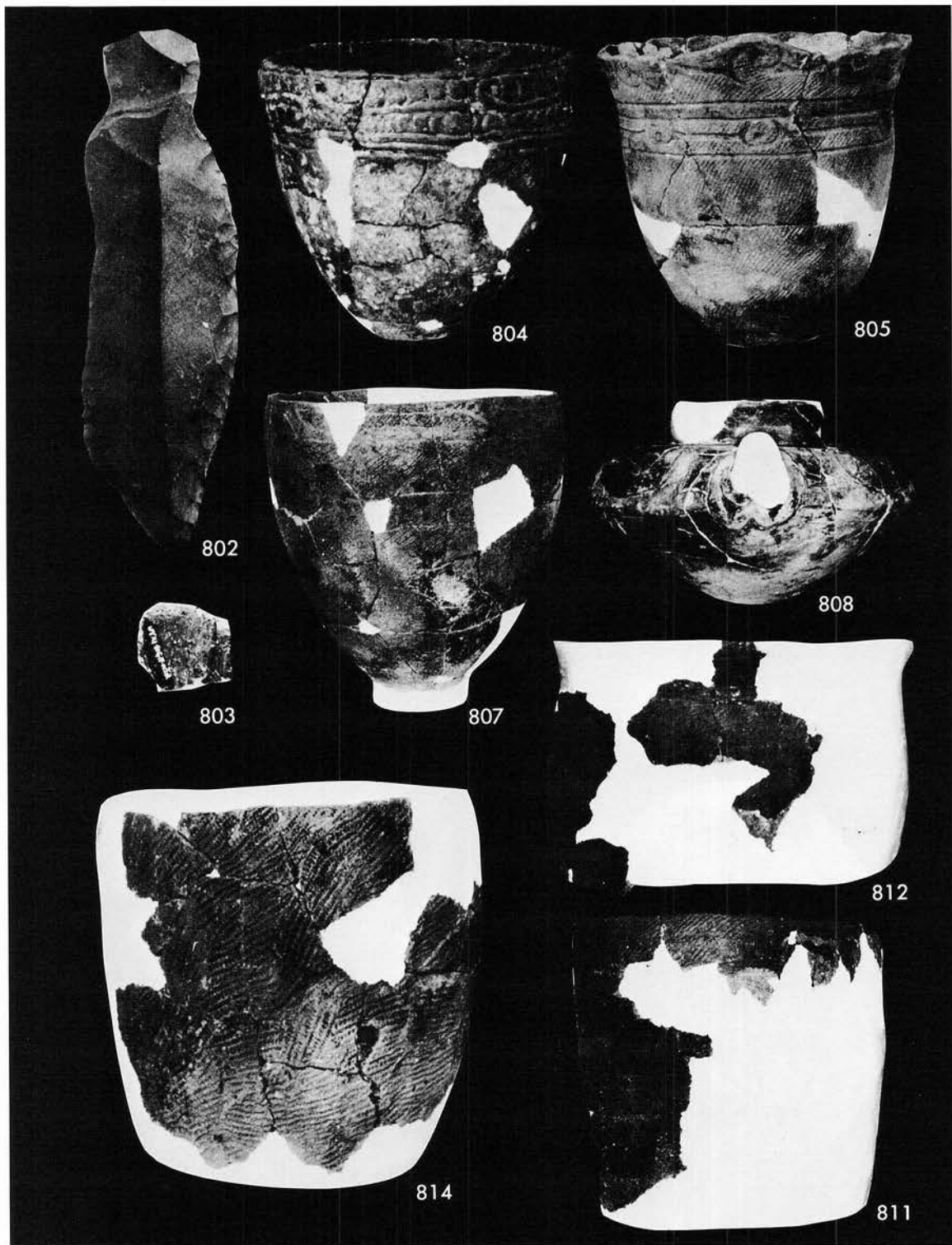


写真图版132 G III-016住居跡出土遺物(Ⅰ)

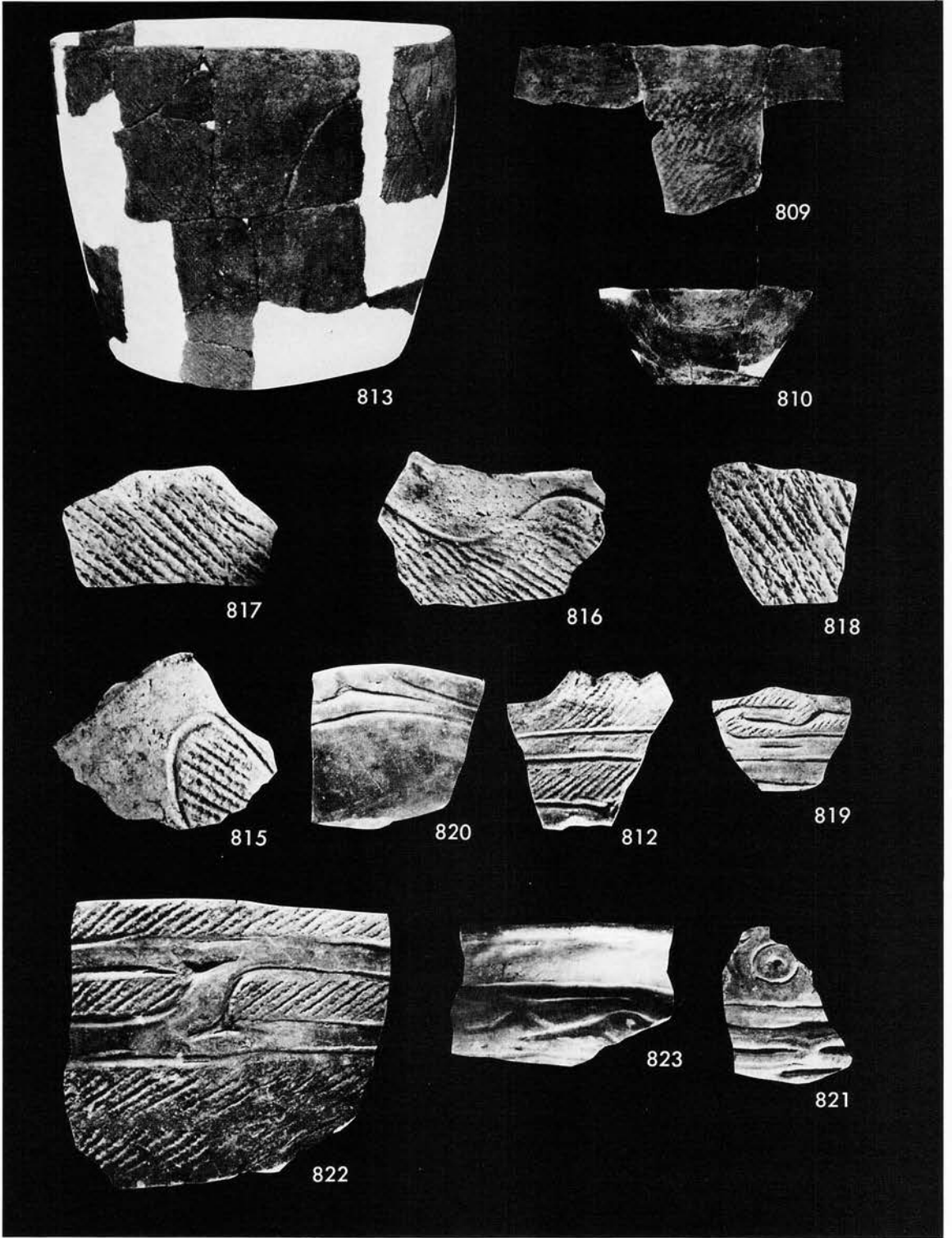




写真図版133 G III-016住居跡出土遺物(2)

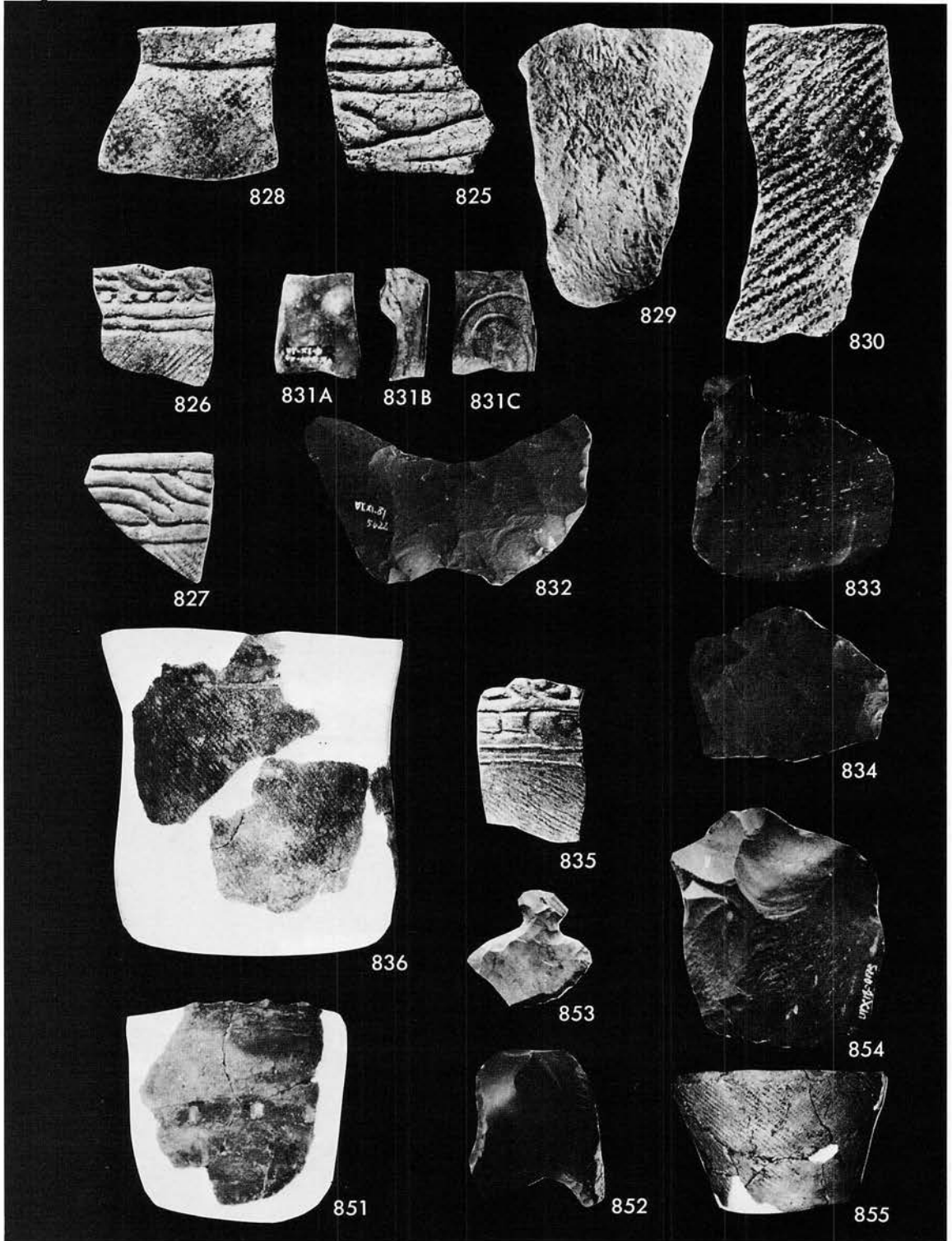


写真図版134 G IV-011・012・014住居跡出土遺物

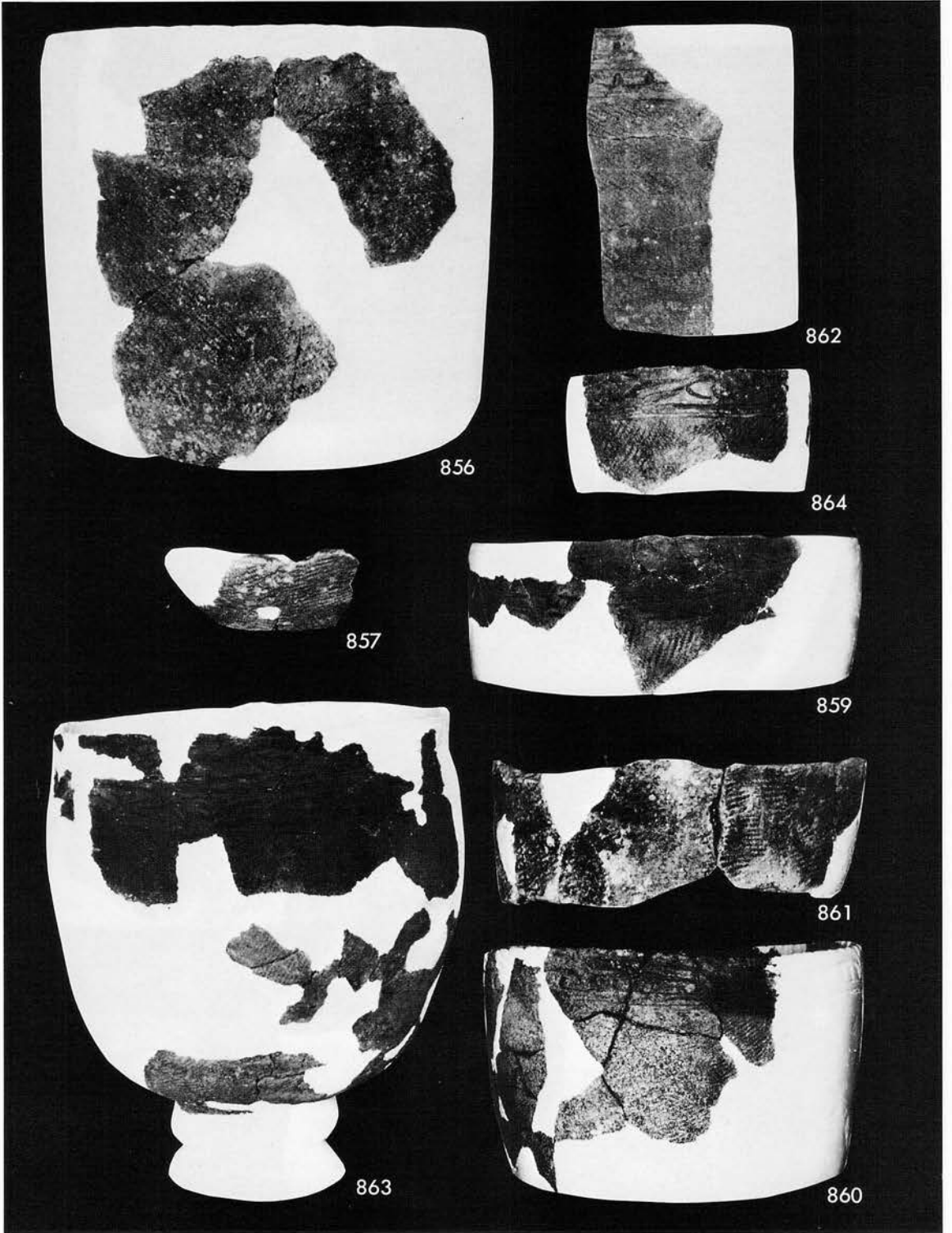


写真図版135 G IV-014住居跡出土遺物

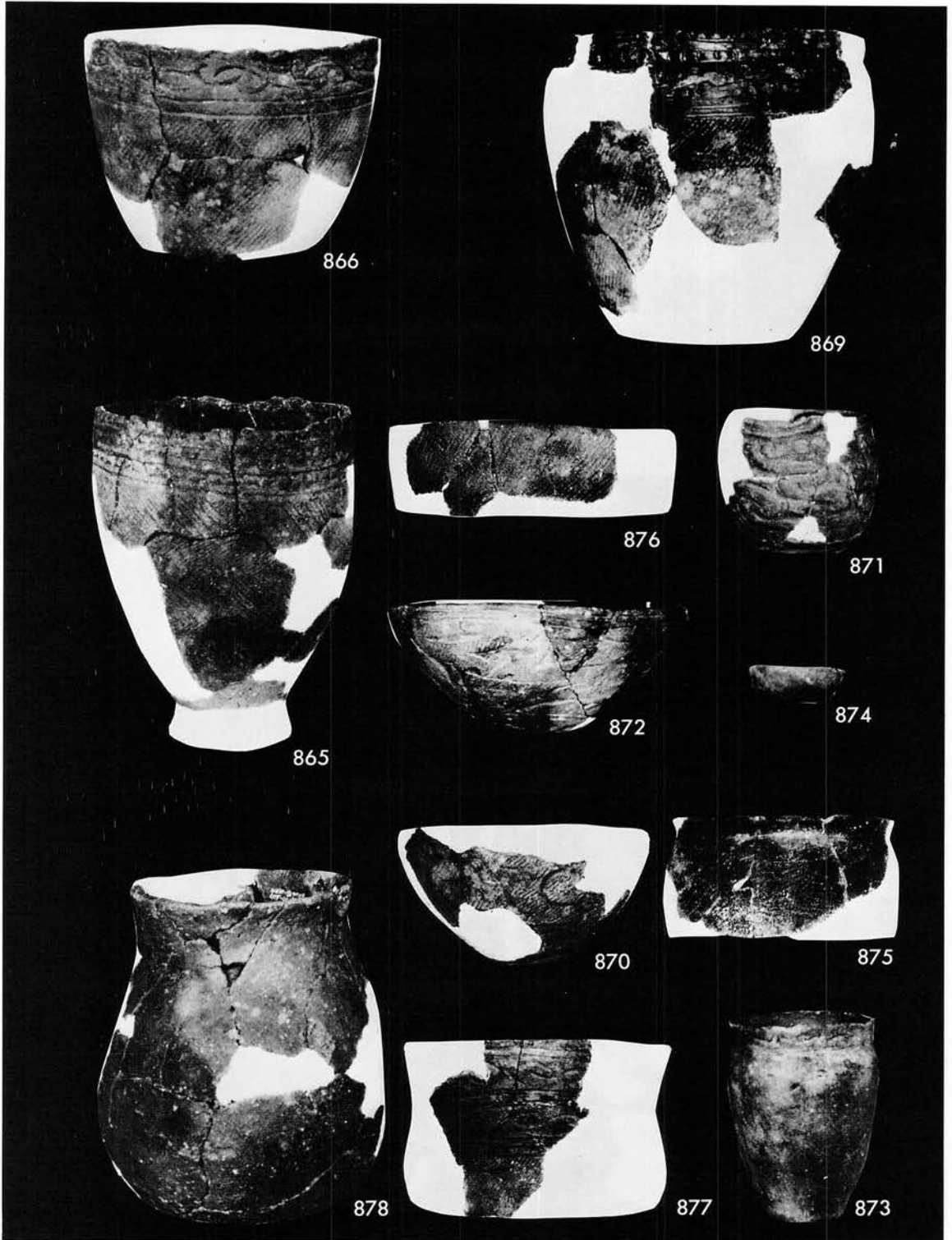




写真図版136 G IV-014~016・H III-011・015・H IV-011住居跡出土遺物

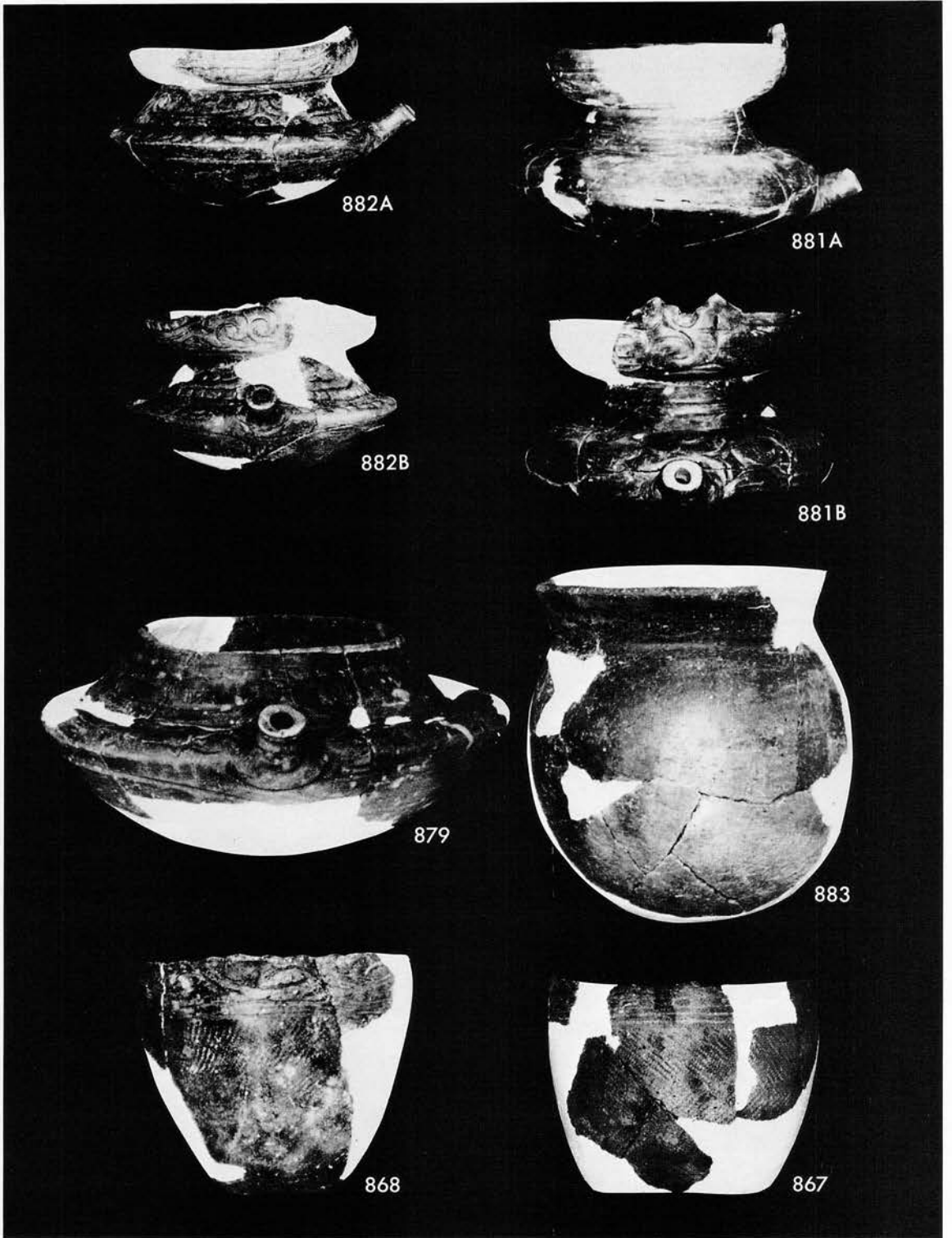


写真図版137 H IV-012住居跡出土遺物(1)

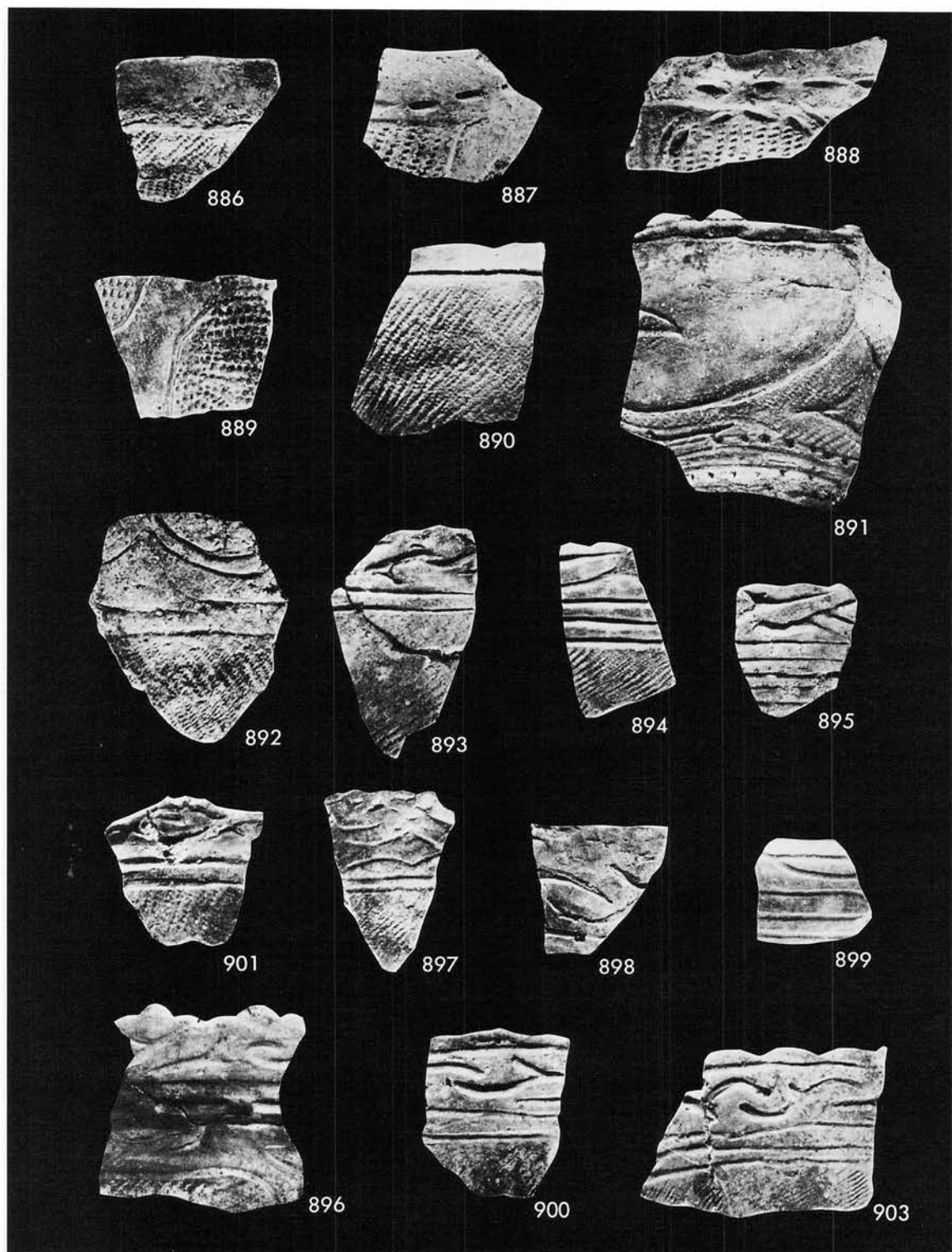


写真図版138 H IV - 012住居跡出土遺物 ( 2 )

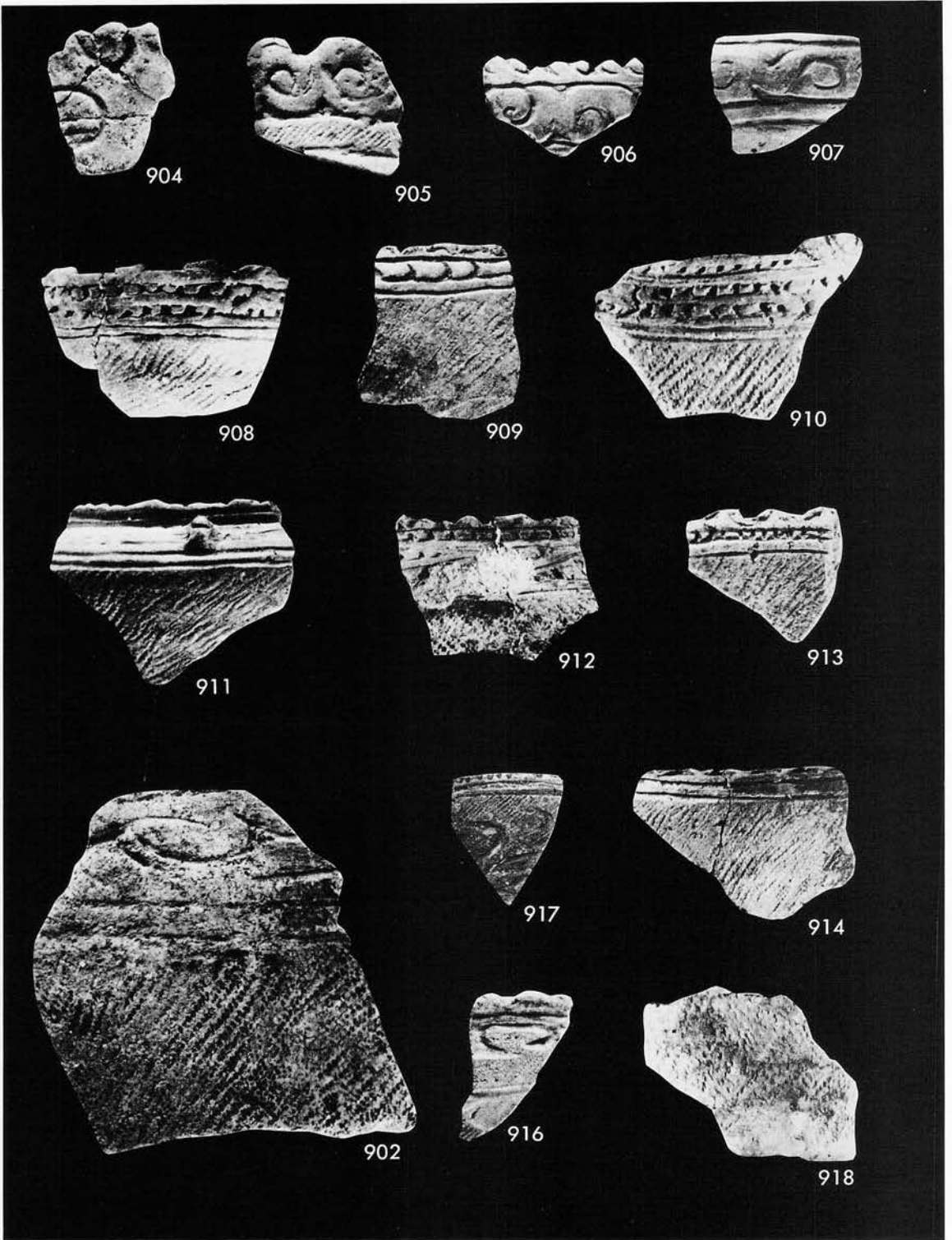




写真図版139 H IV-012住居跡出土遺物(3)

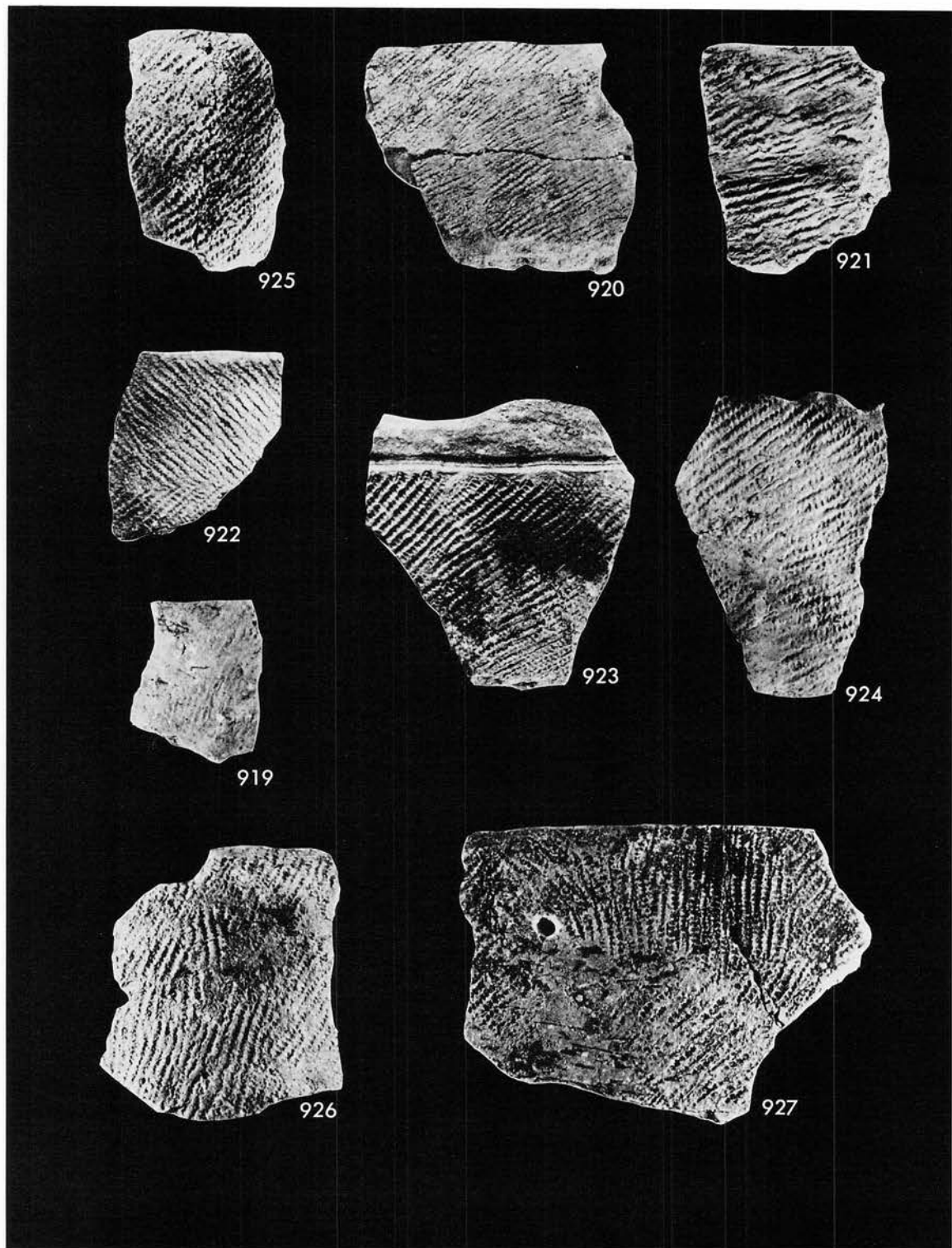


写真図版140 H IV-012住居跡出土遺物(4)

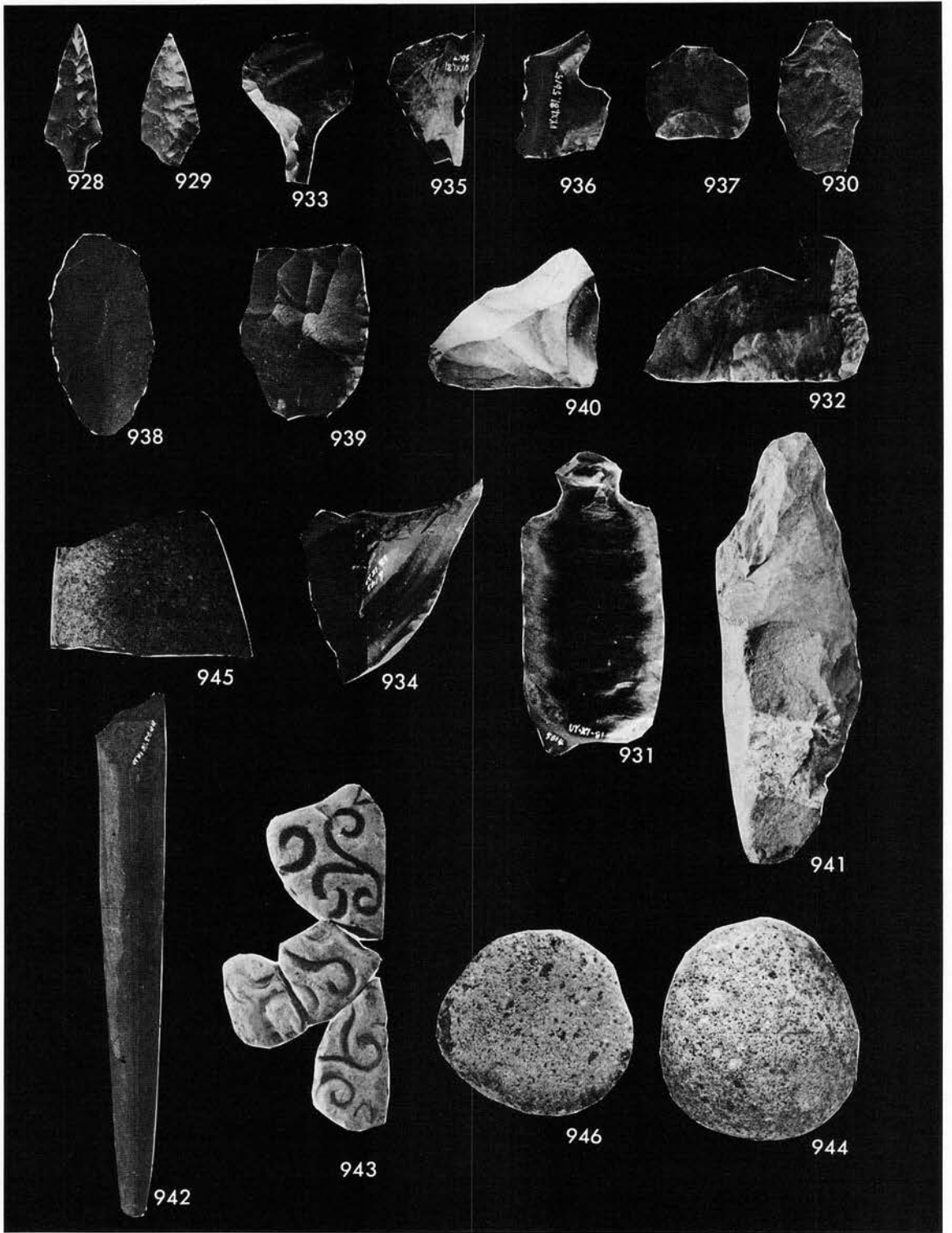


写真图版141 H IV-012住居跡出土遺物(5)

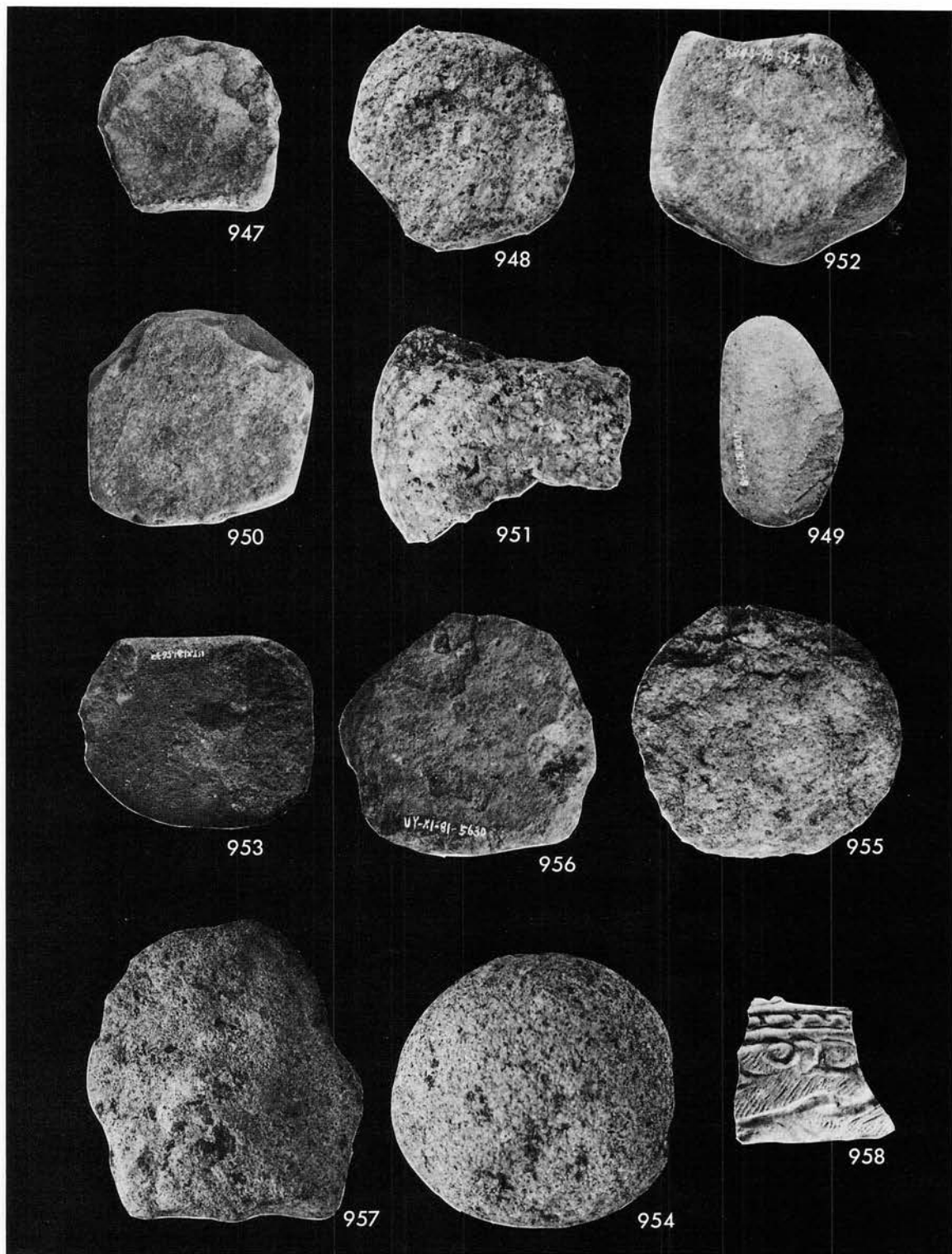




写真図版142 H IV-012住居跡出土遺物(6)

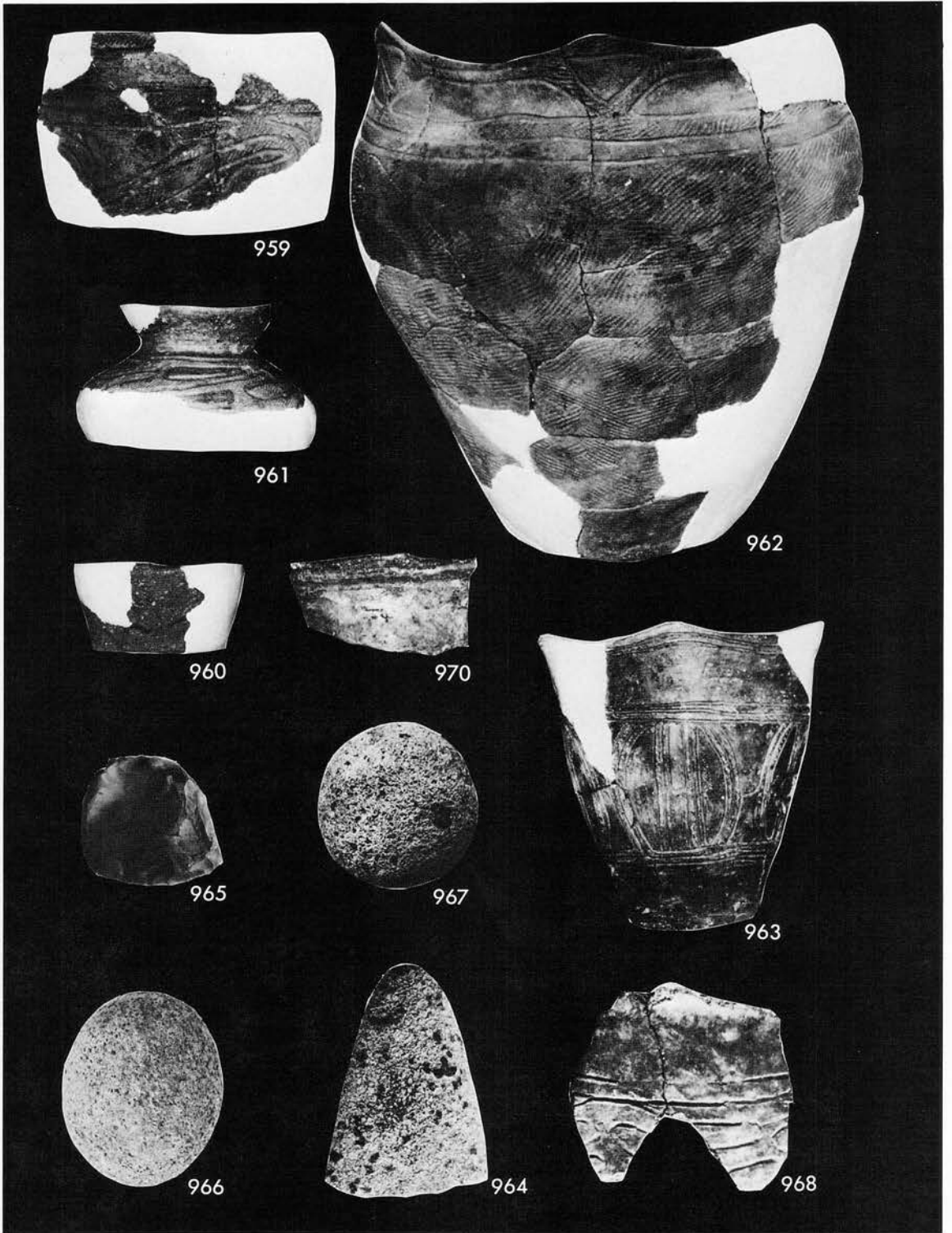


写真図版143 H IV-012住居跡出土遺物(7)

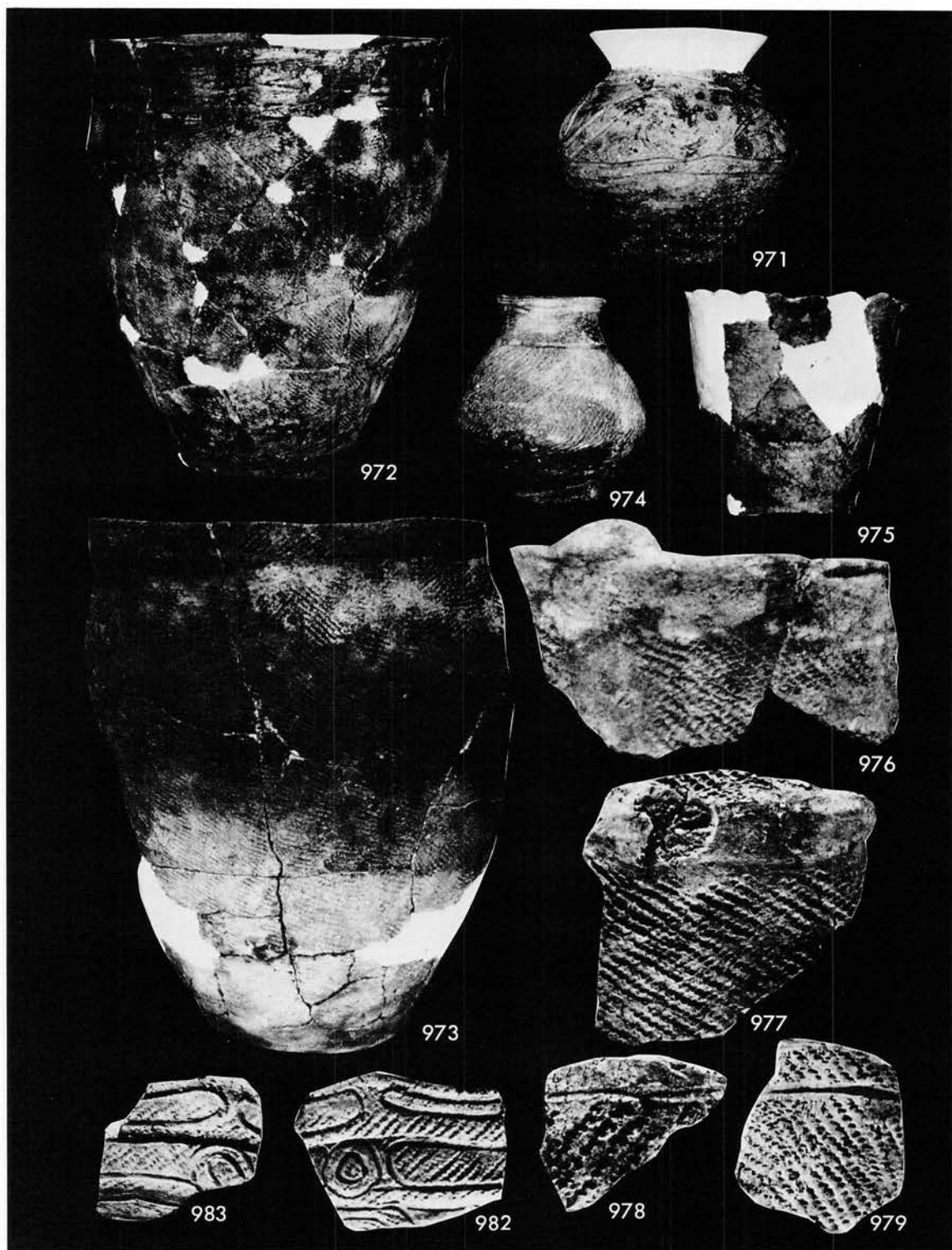


写真図版144 H IV-012住居跡出土遺物(8)

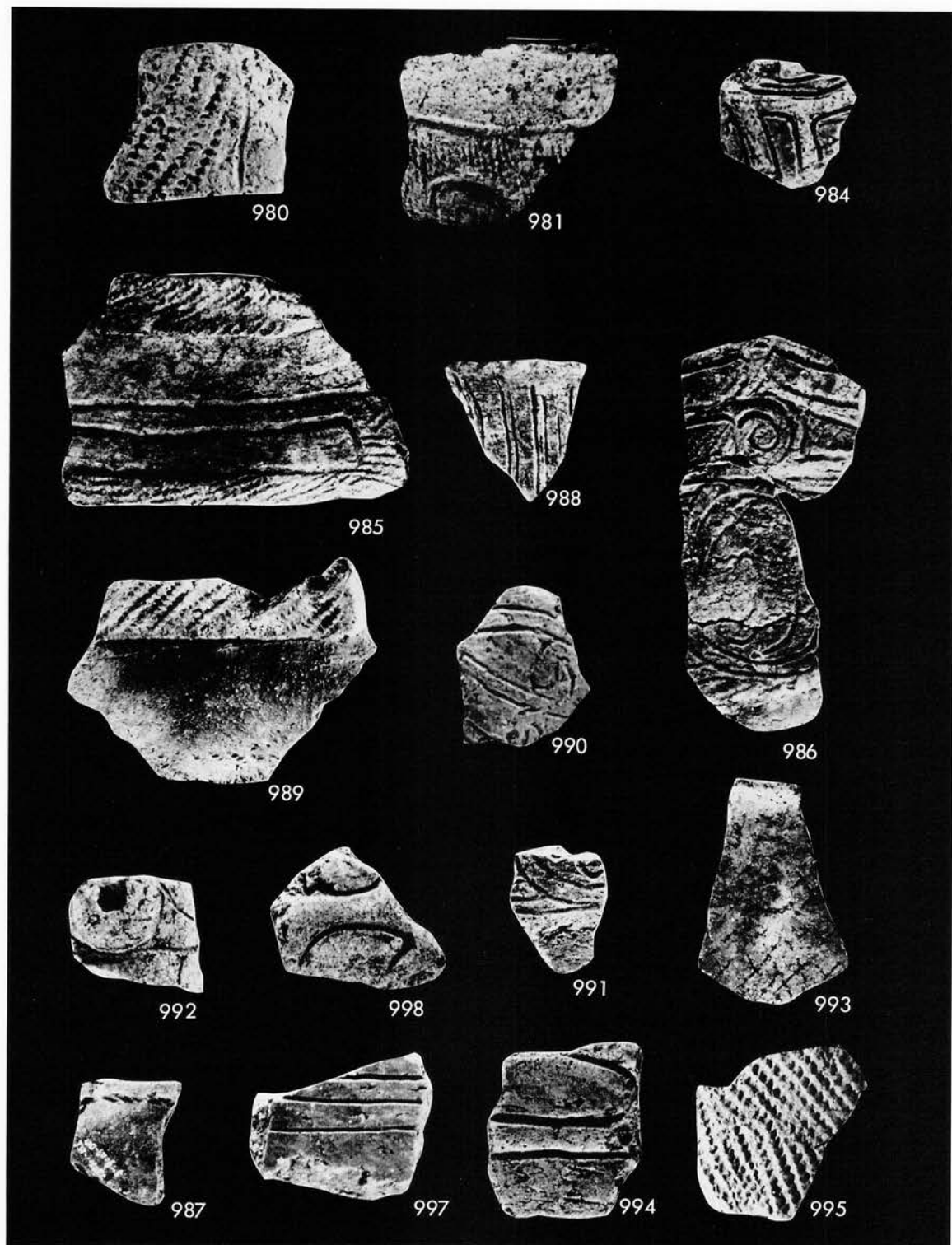




写真図版145 J V - 011・012住居跡出土遺物

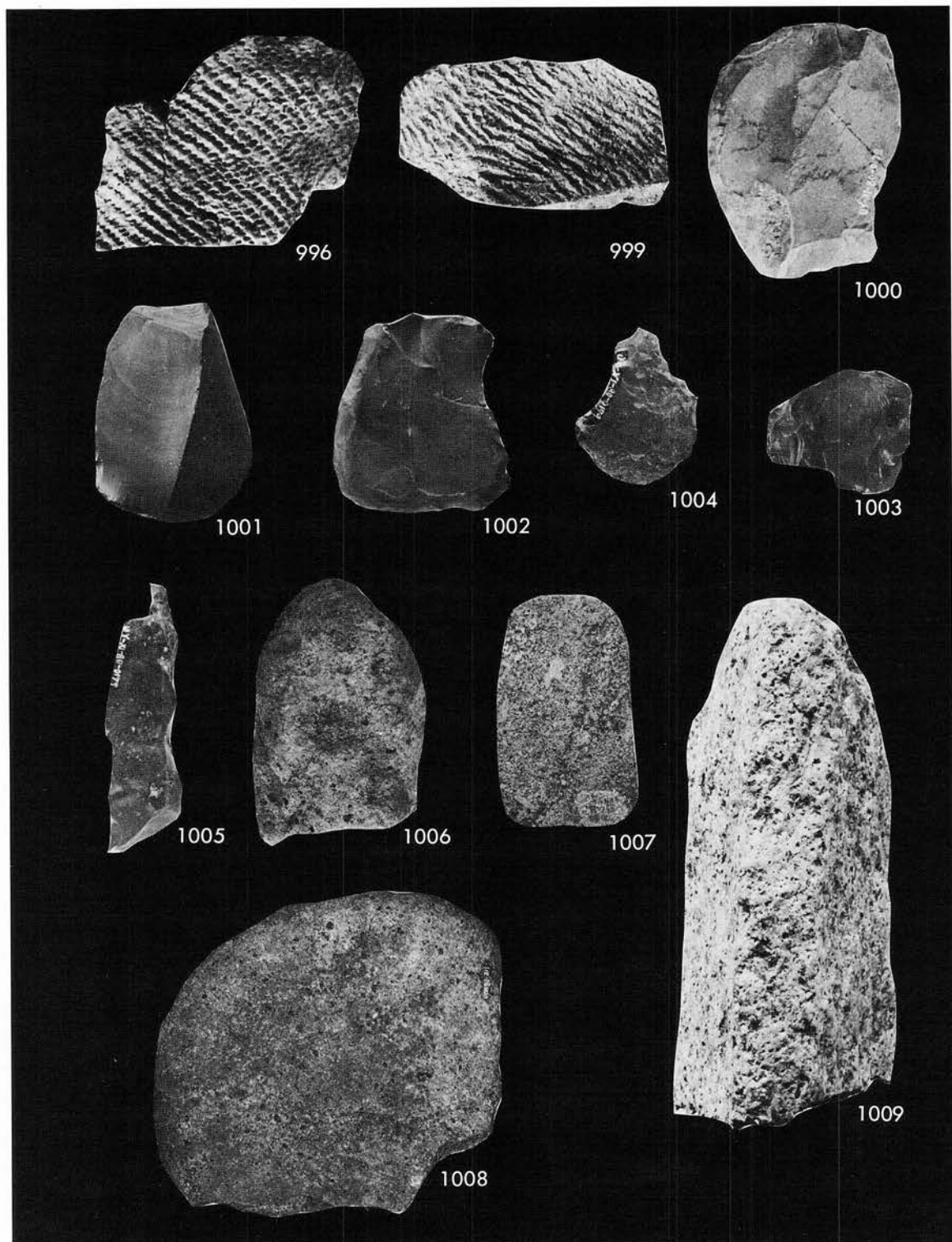


写真図版146 J VI-011住居跡出土遺物(1)

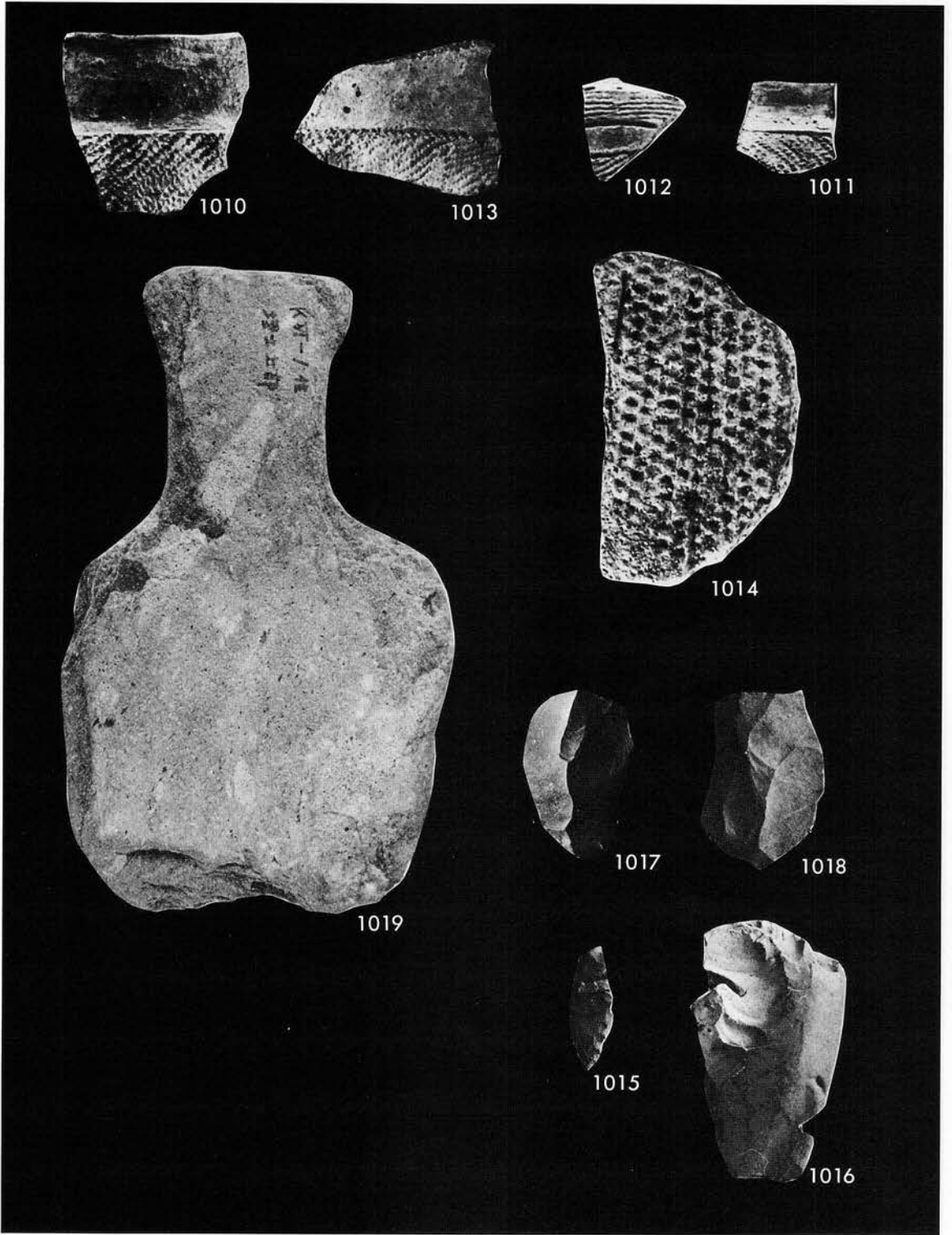


写真図版147 J VI-011住居跡出土遺物(2)

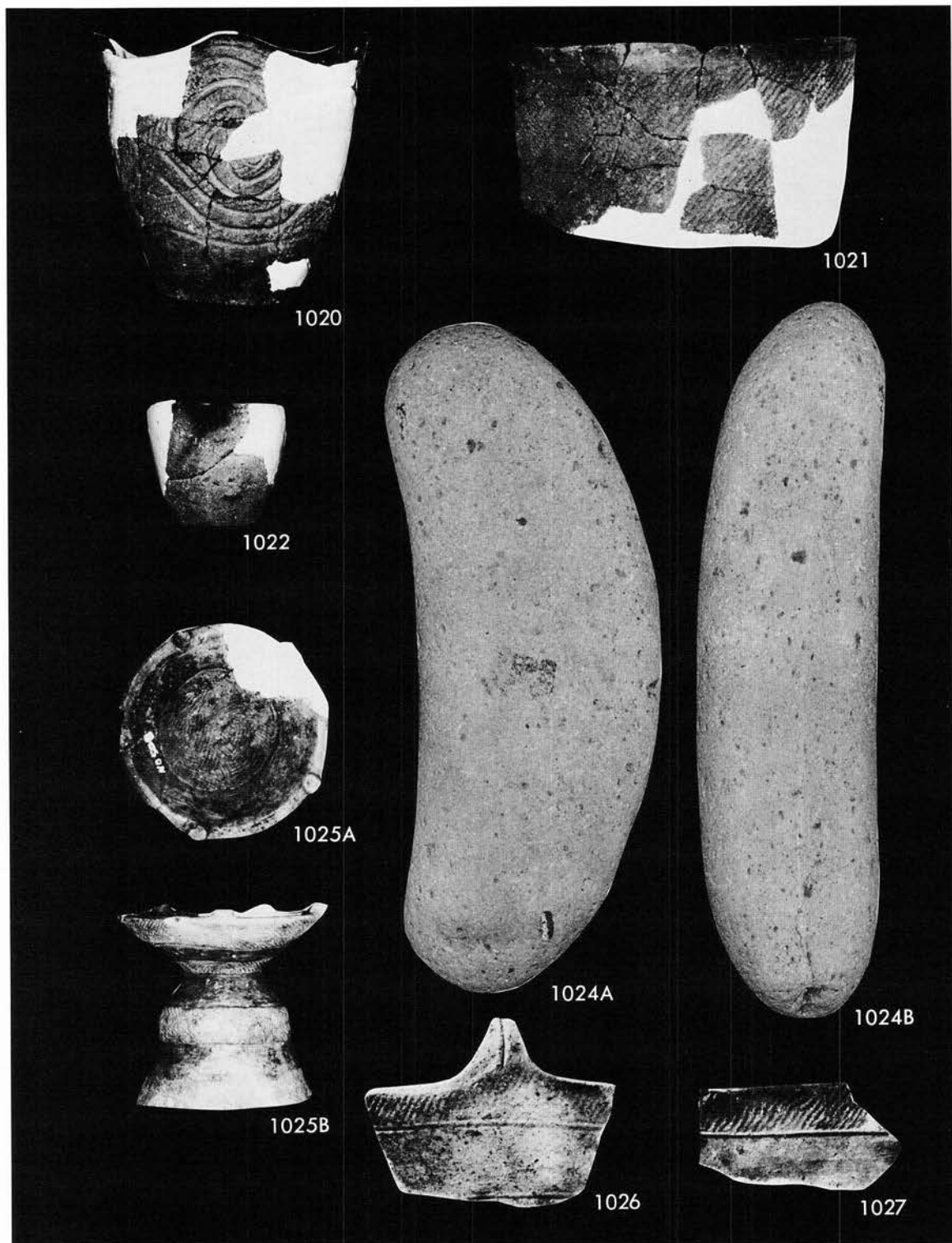




写真図版148 J VI-011住居跡出土遺物(3)

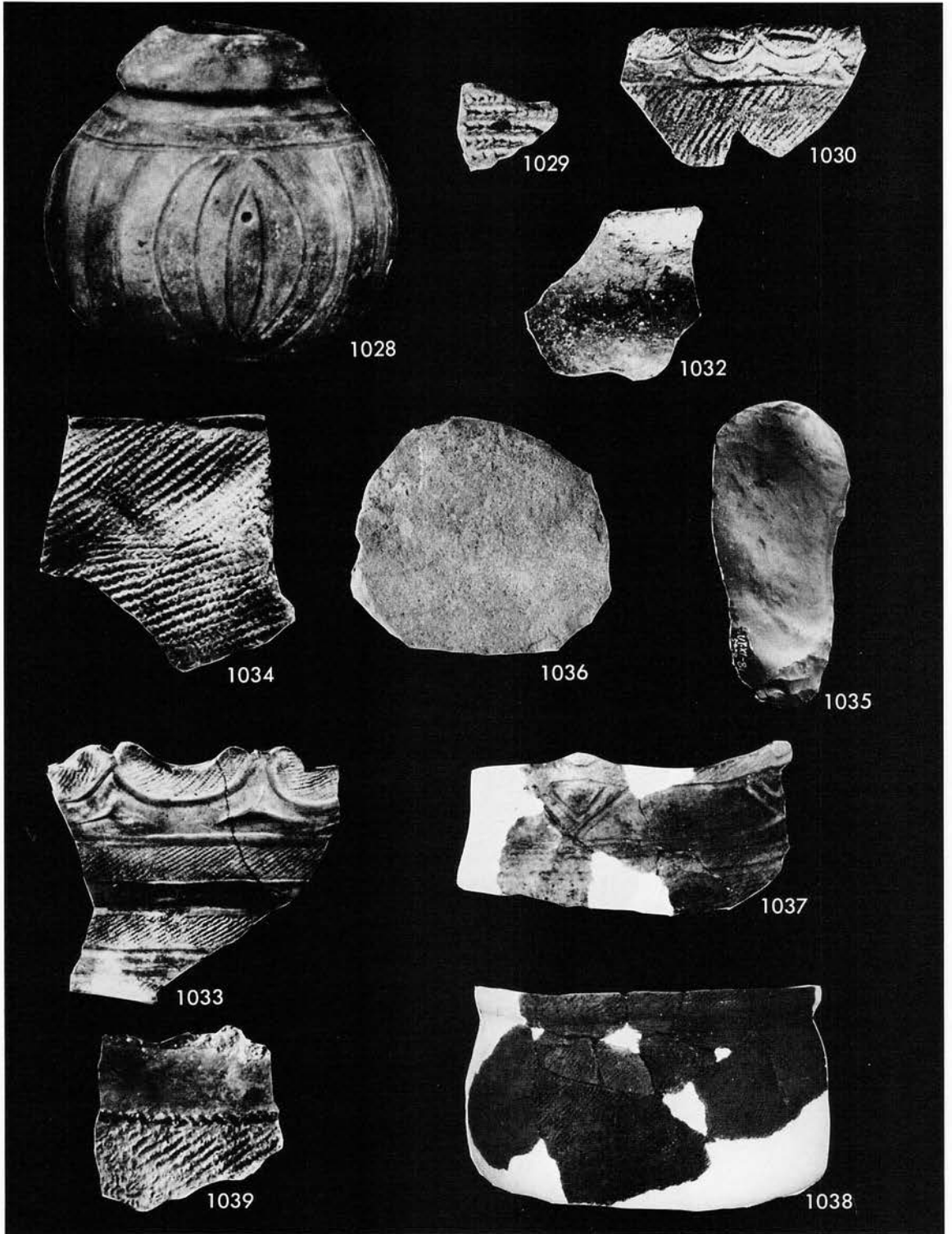


写真図版149 K VI-011住居跡出土遺物

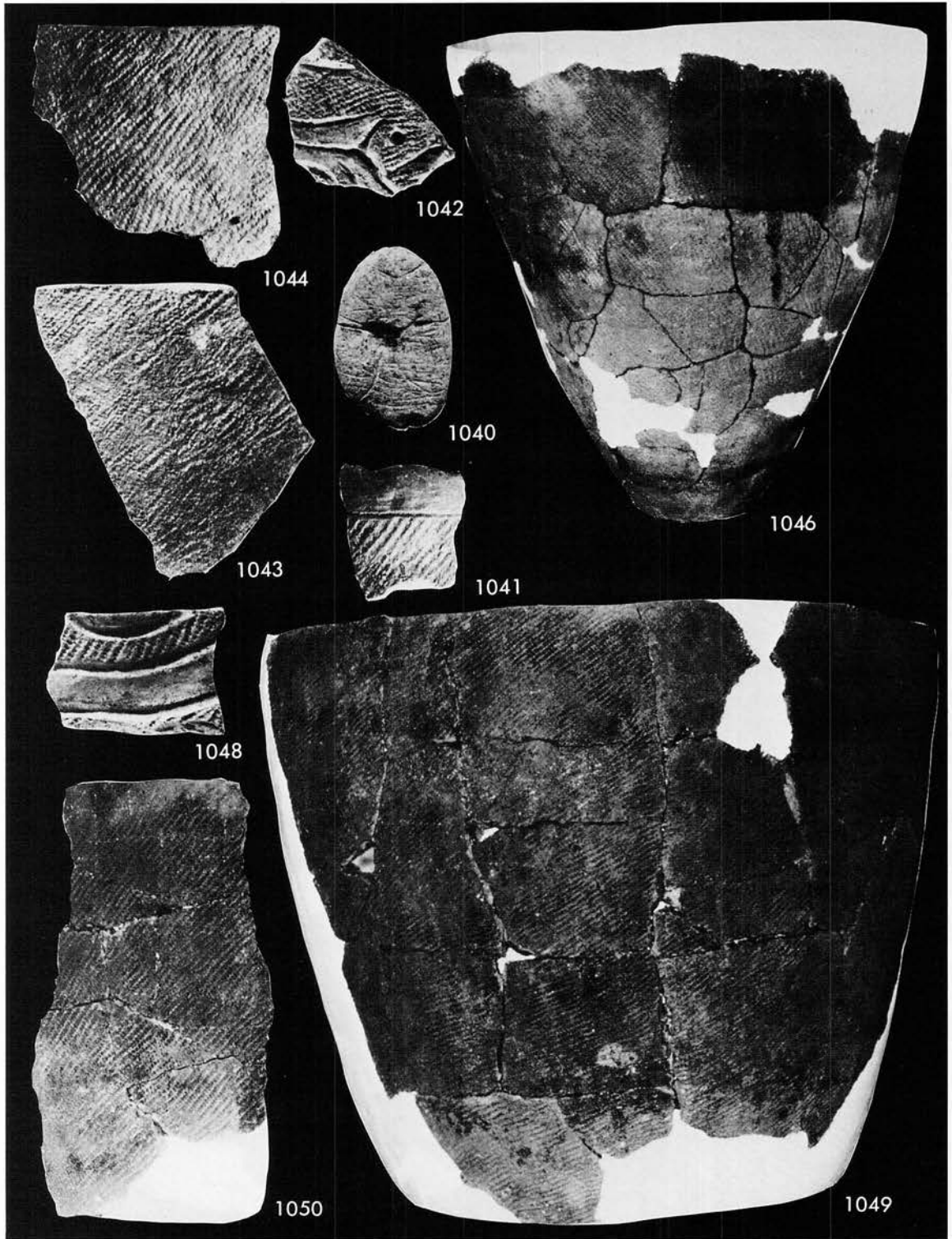


写真図版150 K VI-012住居跡・L V-011掘立柱建物跡出土遺物

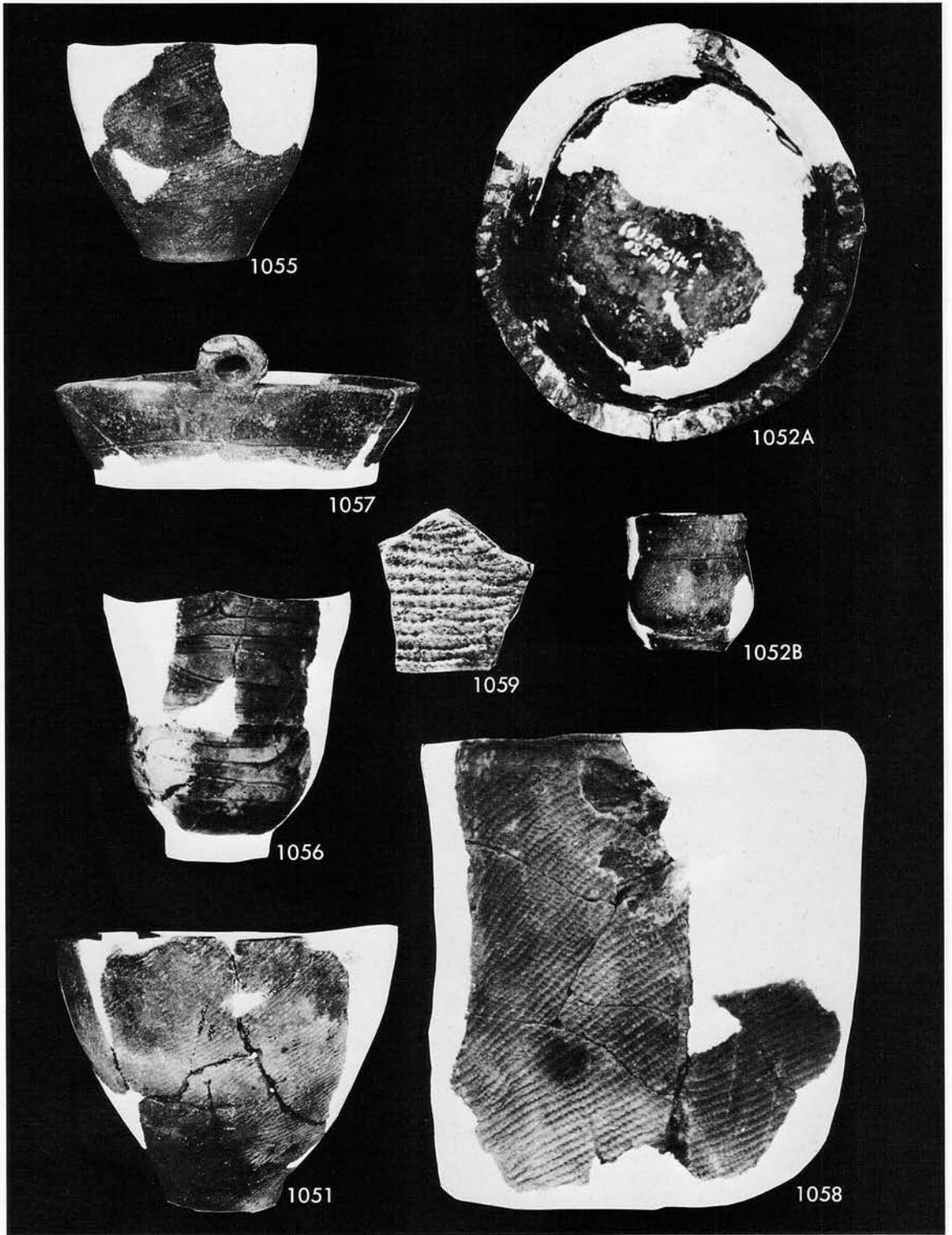




写真図版151 E III-028・G III-021・H III-021ピット出土遺物

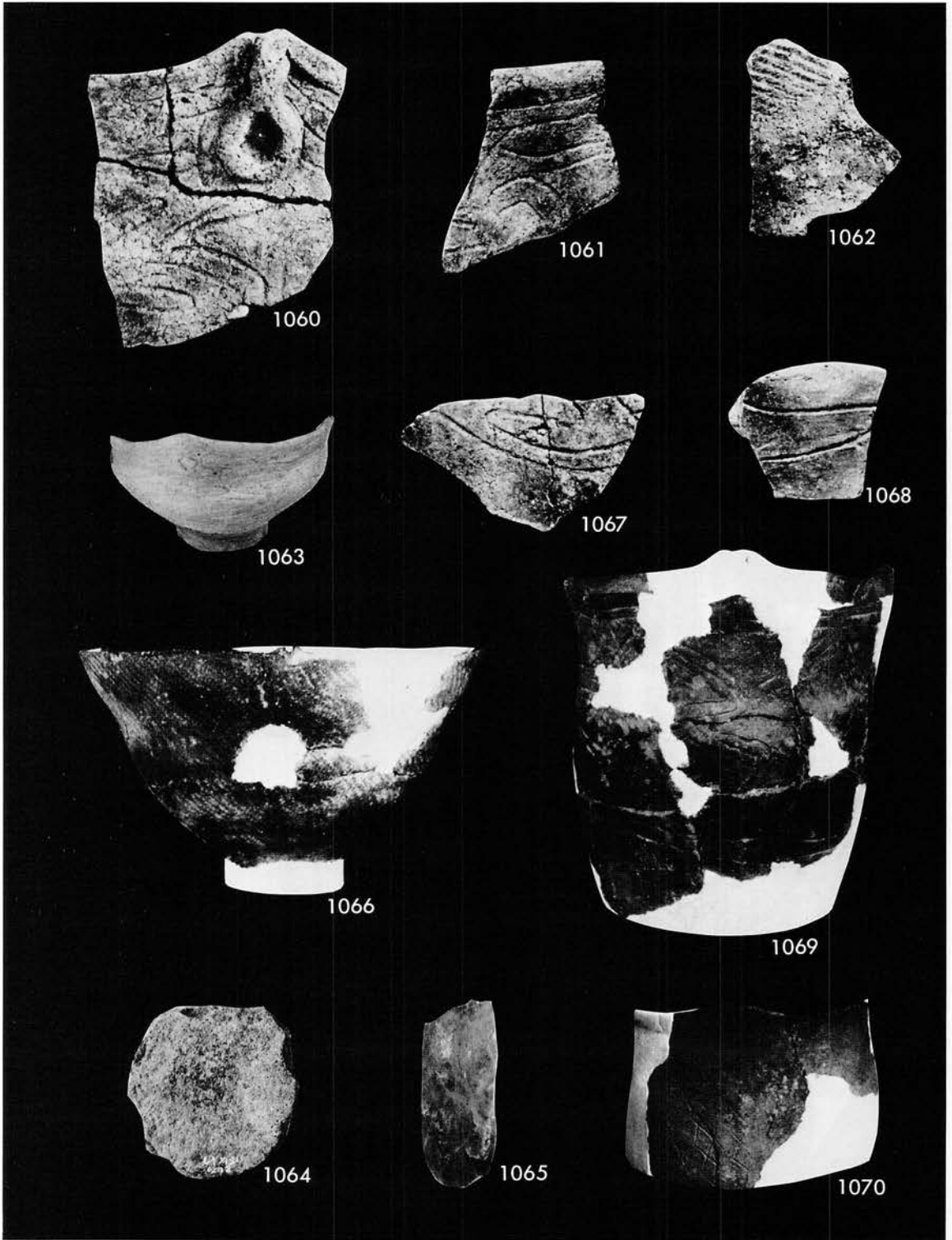


写真図版152 H III-09・022～H IV-022ピット出土遺物

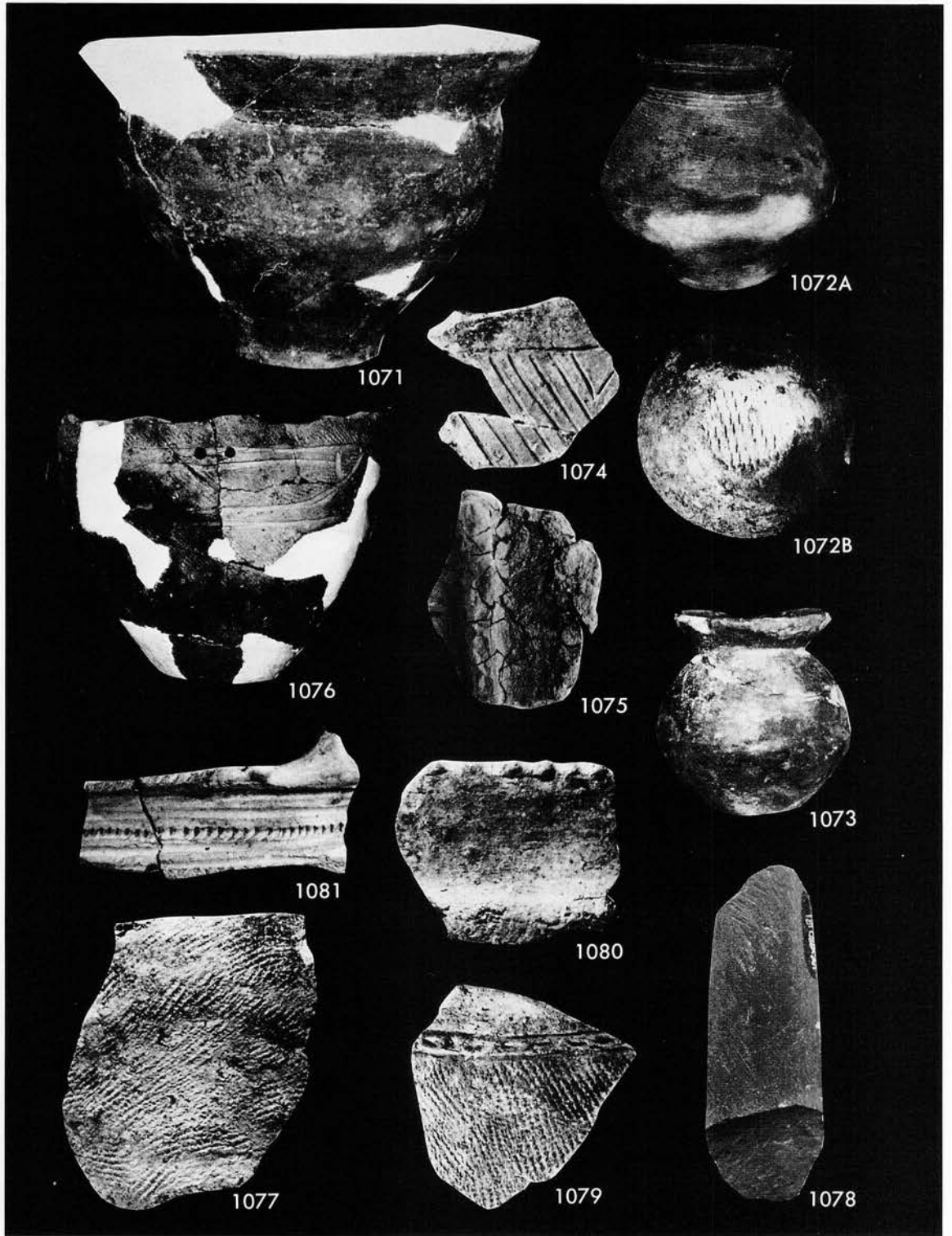


写真図版153 H IV-022~I V-021ピット出土遺物

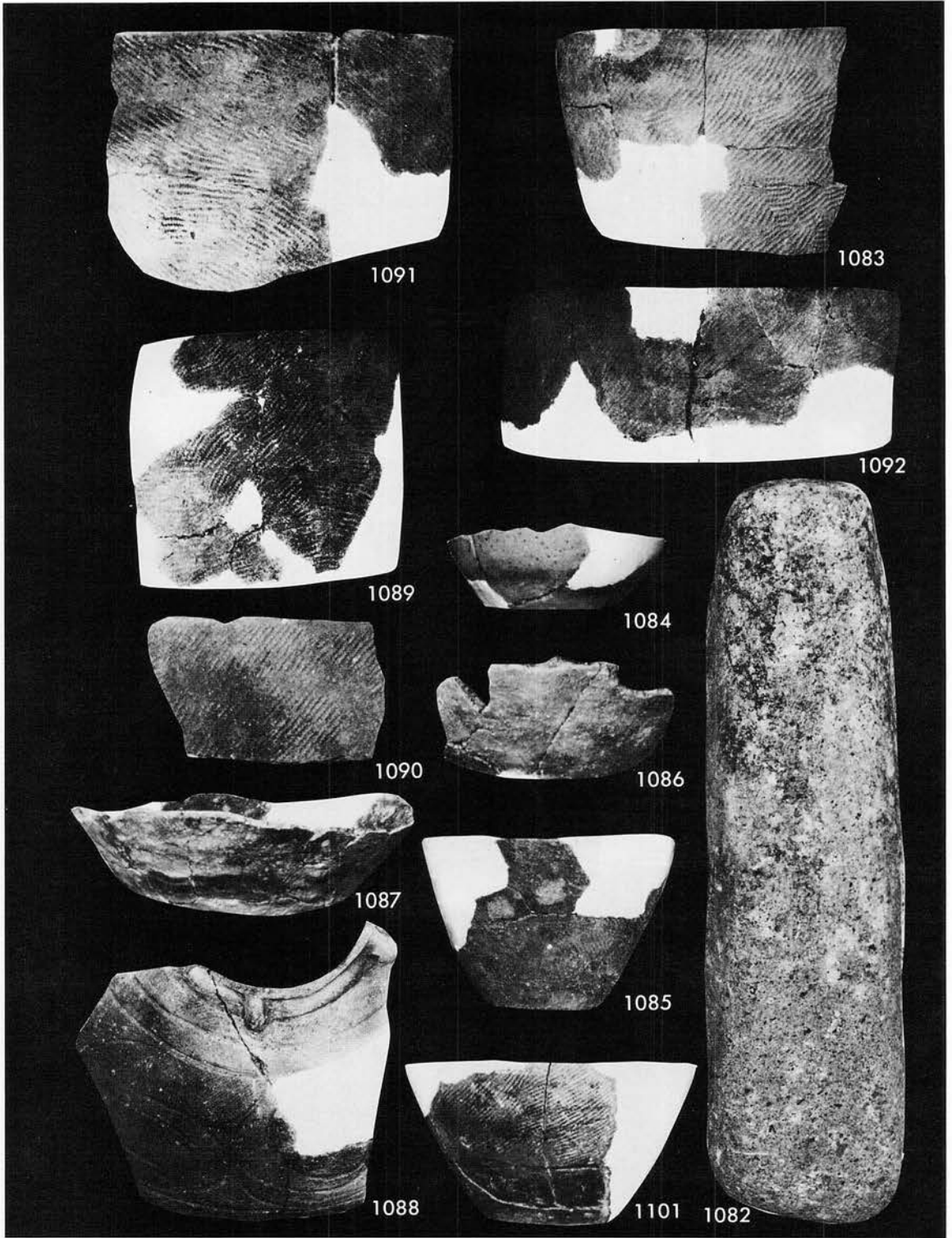




写真図版154 J V - 022 ~ J VI - 024ピット出土遺物

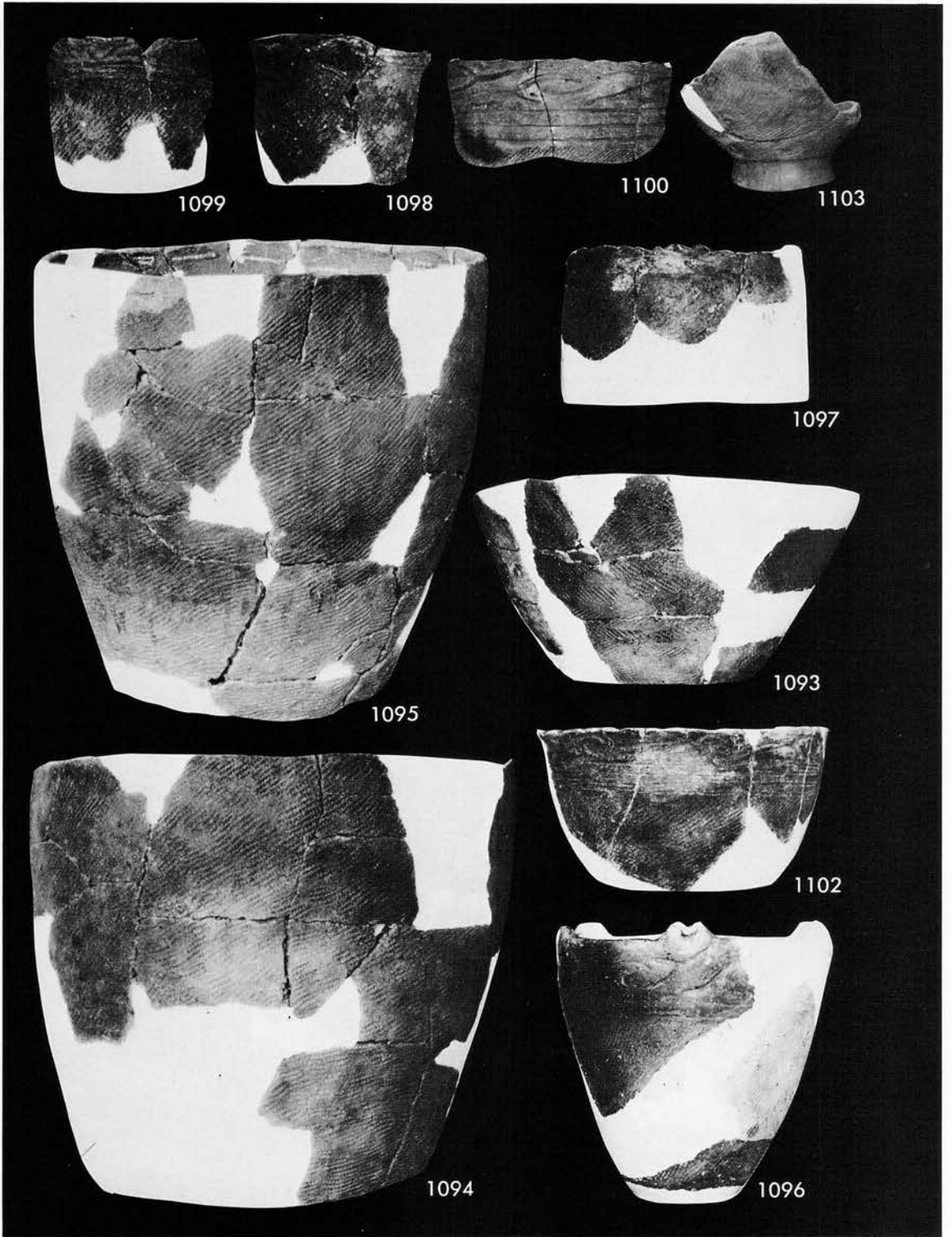


写真図版155 J IV-028～M IV-025ピット出土遺物

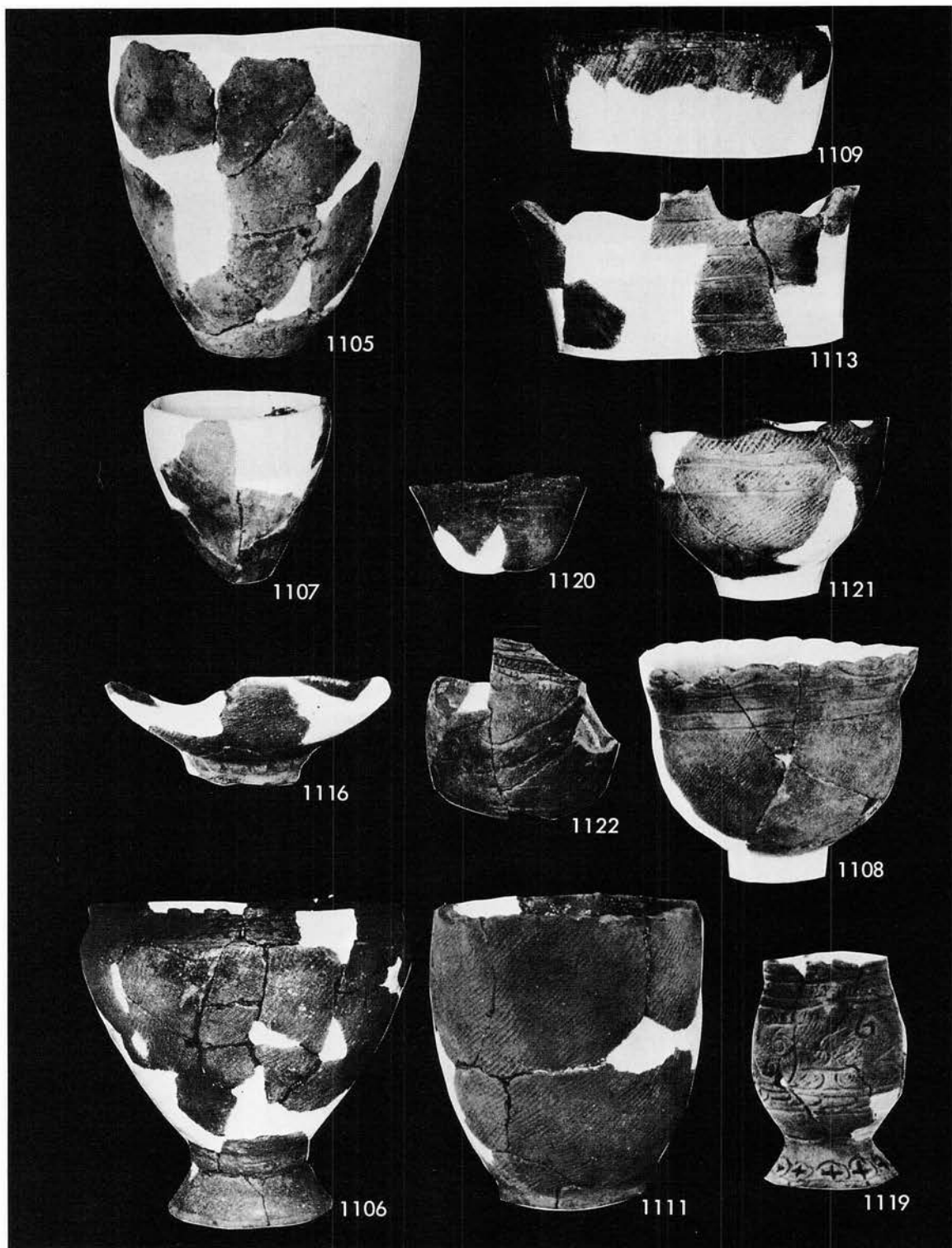


写真図版156 F III-041集石遺構・G II-061捨て場跡出土遺物

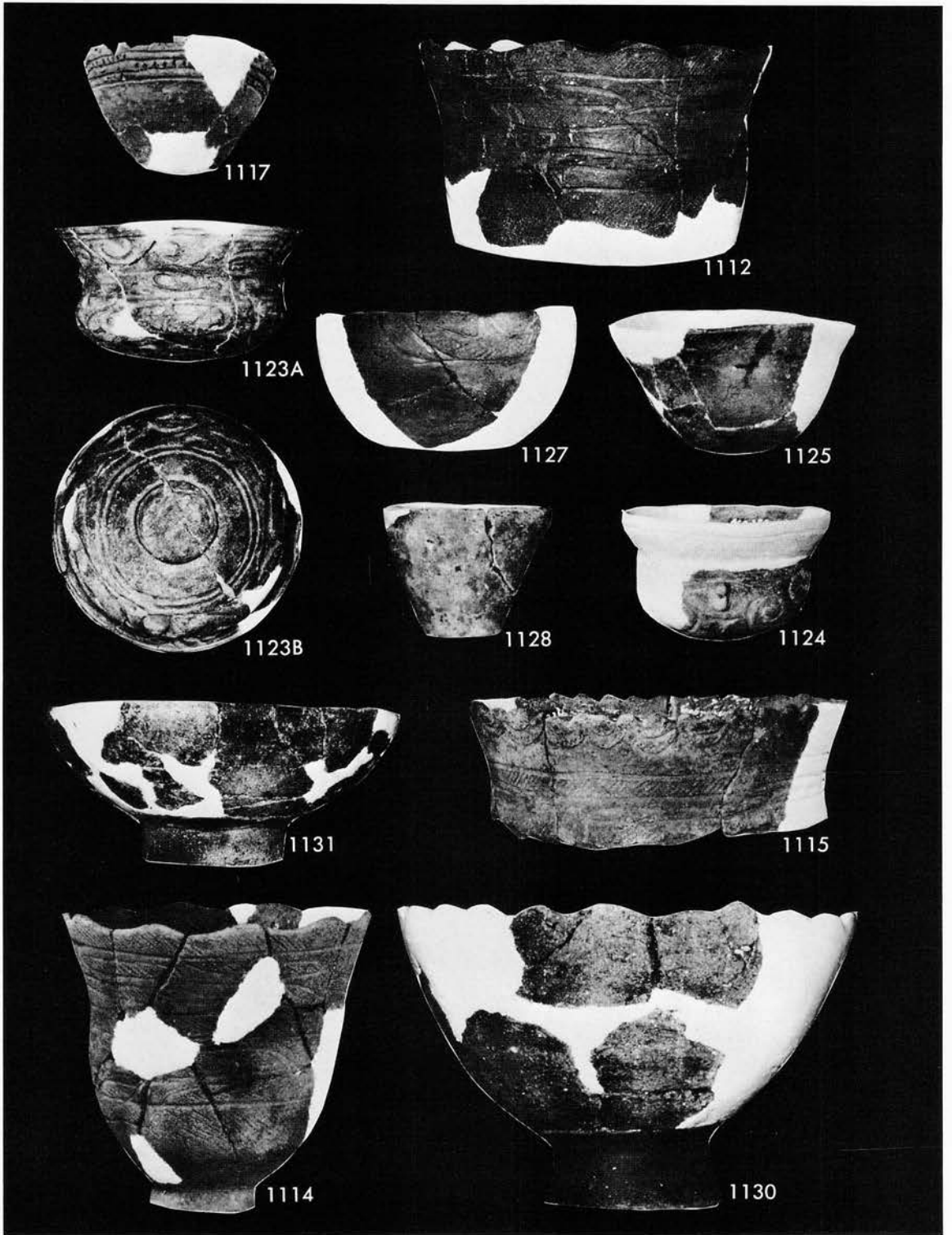




写真図版157 G II-061捨て場跡出土遺物(1)

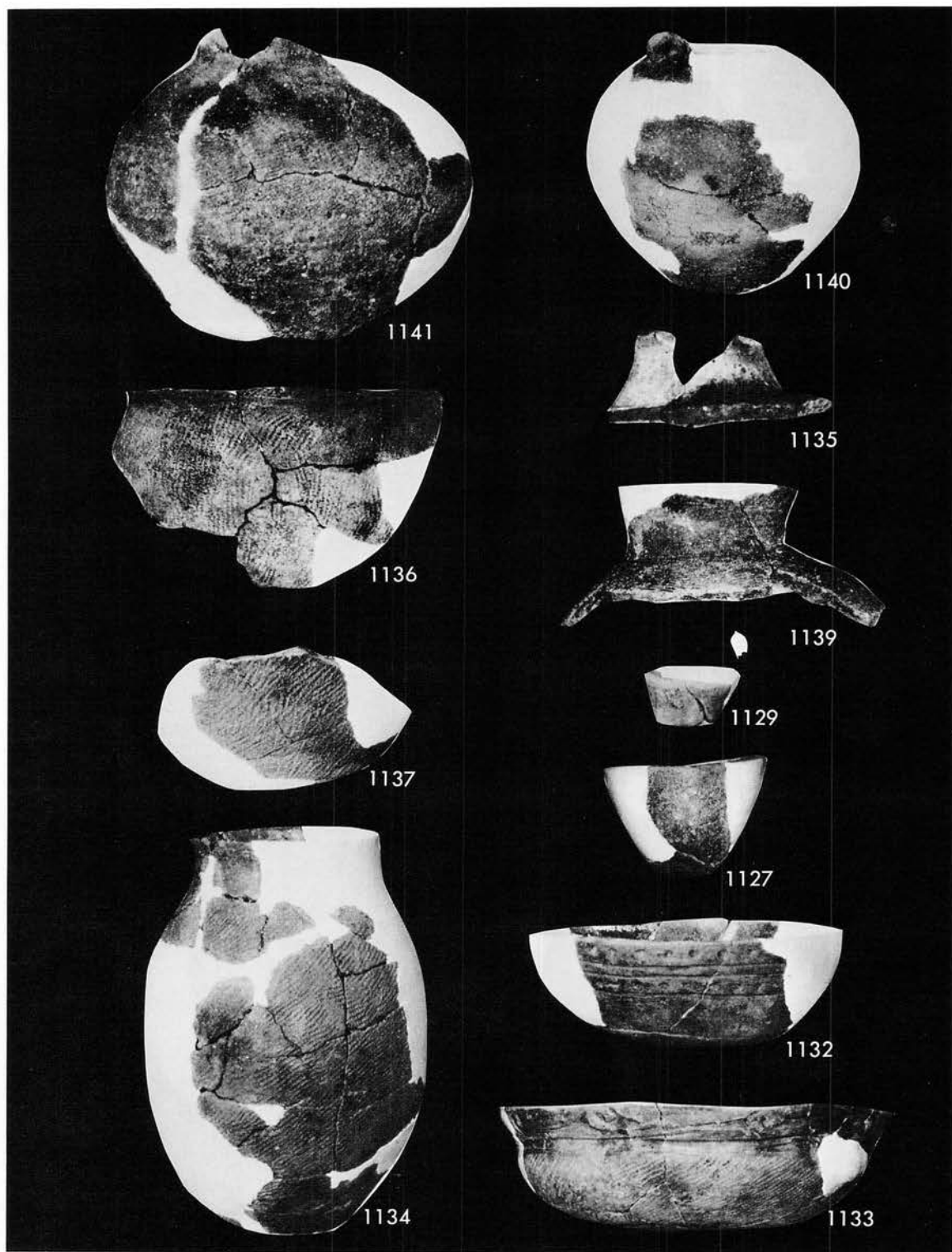


写真図版158 G II-06|捨て場跡出土遺物(2)

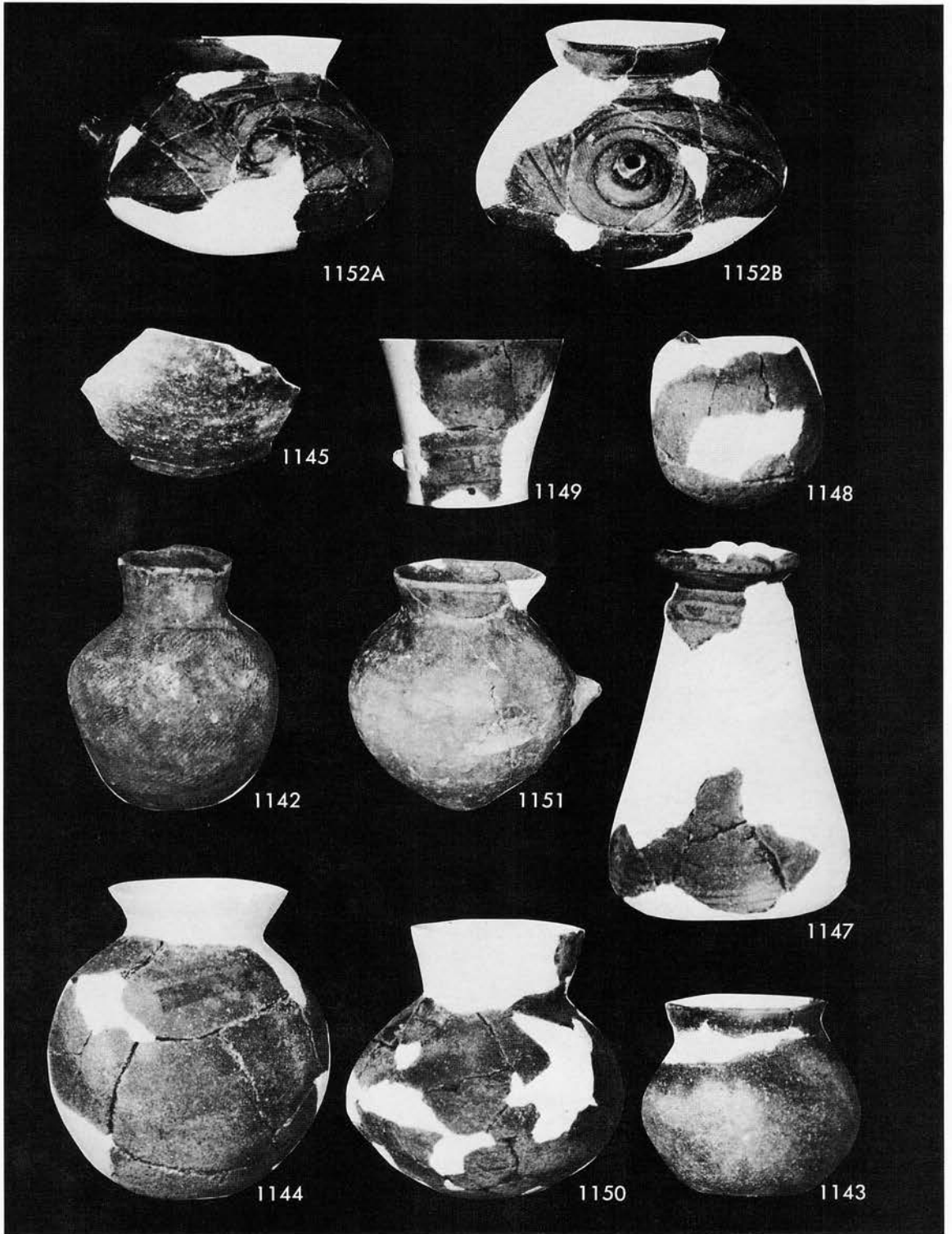


写真図版159 G II-061捨て場跡出土遺物(3)

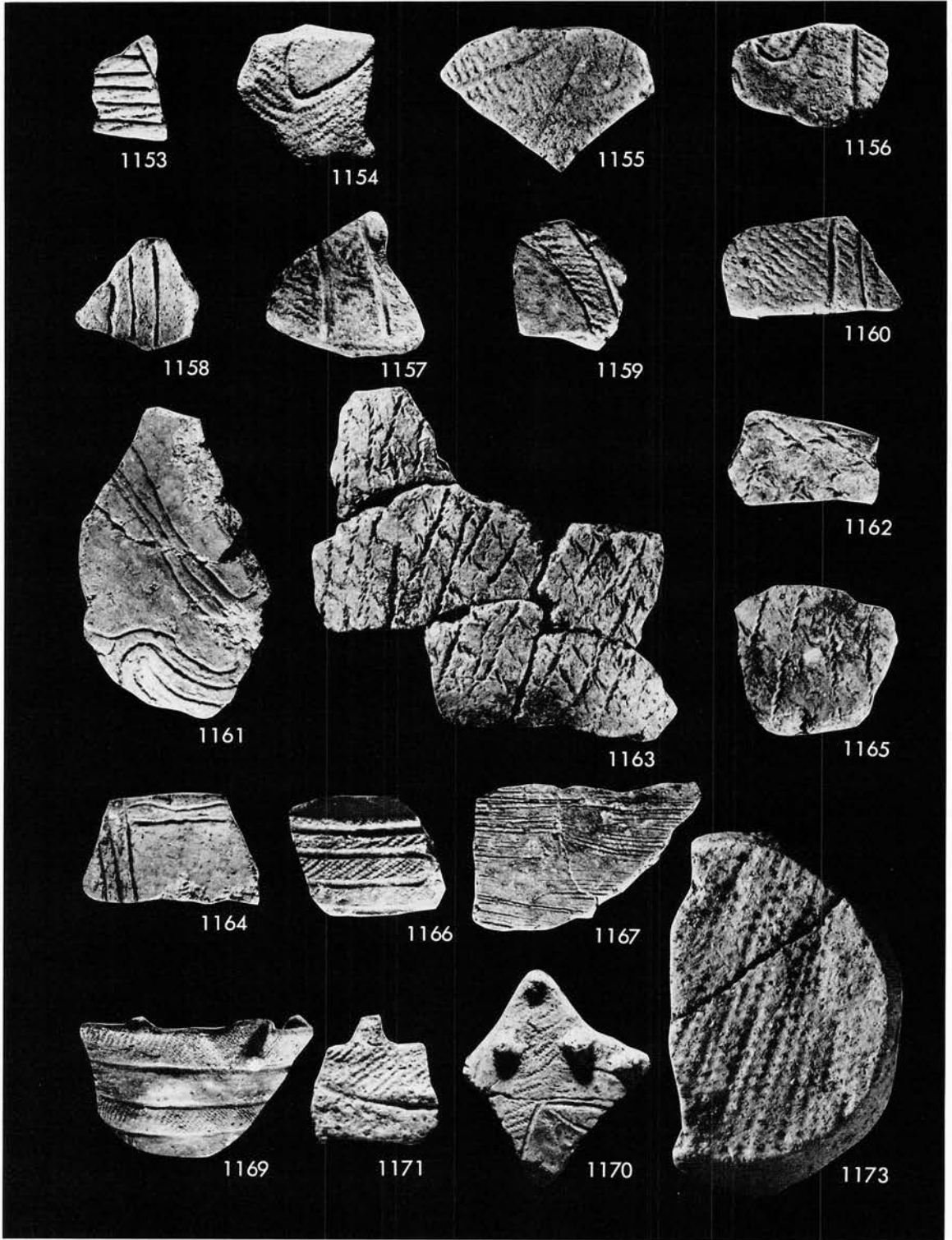




写真図版160 G II-061捨て場跡出土遺物(4)

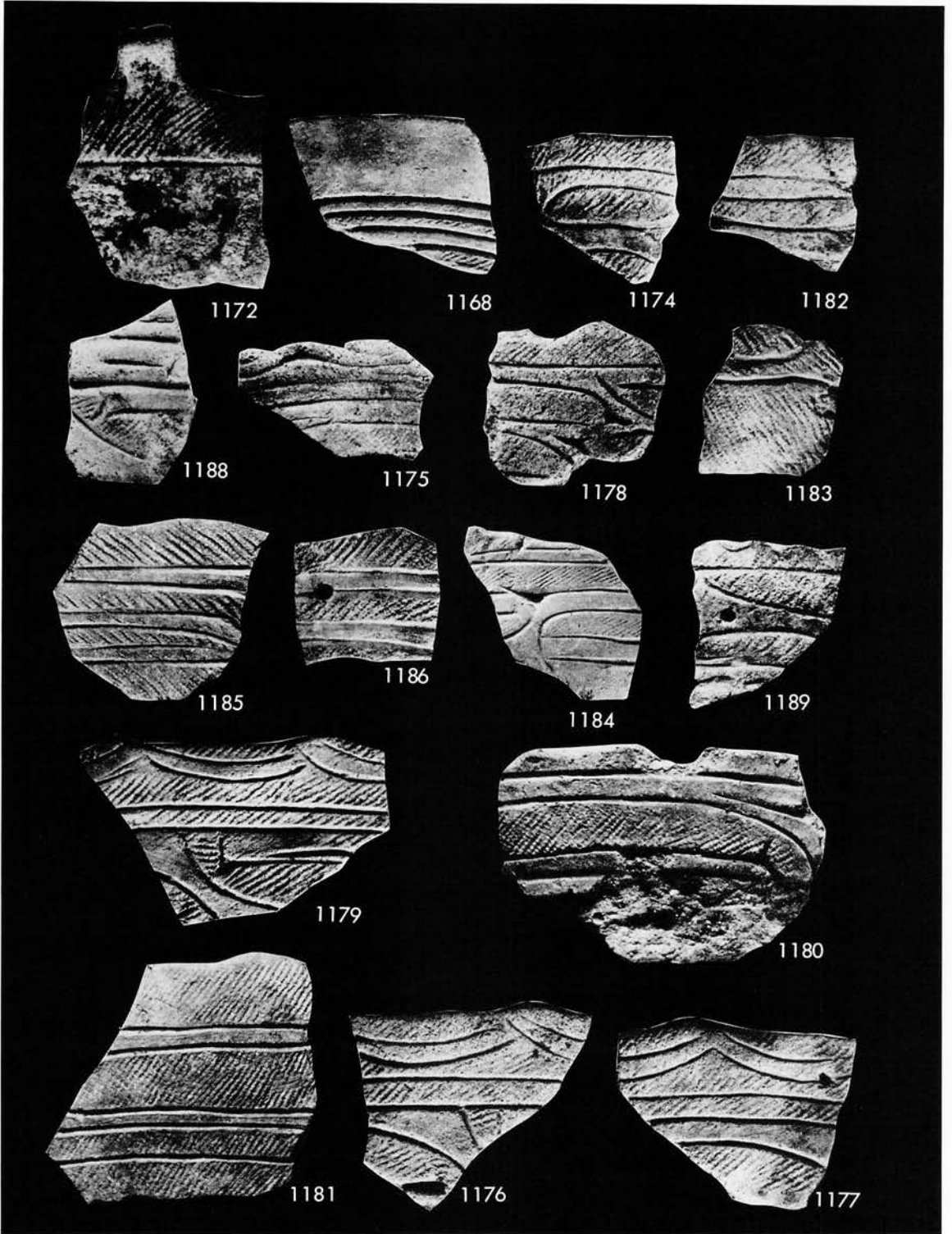


写真図版161 G II-061捨て場跡出土遺物(5)

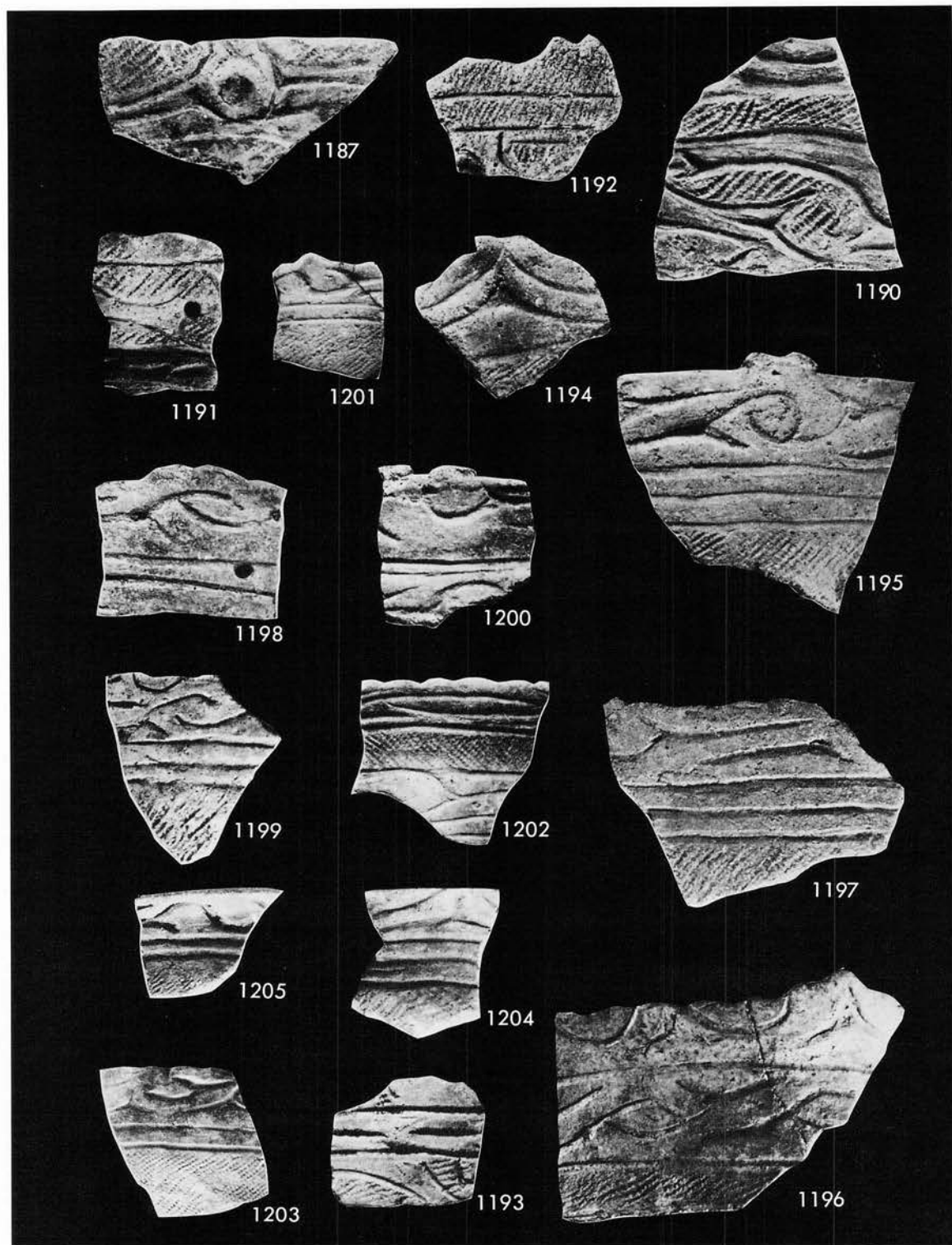


写真図版162 G II-06|捨て場跡出土遺物(6)

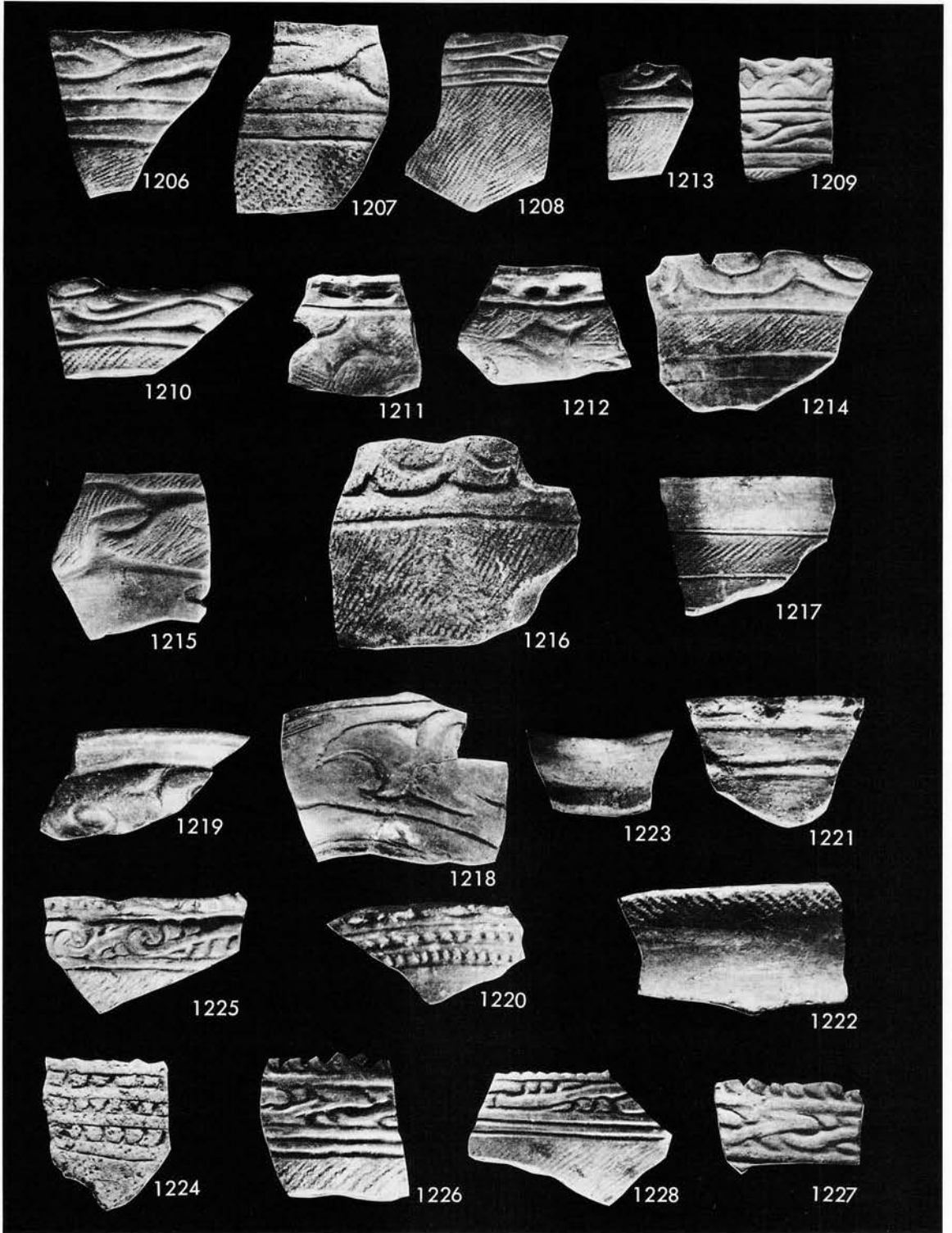




写真図版163 G II-06I捨て場跡出土遺物(7)

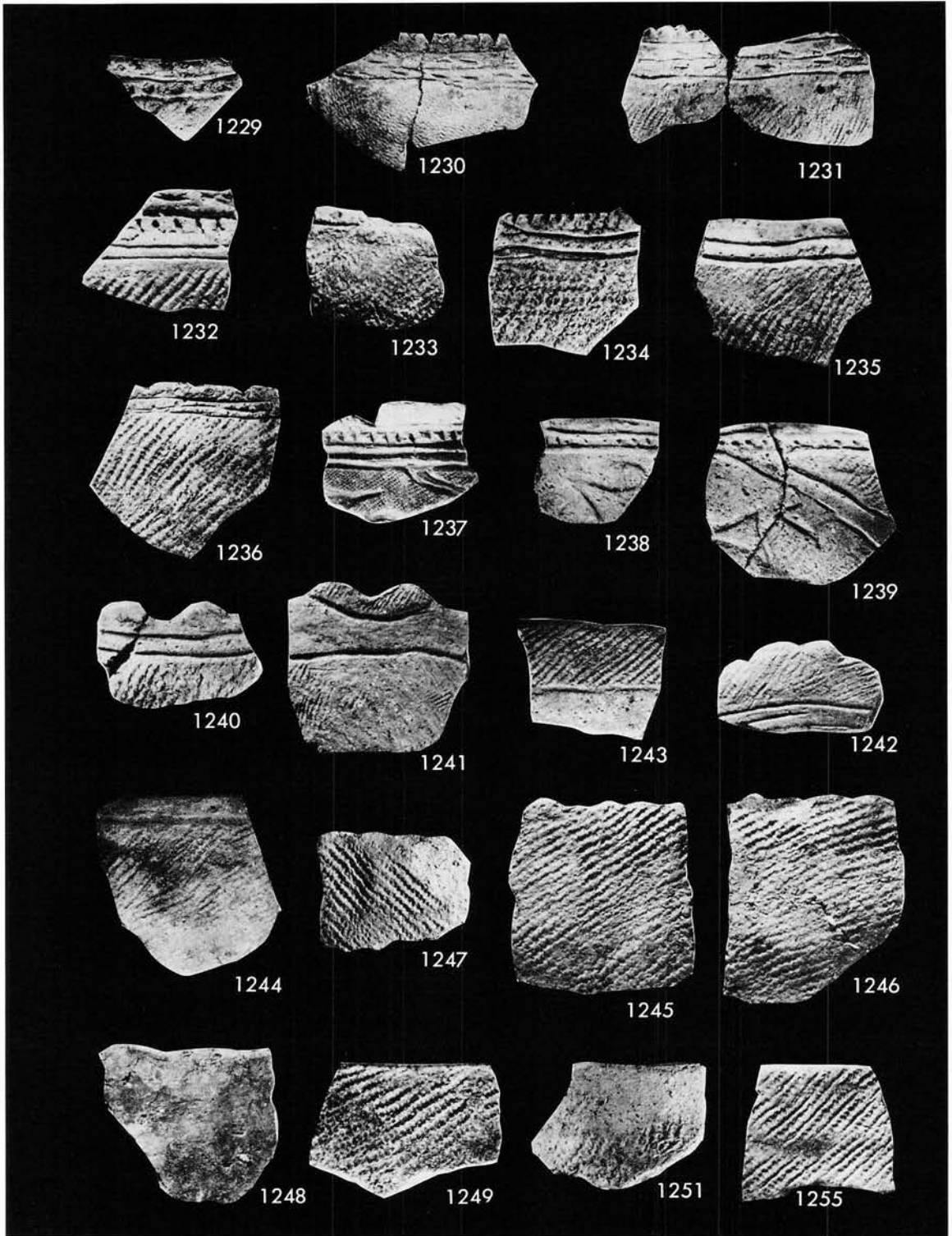


写真図版164 G II-06|捨て場跡出土遺物(8)

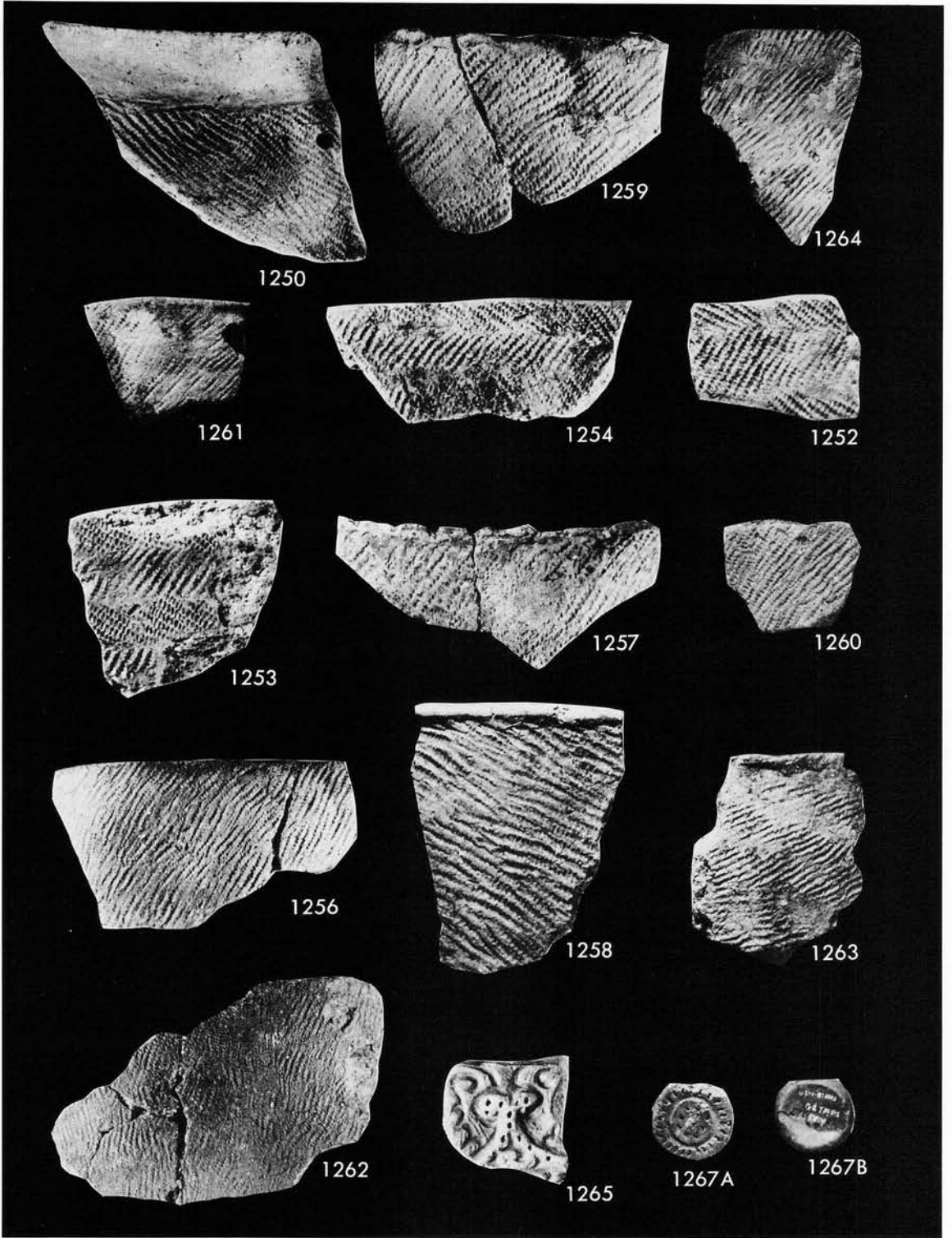


写真図版165 G II-061捨て場跡出土遺物(9)

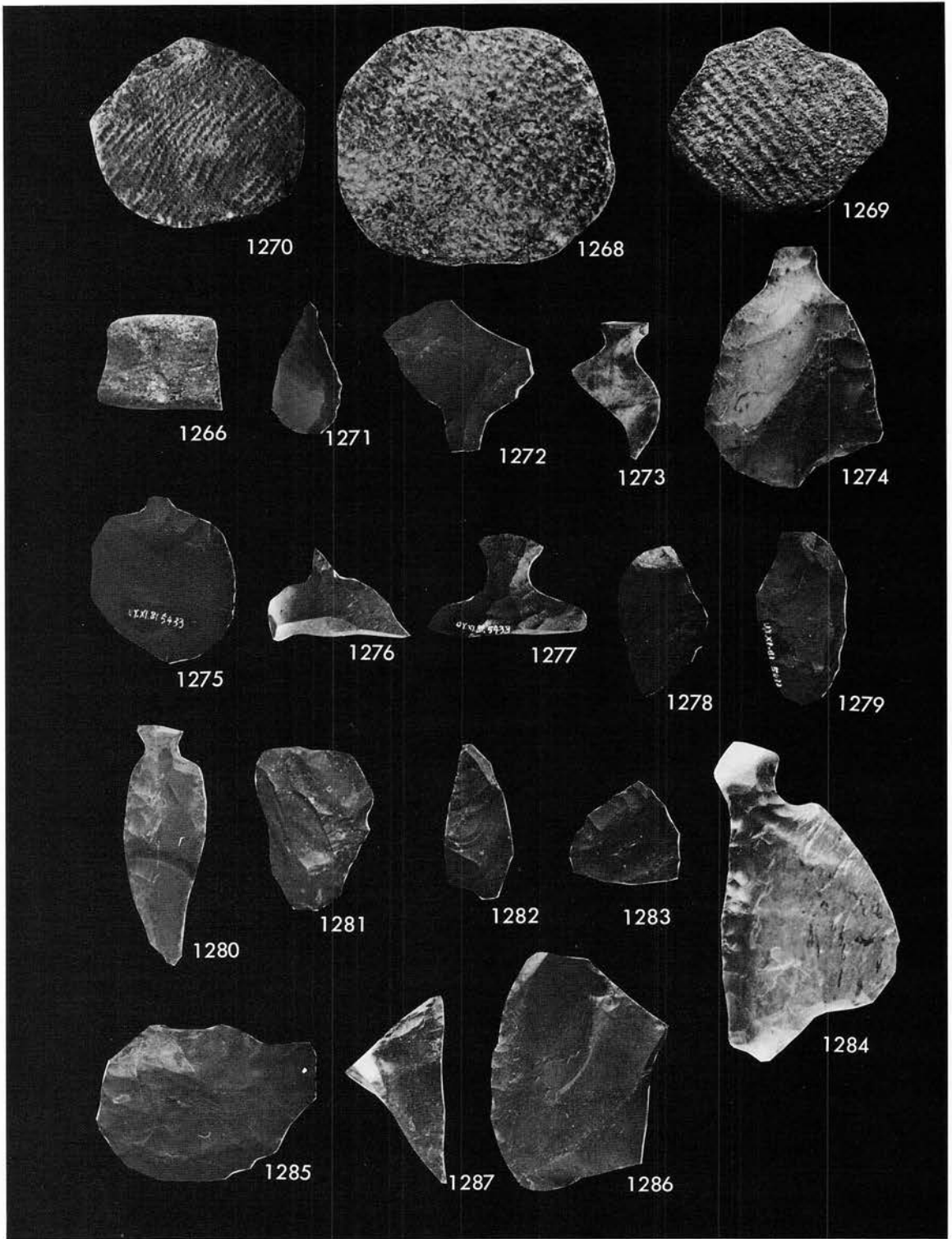




写真図版166 G II-06I捨て場跡出土遺物 (10)

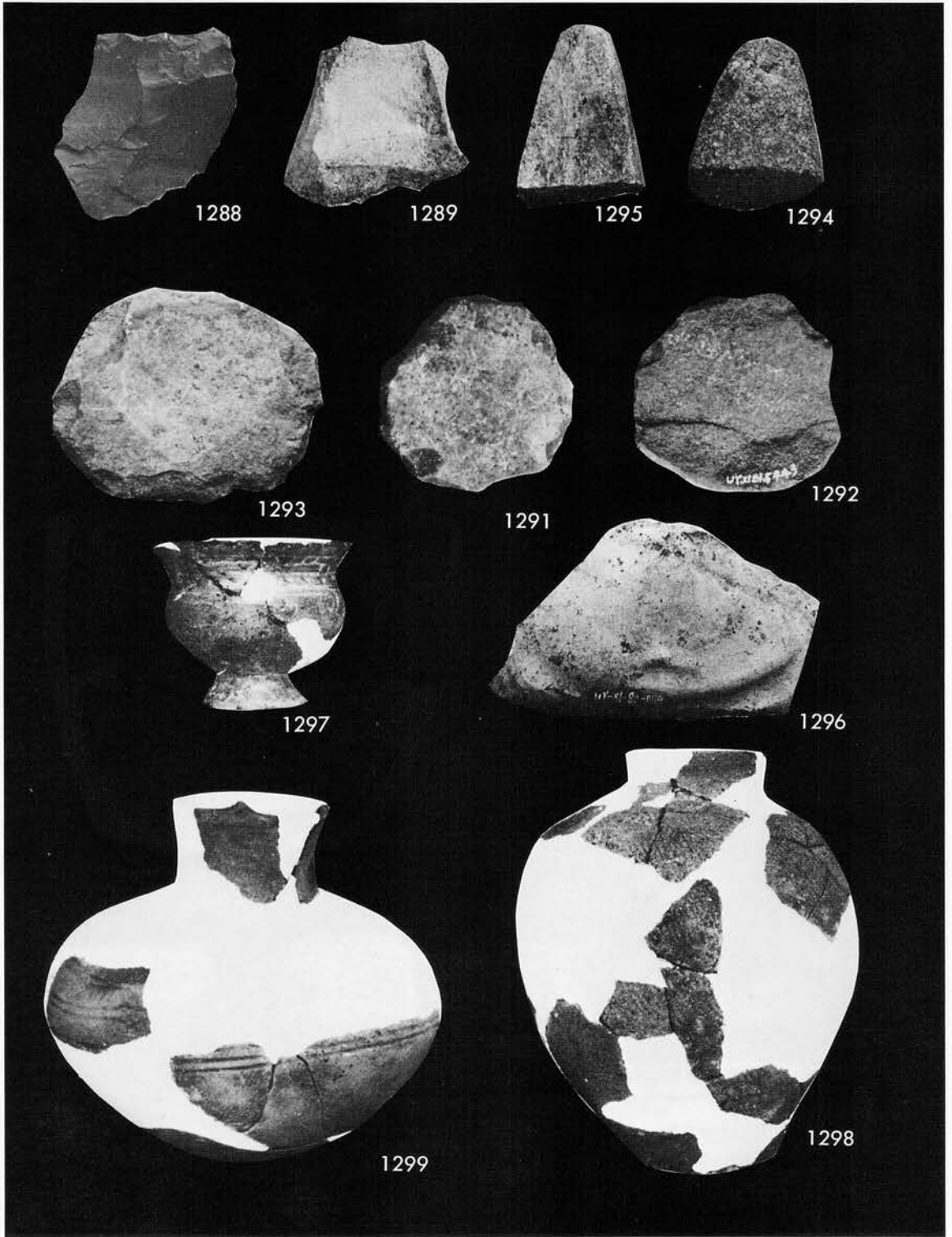


写真図版167 G II-06I捨て場跡出土遺物 (II)

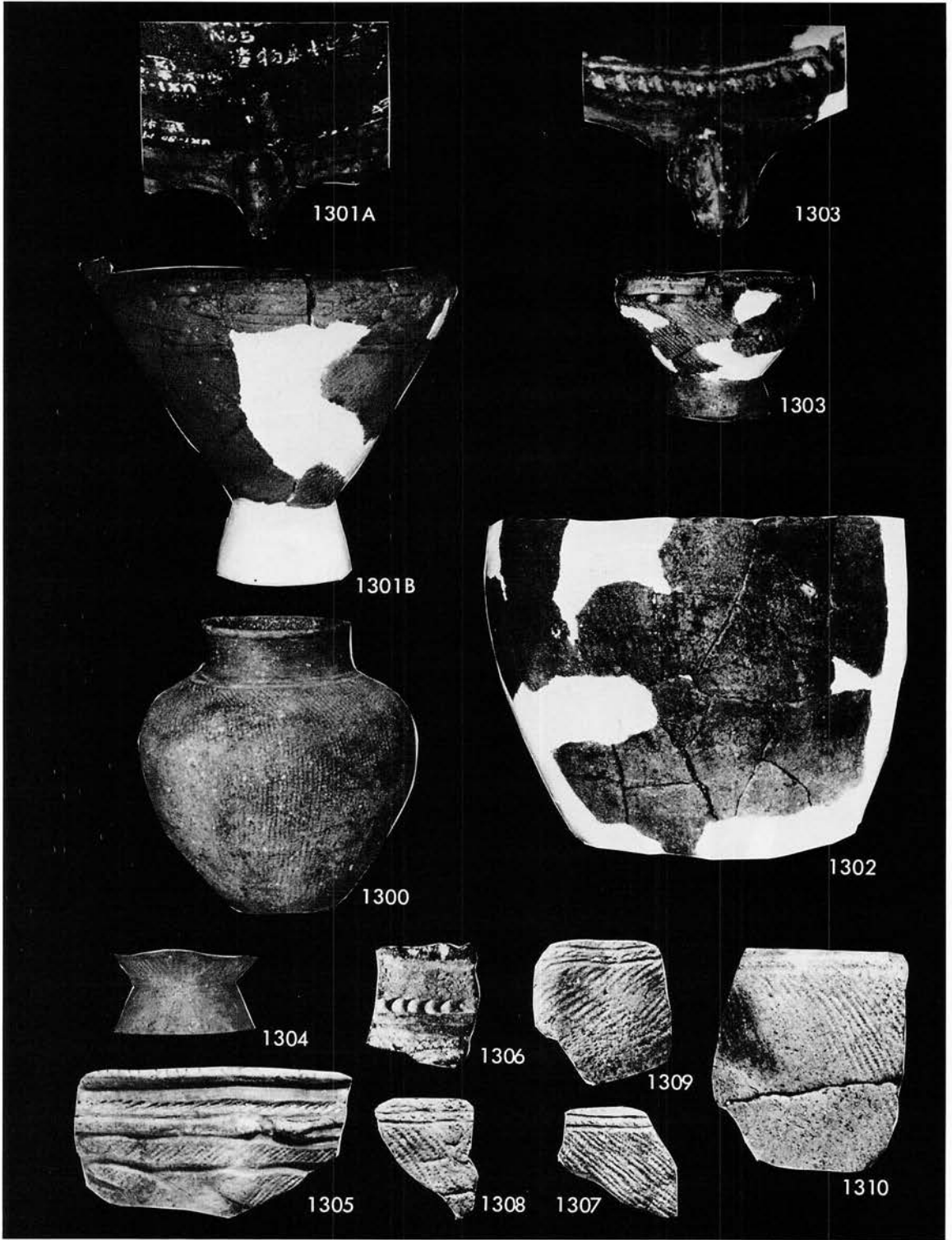


写真図版168 G II-061捨て場跡出土遺物(12)

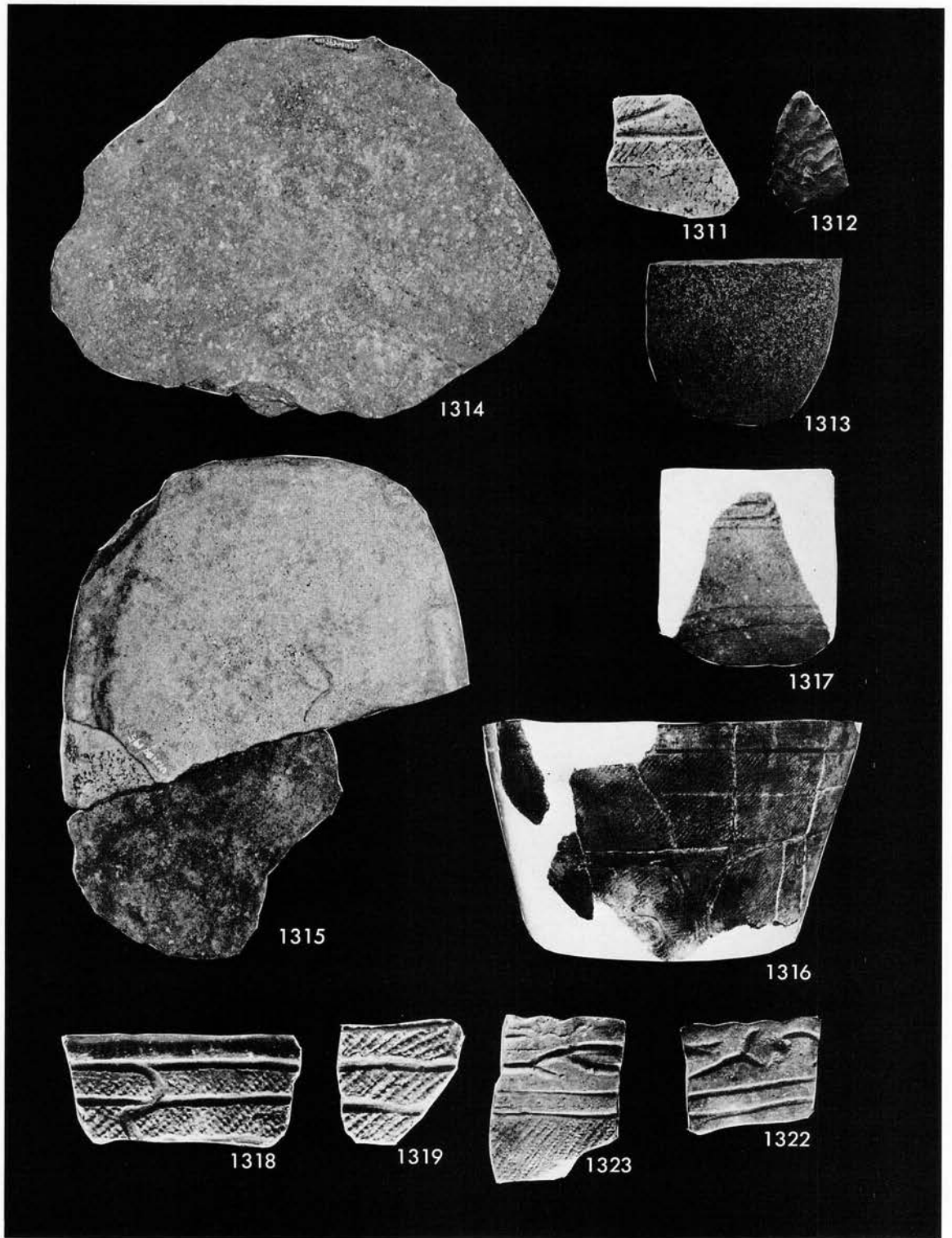




写真図版169 G II-061・I III-061捨て場跡出土遺物

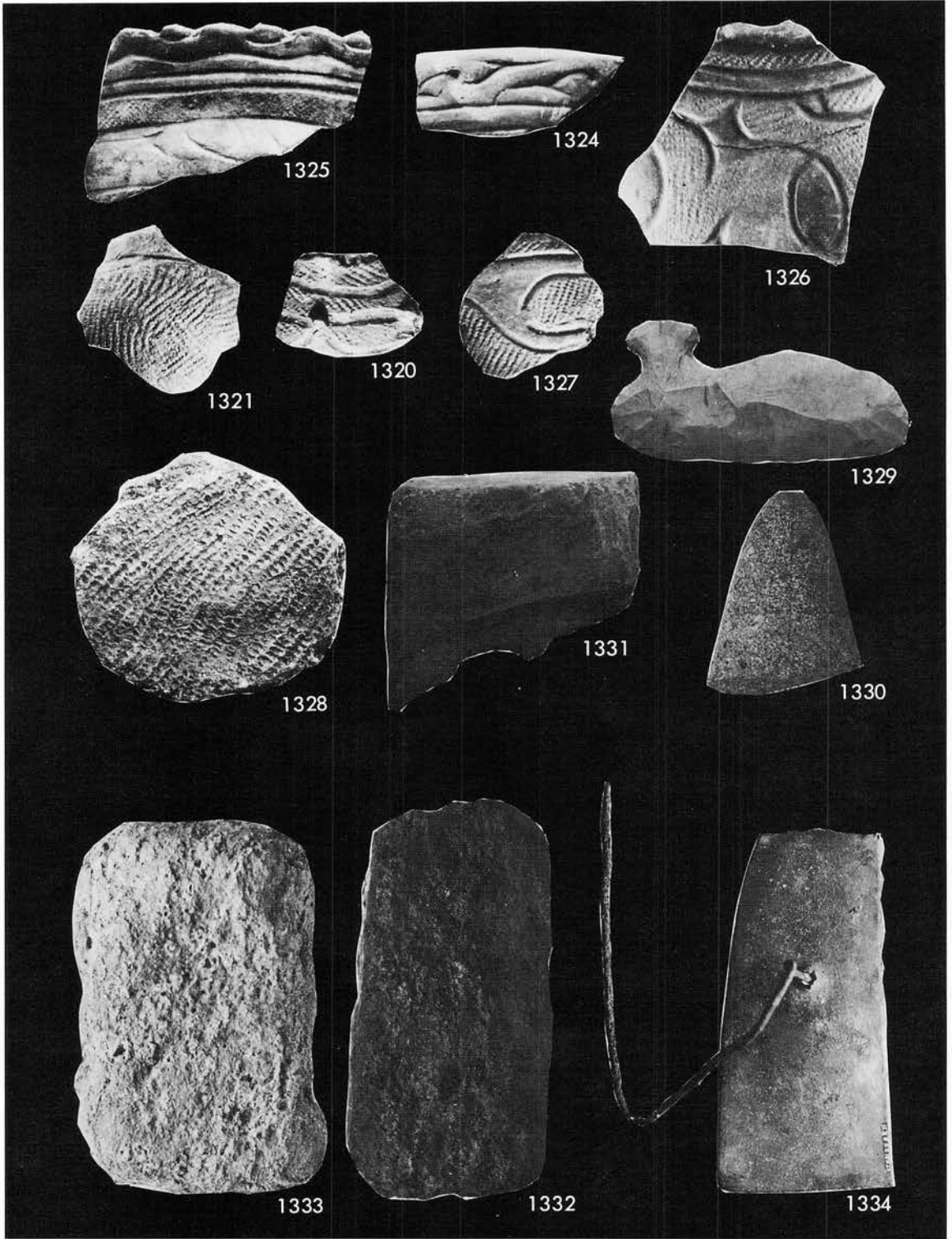


写真図版170 MIV-061捨て場跡出土遺物

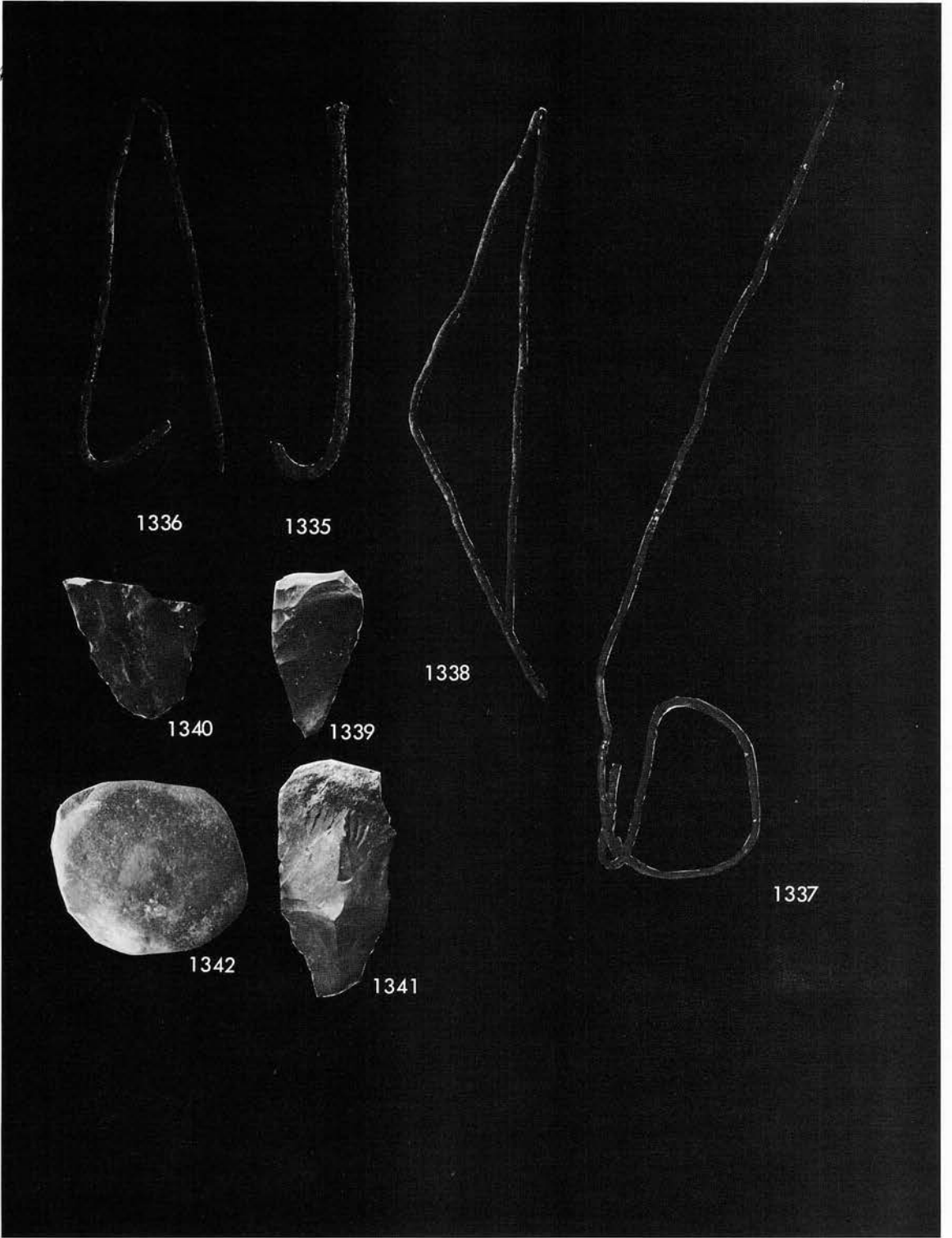


写真図版171 F IV-081炭焼場跡出土遺物 (I)

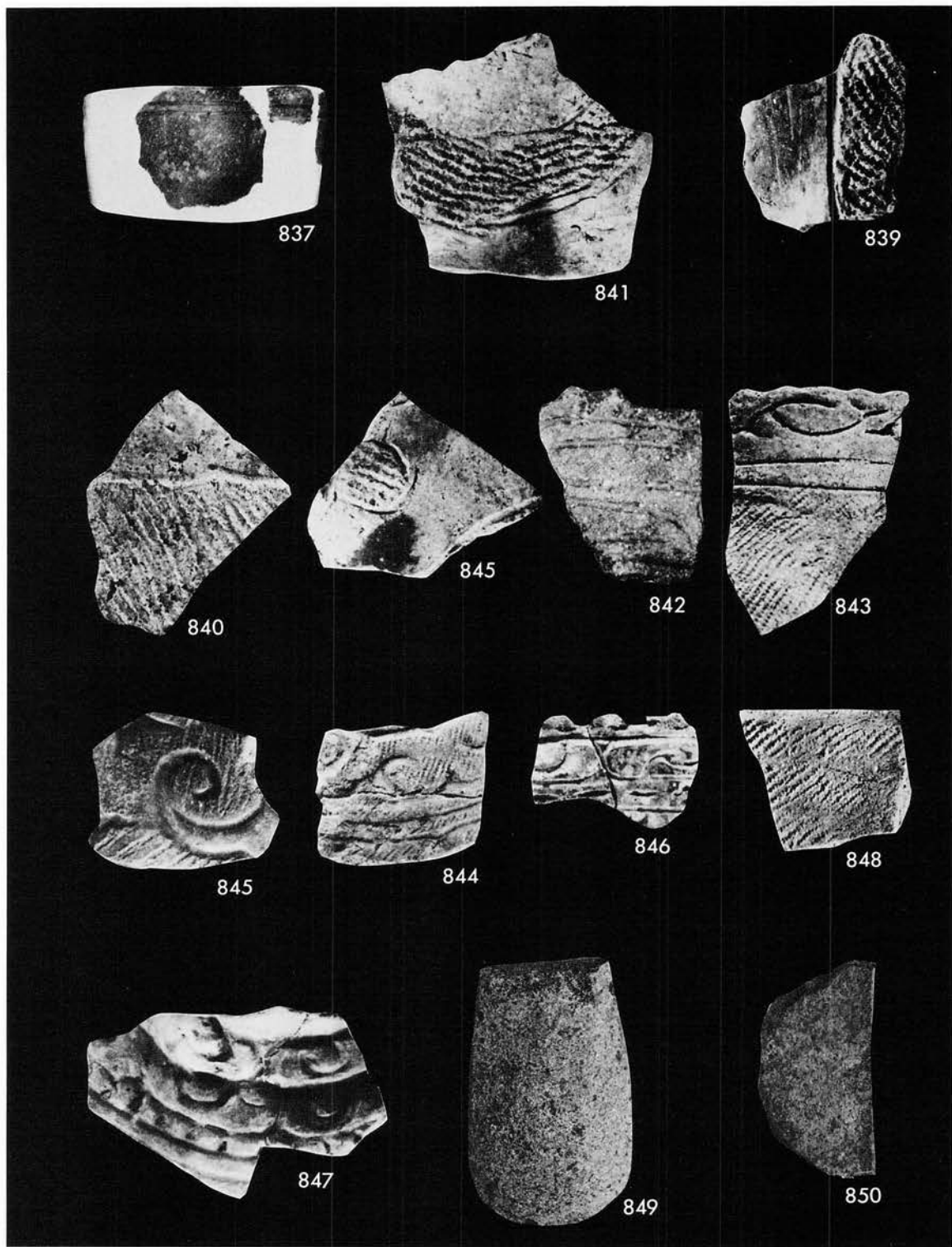




写真図版172 F IV-081炭焼場跡出土遺物(2)

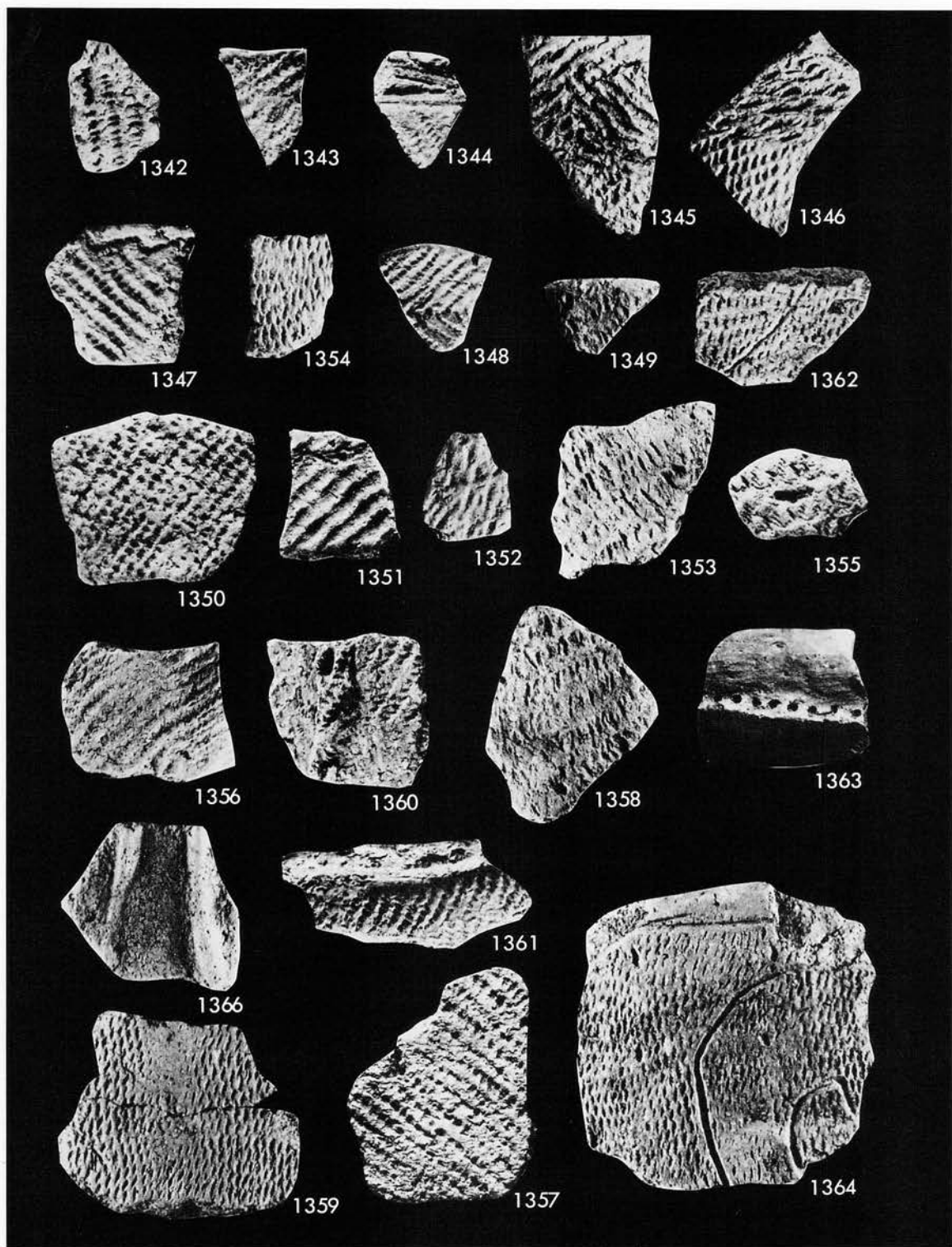


写真図版173 F IV-081炭焼場跡・E III-071道路跡出土遺物

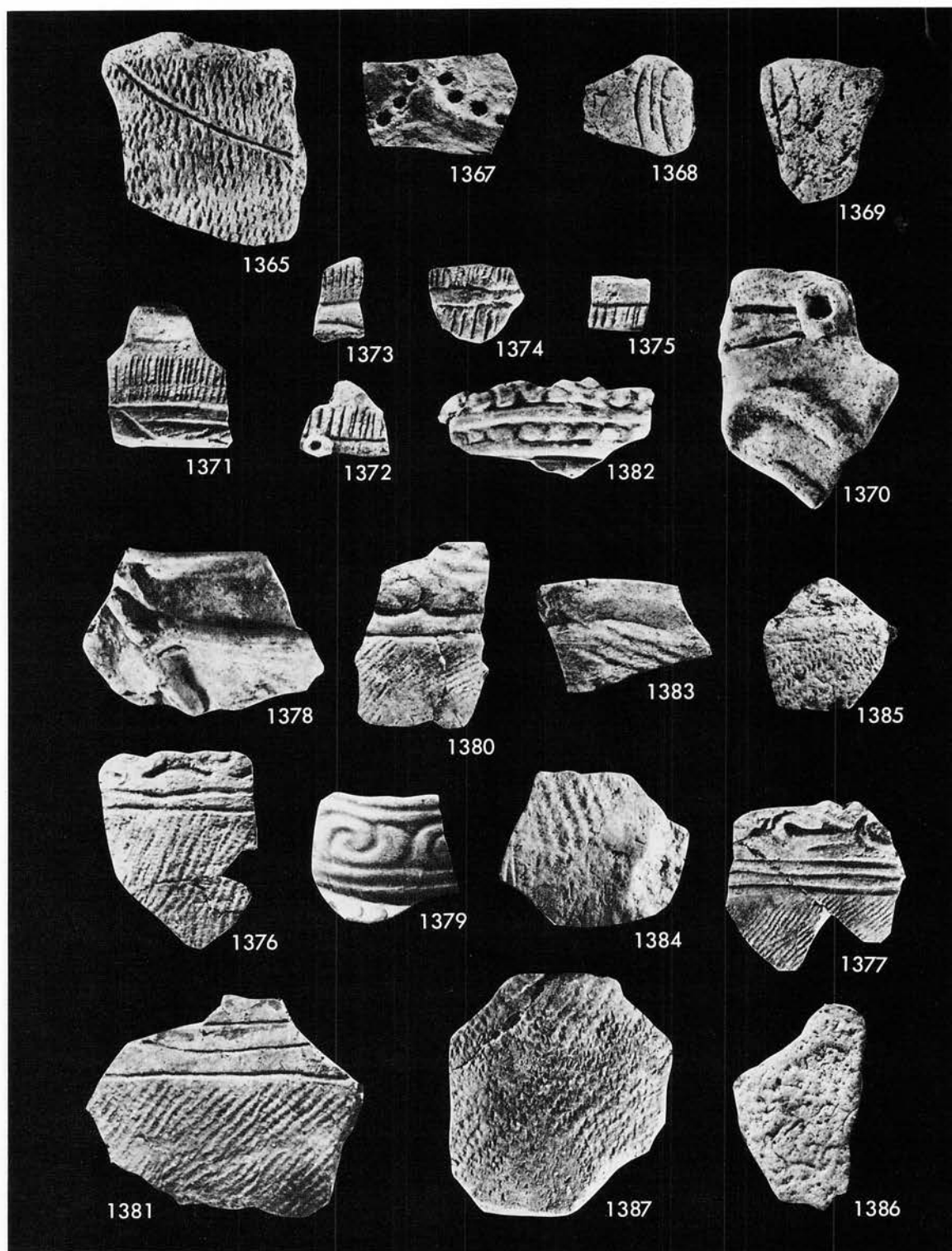


写真图版174 G IV-051雨裂跡出土遺物

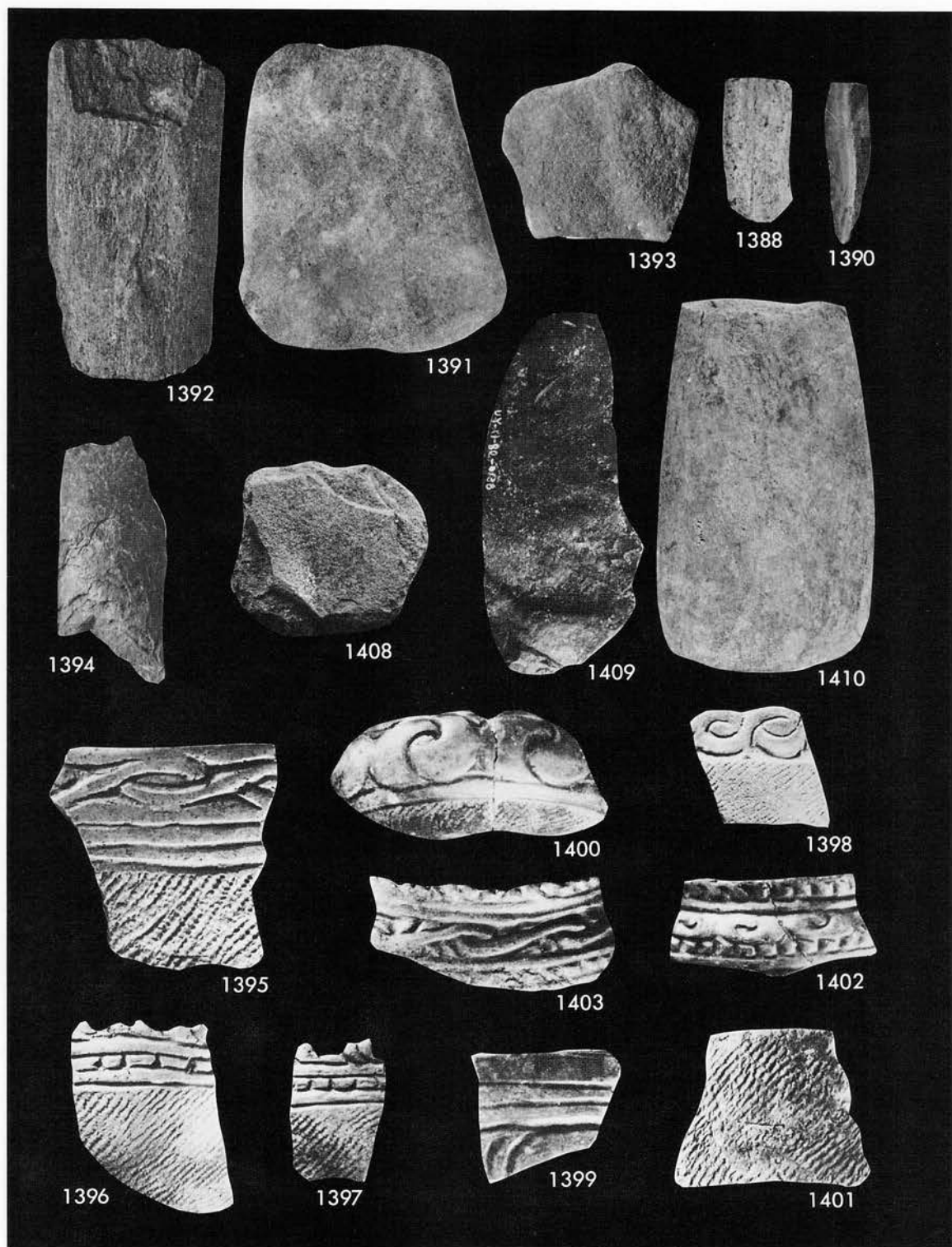




写真图版175 E III区粗掘出土遗物 (I)

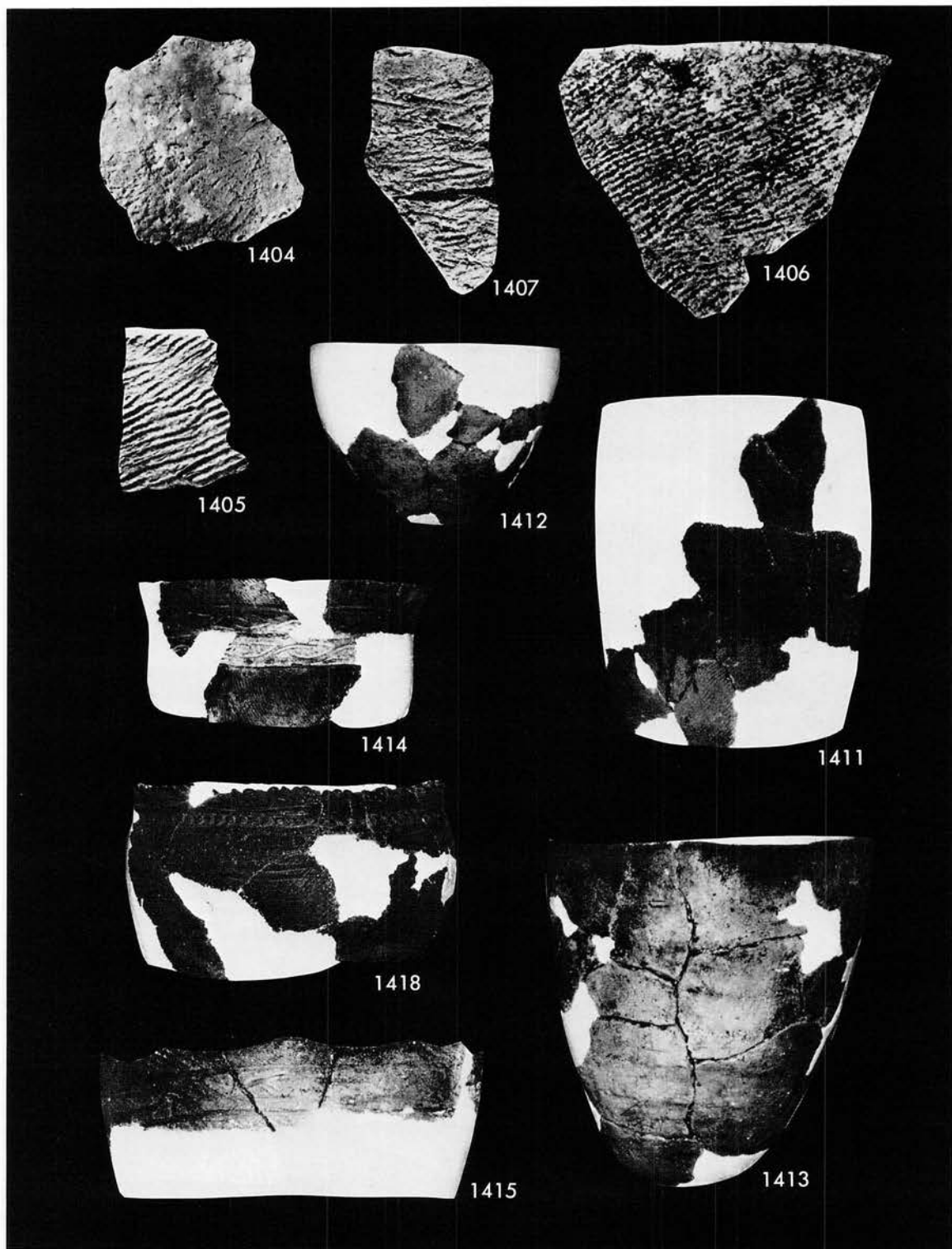


写真图版176 E III区粗掘出土遗物(2)

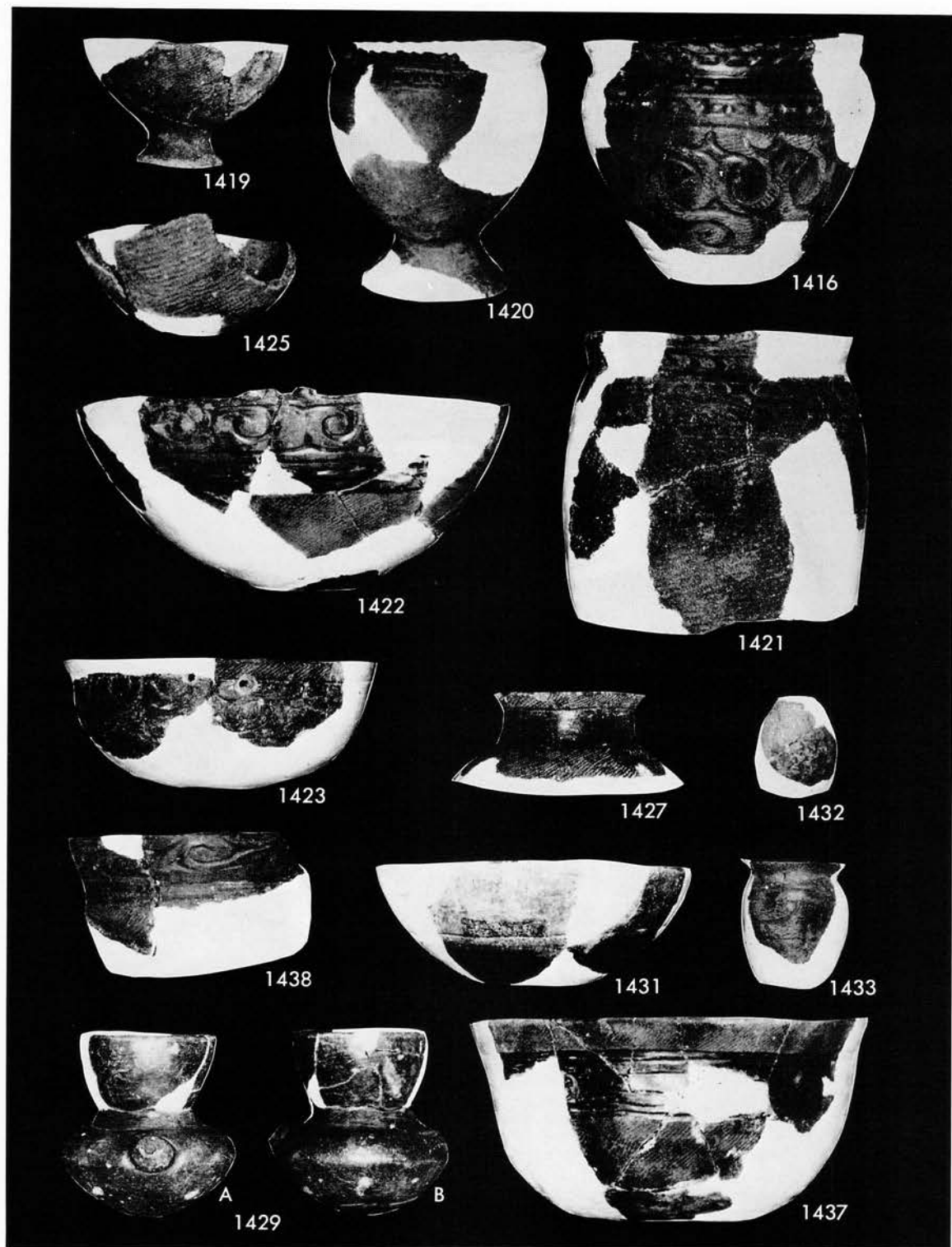


写真图版177 E III · F II · III区粗掘出土遺物

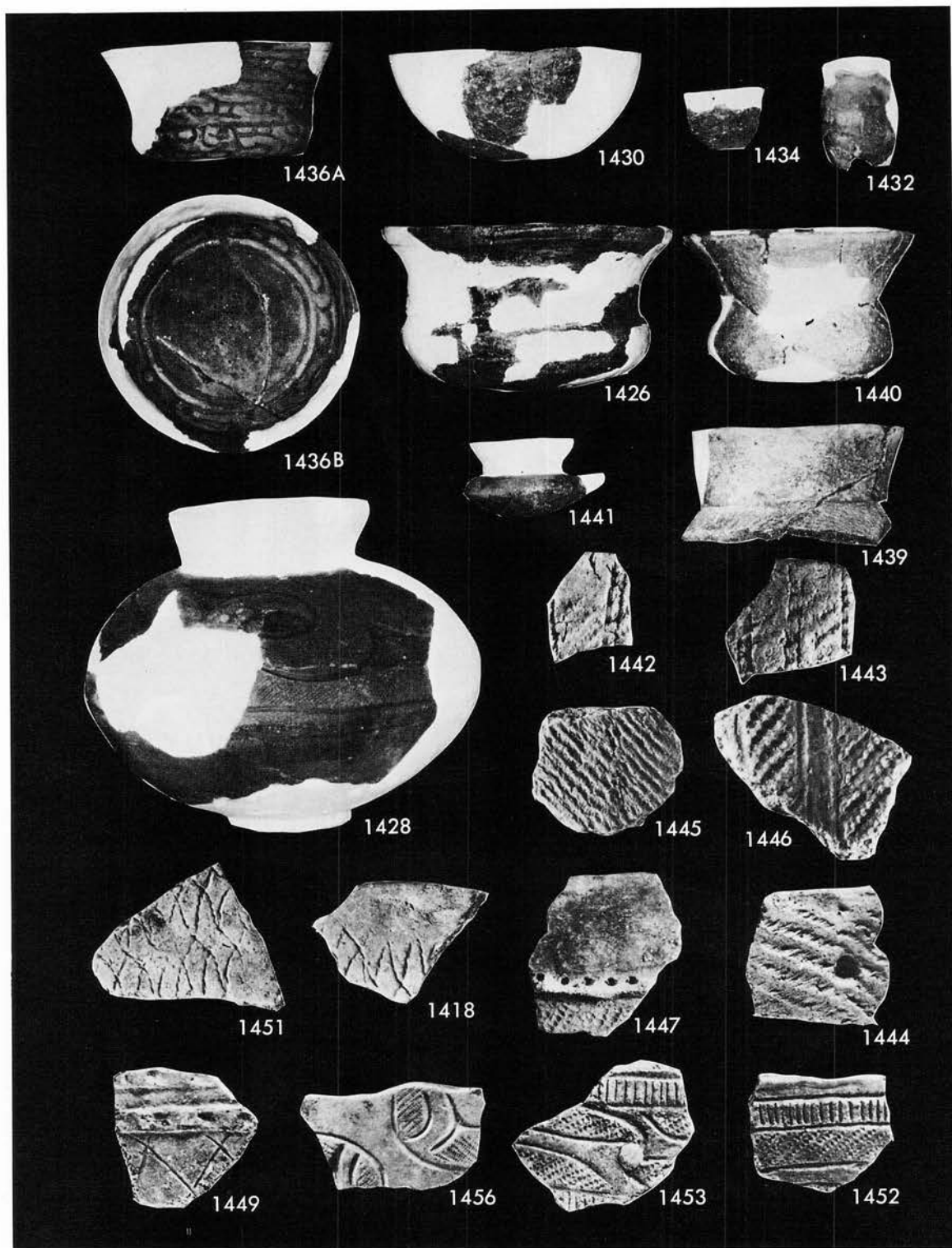




写真图版178 F III区粗掘出土遗物(1)

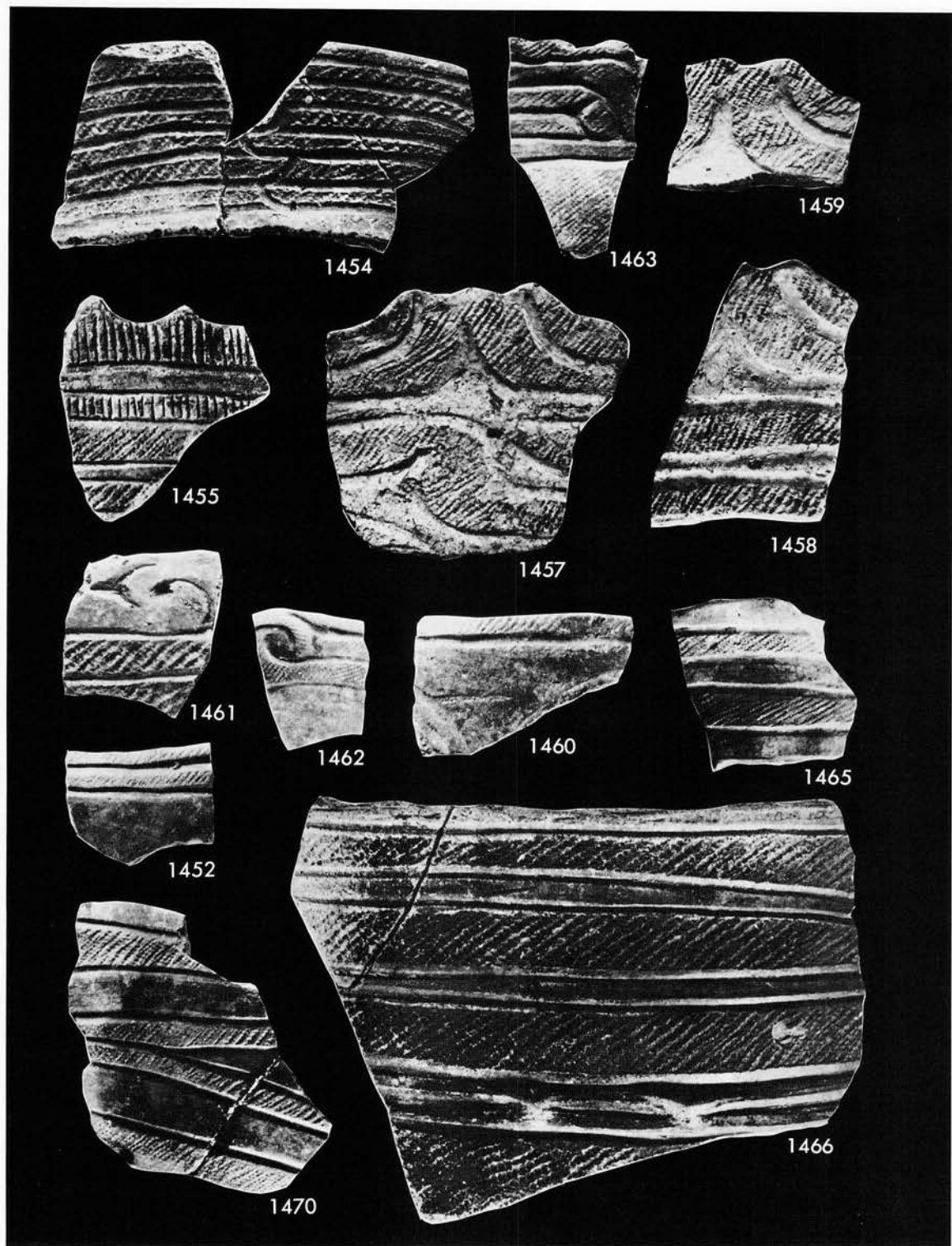


写真图版179 F III区粗掘出土遗物(2)

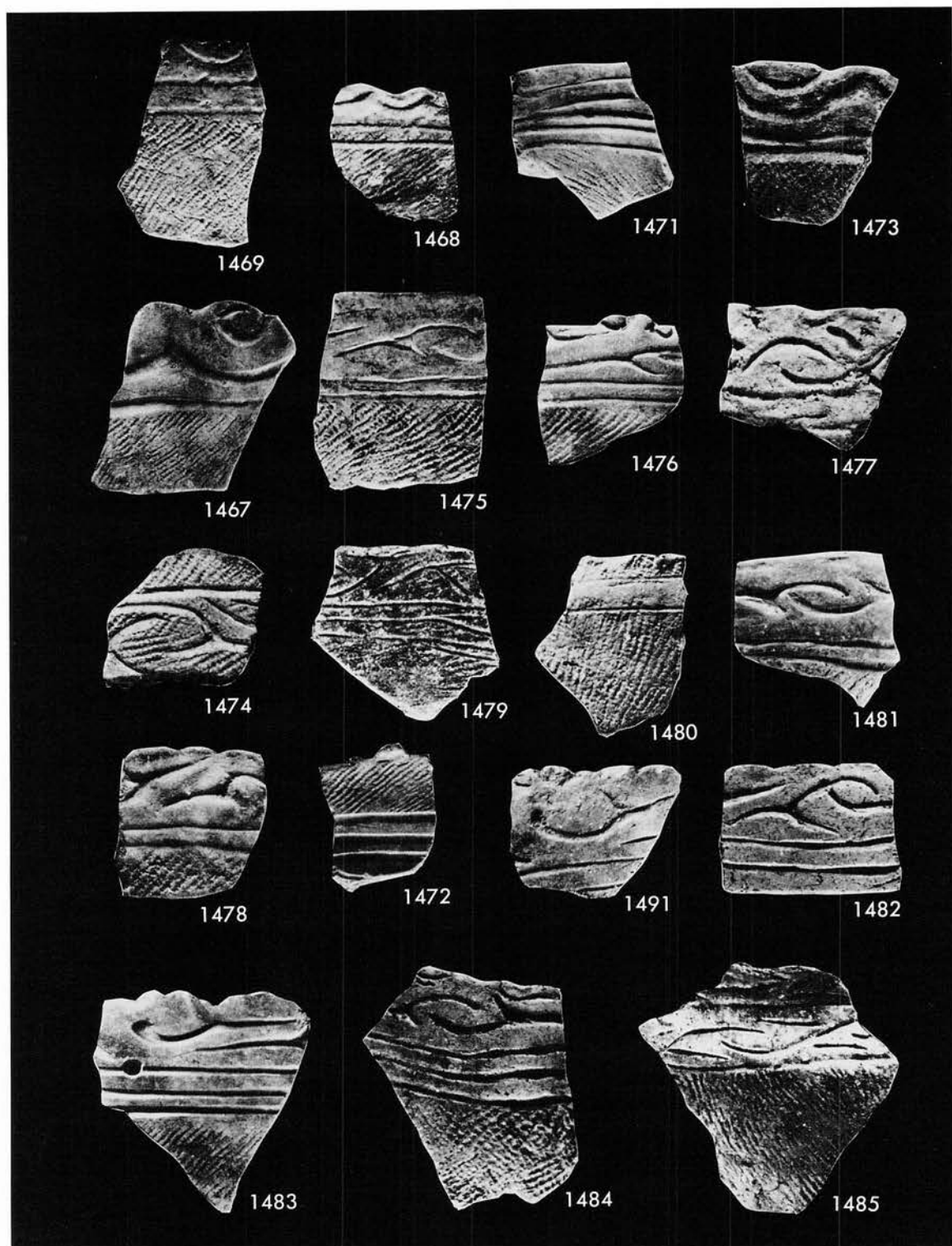


写真图版180 F III区粗掘出土遺物(3)

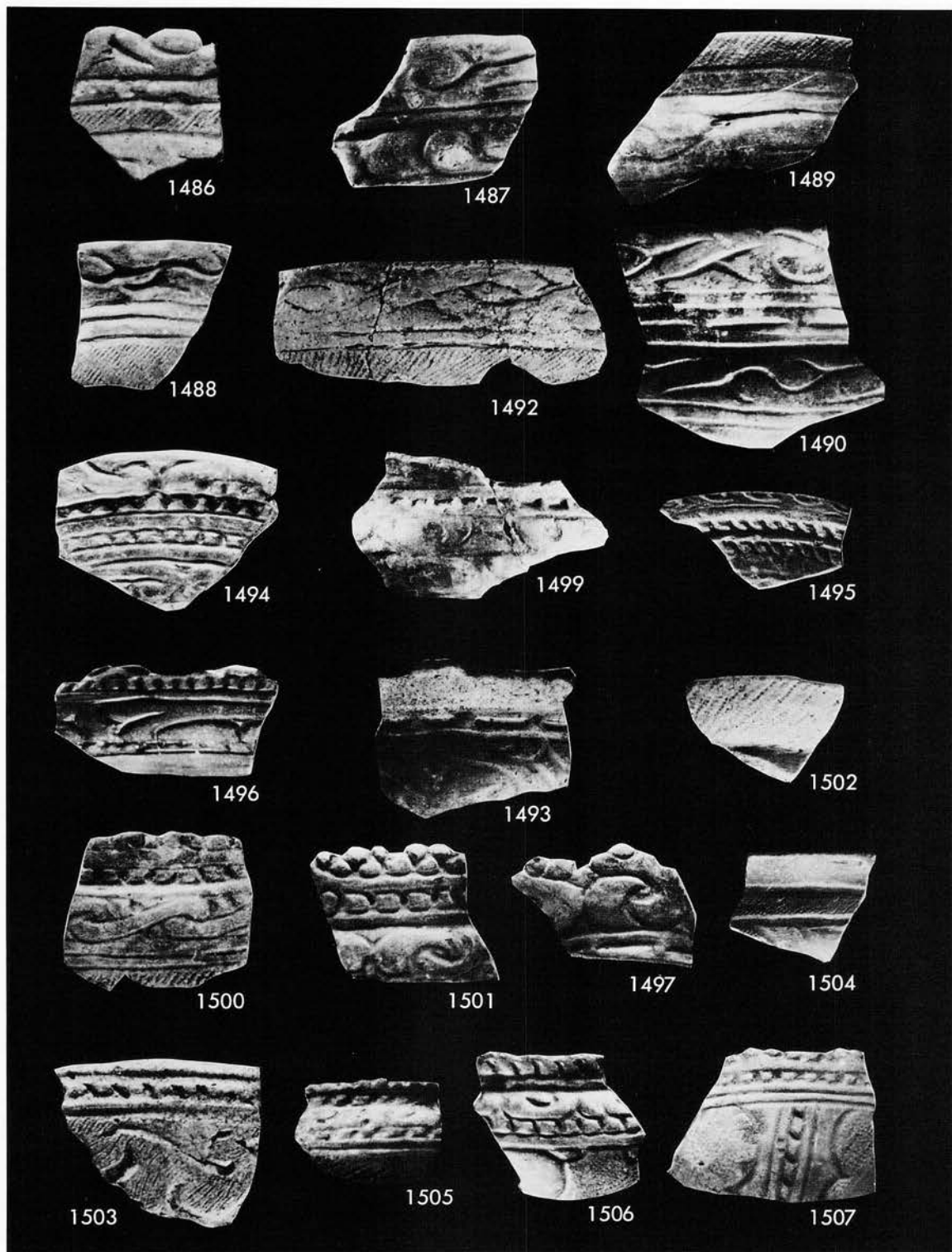




写真图版181 F III区粗掘出土遗物(4)

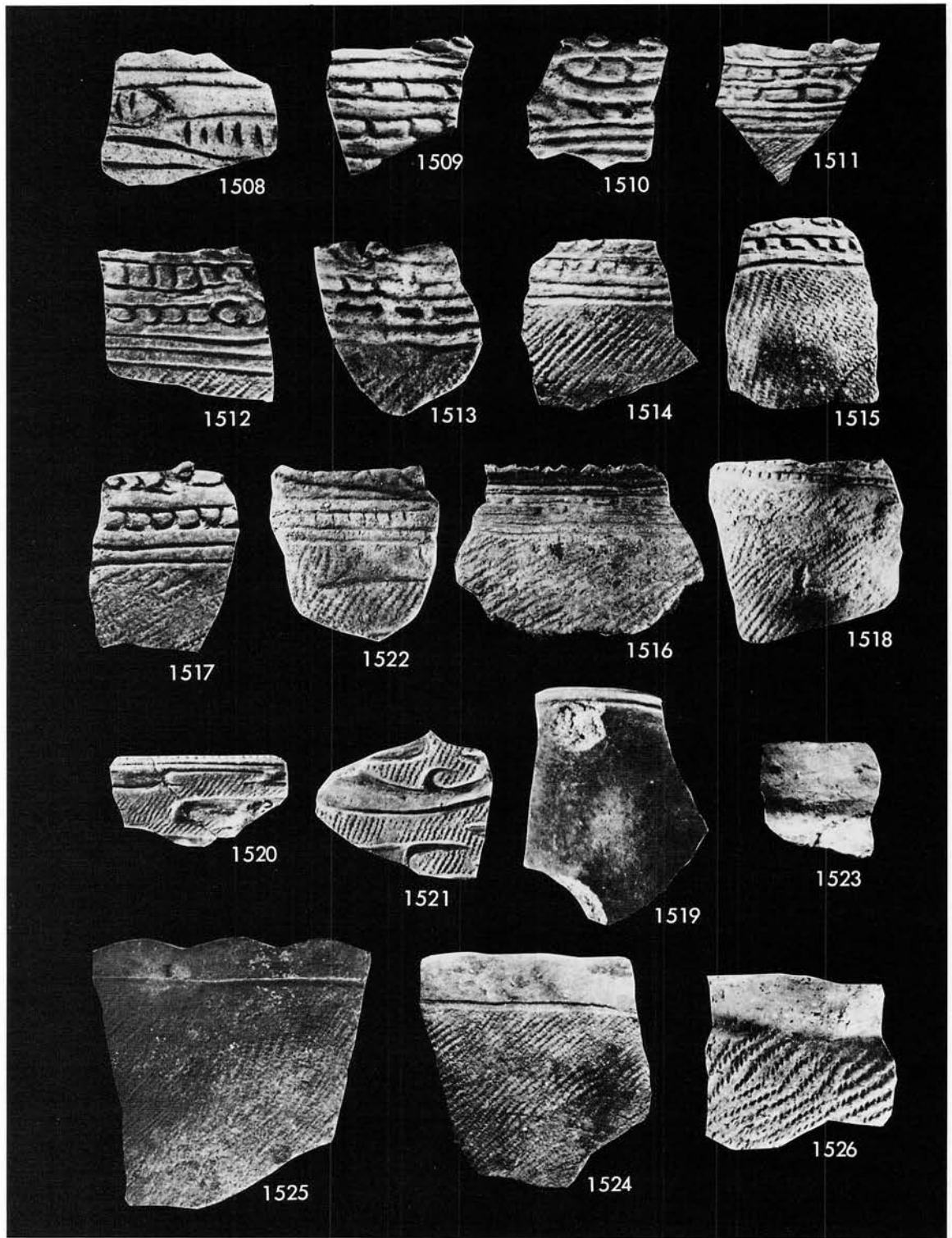


写真图版182 F III区粗掘出土遺物(5)

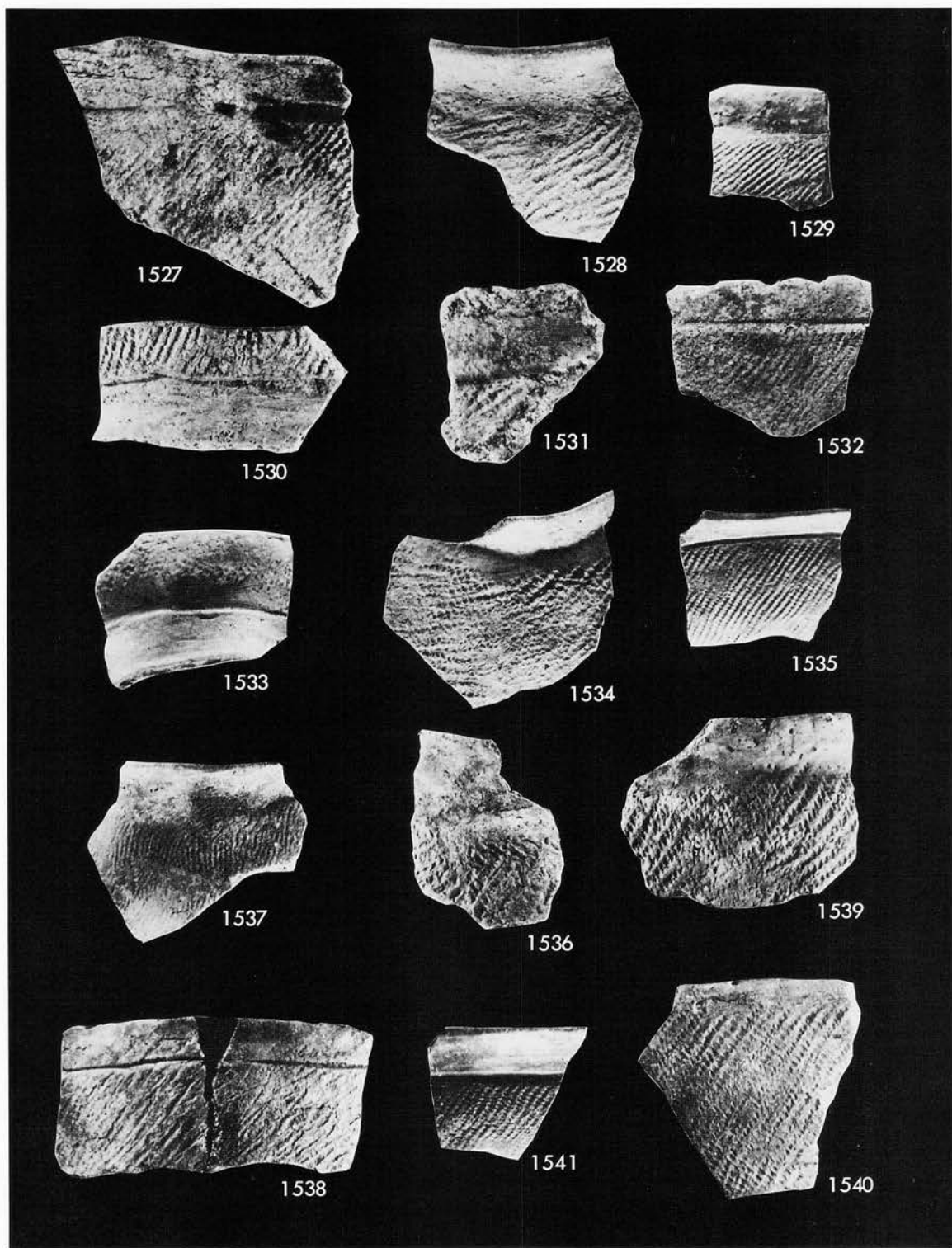


写真图版183 F III区粗掘出土遗物(6)

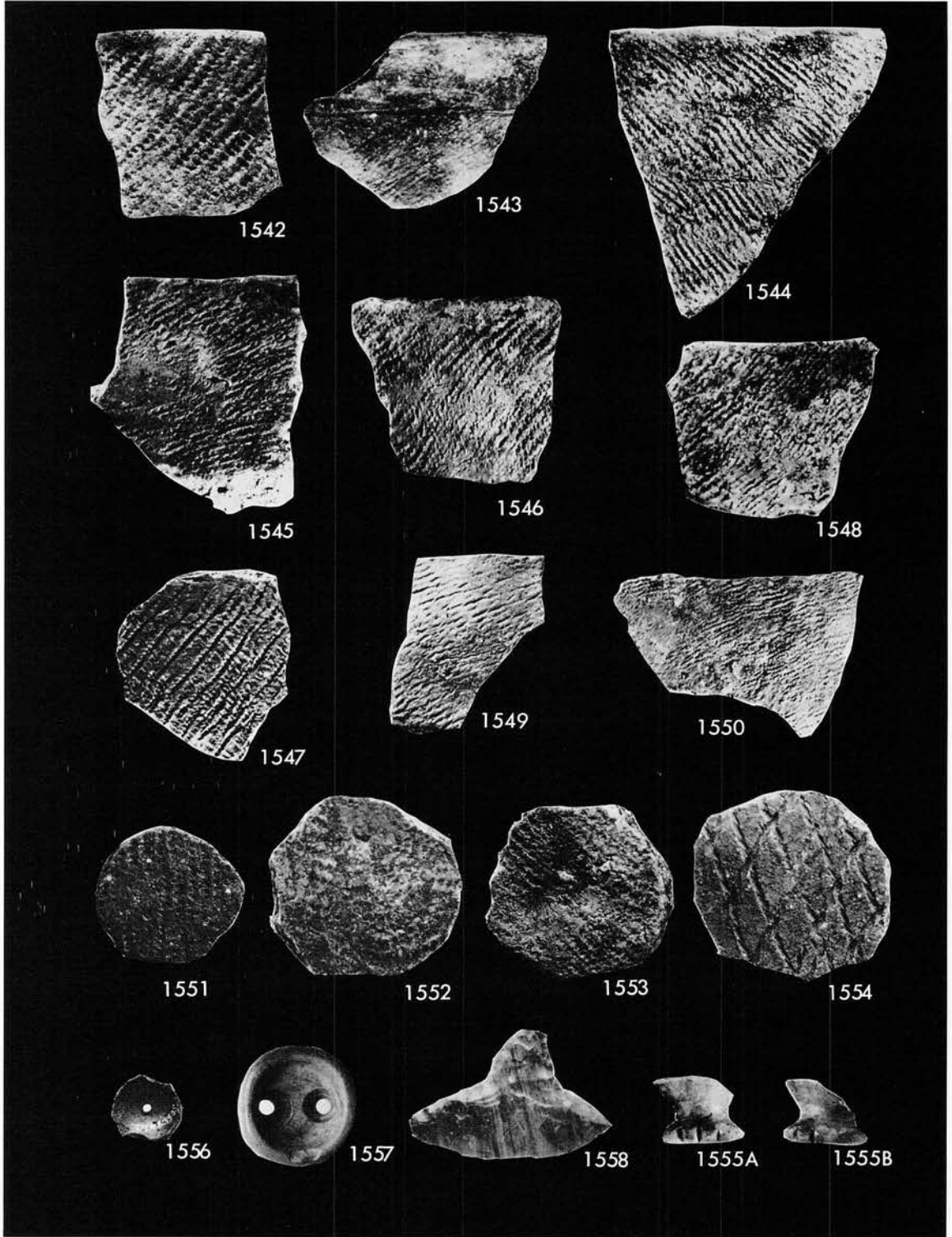




写真图版184 F III区粗掘出土遗物(7)

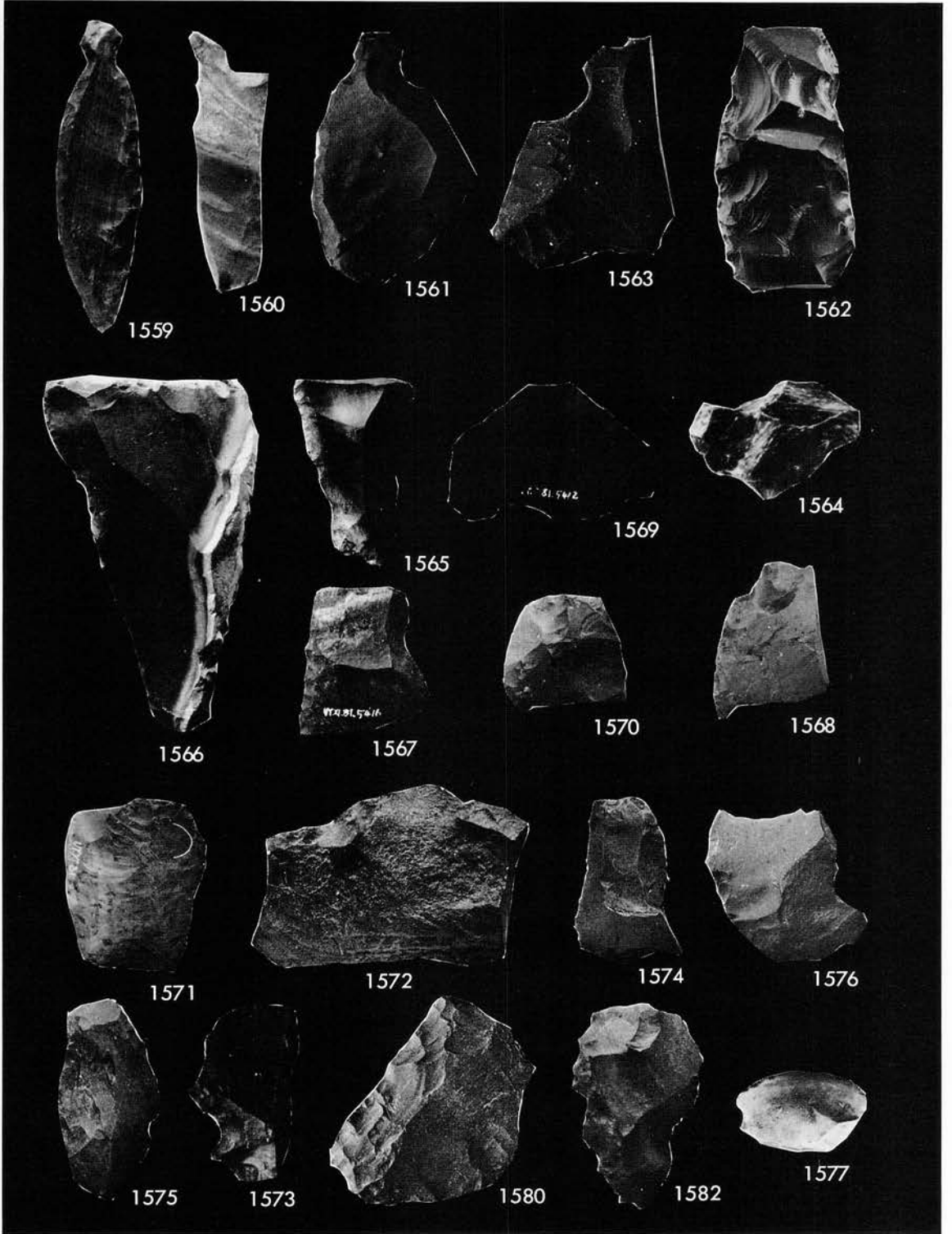


写真图版185 F III区粗掘出土遺物(8)

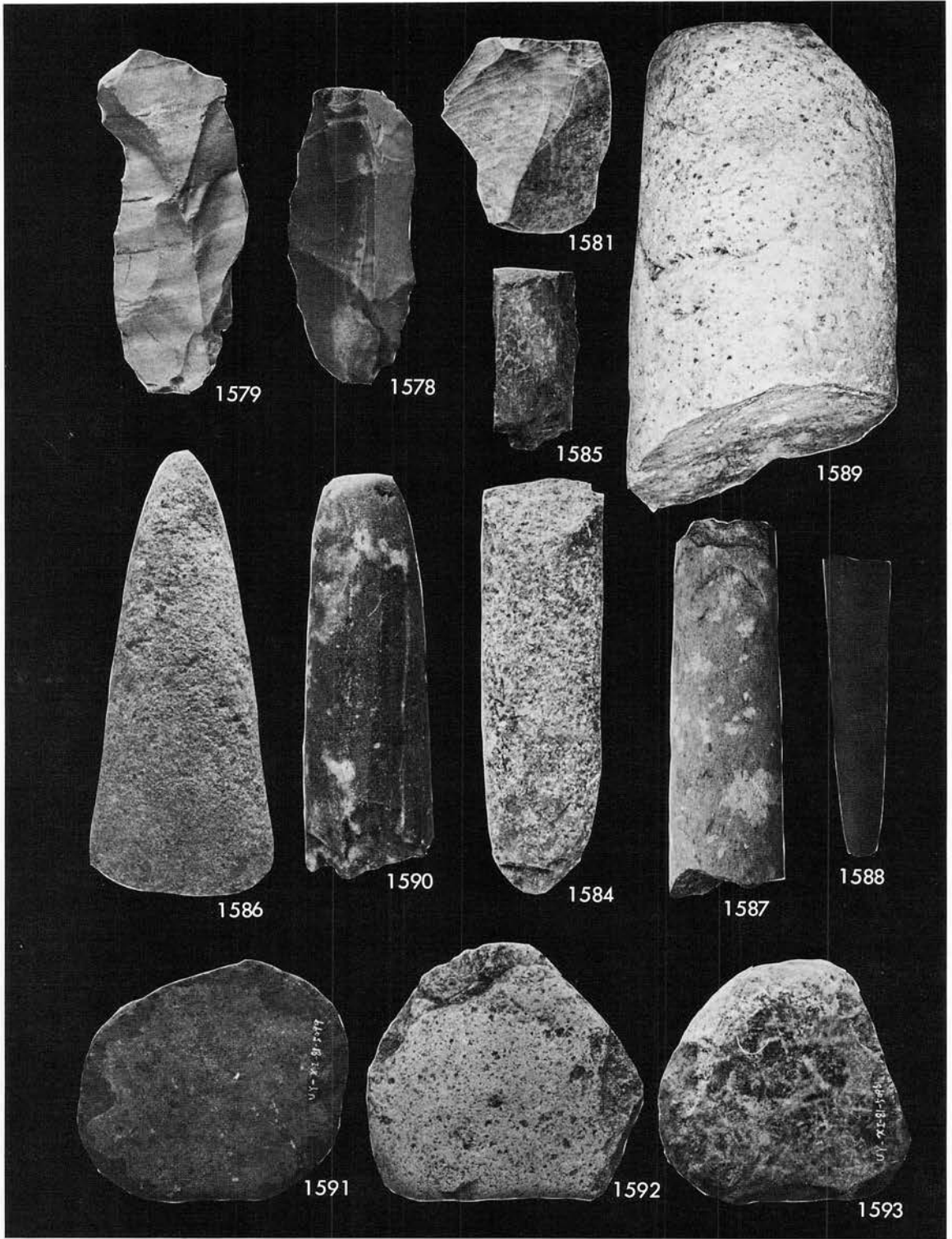


写真图版186 F III区粗掘出土遗物(9)

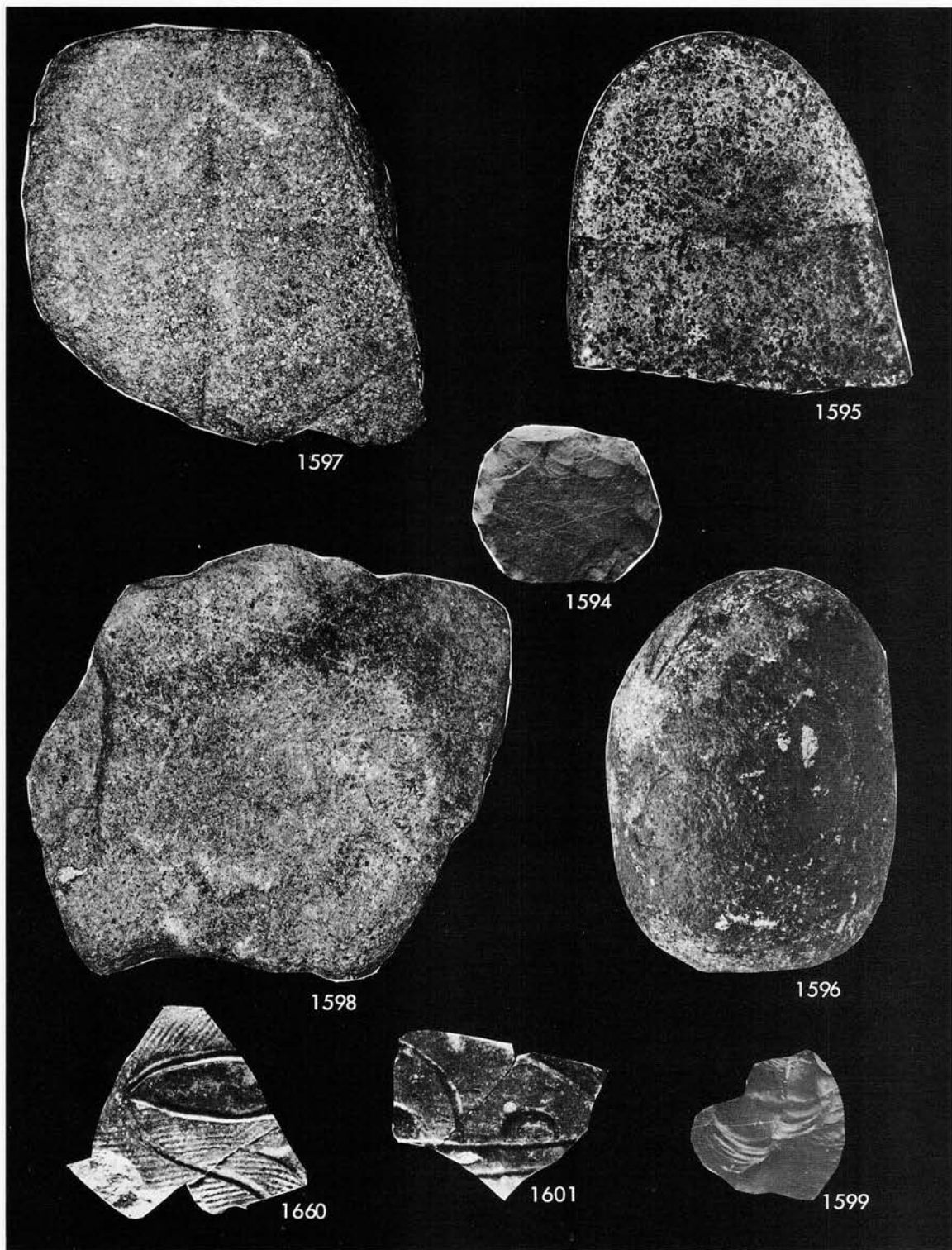




写真图版187 F III区粗掘出土遗物(10)

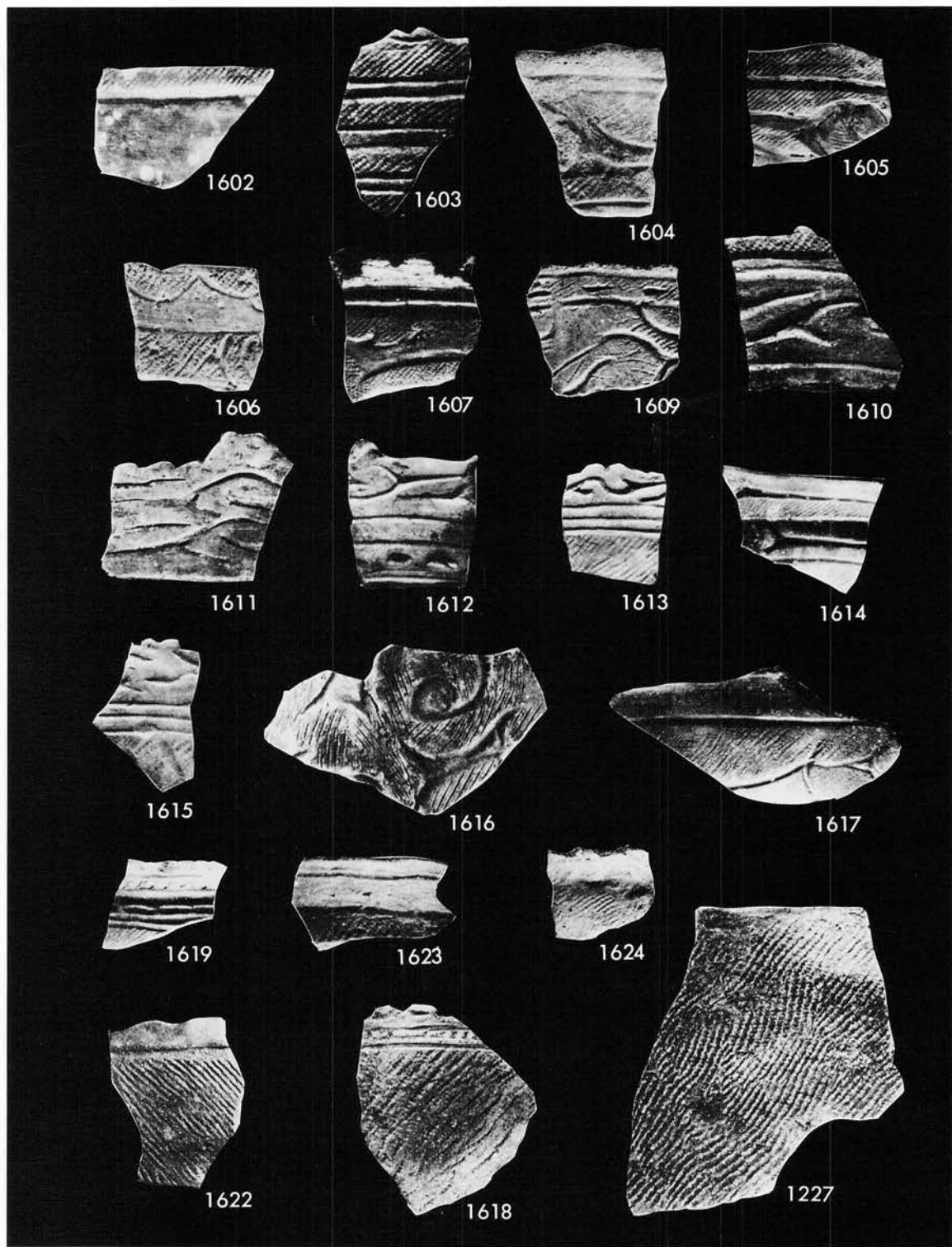


写真图版188 F III区粗掘出土遺物 (II)

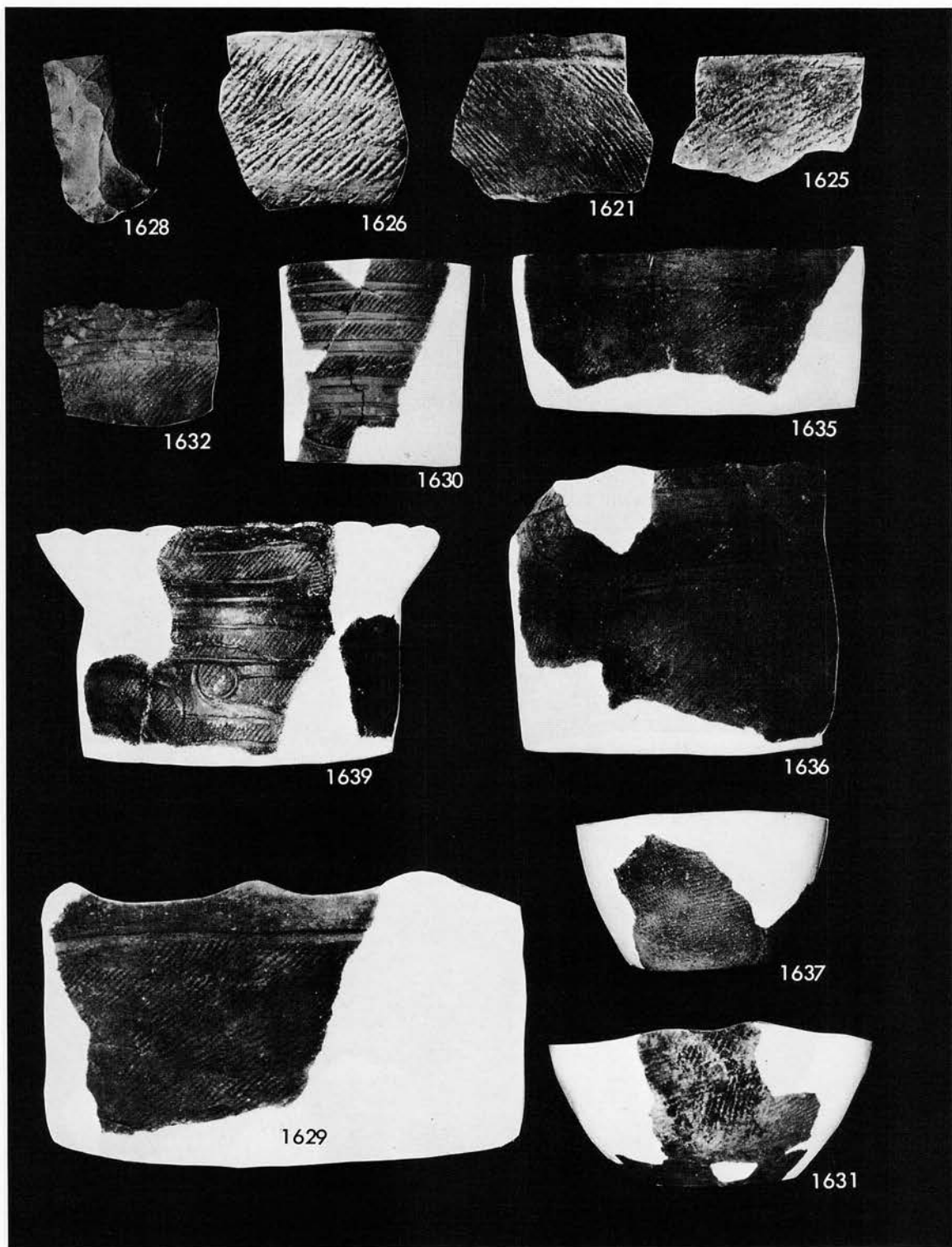


写真图版189 F III · G II区粗掘出土遗物

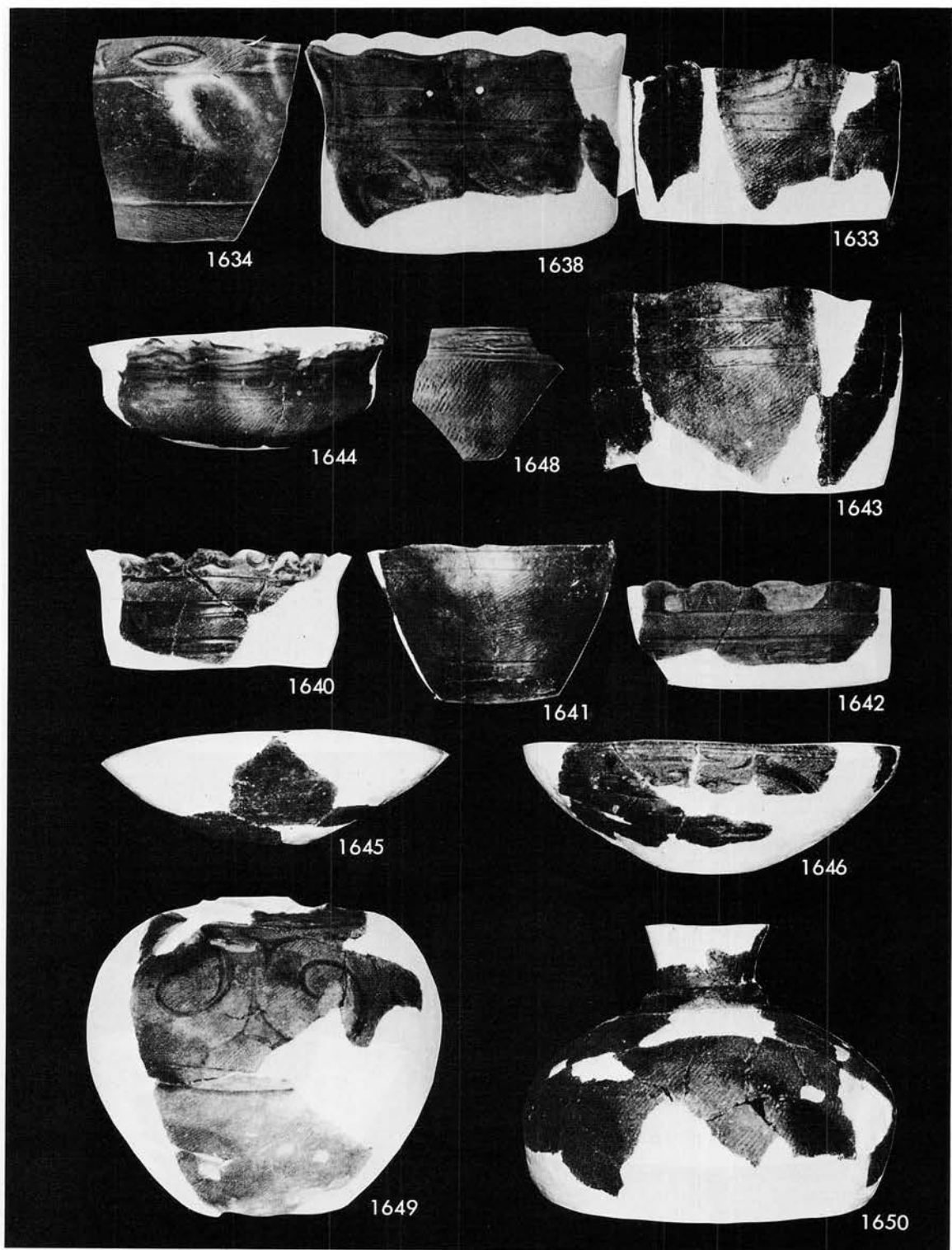




写真图版190 G III区試掘出土遺物

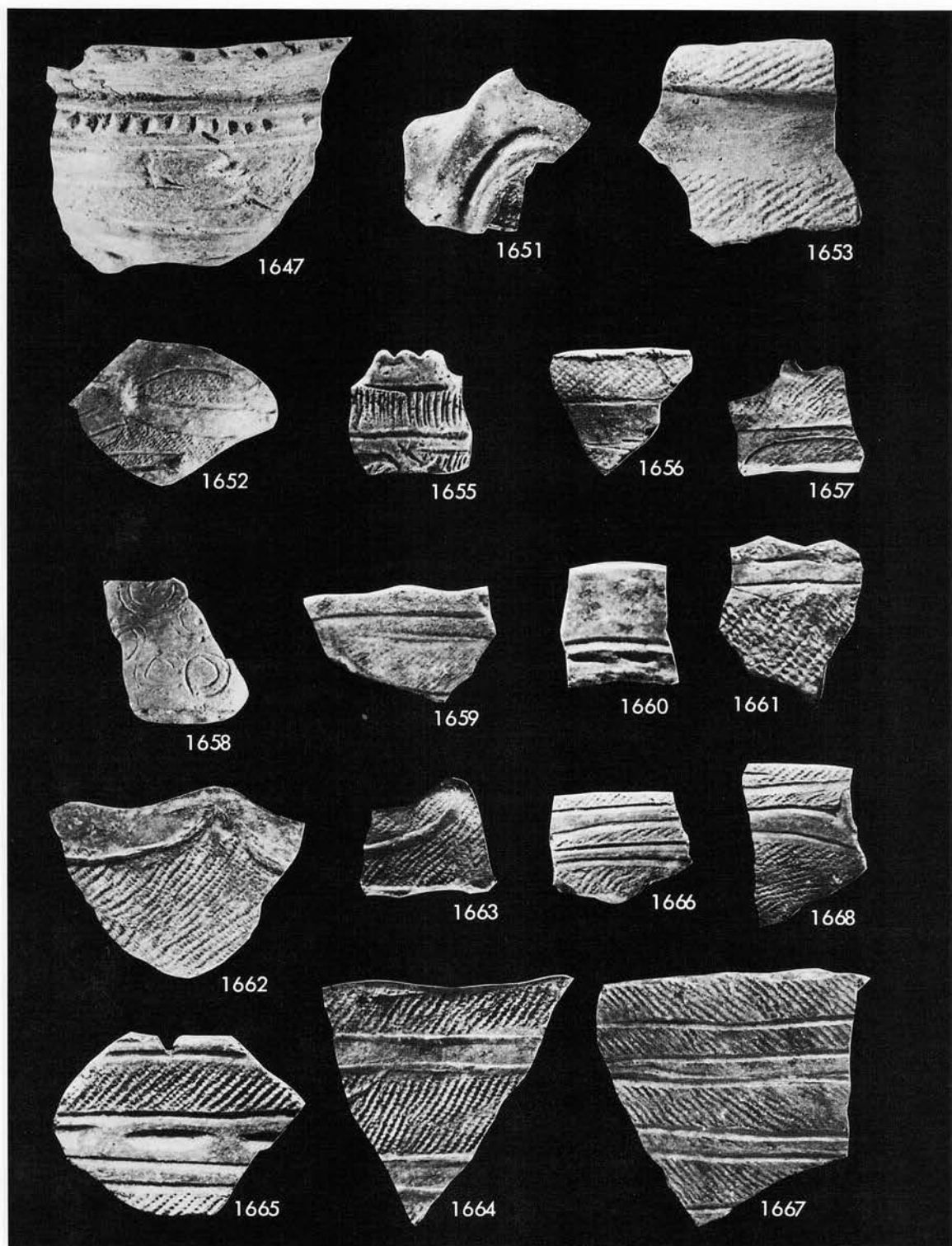


写真图版191 G III区粗掘出土遺物(1)

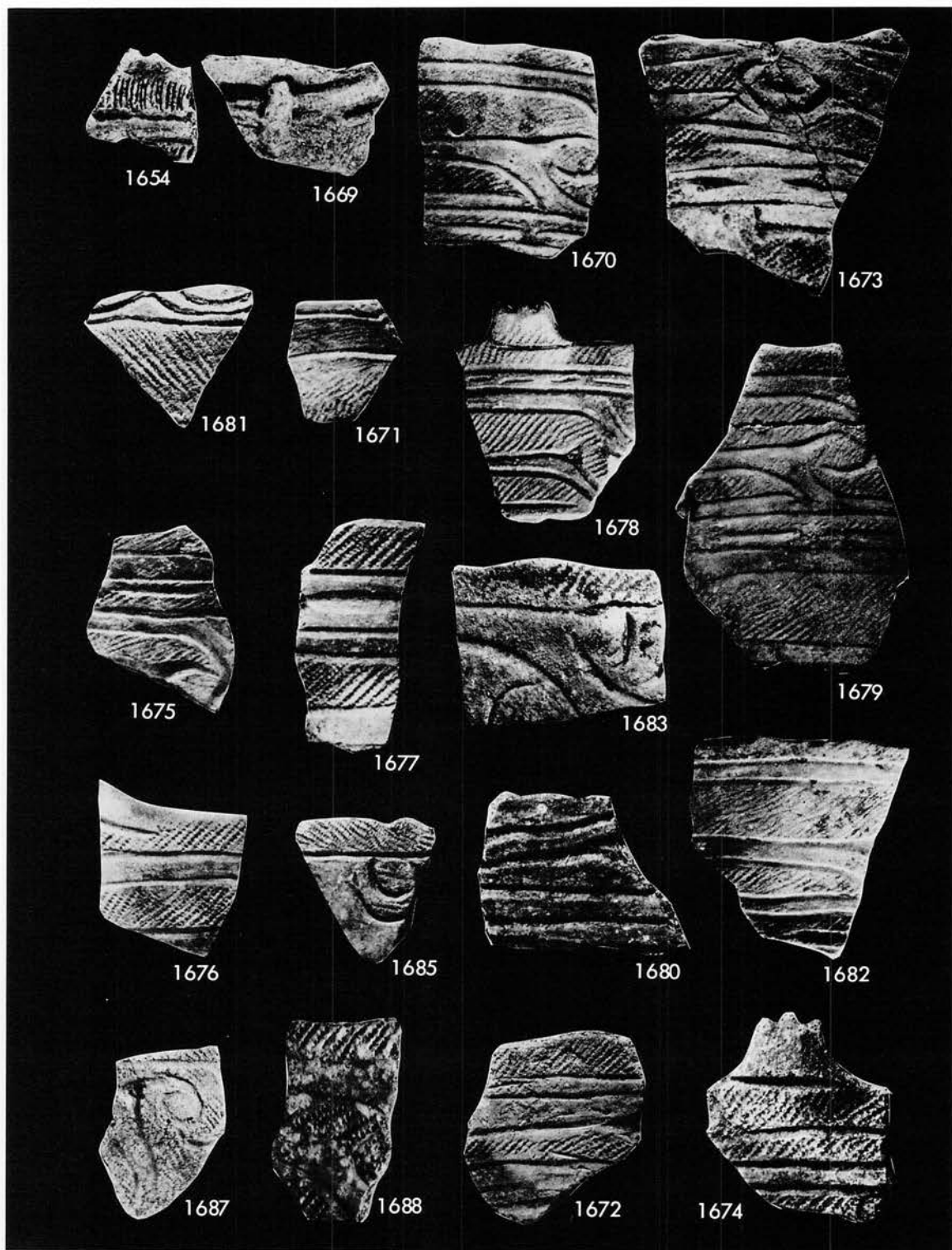


写真图版192 G III区粗掘出土遺物(2)

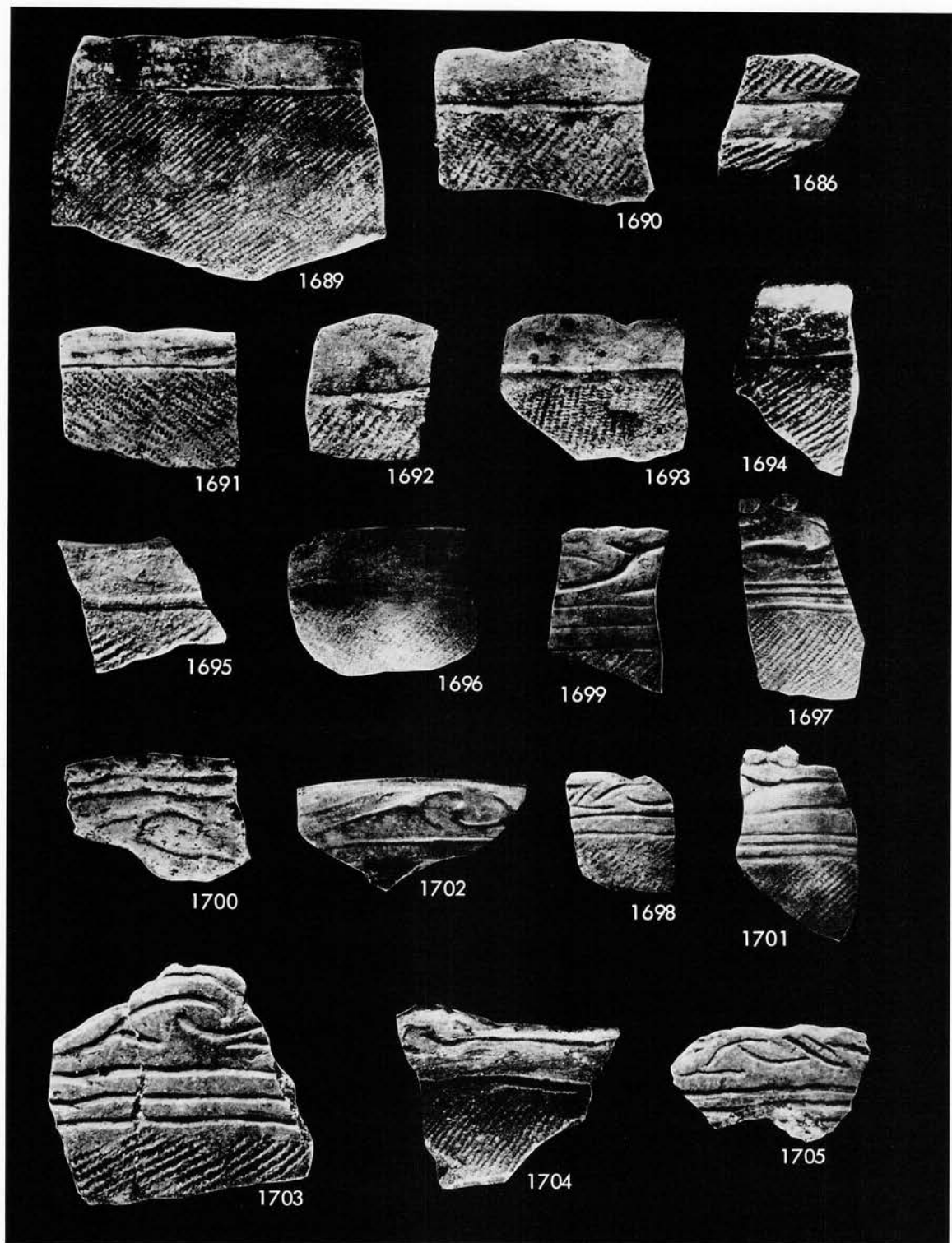




写真图版193 G III区粗掘出土遺物(3)

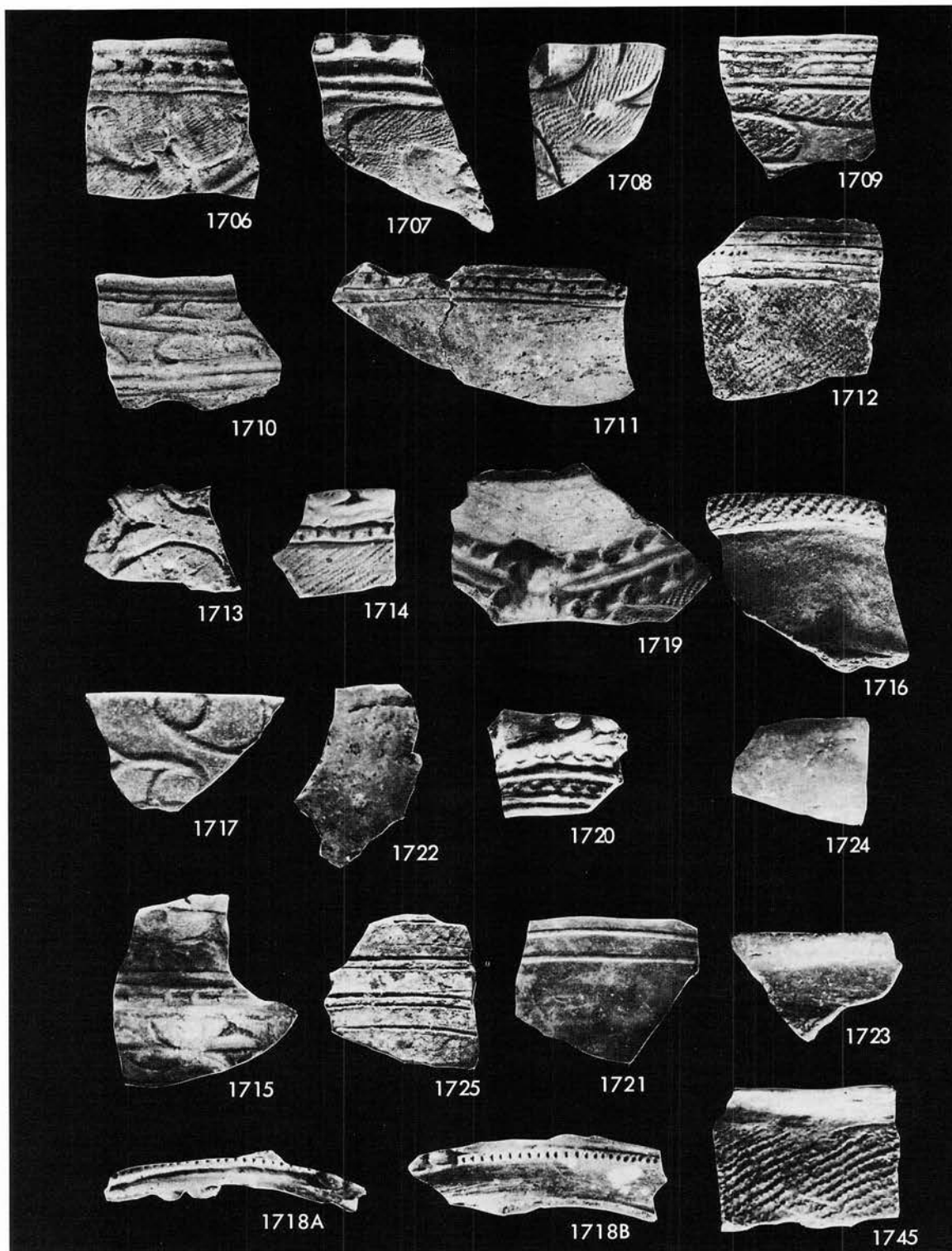


写真图版194 G III区粗掘出土遺物(4)

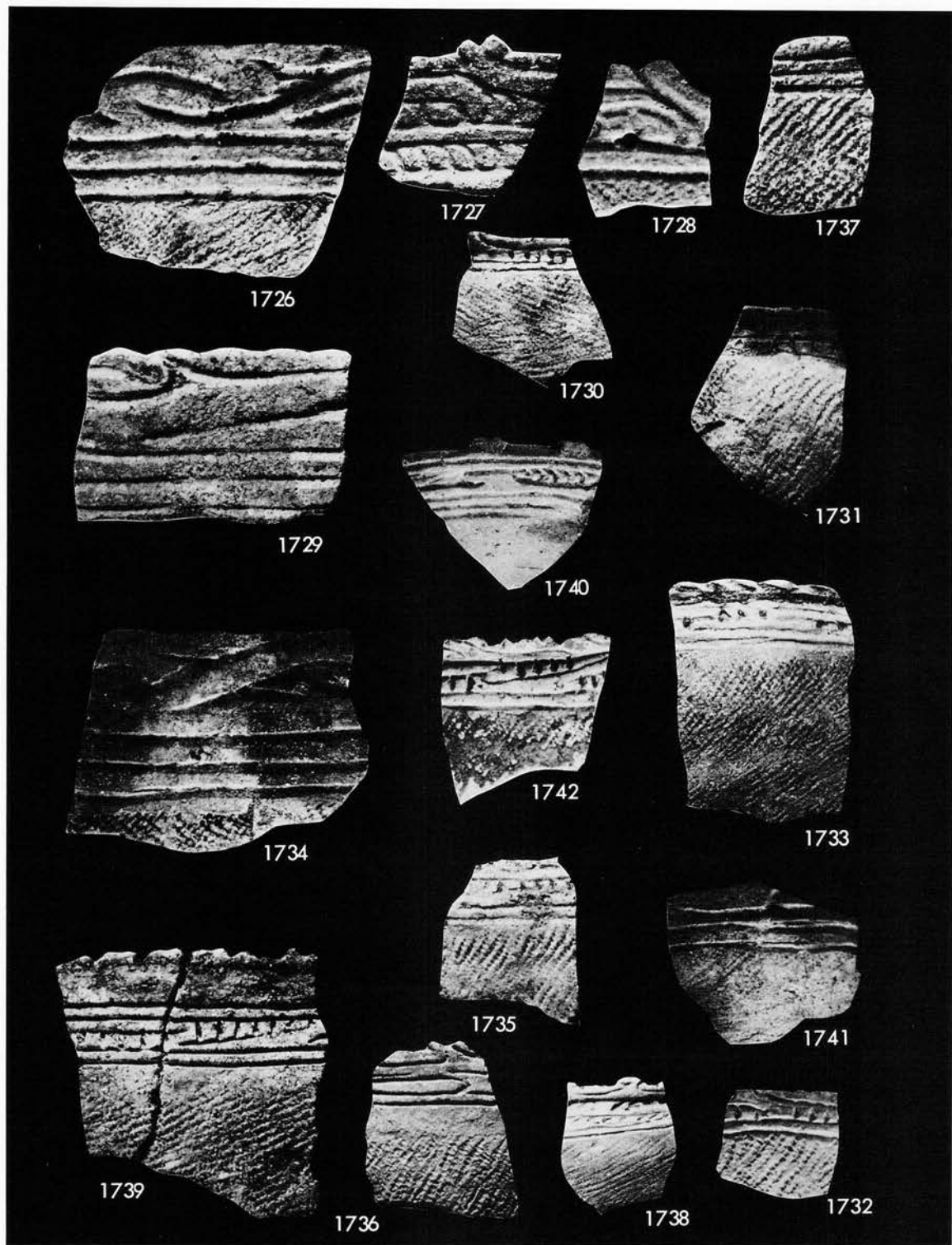


写真图版195 G III区粗掘出土遗物(5)

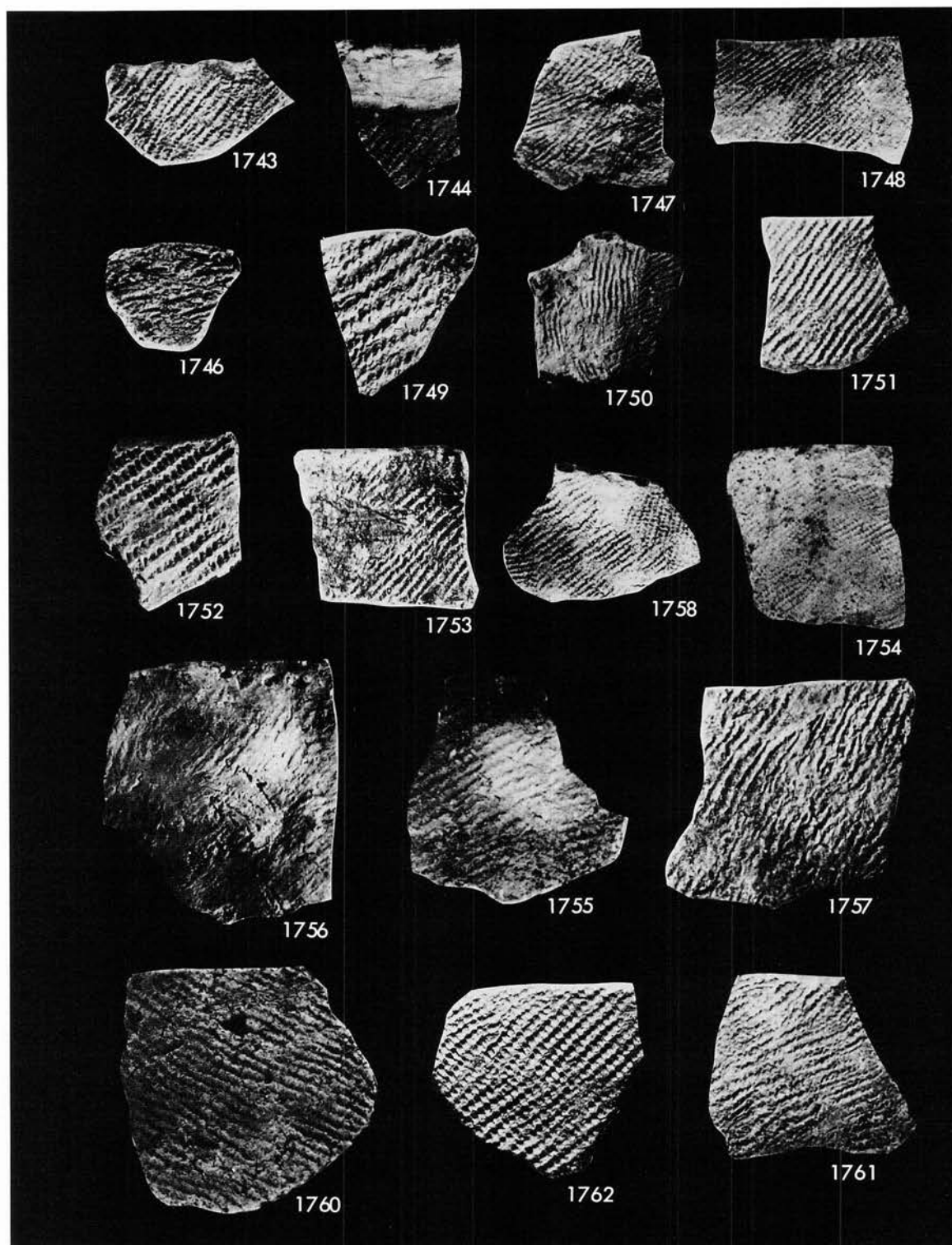




写真图版196 G III区粗掘出土遗物(6)

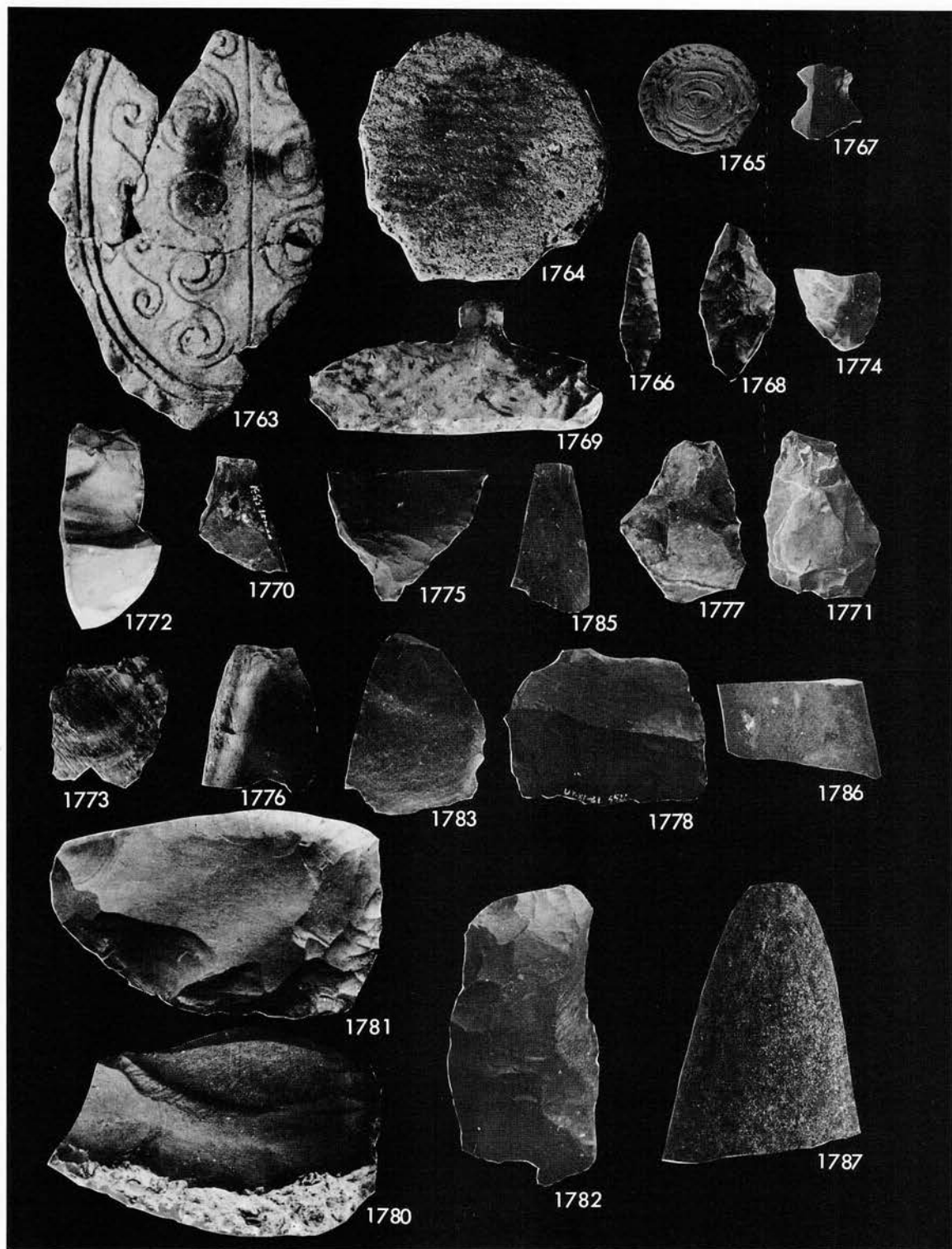


写真图版197 G III区粗掘出土遗物(7)

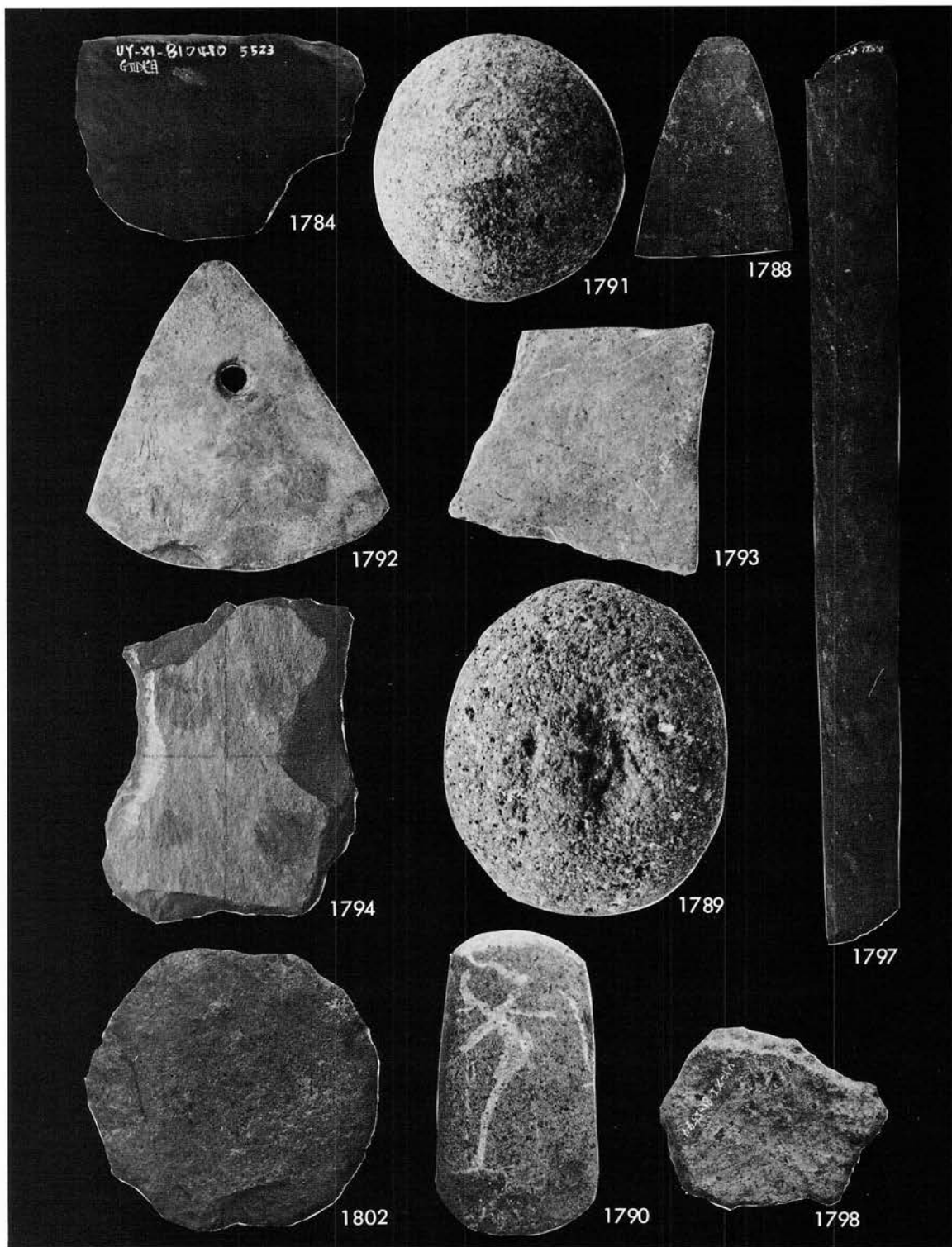


写真图版198 G III区粗掘出土遗物(8)

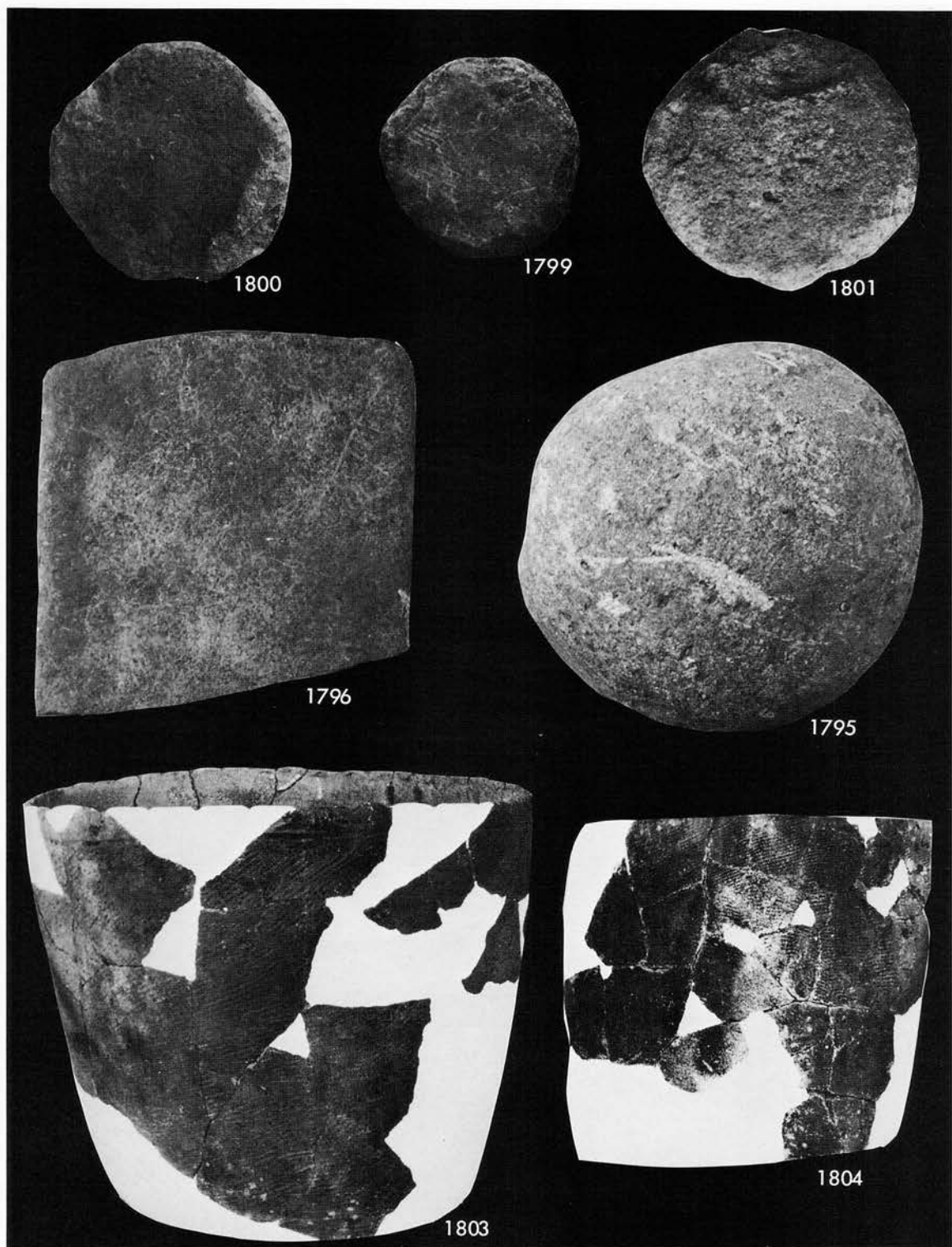




写真图版199 G III区粗掘出土遗物(9)

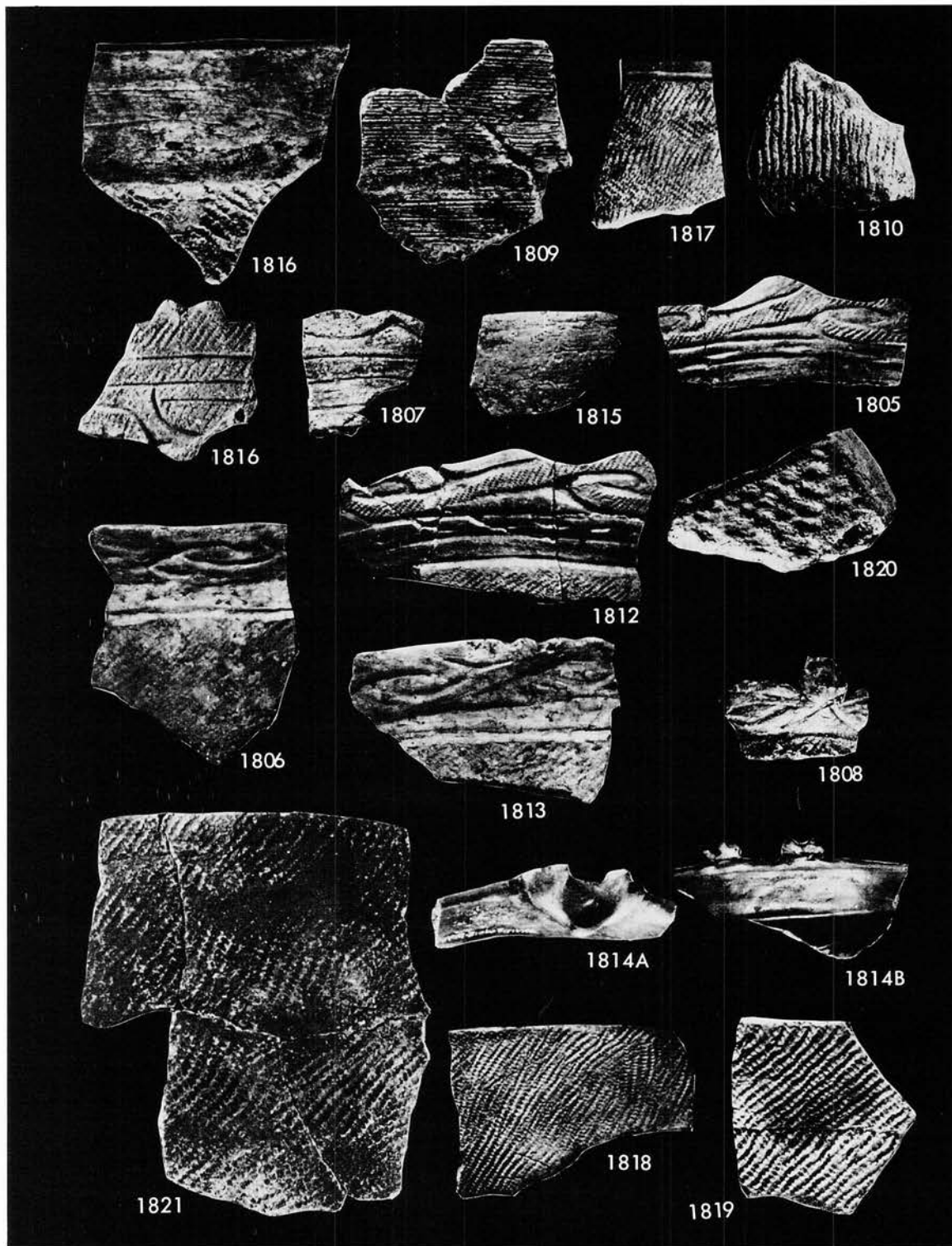


写真图版200 G III区粗掘出土遗物(10)

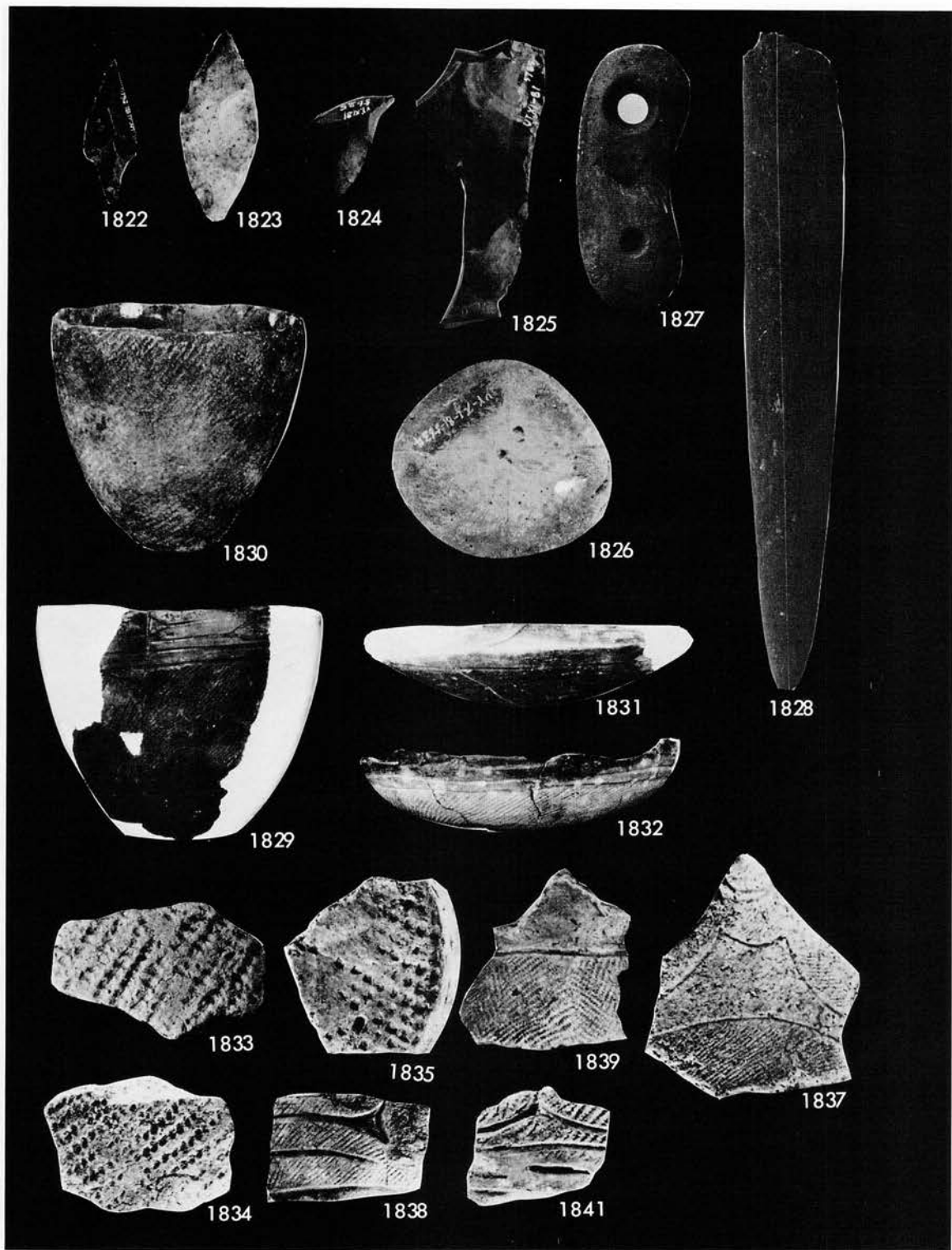


写真图版201 G III·IV区粗掘出土遗物

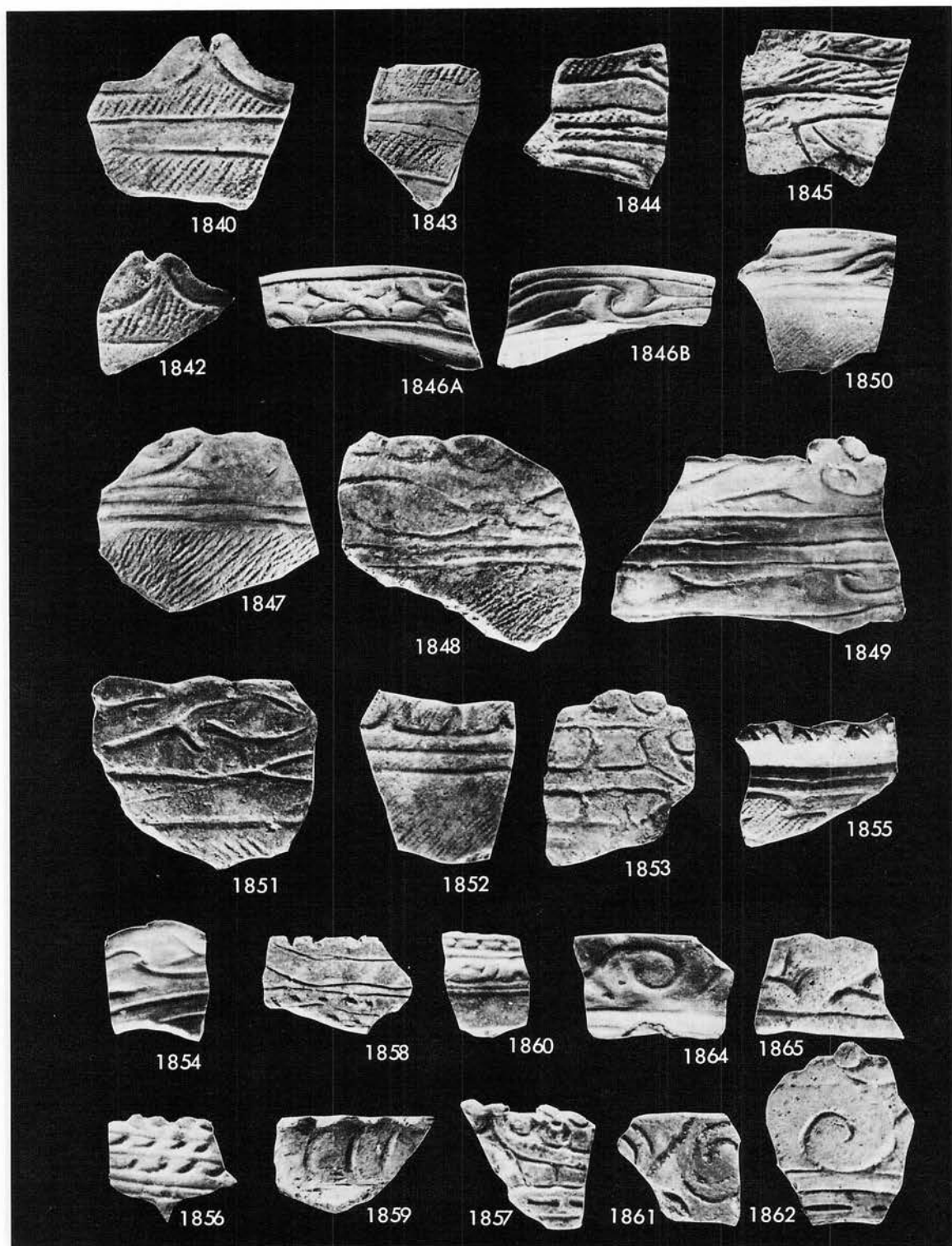




写真图版202 G IV区粗掘出土遗物

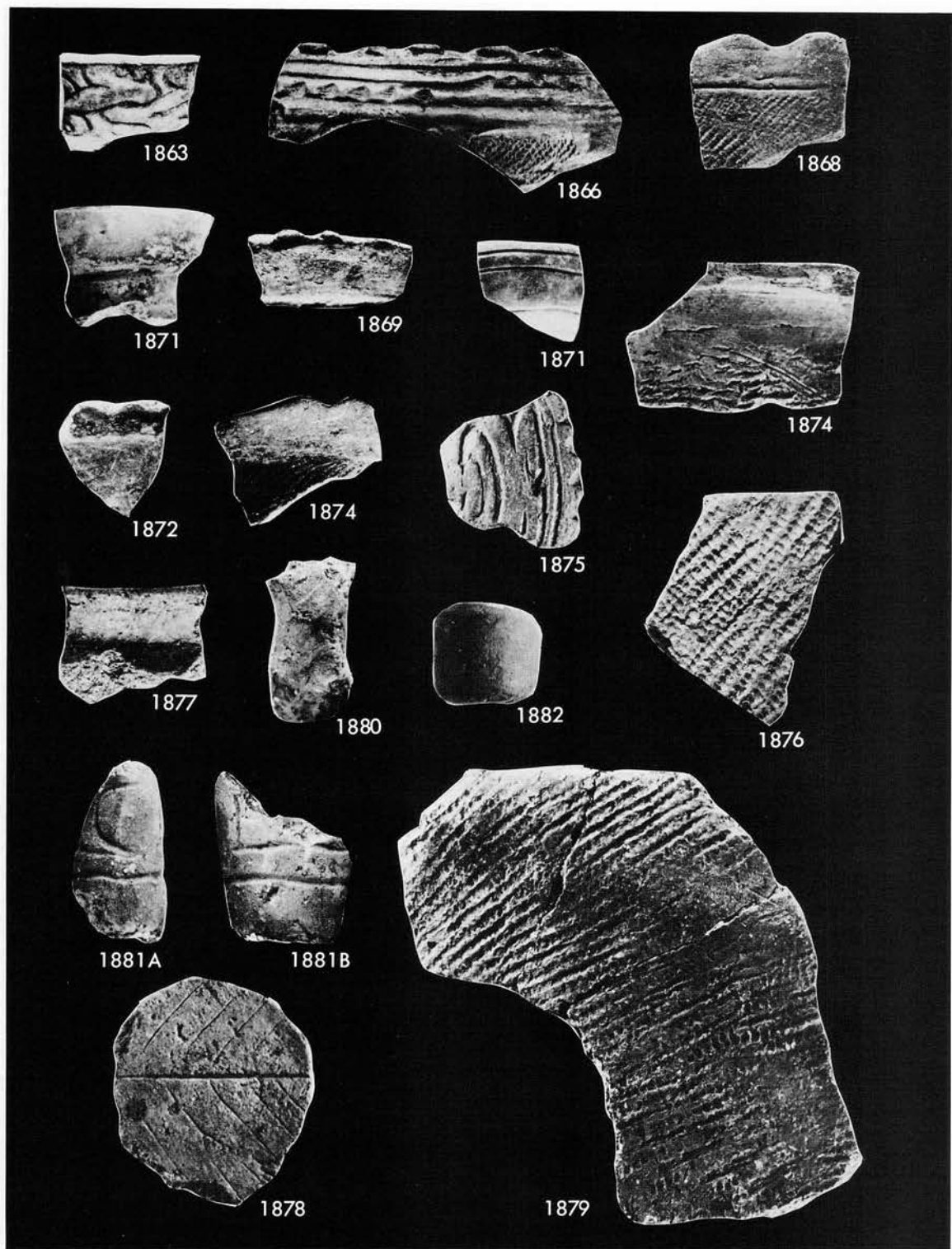


写真图版203 G IV · H III区粗掘出土遺物

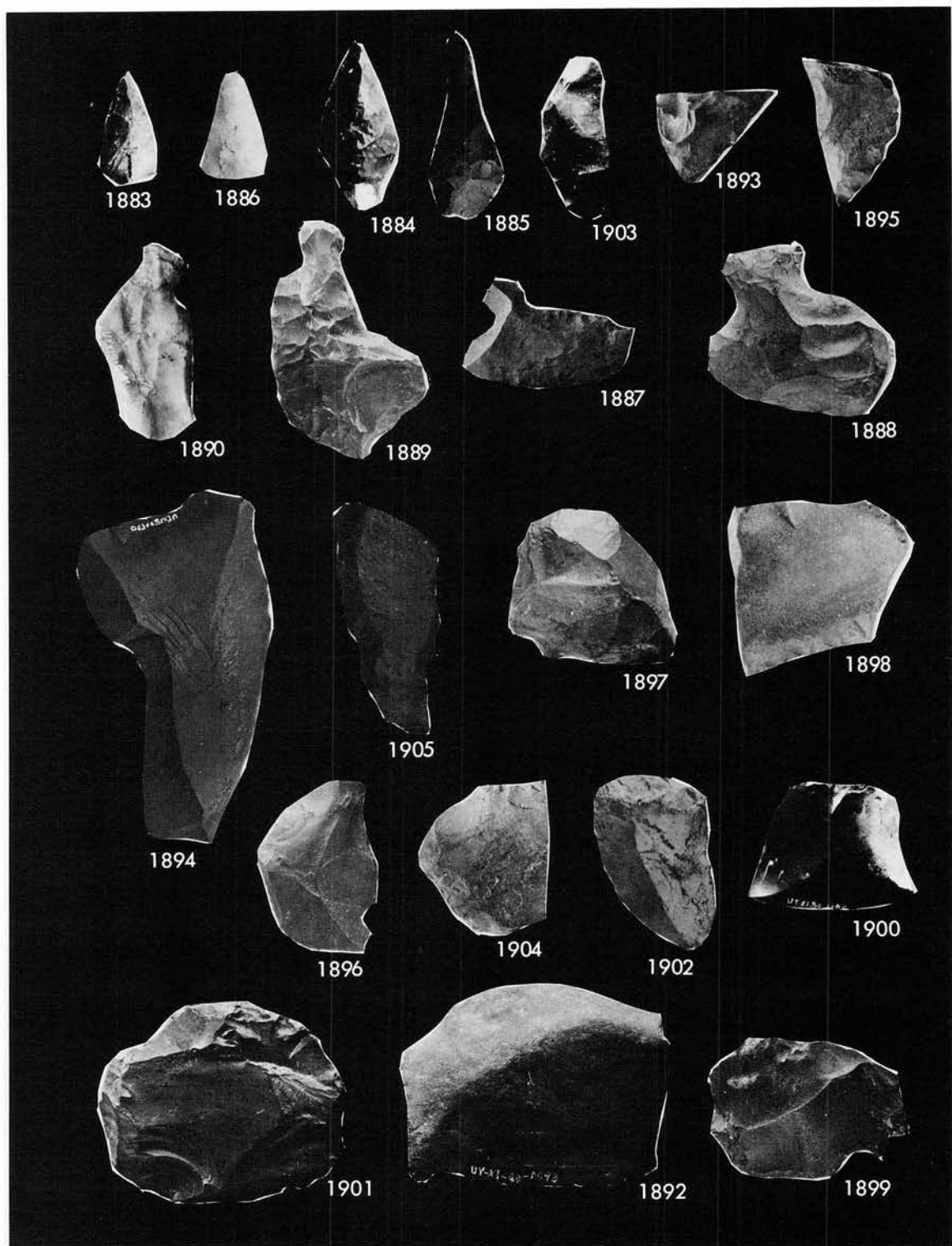


写真图版204 H III区粗掘出土遺物 (I)

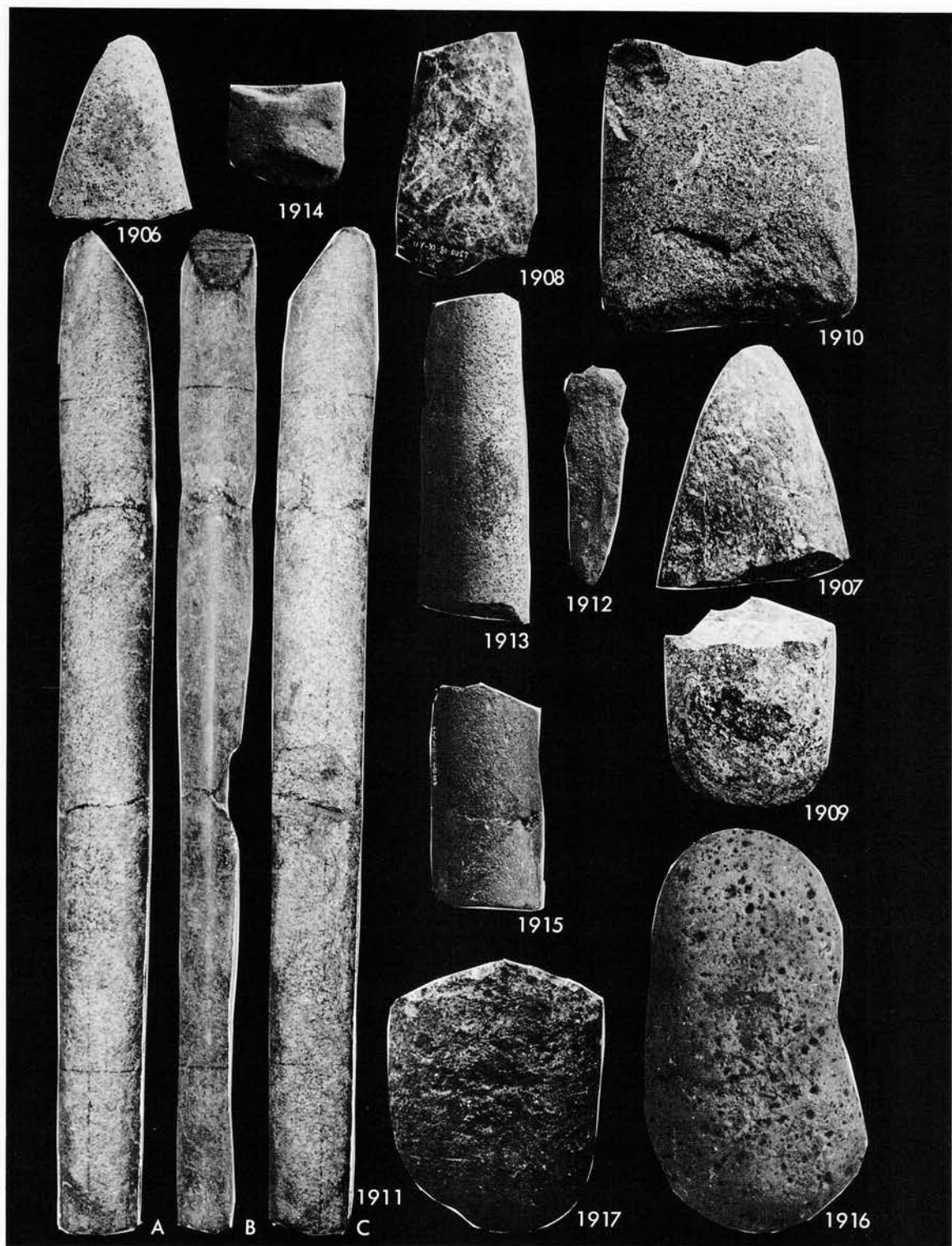




写真图版205 H III区粗掘出土遺物(2)

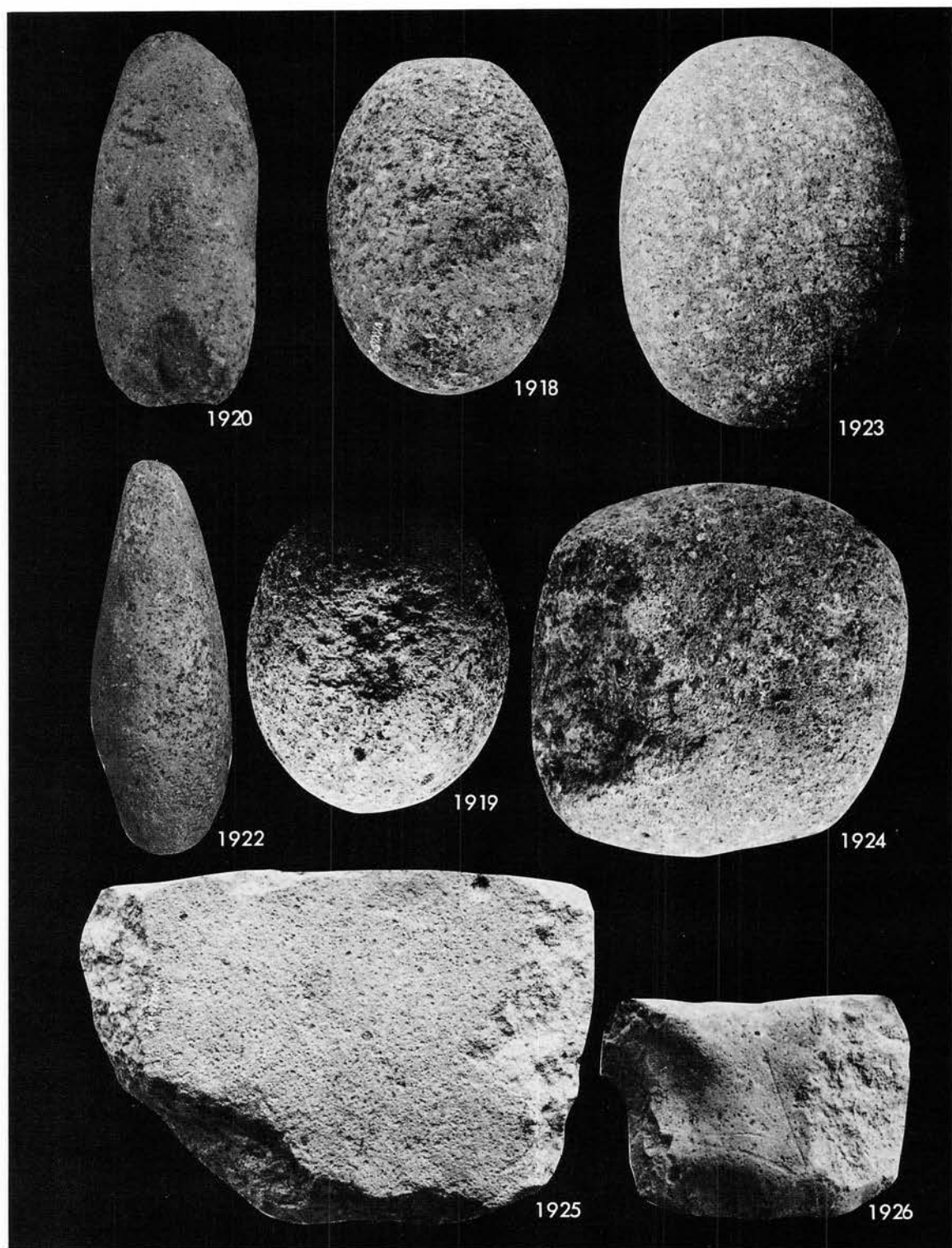


写真图版206 H III区粗掘出土遗物(3)

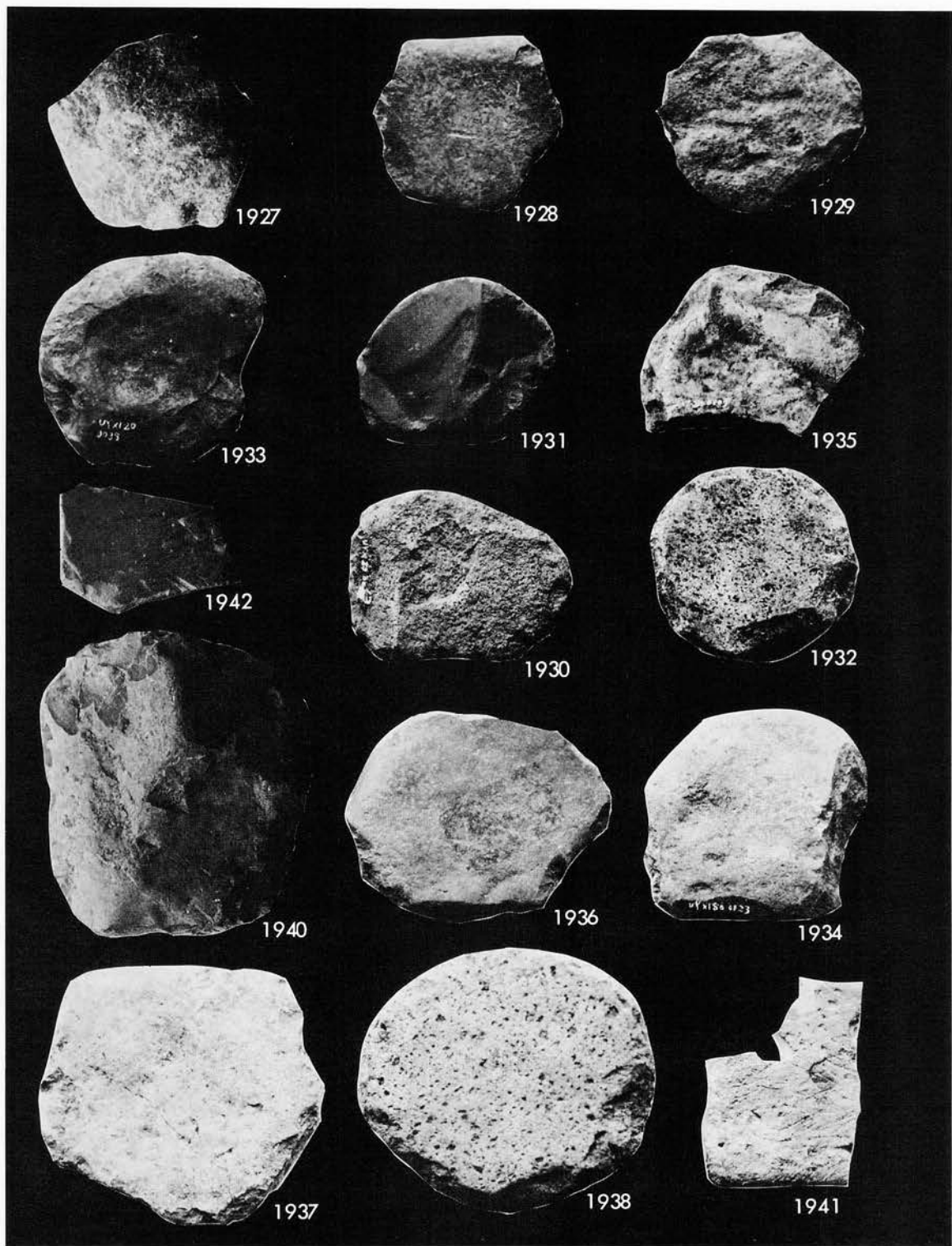


写真图版207 H III区粗掘出土遺物(4)

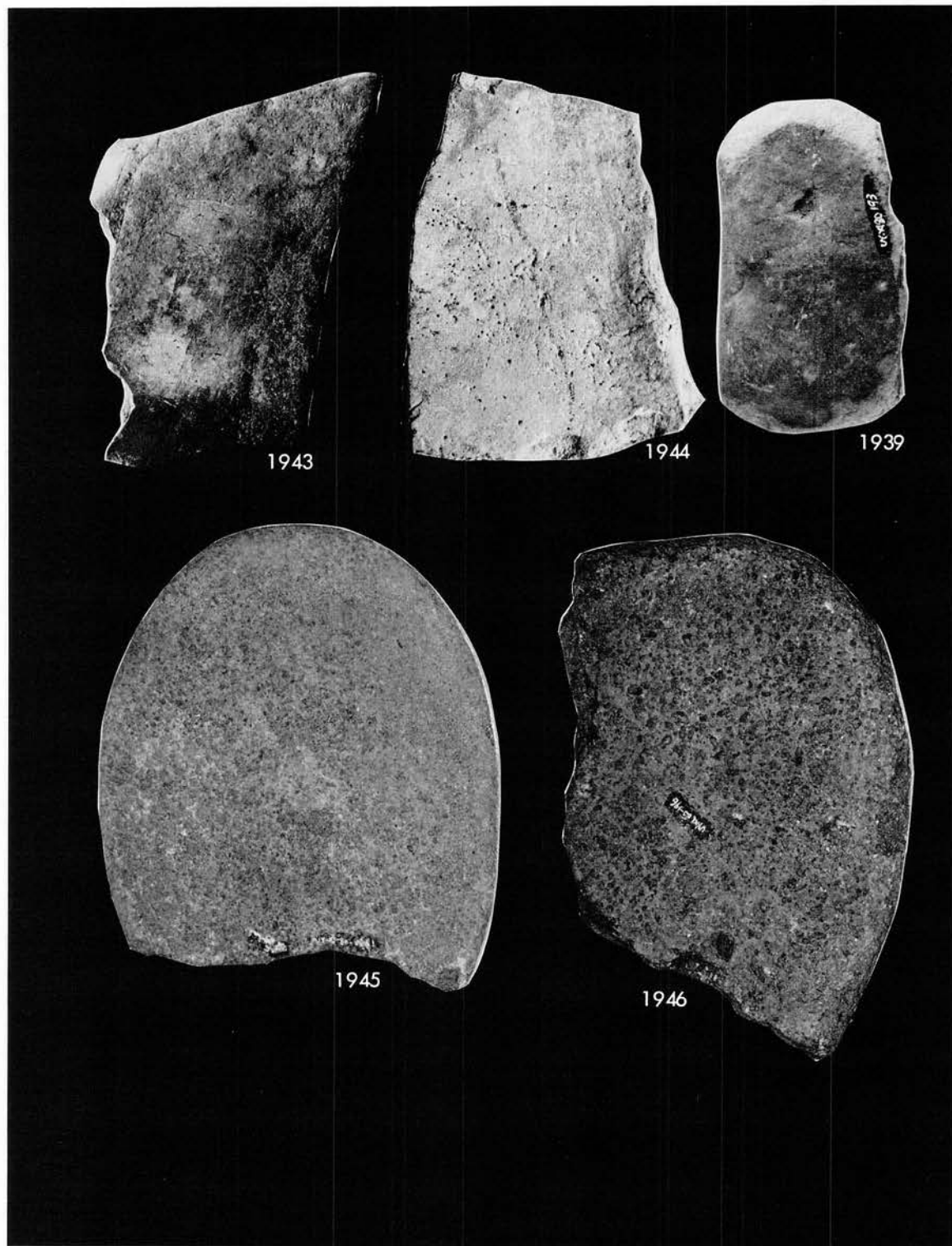




写真图版208 H III区粗掘出土遗物(5)

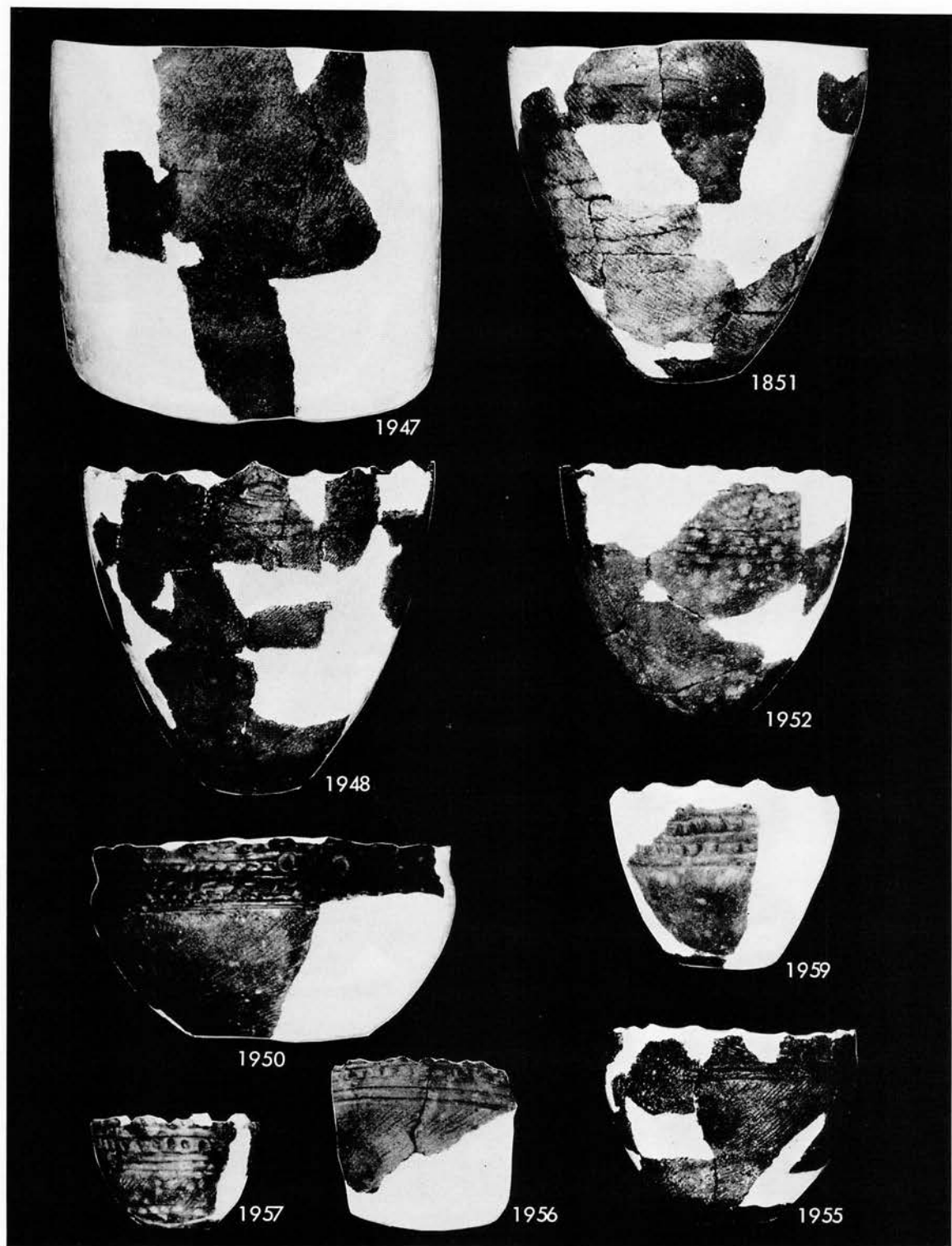


写真图版209 H III区粗掘出土遗物(6)

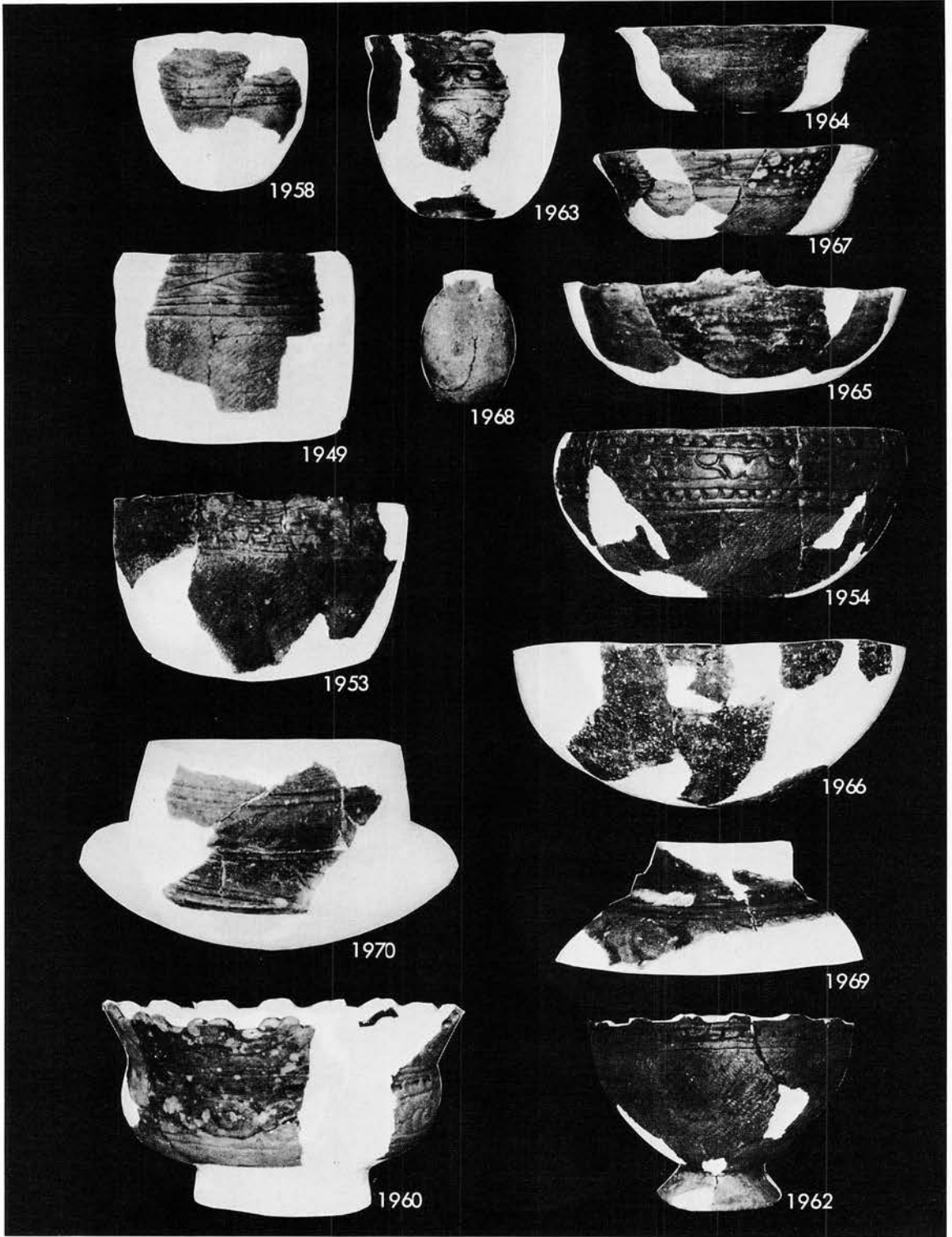


写真图版210 H III区粗掘出土遺物(7)

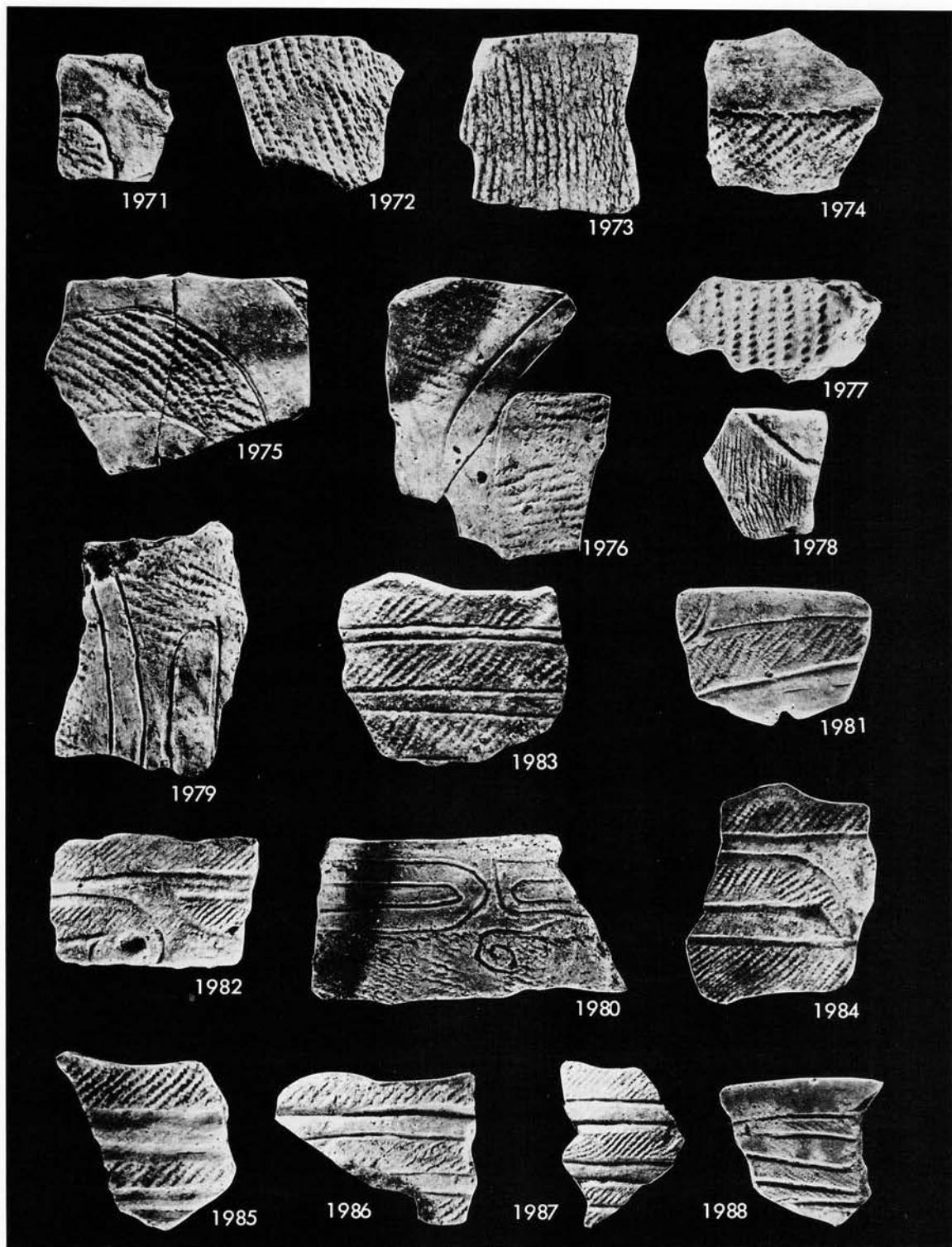




写真图版211 H IV区粗掘出土遗物 (I)

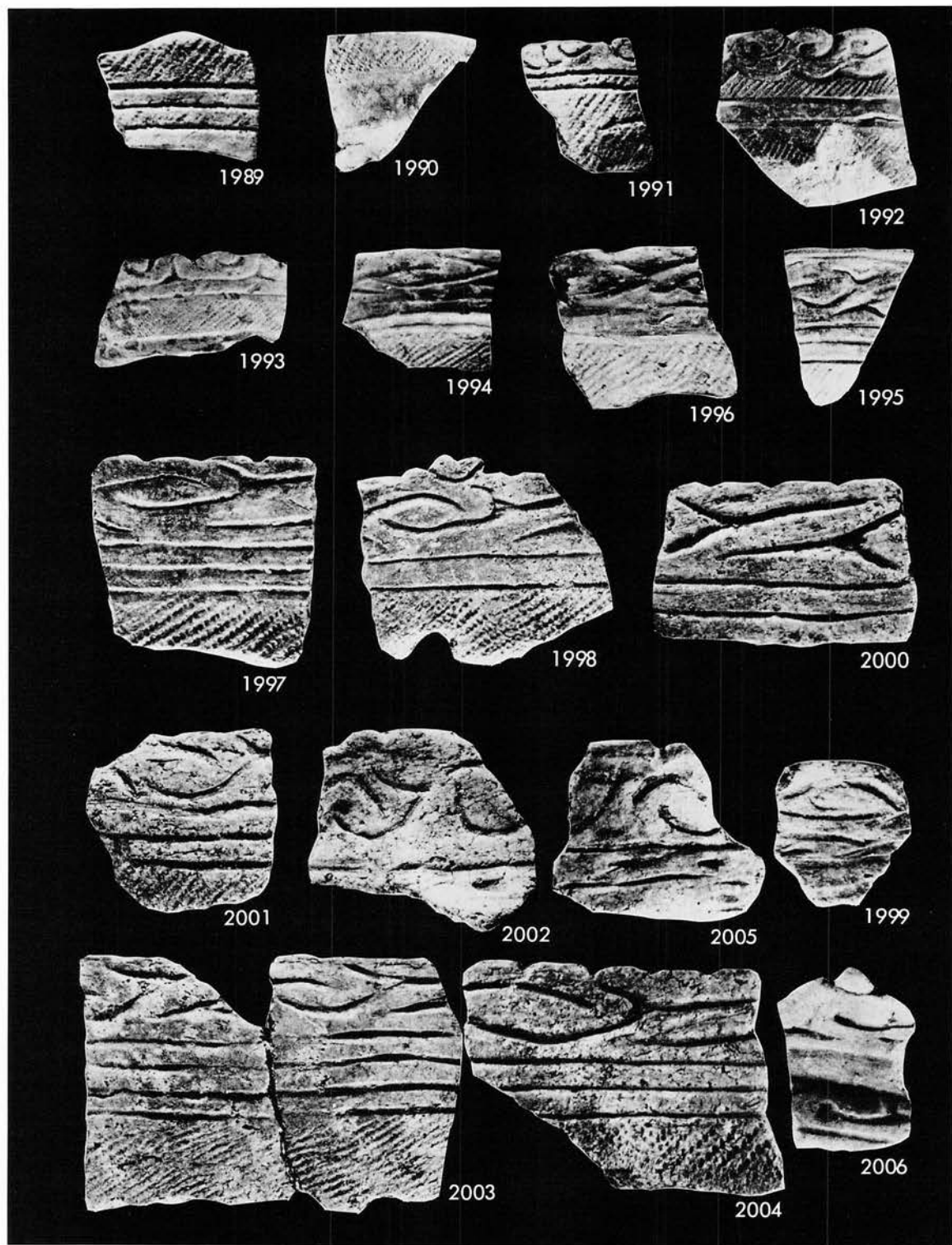


写真图版212 H IV区粗掘出土遗物(2)

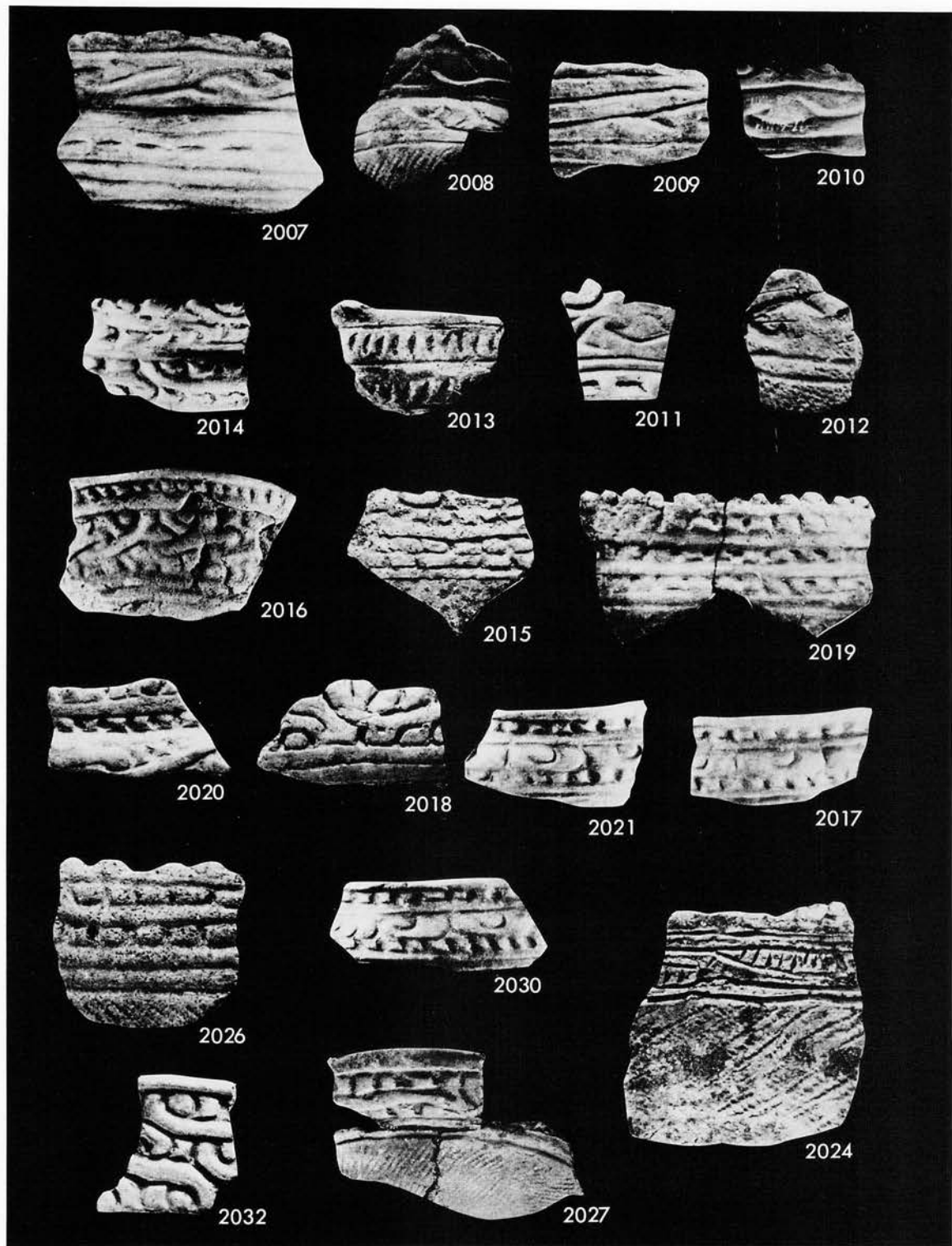


写真图版213 H IV区粗掘出土遺物 (3)

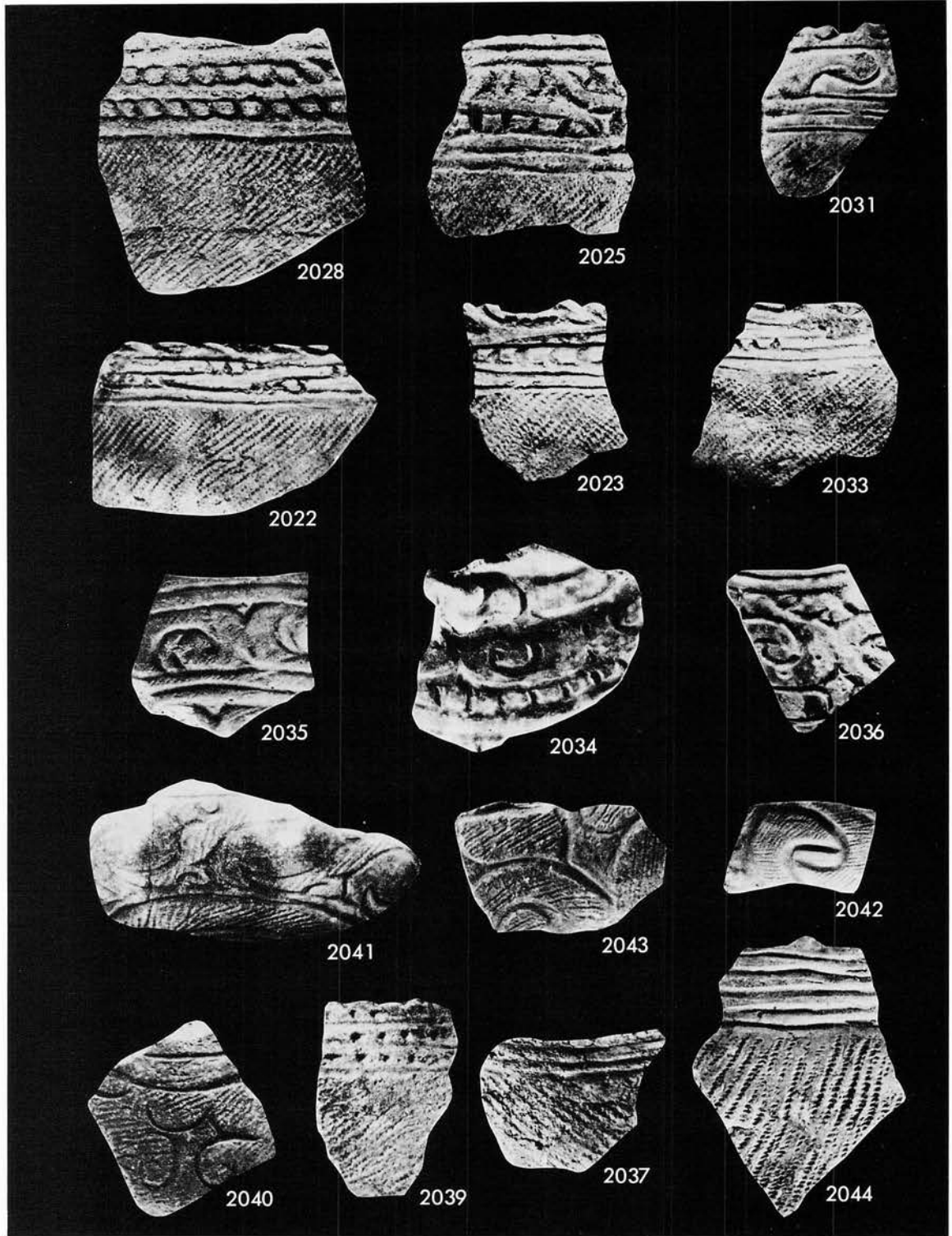




写真图版214 H IV区粗掘出土遗物(4)

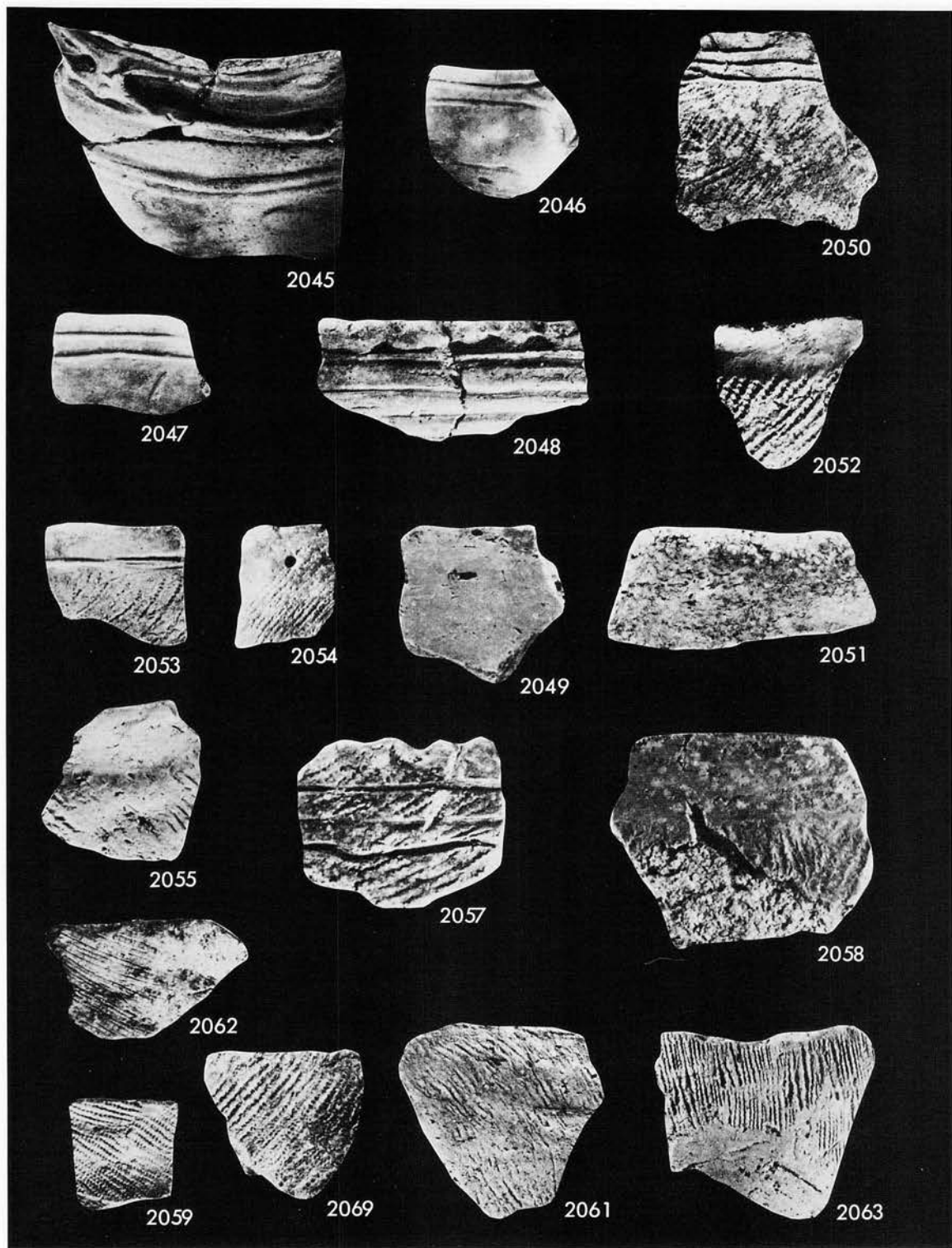


写真图版215 H IV区粗掘出土遗物(5)

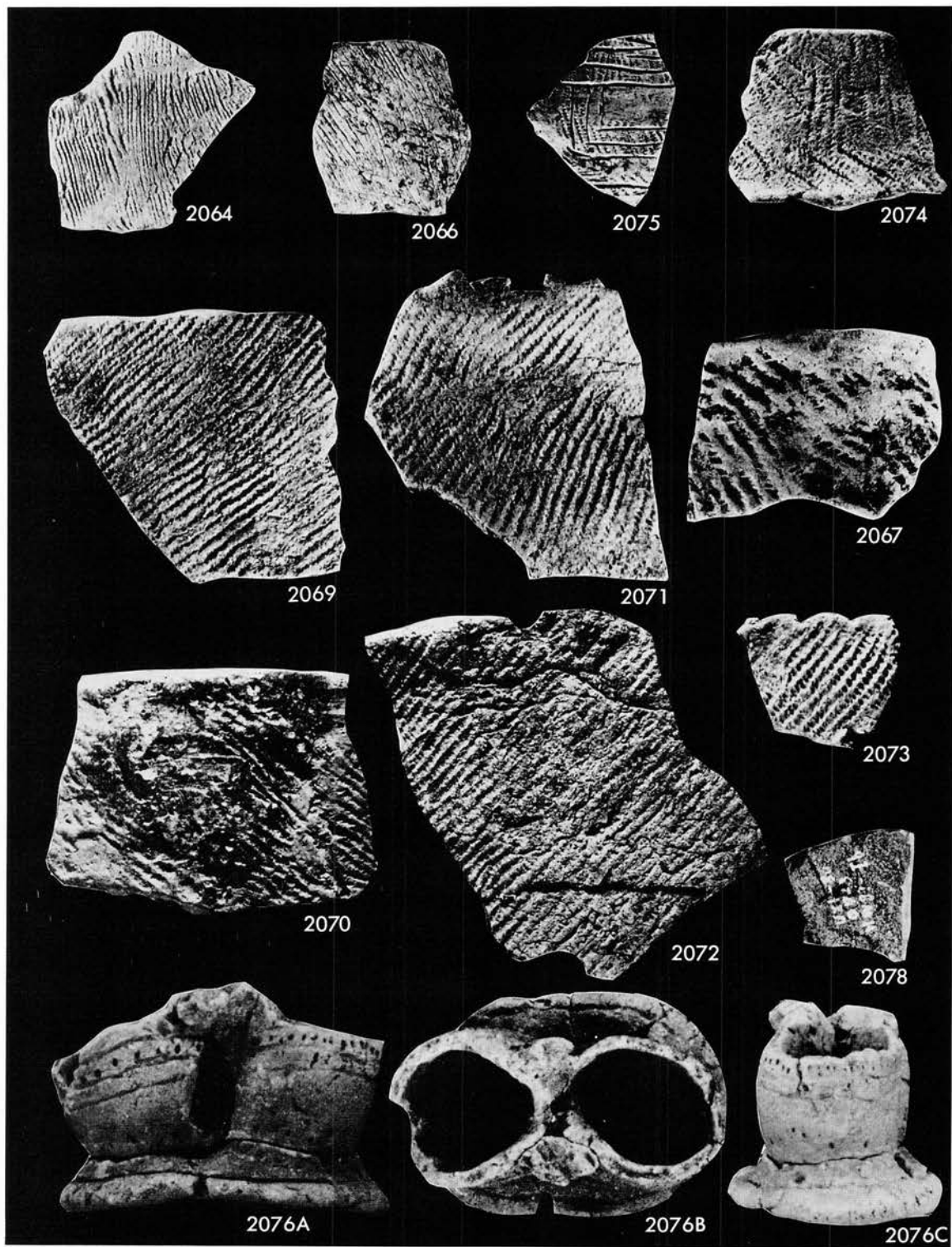


写真图版216 H IV区粗掘出土遺物(6)

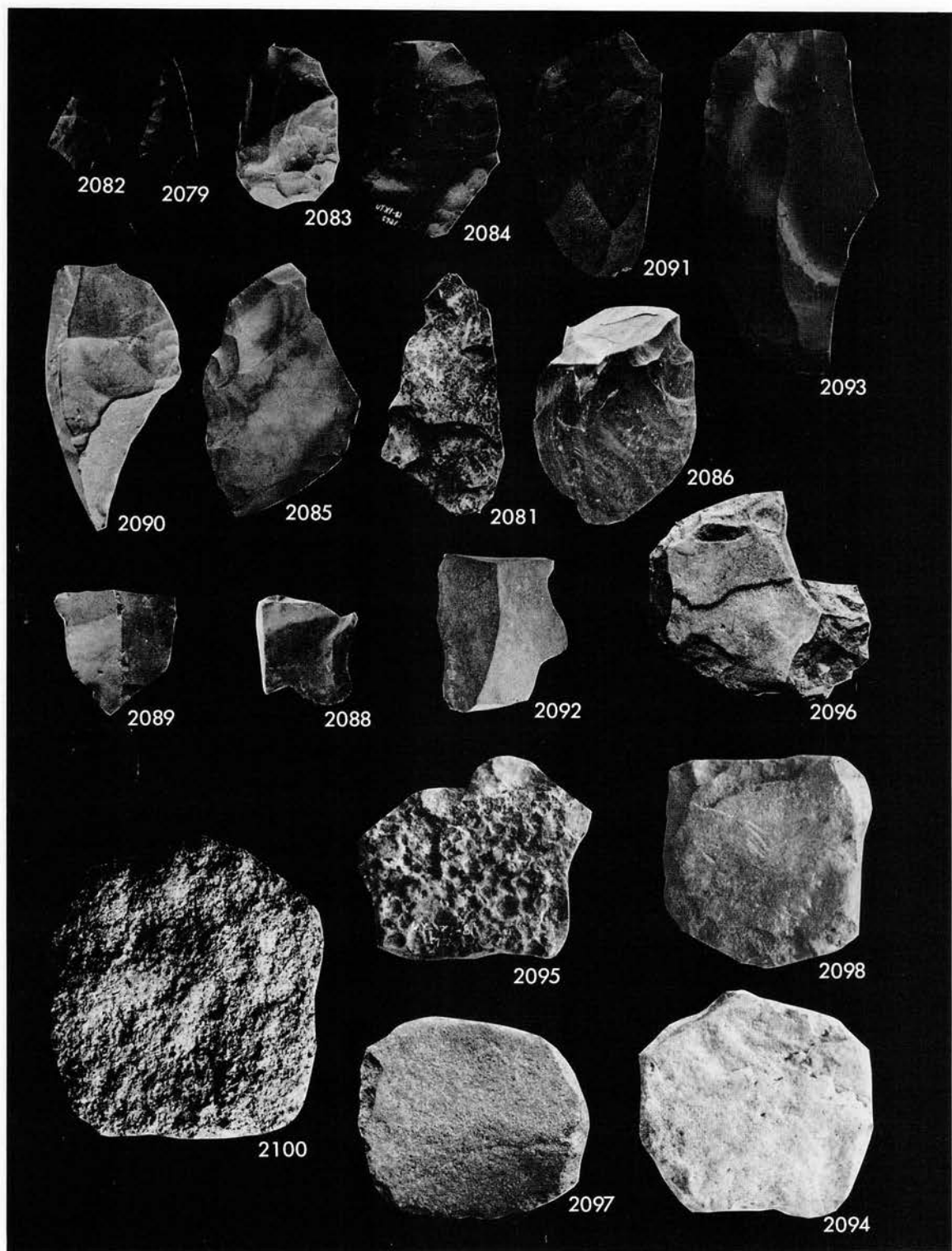




写真图版217 H IV区粗掘出土遗物(7)

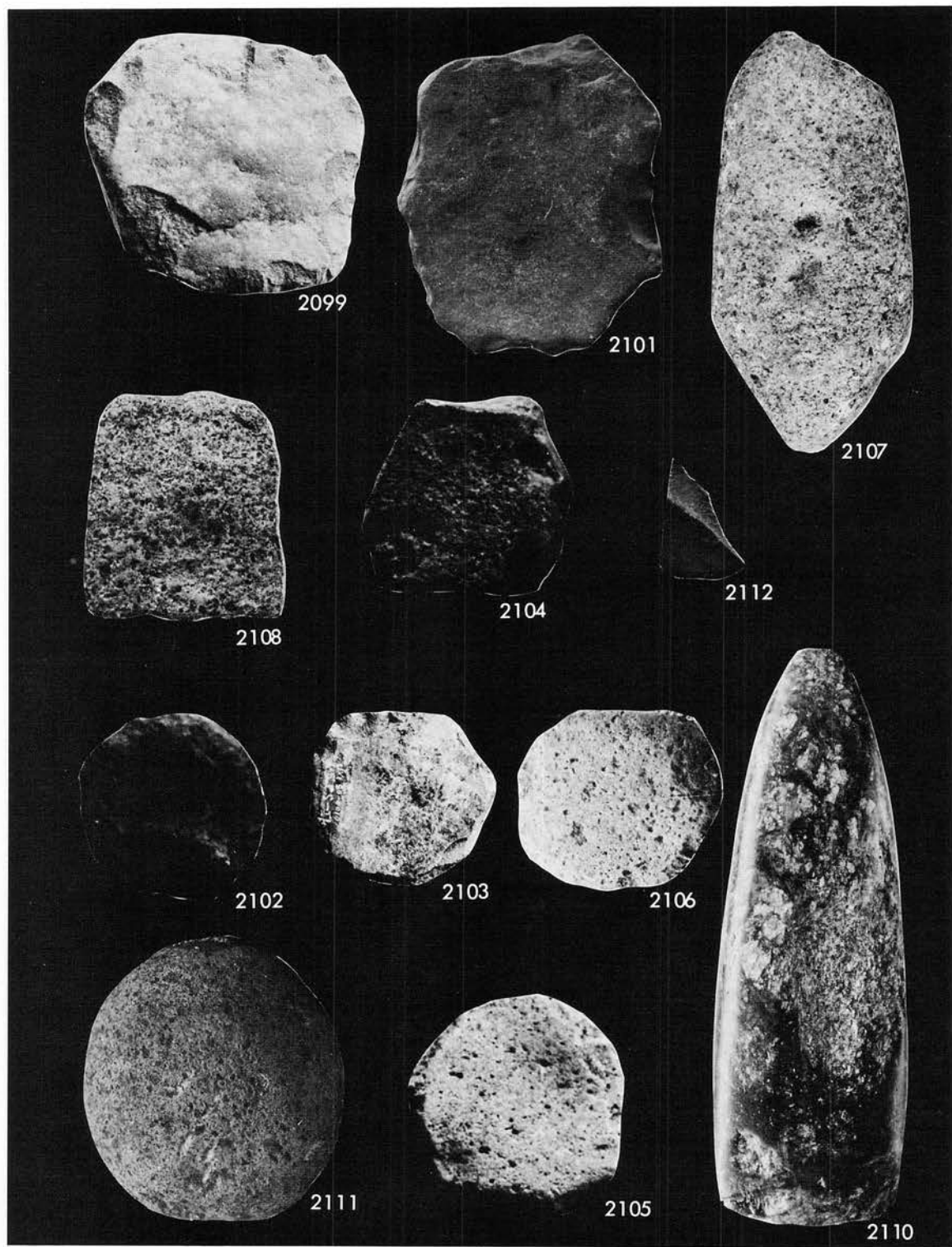


写真图版218 H IV区粗掘出土遺物 ( 8 )

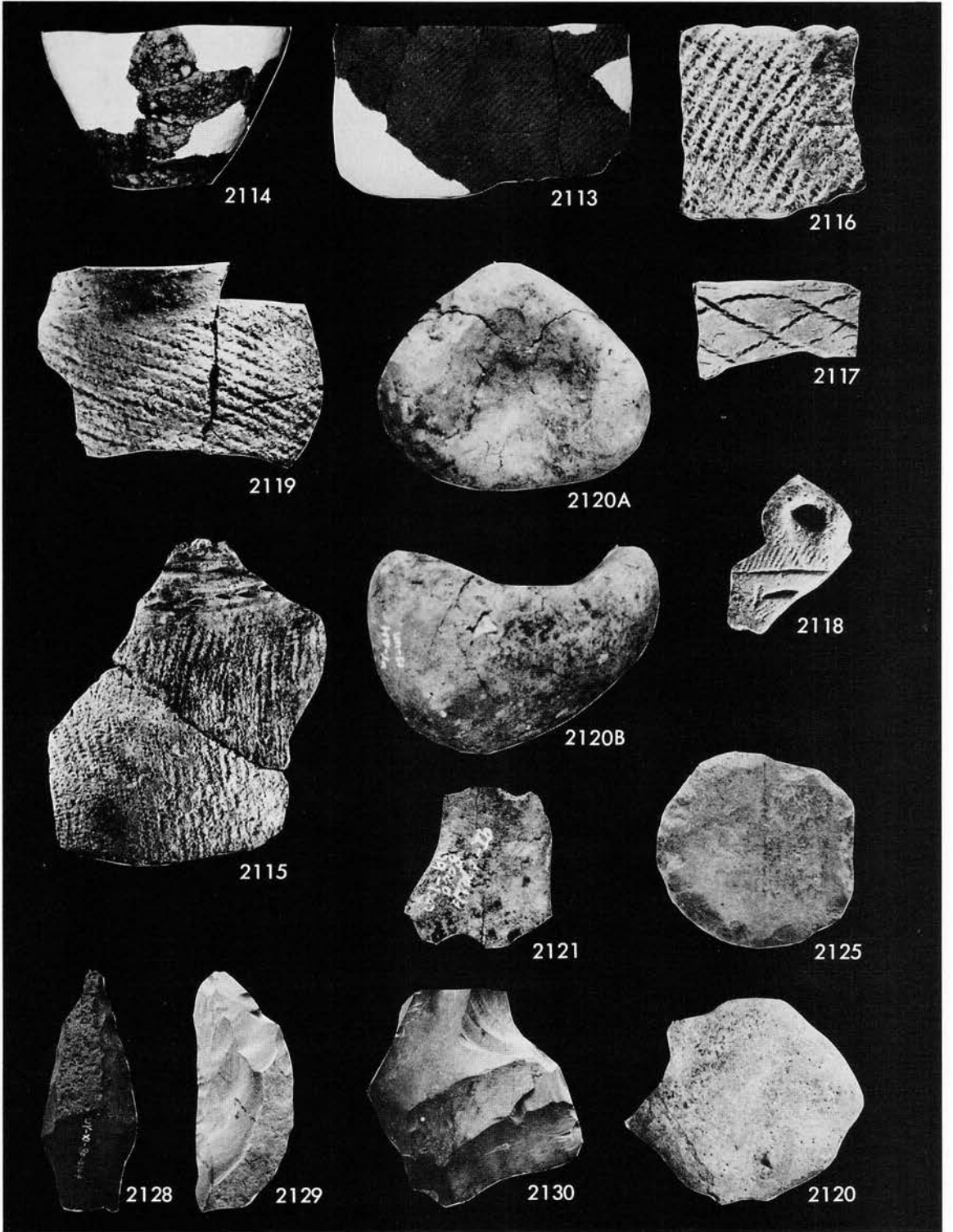


写真图版219 H IV区粗掘出土遺物 (9)

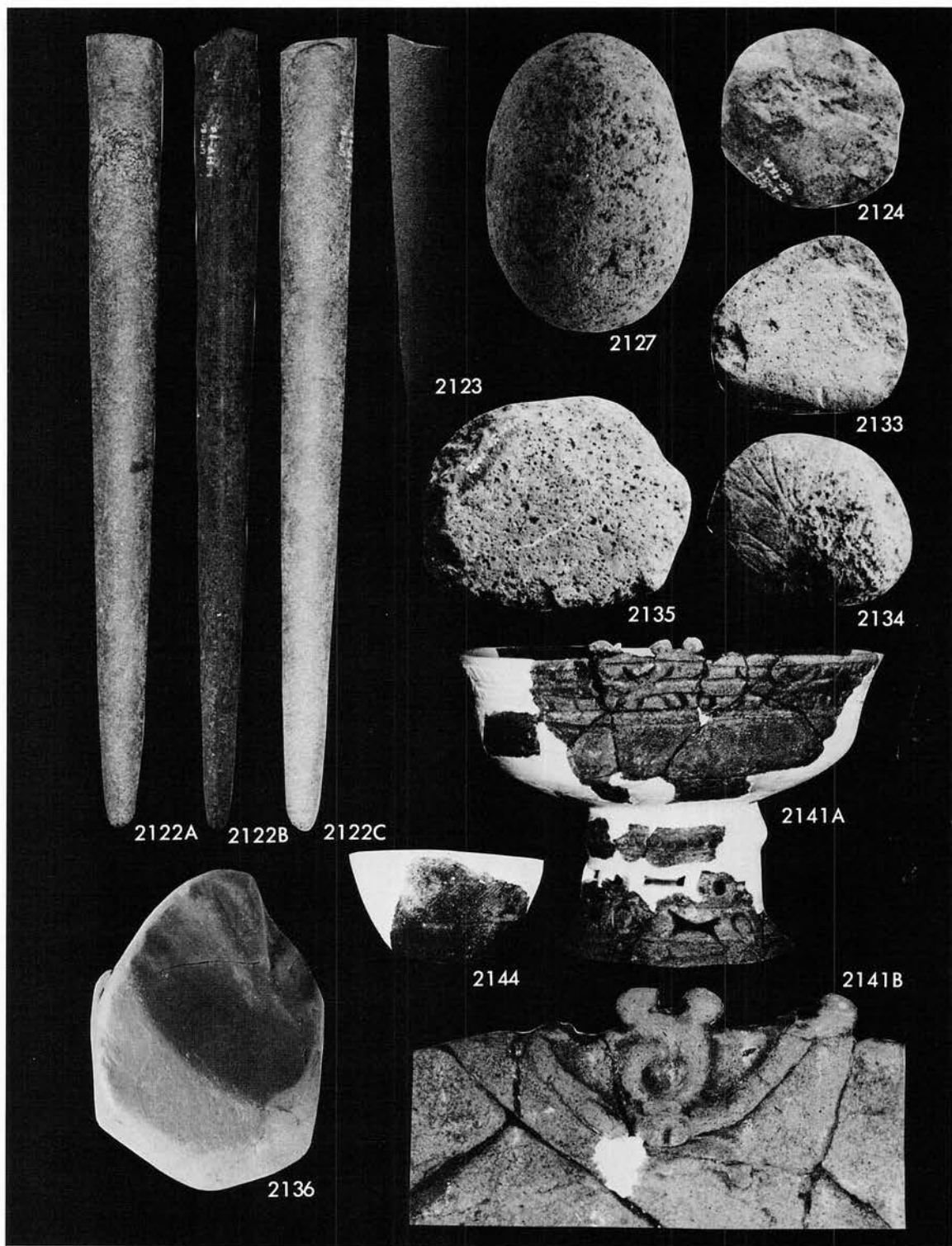




写真图版220 H IV区粗掘出土遺物 (10)

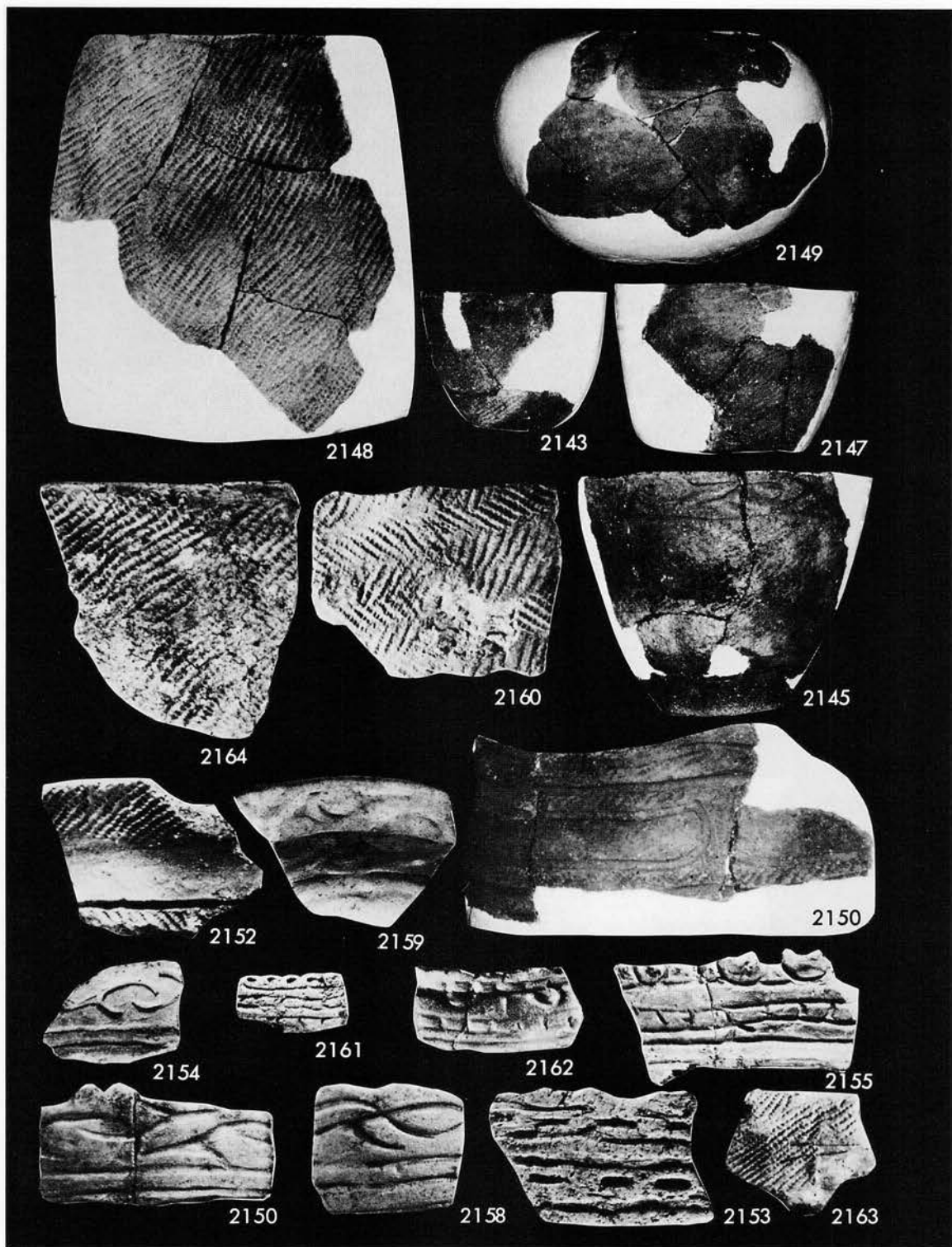


写真图版221 H V区粗掘出土遗物

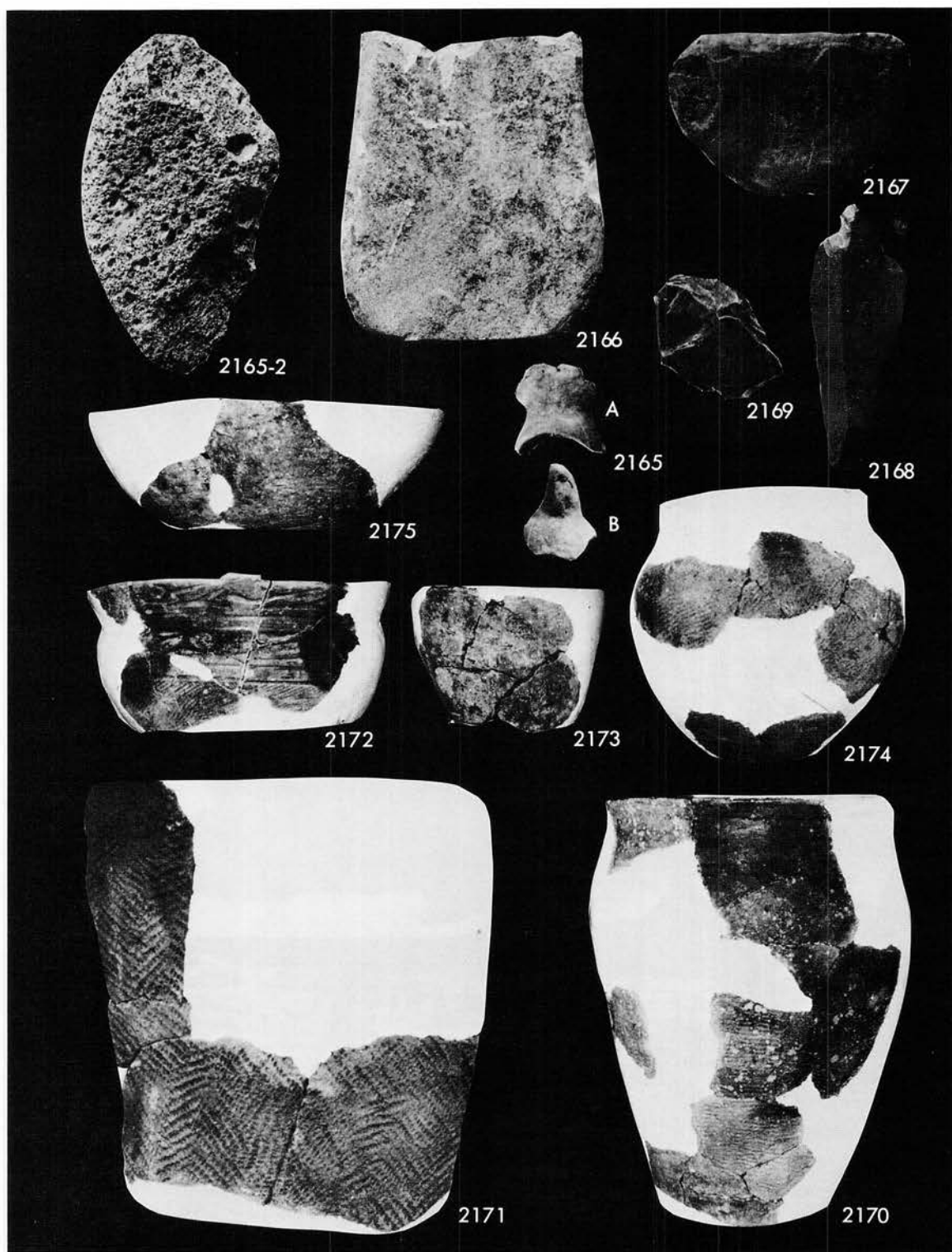


写真図版222 H V · VI区粗掘出土遺物

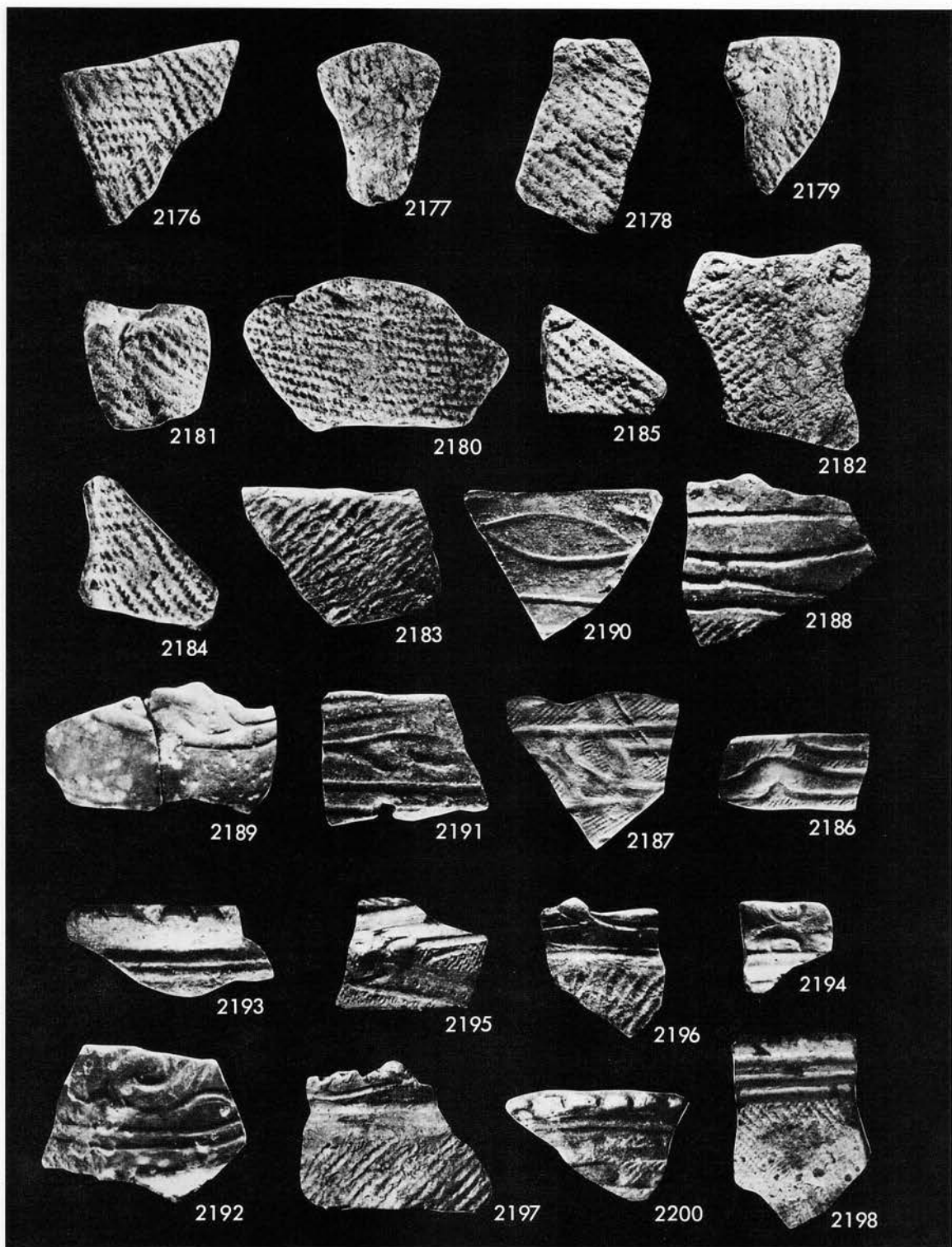




写真图版223 I III区粗掘出土遗物

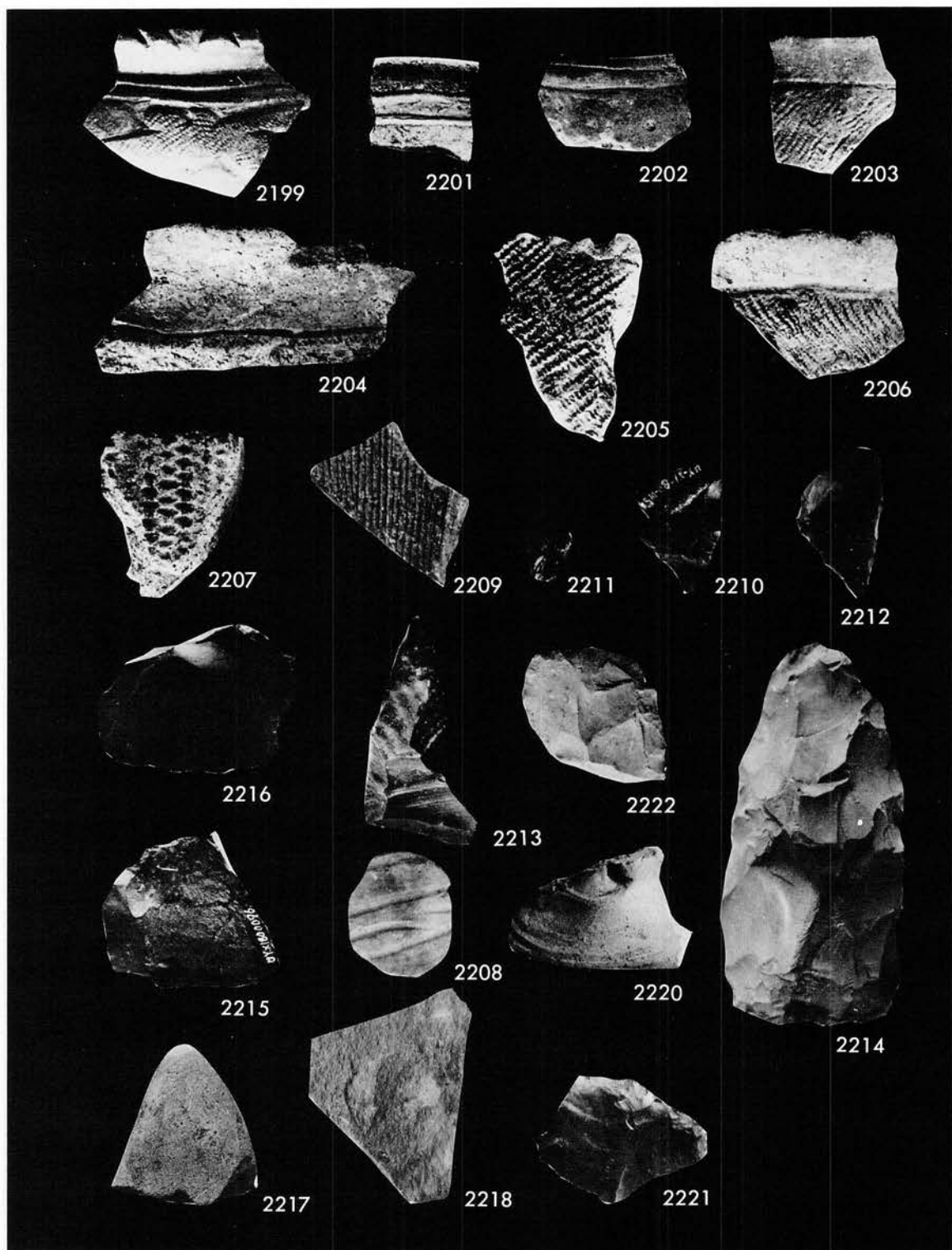


写真图版224 I III·IV区粗掘出土遗物

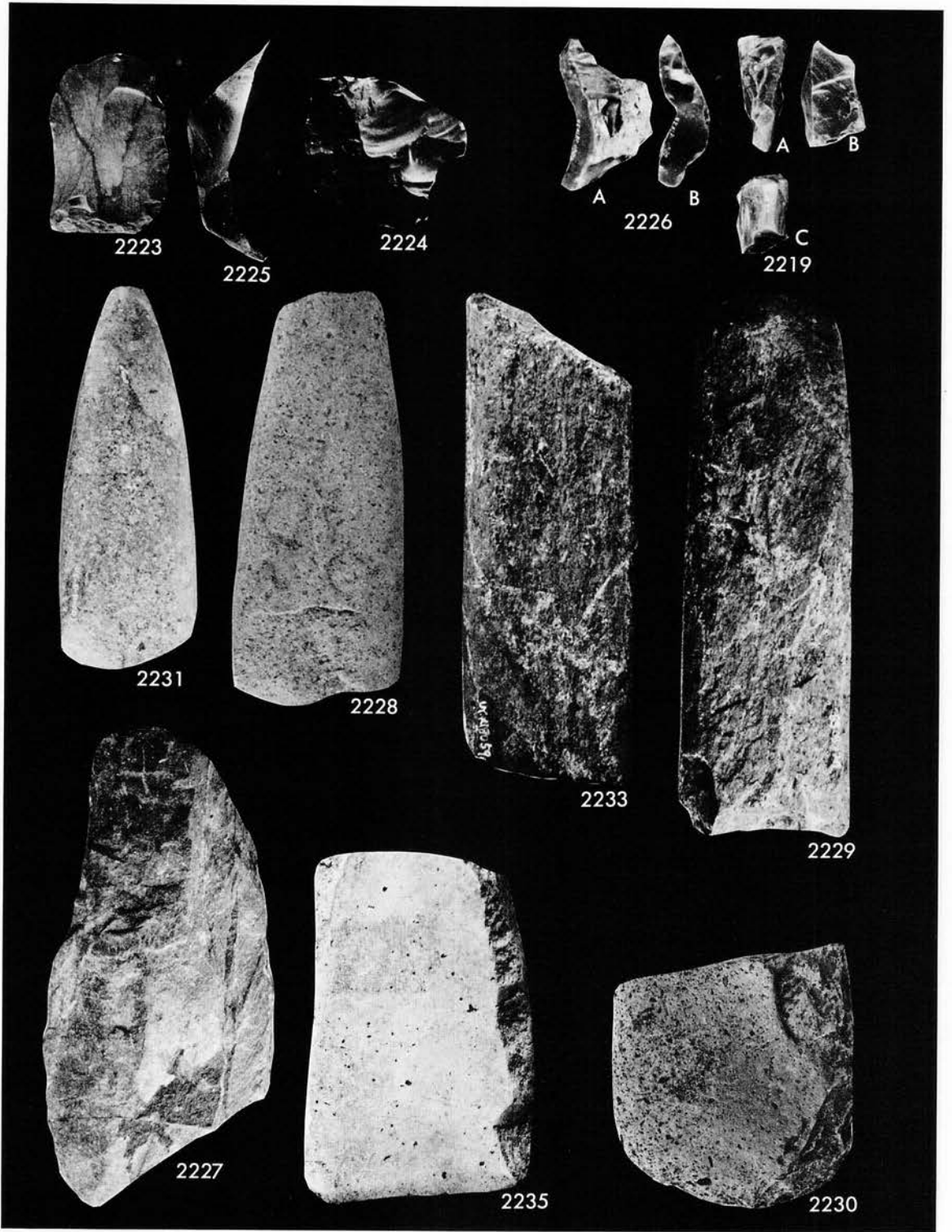


写真图版225 I IV区粗掘出土遺物 (1)

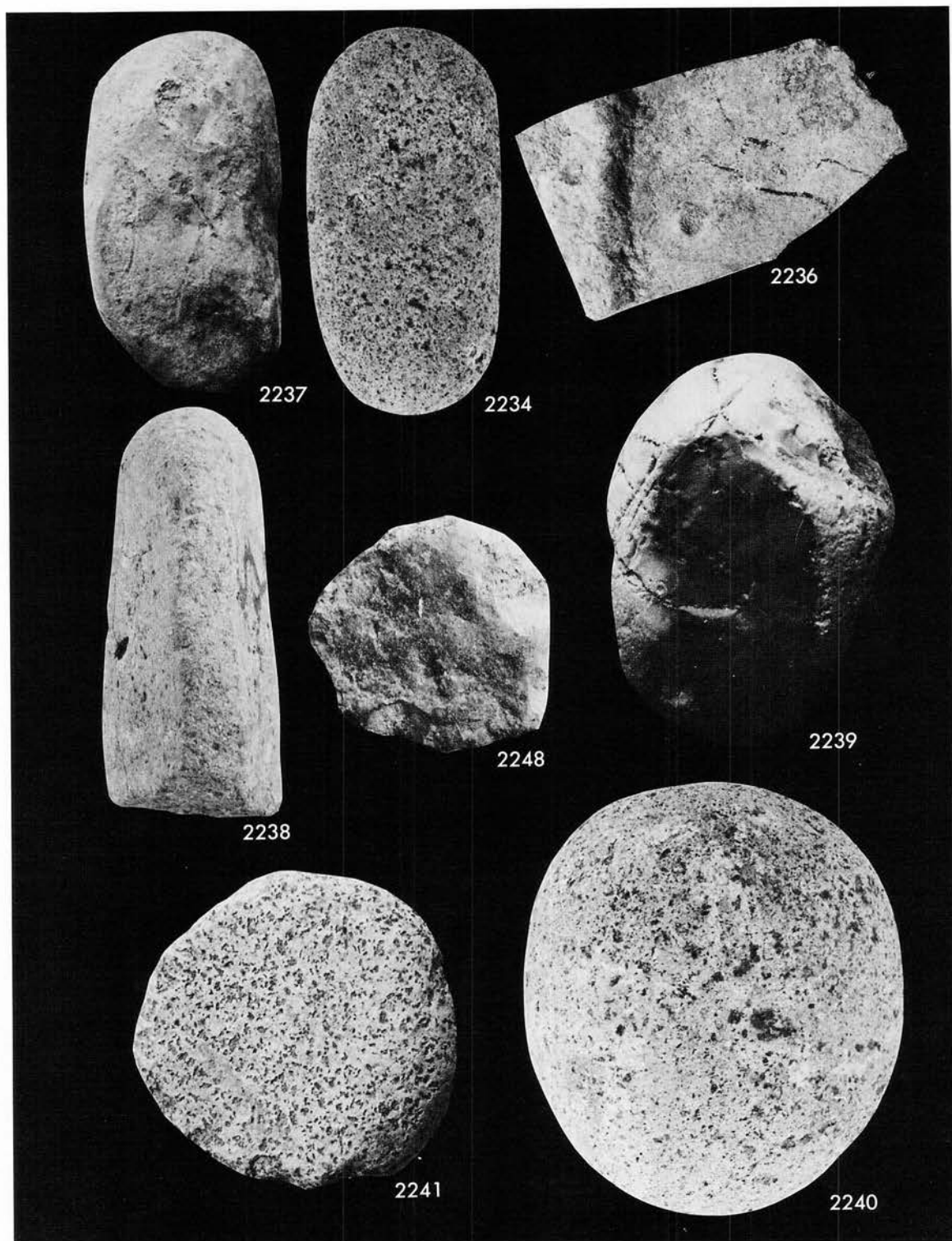




写真图版226 I IV区粗掘出土遺物(2)

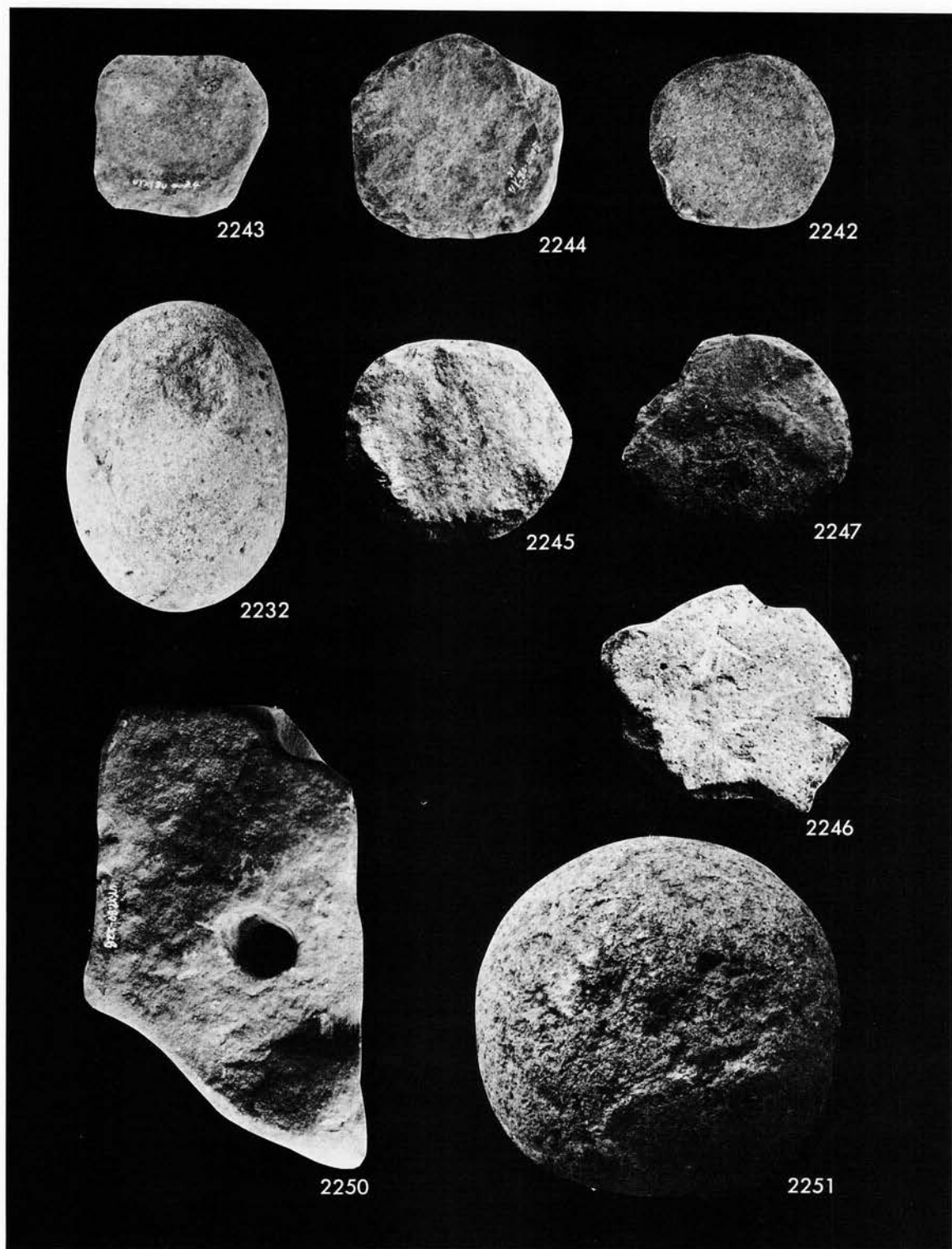


写真图版227 I IV区出土遗物 ( I )

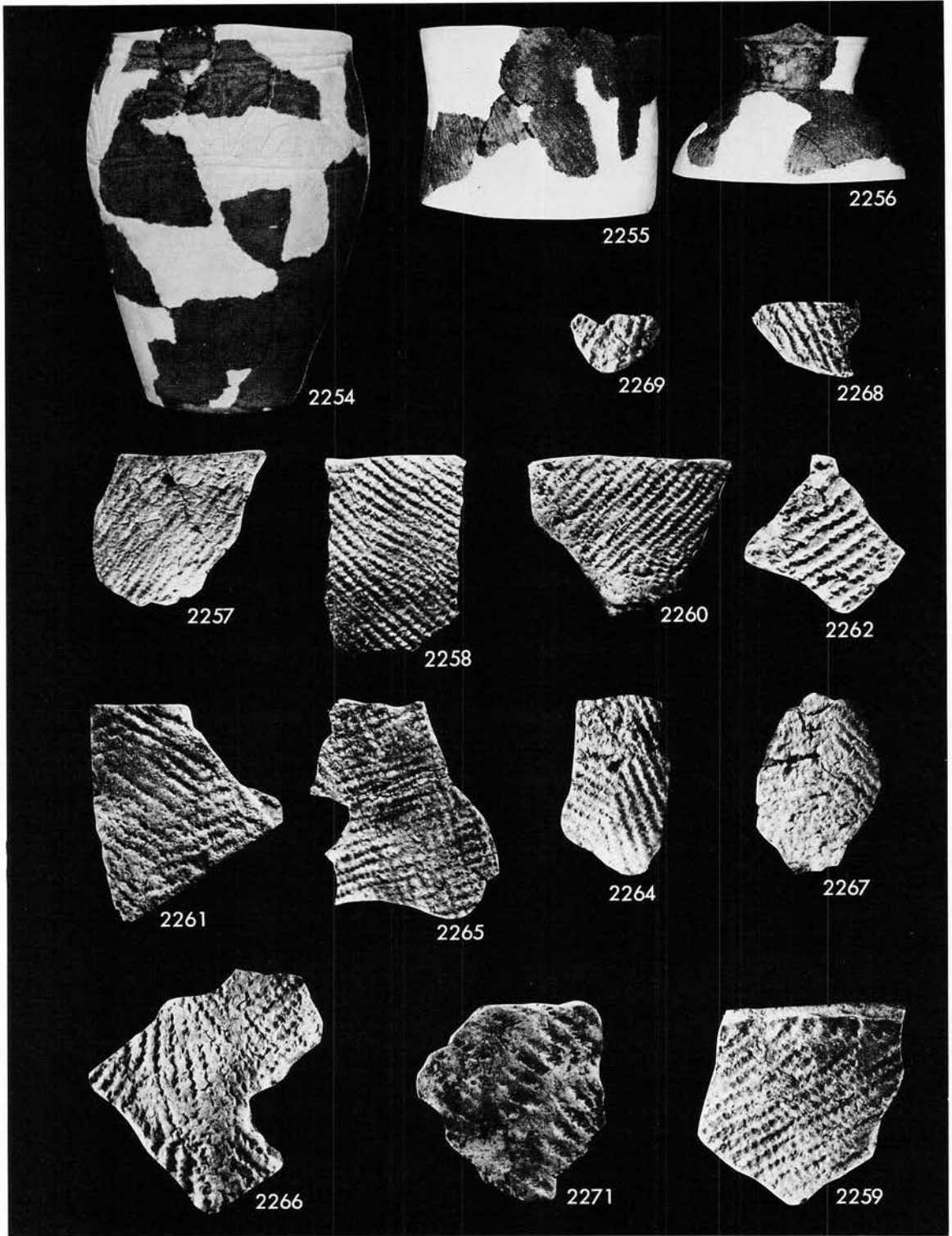


写真图版228 I IV区出土遺物(2)

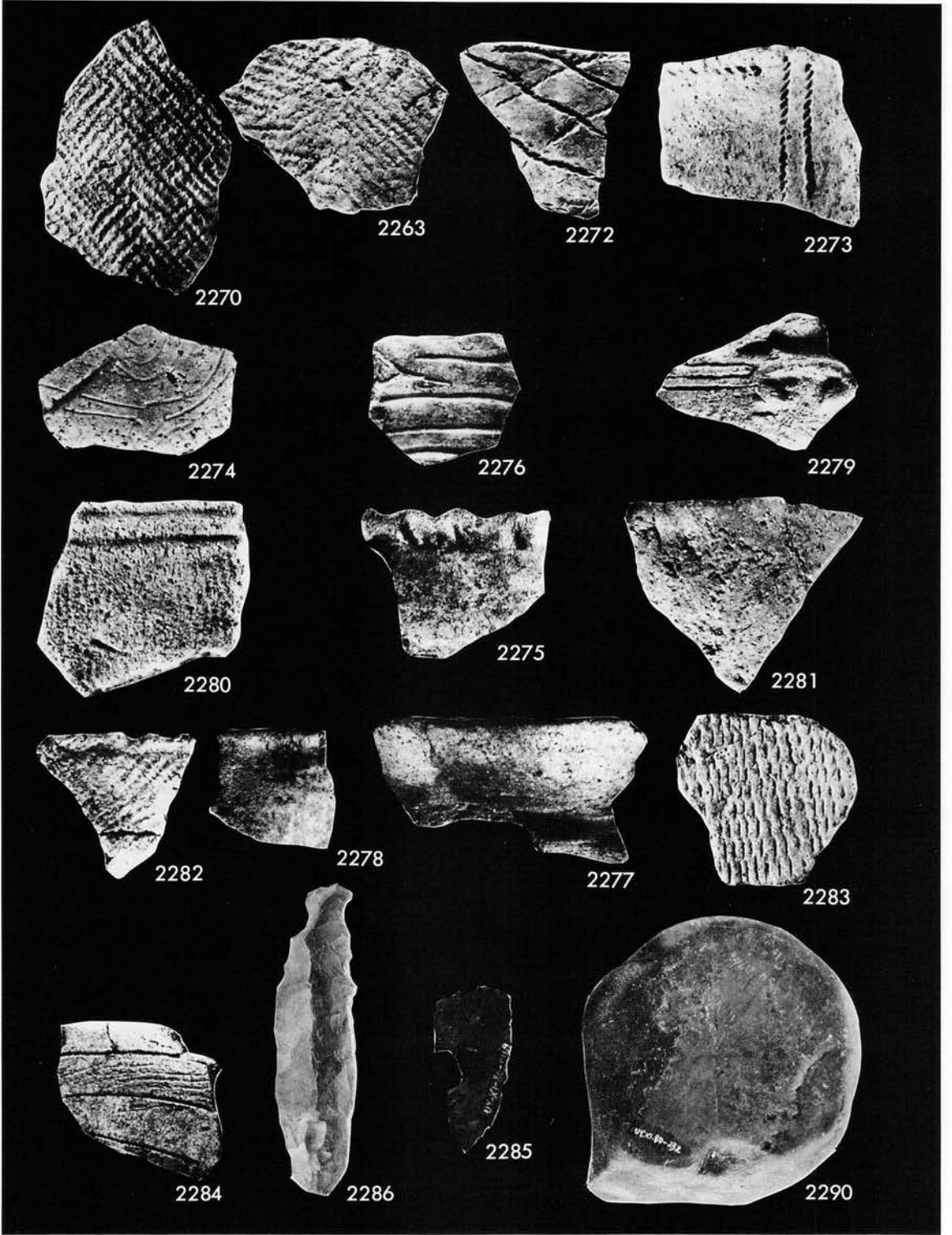




写真图版229 I IV区出土遗物(3)

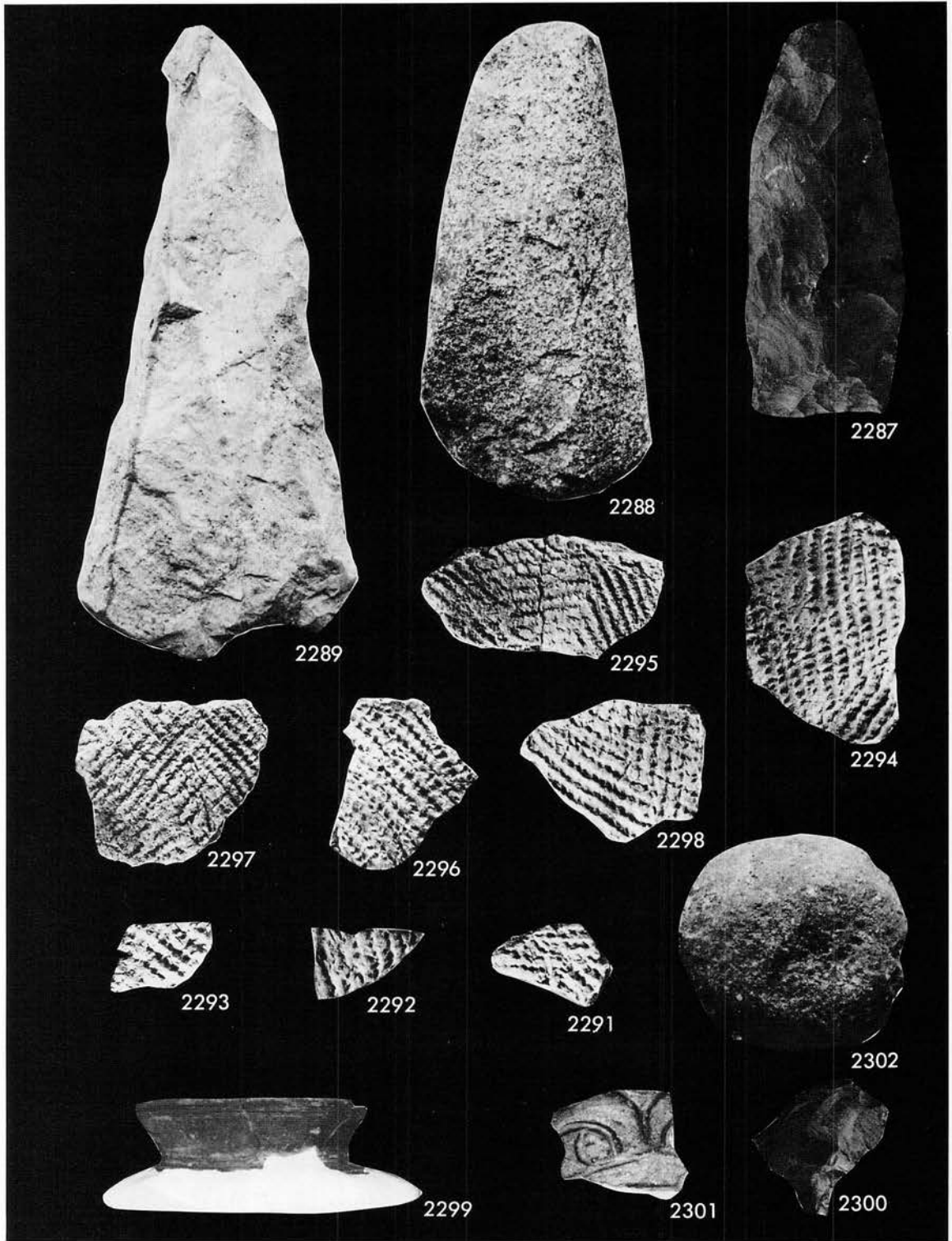


写真图版230 I V区粗掘出土遗物

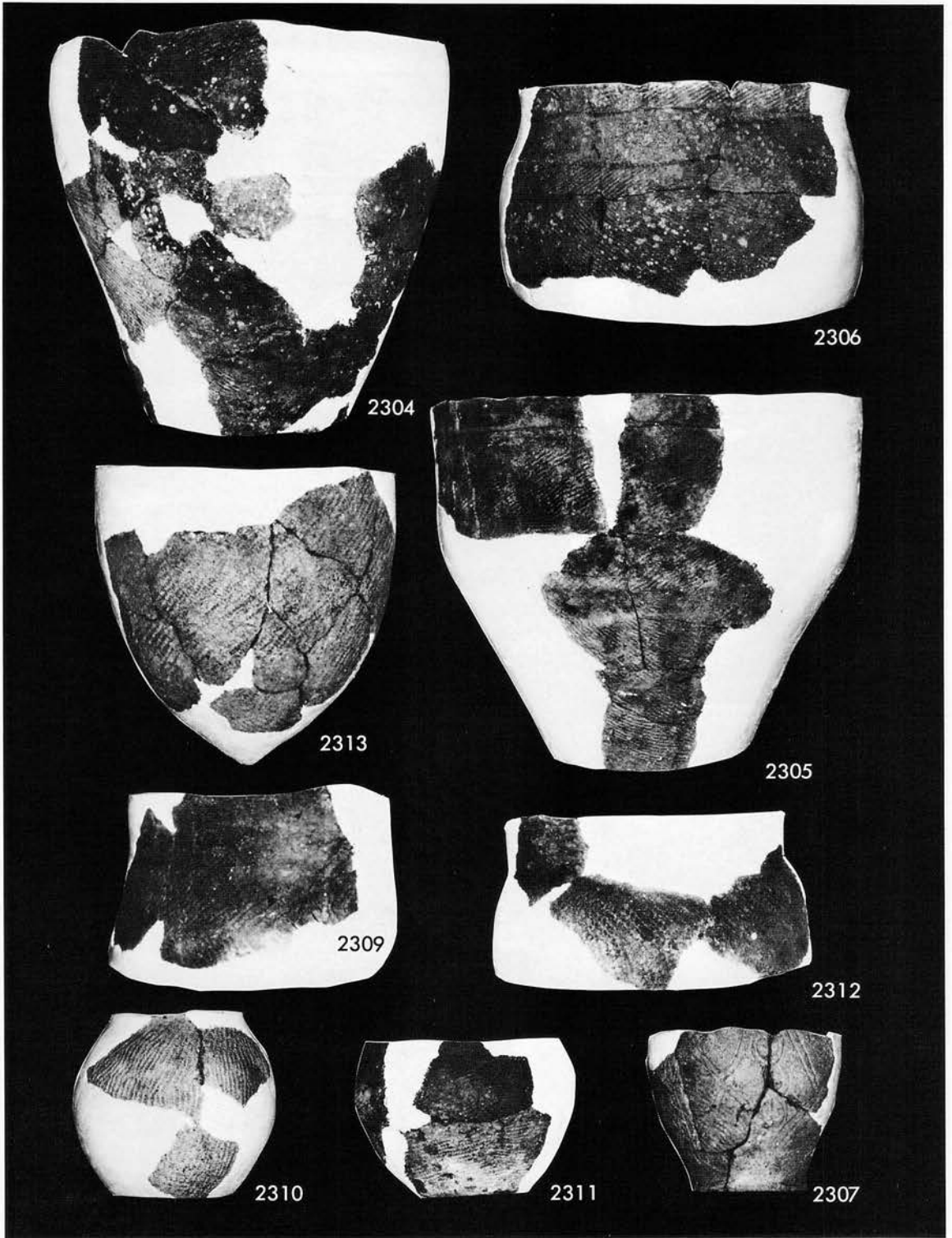


写真图版231 I V区出土遗物

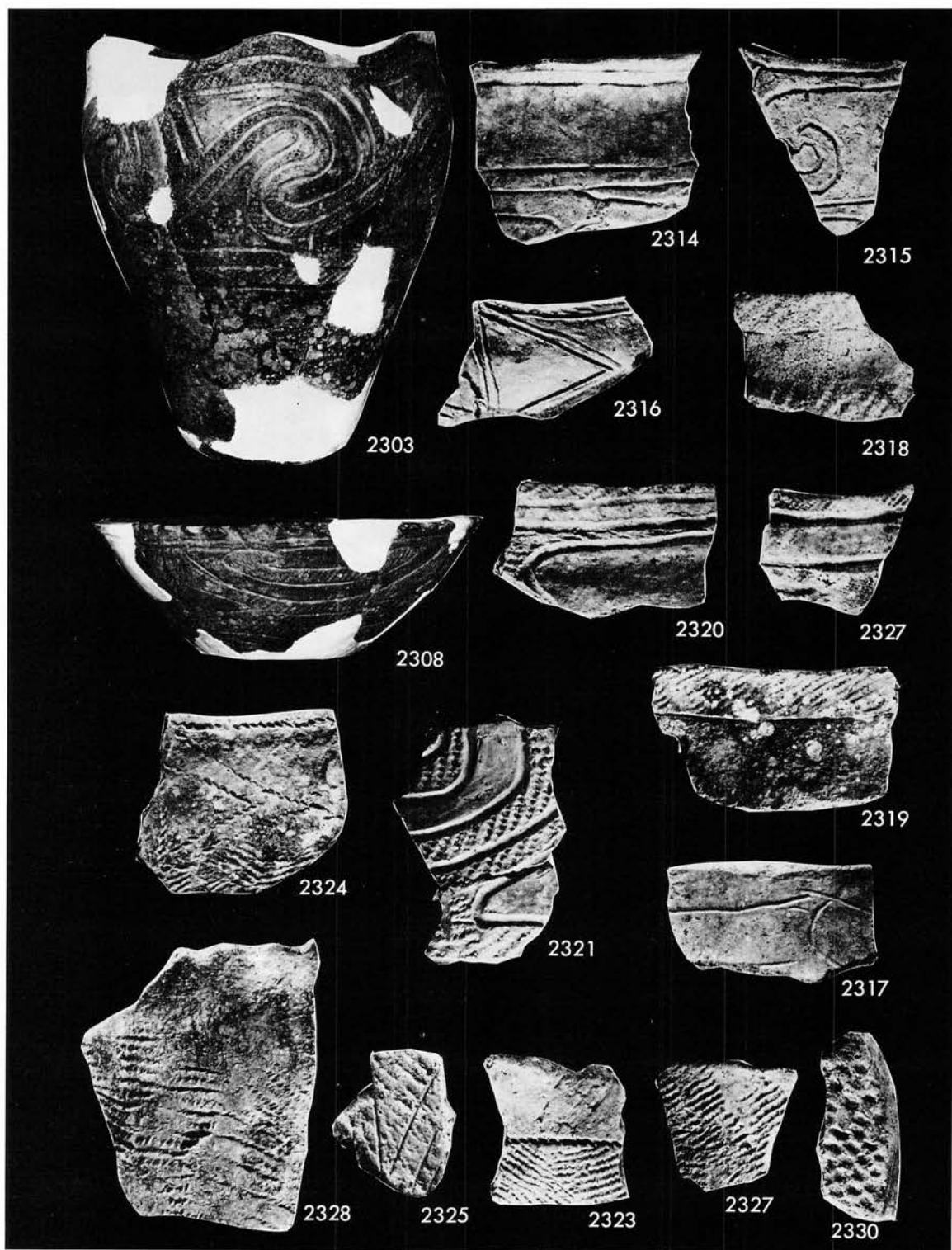




写真图版232 I V · VI · J IV区出土遗物

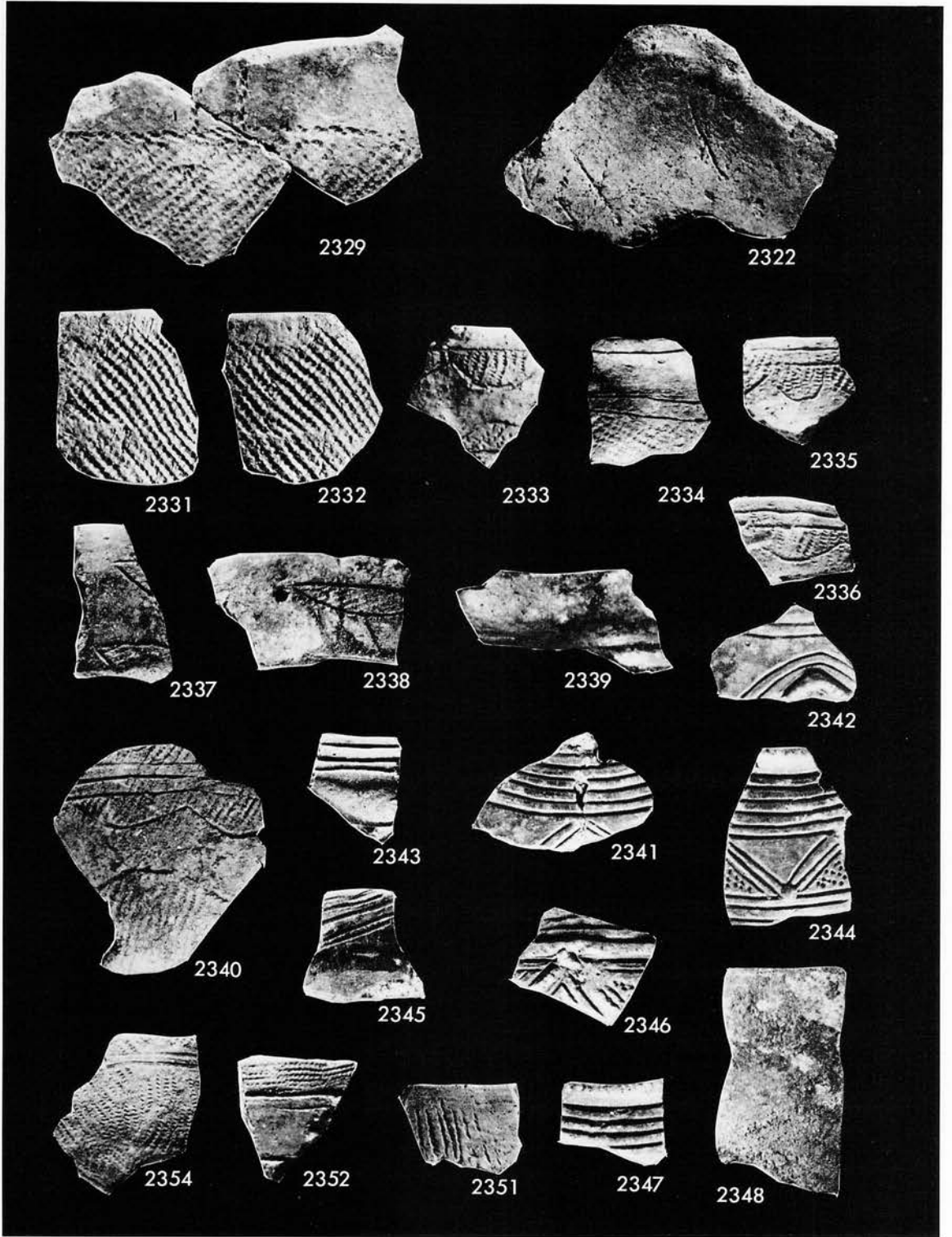


写真图版233 J V区粗掘出土遗物 ( I )

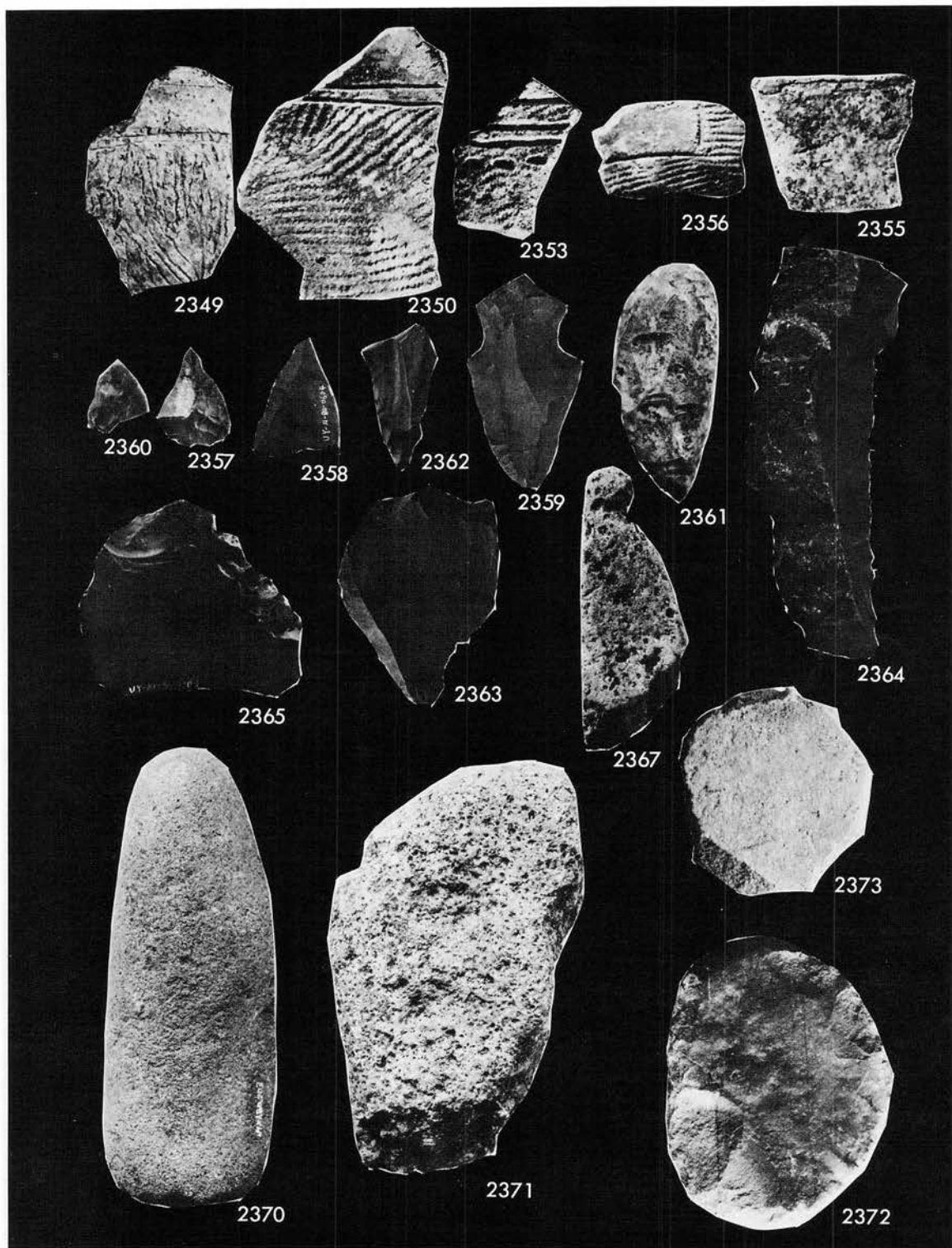


写真図版234 J V区粗掘出土遺物(2)

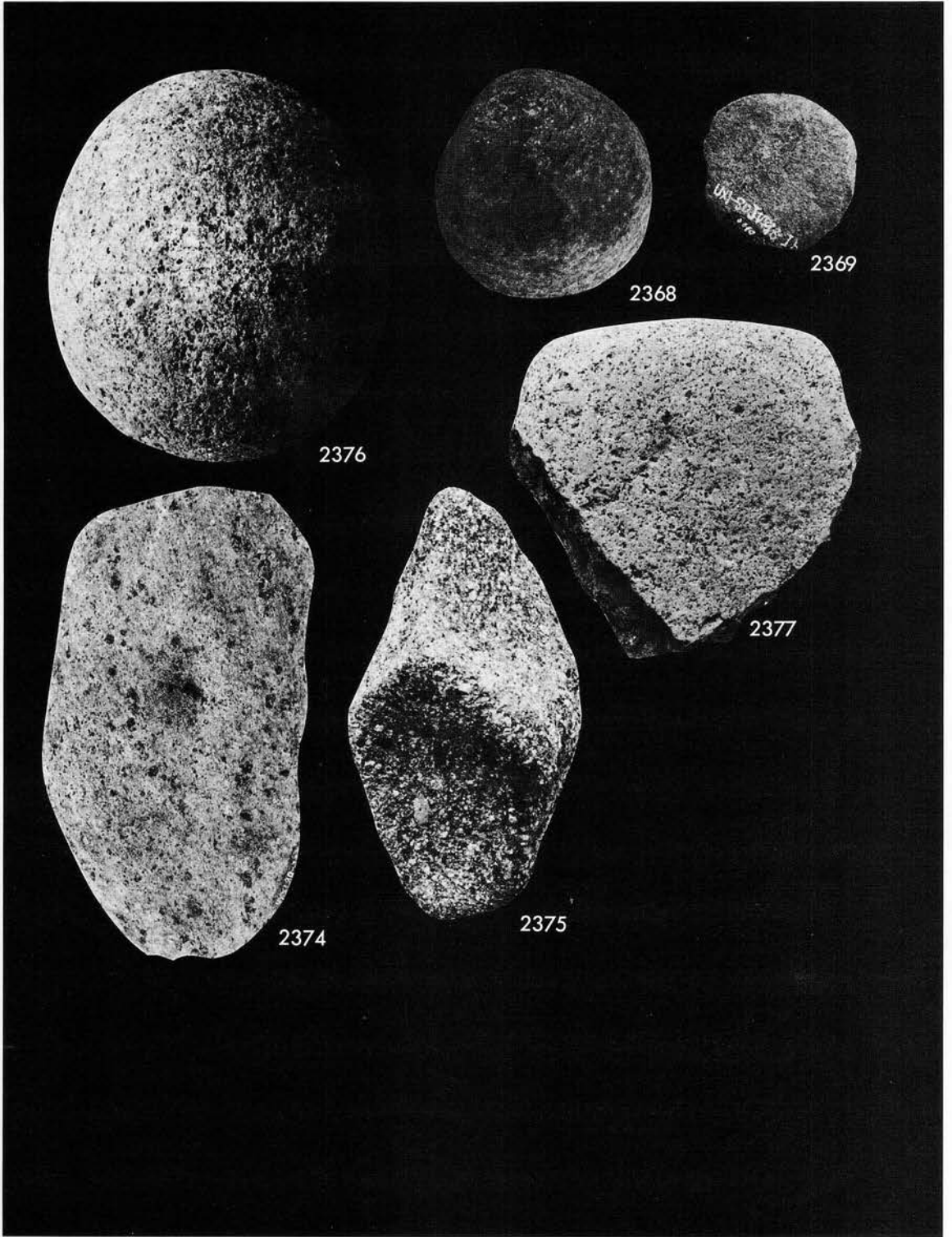




写真图版235 J V区粗掘出土遗物(3)

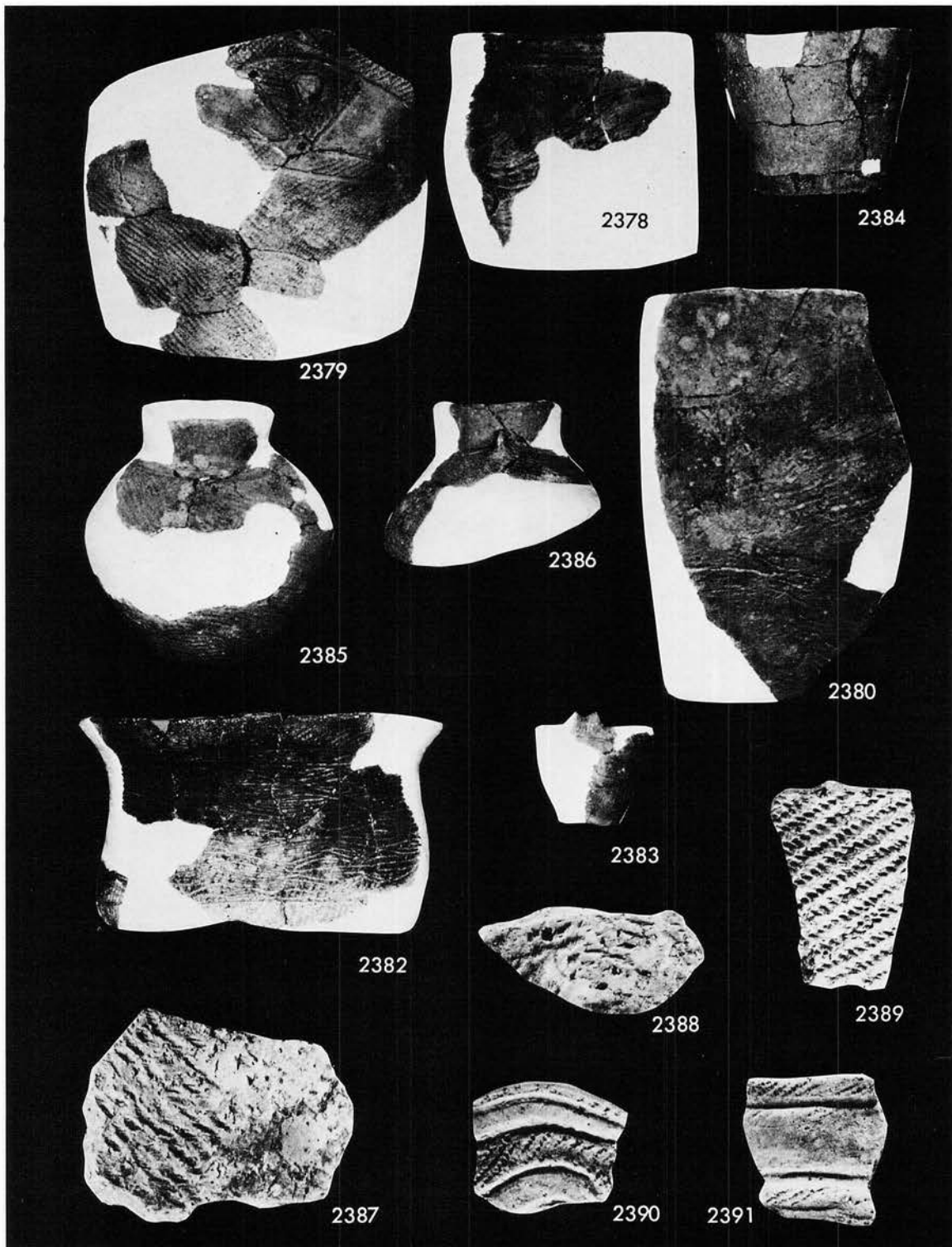


写真图版236 J V区粗掘出土遗物(4)

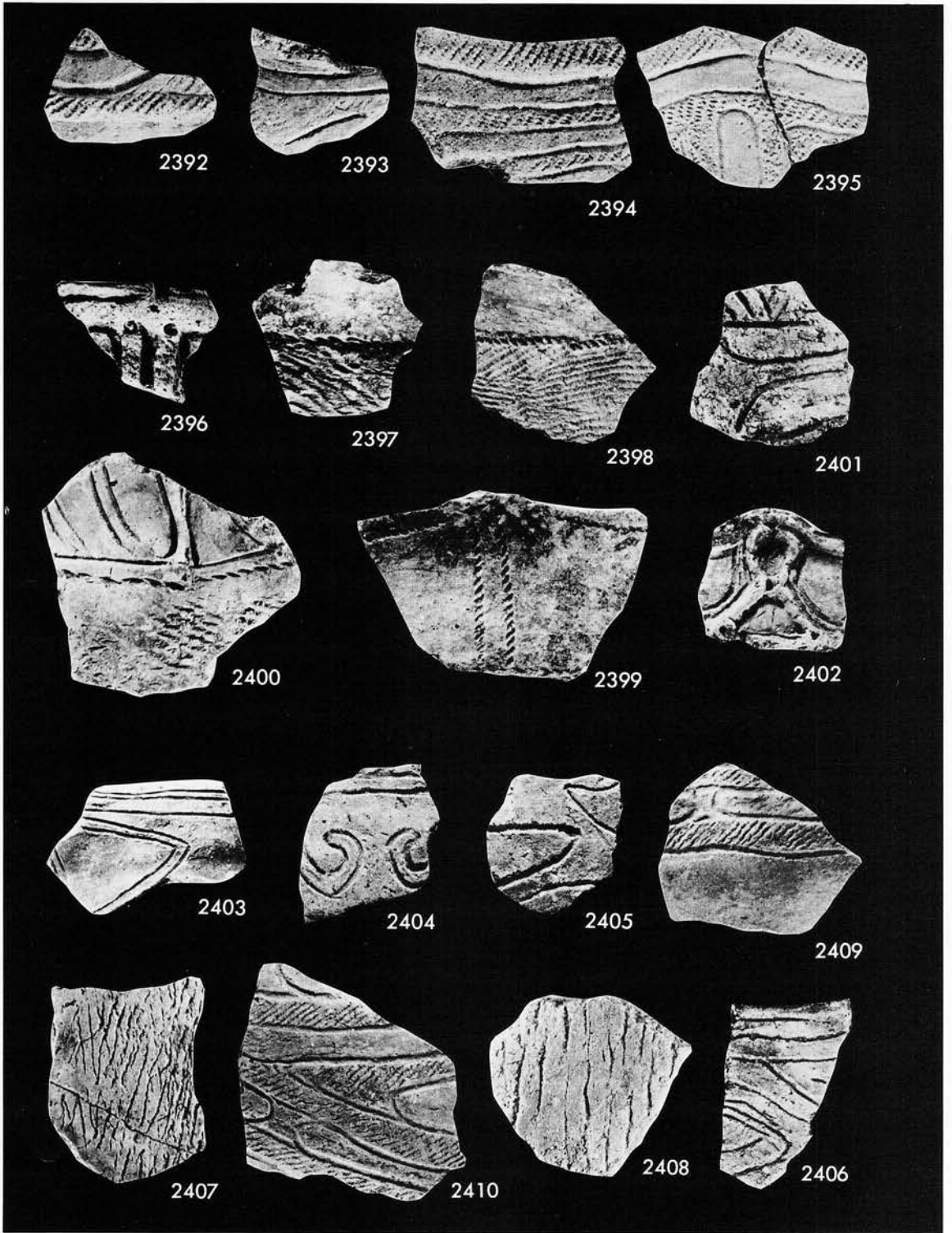


写真图版237 J V区粗掘出土遺物(5)

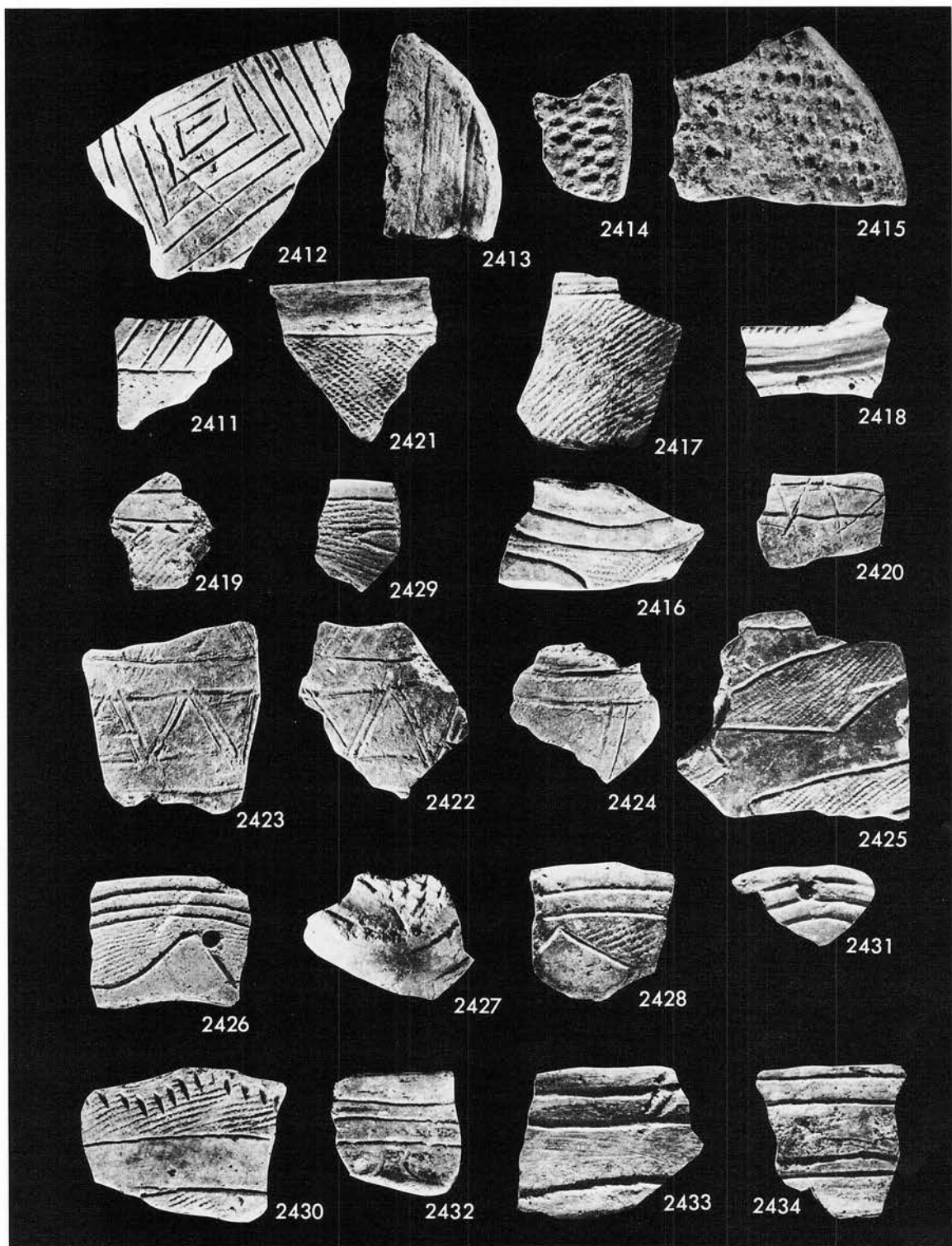




写真图版238 J VI区粗掘出土遺物 (1)

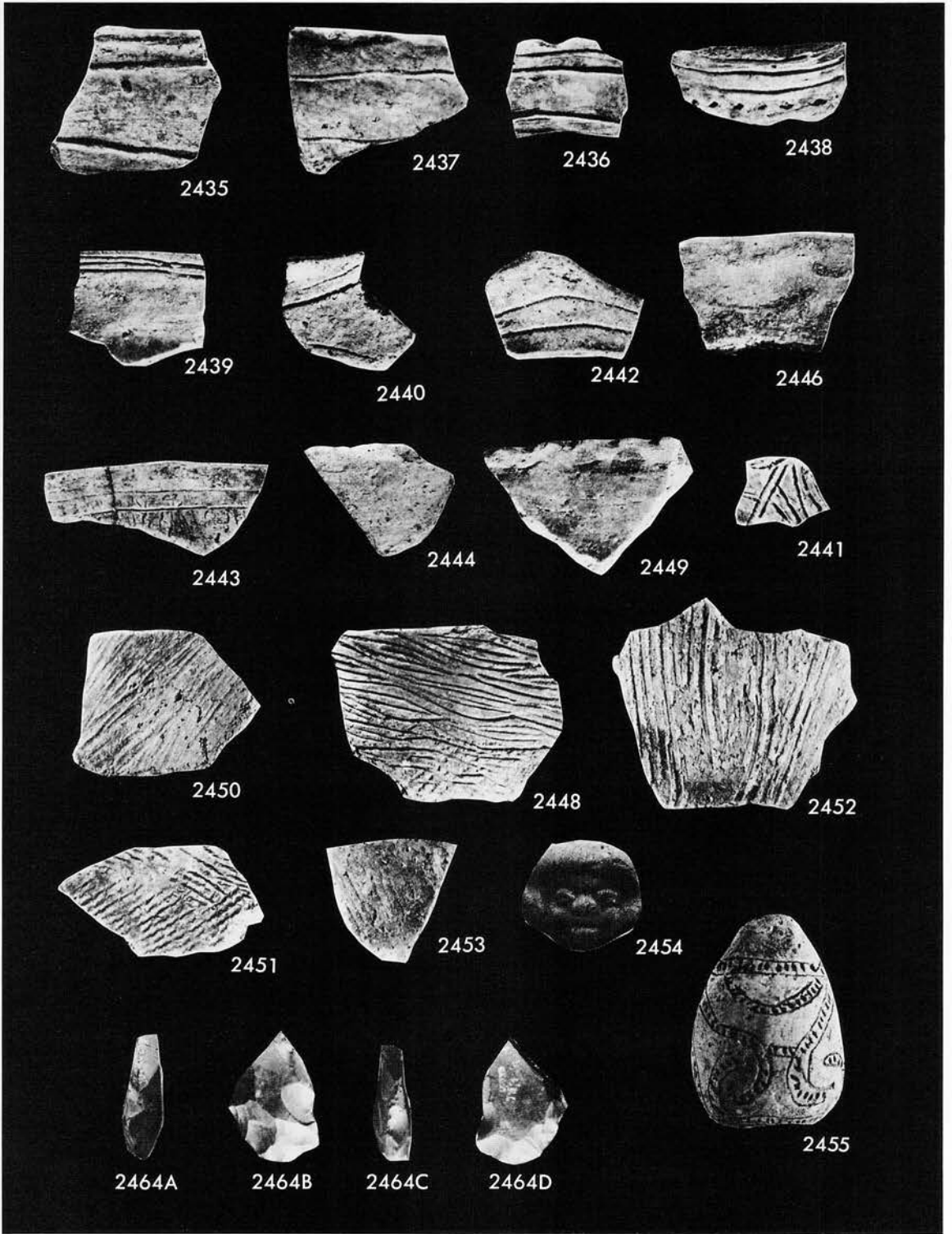


写真图版239 J VI区粗掘出土遗物(2)

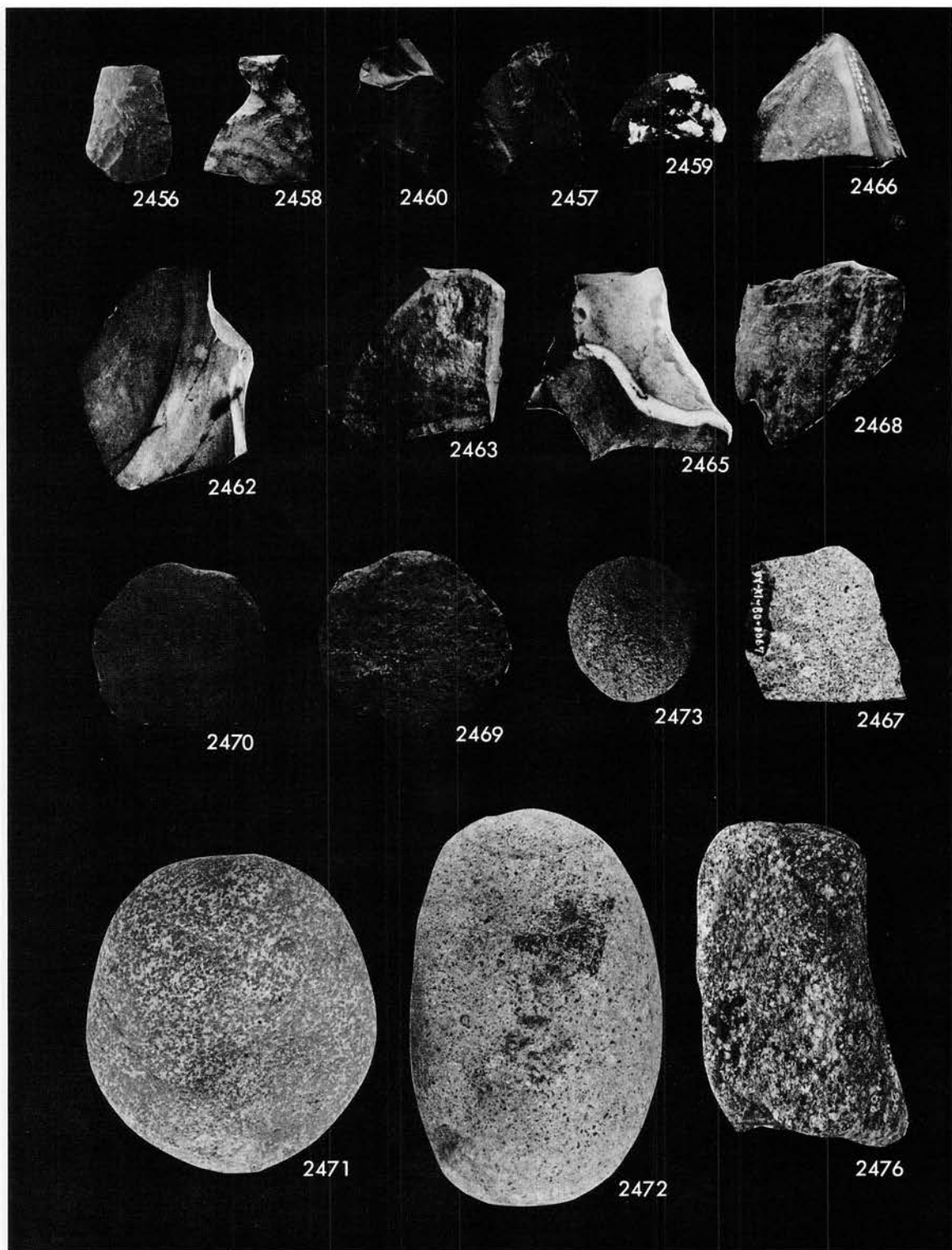


写真图版240 J VI区粗掘出土遺物(3)

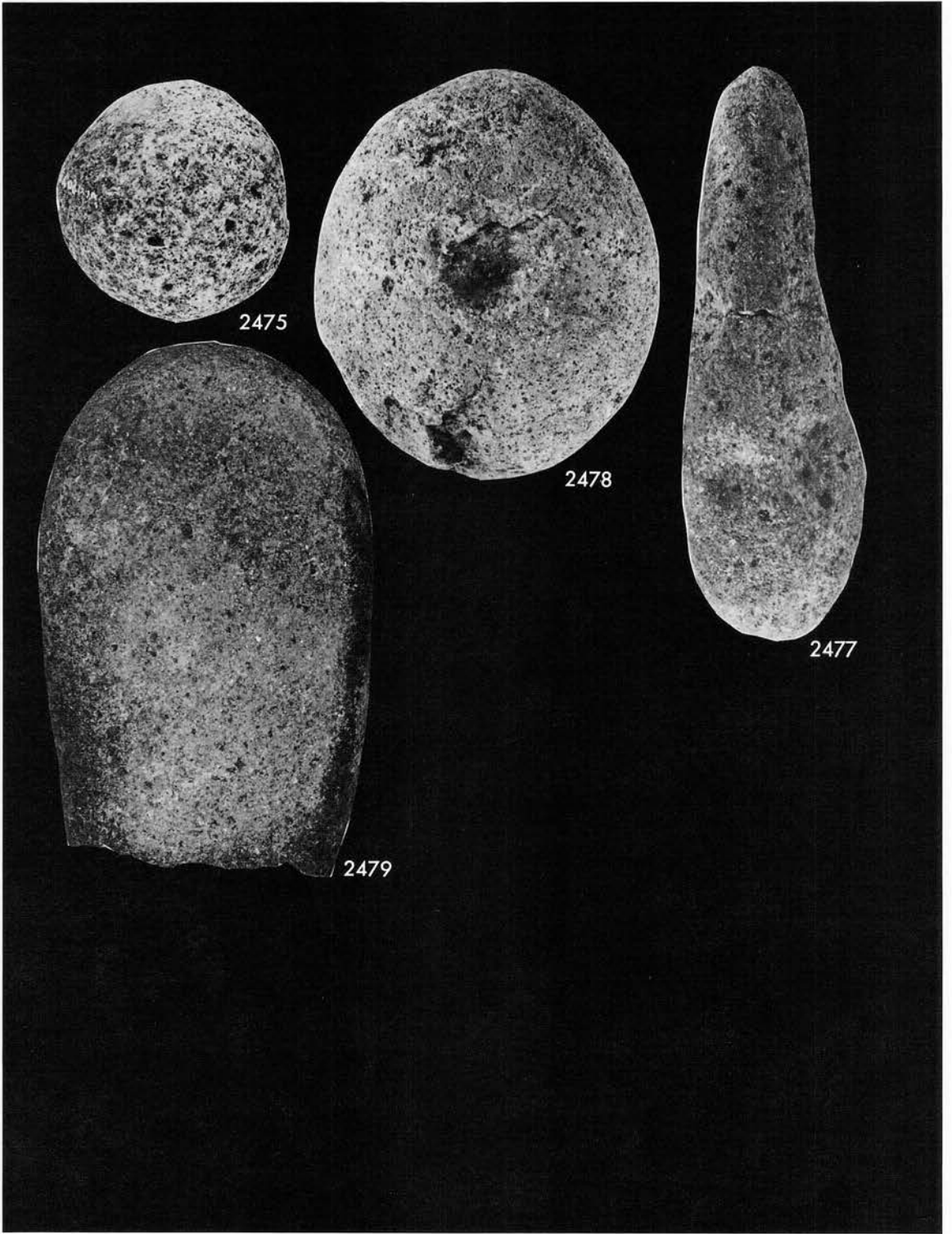




写真图版241 J VI区粗掘出土遗物(4)

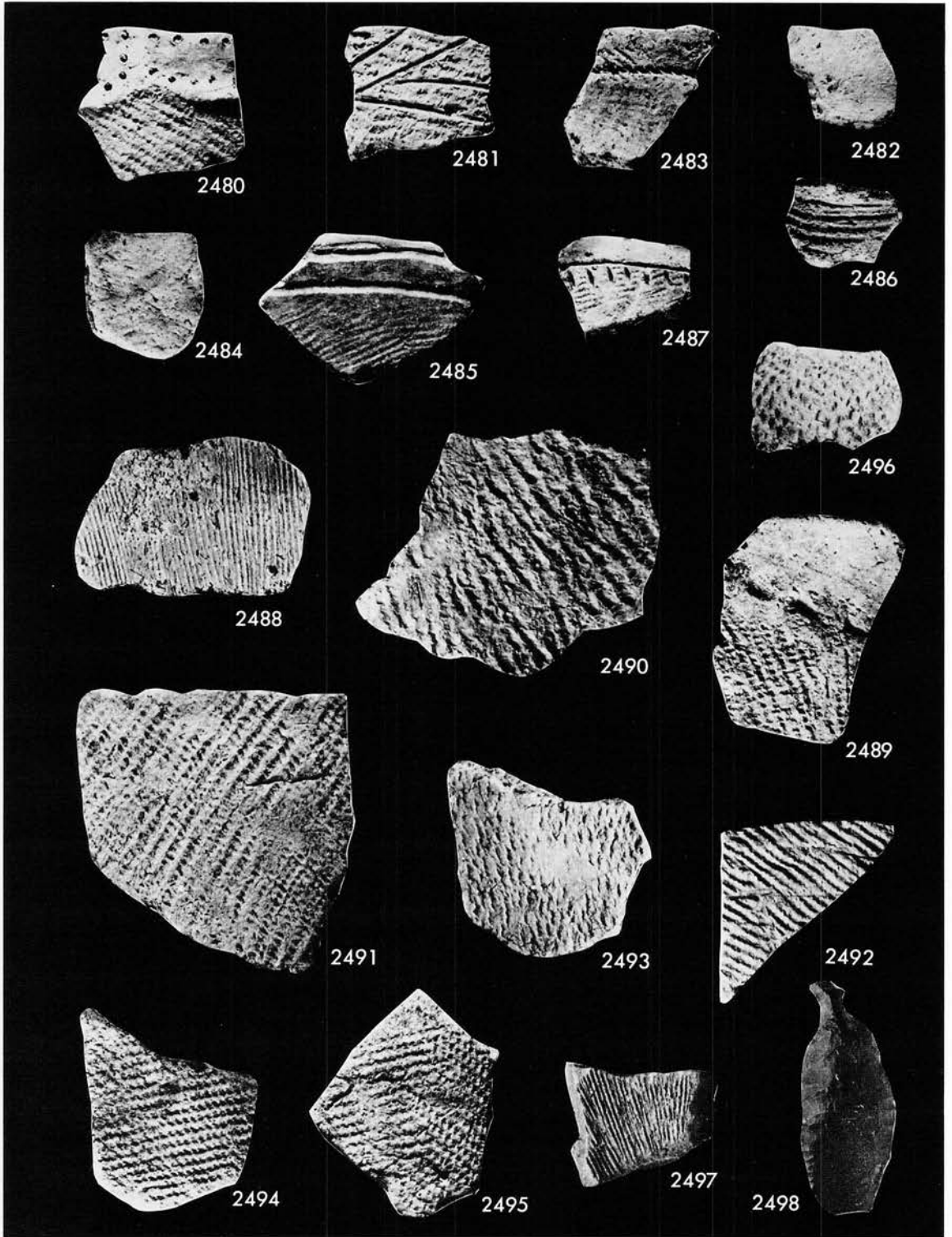


写真图版242 J VI区粗掘出土遺物(5)

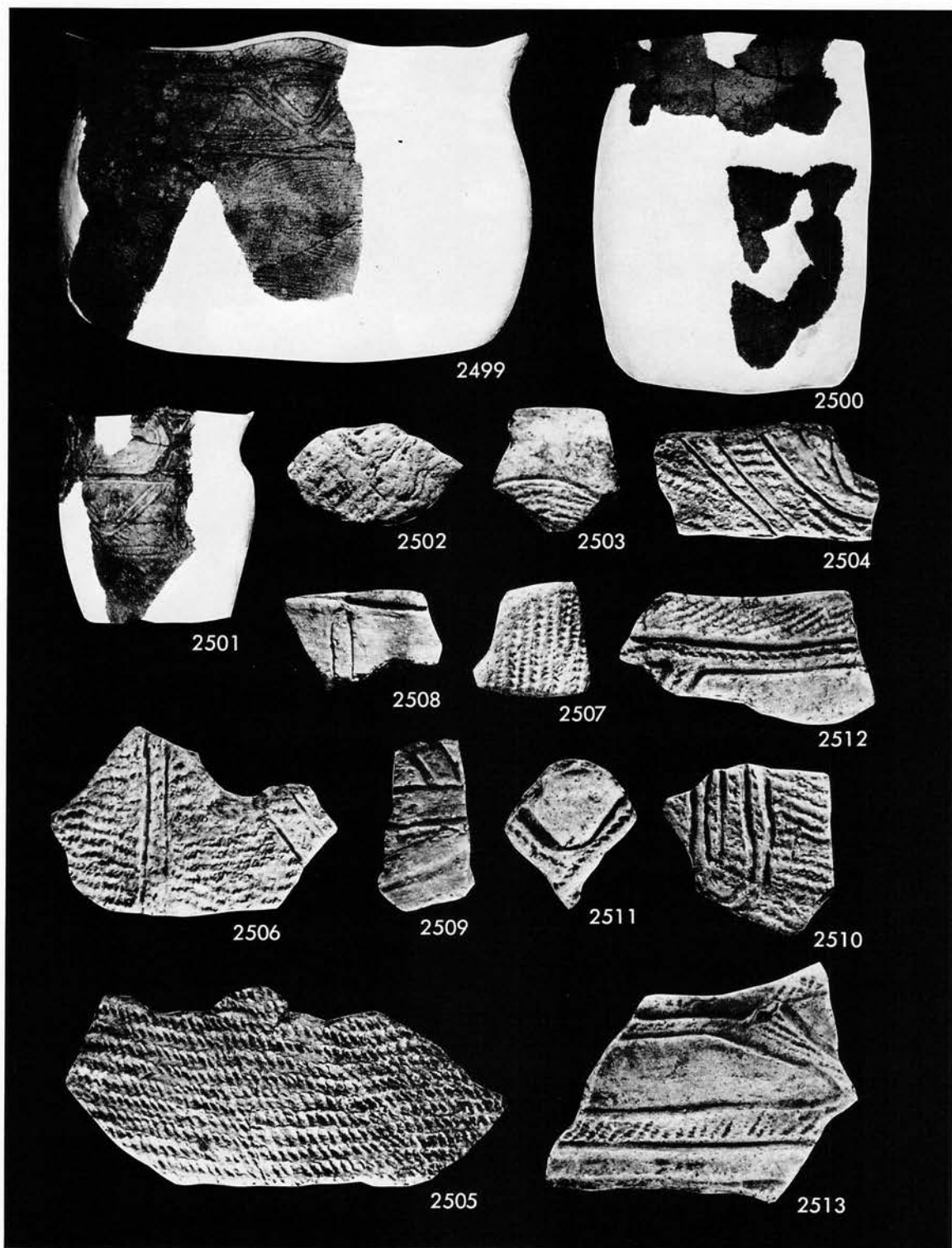


写真図版243 J VI区粗掘出土遺物(6)

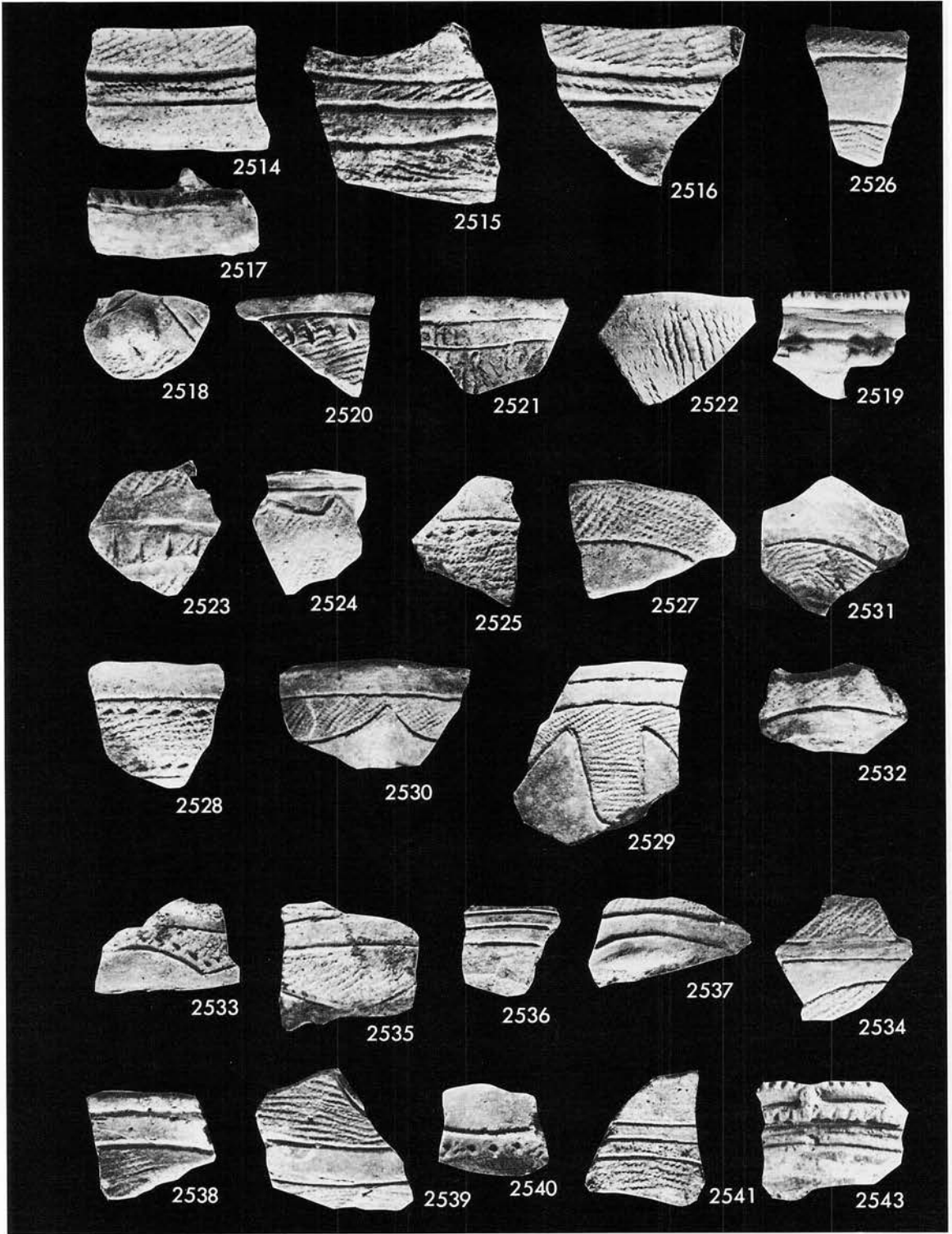




写真图版244 K V区出土遺物

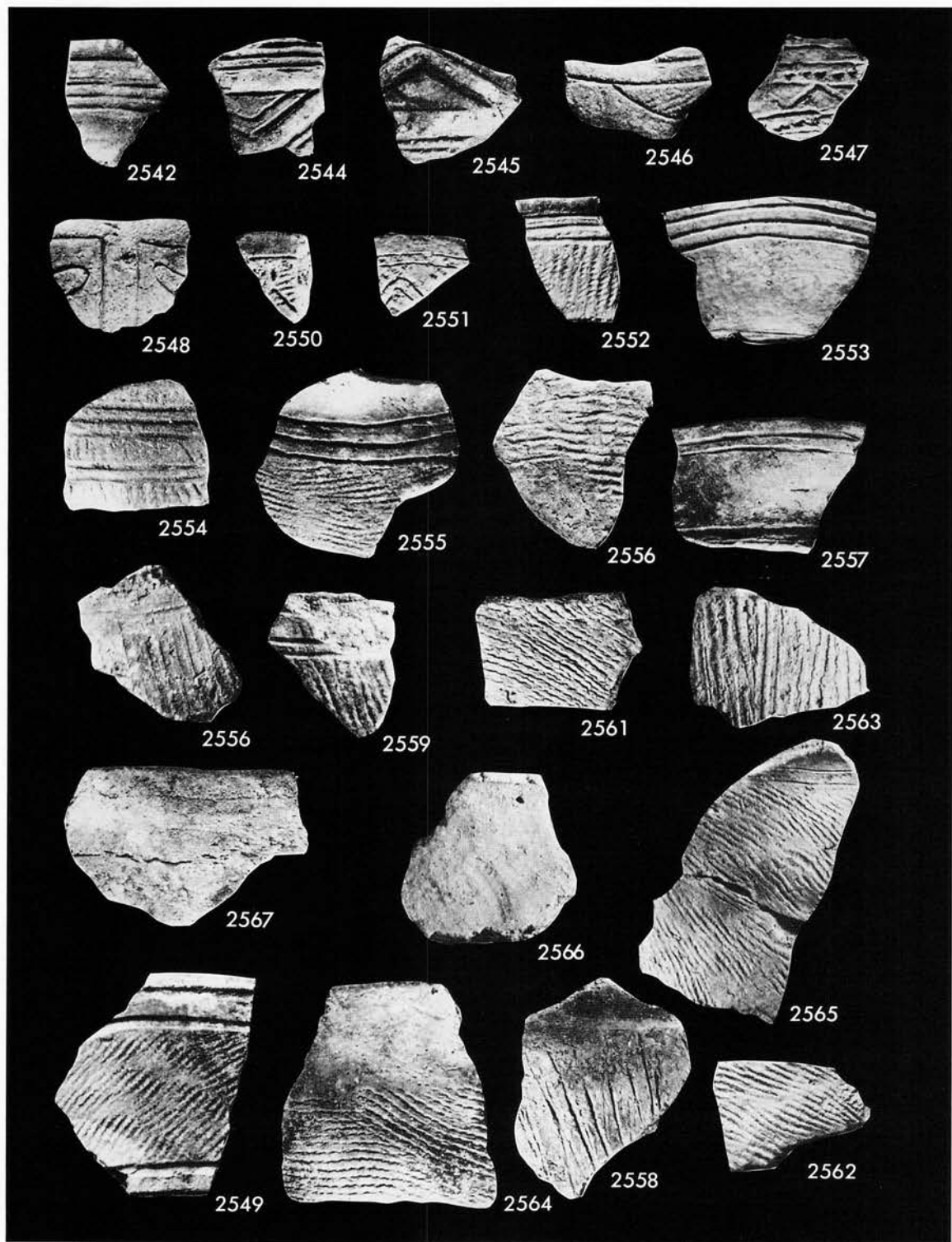


写真図版245 K VI区出土遺物 (I)

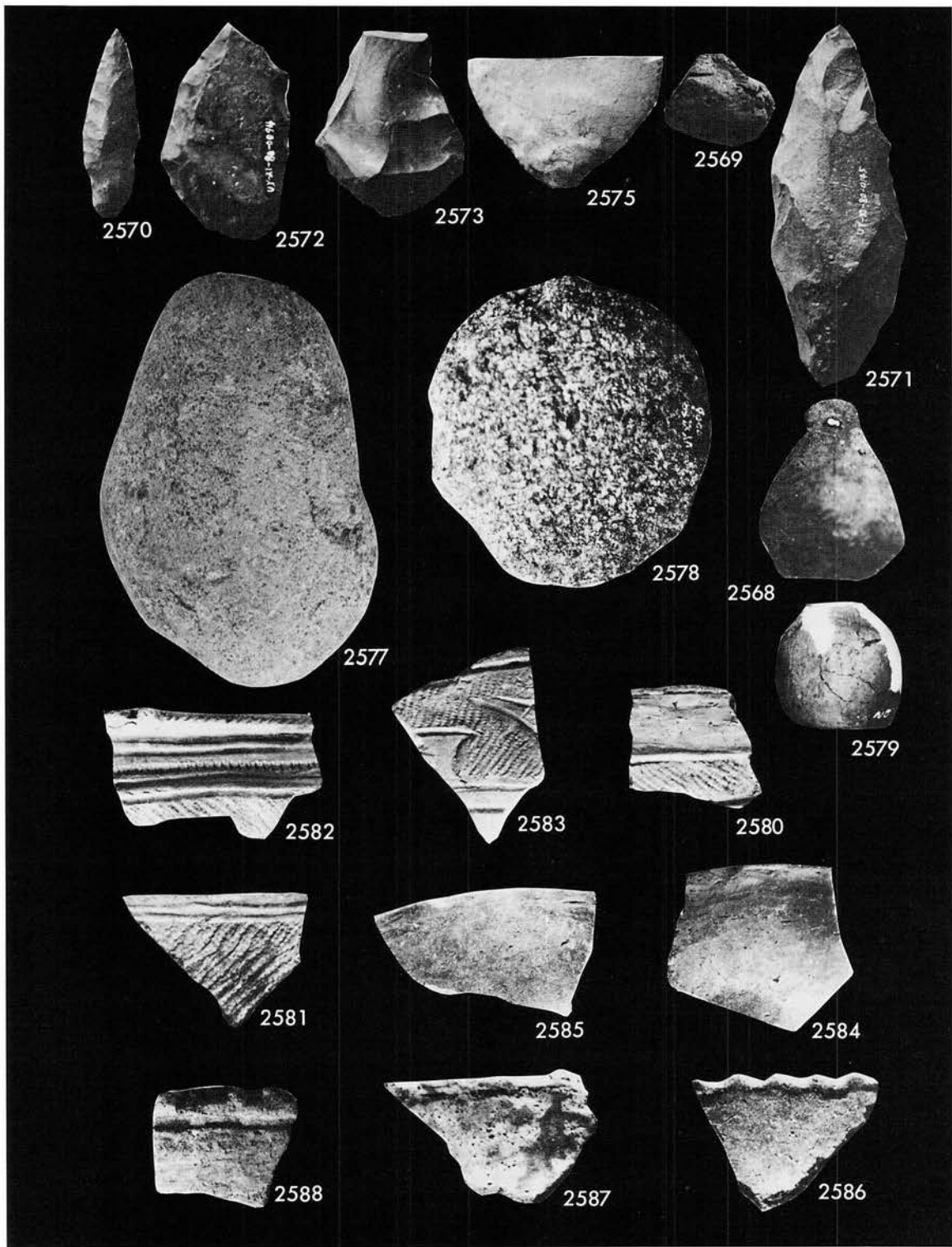


写真图版246 K VI区出土遗物(2)

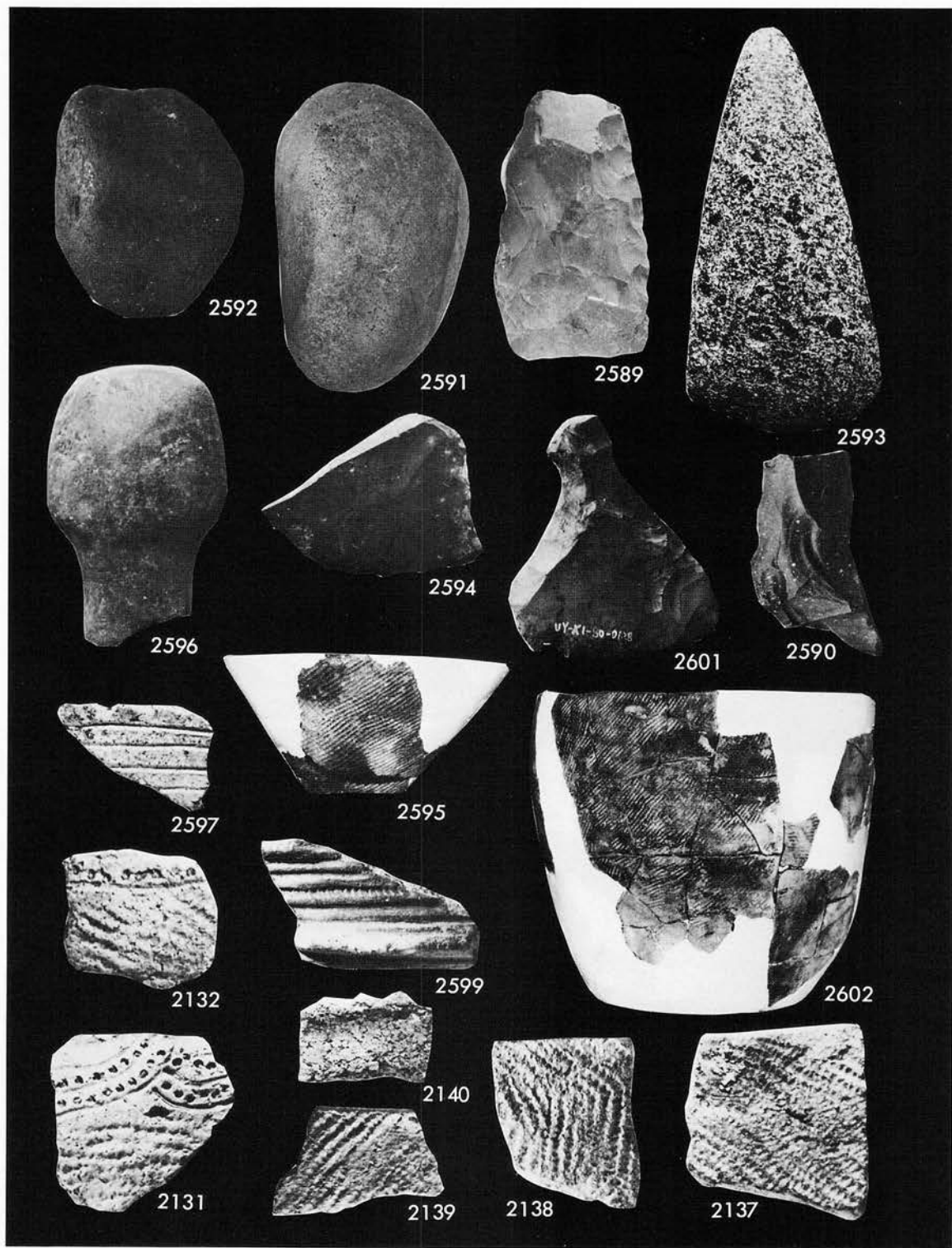




写真图版247 K VI区出土遗物(3)

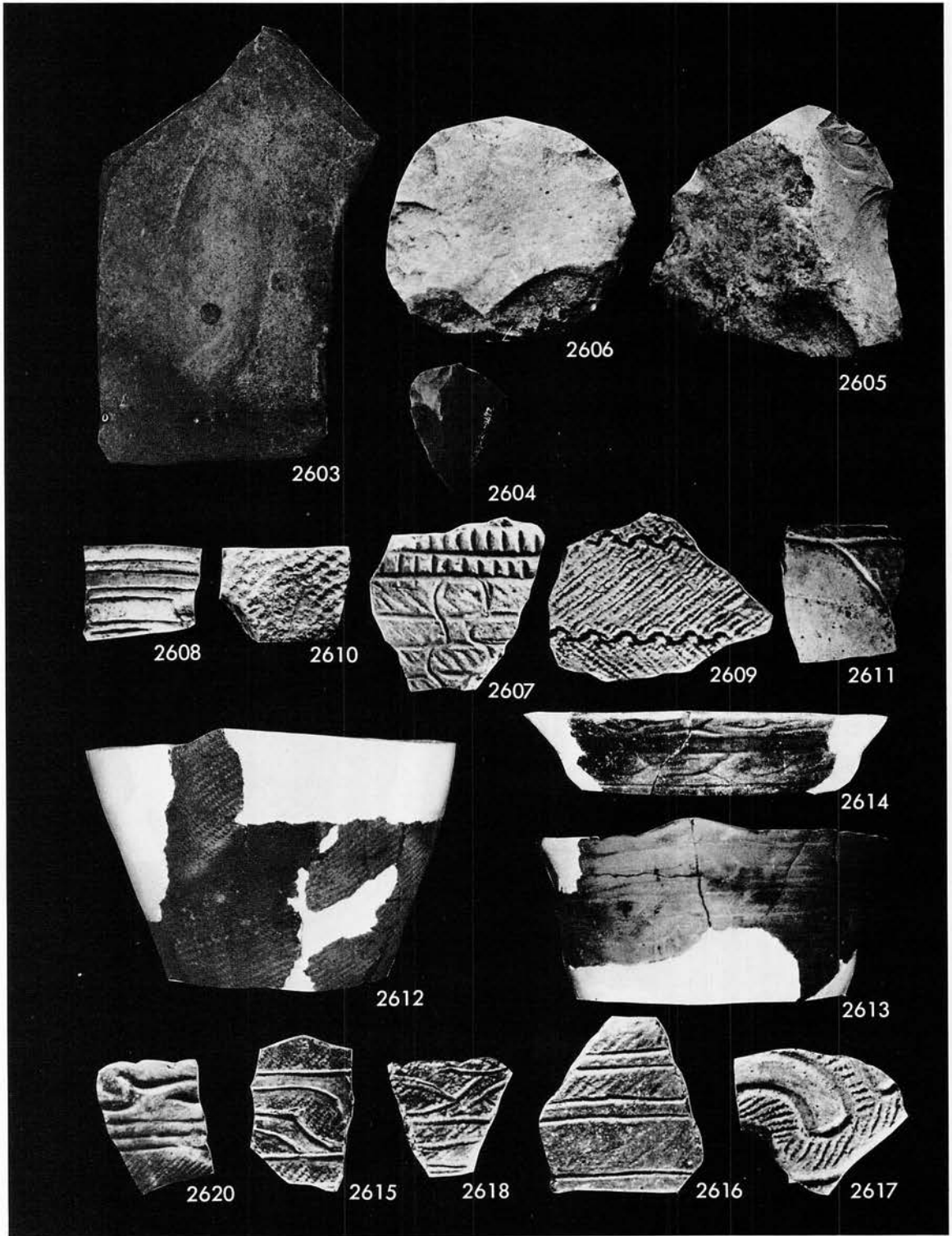


写真图版248 K VI · L IV区粗掘出土遗物

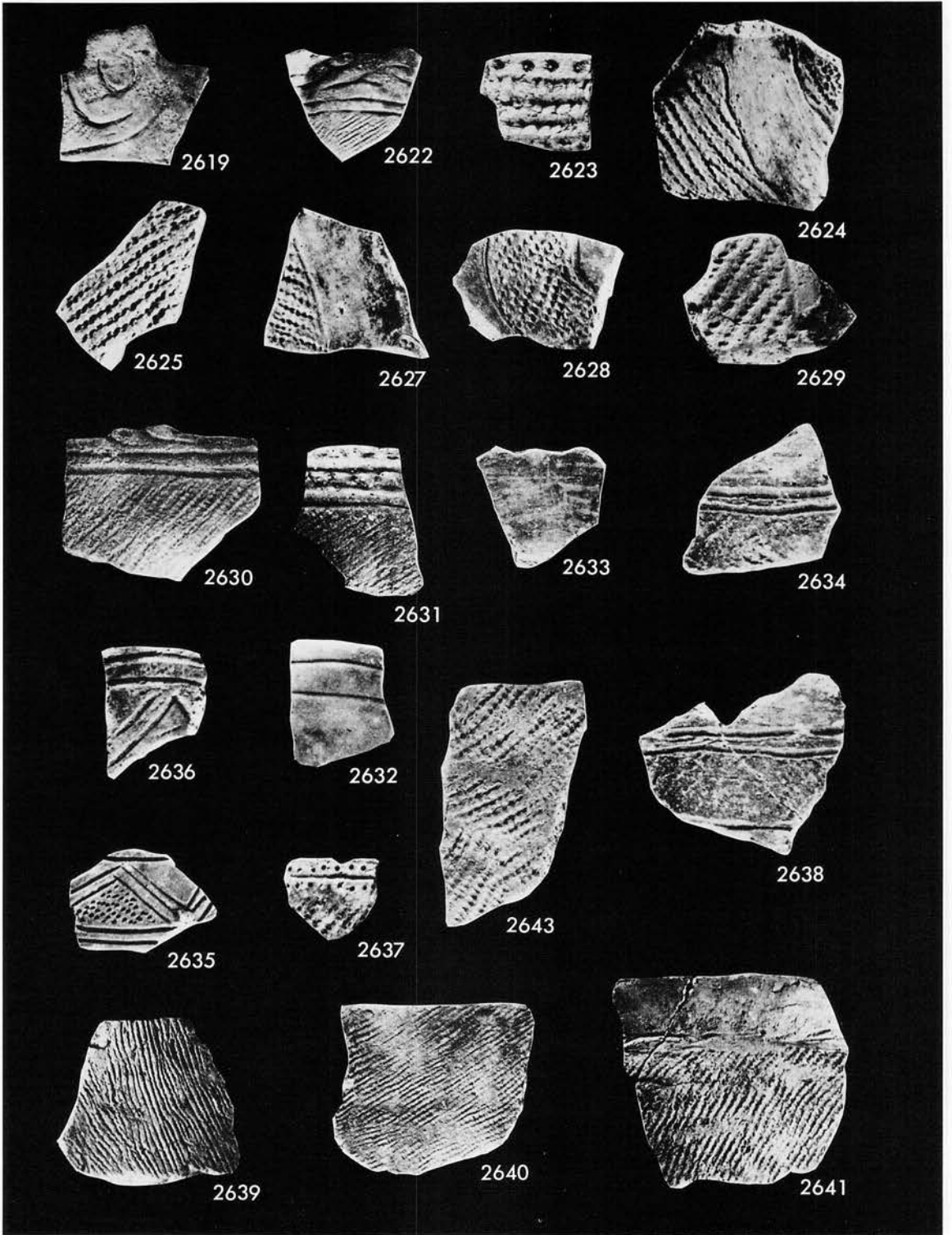


写真图版249 L IV · V · M IV ~ VI · N VI区粗掘出土遺物

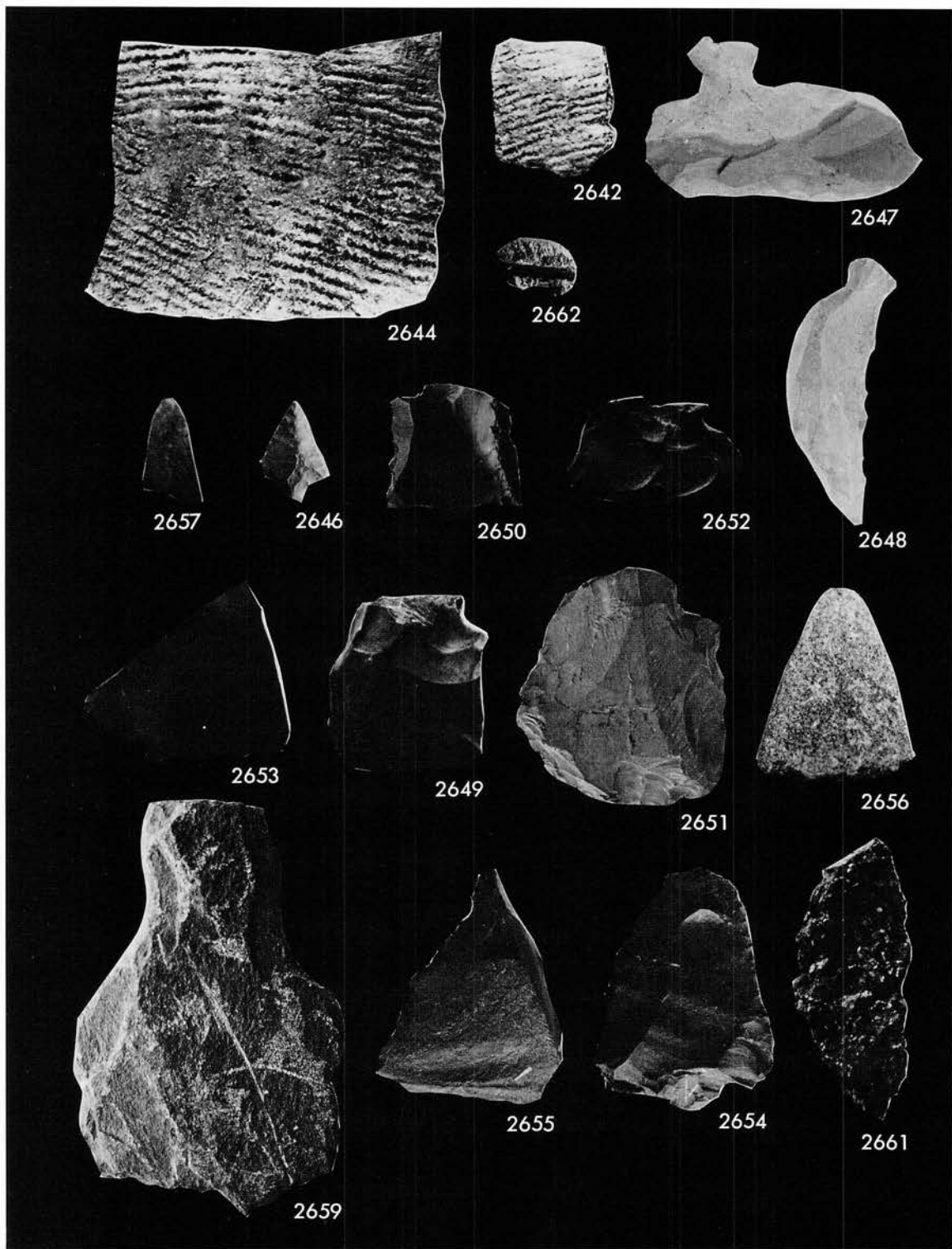




写真图版250 G III区表採遺物・出土地区不明遺物

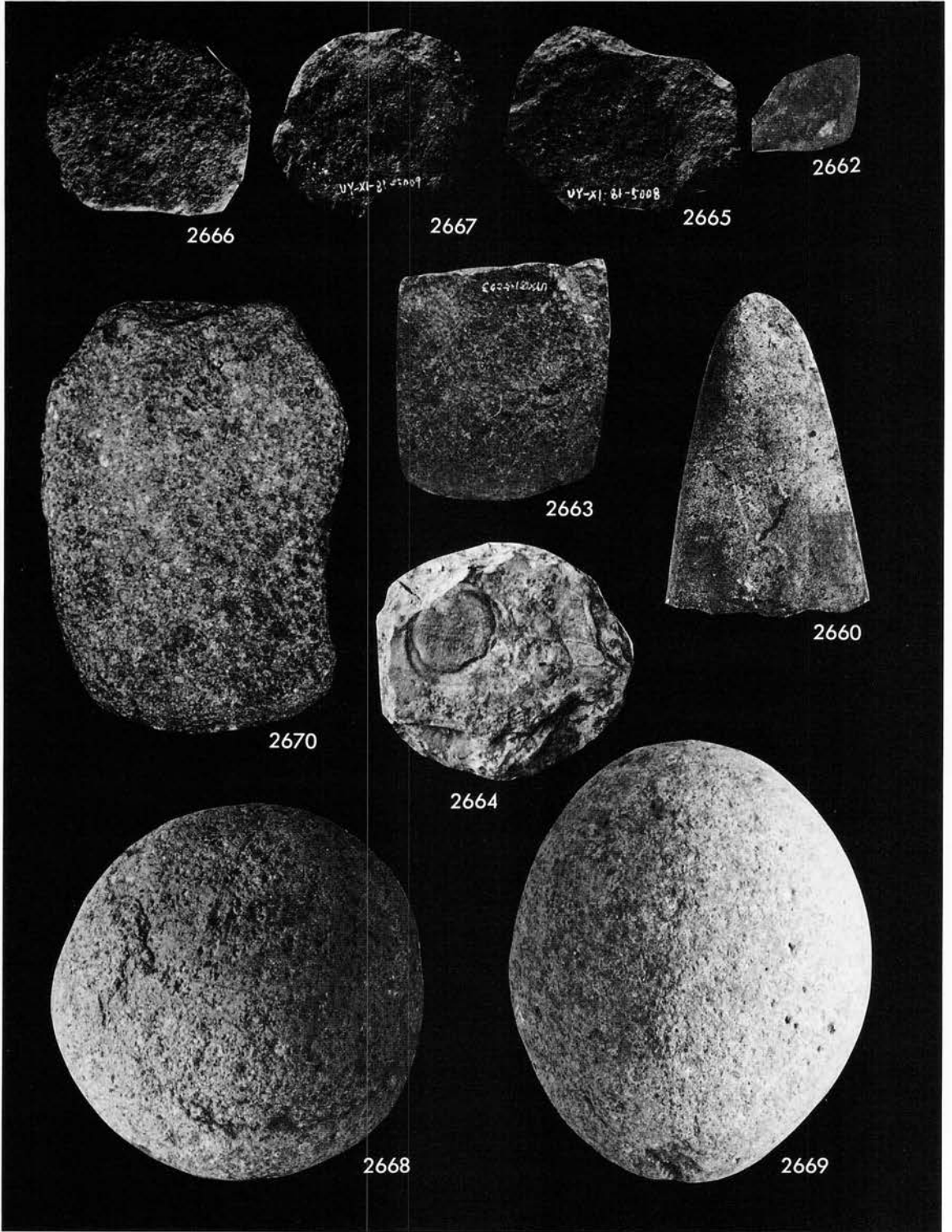


写真图版251 出土地区不明遗物 (1)



写真图版252 出土地区不明遗物(2)





写真图版253 出土地区不明遺物 (3)

# 財団法人 岩手県埋蔵文化財センター役・職員

## — 役員 —

理事長	金子 彰吉	(県教育長)
副理事長	尾沢 重遠	(県教育次長)
常務理事	熊谷 正男	(県立埋蔵文化財センター所長)
理事	吉田 良和	(県農政部次長)
〃	高橋 健之	(県林業水産部次長)
〃	穂積 昭慈	(県土木部次長)
〃	板橋 源	(県立博物館長)
〃	草間 俊一	(県立盛岡短期大学長)
〃	小形 信夫	(元常務理事)
監事	佐藤 公志	(県教委総務課長)
〃	小野寺 英二	(県教委財務課長)

## — 職員 —

所長	熊谷 正男	専門調査員	柄沢 満郎
副所長	宮 英一	〃	平井 進
所付	吉田 努	〃	中村 良一
[総務課]		〃	田村 壮一
総務課長	菊池 勉	〃	岩渕 久
庶務係長	阿部 詔夫	〃	光井 文行
主事	戸草内 幸男	〃	玉川 英喜
〃	立花 多加志	〃	石川 長喜
技能員	佐藤 春男	〃	三浦 謙一
[調査課]		〃	高橋 与右衛門
調査課長	近藤 宗光	〃	高橋 義介
主任専門調査員	昆野 靖	〃	佐々木 清文
〃	国生 尚	[資料課]	
専門調査員	片方 宗明	資料課長	名須川 溢男
〃	長沼 彬	専門調査員	菊池 利和
〃	大原 一則	〃	工藤 利幸
〃	渡辺 洋一	〃	中川 重紀
〃	田鎖 寿夫	〃	酒井 宗孝
〃	佐々木 嘉直		

---

岩手県埋文センター文化財調査報告書第87集

曲田 I 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連発掘調査

(第2分冊)

印刷 昭和60年2月15日

発行 昭和60年2月25日

発行 財団法人岩手県埋蔵文化財センター

〒020 紫波郡都南村大字下飯岡11 電話0196(38)9001

印刷 河北印刷株式会社

〒020 盛岡市本町通2丁目8-7 電話0196(23)4256

---